鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（217）

国道270号（宮崎バイパス）道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３

中津野（なかつの）遺跡

低地部・低湿地部編

第２分冊

（南さつま市金峰町）

2022年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

総　目　次

【第１分冊】
巻頭図版１・２・３・４
序文
報告書抄録
遺跡位置図
例言・凡例
目次
第１章　発掘調査の経過
　第１節　調査に至るまでの経緯
　第２節　確認調査・本調査
　第３節　整理・報告書作成
第２章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境
　第３節　事業路線内遺跡の概要
第３章　調査の方法と層序
　第１節　調査の方法
　第２節　層序
第４章　古代～近世の調査
　第１節　遺構
　第２節　遺物
第５章　縄文時代晩期～古墳時代の調査
　第１節　遺構
　第２節　遺物
【第２分冊】
目次
第６章　縄文時代早期～後期の調査
　第１節　遺構
　第２節　遺物（土器・土製品等）
　第３節　遺物（石器・石製品）
【第３分冊】
目次
第７章　木製品保存処理
第８章　自然科学分析
第９章　総括
写真図版

第　２　分　冊　目　次

第６章　縄文時代早期～後期の調査 …… 1
　第１節　遺構 …… 1
　１　集石 …… 1
　２　土坑 …… 1
　３　埋設土器 …… 1
　４　遺物集中箇所 …… 3
　５　集積遺構 …… 26
　６　特殊遺構：大型軽石加工品 …… 27
　第２節　遺物（土器・土製品等） …… 32
　１　縄文時代後期の土器・土製品等 …… 32
　２　縄文時代中期以前の土器・土製品 …… 149
　第３節　遺物（石器・石製品） …… 183
　１　打製石鏃 …… 183
　２　石錐 …… 192
　３　尖頭器 …… 192
　４　異形石器 …… 195
　５　石匙 …… 195
　６　スクレイパー …… 195
　７　使用痕剥片・加工痕のある剥片 …… 196
　８　石核 …… 196
　９　磨製石斧 …… 197
　10　擦切石器 …… 204
　11　打製石斧 …… 204
　12　磨石・敲石 …… 214
　13　礫器 …… 218
　14　石皿・台石 …… 221
　15　軽石製品 …… 221
　16　石製品 …… 235

挿　図　目　次

第2-1図　縄文時代後期の遺構配置図 …… 2
第2-2図　集石２・３号 …… 3
第2-3図　土坑31・32号及び土坑31号出土遺物 …… 4
第2-4図　土坑33号・埋設土器及び出土遺物 …… 5
第2-5図　遺物集中と包含層出土土器の接合状況図（１）…… 6
第2-6図　遺物集中と包含層出土土器の接合状況図（２）…… 7
第2-7図　遺物集中１～３ …… 8
第2-8図　遺物集中４ …… 9
第2-9図　遺物集中５ …… 11
第2-10図　遺物集中６（１）…… 13
第2-11図　遺物集中６（２）…… 14
第2-12図　遺物集中６（３）…… 15
第2-13図　遺物集中６（４）…… 16
第2-14図　遺物集中６（５）…… 17
第2-15図　遺物集中７（１）…… 18
第2-16図　遺物集中７（２）…… 19
第2-17図　遺物集中７（３）…… 20
第2-18図　遺物集中８ …… 21
第2-19図　遺物集中９（１）…… 24
第2-20図　遺物集中９（２）…… 25
第2-21図　遺物集中９（３）…… 26
第2-22図　遺物集中10 …… 27
第2-23図　集積遺構及び出土遺物 …… 28
第2-24図　特殊遺構：大型軽石加工品 …… 29
第2-25図　縄文時代土器・土製品出土状況図 …… 33
第2-26図　縄文時代後期土器（Ⅰ類・Ⅱ類）出土状況図 …… 34
第2-27図　縄文時代後期土器（Ⅲ類・Ⅳ類）出土状況図 …… 35
第2-28図　縄文時代後期土器（Ⅴ類・Ⅵ類）出土状況図 …… 36
第2-29図　縄文時代後期土器（Ⅶ類・底部）出土状況図 …… 37
第2-30図　縄文時代後期土製品・縄文時代早期～中期土器出土状況図 …… 38
第2-31図　Ⅰ類土器（１）…… 39
第2-32図　Ⅰ類土器（２）…… 41
第2-33図　Ⅰ類土器（３）…… 42
第2-34図　Ⅰ類土器（４）…… 43
第2-35図　Ⅰ類土器（５）…… 44
第2-36図　Ⅰ類土器（６）…… 45
第2-37図　Ⅱ類土器（１）…… 47
第2-38図　Ⅱ類土器（２）…… 49
第2-39図　Ⅱ類土器（３）…… 50
第2-40図　Ⅲ類土器（１）…… 52
第2-41図　Ⅲ類土器（２）…… 53
第2-42図　Ⅲ類土器（３）…… 54
第2-43図　Ⅲ類土器（４）…… 55
第2-44図　Ⅲ類土器（５）…… 56
第2-45図　Ⅲ類土器（６）…… 57
第2-46図　Ⅲ類土器（７）…… 58
第2-47図　Ⅲ類土器（８）…… 59
第2-48図　Ⅲ類土器（９）…… 60
第2-49図　Ⅲ類土器（10）…… 61
第2-50図　Ⅲ類土器（11）…… 62
第2-51図　Ⅲ類土器（12）…… 63
第2-52図　Ⅲ類土器（13）…… 64
第2-53図　Ⅲ類土器（14）…… 65
第2-54図　Ⅲ類土器（15）…… 67
第2-55図　Ⅲ類土器（16）…… 68
第2-56図　Ⅲ類土器（17）…… 69
第2-57図　Ⅲ類土器（18）…… 70
第2-58図　Ⅲ類土器（19）…… 71
第2-59図　Ⅲ類土器（20）…… 72
第2-60図　Ⅲ類土器（21）…… 73
第2-61図　Ⅲ類土器（22）…… 74
第2-62図　Ⅲ類土器（23）…… 75
第2-63図　Ⅲ類土器（24）…… 77
第2-64図　Ⅲ類土器（25）…… 78
第2-65図　Ⅲ類土器（26）…… 79
第2-66図　Ⅲ類土器（27）…… 81
第2-67図　Ⅲ類土器（28）…… 82
第2-68図　Ⅲ類土器（29）…… 83
第2-69図　Ⅲ類土器（30）…… 84
第2-70図　Ⅲ類土器（31）…… 85
第2-71図　Ⅳ類土器（１）…… 87
第2-72図　Ⅳ類土器（２）…… 88
第2-73図　Ⅳ類土器（３）…… 89
第2-74図　Ⅳ類土器（４）…… 91
第2-75図　Ⅳ類土器（５）…… 92
第2-76図　Ⅳ類土器（６）…… 93
第2-77図　Ⅳ類土器（７）…… 94
第2-78図　Ⅳ類土器（８）…… 95
第2-79図　Ⅳ類土器（９）…… 96
第2-80図　Ⅳ類土器（10）…… 97
第2-81図　Ⅳ類土器（11）…… 99
第2-82図　Ⅳ類土器（12）…… 100
第2-83図　Ⅴ類土器（１）…… 102

第2-84図　Ⅴ類土器（2）…… 104
第2-85図　Ⅴ類土器（3）…… 105
第2-86図　Ⅴ類土器（4）…… 106
第2-87図　Ⅴ類土器（5）…… 107
第2-88図　Ⅴ類土器（6）…… 109
第2-89図　Ⅴ類土器（7）…… 110
第2-90図　Ⅴ類土器（8）…… 111
第2-91図　Ⅴ類土器（9）…… 112
第2-92図　Ⅵ類土器（1）…… 114
第2-93図　Ⅵ類土器（2）…… 116
第2-94図　Ⅵ類土器（3）…… 117
第2-95図　Ⅵ類土器（4）…… 118
第2-96図　Ⅵ類土器（5）…… 119
第2-97図　Ⅵ類土器（6）…… 121
第2-98図　Ⅵ類土器（7）…… 122
第2-99図　Ⅵ類土器（8）…… 124
第2-100図　Ⅵ類土器（9）…… 125
第2-101図　Ⅵ類土器（10）…… 126
第2-102図　Ⅵ類土器（11）…… 127
第2-103図　Ⅵ類土器（12）…… 129
第2-104図　Ⅵ類土器（13）…… 130
第2-105図　Ⅵ類土器（14）…… 131
第2-106図　Ⅵ類土器（15）…… 132
第2-107図　Ⅵ類土器（16）…… 133
第2-108図　Ⅵ類土器（17）…… 134
第2-109図　Ⅵ類土器（18）…… 136
第2-110図　Ⅵ類土器（19）…… 137
第2-111図　Ⅵ類土器（20）…… 139
第2-112図　Ⅵ類土器（21）…… 140
第2-113図　Ⅵ類土器（22）…… 142
第2-114図　Ⅶ類土器（1）…… 144
第2-115図　Ⅶ類土器（2）…… 145
第2-116図　底部（1）…… 146
第2-117図　底部（2）…… 147
第2-118図　底部（3）…… 148
第2-119図　底部（4）…… 150
第2-120図　底部（5）…… 151
第2-121図　底部（6）…… 152
第2-122図　土製品（1）…… 153
第2-123図　土製品（2）…… 154
第2-124図　土製品（3）…… 155
第2-125図　土製品（4）…… 156
第2-126図　土製品（5）…… 157
第2-127図　土製品（6）…… 158
第2-128図　土製品（7）…… 159
第2-129図　縄文時代中期以前の土器・
土製品（1）…… 161
第2-130図　縄文時代中期以前の土器・
土製品（2）…… 162
第2-131図　縄文時代後期石器・
石製品出土状況図（1）…… 184
第2-132図　縄文時代後期石器・
石製品出土状況図（2）…… 185
第2-133図　縄文時代後期石器・
石製品出土状況図（3）…… 186
第2-134図　縄文時代後期石器・
石製品出土状況図（4）…… 187
第2-135図　打製石鏃（1）Ⅰ類…… 188
第2-136図　打製石鏃（2）Ⅰ類・Ⅱ類…… 190
第2-137図　打製石鏃（3）Ⅱ類…… 191
第2-138図　打製石鏃（4）Ⅱ類…… 192
第2-139図　打製石鏃（5）Ⅲ類…… 193
第2-140図　打製石鏃（6）Ⅲ類…… 194
第2-141図　打製石鏃（7）Ⅳ類・Ⅴ類…… 195
第2-142図　打製石鏃（8）Ⅵ類…… 196
第2-143図　石錐（1）…… 197
第2-144図　石錐（2）尖頭器・異形石器…… 198
第2-145図　石匙・スクレイパー（1）…… 199
第2-146図　スクレイパー（2）…… 200
第2-147図　使用痕剝片・加工痕のある剝片（1）…… 201
第2-148図　使用痕剝片・加工痕のある剝片（2）…… 202
第2-149図　石核（1）…… 203
第2-150図　石核（2）…… 204
第2-151図　磨製石斧（1）Ⅰ類…… 205
第2-152図　磨製石斧（2）Ⅱ類…… 206
第2-153図　磨製石斧（3）Ⅲ類・Ⅳ類…… 207
第2-154図　磨製石斧（4）Ⅳ類…… 208
第2-155図　擦切石器…… 209
第2-156図　打製石斧（1）Ⅰ類…… 210
第2-157図　打製石斧（2）Ⅰ類…… 211
第2-158図　打製石斧（3）Ⅰ類・Ⅱ類…… 212
第2-159図　打製石斧（4）Ⅲ類…… 213
第2-160図　磨石・敲石（1）…… 214
第2-161図　磨石・敲石（2）…… 215
第2-162図　磨石・敲石（3）…… 216
第2-163図　磨石・敲石（4）…… 217
第2-164図　礫器…… 218
第2-165図　石皿・台石（1）…… 219
第2-166図　石皿・台石（2）…… 220
第2-167図　石皿・台石（3）…… 221
第2-168図　軽石製品（1）Ⅰ類…… 222
第2-169図　軽石製品（2）Ⅰ類…… 223
第2-170図　軽石製品（3）Ⅱ類…… 224
第2-171図　軽石製品（4）Ⅱ類…… 225
第2-172図　軽石製品（5）Ⅲ類…… 226

第2-173図　軽石製品（６）Ⅲ類 …… 227
第2-174図　軽石製品（７）Ⅲ類 …… 228
第2-175図　軽石製品（８）Ⅲ類 …… 229
第2-176図　軽石製品（９）Ⅳ類 …… 230
第2-177図　軽石製品（10）Ⅳ類・Ⅴ類 …… 231
第2-178図　軽石製品（11）Ⅴ類 …… 232
第2-179図　軽石製品（12）Ⅴ類・Ⅵ類 …… 233
第2-180図　石製品 …… 234

表　目　次

第2-1表　縄文時代後期遺構内出土遺物観察表（土器・土製品）（１）…… 30
第2-2表　縄文時代後期遺構内出土遺物観察表（土器・土製品）（２）…… 31
第2-3表　縄文時代後期遺構内出土遺物観察表（石器・石製品）…… 31
第2-4表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（１）…… 163
第2-5表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（２）…… 164
第2-6表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（３）…… 165
第2-7表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（４）…… 166
第2-8表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（５）…… 167
第2-9表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（６）…… 168
第2-10表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（７）…… 169
第2-11表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（８）…… 170
第2-12表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（９）…… 171
第2-13表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（10）…… 172
第2-14表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（11）…… 173
第2-15表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（12）…… 174
第2-16表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（13）…… 175
第2-17表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（14）…… 176
第2-18表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（15）…… 177
第2-19表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（16）…… 178
第2-20表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（17）…… 179
第2-21表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（18）…… 180
第2-22表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（19）…… 181
第2-23表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（20）…… 182
第2-24表　中津野遺跡における石材分類 …… 183
第2-25表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（１）…… 235
第2-26表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（２）…… 236
第2-27表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（３）…… 237
第2-28表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（４）…… 238
第2-29表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（５）…… 239
第2-30表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（６）…… 240
第2-31表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（７）…… 241
第2-32表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（８）…… 242
第2-33表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（９）…… 243
第2-34表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（10）…… 244
第2-35表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（11）…… 245
第2-36表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（12）…… 246

第６章　縄文時代早期～後期の調査

第１節　遺構

縄文時代早期から後期の調査で検出した遺構は，縄文時代後期の所産と考えられるもののみであった。集石２基，土坑３基，埋設土器１基，遺物集中10か所，石材剥片が出土した集積遺構１か所，特殊遺構１基を検出した。これらの遺構は12区から26区にかけて検出されたが，その大半は18区から21区に集中する。遺構の配置図は，第2-1図に示した。

なお，本報告書では遺構番号を通し番号としていることから，この時期の集石は２号から，土坑は31号から番号を付してある。また，遺物番号は1001から，挿図番号は2-1図から番号を付してある。

１　集石

集石２号（第2-2図）

集石２号はＤ－26区で検出され,礫18個で構成される。遺構の主体部は0.9×0.4ｍの細長い楕円形状を呈し，礫16個からなる。礫の上下動は少なく，掘り込みも見られない。

集石３号（第2-2図）

集石３号はＣ－18区で検出され,礫15個で構成される。遺構の主体部にある礫13個は，0.4ｍ四方の中にほぼ収まっている。その中心部からやや北側に樹痕があることから，礫数個が散逸した可能性がある。礫の上下動は少なく，掘り込みも見られない。

２　土坑

土坑31号（第2-3図1001・1002）

土坑31号は，Ｄ－21区で検出した。卵型の楕円を呈する平面形は，長軸0.9ｍ，短軸0.6ｍを測る。土坑の大部分は深さ５㎝程度と浅いが，南西端部に長軸0.48ｍ，短軸0.25ｍ，深さ約0.25ｍの小ピットが掘り込まれているのが特徴的である。

土坑の中央部で，床面及び床面から若干浮いた状態で深鉢の完形品２個体が出土した。1001は口径15.5㎝，底径７㎝，高さ20㎝を測る松山式土器の完形品である。やや開く断面三角形の口縁部，若干膨らむ胴部，安定した平底からなり，口縁部外面には連続する斜位の貝殻腹縁部による刺突文が施されている。胴部の内外面に貝殻条痕がみられる。1002は口径18.2㎝，底径9.4㎝，高さ18.2㎝を測る松山式土器の完形品である。1001よりも口径が大きいが高さが低いことから，やや寸胴にみえる。断面三角形を呈する口縁部の外面には，連続する斜位の貝殻刺突文が施されている点は1001と同様である。底部から胴部への立ち上がり部分に若干くびれが見られる点と胴部の内外面にあまり貝殻条痕が見られずナデ仕上げになっている点が1001との相違点である。

土坑の性格・機能については不明であるが，土坑の端部に小ピットが存在することと深鉢の完形品が２点も出土していることが特徴的であるといえる。

土坑32号（第2-3図）

土坑32号は，土坑31号と同様にＤ－21区で検出した。直径が約0.15ｍの柱穴状の円形ピットである。検出面からの深さは７㎝を測る。特徴的なことはピットにほぼ収まる角礫が出土したことである。角礫は検出面から約18㎝も上位から検出されており，いわゆる「立石」状を呈する状況で記録されている。当時の地表面と本土坑の検出面との間には，若干ギャップがあると思われる。周縁部に他の遺構や特殊な遺物の出土は確認されなかった。当時角礫が地表から飛び出した状態であったのか，あるいは全てピット内（地中）に埋まっていたのかについては不明である。

土坑33号（第2-4図1003～1008）

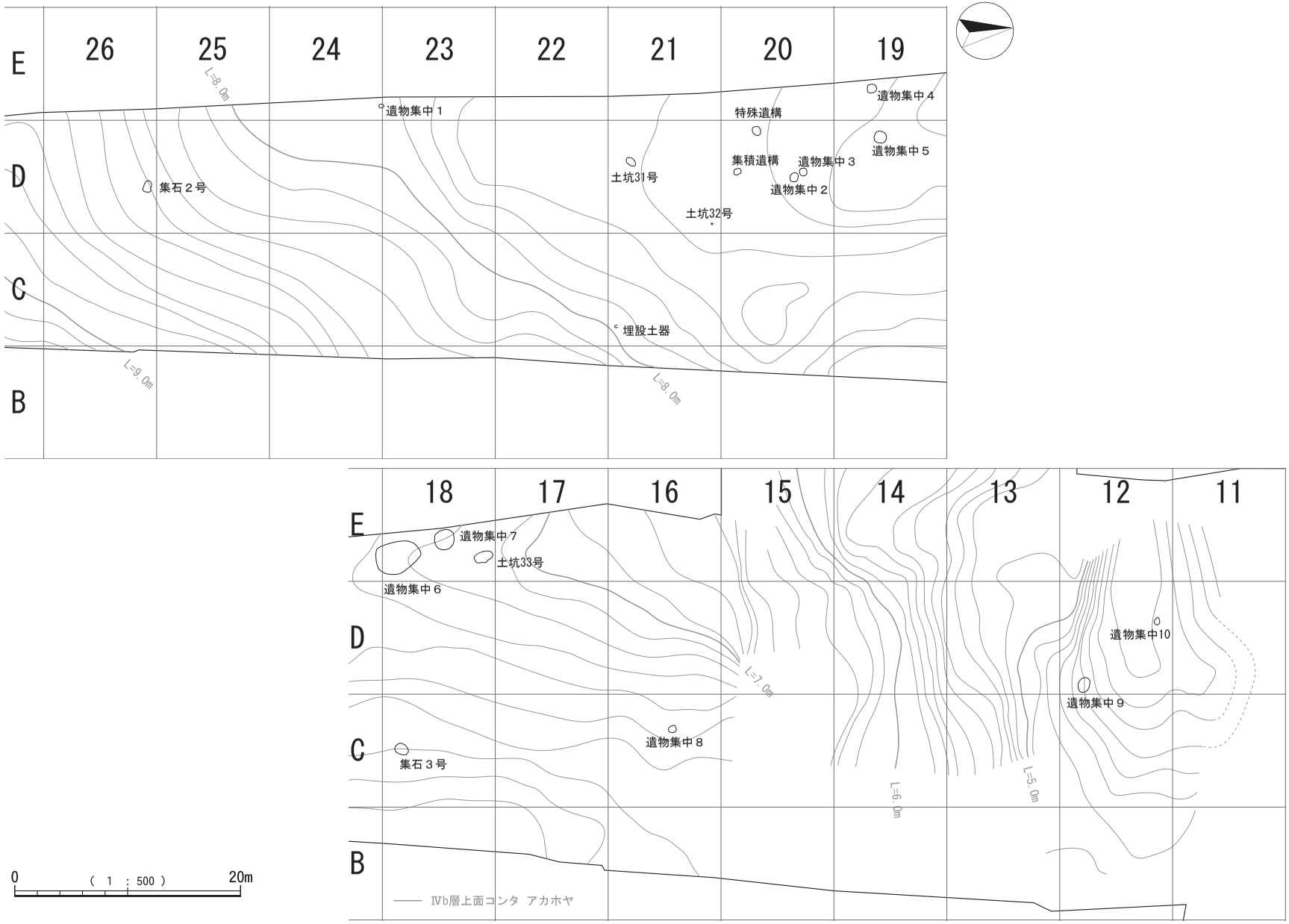
土坑33号は，他の２基とは離れたＥ－18区で検出した。平面形は長軸が1.67ｍ，短軸が１ｍの長楕円形状を呈する。深さが12～22㎝程度で，やや扁平な断面形を呈している。土坑の南西隅は撹乱を受けている。

20点弱の遺物が出土しているが，特徴的な土器６点を掲載した。1003～1005は，深鉢の口縁部片である。いずれも棒状工具による沈線で文様を構成するもので，指宿式土器と考えられる。1005は，若干山形を呈する波状口縁の一部である。内外面ともにほぼ丁寧なナデ仕上げを行っている。1006は，底径が11.6㎝を測る深鉢の底部である。幅約３㎝の接地面がドーナツ状に巡る底面を有し，中央部は直径５㎝，高さ0.7㎝ほどの上げ底状を呈している。1007と1008は，小型深鉢の底部片である。1007は，底径５㎝で若干上げ底気味（0.3㎝程度）の底部である。胴部への立ち上がり部分を打ち欠き，円形状に仕上げた可能性も考えられる。また，意図的かどうか不明ながら，底部外面中央部に刺突文状の凹部が見られる。1008は，推定底径5.5㎝の底部片である。底部外面中央部が，ごくわずかに上げ底気味を呈している。底部片の側面を打ち欠き，円盤形土製品様を呈している。長軸が5.5㎝，短軸が４㎝を測り，小判形になるように仕上げてあるのが特徴的である。

３　埋設土器（第2-4図1009）

Ｃ－21区において検出した。土器が出土した遺構は，直径0.25ｍ前後の円形ピットと考えられるものである。その北側は樹痕によって撹乱された状態で検出された。深さは，最大で７㎝であった。

1009は，遺構内から出土した深鉢の底部片である。第2-4図に示したように，天地を逆に伏せた状態で出土し



第２－１図　縄文時代後期の遺構配置図

た。遺構本来の深さが不明なこともあり，遺構と底部片との関係についての詳細は不明であるが，意図的に埋設したものと考えたい。底径は11.5㎝，胴部の立ち上がりが最大7.7㎝の高さを測る。内外面共に丁寧なナデ仕上げを行っている。底面から底端部にかけて器表が一部剥落している点が特徴的である。

４　遺物集中箇所

遺物が集中して出土した部分が，低湿地部の12区から２か所，低地部の16区から23区にかけて８か所の計10か所確認された。ここでは遺物集中１～10として報告する。

なお，遺物集中内の土器と包含層出土の土器との接合状況について第2-5・6図に示した。

遺物集中１（第2-7図1010）

1010はⅣｂ層上面，Ｅ－23区とＥ－24区の境界付近でまとまって出土した土器である。数点が接合しなかったが，１個体と考えられる。復元口径が19.2㎝，残存器高が18.6㎝を測る深鉢で，口縁は平口縁である。底部と胴部下半が欠損した状態であった。口縁部は断面三角形状を呈するが，文様は施されていない。内外面ともに浅い貝殻条痕が残るが，全体的に丁寧なナデ仕上げが行われている。以上の特徴から，松山式土器の無文土器と考えられる。当初，土坑の存在も想定されたが，精査したところ樹痕であることが判明したことから，遺物包含層中の土器集中箇所として捉えた。

遺物集中２（第2-7図1011）

遺物集中２はほぼ１個体の土器がＤ－20区のⅢ層上面から，約40.0㎝四方の中にまとまって出土したものである。遺物集中３とは近接した関係にある。

1011が接合した土器の実測図で，口径27.2㎝を測る深鉢である。口縁部下約２㎝に径25.4㎝のくびれ部があり，同下約10㎝で27.4㎝の胴部最大径となる。残存部の器高は18.2㎝である。内外面ともに丁寧なナデ仕上げが行われているが，大きな特徴は，口縁部下約９㎝の幅で帯状に施された文様を特徴とする。文様は幅約0.3㎝の沈線と先端が鋭利な竹串状工具による刺突文の組み合わせからなり，口唇部には最低２か所の波頂部が存在する。波頂部を基準として展開される文様は，直線文と逆三角形文の構成を軸として施されている。全体的な特徴から指宿式土器の範疇と考えられるが，刺突文との組み合わせは複雑かつ重厚な印象を与えている。胎土に白色や茶色の砂粒を含むが，特に白色砂粒は目立っている。

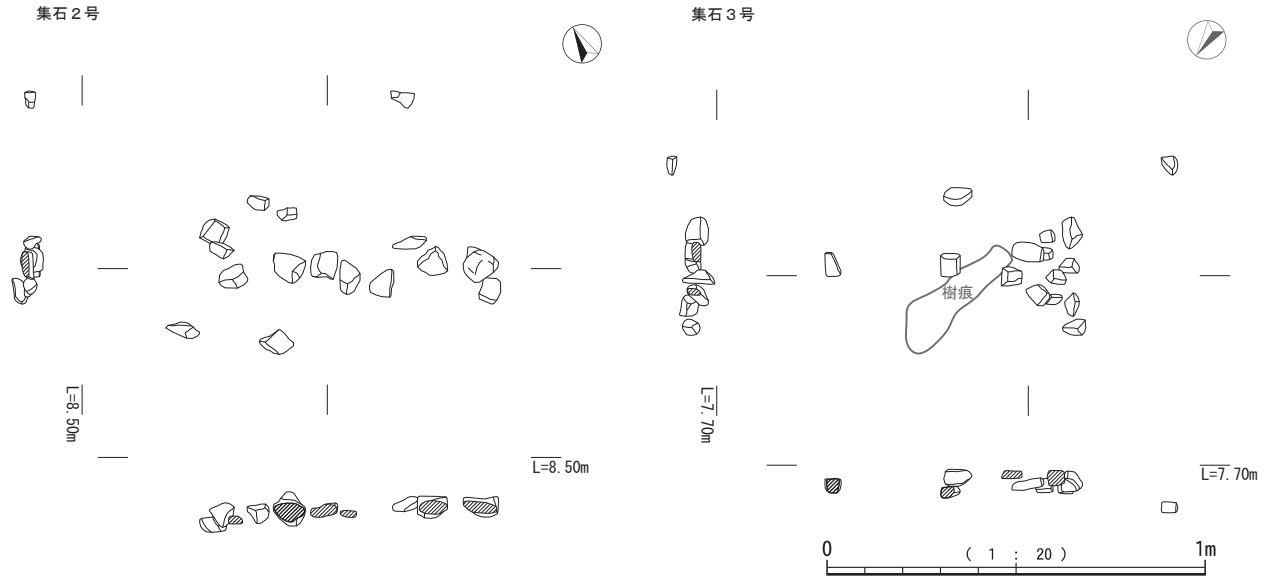
遺物集中３（第2-7図1012・1013）

遺物集中３は，約20点の土器片がＤ－20区のⅢ層上面でまとまって出土した。

1012は16点の土器片が接合したもので，復元口径18.4㎝を測る。ほぼ直口する深鉢の口縁部で，文様は施されない。比較的平坦な口唇部も無文である。内外面ともに丁寧なナデ仕上げが施されているが，粘土幅約1.5㎝程度の接合痕が数か所で観察される。1013は，山形波頂部分を含む深鉢の口縁部片である。外面に幅0.4㎝の沈線が見られる。やや平坦な口唇部に文様はない。内外面ともに貝殻条痕が施されているが，内面は特に明瞭に残っている。以上の特徴から，指宿式土器と考えられる。

遺物集中４（第2-8図1014～1022）

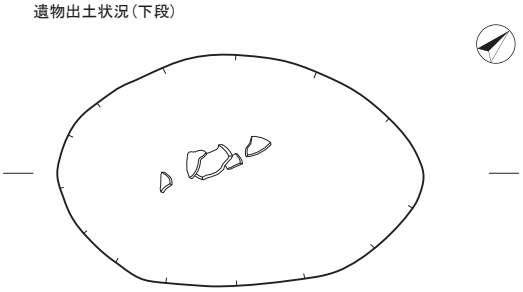
遺物集中４は，円盤形土製品（通称メンコ）の集中箇所である。Ｅ－19区の西壁近くのⅢ層上面で，約40㎝四方の中に８点の加工品がまとまった状態で出土した。特に，1014～1018は，重なり合うように出土した。なお，これらと共に出土した1022については，形状こそ円盤形を呈しておらず，側辺部の加工が不明瞭なことから，口



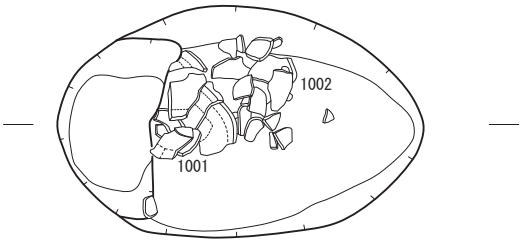
第2-2図　集石２・３号

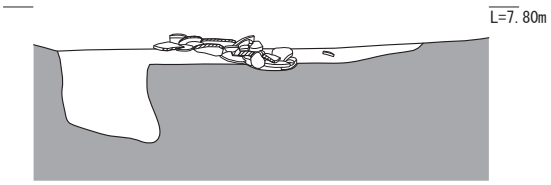
土坑31号

遺物出土状況(下段)



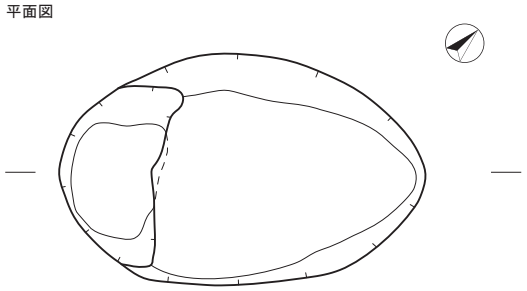
(上段)

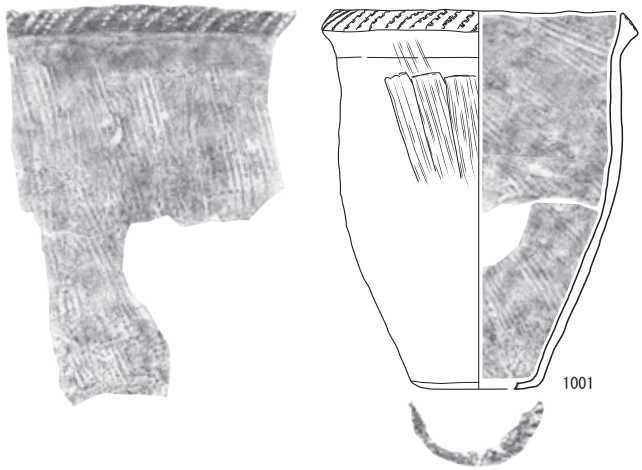




埋土
黄褐色土(Ⅱ層相当)と明黄褐色砂質土(Ⅲa層相当)の混土。
しまりは弱い。

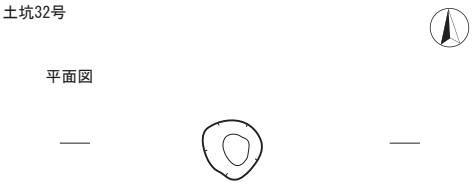
平面図



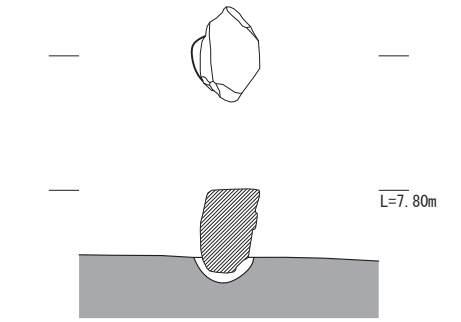


土坑32号

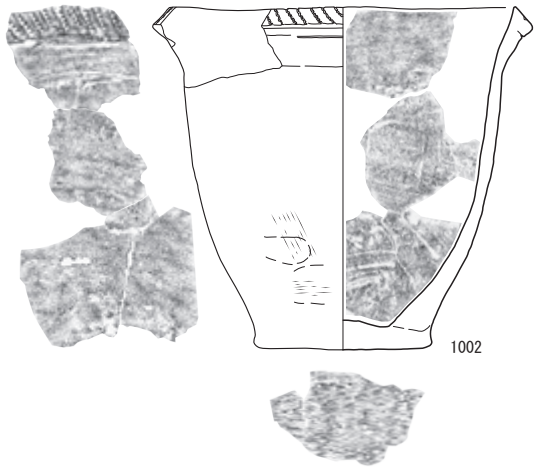
平面図

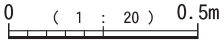


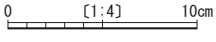
遺物出土状況



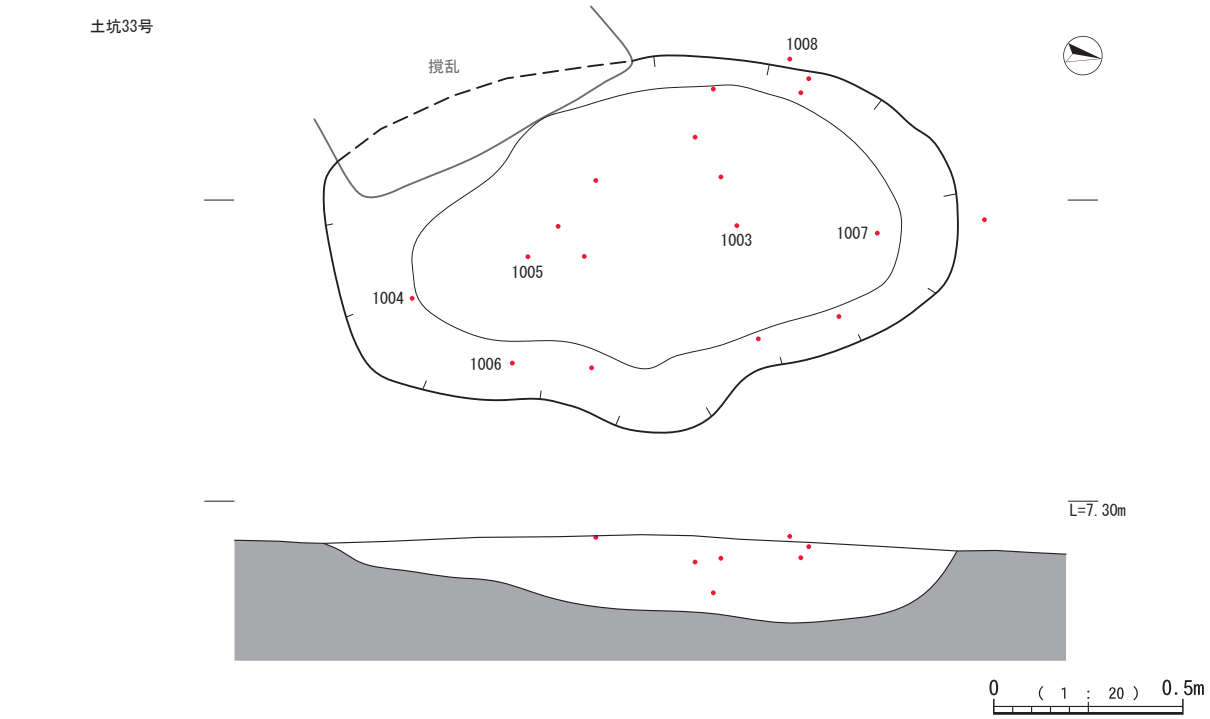
埋土
黒褐色土　しまりがあり,粘性もややある。

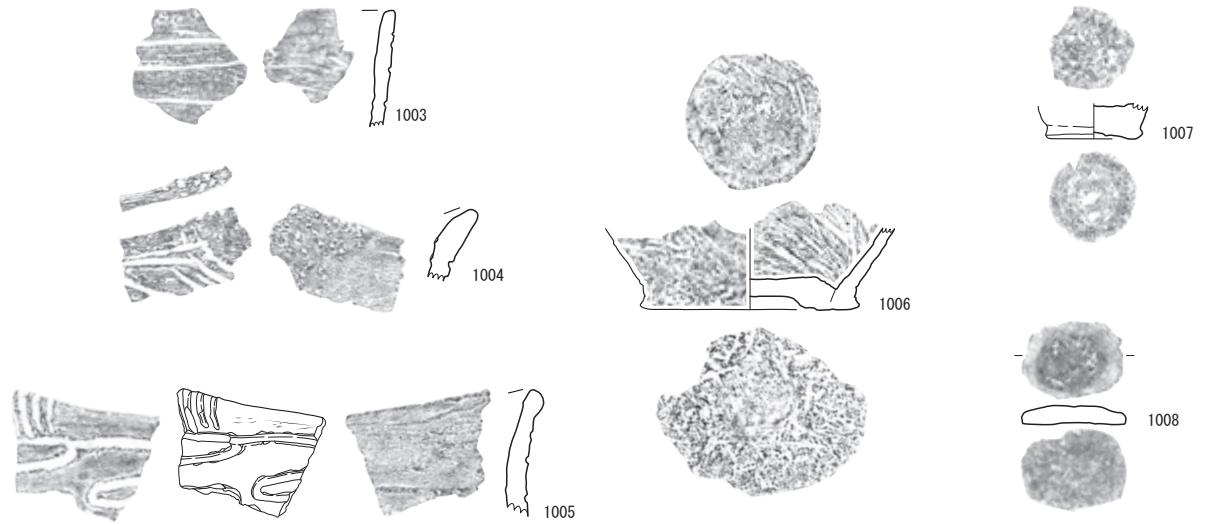


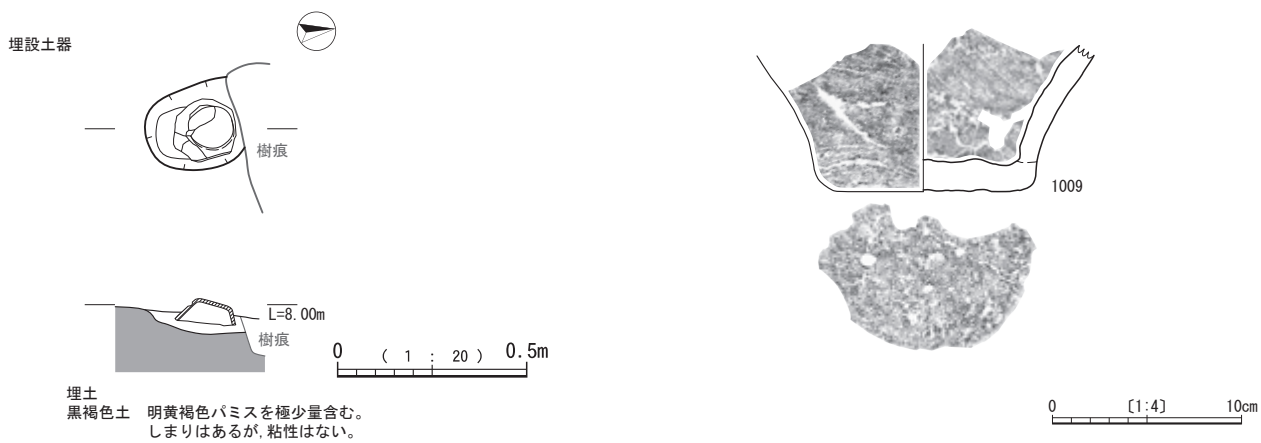




第2-3図　土坑31・32号及び土坑31号出土遺物

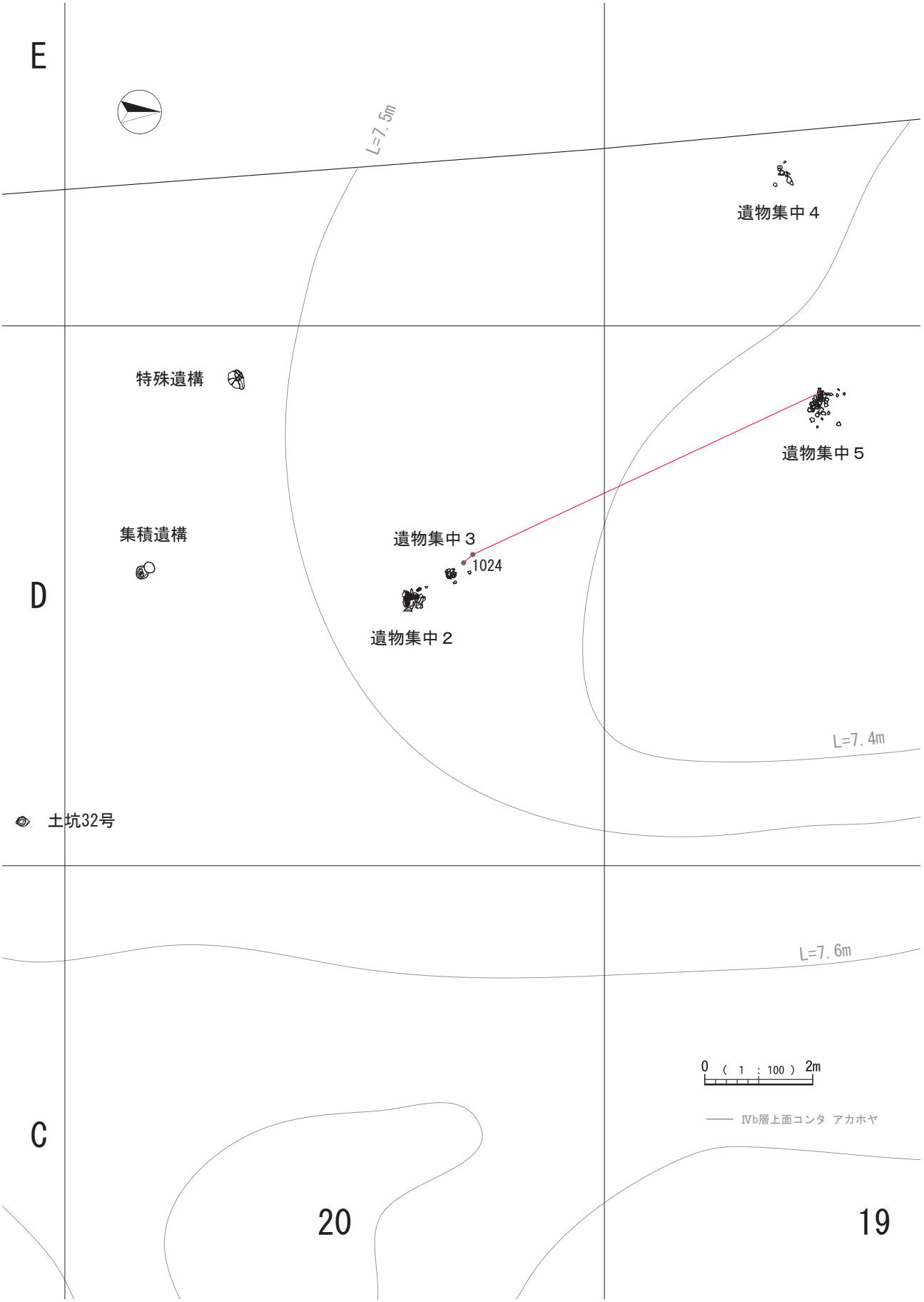




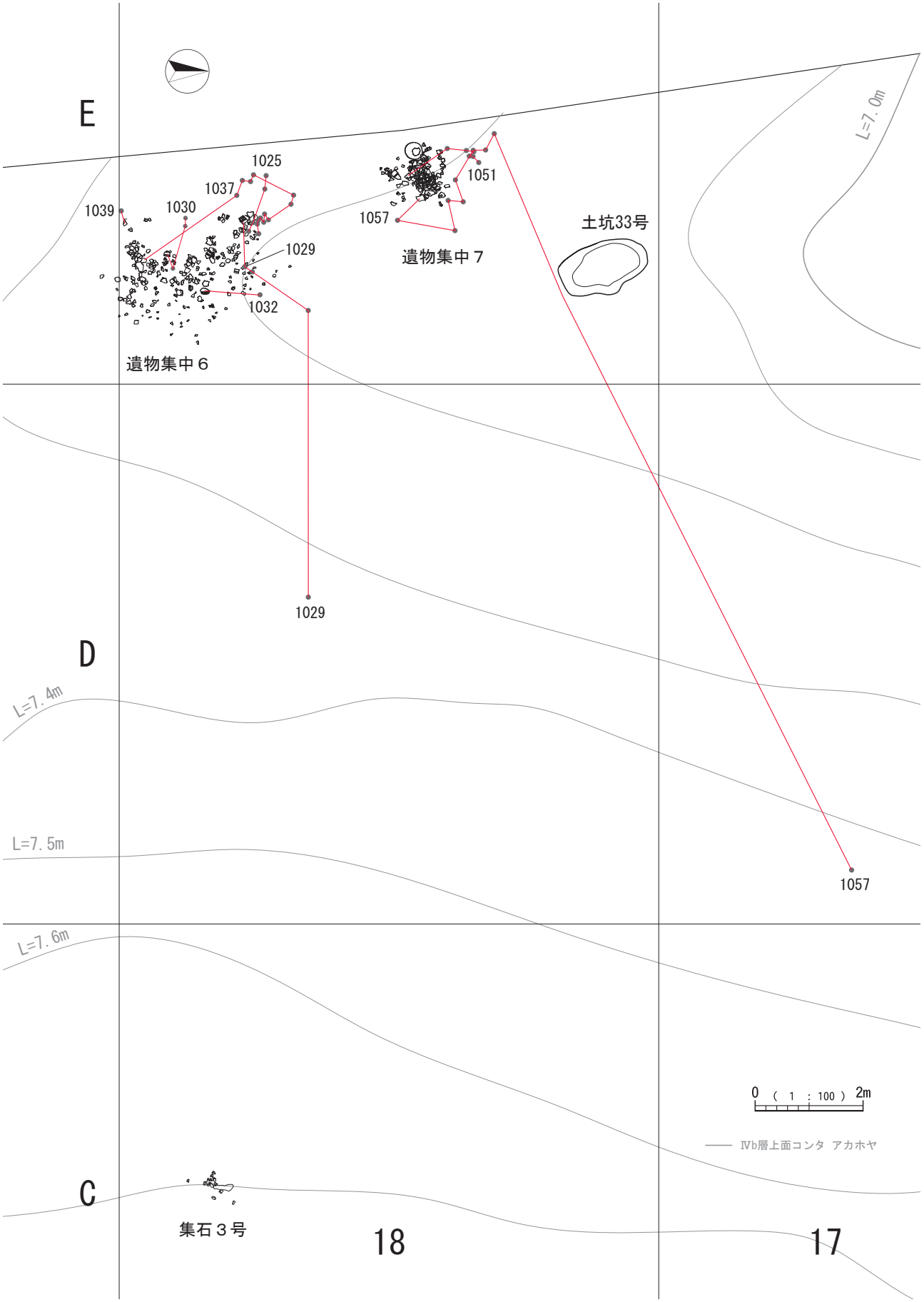


埋土
黒褐色土　明黄褐色パミスを極少量含む。
しまりはあるが，粘性はない。

第2-4図　土坑33号・埋設土器及び出土遺物

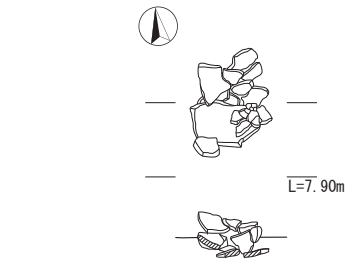


第2-5図　遺物集中と包含層出土土器の接合状況図（１）



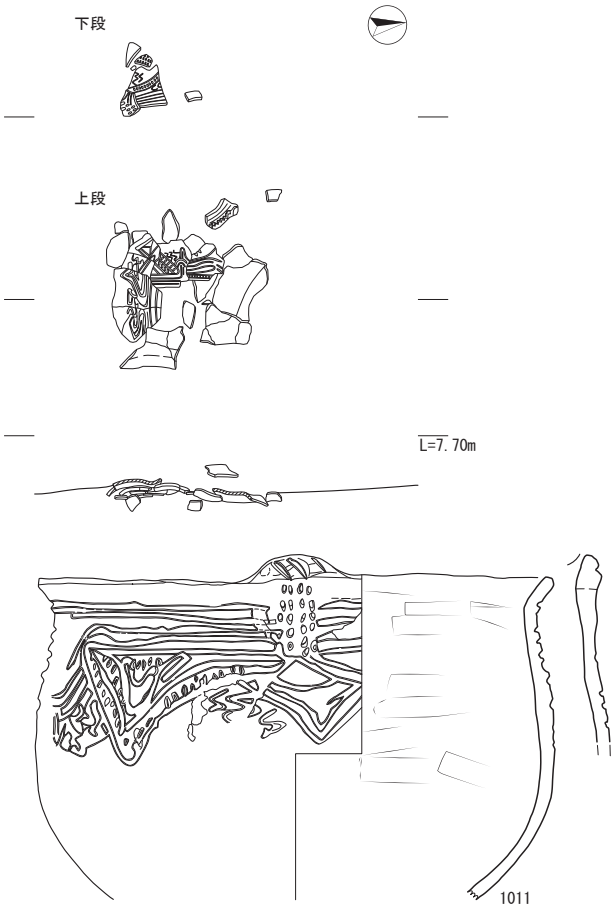
第2-6図　遺物集中と包含層出土土器の接合状況図（２）

遺物集中１

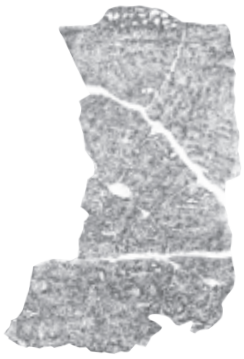




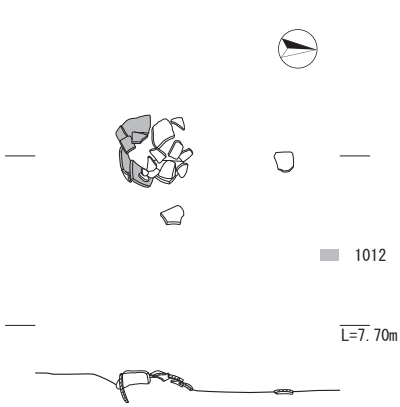
遺物集中２

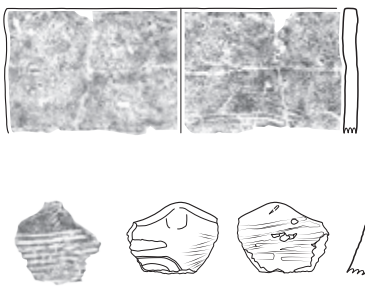






遺物集中３

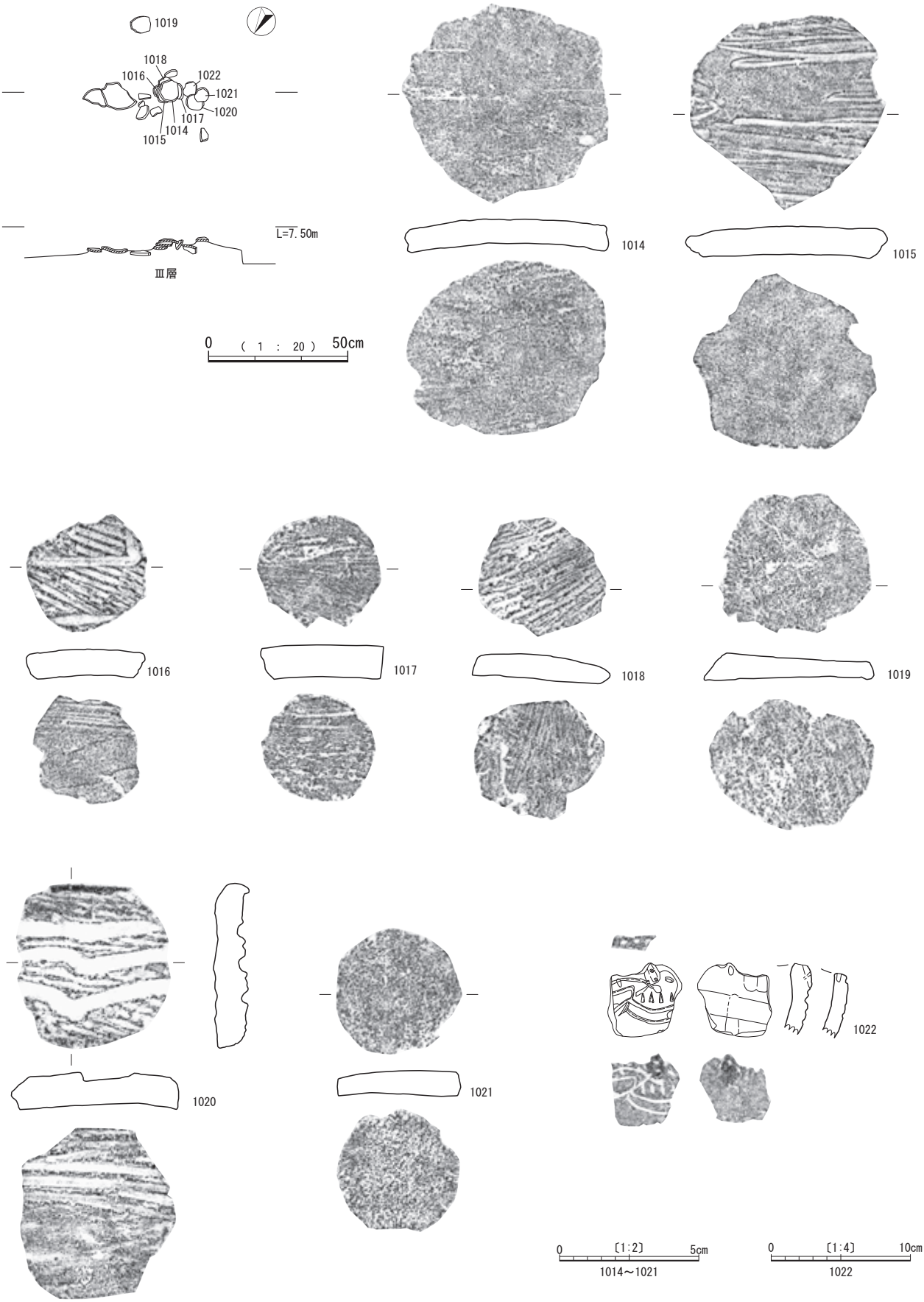




0 (1 : 20) 50cm
遺構

0 [1 : 4] 10cm
遺物

第2-7図　遺物集中１～３


1019
1018
1016
1022
1021
1020
1017
1014
1015
L=7.50m
Ⅲ層
0 (1 : 20) 50cm
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1020
1021
1022
0 〔1:2〕 5cm
1014～1021
0 〔1:4〕 10cm
1022

第2-8図　遺物集中４

縁部片として取り上げているが，加工品の準備品としての意味合いも否定できない。1014は，直径7.3㎝のほぼ円形を呈する加工品である。内外面ともに丁寧なナデ調整が施された深鉢の胴部片と考えられる。側辺部は多少凹凸感があるが，丁寧な打ち欠き作業を行っている。遺物がまとまって出土したほぼ中央部，かつ最も上位から出土した。1015は，長軸7.3㎝，短軸6.8㎝を測る略円形の加工品である。1014とほぼ同規模で，その直下から出土した。表には幅0.1㎝の細沈線による直線文が施されている。深鉢の口縁部下～胴部上半にかけての部位と考えられる。内面は丁寧なナデ調整が見られる。側辺には丁寧な打ち欠き作業の痕が残る。1016は，長軸4.3㎝，短軸3.8㎝を測るほぼ円形の加工品で，1015の直下から出土した。上部から出土した1014や1015と比較すると約60％ほどの大きさである。表には貝殻条痕の上に幅0.25㎝の直線文が施されている。深鉢の口縁部下に位置すると考えられる。裏面には貝殻条痕とケズリ状のナデ調整の跡が見られる。側辺には丁寧な打ち欠き作業の跡が残る。まとまって出土した1017・1018とほぼ同規模を呈する。内外面ともに貝殻条痕を施した後に丁寧なナデ仕上げを行っている。深鉢の胴部片と考えられる。側辺は丁寧な打ち欠き作業の痕が残る。1017は，長軸4.3㎝を測るほぼ円形の加工品である。1018は，長軸4.9㎝，短軸4.1㎝を測るほぼ略円形の加工品である。まとまって出土した1016・1017とほぼ同規模を呈する。内外面ともに貝殻条痕が見られるが，内面はナデ仕上げが行われ，条痕は浅い。一部接合痕も観察できる。深鉢の胴部片と考えられる。側辺は丁寧な打ち欠き作業の痕が残る。1019は，他の加工品とは若干（15㎝程度）離れて出土した。長軸6.1㎝，短軸5.1㎝を測る深鉢の胴部片である。内外面ともに丁寧なナデ仕上げが施されている。形状は1014・1015と類似しているが，1019の方が80％ほどの形状と小さい。1020～1022の３点は，1014～1016の集合よりやや西側で出土した。1020は，長軸６㎝，短軸5.8㎝を測る略円形の加工品である。内外面ともに貝殻条痕の後，一部丁寧なナデ仕上げが見られる。深鉢の口縁部片を利用した加工品で，表には幅0.4㎝を測る３本の沈線が見られる。側辺は丁寧な打ち欠き作業の痕が残る。1021は，長軸4.7㎝を測るほぼ円形の加工品である。内外面ともに丁寧なナデ調整が施されている。深鉢の胴部片と考えられる。側辺は一部研磨した部分が見られるほど丁寧に仕上げられている。以上が円盤形土製加工品と考えられる８点である。

1022は，若干内湾する山形波頂部を含む深鉢の口縁部片である。外面には幅0.1～0.2㎝の細沈線と先端の鋭利な竹串状工具による刺突文を組み合わせた文様が施されている。刺突文は，口唇部にも見られる。前述のとおり，８点の円盤形土製加工品とはやや内容が異なる土器片である。しかし，加工品と共にまとまって出土していることを考慮すると，加工の途中，あるいは加工の準備品的な様相もあり，注目される。以上，文様が施された1015・1016・1020・1022は指宿式土器と考えられることから，９点のまとまりは指宿式土器期の所産である可能性が高い。

遺物集中５（第2-9図1023・1024）

遺物集中５は，Ｄ－19区のⅢ層上面で土器がまとまって出土したものである。２個体を図化することができた。

1023は集合の中心をなす土器で，復元口径30.8㎝を測る深鉢である。底部から胴部下半は欠損していた。残存部の器高は25.5㎝である。口縁部外面には，幅約0.4㎝の沈線によるいわゆる靴形文が横方向に連続して施されている。靴形１単位の長さは，６～９㎝とやや不規則である。口唇部には最低２か所の波頂部（約1.0㎝の山形）が存在する。頂部の内面には２本の短沈線が縦位に施されている。内外面ともに丁寧かつ明瞭な貝殻条痕が施されているが，口縁部直下内外面では，横方向の丁寧なナデ仕上げが行われている。1024は口径22.2㎝を測り，胴部が大きく張り出す「壺」状の器形を有する土器である。口縁部下に２本の平行沈線を配し，さらにその下位に沈線間を充填するように貝殻腹縁部による刺突文を施したものである。内外面ともに丁寧なケズリ，ナデ調整が見られる。胎土には白色の砂粒が含まれている。

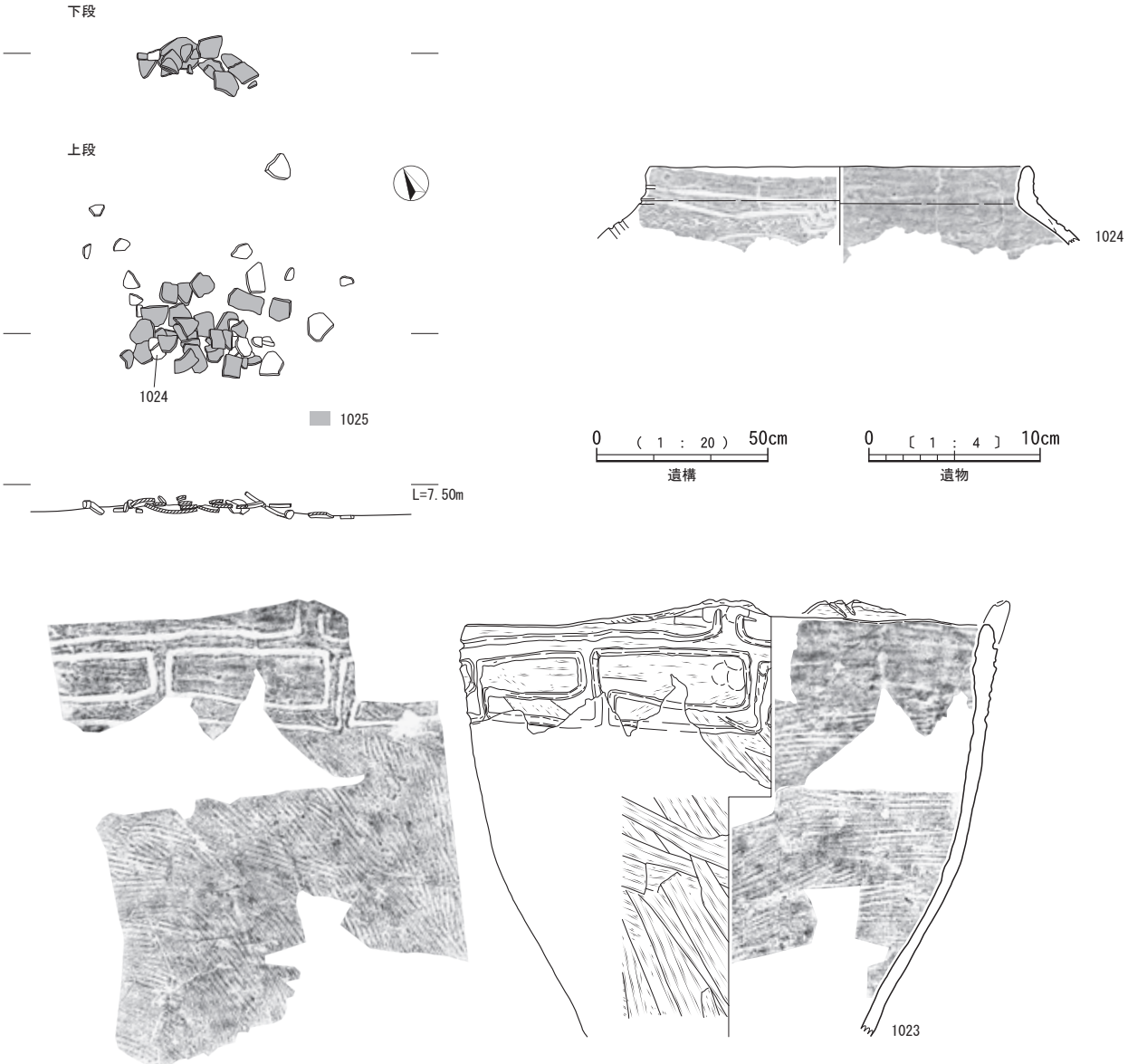
遺物を取り上げた後，下面の断ち割り調査を行ったが，掘り込み等の変化は確認できなかった。

遺物集中６（第2-10～14図1025～1046）

遺物集中６はＥ－18区の西壁近く，Ⅱｂ層下部からⅢ層上部にかけて多くの土器がまとまって出土した箇所で，今回取り上げる集中箇所の中では規模が最大で出土量も最も多かった。

1025～1030は，口縁部下にいわゆる靴形文が施されている土器群である。文様の全容は明らかでないが，1031～1036も同文様系統と考えられる土器である。1025は，口径28.8㎝を測る深鉢である。残存器高は，25.7㎝で底部付近は欠けている。文様は口縁部下に口縁部と平行する１本の沈線（幅0.3㎝ほど）が施され，その下位に左向き長靴様の靴形文が横方向に連続して施されている。最大径が口縁部下９㎝ほどの胴部にあり，口縁部はやや内傾気味である。口唇部は無文で，舌状の断面形を呈する。内外面ともに丁寧なナデ調整が見られる。外面にはススの付着が確認できる。胎土に白色や茶色の砂粒を含む。1026は，口径36.2㎝，底径９㎝，器高32.4㎝を測る深鉢の完形品である。約1.5ｍ四方の広がりの中で出土した20数点が接合した。文様は口縁部下に口縁部と平行する１本の沈線（幅0.3㎝ほど）が施され，その下位に左向き長靴様の靴形文が横方向に連続して施されている。基本的には1025と同様であるが，1026は最大径が口

縁部にあり，底部から開きながら口縁部へと立ち上がるバケツ状の器形を呈している。口唇部は無文で，やや舌状の断面形を呈する。内外面ともに若干貝殻条痕が残るものの，丁寧なナデあるいはケズリ（特に外面は顕著）調整が見られる。胎土に白色や茶色の粒子を含む。1027は，復元口径25.8cm，残存器高14.4cmを測る深鉢である。口縁部は，ほぼ直口して立ち上がっている。口唇部断面形は，舌状を呈し無文である。1025・1026と同様に口縁部下の沈線，靴形文という組み合わせの文様を有するが，施文がやや雑で，安定感に欠ける文様となっている。外面には貝殻条痕が残り，一部ナデ仕上げを行っている。また，内面は丁寧なナデ仕上げにより，平滑な面を形成している。胎土に白色砂粒を多く含む。1028も左向きの靴形文を有する深鉢の口縁部片である。口唇部断面形は，舌状で無文である。外面に横位の貝殻条痕を残しながら，丁寧なナデ仕上げを行っている。内面は口縁部付近が横位，その下位が縦位のケズリ調整痕が明瞭に残る。胎土に白色砂粒を含む。1029・1030は，口縁部下に右向き長靴様の靴形文を有する土器である。また，1031もそれに類似する資料と考えられる。1029は，復元口径33.1cmを測る深鉢の口縁部片である。平坦な口唇部の器厚が約1.5cmあり，胴部の約２倍を有するという特徴をもつ。口縁部下に口縁部と平行する１本の沈線（幅0.2cmほど）が施され，その下位に右向き長靴様の靴形文が横方向に連続して施されている。最大径が口縁部にあるバケツ状の器形を有するものと考えられる。内外面ともに丁寧なナデ仕上げが行われている。白色砂粒を多く含む。1030は，復元口径31cm，残存器高18.7cmを測る深鉢である。やや平坦な面を有する口唇部は無文である。口縁部下に口縁部と平行する幅0.3cmほどの１本の沈線が施され，その下位に右向き長靴様の靴形文が横方向に連続して施されている。ただ，1025～1029の靴形文と異な



第2-9図　遺物集中５

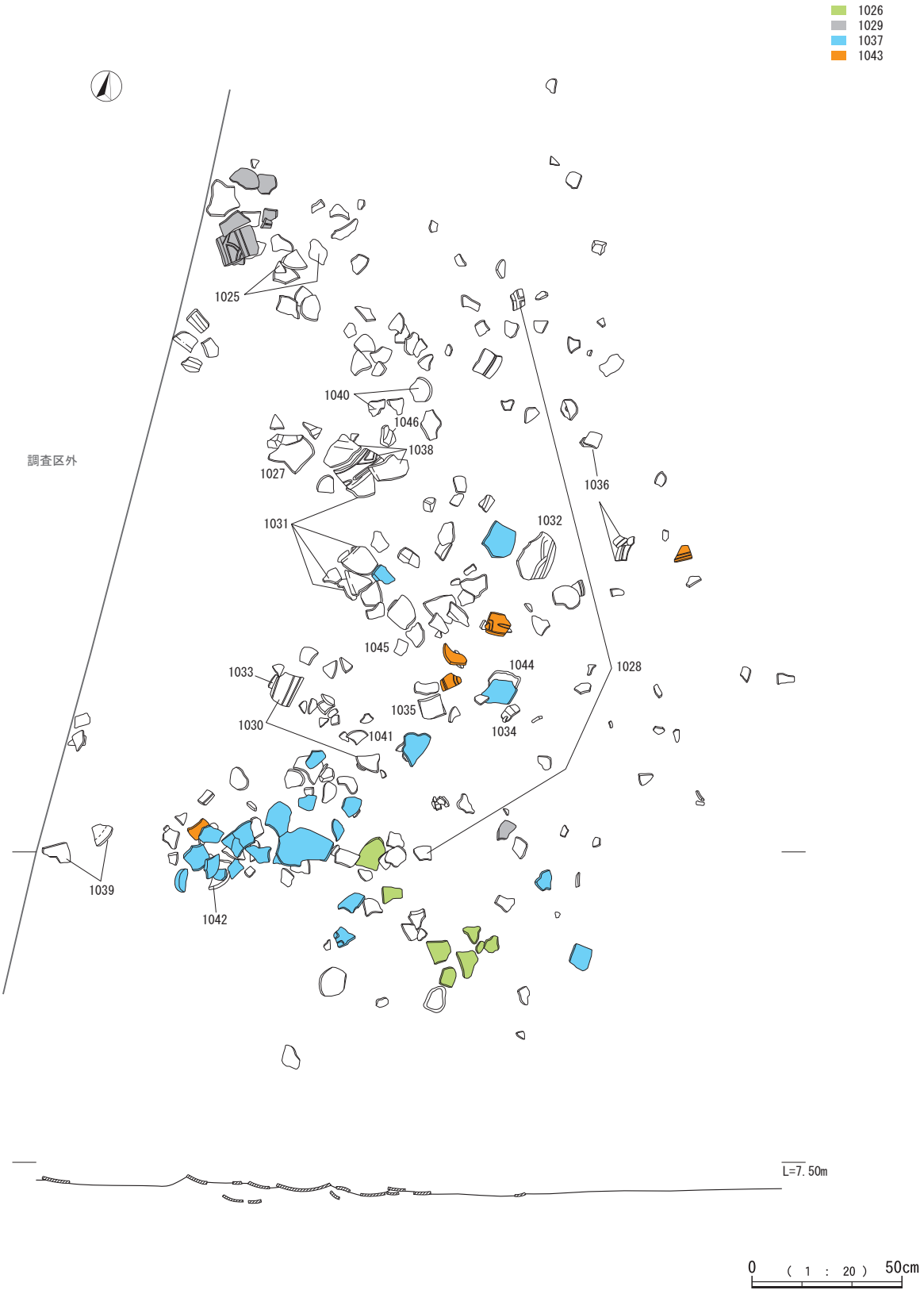
り，右向きの長靴部分の沈線に鋸歯状あるいは曲線的にアレンジが見られるのが特徴的である。1029と同様に，最大径が口縁部にあるバケツ状の器形を有するものと考えられる。外面は丁寧なナデ仕上げを行っているが，若干貝殻条痕が残っている。内面には貝殻条痕が比較的明瞭に残っている。白色や茶色の砂粒を含む。1031は最大径が口縁部下約７㎝の胴部にある器形で，口縁部が内湾気味に立ち上がる深鉢である。口唇部はやや平坦で無文である。口縁部下に口縁部と平行する幅0.4㎝ほどの１本の沈線が施され，その下位に右向き長靴様の靴形文と考えられる沈線が施された深鉢片である。施文はやや雑然としており，安定感に欠けている。内外面ともに明瞭な貝殻条痕が見られる。外面には，ススの付着が見られる。なお，本遺物は，放射性炭素年代測定を実施した。1032は，復元口径29.5㎝を測る深鉢である。残存器高は11.5㎝である。最大径が，口縁部下約5.5㎝の胴部にある。口縁部はやや内湾気味となっているが，端部は「く」の字状に若干開く形状を呈している。口唇部断面はやや丸味を帯びている。口縁部下に口縁部と平行する幅0.3㎝ほどの１本の沈線が施され，その下位に２本の平行沈線が，靴形文を意識したような状態で施されている。胎土に白色や茶色の砂粒を含む。

1033～1036は，靴形文あるいはそれに類する文様を有すると考えられる土器片である。1033は口縁部下に口縁部と平行する幅0.4㎝ほどの１本の沈線が施され，その下位に向き不明ではあるが靴形文様の沈線文が見られる。断面形がやや舌状を呈する口唇部近くで若干外へ開く。内外面に貝殻条痕が残る。1034は，口縁部下に幅0.4㎝ほどの３本の平行沈線が見られる口縁部小片である。断面形が舌状を呈する口唇部には，内外をまたいで幅１㎝強の粘土紐の貼付文が見られる。口縁部は，若干外傾気味に立ち上がっている。内外面に丁寧なナデ調整痕が見られる。1035は，口縁部がごくわずかに内傾する器形を有する。口唇部断面形は舌状を呈し，無文である。口縁部下に２本の平行沈線が斜位に施されるもので，全形は「コ」ないし「ロ」字を１単位とする文様が横位に展開されるパターンと考えられる。内外面共に貝殻条痕が残る。茶色の砂粒を多く含む。1036は，復元口径32.0㎝を測る口縁部片である。口唇部断面形は舌状を呈し，無文である。ほぼ直口する器形を有している。口縁部下に口縁部と平行する幅0.4～0.5㎝ほどの１本の沈線が施され，その下位に靴形文様の沈線文が展開すると考えられる。外面及び口縁部内面はナデ調整痕，内面にはケズリ調整痕が残る。

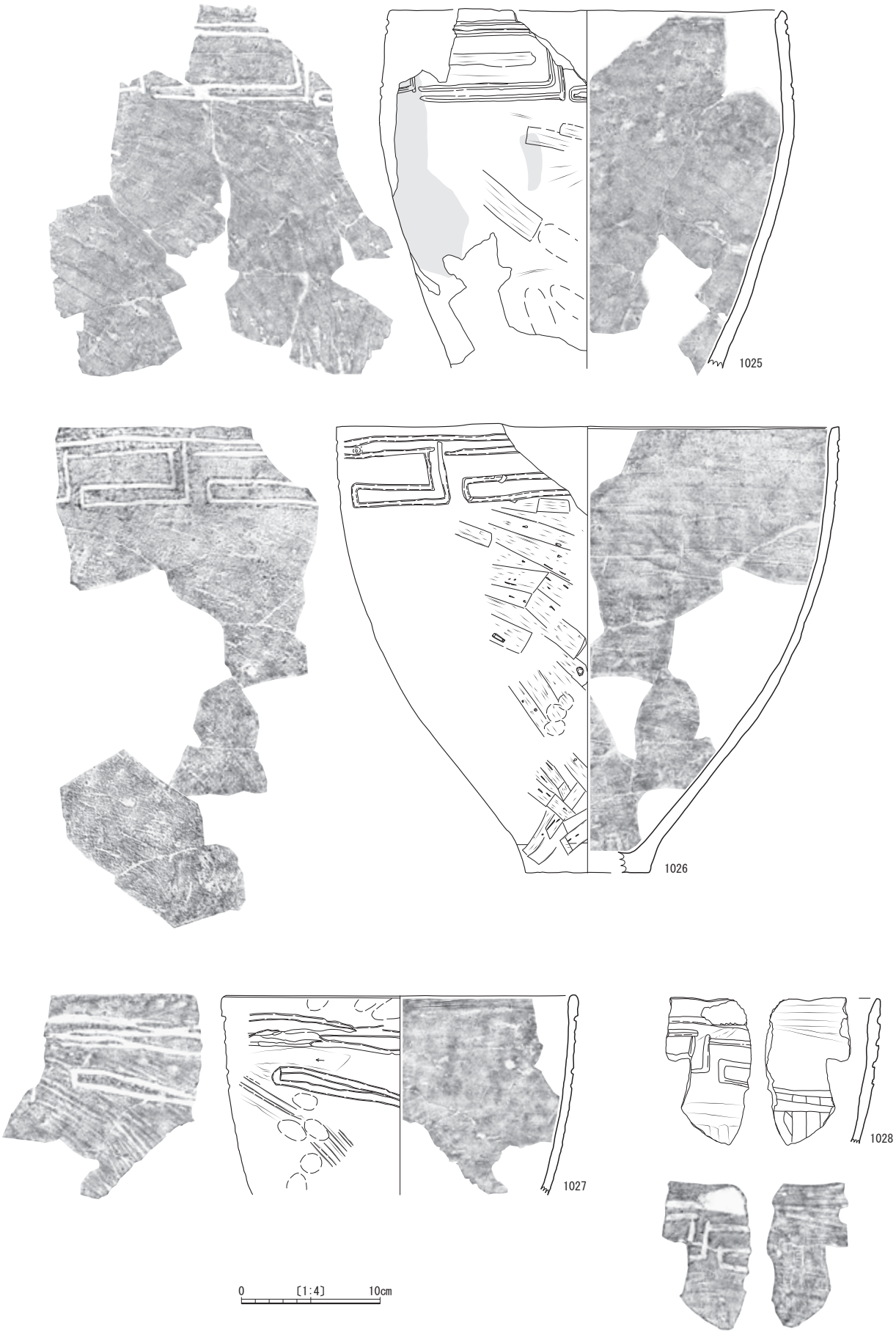
1037と1038は口縁部下に施す沈線の組み合わせによって，三角形文を展開させている土器である。1037は，復元口径32.4㎝，底径10.8㎝，器高30.1㎝を測る深鉢の完形品である。若干くびれを有する底部から口縁部に向けてバケツ状に開く器形を有する。Ｅ－18区の西壁に隣接して出土した。口唇部断面形は舌状で，無文である。文様は口縁部下に口縁部と平行する幅0.4㎝ほどの１本の沈線と，さらにその下位に５㎝ほどの間隔を置いて施された長さ６～９㎝ほどの短沈線間に，長さ５～７㎝程度の短沈線を組み合わせることにより，「三角形：△」ないし「逆三角形：▽」を横方向に交互に配置し主文様を施している。底部は厚さ１㎝ほどであるが，内面中央部が盛り上がり，厚さ1.8㎝を測る。底部外面には，網代痕が明瞭に残る。胎土に白色及び茶色の砂粒を含む。1038は復元口径26.6㎝，残存器高14.5㎝を測る深鉢で，1037と同様に口縁部がバケツ状に立ち上がる器形を有し，文様も基本的に三角形をモチーフにした構成となっている。文様を施した後に器面調整を行っていることから，沈線が器面に埋没している部分が見られる。内外面ともにケズリ調整痕が残り，部分的に光沢も見られるが，接合痕が残るほど調整の粗い部分もある。胎土に白色や茶色（特に多い）の砂粒を含む。

1039は，口縁部下に幅0.4㎝ほどの２本の沈線を平行に組み合わせた文様をもつ。わずかではあるが一部に波頂部があり，先端に凹点状の刺突文が施されている。内外面共にナデ調整痕が残るが，器面にやや凹凸があり，接合痕が残る部分も見られる。器面調整は全体的に粗い。

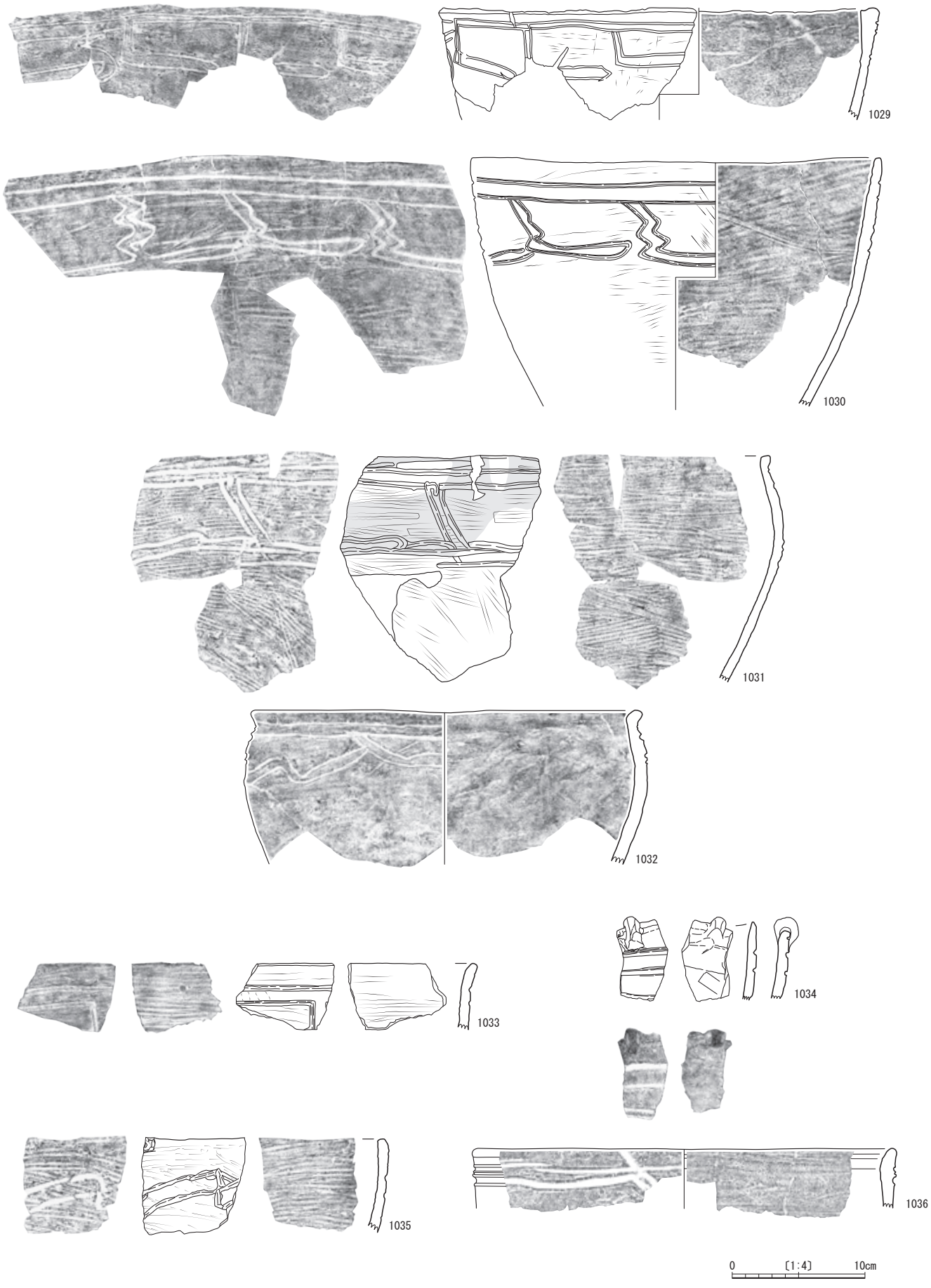
1040～1046は，底部片である。1040は，復元底径８㎝を測る。全体的には平底であるが，約0.1㎝程度，底面の中央部が若干上げ底気味となっている。底端部は緩やかで，外側へやや開きながら立ち上がっている。残存器高は５㎝である。胴部外面は貝殻条痕の後，ケズリ仕上げが行われている。これは底面も同様な仕上げで，一部に光沢が生じている。周縁部に若干網代の痕跡が残る。また，底面には白色の細かな粒子が付着している。胴部内面は丁寧なナデ仕上げが行われている。底部内面には，指押さえ痕が見られ凹凸が残る。土器製作時に底部円盤を外側から包み込むように整形した痕跡が残る。胎土に白色及び茶色（特に多い）の砂粒を含む。1041は，底面に明瞭な網代痕が残る平底の底部片である。立ち上がり部分に若干くびれ部が見られる。胴部外面は縦方向の丁寧なナデ仕上げが行われている。胴部内面は後世の鉄分付着のため，不明瞭な部分もあるが，ナデ仕上げと考えられる。胎土に白色砂粒を含む。1042は，復元底径11.4㎝を測る平底の底部片である。直線的に開く底部外面には，横方向の丁寧なナデ調整を行う。底面には若干網代の痕跡が残る。1043は，復元底径8.8㎝，残存器高8.7㎝を測る。底面中央部が0.3㎝程度中空となり，若干上げ底気味となっている。底面には若干網代の痕跡が見られる。土器製作時に底部円盤を外側から包み込むように整形した痕跡が残る。内外面ともに比較的粗目の貝殻条痕が施されている。胎土に白色及び茶色の砂粒を含む。



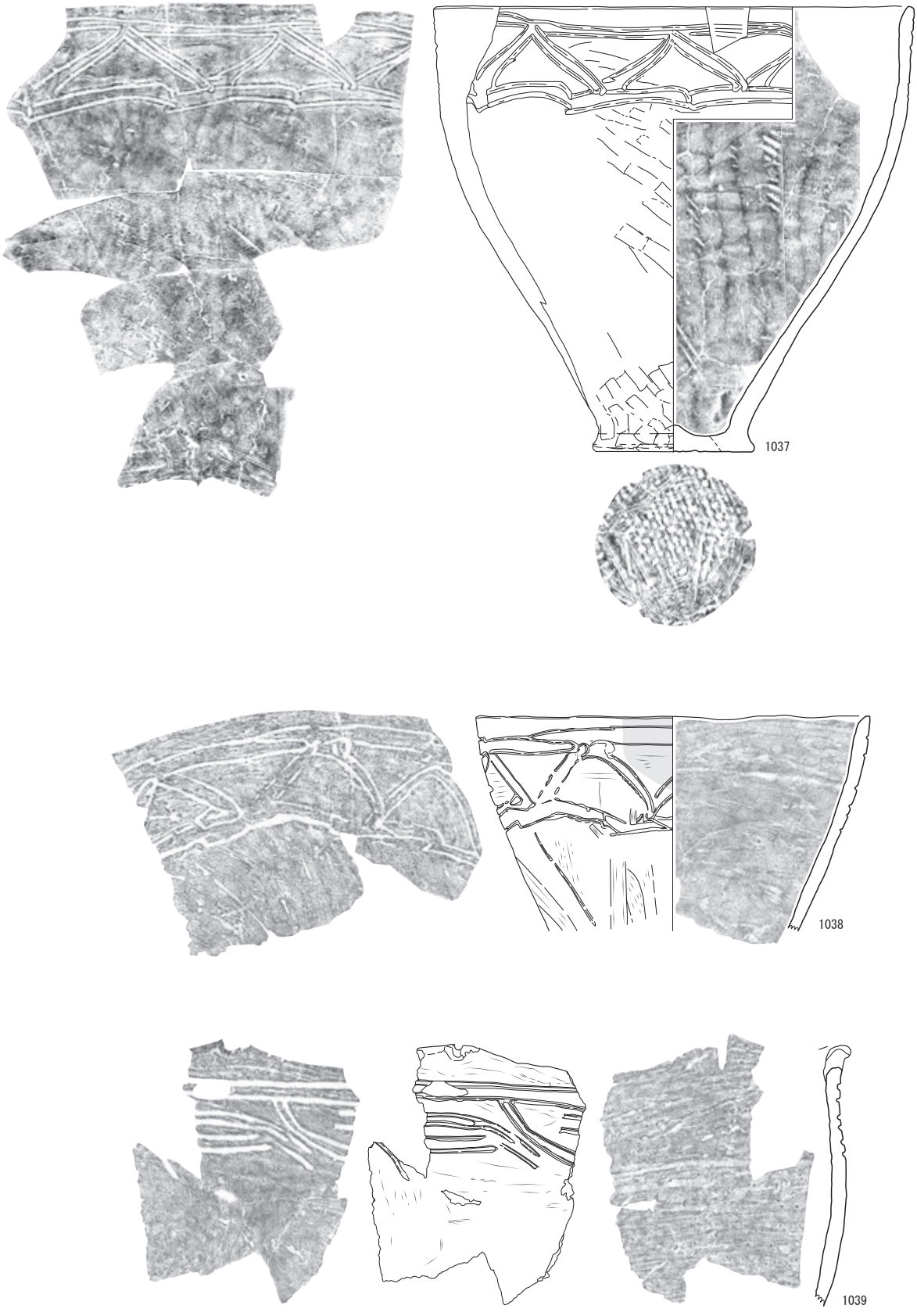
第2-10図　遺物集中６（１）



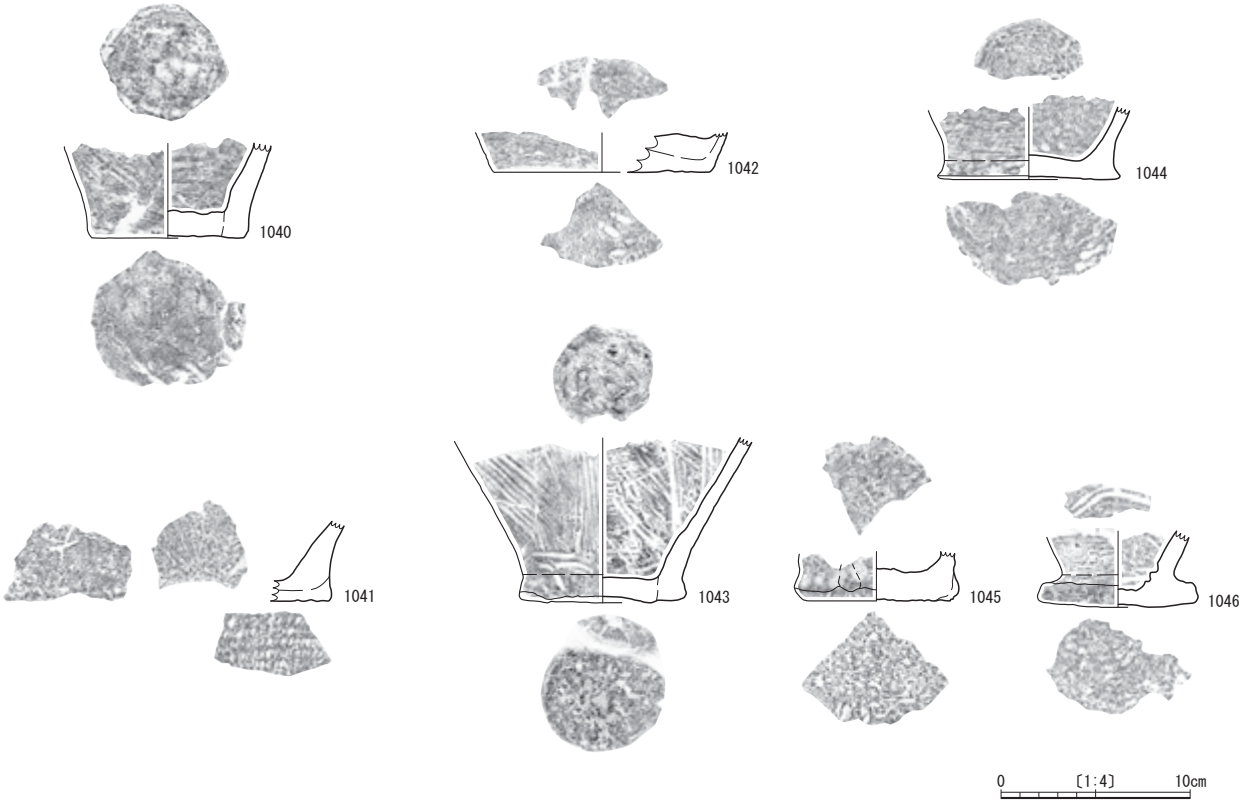
第2-11図　遺物集中６（２）



第2-12図　遺物集中６（３）



第2-13図　遺物集中６（４）



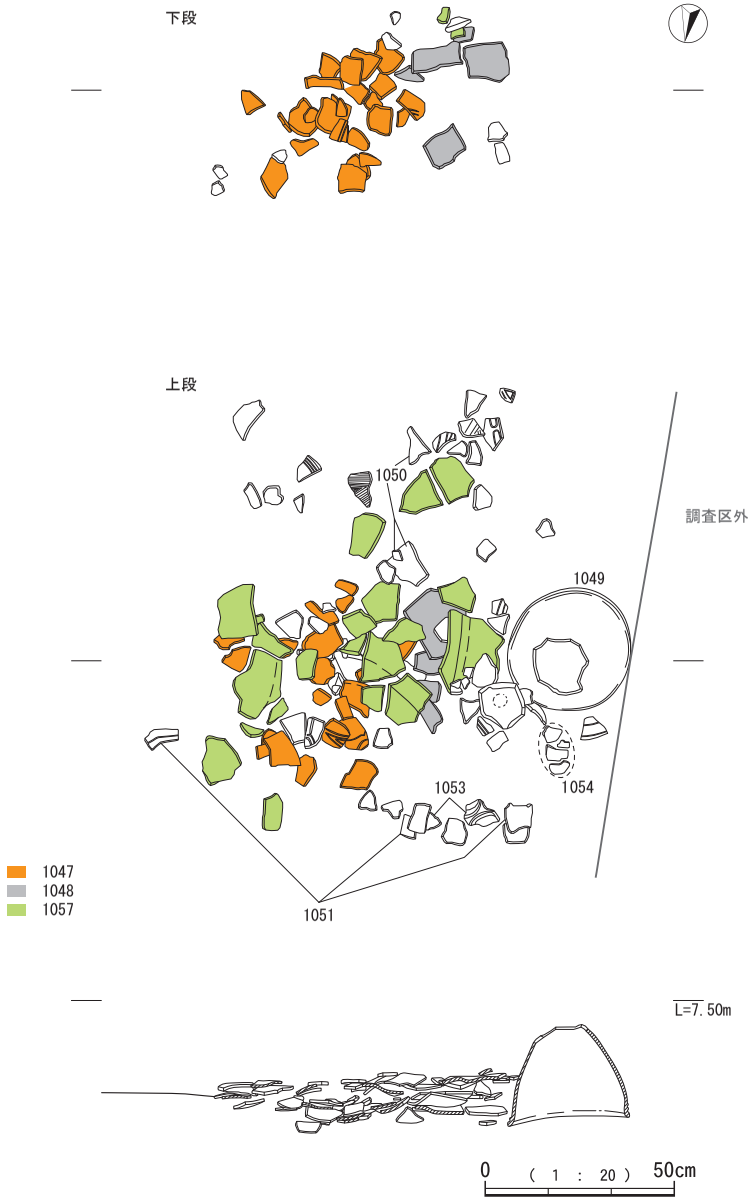
第2-13図 遺物集中６（４）

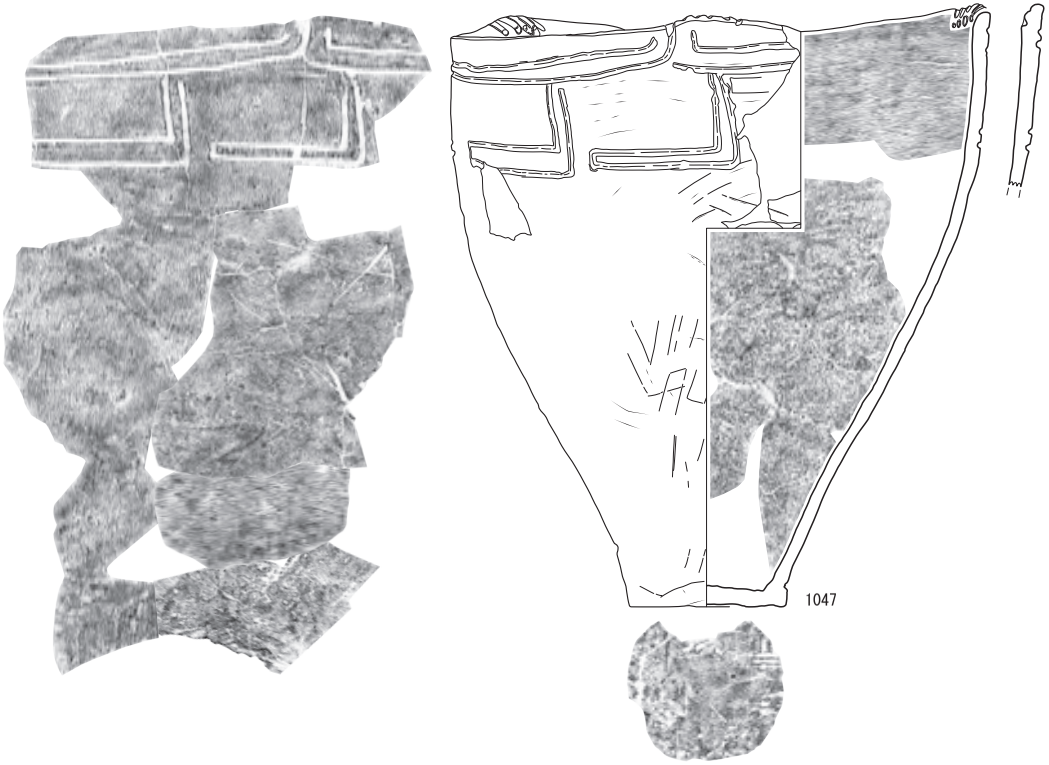
長さ約60cmの範囲に広がる土器片14点が接合したものである。1044は，復元底径9.6cmを測る底部片である。平底を基本とするが，底面中央部が約0.2cm程度上げ底気味になっている。底面には網代の痕跡が若干残るが，丁寧なナデ仕上げを行っている。部分的には光沢もある。立ち上がり部分に若干のくびれ部が見られる。胴部外面には横方向の丁寧な貝殻条痕が施されたのち，一部はナデ調整で光沢が生じている部分もある。内面には丁寧なナデ調整が見られる。別個体ではあるが，胎土や色調において，また底面の白色粒子付着，胎土に白色及び茶色（特に多い）の砂粒を含むという点も含め，1040と類似した特徴をもつ。1045は，復元底径8.6cmを測る平底の底部片である。若干残る胴部への立ち上がり部分には，微妙にくびれ部らしい抉りが見られる。ただし，底端部直上には指押さえ的な凹凸が見られることから，外形ラインについての詳細は不明である。底面には若干網代圧痕が残る。内面は後世の鉄分付着が激しく，器面の詳細は観察不能である。1046は，復元底径8.5cmを測る底部片である。底面中央部と外縁部が0.2cm程度上がっており，底部としてはやや安定感に欠ける仕上げとなっている。底部から胴部への立ち上がり部分に，入り込み１cm程度の大きなくびれ部が存在することが特徴的である。底面には若干網代痕が残り，白色粒子が付着している点は，1040や1044と類似した特徴である。胴部外面には横位の丁寧な貝殻条痕と若干のケズリ痕が見られる。内面も横位の貝殻条痕とケズリ痕が見られるが，底部と胴部に境界線に残る貝殻条痕はかなり深いことから，施文具である二枚貝の腹縁部の肋がどのような状態であったかを示すヒントを与えてくれる事例と言えよう。

遺物集中７（第2-15～17図1047～1058）

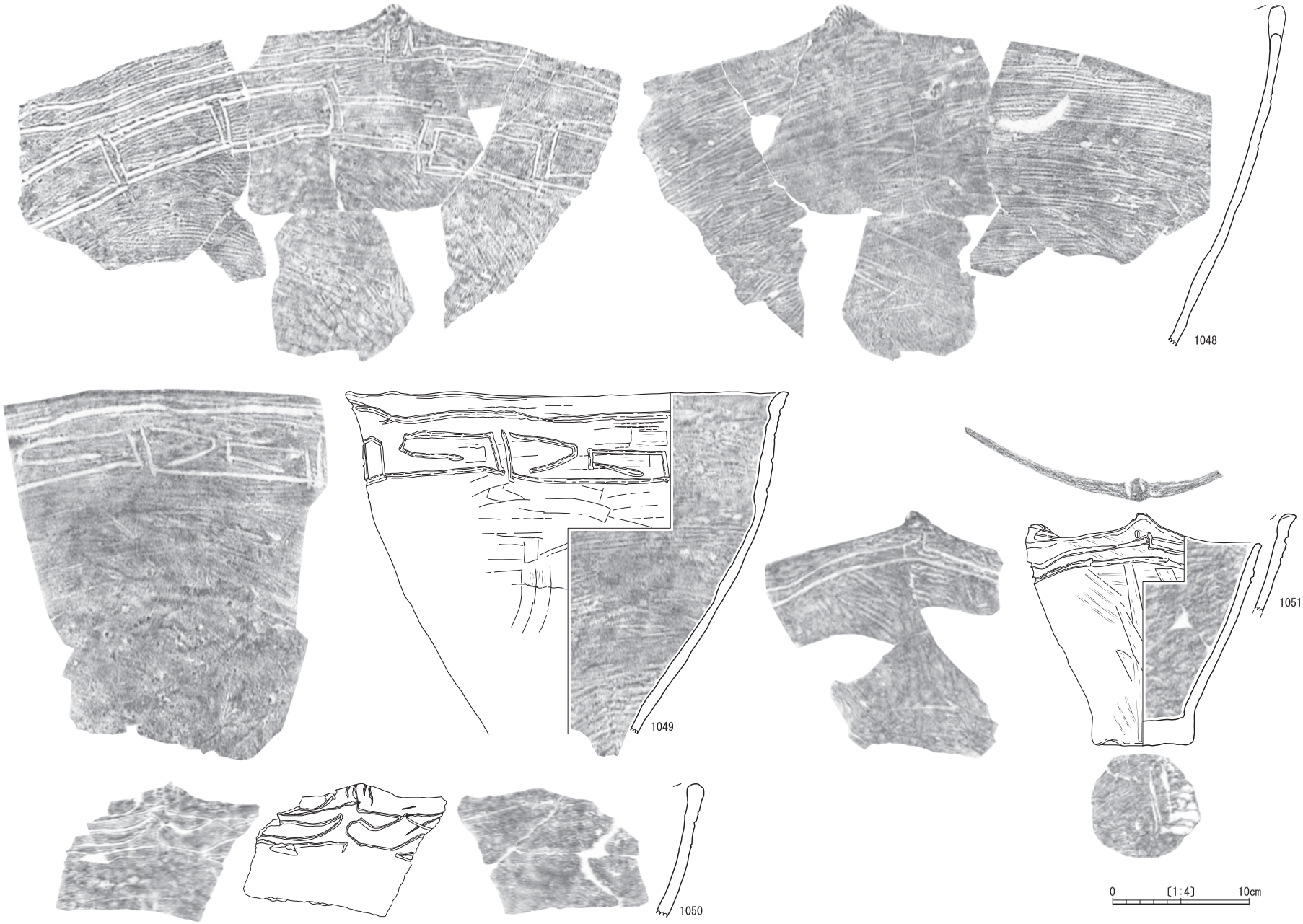
遺物集中７は，Ｅ－18区の西壁近くのⅢ層上面でまとまって出土した箇所である。

1047～1053は，深鉢である。1047は，復元口径28.5cm，底径8.2cm，残存器高31.8cmを測る深鉢の完形品である。３か所の波頂部をもち，底部から口縁部へ，バケツ状に立ち上がる器形を有する。口縁部はほぼ直口である。口唇部の断面形は舌状を呈し無文を基本とするが，波頂部には片方の端部に凹点のある５本の短沈線が刻み目状に施されている。底面中央0.2cmほど上げ底気味になっている。中央部分を中心に丁寧なケズリ痕や光沢が見られるが，網代の痕跡も部分的に残っている。口縁部下に口縁部と平行する幅0.3cmほどの２本の沈線が施され，その下位に左向き長靴様の靴形文が施されている。内外面ともに貝殻条痕の後，内面がナデ，外面がケズリの丁寧な器面調整が見られ，器形・文様共に端正でバランスの取れた深鉢である。胎土に白色砂粒を多く含む。約50cmの範囲にまとまって出土した。1048は，口縁部から胴部までの比較的大きめの深鉢片である。口縁部下に口縁部と平

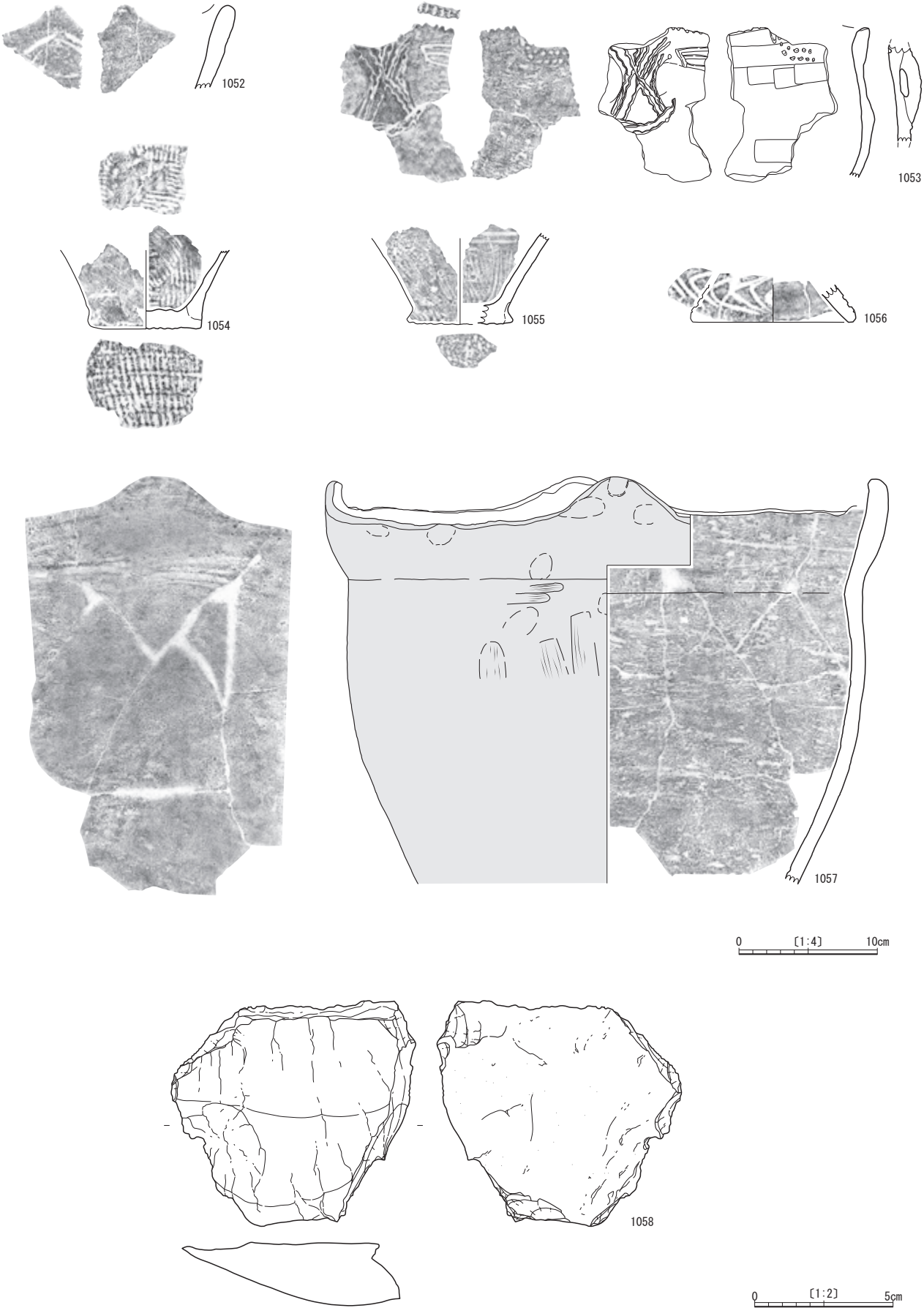




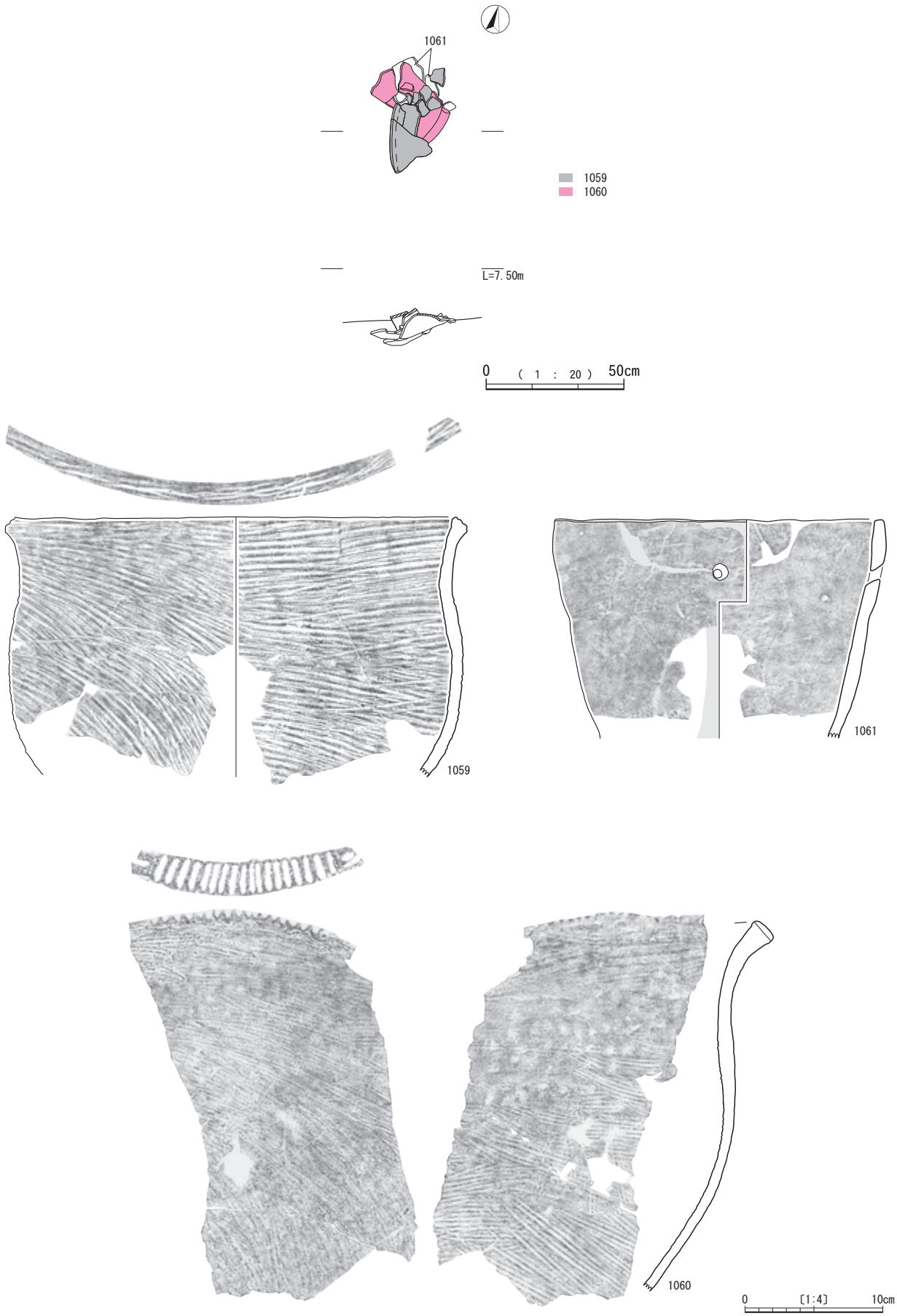
第2-15図 遺物集中７（１）



第2-16図　遺物集中７（２）



第2-17図　遺物集中７（３）



第2-18図　遺物集中８

行する２本の沈線（幅0.2～0.3㎝ほど）が施され，その下位に「回」字状の連続文が横位に展開するもので，残存部からの想定では，上面観がやや楕円形状を呈している可能性も考えられる。１か所の波頂部しか確認できないが，全体では３か所の可能性が高い。波頂部には複数の細線による刻み目が密に施されている。胴部下半から開きながら立ち上がる器形を有する。口縁部は，若干内湾気味である。内外面に貝殻条痕による器面調整の後，ケズリによる仕上げを行った痕跡が残り，胎土に茶色の砂粒を多く含む。約40㎝四方の範囲にまとまって出土した。1049は，口径32.4㎝，残存器高25.1㎝の深鉢である。底部は欠損するが，完形の状態に近く，意図的に伏せて置いたような状態で出土した。口縁部が若干外傾するバケツ状の器形を呈している。口縁端部は若干肥厚し，わずかに外反する口唇部の断面形は舌状である。口縁部下に口縁部と平行する幅0.3～0.4㎝ほどの１本の沈線が施され，その下位に天地逆の靴形文的沈線文が横位に展開するものである。内外面ともに貝殻条痕の後，ナデ調整の痕跡が見られるが，内面には粘土の接合痕も明瞭に残り，凹凸も多い。なお，本遺物は，放射性炭素年代測定を実施した。1050はやや外側へ開き，波頂部１か所を含む口縁部片である。バケツ状の深鉢と考えられる。口縁部下に0.2㎝弱の浅くて細い沈線により，靴形文を意識したと考えられる文様帯として横方向に展開している。やや肥厚させた波頂部には，４本の短沈線が施されている。内外面ともに丁寧なナデ調整が施されている。1051は，復元口径17.3㎝，底径7.5㎝，器高17.0㎝を測る小形深鉢の完形品である。３か所と考えられる波頂部の２か所が残存していた。波頂部には２本の短沈線による刻みが施されている。口唇部断面形はやや丸みを帯びている。口縁部は，底部からバケツ状に立ち上がり外傾する。胴部から口縁部にかけての器厚は0.6～0.7㎝ほどであるが，底部は２㎝弱と厚い。底部外面には丁寧なケズリ痕が見られるが，原体不明の沈（凹）線状圧痕が残る。白色及び茶色の砂粒を含む。口縁部下に口縁部と平行する２本の沈線（幅0.3㎝ほど：一部短沈線の組み合わせ）文が施されている。内外面共に丁寧なケズリ調整が見られるが，外面の一部には貝殻条痕が残る。1052は，波頂部を含む口縁部片である。口縁部下に１ないし２本の細沈線が見られるが，破片が小さいため文様の展開は不明である。若干肥厚する波頂部に文様は見られない。口唇部断面形はやや丸みを帯びる。1053は，口縁部下に縦長に貼付された把手を有する口縁部片である。口縁部下約６～７㎝の胴部に最大径があり，口縁部は一度内傾したのち，若干外傾しながら立ち上がる。把手のある口縁部内面には，竹串状の鋭利な工具による連続刺突文が施されている。断面がやや蒲鉾状になる口唇部には連続して刻みを施している。口縁部下に口縁部と平行する３本の沈線がみられ，把手には貝殻腹縁部による２列を１単位とする刺突文により「X」字状文様を施している。

1054・1055は，深鉢の底部である。1054は，復元底径8.2㎝を測る。胴部外面にはケズリや指押さえ等の調整痕が残る。底部から胴部へと立ち上がる内面には，貝殻腹縁部による調整痕が明瞭に残る。底部内面には指押さえ痕が見られる。底部外面には，明瞭な網代の痕跡が残る。底面の厚さは約1.3㎝であるが，残存する胴部の器厚は0.4～0.5㎝と薄手である。1055は，復元底径7.7㎝を測る。底部からくびれ部を経て胴部へと立ち上がる器形を有する。内外面ともに貝殻条痕やケズリによる調整痕が残る。全体的に粗い整形である。底面は全体の５分の１ほどしか残存しないが，網代の痕跡が残る。

1056は，台付皿の脚台と考えられるものである。接地面は平坦である。脚裾部に「く」の字状の沈線を連続して横位に施した文様をもつ。器表面の一部に白色土が微妙に残る部分が見られる。内外面共に丁寧なナデ仕上げを行っている。

1057は，長軸110㎝，短軸70㎝の広がりから出土した無文の深鉢である。口径39.7㎝を測る。胴部下半から底部を欠いている。残存器高は29.5㎝である。口縁部は４か所の突起状頂部をもち，いずれも若干内湾しているが，全体的にはやや外へ開く口縁部をもつ。また，口縁部には５～６㎝の幅で無文の肥厚帯が作られ，アクセントとなっている。口縁部肥厚帯下位はややくびれが入る。口唇部は幅１㎝ほどのやや丸味を帯びた平坦面を有する。胎土に0.2～0.5㎜程度の白色及び茶色の砂粒を多く含む。外面はナデ，内面はケズリによる調整痕が残る。胎土が粗く全体的に器面にザラザラ感があるが，整形は丁寧で安定したフォームを有する。1047や1048の深鉢よりもわずかに上位で出土した。

1058は，灰白色を呈する粘板岩質のホルンフェルスである。亜円礫から節理に沿って剥出されたやや厚みのある剥片である。上辺及び右側辺・下辺はいずれも折れ面となっているが，意図的に切断されたものか偶発的に生じた折れか不明である。明瞭な使用痕は見られない。

遺物集中８（第2-18図1059～1061）

遺物集中８は，Ｃ－16区のⅢ層中から深鉢３個体が出土した箇所である。

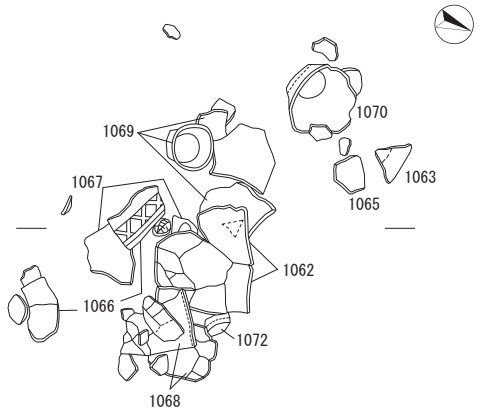
1059は，復元口径32㎝を測る深鉢である。残存器高が18.8㎝である。若干くびれる頸部をもちながらやや胴部が張り，口縁部が外反する。１～1.2㎝の幅を有する口唇部はフラットな部分もあるが，若干膨らみをもつ平縁口縁である。器面の内外そして口唇部も含め，横位ないし斜位の極めて明瞭な貝殻条痕を地文とし，あたかも文様効果を意識して丁寧に仕上げている感もある。1060は口径の復元までには至らなかったが，残存部の形状から，1059と同様に口径30㎝は下らない大きさの深鉢と考

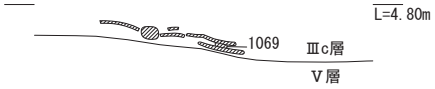
えられる大片である。器形も1059と同様に，若干くびれる頸部をもちながらやや胴部が張り，口縁部が外反する。山形口縁部分の頂部を中心とする口唇部には連続する短沈線状の刻みが施され，その外側（平縁部分）に沈線と貝殻腹縁部による刺突文の組合せが見られる。しかし残存部が少なく，詳細は不明である。内外面ともに貝殻条痕による器面調整が残るが，口縁部内面には指頭圧痕やナデ調整痕が見られる。また，胴部外面下半には，斜め上方向のケズリ痕が見られる。外面の口縁部下や胴部下半にススの付着が見られる。なお，本遺物は，放射性炭素年代測定を実施した。1061は，復元口径23.8cm，残存器高15.7cmを測る深鉢である。胴部から口縁部へかけてバケツ状に開く器形を有し，無文である。口縁部の下約4.5cmの位置に円形の補修孔が確認できる。内外面ともに丁寧なナデ調整が施されている。

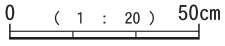
遺物集中９（第2-19～21図1062～1072）

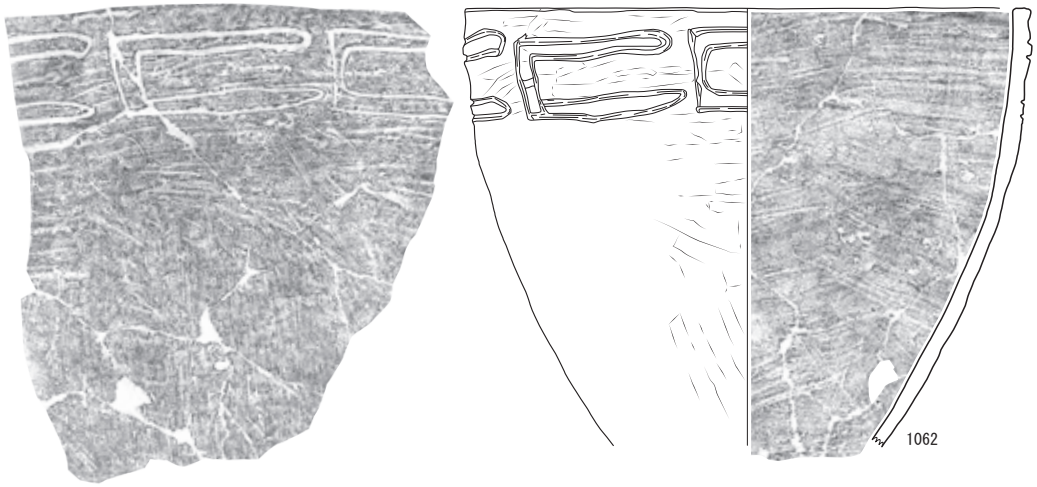
遺物集中９は，Ｄ－12区のⅢｃ層下部から土器がまとまって出土した箇所である。

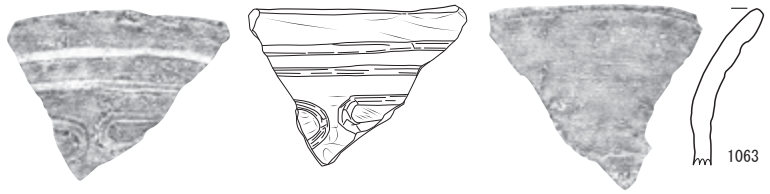
1062は，復元口径29.8cm，残存器高23.2cmを測る深鉢である。口縁部下に２本の平行沈線（幅0.3cmほど）による逆「コ」の字状の文様を横位に連続して施す土器である。口縁部はほぼ直口して立ち上がり，バケツ状の器形を有する。口唇部の断面形は，ほぼ平坦で無文である。内外面ともに貝殻条痕の地文を若干残しながらも，外面は主として縦方向，内面は横方向のケズリ調整が見られる。胎土に白色砂粒を多く含む。1063は，やや外反する深鉢の口縁部片である。口縁部下に幅0.5cmと比較的太めの沈線を２段施し，さらにその下位に靴形文的な文様を展開させているものである。破片のため文様の全容は不明である。口唇部は舌状を呈し無文である。内外面ともに丁寧なナデ調整を行っている。1064は，復元口径27.4cm，残存器高12.2cmを測る。口縁部が若干外傾するが，全体的にはバケツ状の器形を有するものと考えられる。口縁部下約６cmにごく緩い屈曲部が見られる。この屈曲部より上位には幅0.2～0.3cmの沈線で，逆「Ｓ」字状の曲線を一単位とする文様を横位に展開させ，文様帯を形成している。また，内面の口縁部下約２cm部分には稜線があり，これを境に口唇部はやや肥厚させて仕上げている。口唇部は基本的に無文であるが，口縁部の一部には突起部があり，貝殻腹縁部による刺突文が見られる。多くは欠損しており，頂部の全容は不明である。内外面ともにナデ及びケズリによる調整痕が残る。1065はやや外傾する口縁部で，口唇部は舌状を呈し無文である。口縁部下に２本の平行沈線を約６cmの間隔を置いて２段施し，その間に同じく２本の平行沈線で菱形状の文様を描いている。外面は貝殻条痕が一部に残るが，おおむね丁寧なナデ調整を行っている。また，内面には明瞭な貝殻条痕が残るが，口縁部下の約３cmはナデ調整により仕上げている。1066は若干内傾する口縁部を有し，基本的にはバケツ状を呈する器形となると考えられる深鉢である。比較的フラットな無文の口唇部をもつ。口縁部下に２本の平行沈線を約３cmの間隔を置いて２段施し，その間に同じく２本の平行沈線で「Ｘ」字状の文様を横方向に連続して描いている。内外面ともにナデ調整により仕上げているが，外面には貝殻条痕が若干残る部分がある。1067は，若干内湾する口縁部を有する比較的小型の深鉢である。口唇部は舌状を呈し無文である。口縁部下に幅0.1～0.2cmの細沈線による２本の平行直線及び曲線で渦巻文をモチーフとした文様を展開させたものである。文様自体は線が途切れたり，幅が一定でなかったりして安定感に欠ける。内外面ともに貝殻条痕が見られ，特に内面には明瞭に残る。外面はナデ及びケズリによる器面調整を行っているが，全体的に粗い仕上げとなっている。1068は，復元口径25.2cm，残存器高21.4cmを測る深鉢である。内湾する口縁部先端は，口唇部の外面端部に粘土を加えることにより肥厚口縁となっている。口唇部は，フラットな部分と加えられた粘土との境界が沈線状に凹んでいる部分が見られる。胴部文様は全く見られず，いわゆる無文土器の範疇である。内外面ともに丁寧なナデ調整が見られるが，いずれも若干ではあるが器表の剥落が観察される部分もある。胎土に白色の砂粒を含む。なお，本遺物は，放射性炭素年代測定を実施した。1069は，復元口径23.8cm，底径8.4cm，器高20.1cmを測る深鉢である。口縁部は波状を呈するが，頂部の数については整形が不安定なこともあり不明である。口唇部は舌状を呈し無文である。胴部文様は見られず，1068と同様にいわゆる無文土器である。内外面ともに貝殻条痕やケズリ痕，指頭圧痕やナデ調整痕など，様々な調整痕が観察されるが，全体的には不安定な整形・仕上げで凹凸感が残り，輪積整形の痕跡が数か所で観察される。胎土に白色の粒子を含む。底面の形状はフラットを基本とするが，接地面と考えられる底面外縁の幅0.5～0.8cmを除き，若干上げ底気味となりケズリ痕が残る。1070は，深鉢の胴部下半から底部の大片である。底径は11.6cmで残存器高は13.9cmを測る。底部から胴部への立ち上がり部分に若干くびれが見られる。外部底面は外縁の一部が若干浮きあがり，やや安定感に欠ける。もじり網の中心部を利用した痕跡が見られるが，全体的に丁寧なケズリ調整を行い面を整えてることにより光沢が見られる部分もある。底面全体に白色の粒子が付着している。胴部の内外面も貝殻条痕を残しながら，全体的に丁寧なケズリ調整痕が見られる。底部内面は，特にナデ調整を加えることで平滑な仕上げとなっている。1071は，復元底径11.0cmを測る底部である。底部から胴部への立ち上がり部分に若干くびれが見られる。残存部のみの観察ではあるが，内外面ともに比較的粗いナデ調整痕が見られる。胎土に

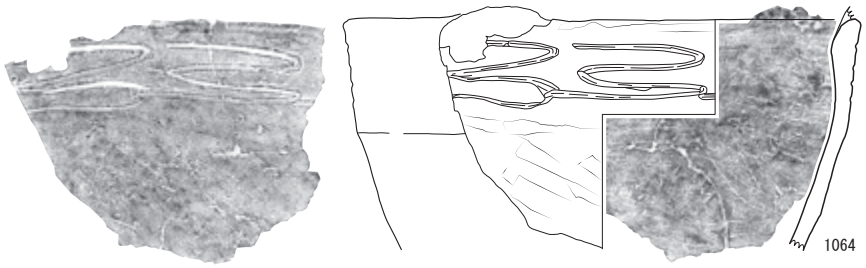


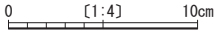




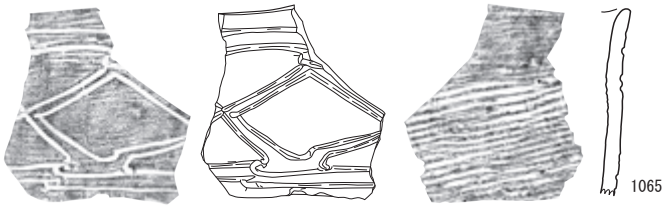


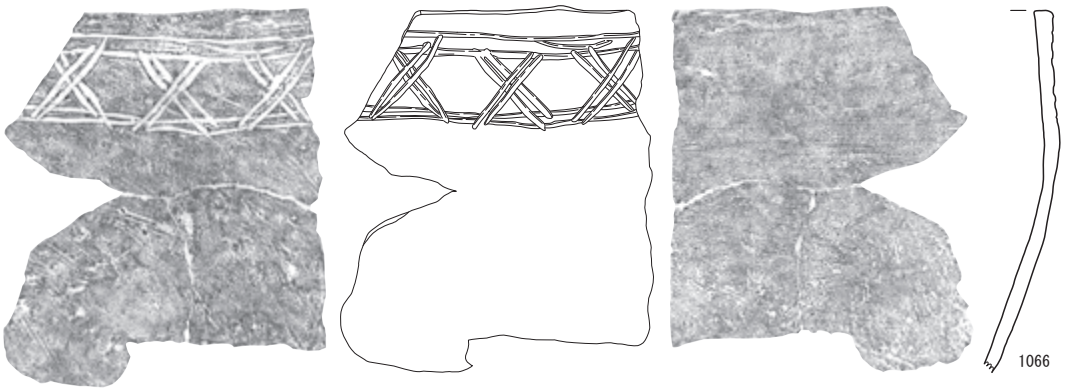




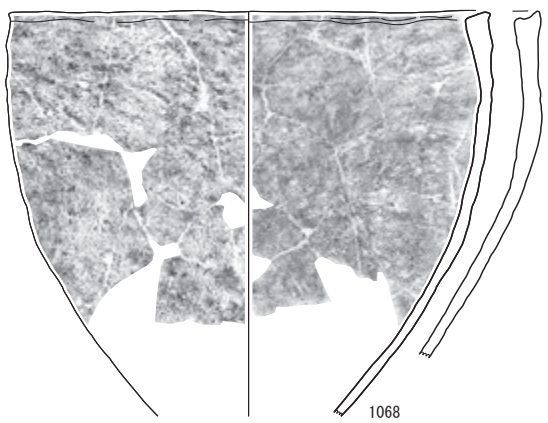


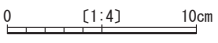
第2-19図　遺物集中９（１）



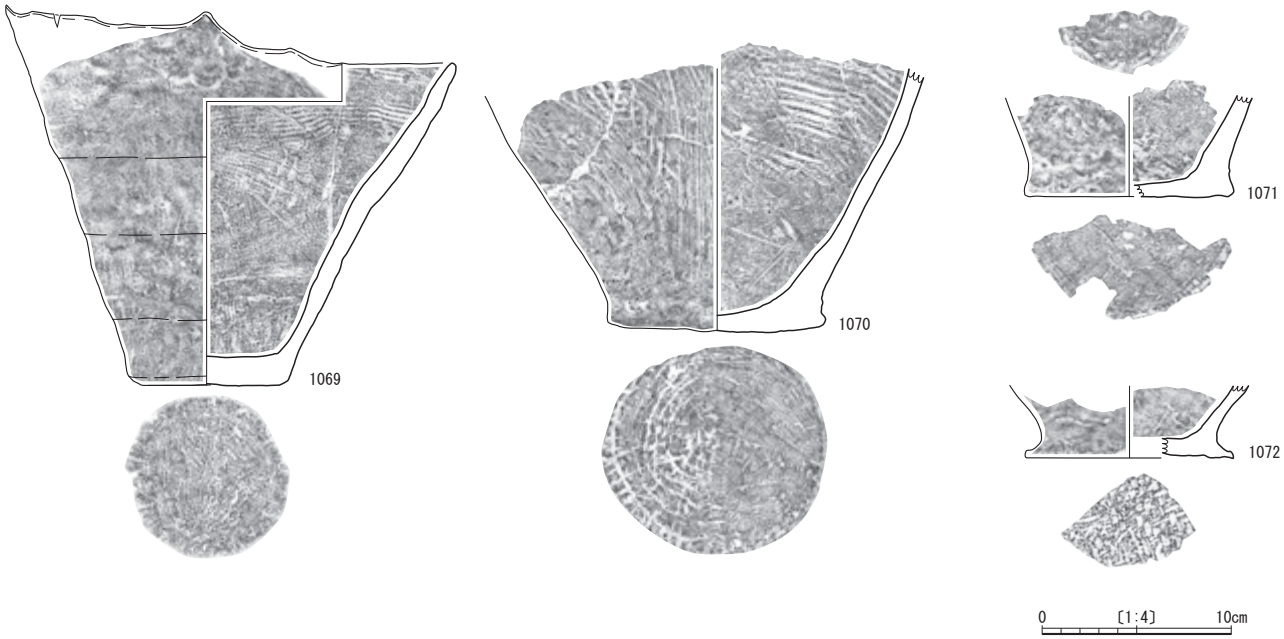








第2-20図　遺物集中９（２）



第2-21図　遺物集中９（３）

白色砂粒を含む。安定した接地面を有する底面には網代痕がわずかに残るが，ケズリ調整による丁寧な仕上げを行うことにより光沢が見られる。底面の一部に白色粒子が付着している。1072は，復元底径11cmを測る底部である。底部から胴部への立ち上がり部に大きなくびれを有する土器である。内外面ともに丁寧なナデ仕上げを行っている。底面には網代痕が明瞭に残る。

遺物集中10（第2-22図1073～1075）

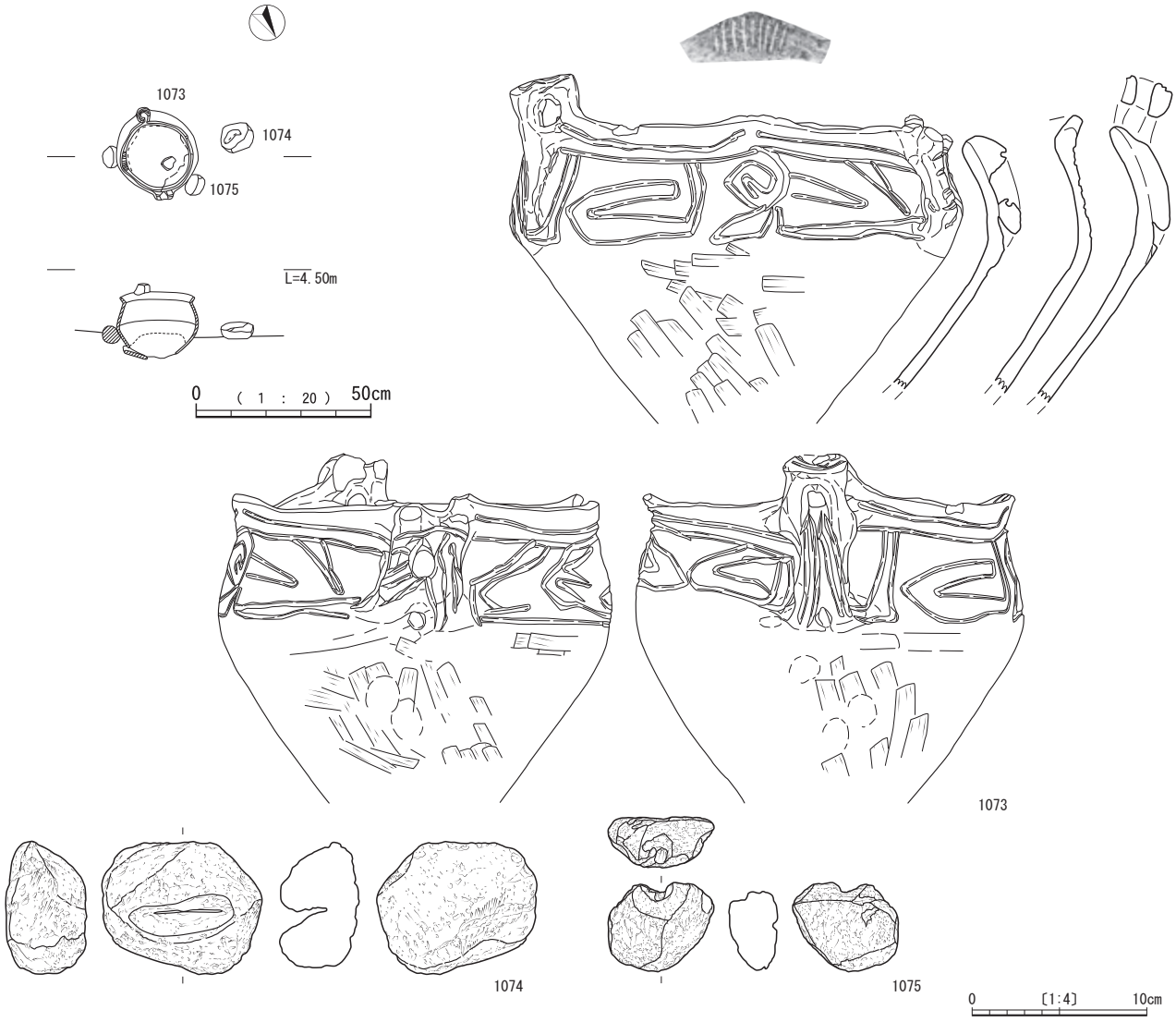
遺物集中10は，Ｄ－12区のⅢｂ層中から深鉢と２点の軽石加工品がまとまって出土した箇所である。

1073は底部を欠きながらも口縁部から胴部下半まで良好に残る深鉢で，ほぼ正位の状態で出土した。平縁口縁が基本形であるが，若干山形となる２か所の頂部と把手を形成する２か所の突起部をもつ。頂部と突起部はそれぞれ対になっている。平縁部分の復元口径は21.4cmを測る。底部から大きく開きながら立ち上がり，胴部上半部に最大径（22.2cm）をもち，内傾しながら口縁部へと立ち上がり，外反する口縁端部へと続く。口唇部は舌状の断面形を基本とし，無文である。口縁端部が外反することから，口唇部から約２cmの内面に屈曲による稜線が残る。前述した２か所の頂部と突起部のうち，頂部の１か所と突起部の１か所は欠損した状態で出土した。また，突起部の残り１か所についても一部欠損した状態であった。頂部は0.7cmほどの山形部を設けたもので，内面に長さ1.5～２cm，幅0.1cm程度の９本の短細沈線が縦位に連続して施されている。突起部は胴部最大径部分から口唇部を結ぶ把手状の貼付文部とその上位に位置し，口唇部（付近）から立ち上がる４つの脚がリング状の頂部を支える突出部の２段階の構成からなっている。把手状貼付文には縦あるいは横位の沈線（幅0.2cm程度）が施されている。文様は胴部最大径部より上位，口唇部までの幅７cmを文様帯とし，幅0.2cm程度の沈線文で構成されている。基本は２本の平行直線（一部曲線）とし，渦巻文や靴形文をモチーフとした文様が展開されている。頂部の下には渦巻文を配しているが，施文自体は全体的に粗く，整然さには欠けている。内外面ともにケズリ及びナデ調整による仕上げが施されている。胎土に白色砂粒を多く含む。

1074と1075は，軽石加工品である。いずれも1073の深鉢に添うような形で出土した。1074は，最大長9.2cm，最大幅7.2cm，最大厚4.65cmを測る軽石加工品である。平面形は，隅丸長方形状を呈する。長軸中央部に長さ６cm，幅２cm程度の溝状の彫り込みが見られる。溝の深さは最大2.5cm，最深部が幅２mm で，「Ｖ」字状の断面形を呈する。裏面及び長軸側の２面には，加工痕と考えられる平坦面が見られる。1075は，最大長6.05cm，最大幅5.14cm，最大厚2.75cmを測る。一部に加工痕と考えられる半欠の孔状抉りが見られる。同じく加工痕の可能性のある平坦面も複数あることから，軽石加工品とした。この２点の軽石加工品と1073の深鉢との関係性については明らかでない。

５　集積遺構（第2-23図1076～1079）

直径23cm，深さ５cmの浅いピット内から，４点の剥片がまとまって出土したもので，ここでは集積遺構として



第2-22図　遺物集中10

報告する。

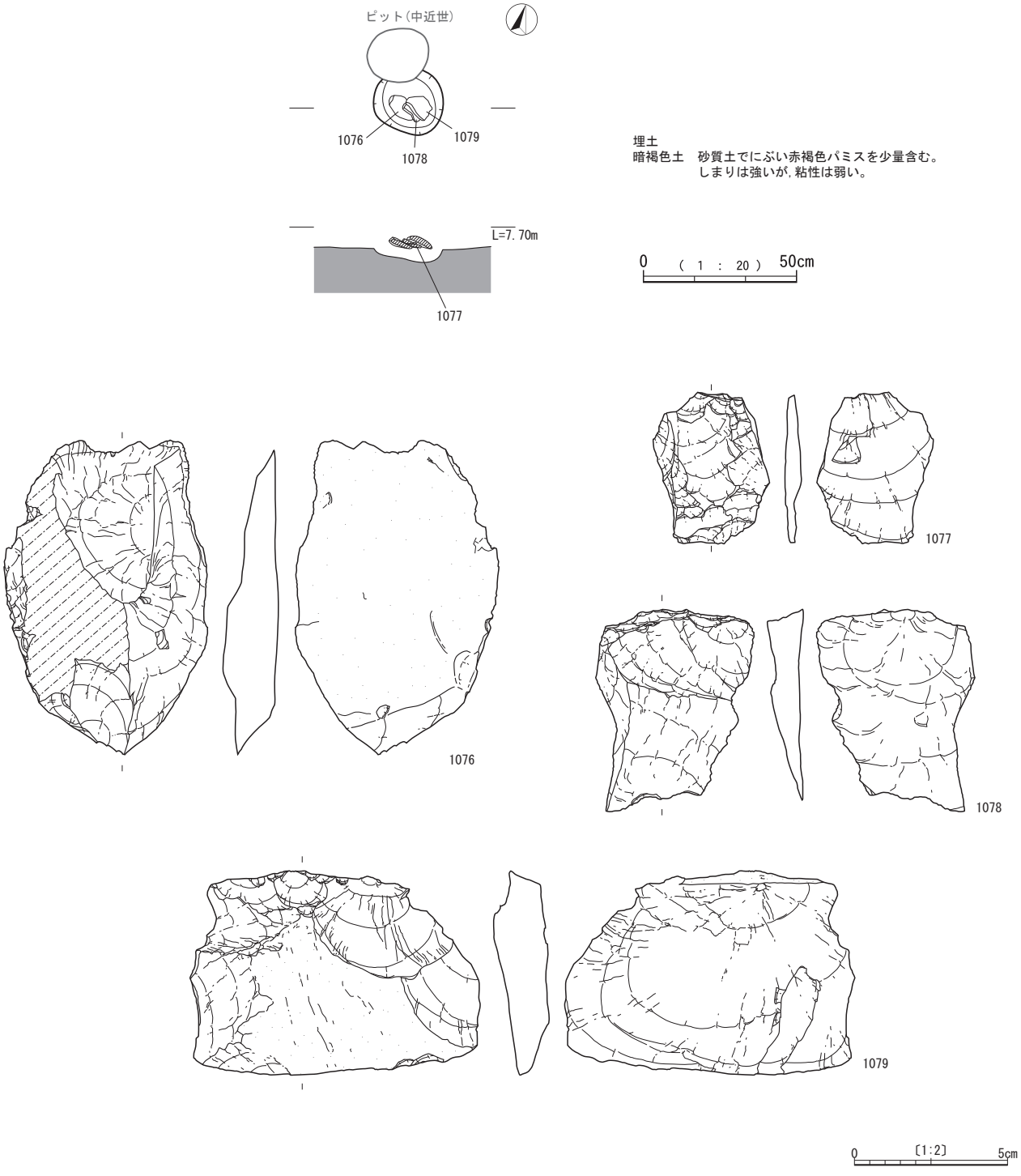
1076は，黒色を呈する頁岩系の質のよいホルンフェルスの剥片である。背面は自然面で，亜円礫の礫面を打面として剥出されたやや厚みのある剥片に，先行する剥離面上から加撃し半月形の厚みのある剥片を得ている。下縁部分に荒い剥離がやや不規則に加えられており，削器に類する使用が行われた可能性がある。縁辺にはやや摩耗が生じているようにも見えるが，明確な判断はできなかった。1077は，灰色の粘板岩質のホルンフェルスの剥片である。薄手の不定形な剥片を素材とし，右側辺には折れが生じているが，意図的に折り取られた可能性もある。剥片の末端辺にあたる下縁はフェザーエンドを呈するが，左半分には折れが生じている。石質及び背面側を中心に鉄分が付着することから詳細な使用の痕跡は不明である。1078は灰色を呈するホルンフェルスで，特徴的な灰白色の網目状の縞が発達する。先行する剥離面を打面として剥出されたやや縦長の剥片で，下辺及び右側辺は鋭利な縁辺となっており，折れや微細な剥離がみられる。しかし，摩耗はなく，使用によるものか偶発的なものかは不明である。1079は，砂岩質の白灰色を呈するホルンフェルスである。背面には右辺側からの節理面部分を含む大きな剥離面に上辺を打点とする剥離が加えられている。主要剥離はこれと同一打面からの剥離で，幅広のやや厚みのある剥片が剥出されている。左右側辺は鋭利な側辺を呈するが，末端辺はヒンジフラクチャーを呈し，やや丸味を帯びる。明瞭な加工痕・使用痕は認められない。

６　特殊遺構：大型軽石加工品（第2-24図1080）

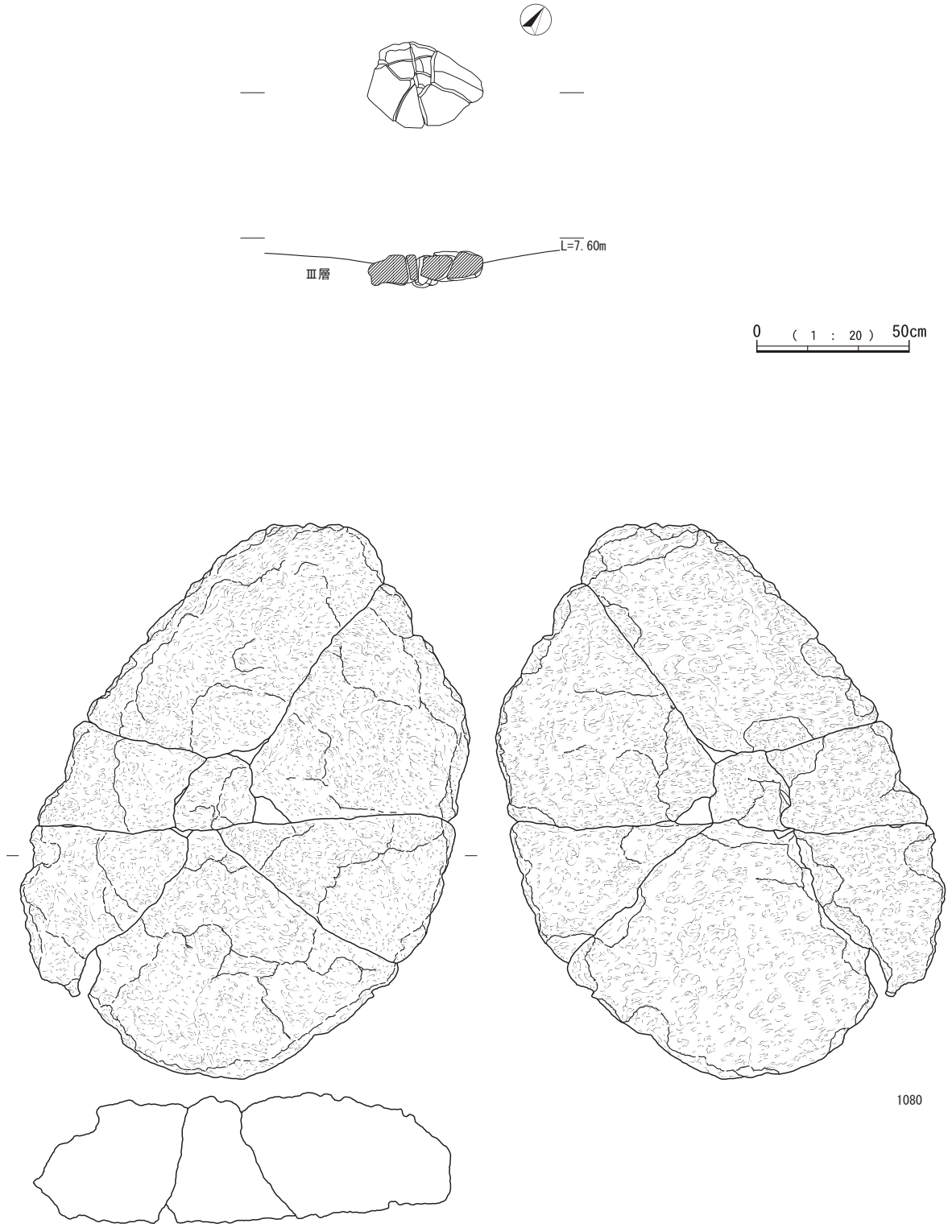
Ｄ－20区のⅢ層上面で出土した大型の軽石加工品である。単なる加工品であれば，通常通りの遺物としてのみ

の取り扱いであるが，大型であることや大きく６分割されていること，そして軽石が現地で細工された行為であることを否定できない状況であることもあり，ここでは「特殊遺構」として取り上げた。

1080は最大長36.6㎝，最大幅29.5㎝，最大厚8.6㎝を測り，重量は1,385ｇである。やや窪んだ中央部のブロックを中心として，放射状に６分割計７つのブロックからなっている。分割面と底面のみに比較的多く鉄分が付着している。分割面は鉈かナイフでカットしたケーキのように直線的なブロックもある。性格・用途については不明である。



第2-23図　集積遺構及び出土遺物



第2-24図　特殊遺構：大型軽石加工品

第2-1表　縄文時代後期遺構内出土遺物観察表（土器・土製品）（1）

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	器種	部位	時代	型式	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面	内面		外面	内面		長石	石英	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	雲母	小礫	その他	
2-3	1001	土坑31号	D-21	深鉢	完形	後期	松山式	15.5	7.0	20.0	条痕	条痕	刺突	灰黄褐	にぶい黄褐	良好	○	○					○			
	1002	土坑31号	D-21	深鉢	完形	後期	松山式	18.2	9.4	18.2	ナデ	ナデ	刺突	にぶい赤褐	黒褐	良好	◎	○	○							
2-4	1003	土坑33号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	−	−	−	条痕, ナデ	条痕, ナデ	沈線	灰褐	にぶい褐	良好	○	△			○					
	1004	土坑33号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	黒褐	明赤褐	良好	◎	○	△			○				
	1005	土坑33号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線	橙	にぶい褐	良好	○	○	○	○						
	1006	土坑33号	E-18	深鉢	底部	後期	−	−	11.6	(4.3)	条痕, ナデ	条痕, ナデ	−	にぶい赤褐	褐灰	良好	○	△		○						
	1007	土坑33号	E-18	深鉢	底部	後期	−	−	5.0	(1.9)	ナデ	ナデ	−	褐	褐	良好	○	△	◎	○						
	1008	土坑33号	E-18	円盤形土製品	底部	後期	−	5.5	4.0	1.0	打ち欠き ナデ	打ち欠き ナデ	−	橙	橙	良好	△	△	○	◎						
	1009	埋設土器	C-21	深鉢	胴～底部	後期	−	−	11.5	(7.7)	丁寧なナデ	丁寧なナデ	−	明赤褐	にぶい橙	やや不良	△	◎	◎	○						
2-7	1010	遺物集中1号	E-23 E-24	深鉢	□～胴部	後期	松山式	19.2	−	(18.6)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	−	明赤褐	橙	不良	◎	○		○						
	1011	遺物集中2号	D-20	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	27.2	−	(18.2)	丁寧なナデ	丁寧なナデ	沈線, 刺突	褐	黒褐	良好	◎	○	△							
	1012	遺物集中3号	D-20	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	18.4	−	(6.5)	丁寧なナデ	丁寧なナデ	−	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○	△	○						
	1013	遺物集中3号	D-20	深鉢	□縁部	後期	指宿式	−	−	−	指頭圧痕, 条痕	条痕	沈線	浅黄橙	にぶい黄橙	普通	○	○	△							
2-8	1014	遺物集中4号	E-19	円盤形土製品	胴部	後期	−	7.3	6.6	0.9	丁寧なナデ 打ち欠き	丁寧なナデ 打ち欠き	−	灰褐	黒褐	普通	○	○					○			
	1015	遺物集中4号	E-19	円盤形土製品	□縁部付近	後期	−	7.3	6.8	1.0	丁寧なナデ 打ち欠き	丁寧なナデ 打ち欠き	沈線	にぶい褐	灰白	良好		○								
	1016	遺物集中4号	E-19	円盤形土製品	□縁部付近	後期	−	4.3	3.8	0.9	条痕, 打ち欠き	条痕→ナデ 打ち欠き	沈線	黒褐	暗灰黄	普通	○	△		△						
	1017	遺物集中4号	E-19	円盤形土製品	胴部	後期	−	4.3	4.0	1.2	条痕→ナデ 打ち欠き	条痕→ナデ 打ち欠き	−	にぶい赤褐	黒褐	普通	○			○						
	1018	遺物集中4号	E-19	円盤形土製品	胴部	後期	−	4.9	4.1	0.9	条痕, 打ち欠き	条痕, ナデ 打ち欠き	−	にぶい褐	褐灰	良好	○	○	△							
	1019	遺物集中4号	E-19	円盤形土製品	胴部	後期	−	6.1	5.1	1.0	丁寧なナデ 打ち欠き	丁寧なナデ 打ち欠き	−	黒褐	黒褐	良好	○	○	△	△						
	1020	遺物集中4号	E-19	円盤形土製品	□縁部	後期	−	6.0	5.8	1.1	条痕→ナデ 打ち欠き	条痕→ナデ 打ち欠き	沈線	暗オリーブ褐	灰白	良好	◎	○		△						
	1021	遺物集中4号	E-19	円盤形土製品	胴部	後期	−	4.7	4.5	0.9	丁寧なナデ 研磨	丁寧なナデ 研磨	−	暗灰黄	灰黄	良好	◎	○		○		○				
	1022	遺物集中4号	E-19	深鉢	□縁部	後期	指宿式	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄褐	にぶい黄橙	普通	○	○		△						
2-9	1023	遺物集中5号	D-19	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	30.8	−	(25.5)	条痕, ナデ	条痕, ナデ	沈線	暗褐	にぶい赤褐	良好		◎						◎		
	1024	遺物集中5号	D-20	鉢	□縁部	後期	指宿式	22.2	−	(4.6)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	橙	良好	○	○		○		○		○		
2-11	1025	遺物集中6号	E-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	28.8	−	(25.7)	丁寧なナデ	丁寧なナデ	沈線	橙	灰褐	良好	○	○	△							ススス
	1026	遺物集中6号	E-18	深鉢	完形	後期	指宿式	36.2	9.0	32.4	ナデ, ケズリ	ナデ	沈線	にぶい褐	灰黄褐	良	◎	○		○						
	1027	遺物集中6号	E-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	25.8	−	(14.4)	条痕, ナデ 指頭圧痕	ナデ	沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○								
	1028	遺物集中6号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	−	−	−	条痕 丁寧なナデ	ケズリ, ナデ	沈線	褐灰	灰黄褐	良好	◎	○	○							
2-12	1029	遺物集中6号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	33.1	−	(8.4)	丁寧なナデ	丁寧なナデ	沈線	褐	にぶい褐	普通	○	◎	◎	○		◎				
	1030	遺物集中6号	E-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	31.0	−	(18.7)	条痕 丁寧なナデ	条痕	沈線	明赤褐	橙	やや不良	○	○	○	○						
	1031	遺物集中6号	E-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	−	−	−	条痕	条痕	沈線	褐	黒褐	普通	○	○	○					○		ススス 試料No.18
	1032	遺物集中6号	E-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	29.5	−	(11.5)	ナデ	ナデ	沈線	灰白	浅黄橙	良好	△	○	○					○		
	1033	遺物集中6号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	−	−	−	条痕	条痕	沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○	○				○			
	1034	遺物集中6号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	−	−	−	丁寧なナデ	指頭圧痕 丁寧なナデ	沈線	灰黄褐	灰黄褐	良好	△	△	○							貼付突起
	1035	遺物集中6号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	−	−	−	条痕	条痕	沈線	にぶい褐	にぶい褐	良好	○	△		○				◎		
	1036	遺物集中6号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	32.0	−	(4.6)	ナデ	ケズリ, ナデ	沈線	にぶい赤褐	にぶい橙	良好	○	○	◎	◎						
2-13	1037	遺物集中6号	E-18	深鉢	完形	後期	指宿式	32.4	10.8	30.1	ナデ	ナデ	沈線	にぶい赤褐	にぶい橙	普通	○	○		△			○			網代痕
	1038	遺物集中6号	E-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	26.6	−	(14.5)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	沈線	暗赤褐	赤褐	良好	○	○	○			○	○			ススス
	1039	遺物集中6号	D-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐	にぶい赤褐	良好	○	○	○					△		
2-14	1040	遺物集中6号	E-18	深鉢	底部	後期	−	−	8.0	(5.0)	条痕→ケズリ	ナデ, 指頭圧痕	−	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○		○						網代痕 白色土
	1041	遺物集中6号	E-18	深鉢	底部	後期	−	−	−	−	丁寧なナデ	ナデ	−	暗灰黄	褐	やや不良	○	◎	○							網代痕
	1042	遺物集中6号	E-18	深鉢	底部	後期	−	−	11.4	(2.0)	丁寧なナデ	ナデ	−	褐	明褐	やや不良	○	○	○							網代痕

第2-2表　縄文時代後期遺構内出土遺物観察表（土器・土製品）（2）

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	器種	部位	時代	型式	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面	内面		外面	内面		長石	石英	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	雲母	小礫	その他	
2-14	1043	遺物集中6号	E-18	深鉢	胴～底部	後期	－	－	8.8	(8.7)	条痕	条痕	－	明褐	黄灰	普通	○	○								網代痕
	1044	遺物集中6号	E-18	深鉢	底部	後期	－	－	9.6	(3.9)	条痕 丁寧なナデ	丁寧なナデ	－	灰褐	にぶい黄橙	良好	○	◎		○						網代痕 白色土
	1045	遺物集中6号	E-18	深鉢	底部	後期	－	－	8.6	(2.6)	指頭圧痕	ナデ	－	にぶい褐	黒褐	良好	○	○	△							網代痕
	1046	遺物集中6号	E-18	深鉢	底部	後期	－	－	8.5	(4.0)	条痕, ケズリ	条痕, ケズリ	－	灰黄褐	にぶい橙	良好		△				○		○		網代痕 白色土
2-15	1047	遺物集中7号	E-18	深鉢	完形	後期	指宿式	28.5	8.2	31.8	条痕→ケズリ	条痕→ナデ	沈線, 凹点刻み	橙	橙	普通	○	○	○							網代痕
2-16	1048	遺物集中7号	E-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	－	－	－	条痕→ケズリ	条痕→ケズリ	沈線, 刻み	暗褐	灰褐	普通	○	○		○				◎		
	1049	遺物集中7号	E-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	32.4	－	(25.1)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	沈線	明赤褐	橙	良好	○	○								ス ス 試料No.19
	1050	遺物集中7号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	－	－	－	丁寧なナデ	丁寧なナデ	沈線	暗赤褐	にぶい赤褐	良好	◎	○	○							
	1051	遺物集中7号	E-18	深鉢	完形	後期	指宿式	17.3	7.5	17.0	条痕, ケズリ	条痕, ケズリ	沈線 凹線状圧痕	橙	灰褐	良好	○	○		○						
2-17	1052	遺物集中7号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	橙	にぶい橙	普通	○	○	◎	◎						
	1053	遺物集中7号	E-18	深鉢	□縁部	後期	指宿式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	橙	褐灰	普通	○	○	○	○						把手
	1054	遺物集中7号	E-18	深鉢	底部	後期	－	－	8.2	(5.3)	ケズリ 指頭圧痕	条痕, 指頭圧痕	－	にぶい橙	にぶい橙	普通	○	△	○					○		網代痕
	1055	遺物集中7号	E-18	深鉢	底部	後期	－	－	7.7	(6.6)	条痕→ケズリ	条痕→ケズリ	－	にぶい黄橙	橙	良好	○	○	○							網代痕
	1056	遺物集中7号	E-18	台付皿	脚部	後期	指宿式	－	12.0	(2.7)	丁寧なナデ	丁寧なナデ	沈線	明赤褐	明赤褐	普通	◎	△	◎	◎				△		白色土
	1057	遺物集中7号	E-18	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	39.7	－	(29.5)	ナデ, 指頭圧痕	ケズリ	－	にぶい褐	にぶい橙	良好		◎		○				◎		ス ス
2-18	1059	遺物集中8号	C-16	深鉢	□～胴部	後期	松山式	32.0	－	(18.8)	条痕	条痕	－	灰褐	にぶい褐	良好	◎									
	1060	遺物集中8号	C-16	深鉢	□～胴部	後期	松山式	－	－	－	条痕, ナデ ケズリ	条痕, ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突	オリーブ黒	黒	良好	◎	○	◎	○						ス ス 試料No.25
	1061	遺物集中8号	C-16	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	23.8	－	(15.7)	丁寧なナデ	丁寧なナデ	－	にぶい赤褐	黒褐	やや不良	△	◎	○	○						補修孔 ス ス
2-19	1062	遺物集中9号	D-12	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	29, 8	－	(23.2)	条痕, ケズリ	条痕, ケズリ	沈線	褐	褐灰	良好	○	○	○	○						
	1063	遺物集中9号	D-12	深鉢	□縁部	後期	指宿式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	褐灰	にぶい黄橙	不良	△	○	○				△			
	1064	遺物集中9号	D-12	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	27.4	－	(12.2)	ナデ, ケズリ	ナデ, ケズリ	沈線, 刺突	黒褐	黄灰	良好	△	○	○				○			
2-20	1065	遺物集中9号	D-12	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	－	－	－	条痕 丁寧なナデ	条痕 丁寧なナデ	沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	○	△	△						
	1066	遺物集中9号	D-12	深鉢	□縁部	後期	指宿式	－	－	－	条痕, ナデ	ナデ	沈線	にぶい橙	にぶい黄橙	やや不良	○	△		○						
	1067	遺物集中9号	D-12	深鉢	□縁部	後期	指宿式	－	－	－	条痕, ナデ ケズリ	条痕	沈線	にぶい橙	にぶい黄橙	やや不良	△	△	△				○			
	1068	遺物集中9号	D-12	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	25.2	－	(21.4)	丁寧なナデ	丁寧なナデ	－	黒褐	黒褐	普通	△	◎	○							試料No.20
2-21	1069	遺物集中9号	D-12	深鉢	完形	後期	指宿式	23.8	8.4	20.1	条痕, ケズリ 指頭圧痕, ナデ	条痕, ケズリ 指頭圧痕, ナデ	－	黒褐	褐灰	やや不良	○	△		○						
	1070	遺物集中9号	D-12	深鉢	胴～底部	後期	－	－	11.6	(13.9)	条痕, ケズリ	条痕, ケズリ	－	にぶい黄褐	灰黄褐	良好	○	○	○	○						もじり痕
	1071	遺物集中9号	D-12	深鉢	底部	後期	－	－	11.0	(5.3)	ナデ	ナデ	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	○	△						○		網代痕
	1072	遺物集中9号	D-12	深鉢	底部	後期	－	－	11.0	(3.8)	ナデ	ナデ	－	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	△	○		○						網代痕
2-22	1073	遺物集中10号	D-12	深鉢	□～胴部	後期	指宿式	21.4	－	(20.0)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	沈線	にぶい褐	灰褐	良好	○	◎		○						把手

第2-3表　縄文時代後期遺構内出土遺物観察表（石器・石製品）

挿図番号	掲載番号	遺構名	区	器種	石材	法量(mm)			重量(g)	摘要
						最大長	最大幅	最大厚		
2-17	1058	遺物集中7	E-18	剥片	ホルンフェルス	8.15	8.80	2.25	188.19	
2-22	1074	遺物集中10	D-12	軽石加工品	軽石	7.60	9.20	4.65	86.12	
	1075	遺物集中10	D-12	軽石加工品	軽石	5.10	6.05	2.75	17.58	
2-23	1076	集積遺構	D-20	剥片	ホルンフェルス	10.30	6.65	1.80	114.25	
	1077	集積遺構	D-20	剥片	ホルンフェルス	4.95	3.80	0.50	11.60	
	1078	集積遺構	D-20	剥片	ホルンフェルス	6.60	5.15	1.20	34.32	
	1079	集積遺構	D-20	剥片	ホルンフェルス	6.65	9.50	1.80	127.57	
2-24	1080	特殊遺構	D-20	大型軽石加工品	軽石	36.60	29.50	8.60	1385.00	

第２節　遺物（土器・土製品等）

縄文時代早期から後期にかけての遺物は15区から29区の低地部ではⅢ層及びⅣａ層，11区から15区の低湿地部ではⅢａ層及びⅢｂ層から主に出土した。土器・土製品の出土状況は第2-25図から第2-30図に，石器・石製品の出土状況は第2-131図から第2-134図に示した。

１　縄文時代後期の土器・土製品等

縄文時代前期から後期に属する土器の中でも縄文時代後期に属するものが極めて多い。特にＤ・Ｅ－12・13区に集中して出土した。

（１）土器

縄文時代後期の土器については主に口唇部から口縁部の文様に着目し，器形・器面調整も考慮して下記のⅠ類からⅦ類に分類した。底部は，それのみでⅠ～Ⅶ類に分類できないことから一括して取り扱う。

Ⅰ類土器

縄文を施した文様に区画を設け，区画外を磨消して無文とした磨消縄文である。

Ⅱ類土器

凹線で文様を構成する一群である。さらに，文様帯の有無で大別した。

Ⅲ類土器

主に２本１組の沈線で文様を構成する一群である。

Ⅳ類土器

縦位の沈線３条と横位の沈線２条で文様を構成する一群である。

Ⅴ類土器

連続刺突のみで文様を構成する一群である。

Ⅵ類土器

上下を刺突等で区画し，区画内に沈線・刺突・凹点で文様を構成する一群である。

Ⅶ類土器

Ⅰ類土器からⅥ類土器に含まれない後期中葉から後半に該当する土器をまとめた。

以下，分類に従って特徴を記述する。

【Ⅰ類土器】

Ⅰ類土器は，文様構成で次のⅠａ～Ⅰｆ類に細分した。

Ⅰａ類

文様を３本一組の沈線と縄文で構成するものである。口唇部を肥厚させ，その内面には段をもつ。深鉢・鉢・浅鉢がある。

Ⅰｂ類

文様を２本一組の沈線と縄文あるいはヘナタリによる回転押圧文で構成するものである。口唇部を肥厚させるが，その内面に段をもたない。口縁部は外反，内湾，直立するものがある。

Ⅰｃ類

全体的に肥厚させた口縁部に沈線と縄文で施文するものである。

Ⅰｄ類

文様を渦巻文もしくは渦巻状の文様を沈線と縄文で構成するものである。文様は胴下位まで及ぶ。

Ⅰｅ類

沈線と縄文で文様を構成するが，沈線間が狭くなる。内湾する口縁部は端部で肥厚し，胴部は大きく張りながら底部に至る器形をもつ。波状口縁を呈するものは，波頂部の下位に把手もしくは渦巻文を施す。

Ⅰｆ類

沈線と縄文で文様を構成するが，Ⅰａ類～Ⅰｅ類に分類できなかったものである。

以下，分類に従い報告する。なお，掲載番号1082は，放射性炭素年代測定を実施した。

Ⅰａ類土器（第2-31図1081～1085）

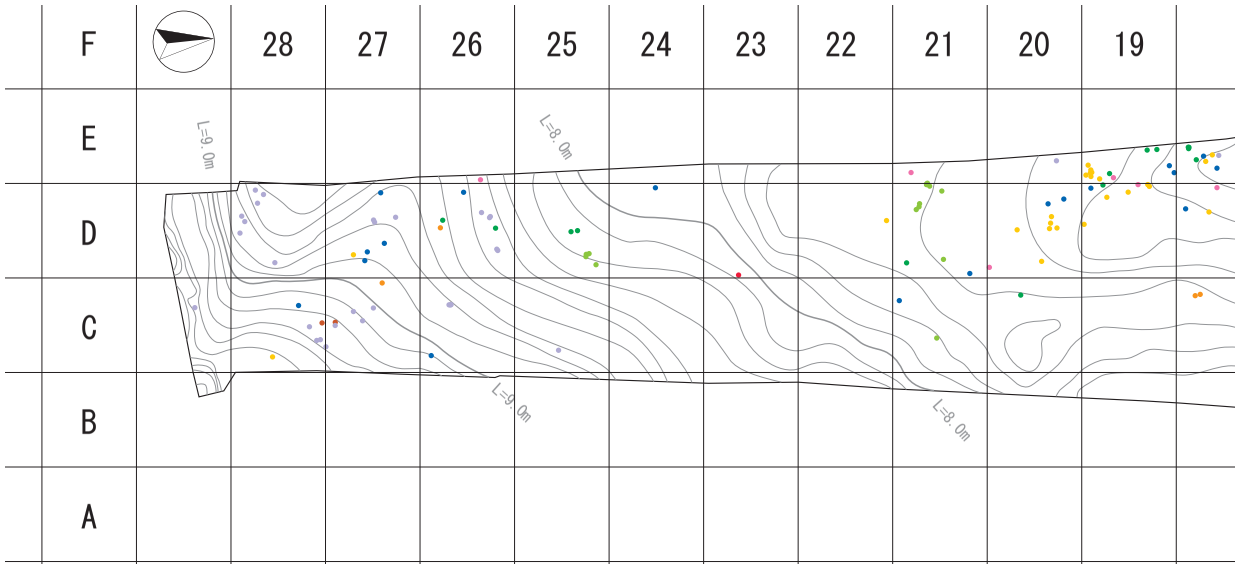
1081～1083は口唇部が肥厚し，内面に段をもつものである。いずれも小片のため３本一組の沈線は確認できないが，内面に段をもつことから本類とした。1081は口縁部が外反し，外面には沈線と縄文で文様を構成する。口唇部の内面寄りに沈線を巡らせ，外端には縄文を施す。1082は，やや外反する口縁部をもつ。肥厚した口唇部には沈線と縄文が施される。口縁部外面はミガキによる器面調整を行い，下位には沈線の痕跡が残る。1083は小片のため口縁部に施される文様は不明だが，幅広い口唇部には縄文を施す。口縁部の外面はミガキよる器面調整が行われる。

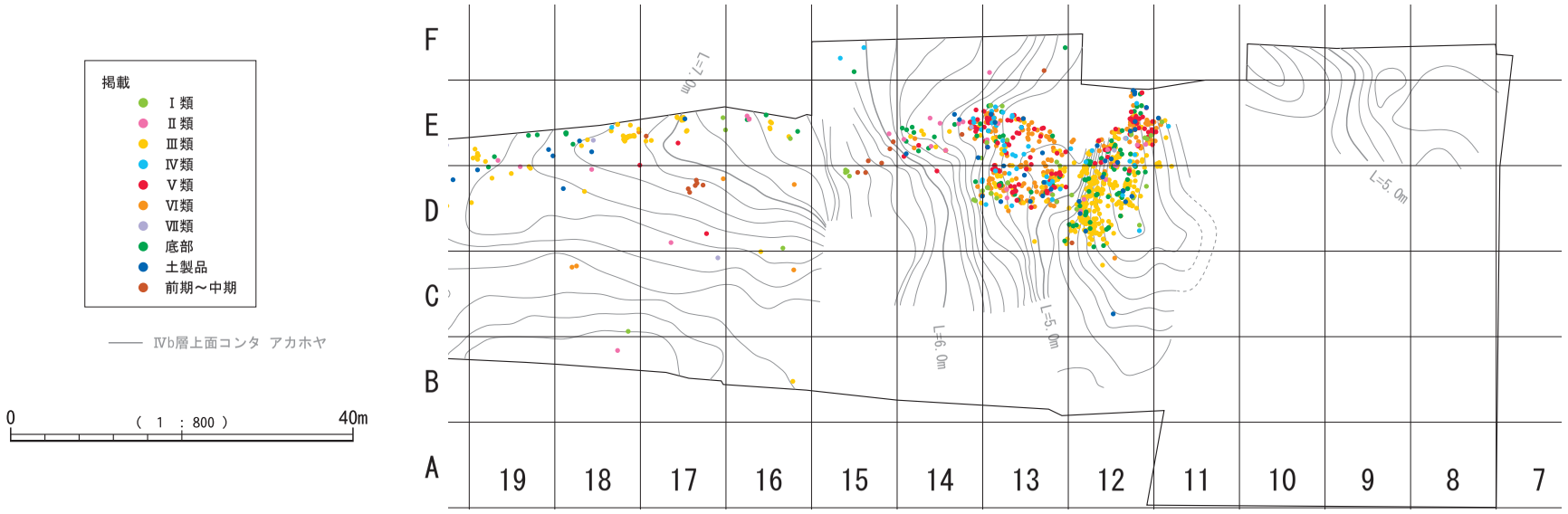
1084は，鉢である。底部と胴部は接合しないが，同一個体と考え図化した。口径17.8㎝，底径10.6㎝を測る。口縁部は直立し，胴部は大きく膨らみながら平底の底部に至る器形である。突起をもつ橋状把手を２か所に貼り付けるが，その上面から下面に向けて孔が穿たれる。口縁部には縦位の短沈線と横位の沈線で文様を描く。胴部には３本一組の沈線とヘナタリの転圧文で文様が施される。口唇部にもヘナタリの転圧文が施される。1085は浅鉢で，肥厚する口唇部に３本一組の沈線と縄文が施される。

1081・1083・1085はＬＲの縄文原体を横方向に転がし，1082はＲＬの縄文原体を横方向に転がす。また，1081は器面に縄文を施した後，区画を設け，そして区画外を磨り消している。1082・1083・1085は，区画内に縄文を施さない。

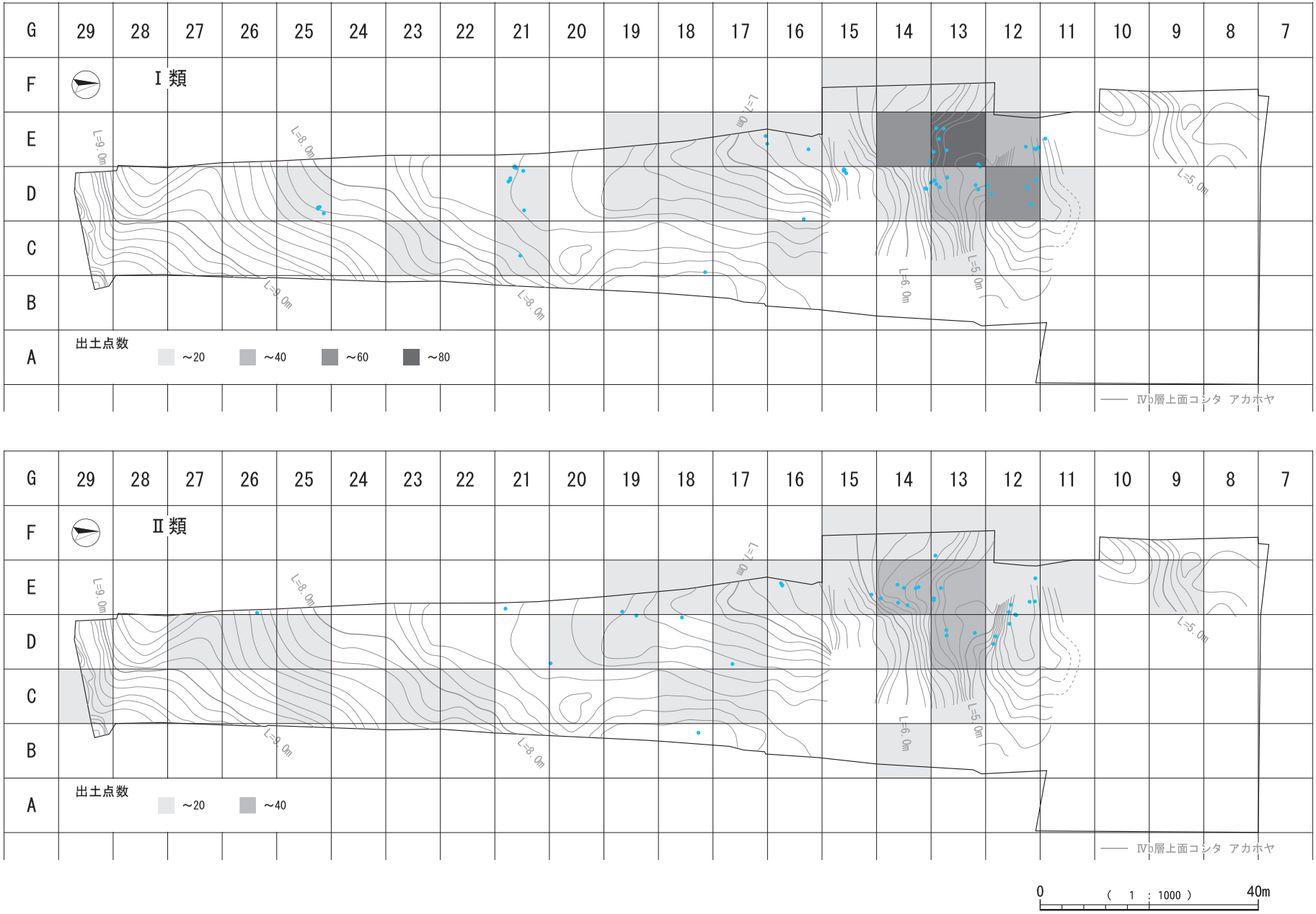
Ⅰｂ類土器（第2-31～33図1086～1106）

1086～1090は肥厚する口唇部に沈線を巡らせ，口縁部が外反するものである。1086～1089は，平口縁である。1086は口縁部の上部が磨り消され，その下に２本一組の

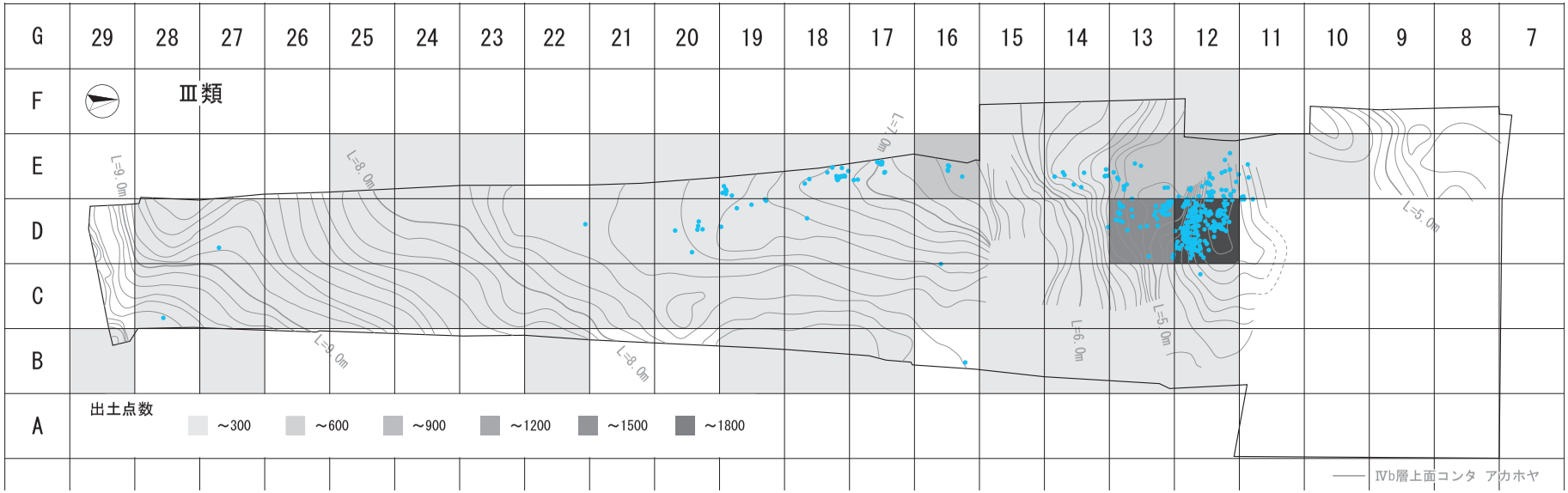


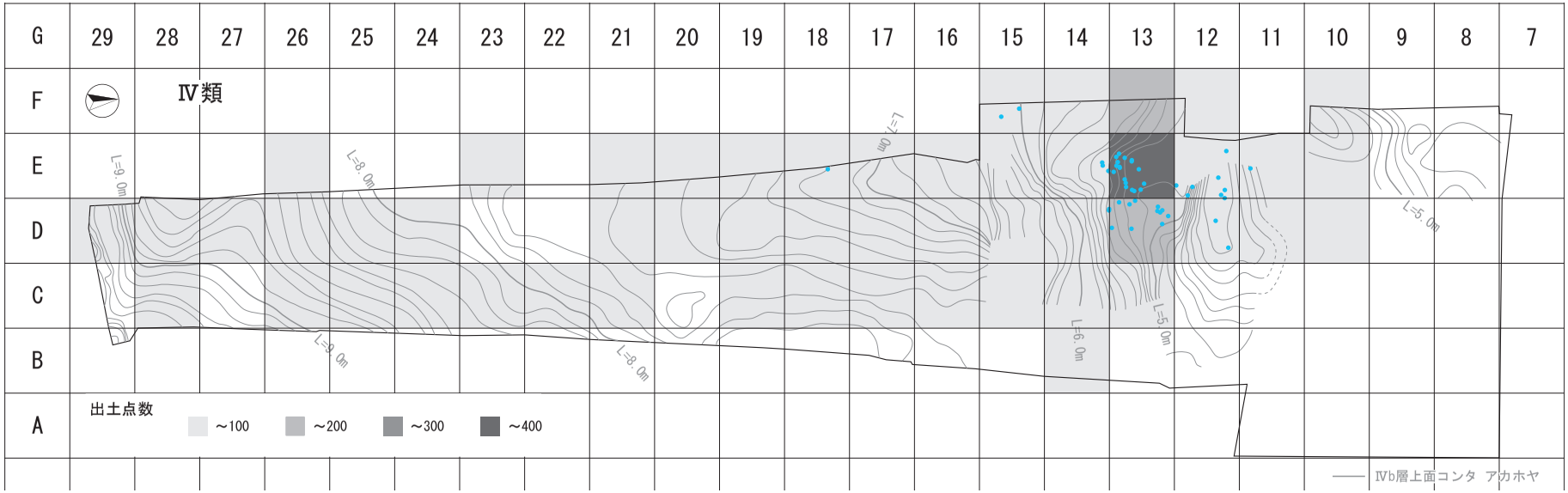


第2-25図　縄文時代土器・土製品出土状況図



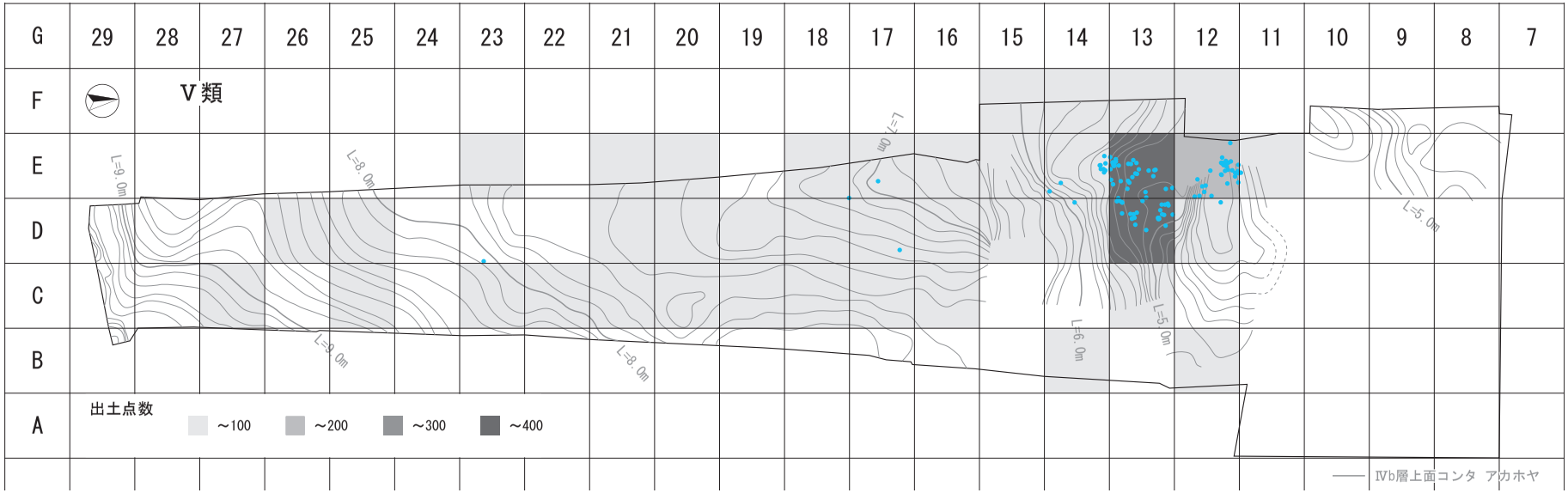
第2-26図　縄文時代後期土器（Ⅰ類・Ⅱ類）出土状況図

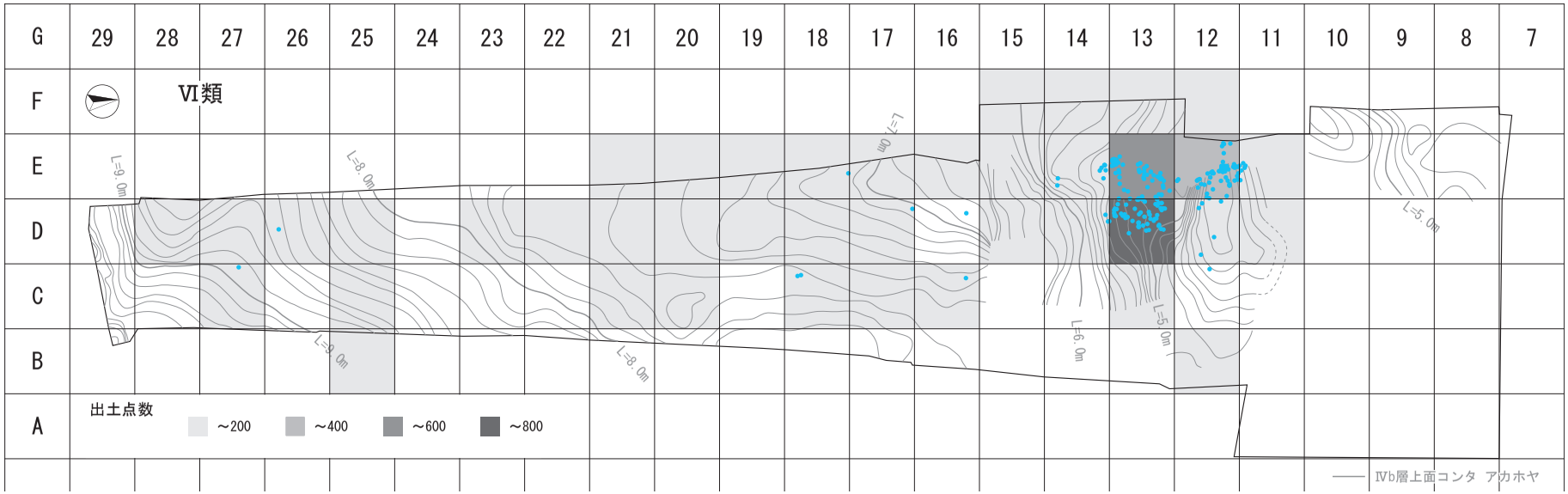




0 (1 : 1000) 40m

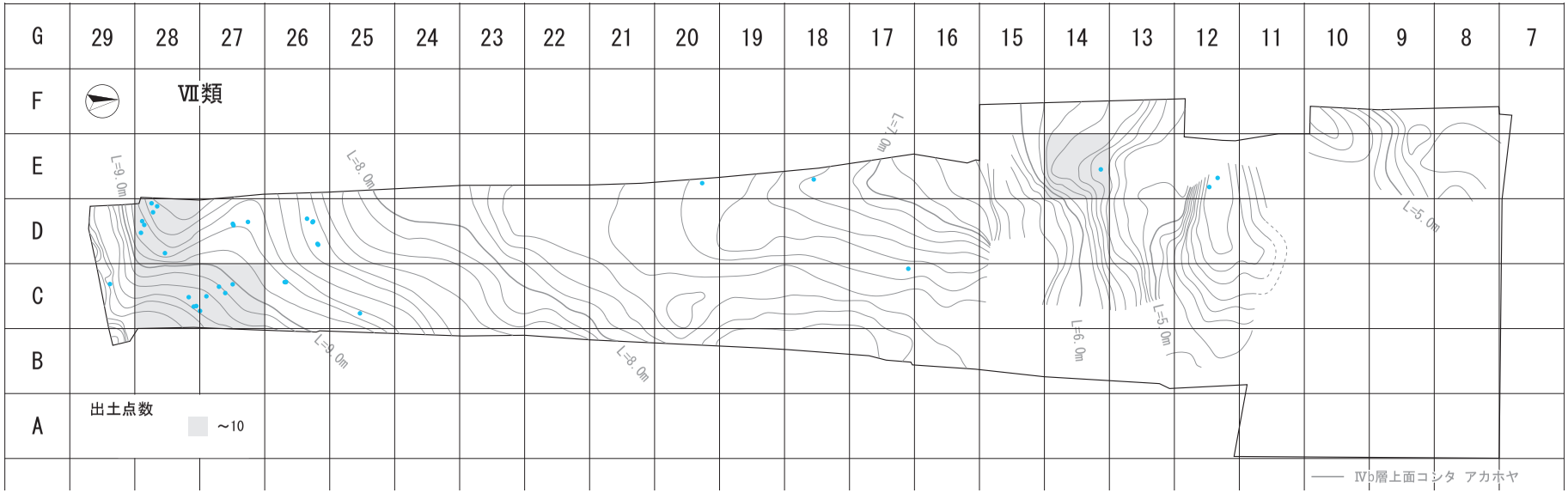
第2-27図　縄文時代後期土器（Ⅲ類・Ⅳ類）出土状況図

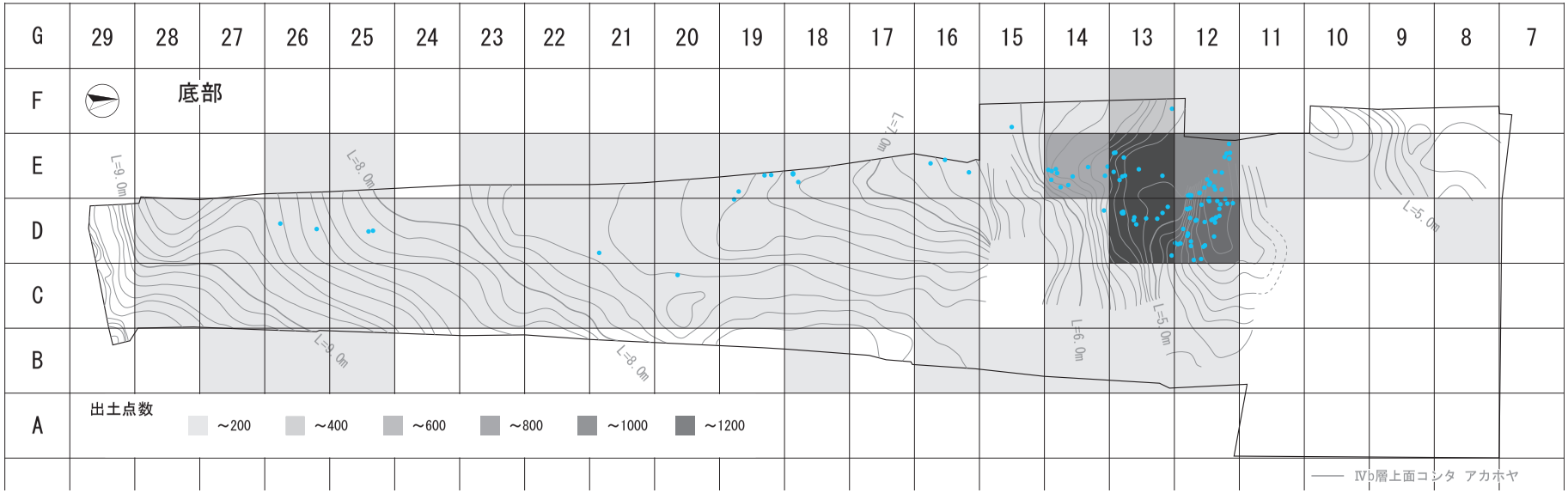


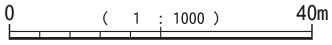


0 (1 : 1000) 40m

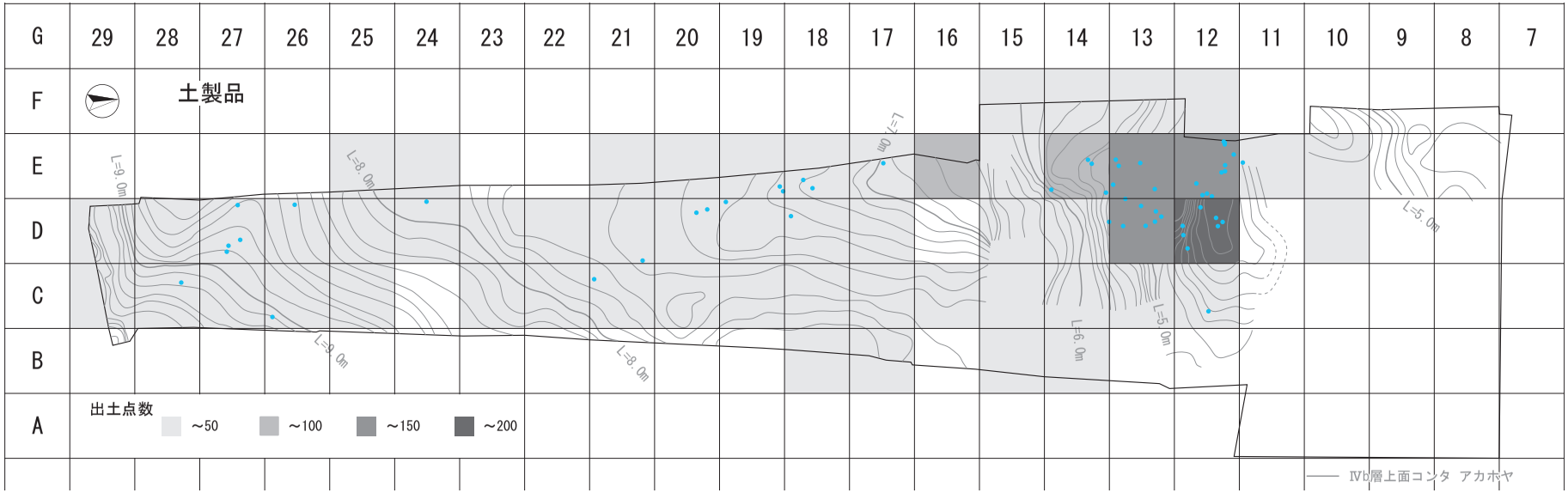
第2-28図　縄文時代後期土器（Ⅴ類・Ⅵ類）出土状況図

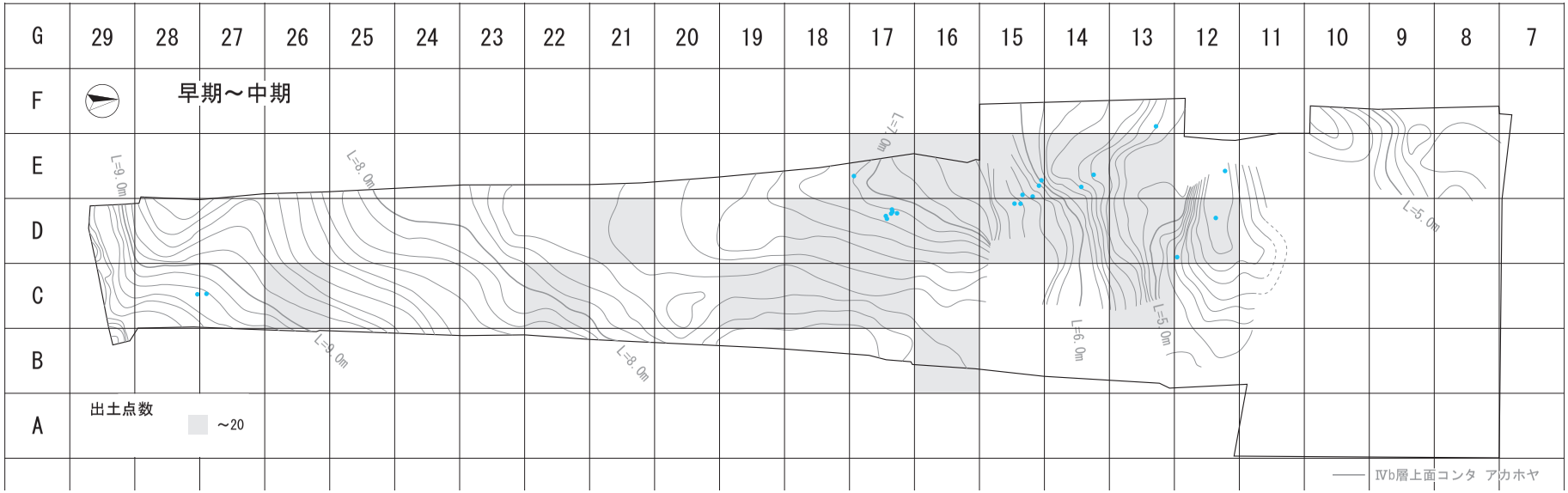


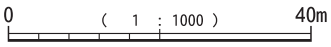




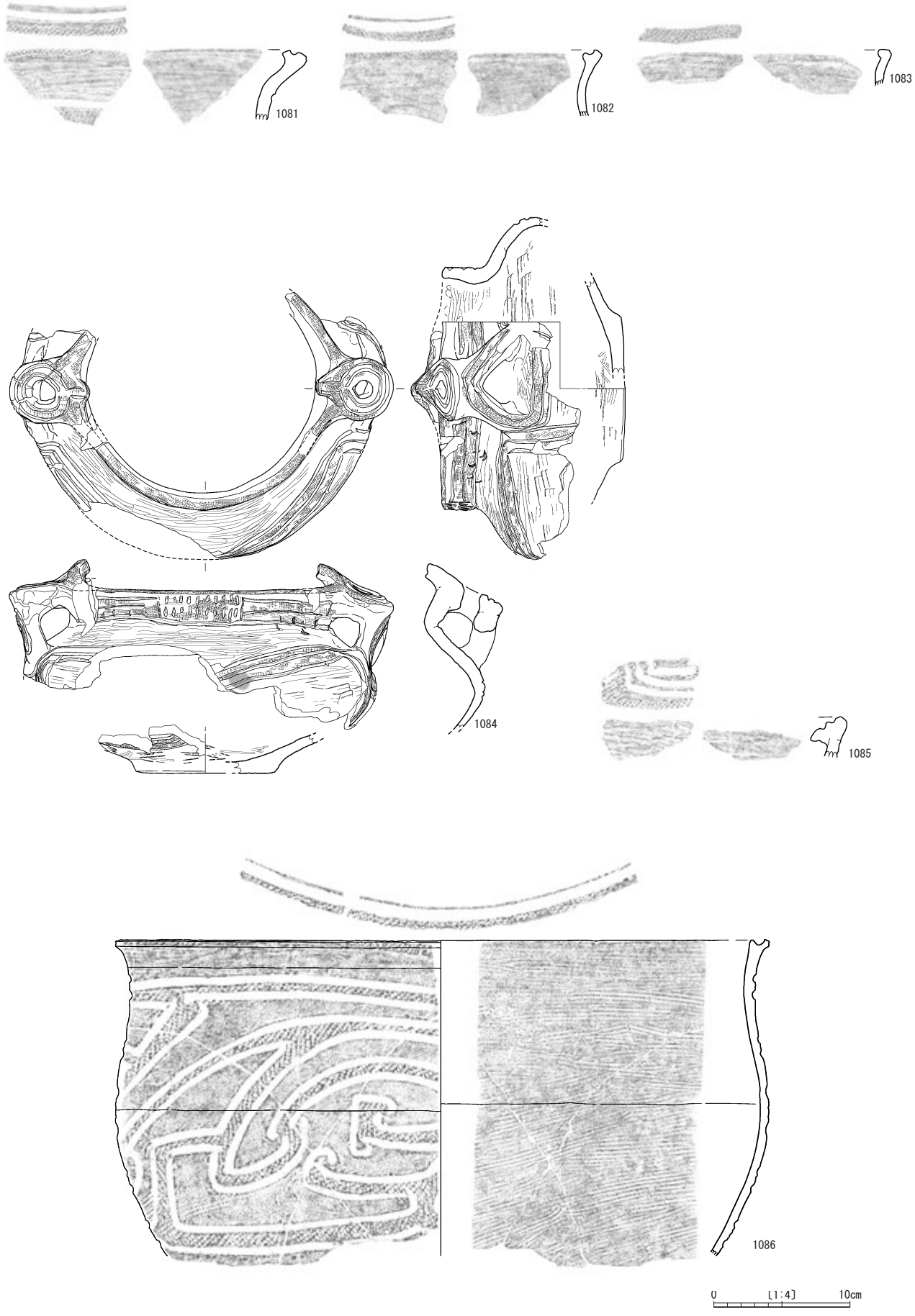
第2-29図　縄文時代後期土器（Ⅶ類・底部）出土状況図







第2-30図　縄文時代後期土製品・縄文時代早期～中期土器出土状況図



第2-31図　Ⅰ類土器（１）

沈線と縄文で鉤手状の入組文が胴部下位まで施される。肥厚する口唇部には沈線が巡り，外端には縄文が施される。外面胴部には部分的に，内面には全面条痕が残る。1087～1089は口縁部片で，２本一組の沈線と縄文で文様を施すと考えられる。いずれも内面の口唇部直下に段をもたない。1087・1088は口縁部に幅広で深い沈線を巡らせ，口唇部から口縁部外端にかけて縄文を施す。内面には器面調整の条痕を残す。1089は口縁上部にも縄文を施し，内面には緩やかな稜をもつ。1090は口径が42㎝で，波頂部が２か所残存する。残存する２か所の間隔から口縁部には３か所の波頂部をもつと考えられる。波頂部上面には口唇部と直交する押圧文を施す。口唇部に施される沈線は波頂部へと続き頂部手前で強く押されて止まる。外面には鉤手状の入組文が胴部中位まで施される。突起部の下位では横位の沈線が跳ね上がり，終点は刺突が施される。

1091～1104は，やや肥厚する口唇部に沈線が施されないものである。口縁部が外反・直立・内湾するものがある。1091～1098は，口縁部が外反もしくは外傾するものである。その中でも，1091～1094は平口縁，1095～1098は波状口縁となる。1091は破片のため全体の文様構成は不明だが，鉤手文や三角文が描かれている。沈線の端部は強く押圧される部分もある。1092は口縁部上位に横位の沈線が施され，端部は強く押され，跳ね上がる。また，その隣には円形の刺突が施される。1093は沈線と縄文が僅かに残り，内外面とも丁寧なミガキが施される。1094は外に開く口縁部で，ナデによる丁寧な器面調整が施される。1095は丸く収める口唇部に高さのない突起をもち，頂部には３列の押圧文が施される。胴部には入組文が施されるが，区画外にはみ出した縄文は磨り消されずに残る。また，区画内に縄文を施さない部分もある。1096は口唇部に高さのない波頂部をもち，４列の押圧文を施す。1095と同様に区画外にはみ出した縄文を磨り消さない部分もある。1097は波頂部で，部分的に欠損する。頂部に深い切り込みを入れ２分し，それぞれに３列の押圧文を施す。波頂部の直下には同心円状の沈線とそれ以外には沈線を曲線状に施す。所々に貝殻腹縁を使ったと考えられる擬縄文を施すが，詳細は不明である。1098は波頂部に３列の押圧文を，胴部は横位の縄文帯が施される。内面には条痕が残る。1099～1102は，直立する口縁部をもつ。1099～1101は，波状口縁である。1099は波頂部に３列の押圧文を施し，沈線の端部を押し込むように強く止める。1100・1101は，焼成後と考えられる穿孔が部分的に残る。1102は平口縁で，口唇部にはヘナタリによる刺突文を，胴部には細沈線とヘナタリの転圧文が施される。1103・1104の波状を呈する口縁部は，内湾する。いずれも内外面に条痕が残る。1103は波状を呈する口縁部で，波頂部には３列の押圧文が施される。波頂部に直下には三角文を，胴部には入組文を配する。1105・1106は，橋状把手である。いずれも把手の上面から穿孔をもつが，1106は貫通していない。1105は橋状把手の突起上面の孔に沿って円形の沈線を巡らせ，その内側に縄文を施す。さらに，橋状把手の根元を囲い込むように曲線の沈線を施す。口縁部は外反し，端部が肥厚する。1106は，２本一組の沈線とヘナタリの転圧文で文様を構成する。橋状把手の突起部には両側から強い押圧文を施す。さらに，上面の孔を囲むようにヘナタリによる転圧文，突起部の根元には沈線を施す。内外面の一部に赤色顔料が残る。

1097・1106以外は，ＲＬの縄文原体を横方向に転がす。また，1086～1089・1091～1093・1100・1103は縄文を施した後，区画を設け，そして区画外を磨り消す。1090・1094～1096・1098・1099・1101・1104・1105は，設けた区画内に縄文を施す。

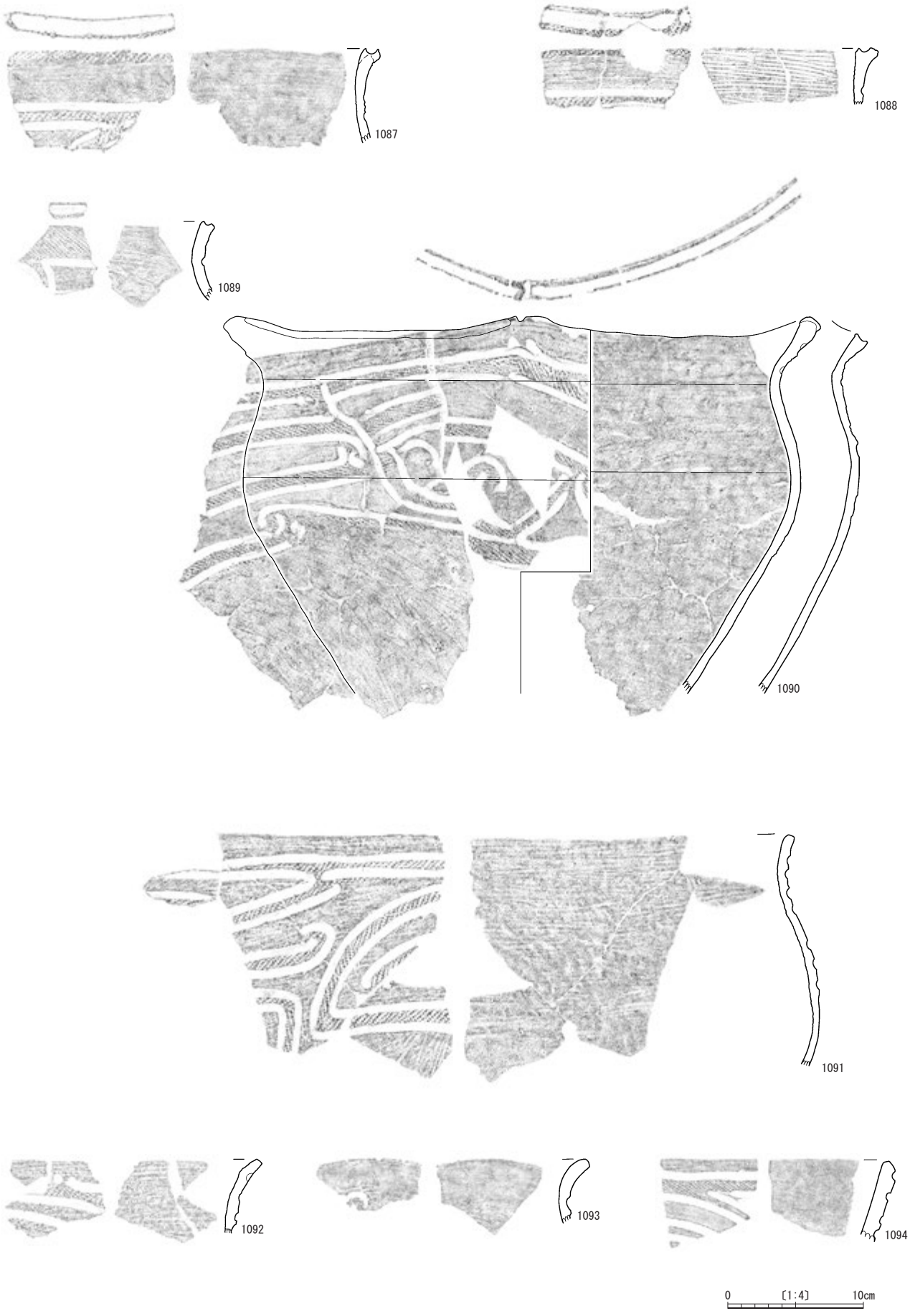
Ｉｃ類土器（第2-34図1107～1114）

1107・1108は，口縁部に矩形沈線を施す。1107は波状口縁で，内外面とも条痕が残る。1108は平口縁で，口唇部まで縄文が及ぶ。1109は，口唇部直下に円形の強い押圧文を施す。1110は，口縁部内面に緩い稜をもつ。1111は器面調整が粗く，縄文は残らない。1112は，口唇部直下に円形の強い押圧文が施される。1113は，波頂部にらせん状の沈線が施される。1114は波頂部に３列の押圧文，口唇部に沈線が施される。

1111・1113以外は，ＲＬの縄文原体を横方向に転がす。また，1107は縄文を施した後，区画を設け，そして区画外を磨り消す。1108～1110・1112・1114は，設けた区画内に縄文を施す。

Ｉｄ類土器（第2-34図1115～1122）

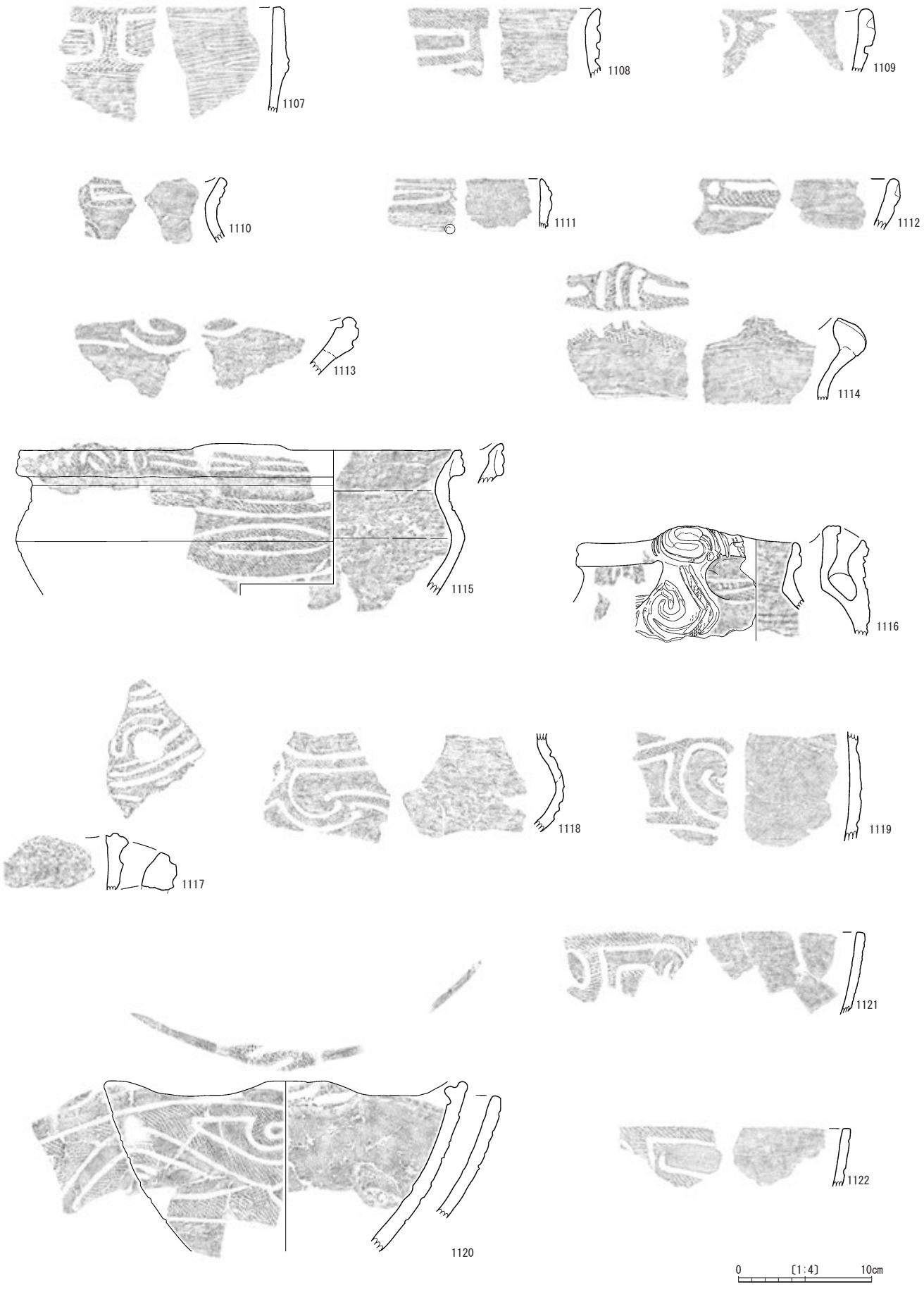
1115は口縁端部を肥厚させ，外面に沈線と縄文を施文する。また，高さのない突起をもち，内面に７列の押圧文を，外面に半月状の沈線を向かい合う様に施す。胴部には大きめの渦巻き文を配する。口縁部は外反し，胴部が膨らむ器形をもつ。1116は橋状把手をもち，突起部には穿孔を施し，突起を囲むように円形の沈線を配する。突起直下には渦巻文が施されるが，縄文が全面に施されない区画もある。口縁部は帯状に肥厚し，沈線を横位に巡らす。1117は橋状把手の突起部で，1116と同じように穿孔を施す。1118・1119は胴部片で，渦巻文が残る。沈線の端部は，強く押し込まれる。1120は口縁部から胴部下半に向かって，やや膨らみをもちながらすぼまる器形である。高さのない突起が１か所残存する。この上面に内外面から棒状工具を斜めに押圧し，粘土紐が「Ｓ」字状に貼り付けられたように作る。さらに，内面の突起直下にも沈線が施される。残存する口唇部の厚みから突起は４か所あったことが考えられる。胴部の主文様は土器片の接合状況が良好でないため明確ではないが，横に広い渦巻き状の文様を施す。1121・1122は1120と類似する



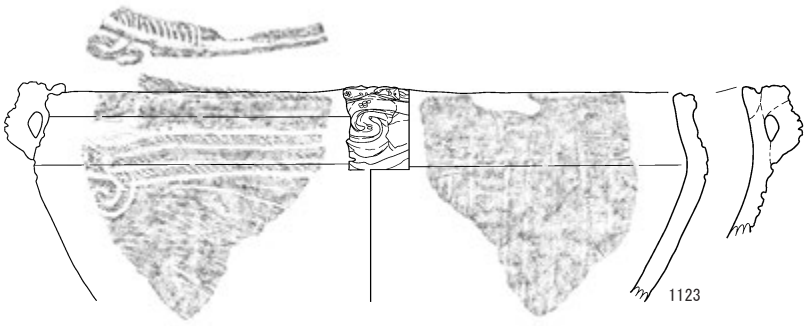
第2-32図　Ⅰ類土器（２）


1095
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105
1106
0 〔1:4〕 10cm

第2-33図　Ⅰ類土器（３）


1107
1108
1109
1110
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
0 〔1:4〕 10cm

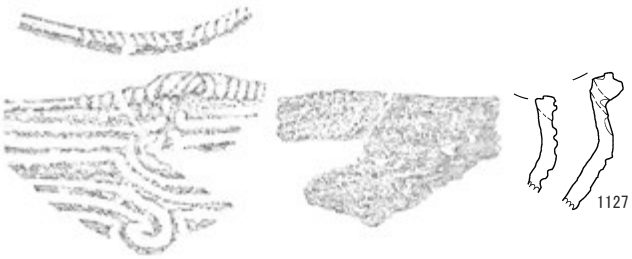
第2-34図　Ⅰ類土器（４）











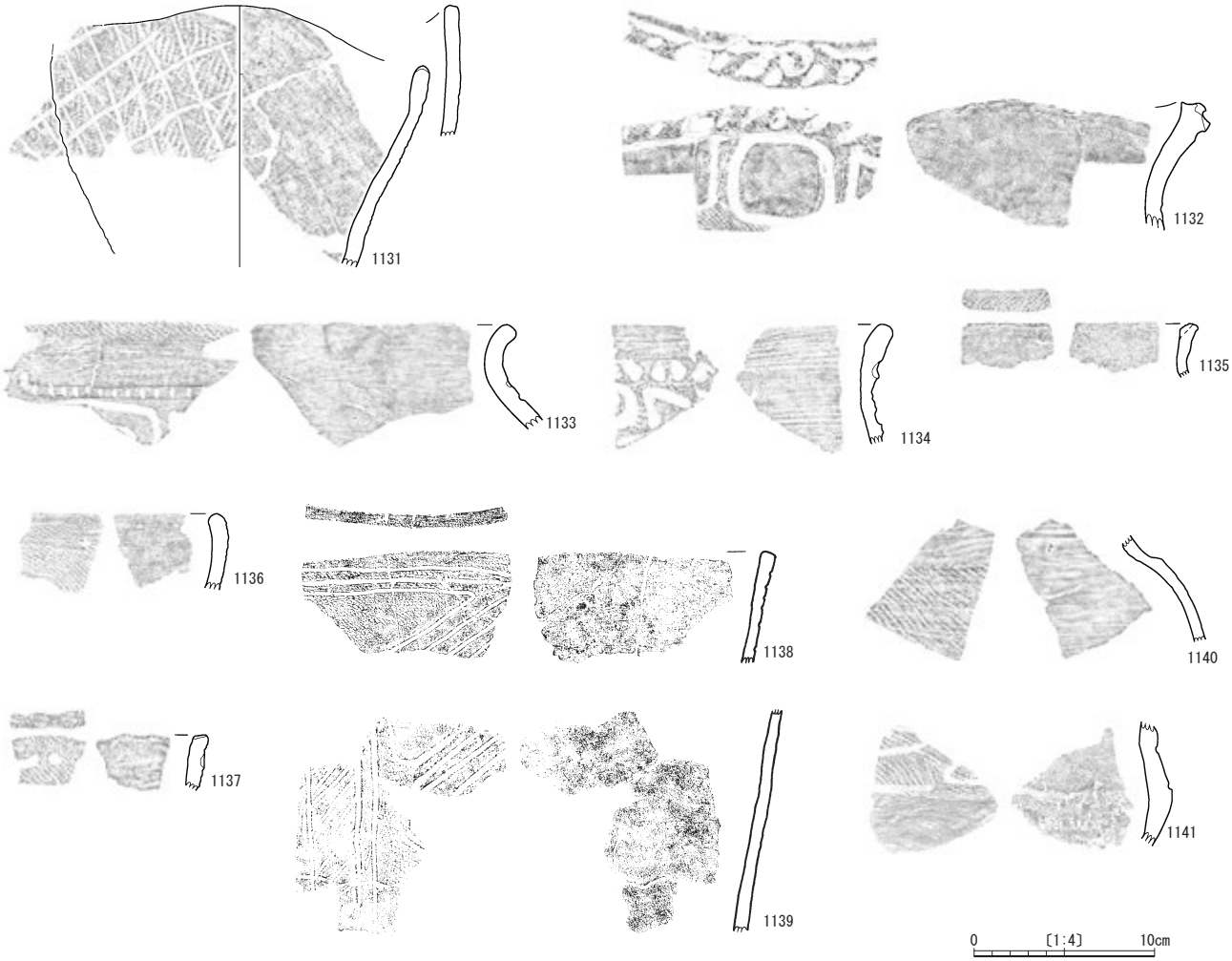






0 [1:4] 10cm

第2-35図　Ⅰ類土器（５）



第2-36図　Ⅰ類土器（６）

器形・胎土・施文のため，ここに掲載した。

1115・1116・1118～1120は，ＲＬの縄文原体を横方向に転がす。1117は，単節Ｒの縄文原体を横方向に転がす。1121・1122は，ＲＬの縄文原体を縦方向に転がす。また，1116・1119～1122は縄文を施した後，区画を設け，そして区画外を磨り消す。1115・1117は，設けた区画内に縄文を施す。

Ⅰｅ類土器（第2-35図1123～1130）

1123は口縁部が波状を呈し，胴部が膨らむ器形をもつ。肥厚する口縁端部の外面には沈線と縄文を，口唇部には沈線を巡らす。さらに波頂部付近の口唇部には沈線を縦位に施す。波頂部直下には橋状把手を貼り付け，外面に渦巻文と刺突を施す。胴部には４本一組の平行沈線を横位に施す。平行沈線で設けられた３つの区画の内，上下の区画には縄文を施し，中央の区画は磨り消される。また，橋状把手の直下には渦巻文が描かれる。波頂部及び橋状把手は，４か所と考えられる。1124は，波頂部に近い部分の口縁部片である。胴部には６本の沈線が施され，３つの縄文帯をもつ。器形・文様構成とも1123と類似する。1125は，器形・文様構成とも1124と類似する。渦巻文と考えられる文様がわずかに残る。1126は口縁部外端に粘土を貼り付け，肥厚させる。この口縁部の外端と上面に沈線を施す。胴部は横位及び斜位の沈線と縄文で文様を構成する。斜位の沈線の交点には方形の刺突が施される。1127は波状を呈する口縁部の端部を肥厚させ，その外面と口唇部に沈線を巡らす。波頂部の外面には半月状の押圧文を向かい合う様に配し，口唇部の内面側にも押圧文を施す。胴部は平行沈線を密に施し，縄文とともに文様を構成する。波頂部の下には渦巻文を２か所施す。1128と1129は，同一個体と考えられる。1128は波状を呈する口縁部は端部で肥厚し，押圧文を施す。波頂部には橋状把手を貼り付ける。胴部には横位や斜位の沈線を密に施すが，沈線間の縄文は磨り消される。1129は，密な沈線だけで文様を構成するものである。1130は表面が摩耗して詳細は不明だが，1128と同様の器形や文様構成と考えられる。

詳細の不明な1130を除いて，設けた区画にＲＬの縄文原体を横方向に転がす。

Ⅰｆ類土器（第2-36図1131～1141）

1131は波状口縁で，波頂部は４か所と考えられる。口縁部は，丸く収め，バケツ状の器形をもつ。口縁部から胴部にかけて沈線と縄文で斜格子目文を構成する。1132は，波頂部付近の外面に粘土を貼り付け肥厚させる。粘土を貼り付けた部分には縄文，押圧文の順に施文する。波頂部を中心に渦巻文，口唇部には沈線を巡らす。波頂部下には沈線で方形区画を設ける。1133は外反する口縁部をもち，胴部へは膨らむ器形である。口唇部は丸く収め，縄文を施す。端部が跳ね上がる横位の沈線上に刺突を行う。1134は口縁部の上端２㎝程度を肥厚させ，その肥厚帯に沿って円形の押圧文，その下位に沈線と縄文で文様を構成する。1135は，口唇部に縄文を施す。1136は，外面に縄文を施す。1137は，口唇部にヘナタリによる押圧文を施す。1138・1139は接合はしないが，胎土・色調・文様構成等から同一個体と考えられる。いずれも沈線とヘナタリによる転圧文で文様を構成するが，磨消しが不十分である。1138は，口唇部にも転圧文が部分的に残る。1139は，縦位の沈線間に斜位の沈線を施す。1140は胴部と口縁部の境に段をもち，胴部には縄文を施す。1141は胴部に緩い屈曲部をもち，文様は沈線と縄文で構成される。

1131～1133・1135～1137・1140・1141はＲＬの縄文原体を横方向に，1134は縦方向に転がす。また，1131は縄文を施した後，区画を設け，そして区画外を磨り消す。1132・1134・1137・1140・1141は，設けた区画内に縄文を施す。1133・1135は，区画内に縄文は施文されない。

【Ⅱ類土器】

Ⅱ類土器は，口縁部文様帯の有無でⅡａ～Ⅱｃ類に細分した。

Ⅱａ類

口縁部に文様帯を区画する凹線や沈線をもたないものである。口唇部直下に凹点もしくは斜位の貝殻刺突を連続し，その下位に２本一組の凹線を横位に巡らせ，さらにその下位には２本一組の平行凹線で文様を構成するものである。口縁部は，外反する器形をもつ。器種は，深鉢と考えられる。

Ⅱｂ類

口縁部を凹線・沈線・突帯で区画したり，肥厚させたりして文様帯とするものである。さらに，文様帯に一つの文様を連続して施すものと文様帯に複数の文様を施すものがある。器種は，深鉢と考えられる。

Ⅱｃ類

Ⅱａ類・Ⅱｂ類に分類できないものである。具体的には文様帯が確認できないもの，凹線・沈線以外で施文されるものである。さらに，浅鉢もここに掲載した。以下，分類に従い記述する。

Ⅱａ類土器（第2-37図1142～1147）

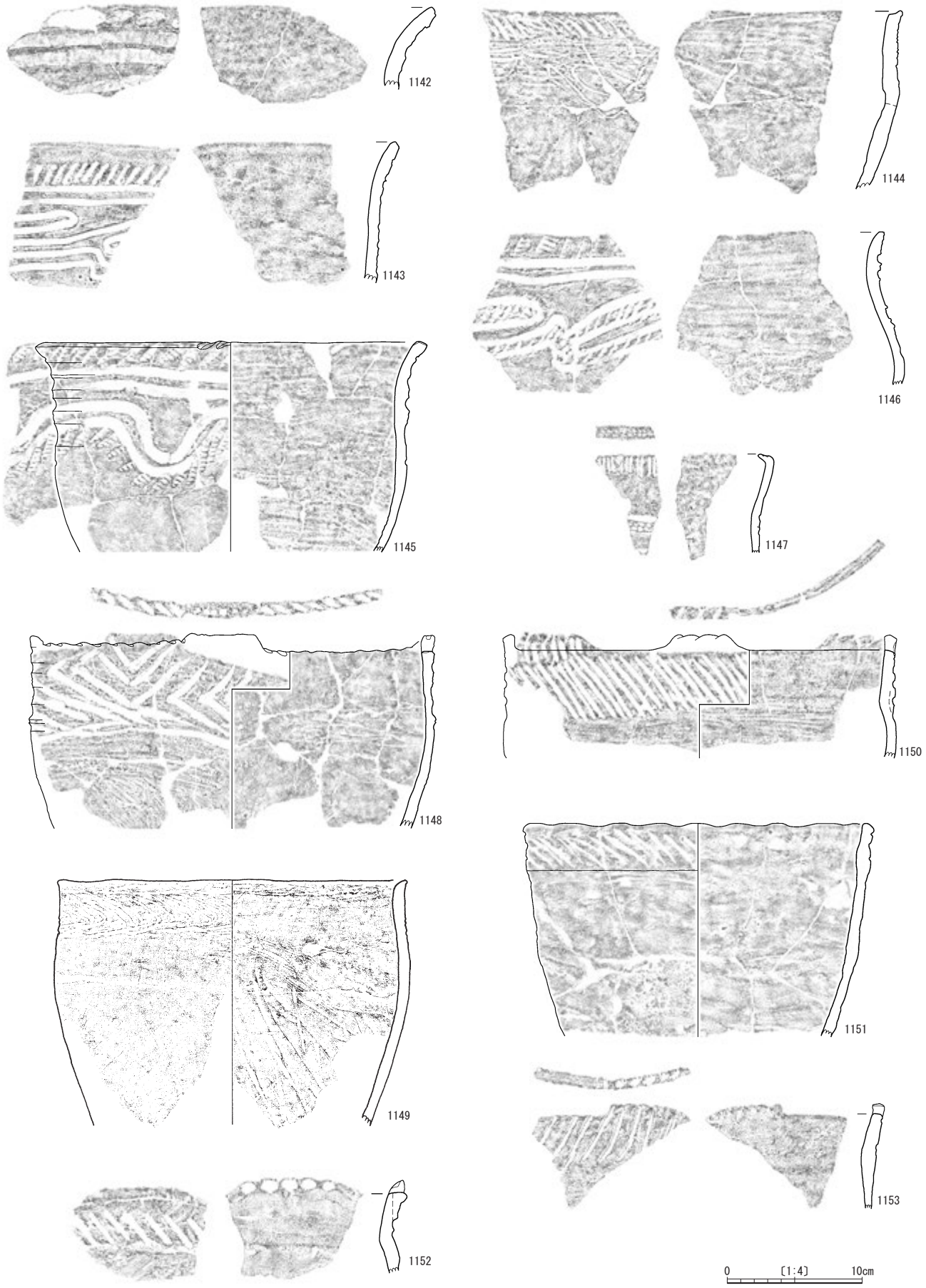
1142は，口唇部直下に凹点を連続して横位に施す。その下位には２本一組の凹線を横位に施す。口縁部は外反し，端部は丸く収める。1143は，口唇部からやや離れた位置に板状工具によると考えられる連続した斜位の刺突を巡らす。その下位には２本一組の凹線で文様を構成する。口縁部はやや外反し，その端部は丸く収める。1144は，口唇部直下に連続した斜位の刺突を巡らす。その下位には沈線で文様を描く。胴部がやや屈曲する器形で，口唇部を外側へ摘み出す。1145・1146は口唇部直下に斜位の貝殻刺突を横位に施し，その下に２本一組の凹線と押引状の貝殻刺突で文様を構成する。1145は平行曲線の下位の凹線に沿って押引状の貝殻刺突を配するが，部分的には凹線上にも貝殻刺突を施文するため凹線が消える。1146は，平行曲線の内部に貝殻刺突を施す。いずれも口縁部が外反し，胴部は膨らむ器形である。1147は器壁がやや薄く，外反する口縁部の端部を内側へ折り曲げ，棒状工具で２列の刺突を施す。口唇部直下は縦位の短沈線を連続して巡らせ，間隔を置いて２本の凹線間に棒状工具による２列の刺突が施される。胴部には補修孔の一部が残る。

Ⅱｂ類土器（第2-37～39図1148～1177）

1148～1161は，文様帯に斜位もしくは縦位の凹線や沈線の一つを連続して施すものである。口縁部は，直口もしくは外反する器形となる。

1148・1149は，文様帯に凹線で「く」の字状の文様を構成するものである。1148は横位の凹線で文様帯を区画し，文様帯には「く」の字状の凹線を組み合わせて文様を構成する。口唇部には台形状の突起をもつ。口唇部には斜位の刻みを，突起上面には刺突を施す。突起を何か所有するかは不明である。1149は幅が狭く，浅い凹線を「く」の字状に配する。文様帯の上下には明瞭ではないが，横位の凹線を巡らす。

1150～1153は，文様帯に縦位の凹線もしくは沈線で文様を構成するものである。1150は口縁部に粘土を貼り付け肥厚させ，直下に浅い凹線を巡らせ文様帯を区画する。文様帯には斜位の沈線を連続して密に施す。口唇部は平坦に仕上げ，粘土紐をひねるように貼り付け，方形状の突起を作る。突起外面には縦位の短沈線，突起上面には刻みを施す。1151は，胴部をケズリ出すことにより口縁部を肥厚させる。文様帯にはヘラ状工具による斜位の沈線を連続して密に施す。厚さの一定しない胴部はやや膨らみながら立ち上がり，口縁部はやや外傾する器形をもつ。口縁部は，細かく波打つような形状を呈する。1152は胴部をケズリ出し，口縁部を肥厚させる。さらに，肥厚部直下にごく浅い凹線を横位に巡らせ文様帯を作る。文様帯には斜位の幅の狭い凹線を斜位に連続して施す。口唇部は幅広く作り，そこに長さ８㎝ほどの粘土紐


1142
1143
1144
1145
1146
1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
0 〔1:4〕 10cm

第2-37図　Ⅱ類土器（１）

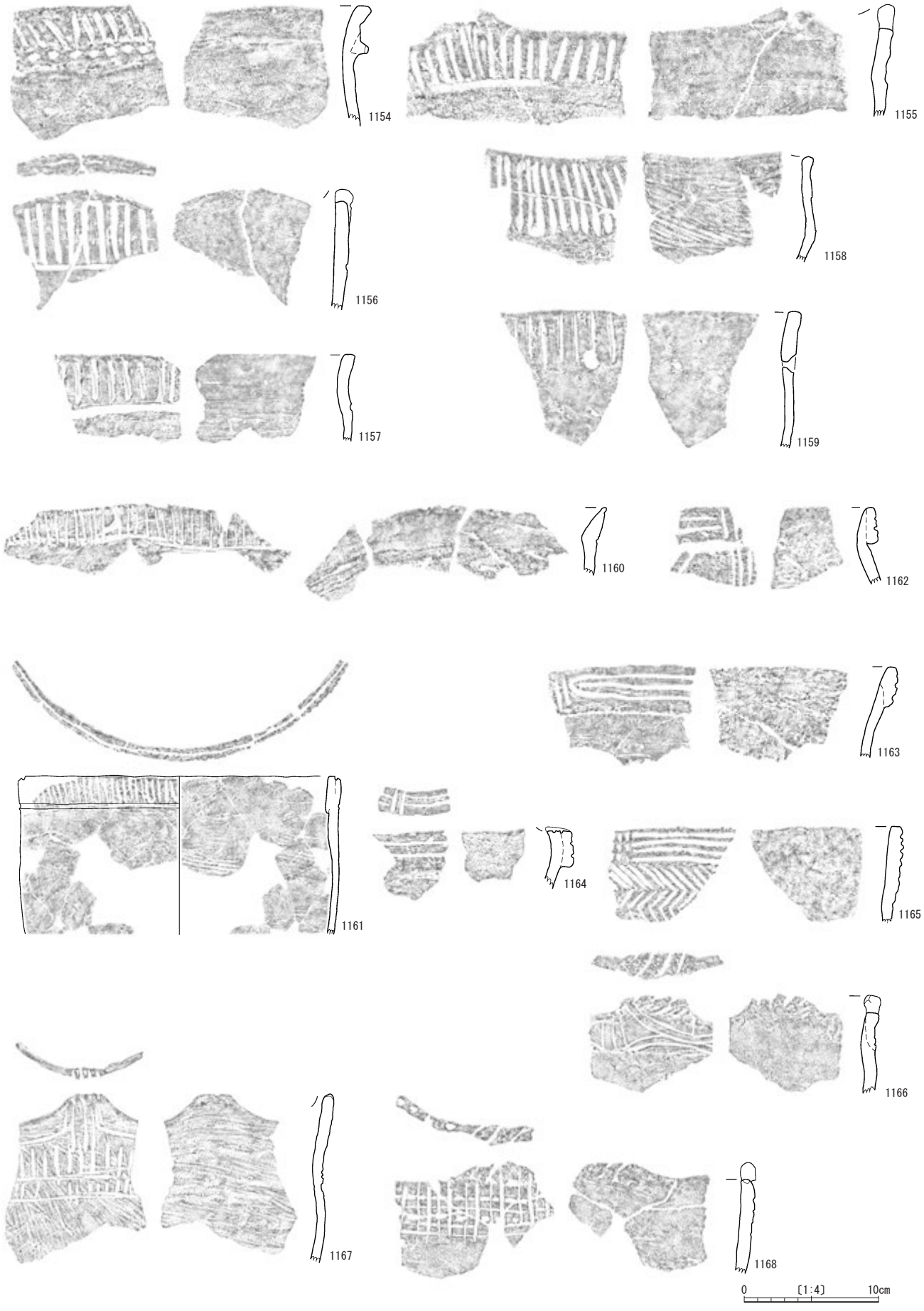
を貼り付け突起とするが，接合痕が明瞭に残る。突起上面の内側寄りには押圧による凹点を５個施す。1153は，口縁部文様帯を肥厚させる。口唇部は平坦に仕上げ，方形状の突起を付け，その上面には貝殻刺突を施す。文様帯には突起外面から連続した斜位の沈線を施す。

1154～1161は，文様帯に縦位の凹線もしくは沈線を連続して施すものである。1154は，凹点を施した突帯を横位に貼り付けて文様帯を区画する。文様帯には斜位の凹線を施す。直立する胴部に外反する口縁部をもつ器形である。1155は，凹線を横位に巡らせ文様帯を区画する。平坦に仕上げた口唇部に粘土を貼り付けて山形の突起を作る。文様帯には縦位の凹線を連続して施す。内面には稜をもつ。二次焼成のため，器面は摩耗が著しい。1156は文様帯を横位の凹線で区画し，縦位の凹線を連続して施す。口唇部には「Ｕ」字状の粘土紐を左右対称に貼り付け，波頂部とする。1157の文様帯はやや肥厚し，凹線で下を区画する。文様帯には縦位の凹線を連続して施す。口縁部は外反し，断面は方形を呈す。1158は口縁部をやや肥厚させ，文様帯とする。文様帯には縦位の凹線を施す。文様帯下部で屈曲し，やや内傾する口縁部をもつ器形である。波状を呈する口縁部にはススが付着する。1159の口縁部は，口唇部に向かって器壁が厚くなる。文様帯には縦位の沈線を施す。口縁部と胴部の境付近に外面から穿った補修孔が残る。1160は文様帯を沈線で区画し，縦位の沈線を連続して施す。口縁部はやや外に開き，口縁内面には稜をもつ。1161は幅の狭い文様帯をもち，文様帯は粘土を貼り付け肥厚させ，沈線で区画される。文様帯には縦位の沈線を施す。胴部がやや膨らみ，口縁部は直立する器形である。口唇部に沿って細沈線が巡る。

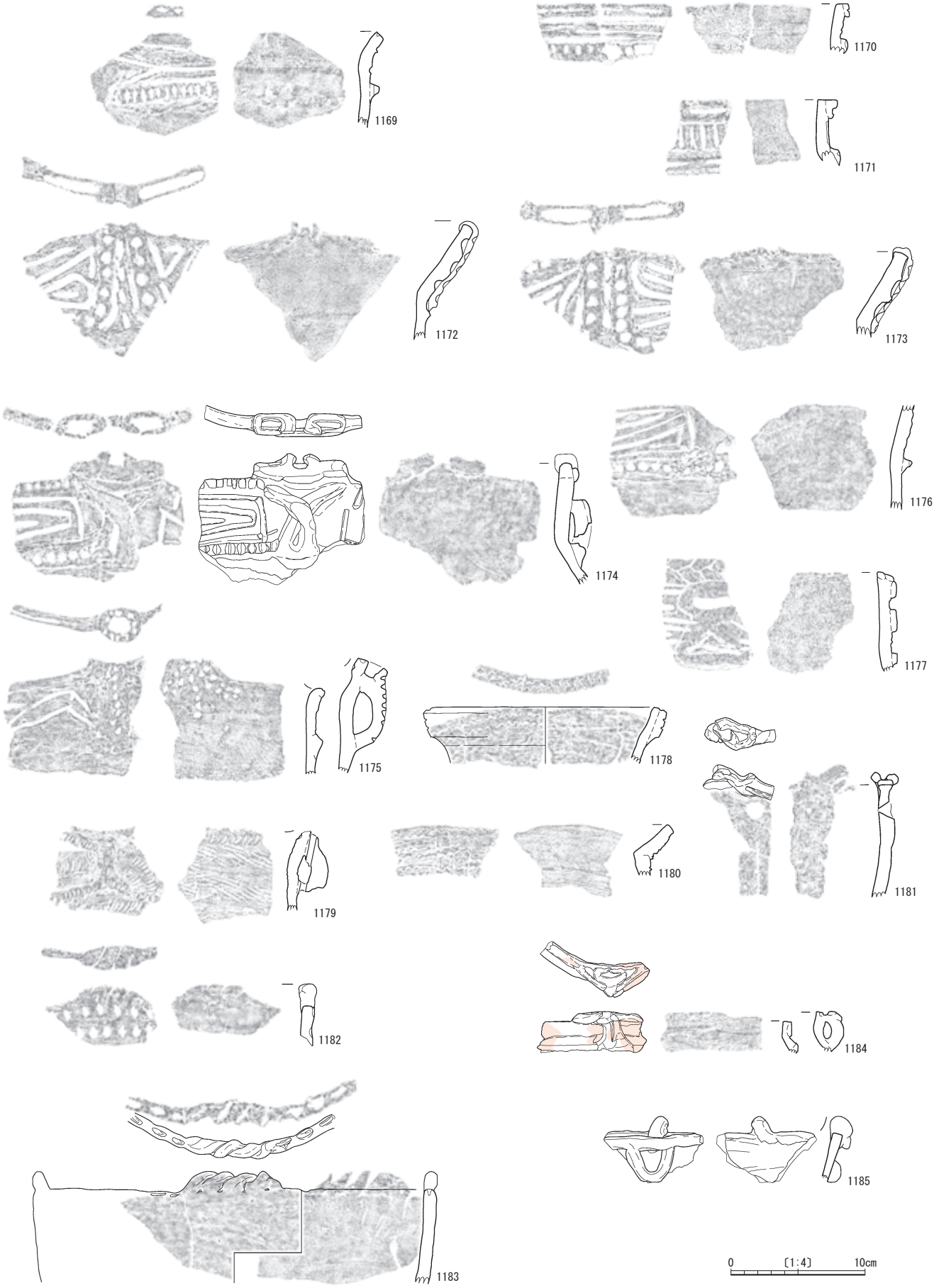
1162～1177は，文様帯に複数の文様を施すものである。1162は粘土を貼り付け肥厚させ，縦位と横位の沈線を配する。さらに，胴部には縦位と斜位の沈線を施す。内傾する口縁部は，端部で直立する器形をもつ。1163は粘土を貼り付け口縁部を肥厚させ，そこに縦位・横位の沈線で文様を構成する。1164は口縁部に粘土を貼り付けて肥厚させ，口唇部も幅広く作る。口唇部には区画する２条の沈線を配し，その両側に２条の沈線を口唇部に沿って巡らせる。文様帯にも２条の沈線を巡らせる。1165は口縁部を肥厚させ文様帯とするが，施文は胴部まで及ぶ。口唇部直下に縦３列の連点の横に４条の沈線を施す。その下に斜位の沈線を組み合わせて矢羽根状の文様を描く。細かく波打つような口縁部を呈する。1166は，文様帯と胴部の境に段をもつ。文様帯には沈線を縦位に３条，その横には２本一組の平行曲線を施す。口唇部には粘土紐をひねるように貼り付ける。1167は，やや薄手の土器である。口縁部は肥厚しないが，横位の沈線で区画して文様帯をつくる。口唇部に山形の波頂部をもち，刻みを施す。文様帯には縦位と横位の沈線で文様を描く。胴部はやや膨らみをもち，口縁部はやや外に開く。1168は，文様帯に沈線で格子目状の文様を描く。口唇部には粘土紐をひねるように貼り付け，山形の突起を作る。突起以外の口唇部には刺突が施される。1169は，刻目突帯を口縁部下端に貼り付け区画する。口縁部には沈線で文様を施す。口縁部には刺突が施される。1170は，口縁部の上端と下端に突帯を貼り付けて区画する。上端の突帯と突帯間には横位の短沈線を，下端の突帯には刻みを施す。1171は，口縁部上端と下端に突帯を貼り付け文様帯とする。突帯上には横位の短凹線を，突帯間には縦位の短沈線を施す。1172は，口唇部に向かって厚みを増す口縁部をもつ。文様帯には口縁部内面から貼り付けられた２条の突帯が垂下し，文様帯下辺で左右に分かれ横位に展開する。垂下する突帯には連続した凹点が，突帯の内側には突帯に沿った縦位の沈線を，その沈線間には強い刺突が施される。突帯の左右には，幅広い沈線で文様が構成される。幅広い口唇部には粘土を貼り付けて突起を作り，その上面には凹線を施す。外面の胴部と口縁部の境には段を，内面には稜をもつ。1173は，1172とほぼ同じような器形・文様構成をもつ。1174は，肥厚する口縁部の下端を凹点を施す突帯で区画する。口唇部に方形の突起を設け，粘土紐を周囲に絡ませるように貼り付ける。突起の下位には交差する粘土紐を把手状に貼り付ける。これの左右の文様帯には沈線で文様を構成する。膨らむ胴部は口縁部との境で屈曲し，口縁部は直立する器形である。内面には緩い稜をもつ。1175は，口縁部下端を三角突帯で区画する。文様帯には沈線で山形の文様を描く。波状口縁の波頂部には粘土紐を円形に貼り付け，上面には刺突を施す。さらに，波頂部から文様帯を区画する三角突帯までの把手を取り付け，刺突を縦に１列施す。刺突は波頂部内面にも施される。直立する口縁部は，その端部で外反する。1176は，口縁端部を欠損する。口縁部の下端を刻目突帯で区画し文様帯とするが，器壁の肥厚は見られない。文様帯には，沈線で方形に区画した中に斜位の沈線が施される。刻目突帯と連続して貼り付けられた粘土紐が部分的に残存するが，把手状に粘土紐を貼り付けた可能性も考えられる。口縁部がやや外に開く器形をもつ。1177は，文様帯のみ残存する。口唇部に２本の粘土紐を編み込む様に貼り付ける。さらに，これに接して粘土紐を「８」の字状に器面に接着する。周囲には横位や斜位の沈線が施される。口縁部は，ほぼ直立すると考えられる。

Ⅱｃ類土器（第2-39図1178～1185）

1178・1179は文様帯をもち，1181・1183は文様帯をもたず，1180・1182は文様帯の有無が不明なものである。1178は粘土を貼り付け文様帯を肥厚させ，貝殻刺突を横位に巡らせ，口唇部にも貝殻刺突を施す。1179は，口縁部上端と下端に突帯を貼り付け区画する。さらに，突帯


1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1168
0
[1:4]
10cm

第2-38図　Ⅱ類土器（２）


1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
1178
1179
1180
1181
1182
1183
1184
1185
0 [1:4] 10cm

第2-39図　Ⅱ類土器（３）

間に粘土紐を渡し，把手を作る。また，把手の上下接着面に焼成前の穿孔が残る。穿孔は上部から下部に向かって一直線に行われている。突帯・文様帯には爪形刺突が施されるが，施文は口縁部内面や文様帯外にも及ぶ。1180は口縁部から胴部にかけて貝殻刺突を横位に，その後に縦位・横位の沈線が施される。1181は口縁部の器壁が薄く，外面から内面に向けて焼成後の穿孔がある。口唇部には粘土紐を交差させるように貼り付けて突起を作る。1182の口縁部には１列目は斜め上方へ，２列目は斜め下方に刺突が施される。口唇部には粘土紐をひねるように渡して突起を作る。1183は，口唇部に粘土紐をひねるように貼り付けて突起を作る。突起以外の口唇部には刺突を施す。口縁部に文様帯はなく，無文である。

1184・1185は，浅鉢と考えられる。1184は口縁部が直立し，胴部が膨らむ器形をもつ。口唇部に粘土紐を貼り付け突起を作り，さらに突起から胴部屈曲部へ粘土紐を渡して把手とする。1185は，口唇部に粘土紐を摘み状に貼り付け突起を作る。さらに，粘土紐を口縁部外端に沿って突起の下方に「U」字状に貼り付ける。

【Ⅲ類土器】

口唇部直下に横位の沈線を２条巡らせ，その下に２本１組の沈線で多様な文様を描くものである。文様は胴部上位まで広がるもの，口縁部に集約するものがある。器種は深鉢，鉢，台付皿，小型土器，器台状を呈する土器等があり，多様性に富む。

深鉢は口縁部文様によりⅢａ類からⅢｄ類に分類し，Ⅲａ類とⅢｂ類はさらに細分した。深鉢の口縁部形態は多岐にわたり，くびれをもって外反するもの，直立するもの，内湾するものなどがある。また，胴部は張るものと張らないものがある。鉢はⅢｅ類とし，さらにⅢe-１類からⅢe-４類に細分した。鉢には把手をもつものともたないものがあり，把手がつくものは多様な形状をもつ。Ⅲｆ類は小型土器，台付皿，その他の土器を含めた。

Ⅲ類土器の分類は，次のとおりである。

Ⅲａ類土器

口唇部直下に横位の沈線を巡らせ，その下位に複数の文様を沈線で施すものである。Ⅲａ類は文様の及ぶ範囲と文様構成により２つに細分した。

Ⅲa-１類　文様を施す範囲が口縁部から胴部上位に及び，複数の文様を施すものである。

Ⅲa-２類　文様を施す範囲が口縁部に集約し，複数の文様を施すものである。

Ⅲｂ類土器

口縁部に単一の文様を施すものである。文様の及ぶ範囲で大別し，文様が口縁部に集約されるものを７つに細分した。

Ⅲb-１類　口縁部から胴部上位までの範囲に単一の文様が施されるものである。

Ⅲb-２類　文様が口縁部に集約し，靴形文を描くものである。

Ⅲb-３類　文様が口縁部に集約し，山形文を描くものである。

Ⅲb-４類　文様が口縁部に集約し，横「W」字文を描くものである。

Ⅲb-５類　文様が口縁部に集約し，波形文を描くものである。

Ⅲb-６類　文様がほぼ口縁部に集約し，平行沈線文の間に刺突を施すものである。

Ⅲb-７類　Ⅲb-１～６類に分類できなかったものである。

Ⅲｃ類土器

Ⅲａ類・Ⅲｂ類土器に含まれないものである。

Ⅲｄ類土器

無文の深鉢である。

Ⅲｅ類土器

鉢をまとめ，次のように細分した。

Ⅲe-１類　口縁部から胴上部の文様帯に複数の文様を施すものである。

Ⅲe-２類　文様体に主として靴形文・山形文・横「W」字文等の単一文様を施すものである。

Ⅲe-３類　文様帯に複数の沈線とその間に刺突を施すものである。

Ⅲe-４類　Ⅲe-１～３類に含まれないものと橋状把手をまとめた。

以下，分類に従って記述する。なお，掲載番号1213・1214・1239・1344は，放射性炭素年代測定を行った。

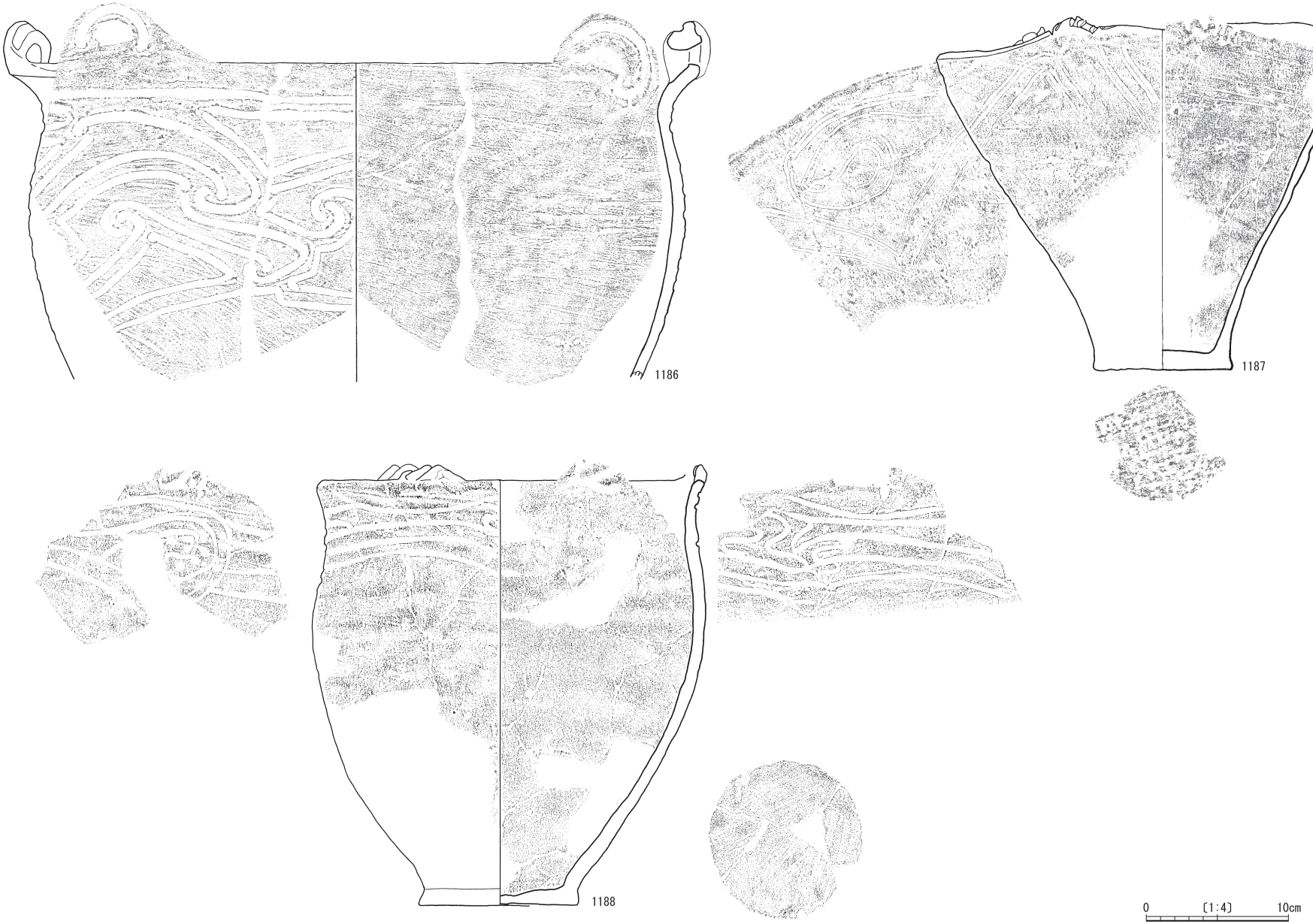
Ⅲａ類土器

Ⅲa-１類土器（第2-40図1186・1187）

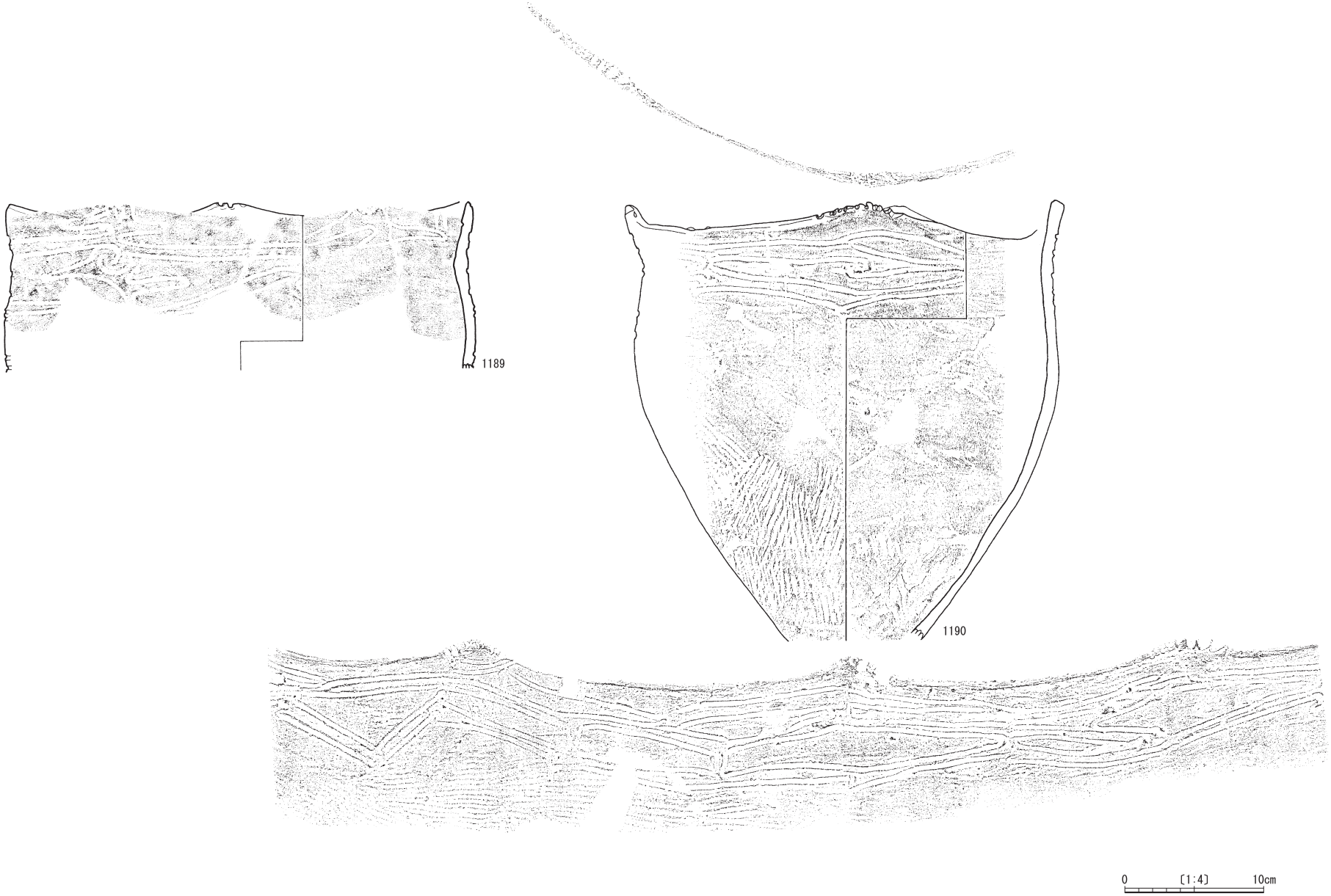
1186は口唇部直下に横位の沈線を巡らせ，その下位に太い沈線で曲線文，鉤手状の渦巻文，直線文を描く。胴部は緩やかに張り，口縁部は外反する器形をもつ。接合はしないが，同一個体と考えられる土器片も含め突起が２か所残存する。突起は口縁部の外面と内面を渡すように貼り付けられ，突起の中央部に２㎝程度の穿孔を施す。さらに，穿孔に沿うように半円形の沈線を内外面に描く。1187は，口縁部が直線的に外傾する。口縁部には渦巻文と山形文を施す。突起が２か所残存し，全体では３か所と考えられる。突起には５～６条の刻みが施される。

Ⅲa-２類土器（第2-40～44図1188～1198）

1188～1190は，くびれをもちながら口縁部が外反するものである。1188は，口縁部に渦巻文・曲線文を描く。渦巻文の間には，刺突を行う箇所もある。口唇部に突起を３か所もつが，１か所は欠損する。突起は，２本の粘土紐を組紐状にねじって作る。口縁部は外反し，くびれ



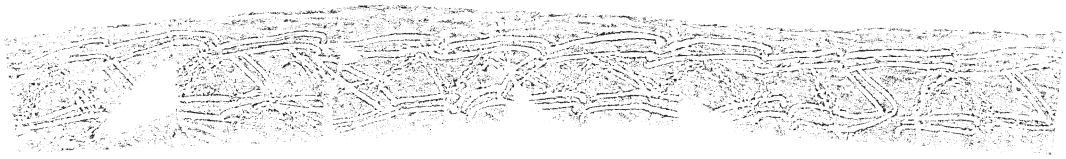
第2-40図　Ⅲ類土器（１）

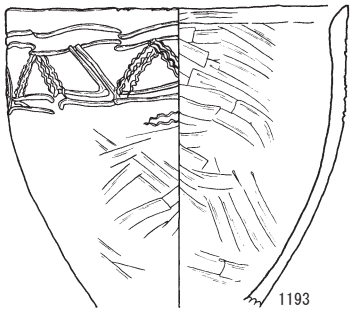


第2-41図　Ⅲ類土器（２）

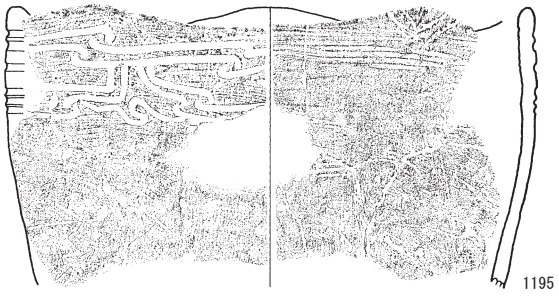


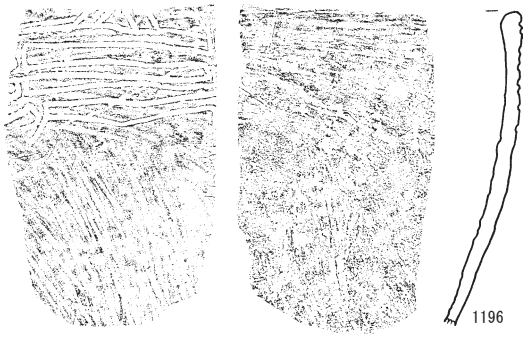
第2-42図　Ⅲ類土器（３）

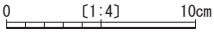




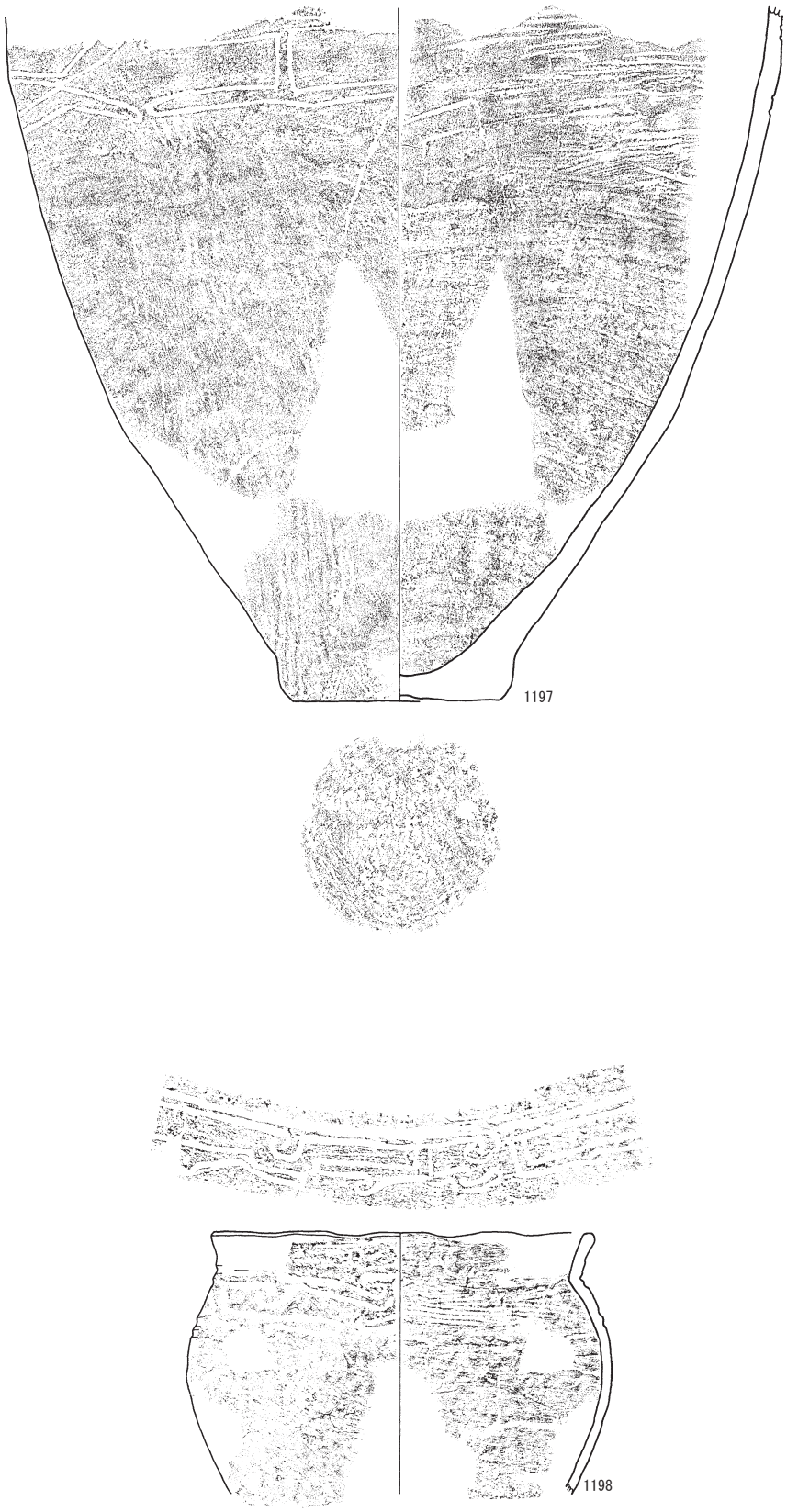




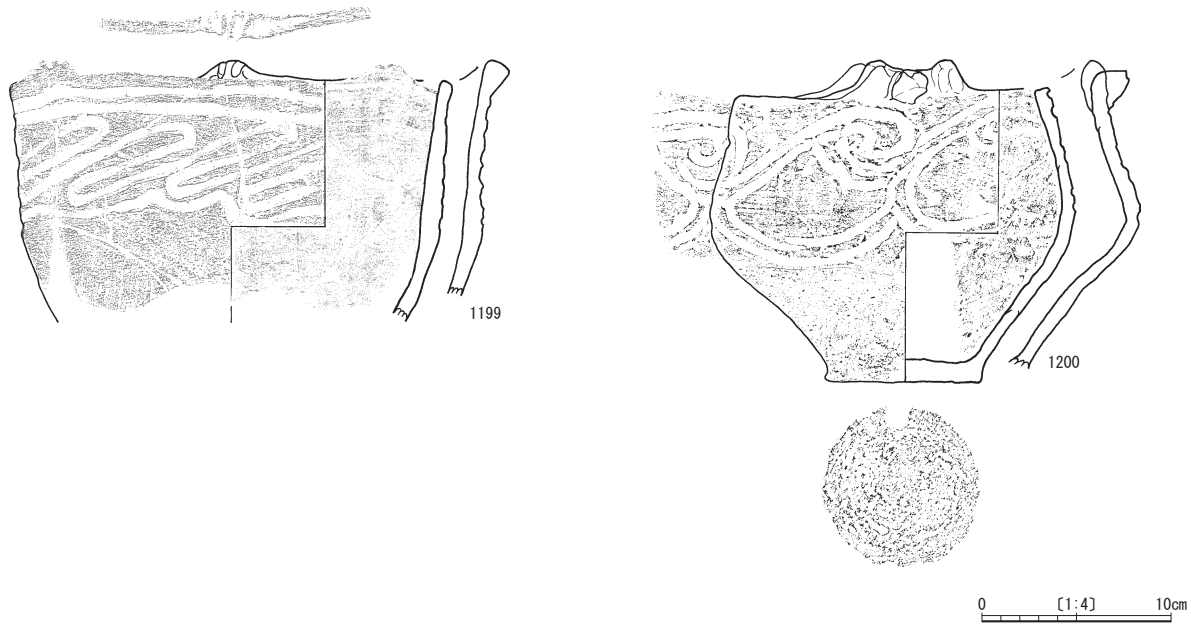




第2-43図　Ⅲ類土器（４）



第2-44図　Ⅲ類土器（５）



第2-45図　Ⅲ類土器（６）

ながら続く胴部はやや張りをもち，すぼまりながら底部に至る。円盤状の底部を貼り付け，接地面は外側へ張り出す。底面はケズリで器面調整を行い，白色土が付着する。1189は，口縁部に渦巻文や曲線文を描く。波頂部が２か所残存し，全体で４か所と考えられる。波頂部の上面から外面にかけて４条の沈線を，波頂部の両側にも口唇部から内面に向けて２条の沈線を施す。波頂部直下の内外面には曲線文を施す。口縁部の内面には緩い稜をもつ。1190は，口縁部に山形文・鉤手文・方形状の文様を描く。波頂部が４か所残存し，上面に貝殻刺突を５～９条施す。波頂部直下の外面に半円形の沈線を２条施す箇所もある。

1191～1197は，口縁部が内湾する。1191は，口縁部に横「W」字文や「S」字文，曲線文を描く。1192は，口縁部に「S」字文や楕円形の曲線文を描く。1193は口縁部の上下に２本一組の波形文を横位に配し，その間に斜位の沈線を施す。その後貝殻刺突による山形文を施す。口唇部の１か所に２条の刻みを施すが，文様を展開させる起点にしたと考えられる。1194は口縁部に渦巻文や菱形文等を描き，突起が２か所残存する。1195は，口縁部に鉤手文や曲線文を描く。波頂部は，１か所残存する。1196は，口縁部に三角文や方形状の文様を描く。1197は口縁部を欠損するが，内湾する器形と考えられ，「X」及び「I」字状の文様を描く。

1198は口縁部が短く外反し，胴部が張る器形をもつ。口縁部内面には稜をもつ。口縁部のくびれ部には２条の沈線を巡らせ，その下には渦巻文・鉤手文・靴形文が施される。文様の割り付けを行っていると考えられる。

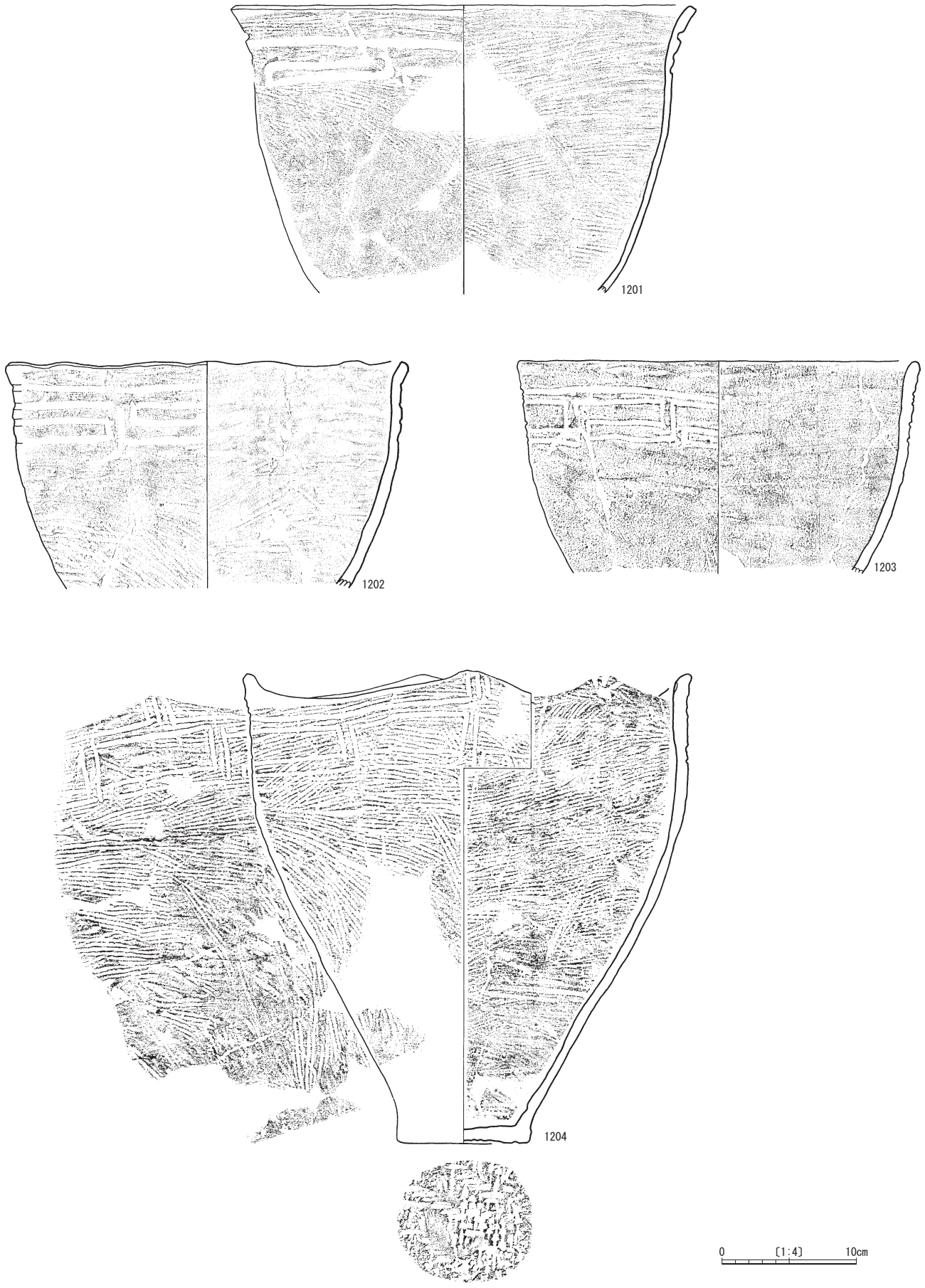
Ⅲb類土器

Ⅲb-１類土器（第2-45図1199・1200）

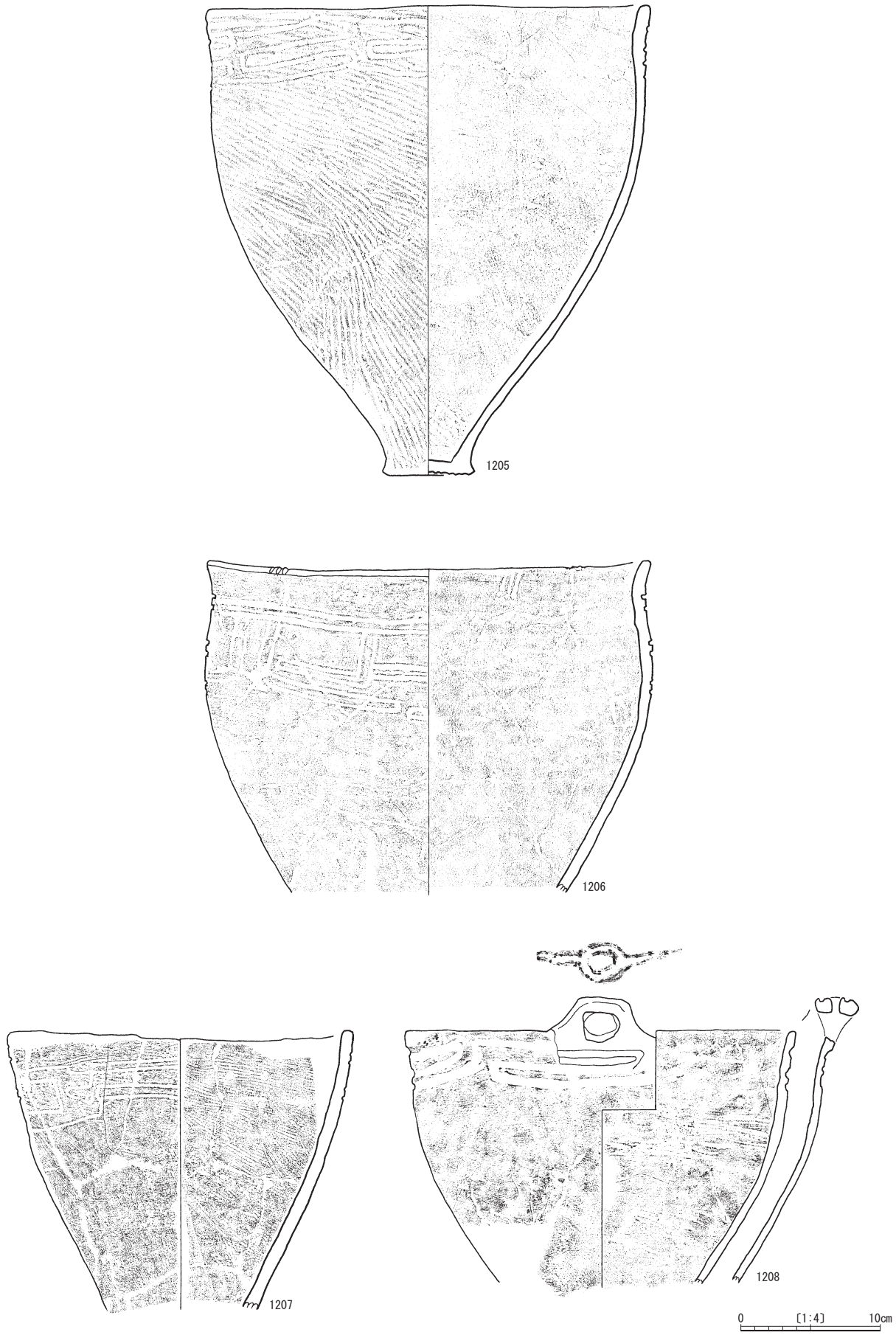
1199は突起が１か所残存し，全体で２か所と考えられる。口唇部直下に２条の沈線を巡らせ，その下に大波文，さらに下に波形文を施す。胴部の張りは緩く，口縁部はやや外反する。1200は底部から胴部へは直線的に開き，張り出す胴部と内湾する口縁部をもつ器形である。突起は２か所残存するが，１か所は痕跡が残る。それぞれの突起は頂部を２か所もち，２か所の頂部に直交するもう１か所の頂部を外面側にもつ。口縁部から胴部にかけて大振りな渦巻文を横位に展開する。底面には鯨骨の圧痕と白色土が残る。

Ⅲb-２類土器（第2-46～50図1201～1222）

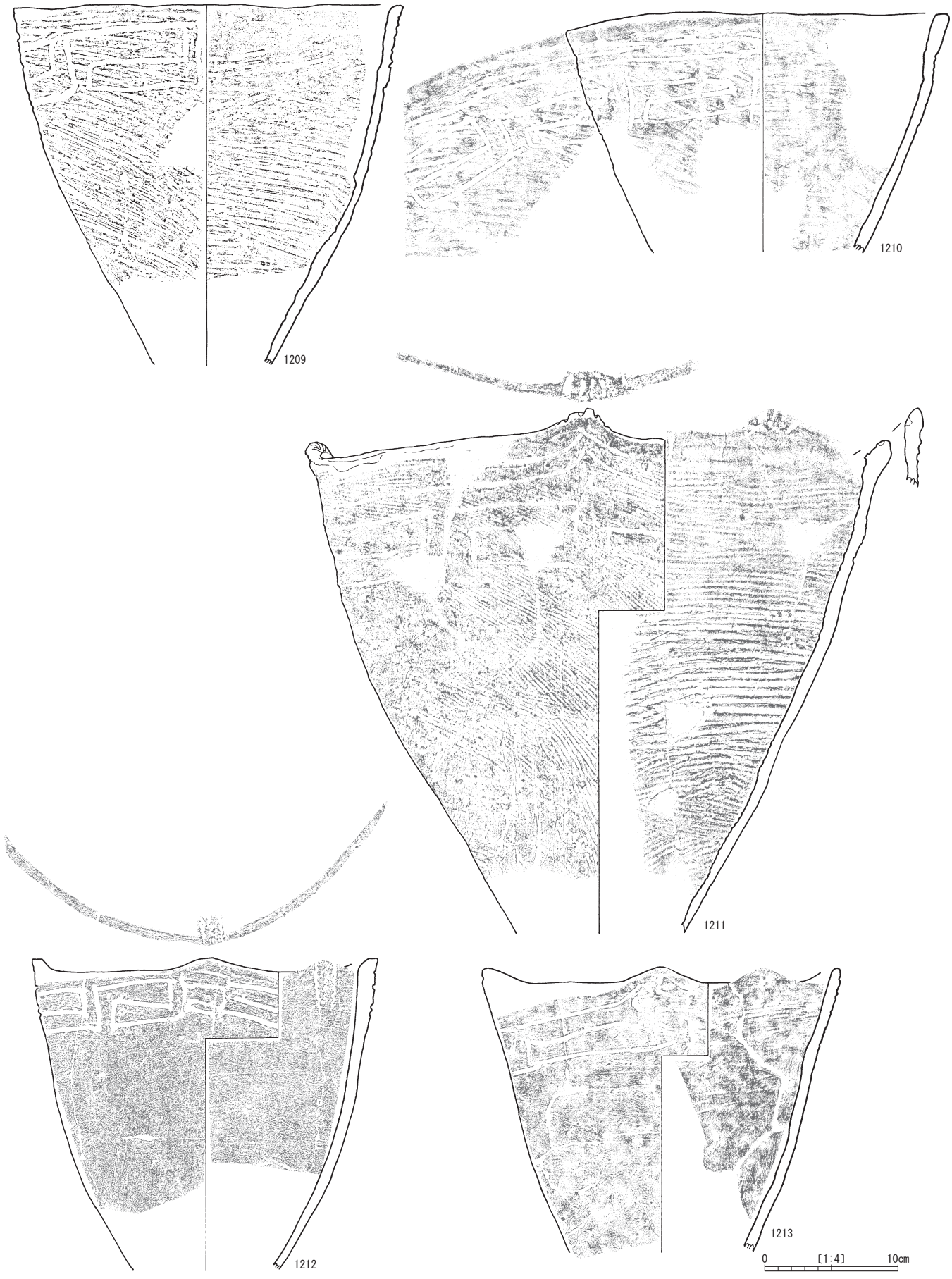
1201～1206は，口縁部が外反する。この中でも，1201・1202・1205・1206はややくびれながら外反する。1201～1204は靴形文が明確であるが，1205・1206は靴形文が変形する。1202は，胴下半に条痕が残る。1204は口縁部がやや外反し，波頂部を４か所もつ。波頂部外面には縦位の沈線を３条施し，これを起点に口縁部の文様が展開される。また，波頂部の内面には円形の刺突を１か所施し，ここから放射状に３条の沈線を配置する。胴部はやや張るが，底部へはすぼまりながら至る。円盤状の底部はやや摘み出すように貼り付ける。また，網代の圧痕が残る底部は，やや上げ底気味となる。1205は平口縁で，やや張りをもつ胴部から底部に向かってはすぼまる。口径に対して底径が小さい。外面には明瞭な条痕が，底部には網代痕が残る。1206は平口縁で，口唇部から内面にかけて縦位の沈線を３条施すが，全体で何か所に施されるかは不明である。この沈線の端部には半裁竹管文



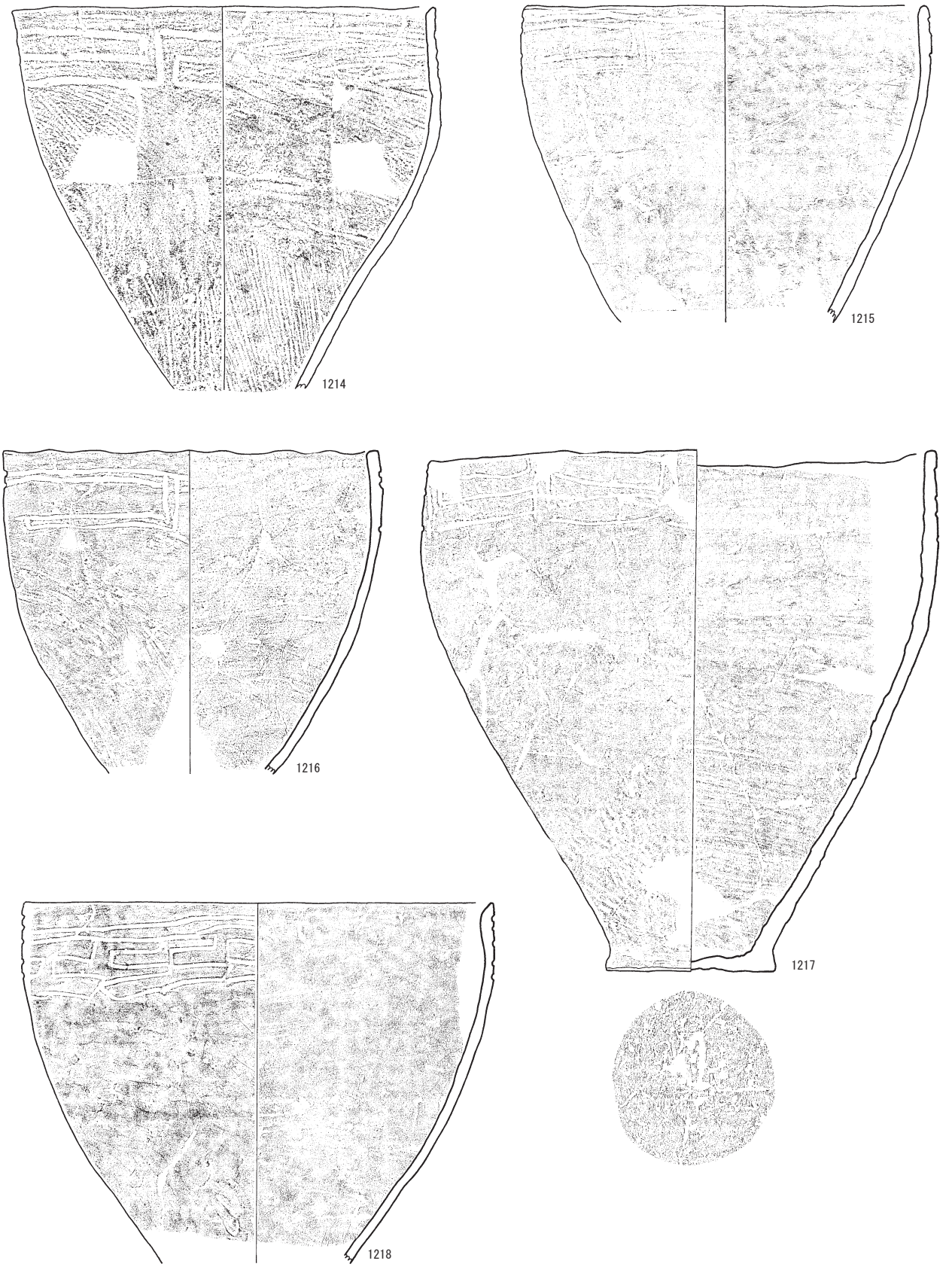
第2-46図　Ⅲ類土器（７）



第2-47図　Ⅲ類土器（８）



第2-48図　Ⅲ類土器（９）



第2-49図　Ⅲ類土器（10）



第2-50図　Ⅲ類土器（11）

を施す。また，この沈線が起点となって口縁部文様が展開されてはいない。外面の文様は，靴形文で区画した中にも小さな靴形文を描く。

1207・1208は，口縁部が直立するものである。1207は平口縁で，口唇部は波打つ。横位の沈線を巡らせた下に靴形文を描くが，部分的に規格性が崩れる。1208は突起部をもつが，全体的な数は不明である。突起の中央部は円形に切り取られる。さらに，上面は円形に沈線を配した中にも孔をもつ。文様帯は狭く，口唇部直下の沈線と靴形文が一体化している。

1209～1213は，口縁部が直線的に外に開くものである。1209は，口縁部に靴形文を一定間隔で施す。しかし，一周した所に空白が生じるため鉤形の沈線で埋める。内外面とも明瞭な条痕が残る。1211は３か所の波頂部が残存し，全体では４か所と考えられる。波頂部の上面から内面にかけて５条の刻みを施した後，内面には２～５か所の刺突を行う。外面の文様は波頂部下に起点をもち，２条の並行沈線を巡らせ，その下位に靴形文を描く。文様の割り付けを行っていないため，部分的に文様の単位が小さくなる。外面は条痕後ナデ調整を行い，内面には条痕が明瞭に残る。1212は波頂部が２か所残存し，全体で４か所と考えられる。波頂部の内面には貝殻刺突を施す。波頂部が文様の起点とはならず，靴形文の単位幅が一定しない。1213は，波頂部直下の外面に変形した靴形文を描く。

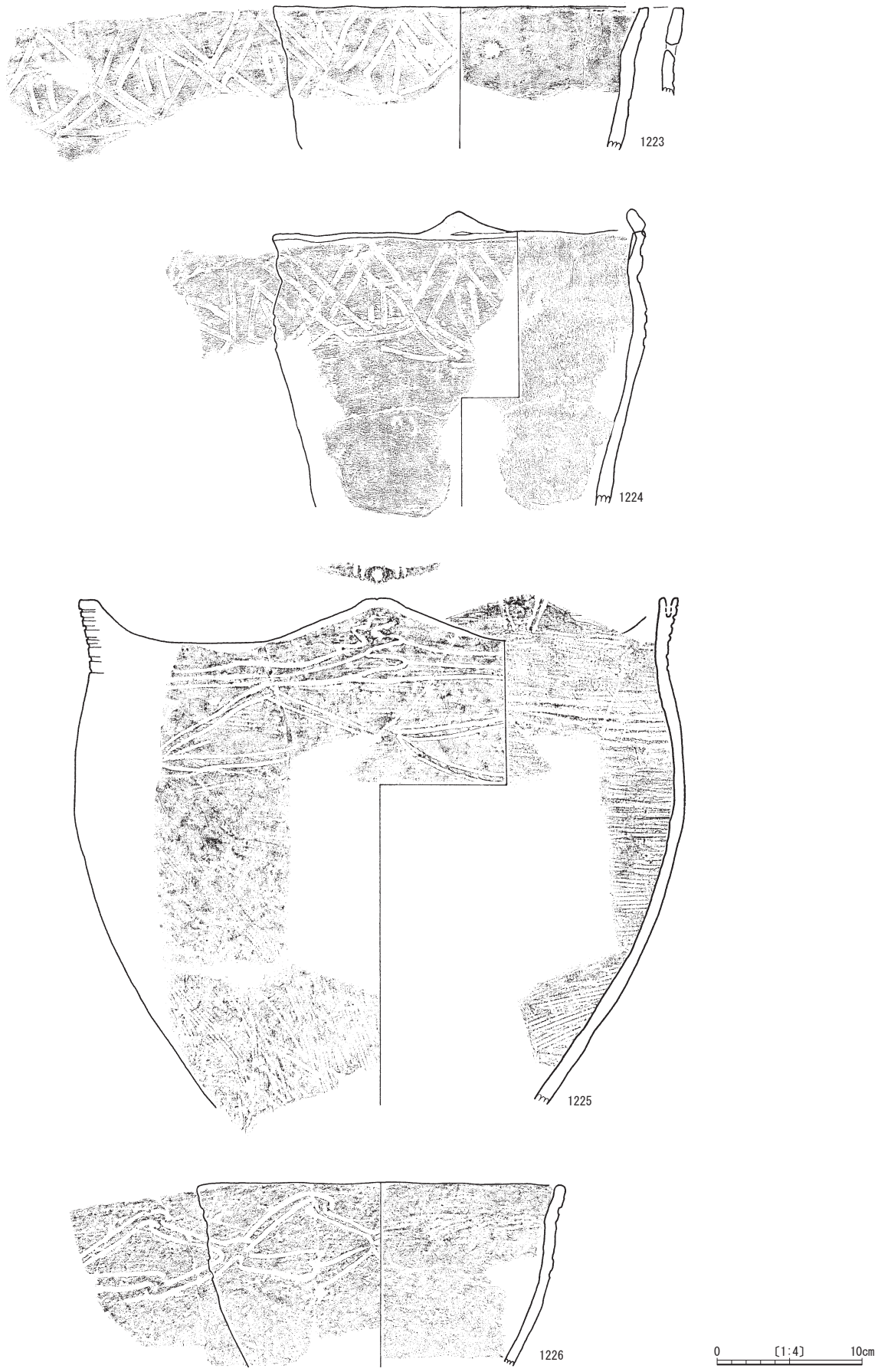
1214～1218は内湾する口縁部で，いずれも平口縁である。1217・1218の文様は，靴形文の変形である。1216は文様の割り付けを行っていないため，文様の単位が一定しない。口縁はやや波打つ。1217は，かなり歪な靴形文を施す。外面は条痕の後にナデ調整を，内面はケズリの後にナデ調整を行う。底部は網代痕をナデ消し，白色土が全面に付着する。円盤状の底部は，摘み出すように貼り付ける。底部の内面には指頭圧痕が，明瞭に残る。

1219・1220は口縁部は短くやや外反し，胴部は強く張る。口縁部と胴部の境から胴上半に靴形文を展開する。1219は，胴部から底部に向かってすぼまる器形をもつ。口縁部にはススが付着する。外面の胴下半には条痕が残り，内面は条痕後ナデ調整を行う。1220は，靴形文の下位に鉤手文を配する。1221・1222は文様帯の幅が狭く，肥厚する。1221は，補修孔が残る。

Ⅲb-３類土器（第2-51～53図1223～1236）

1223～1227は，口縁部がくびれをもって外反する。1223・1224・1226・1227は平口縁で，1225は波状口縁となる。1223は口縁部に山形文を組み合わせて菱形状の区画を設け，その中に２条の短沈線を施す。口唇部は平坦に仕上げ，口縁内面には緩やかな稜をもつ。口縁部には補修孔が穿たれる。1224は，1223と文様構成や胎土・色調が似ていることから同一個体と考えられる。突起が，１か所残存する。1225は，波頂部が１か所残存する。波頂部の口唇部には深い刺突を１か所，この両側には内面に向かって２条の短沈線を施す。波頂部直下の外面には横「W」字文を施し，その両側には横位の沈線を３条施す。さらに，その下位には山形文を横位に展開する。1226・1227は，口縁部に変形した山形文を横位に展開する。1227は内面に３～４条の沈線を４か所に施すが，４か所の間隔は不均等である。口縁部に変形した山形文を一定の間隔で巡らせるが，終点では文様の幅が狭くなる。底面には網代の圧痕が残るが，一部はナデ消している。また，白色土が付着する。胴部は幾分膨らむが，左右でその度合いに違いがある。土器は自立するが，その座りは悪い。

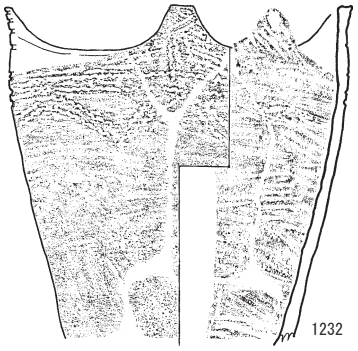
1228～1233は，直立もしくは外開きになる口縁部をもつ。1228・1229・1231・1233は平口縁，1230・1232は波

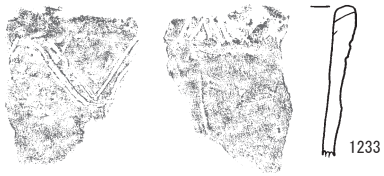


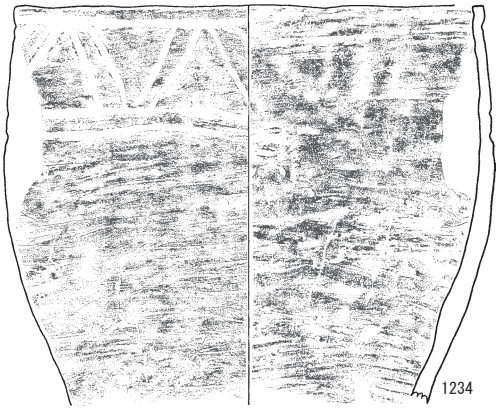
第2-51図　Ⅲ類土器（12）

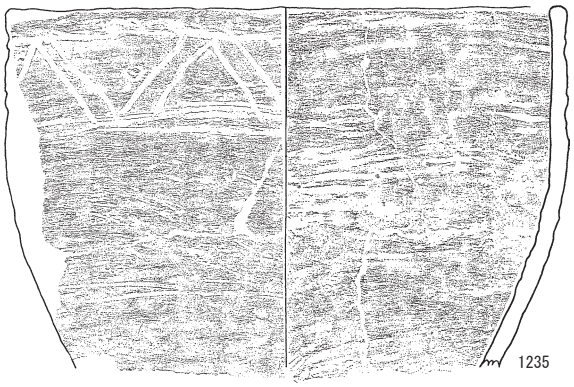


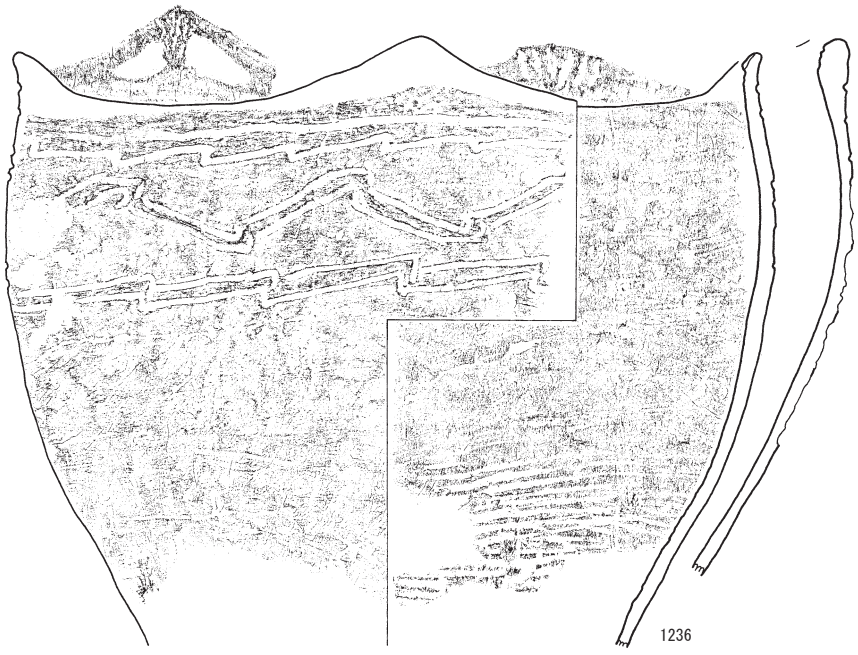
第2-52図　Ⅲ類土器（13）

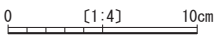












第2-53図　Ⅲ類土器（14）

状口縁となる。1228は横位に連続した貝殻刺突を２段施し，その下に貝殻刺突で山形文を横位に展開する。等間隔で文様は施されるが，終点と考えられる部分では文様構成が乱れる。1229は破損した突起の痕跡が２か所残存し，その間隔からは全体で３箇所の突起を想定できる。貝殻刺突の山形文を組み合わせて菱形状の文様を横位に展開する。1230は，波頂部が３か所残存する。波頂部の内面には縦位とその両側に斜位の刻みを施す。波頂部の外面直下には平行沈線で「Ｖ」字状の文様を施す。さらに，その下には山形文を横位に展開した後，口唇部直下に横位の平行沈線を施す。1231は突起が１か所残存するが，上部は破損する。口縁部の一部に山形文が施されるが，他は無文である。底部も欠損するが，中空か脚台が付くと考えられる。底面には白色土が付着する。1232は台形状の波頂部をもち，口縁部には貝殻刺突で山形文を横位に展開する。1233は内傾した平坦な口唇部には斜位の沈線を重ねて山形文を，口縁部には平行沈線で山形文を施す。口唇部には突起をもつ。

1234～1236は，内湾する口縁部をもつ。1234・1235はいずれも口唇部直下に１条，口縁部下位に２条の沈線を配し，その間を２条の沈線で山形文を施す。1236は３か所の波頂部が残存し，全体で２対の４か所と考えられる。１対は低い山形の波頂部で，内面に貝殻刺突を縦位に施す。もう１対の波頂部は高さがあり，内面の両脇をえぐり取る。口唇部直下に横位の沈線を１条，その下に鉤手状の沈線を巡らす。主文様の山形文は，鉤手状の沈線を組み合わせて描く。

Ⅲb-４類土器（第2-54～56図1237～1249）

1237～1242は，くびれながら口縁部が外反するものである。1237は平口縁で，口唇部は平坦となる。外面は条痕が全面に残り，横位に横「W」字文を施す。1238は波頂部を４か所もち，ここを起点に口唇部直下に横位の沈線を巡らす。横「W」字文を一定の幅で施すが，狭くなる部分もある。波頂部内には，「X」字状に貝殻刺突を施す。1239は外面に横「W」字文を展開するが，波頂部の内外面には沈線を山形に重ねて施す。1240は波頂部が１か所残存し，全体では４か所と考えられる。波頂部には５条の刻みを施し，内面に渦巻文を描く。口唇部直下に１条の沈線を横位に巡らし，波頂部の直下は鉤形の施文を行う。横「W」字文は，一定の間隔で施される。1241は，２か所残存する波頂部に５条の刻みと貝殻刺突を施す。さらに，内面には曲線文と貝殻刺突で文様を構成する。外面には波頂部を起点に施文する。２組の横「W」字文は一筆描きで，その間は鉤形文を施す。1242は突起が１か所，突起の痕跡が１か所残存する。全体では３か所の突起をもつ。山形の突起は上部を肥厚させ，中央部を剥ぎ取る。横に間延びした横「W」字文を展開する。

1243は，口縁部が直立する。平口縁で，１か所の突起が残存するが，剥離の痕跡から全体では２か所と考えられる。突起の内面には，斜位の短沈線を６条施す。横「W」字文は規格性に乏しく，口縁部には指頭圧痕が残る。底部は，網代痕を削って器面調整を行う。器面には白色土が多く付着する。内面は，ケズリによる調整を行う。

1244～1246は，口縁部が直線的に外に開くものである。1244は，波頂部を４か所もつ。波頂部の外面には３条の沈線を縦位に，内面には４条の刻みを施す。波頂部を起点に鉤形の沈線を横位に施す。横「W」字文を施すが，文様が上下にずれる部分もある。内外面及び底面には条痕が明瞭に残る。底部から口縁部まで直線的に開く器形をもつ。丸底状の底部に円盤状の粘土を組み合わせて成形する。1245は４か所の波頂部をもつが，その間隔は一定でない。波頂部内面には刻みを施すが，その数はそれぞれ異なる。口縁部には焼成後の補修孔が２か所残る。

1247・1248は，口縁部が内湾する。1247は波頂部と突起が１か所ずつ残存するが，それぞれ２か所と考えられる。突起は，２本の粘土紐をねじって口唇部に貼り付ける。横「W」字文は規格性に欠け，突起や波頂部が外面文様の起点となっていない。1248は波頂部が１か所残存し，内面は斜位と縦位の沈線を施す。波頂部直下に互いに向かい合った２組の横「W」字文を一筆描きで施す。口縁部には焼成後の穿孔が１か所残る。胴部の張りがやや強く，ここに最大径をもつ。

1249は口縁部が短く，胴部が張る。短い口縁部は外に開き，内面に緩い稜線をもつ。胴部は強く張る器形で，ここに最大径をもつ。口縁部内面に横位の貝殻刺突を連続して２段施す。

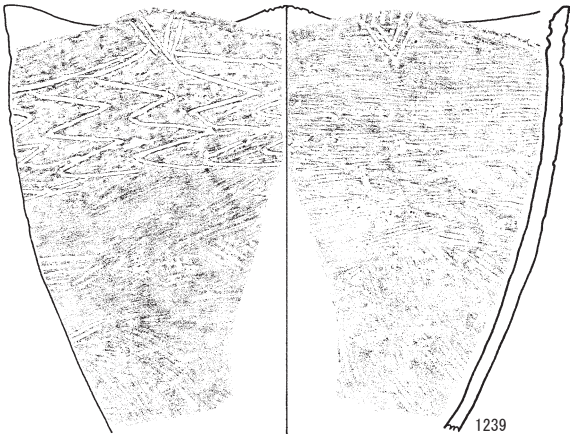
Ⅲb-５類土器（第2-57～58図1250～1268）

1250はくびれをもちながらやや外反する口縁部に，胴部は幾分張る器形である。口唇部直下に１条の沈線を巡らせ，その下に波形文を横位に展開する。

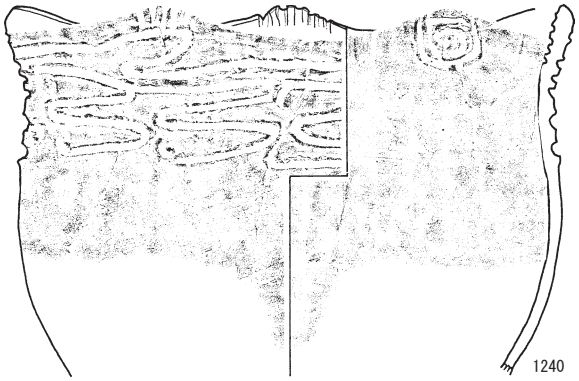
1251～1257は，直立する口縁部をもつ。1251は完形品で，波頂部を４か所もつ。１対は３条の沈線を施す山形の波頂部で，１対は粘土紐をねじって波頂部を作る。口唇部直下に横位の沈線を巡らすが，山形波頂部の直下では沈線が跳ね上がり，もう１対の波頂部の直下では沈線が折れ曲がる。横位の沈線の下には波形文を横位に展開する。1252は波頂部を４か所もつと考えられる。対毎に高さが異なる波頂部には刻みを施す。不規則に折れ曲がる横位の沈線と山形状の波形文を展開する。1253は波頂部を４か所もつと考えられるが，１対は山形の波頂部，もう１対は粘土を貼り付けて肥厚させた低い波頂部である。横位の沈線と波形文で文様を展開する。1254は，波頂部を４か所と想定する。波頂部内面には円形の刺突と放射状の沈線を３条施す。口唇部直下に横位の沈線はなく，２条の波形文のみを展開する。上位の波形文は，波頂部が起点となって施される。1255～1257は，変形波形

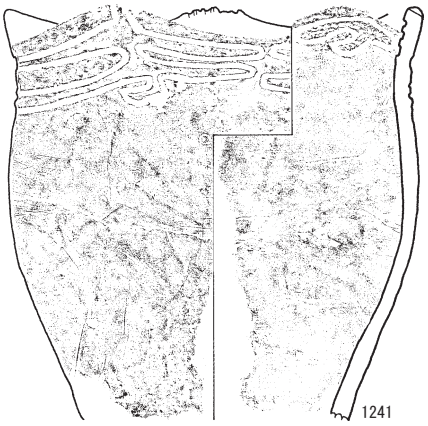


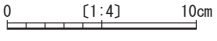








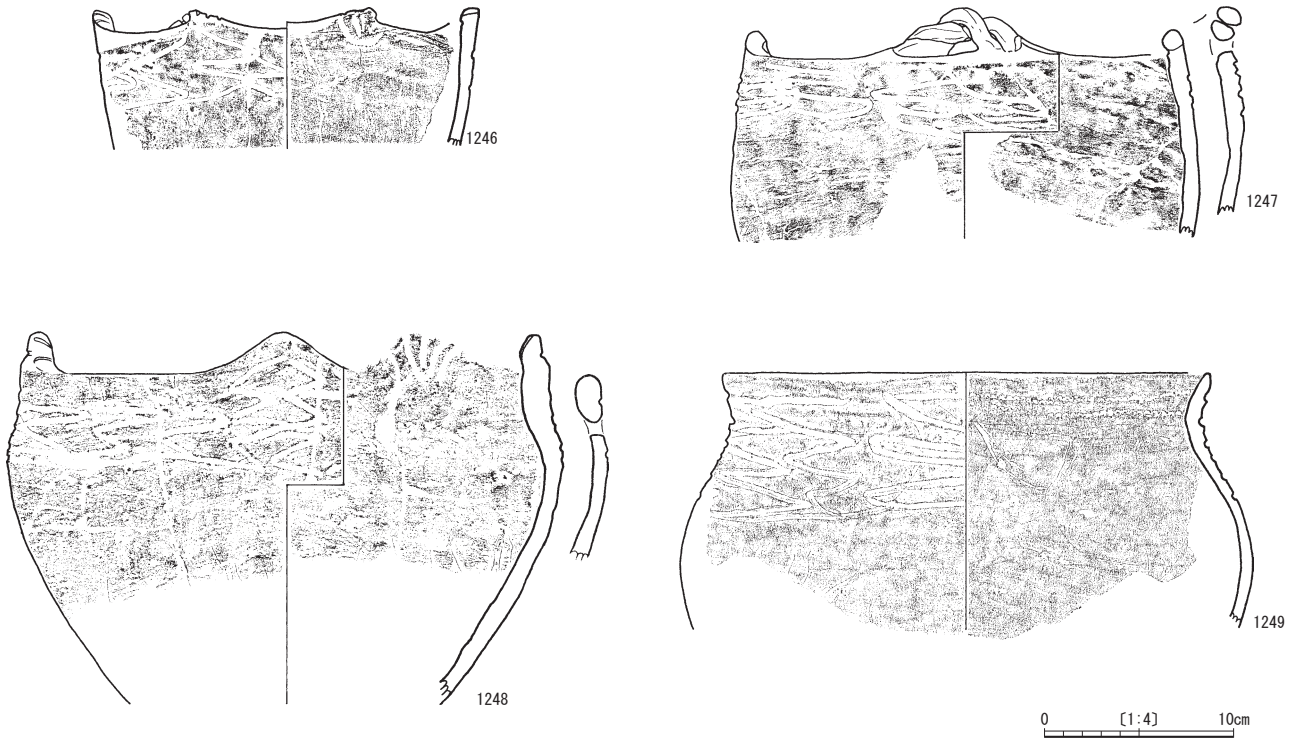




第2-54図　Ⅲ類土器（15）



第2-55図　Ⅲ類土器（16）



第2-56図　Ⅲ類土器（17）

文を横位に展開する。1256は刻みを施す波頂部が２か所残存し，全体で３か所と考えられる。1257は刻みを施す波頂部を３か所もち，それぞれの波頂部には頂部が２か所ある。また，波頂部の上面と内面には短沈線を施す。口縁部には４条の波形文が展開するが，波頂部下では沈線が波頂部に向かって跳ね上がる。

1258～1264は，口縁部が直線的に外に開く器形をもつものである。1258は平口縁であるが，口唇部が波打つ。口縁部に２条の波形文を横位に展開するが，部分的に鉤形状の文様に変化する。1259は上部を欠損した突起を２か所残し，全体では３か所と考えられる。1260は刻みを施す突起を４か所もち，横位の沈線と波形文で文様を構成する。1261は波頂部１か所，波頂部の痕跡が１か所残存し，全体では３か所と考えられる。口唇部直下に横位の沈線を１条施すが，波頂部下で跳ね上がる。1262は突起を４か所もつと考えられ，４～５条の刻みを施す。口縁部には波形文の変形と考えられる渦巻文と横位の沈線を施す。1263は４か所の波頂部をもつと考えられ，変形した波形文を口縁部に施す。1264は口唇部に粘土を貼り付け，前後，左右方向，上方からも孔を貫通させた橋状の突起をもつ。

1265～1268は，内湾する口縁部をもつ。1265は平口縁で，口縁部に不揃いの波形文を施す。1266は，波頂部上面から内面にかけて縦位の沈線を５条施す。口縁部には明瞭な波形文を施す。1267は波頂部上面に５条の刻み，外面には刻みに呼応するような刺突を施す。横位に展開する波形文は，短沈線を組み合わせる。1268は波頂部に５条の刻み，波頂部外面には刻みと接して縦位の沈線を５条施す。口縁部に展開する波形文は，規格性に乏しい。

Ⅲb-６類土器（第2-59図1269～1274）

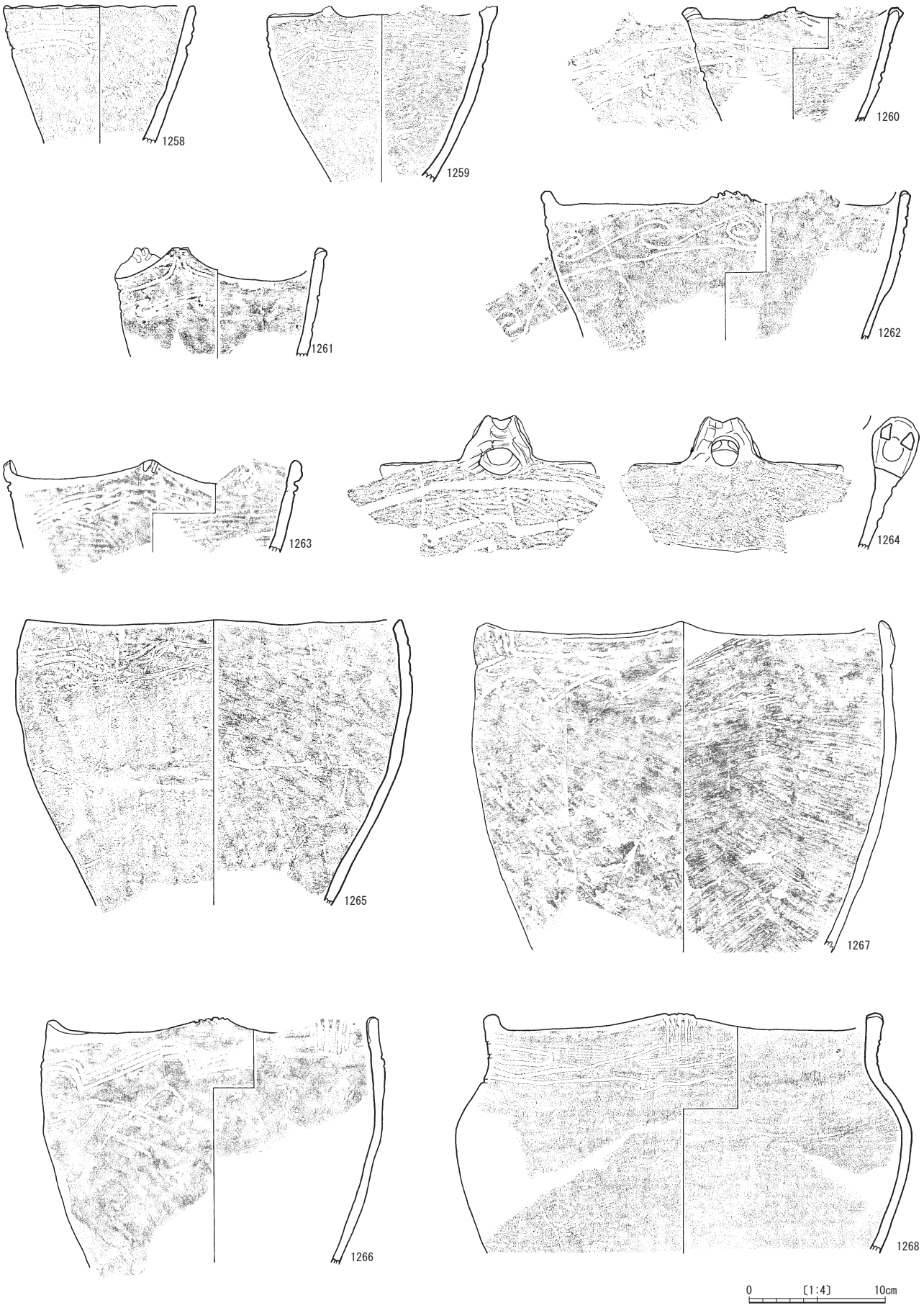
1269はくびれをもちなから口縁部が外反し，胴部はやや張り，すぼまりながら底部に至る器形である。波頂部が２か所残存し，全体では４か所と考えられる。波頂部内面に縦位の沈線を３条施す。口唇部の上面から内面にかけて刻みを密に巡らす。口縁部に波形文を２条巡らせ，その間には刺突を連続して行う。さらに，下位の波形文に接して１段３つの刺突を３段，６か所に施す。1270は，口縁部が直立する。上部を欠損する突起が残存し，ヒレ状の突起と考えられる。口唇部には刺突を連続して施す。口縁部には平行沈線で楕円形状の文様を描き，沈線間に連続刺突を行う。

1271～1273は，口縁部がやや外に開く器形をもつものである。1271は，口唇部に刻みを施す。口唇部に接して縦位の沈線を２条施すが，全体で何か所になるかは不明である。底部からほぼ直線的に開く器形をもち，底部の端部が張り出す。底面はやや湾曲するため，土器の座りは悪い。1272・1273は全体的な文様構成は不明であるが，間に刺突を施す平行沈線が描かれていることからここに分類した。

1274は，口縁部が短く内湾する。胴部は欠損するが，



第2-57図　Ⅲ類土器（18）



第2-58図　Ⅲ類土器（19）



第2-59図　Ⅲ類土器（20）



第2-60図　Ⅲ類土器（21）



第2-61図　Ⅲ類土器（22）

強い張りをもつ器形と考えられる。

Ⅲb-７類土器（第2-59～61図1275～1285）

1275～1278は主文様がなく，部分的に斜位の沈線や刺突が施されるものである。1275・1276はややくびれをもちながら口縁部が外反し，1277は口縁部が直立し，1278は口縁部が内湾する。

1279～1285は，不規則な文様が施される。1279～1281は胴部がやや張り，くびれをもちながら口縁部は外反する器形をもつ。1282・1283は口縁部が直立し，1284は口縁部が直線的に外に開き，1285は口縁部が内湾する。1279は横「W」字文に似た文様を施すが，場所によっては単なる曲線に変化し規格性はない。1280は，長楕円形の文様を２段にわたって施す。間隔に規則性がない波頂部が３か所残存する。波頂部の直下には焼成前の穿孔が残る。1281は長楕円形文と渦巻文が横位に展開し，下位に連続した鉤手文を横位に施す。波頂部は２か所残存するが，高さが異なる。２か所の波頂部の内面には鉤手状の渦巻文と曲線文を，高い波頂部の外面には曲線文を施す。口縁部に焼成後の穿孔が２か所と貫通しない穿孔が１か所残る。1282は，口唇部直下に２条の沈線を横位に巡らす。直立する口縁部はやや肥厚し，内面に稜をもつ。1283は波頂部が３か所残存し，全体では４か所と考えられる。波頂部内面には「Ｖ」字状の沈線を重ねて描く。口縁部外面には波頂部を起点に長方形状の文様を横位に展開する。外面と口縁部内面には条痕が明瞭に残る。1284は，沈線で格子目状の文様を描く。波状を呈する口縁部はかなりゆがみ，波頂部が何か所かは不明である。口縁部から胴部は被熱による器面剥離が見られる。底面には網代圧痕が残る。1285は，欠損する波頂部が１か所残る。波頂部上面には刻みを３条以上施す。口縁部には沈線で「↑」と「↓」状の文様を交互に描く。底面には網代圧痕が残り，白色土が付着する。

Ⅲc類土器（第2-62図1286～1292）

1286は口縁部に浅い沈線で文様を描くが，器面調整痕と同化して極めて不明瞭である。底面には圧痕があるが，不明瞭で詳細は不明である。1287は，突起を４か所



第2-62図　Ⅲ類土器（23）

もつ。突起の頂部に深い刺突をそれぞれ１か所，口唇部には刻みを施す。口縁部は，文様が施されない。底面には白色土が少し付着する。内外面とも器面調整は粗い。1288は口唇部に連続刺突を施し，口縁部外面は無文である。口縁部内面に半円状の沈線を４条，山形の沈線を２条施す部分が１か所ある。1289は，内湾する口縁部には凹点文が施される。1290は，波頂部が１か所残存する。波頂部外面に不定型な文様が沈線で描かれる。1291は波頂部が１か所残存するが，全体の数は不明である。波頂部上面に３条の刻みを施し，口縁部に縦位の短沈線を横位に展開する。白色土が，胴部外面の一部に付着する。1292は，波頂部の一部が残る。口縁部に曲線や直線を施すが，文様構成は不明である。

Ⅲｄ類土器（第2-63～65図1293～1317）

1293～1298は，口縁部が外反するものである。1293～1296は平口縁，1297・1298は波状口縁となる。1293は，胴部に施す縦位の条痕が文様化する。1294は器壁が薄く，底部がくびれ，白色土が付着する。1295・1296は，外反した口縁部の端部が短く直立する。胴部から底部に向かっては直線的にすぼまる。底面には網代の圧痕が残る。1295の口縁部外面にはススが付着する。1297は波頂部が１か所残存し，波頂部には２つの頂部をもつ。底面には網代の圧痕が残る。1298は波頂部が１か所残存し，口縁部がややくびれる。外面にはススが付着する。

1299～1303は，口縁部が直立する器形をもつ。1299～1301は平口縁，1302・1303は口唇部に突起をもつ。1299は底部が上げ底となり，内面に白色土が付着する。1300の外面にはススが付着する。1301は底面に網代痕が明瞭に残り，底面から胴部にかけて白色土が付着する。口縁部には補修孔が２か所残存する。1302は，突起を３か所もつ。底部は上げ底で，接地面に白色土が残る。1303は突起を２か所貼り付けるが，１か所は剥離する。突起は粘土紐を山形に貼り付け，中央部は三角形の空洞とする。底面はいびつな作りで，網代圧痕を部分的に削る。内外面にはススが付着する。

1304～1313は，口縁部が直線的に外開きになる器形をもつ。この中でも1304～1308は平口縁，1309～1311は口縁部に突起をもち，1312・1313は，波状口縁となる。1304は，底面に網代の圧痕が残る。1305の底面は上げ底で，食物種子と考えられる圧痕が残る。器壁は薄く，内面の一部にはススが付着する。1306は，外面にススが付着する。1307は，口径に対して底径が小さい。1308は，円盤貼り付けの底端部を摘み出す。内面は全面に条痕を残し，口縁部から胴上部はケズリが入る。外面にはススが付着する。1309は突起を２か所もつが，その距離２㎝と極めて近い。外面は，橙色を呈する。1310は，突起と突起の痕跡が１か所ずつ残る。底面には，網代の圧痕が残る。1311は台形の突起と三角形の突起が残り，口縁部の内面に稜をもつ。1312は波頂部が２か所残存し，全体では４か所と考えられる。円盤貼り付けの底部は，接合面で剥離する。口縁部には，堅果類の圧痕が１か所残る。外面には破裂痕が残り，その内部や外面にススが付着する。1313は，一部欠損した波頂部が２か所残存する。波頂部は粘土紐を貼り付け，２か所の穴を作る。１か所の波頂部の両面には刻みを施す。

1314～1317は，内湾する口縁部をもつ。1314は胴部がやや張り，底部に向かっては急激にすぼまる器形をもつ。1315は，底面に白色土が付着する。1316は強く内湾する口縁部をもち，粘土紐の接合痕が一部剥離する。1317は突起が２か所残存し，全体では３か所と考えられる。突起は粘土紐を組紐状にひねって作る。

Ⅲｅ類土器

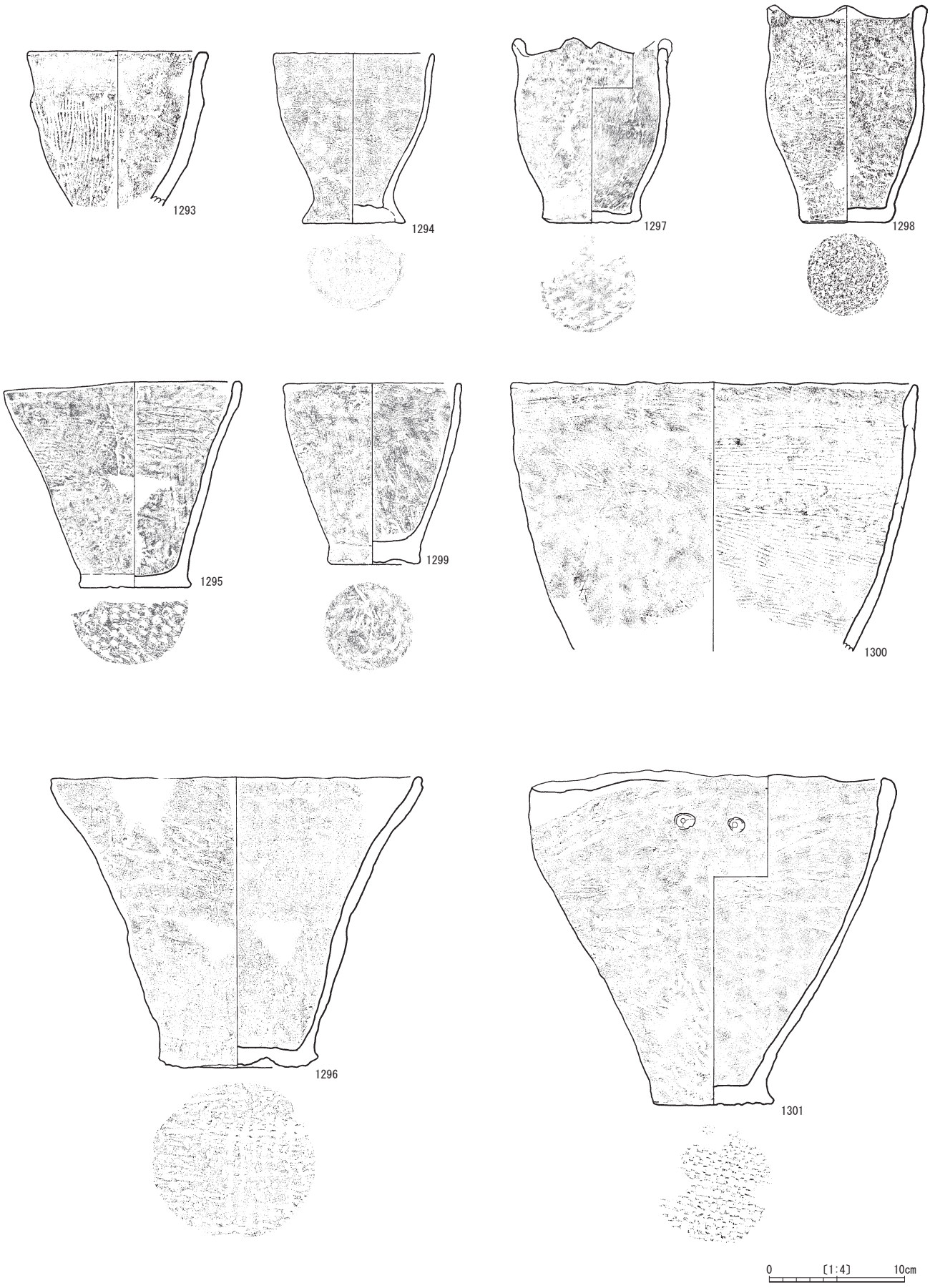
Ⅲｅ類土器は，鉢をまとめた。口縁部から胴上部に展開する文様構成で大別した。なお，掲載番号1344は，放射性炭素年代測定を行った。

Ⅲｅ-１類土器（第2-66図1318～1320）

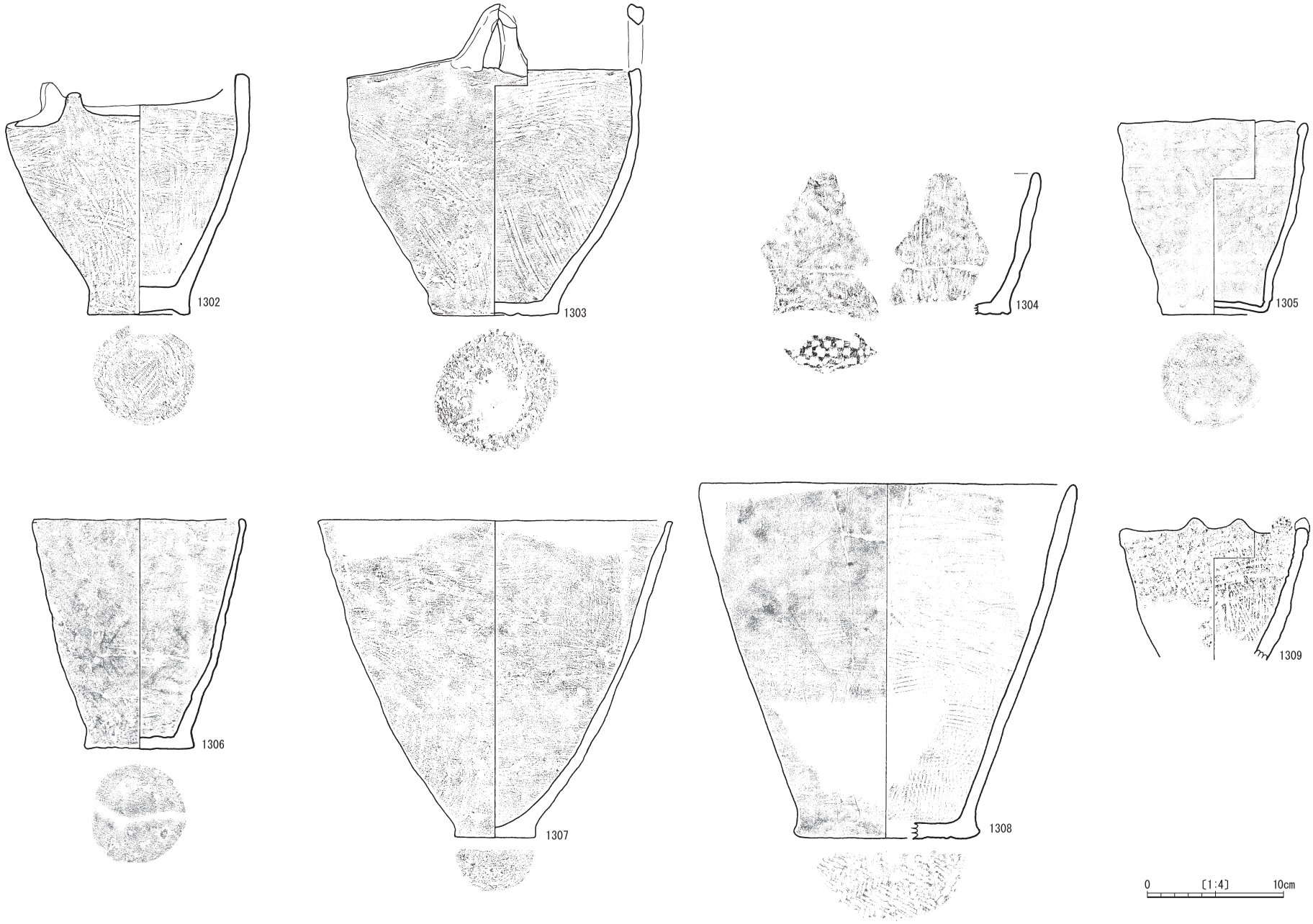
1318は口縁部が強く外反し，内面には稜をもつ。強く張り出した胴部に最大径があり，底部に向かって急激にすぼまる器形をもつ。胴上部と口縁部外端を繋ぐ橋状把手を２か所に貼り付け，これと一体化した円形の突起を口唇部に作る。円形の突起は中を空洞とし，上面には沈線を巡らす。橋状把手の上面・正面・下面には穿孔を行う。円形突起の内面には縦位の貝殻刺突，横位の沈線と貝殻刺突で施文する。橋状把手及び円形突起の外面には貝殻刺突を施す。外面の文様帯には沈線で長楕円形や逆「く」の字状の文様を施す。胴部の屈曲部には貝殻刺突を波状に巡らせ，文様帯の区画とする。1319は直立する口縁部から張りをもつ胴部へと続き，丸味をもって底部へと至る器形である。胴部から口縁部外端を繋ぐ橋状把手が１か所残存し，痕跡が１か所残る。橋状把手は，全体で２か所と考えられる。また，橋状把手と一体化した円形の突起を口唇部に作り，上面の中央に棒状工具による刺突を１か所，これを囲む沈線を円形に施す。文様帯のほとんどが欠損しているため詳細な文様構成は不明だが，複数の曲線文を描く。外器面は凹凸が激しく，被熱の影響と考えられる。1320はやや内湾する口縁部が波状を呈し，胴部は緩く張る。２本の粘土紐をねじって作る波頂部が１か所残存し，波頂部上面と内面及び口唇部には沈線と刺突が施される。文様帯には横「W」字文，鉤手状の入組文等が施される。

Ⅲｅ-２類土器（第2-66・67図1321～1338）

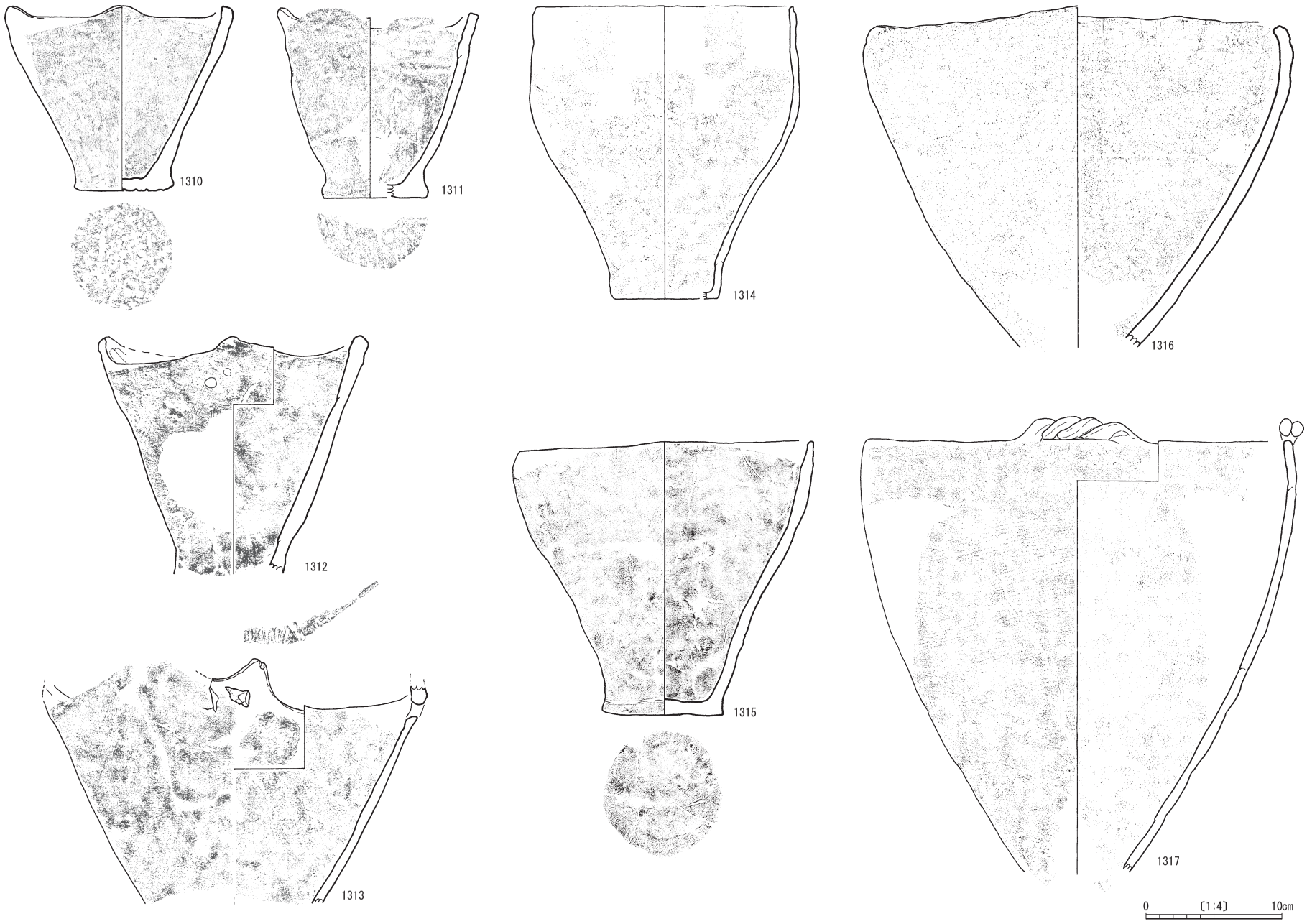
1321～1324は，文様帯に靴形文を描く。1321は短く外反し，内面には稜をもつ。平口縁に山形の突起が１か所残存するが，上下に剥離面が残ることから橋状把手の可能性も考えられる。1322は，短く外反する口縁部と直立する胴部をもつ。平口縁に山形の突起が２か所に残存す



第2-63図　Ⅲ類土器（24）



第2-64図　Ⅲ類土器（25）



第2-65図　Ⅲ類土器（26）

るが，全体では３か所と考えられる。突起下部から胴部へ橋状把手を渡す。突起下部に三角形状の孔を，橋状把手上部と下部に楕円形状の孔を穿つ。突起内面には斜位の貝殻刺突を，口唇部の内面直下に２列の刺突を巡らす。1323は張りをもつ胴部から内湾しながら口縁部へ続き，口縁端部で外反し，内面には稜をもつ。平口縁に低い山形の突起が１か所残存し，頂部には３条の刻みと内面には「Ｉ」字状の沈線を施す。突起下部から胴部へと橋状把手を貼り付け，この上面には縦に深い凹点を３か所と周りに沈線と刺突を施す。文様帯には変形した靴形文を描く。1324は口縁部が内湾し，胴部が強く張る。突起と一体化した橋状把手をもち，突起の中央と左右及び橋状把手にも２か所の穿孔を行う。また，突起と橋状把手には沈線が施される。文様帯には変形した靴形文が展開する。1325～1328は，文様帯に山形文を描くものである。1325は４条の刻みを施す低い波頂部が１か所残存するが，高さのある波頂部も部分的に残る。文様帯には２条の沈線で山形文を描く。1326は，口縁部を欠損する。口縁部は内湾し，内面に稜をもつ。沈線で文様帯の上下を区画し，区画の中に山形文を描く。1327・1328は変形した山形文を文様帯に展開するが，いずれも刺突と共に施される。1329～1331は，横「W」字文を文様帯に施すものである。1329は口縁部が短く外反し，胴部が張る器形をもつ。くびれ付近に横位の沈線を巡らせ，その下位には横「W」字文を展開する。1330は，強く張る胴部から口縁部は短く直立する。口唇部直下に鉤手状の文様を施し，その下位には変形した横「W」字文を描く。1331は，胴部が張りながら内湾する口縁部へと続く器形をもつ。波頂部は１か所残存し，１か所は痕跡が残る。波頂部の頂部から内面にかけてと波頂部の両脇に刻みを施し，波頂部内面には沈線で方形状の文様を描く。また，口唇部には貝殻刺突を施す。文様帯には変形した横「W」字文を展開する。1332～1338は，靴形文・山形文・横「W」字文以外の文様を施すものである。これらは平口縁で，1337と1338は突起をもつ。1332・1333は，口縁部が短く胴部が張る器形をもつ。1332は，文様帯に渦巻文を展開する。1333は，文様帯に鉤手文を施す。1334は胴部が張り，口縁部が内湾する。文様帯に波形状の文様を展開する。1335は，方形状の文様を施す。1336は内湾する口縁部をもち，口唇部の１か所に４条の刻みを施し，文様帯には波形文を描く。1337は，突起と一体化した橋状把手をもつ。突起の上面と左右に幅のある深い刺突を施し，橋状把手の上面には２か所に穿孔を行う。詳細は不明だが，文様帯には1336と同様の文様を施すと考えられる。1338は橋状把手をもち，その上部には円柱状の突起を作る。把手上面や突起の内外面及び口唇部には，棒状工具による刺突を施す。文様帯には「く」の字状の文様を繰り返して施す。

Ⅲe－３類土器（第2-68図1339～1342）

1339は橋状把手が１か所，対面側にも橋状把手の剥離痕が残る。全体で橋状把手は，２か所である。橋状把手は胴部屈曲部と口唇部に作られる突起とを渡すように貼り付けられるが，突起の上部は欠損する。橋状把手には長さ２㎝程度の透かしを縦位に２か所施し，さらに，把手下位の左右から胴部屈曲部へ斜めに粘土紐を渡す。口唇部内面には突起付近を除いて２列の刺突を横位に，橋状把手にも刺突を施す。口唇部直下と胴部屈曲部には間に刺突を施した２条の沈線を巡らせ，文様帯を区画する。文様帯には間に刺突を施した２状の沈線で山形文を展開するが，山形文の間に菱形文を小さく施す。1340・1341は，沈線間に爪形文を連続して施す。1341は，穿孔と深い凹点をもつ橋状把手と中央部に穿孔をもつ突起を作る。1342は，２条の沈線間に横位の貝殻刺突を施す。

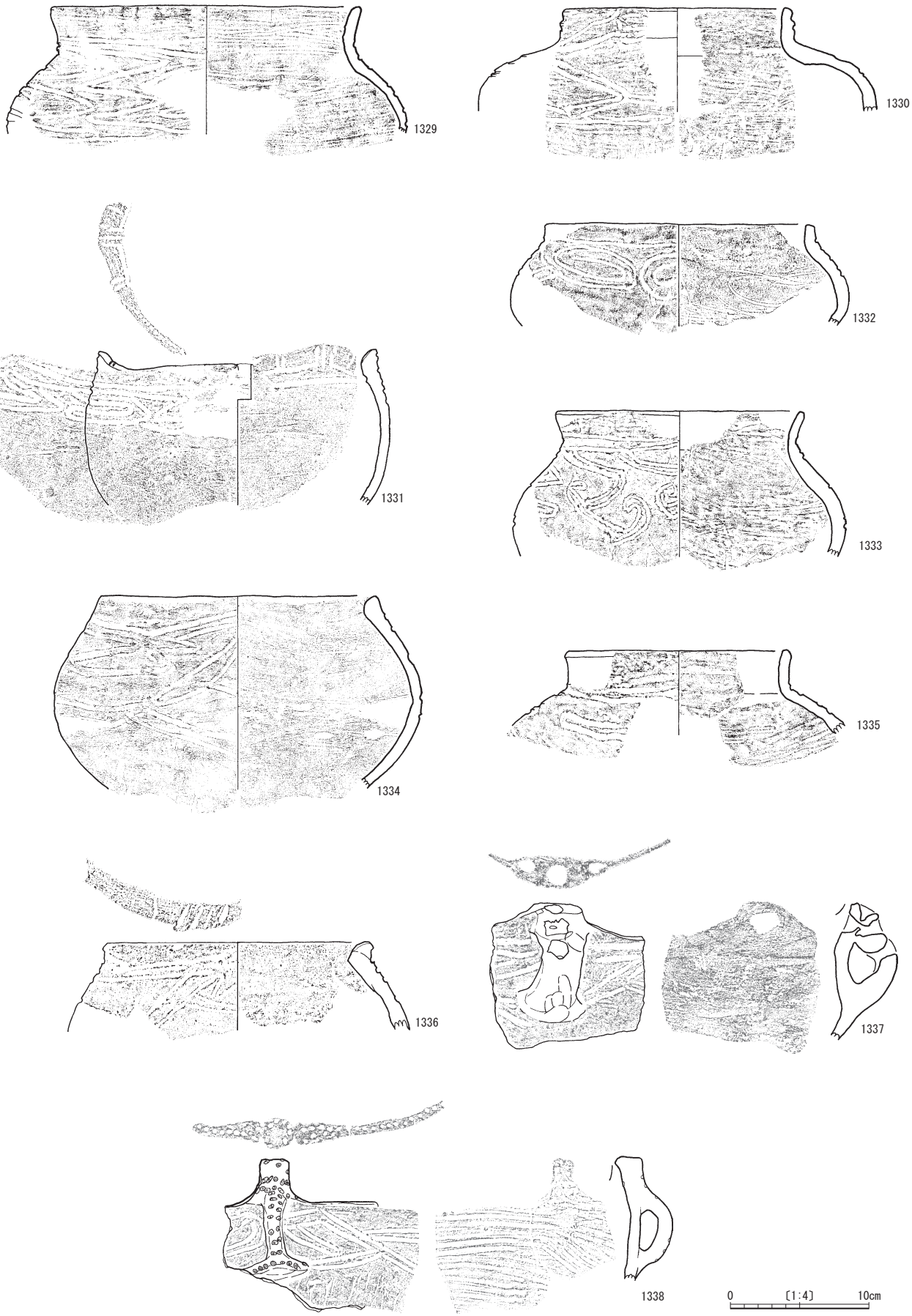
Ⅲe－４類土器（第2-68・69図1343～1357）

Ⅲe－１～３類に分類できなかったものと橋状把手をまとめた。1343は無文で，胴部が張りをもち，強くくびれながら外反する口縁部へ至る。上面に円形の平坦面をもつ突起と一体化した橋状把手が１か所残存する。橋状把手は，突起と口縁部と胴部を繋ぐように貼り付けられる。突起上面の平坦面には円形の沈線が施され，突起下位の口縁部に穿孔が行われる。橋状把手の外面には縦位の沈線が１条描かれる。1344は，短く外反する口縁部には方形状の突起が１か所残存する。突起に直交するように両端に粘土紐を貼り付け，突起と粘土紐の上面に沈線を１条ずつ施す。外面には縦位の沈線を密に施す。1345は外面に粘土紐を曲線状に貼り付け，その上面には深い沈線を施す。1346は内湾する口縁部外面に突帯状の肥厚部を２段作り，上段の肥厚部上面と肥厚部間に沈線を巡らす。なお，２段の突帯状の肥厚部間には赤色顔料が残る。

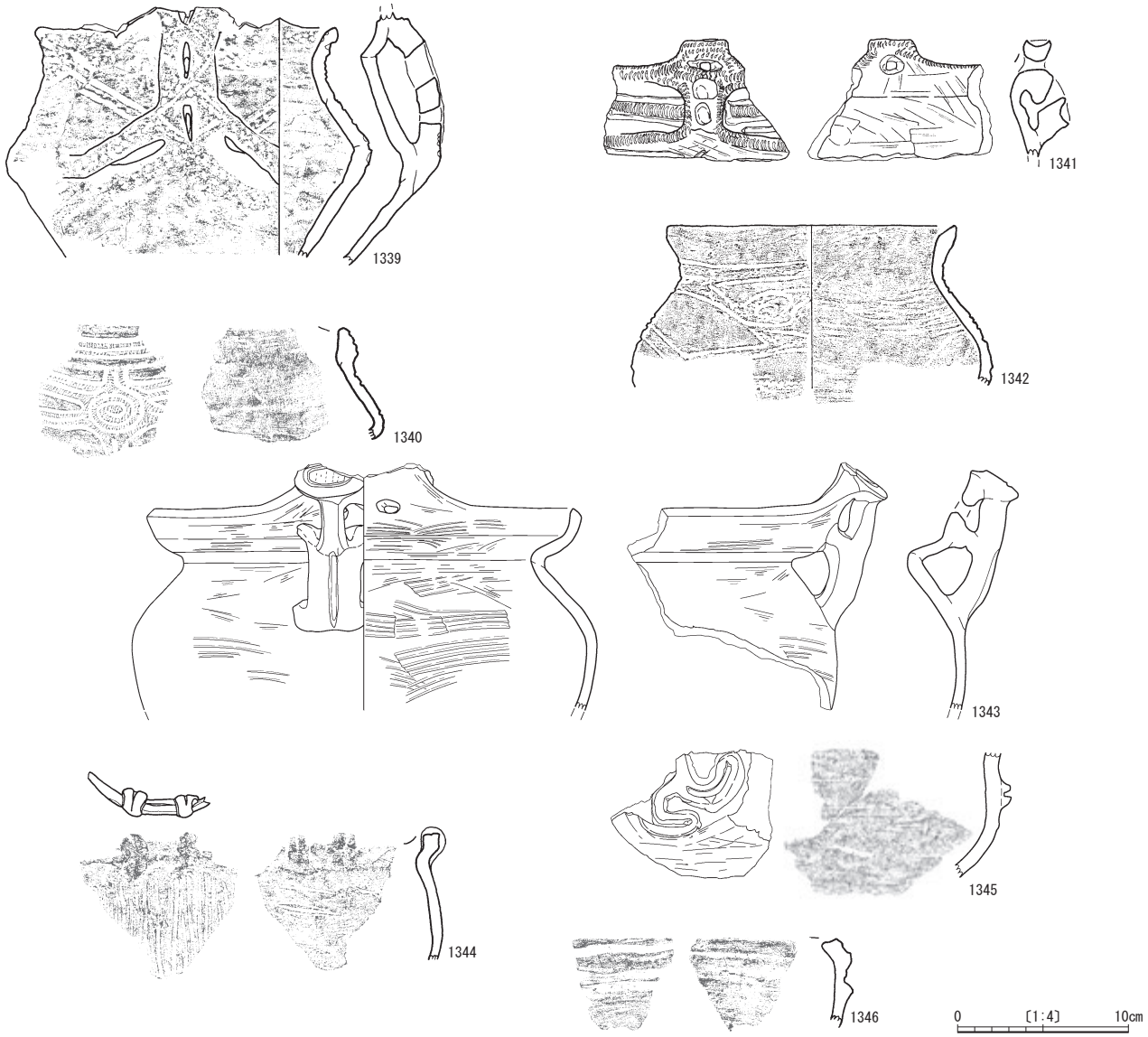
1347～1357は，橋状把手である。1347は把手上部に突き出す突起上面には刺突が，橋状把手外面には沈線が施される。1348は貝殻刺突が施され，穿孔が３か所残る。1349は，粘土紐を組合せて橋状把手を作る。橋状把手の外面には沈線を施し，球状把手と口縁部には穿孔が行われる。また，橋状把手の上部には棒状の突起を貼り付け，上面を窪ませる。1350は，橋状把手の外面に沈線と刺突を施す。口縁部と橋状把手の接合部分は欠損する。また，口縁部には穿孔が行われる。1351は，橋状把手の外面中央部が窪む。突起の頂部から橋状把手の外面には刺突が施され，両脇には沈線が施される。1352は，５か所の穿孔と沈線が施される。1353は橋状把手の上部を欠損し，外面には沈線で渦巻文が描かれる。1354は橋状把手の上部に直方体の突起を作り，上面から穿孔を，四方から透かしを施す。突起と橋状把手の外面には沈線を施す。1355は，橋状把手の上部を欠損する。把手に１か所粘土紐を貼り付け，外面には貝殻刺突を施す。1356は粘土紐



第2-66図　Ⅲ類土器（27）



第2-67図　Ⅲ類土器（28）



第2-68図　Ⅲ類土器（29）

を２本上下に渡して橋状把手を作るが，上部と下部が欠損する。口縁部には穿孔の痕跡が残る。1357は，丸い粘土紐をアーチ状に渡して橋状把手を作る。

Ⅲｆ類土器（第2-70図1358～1374）

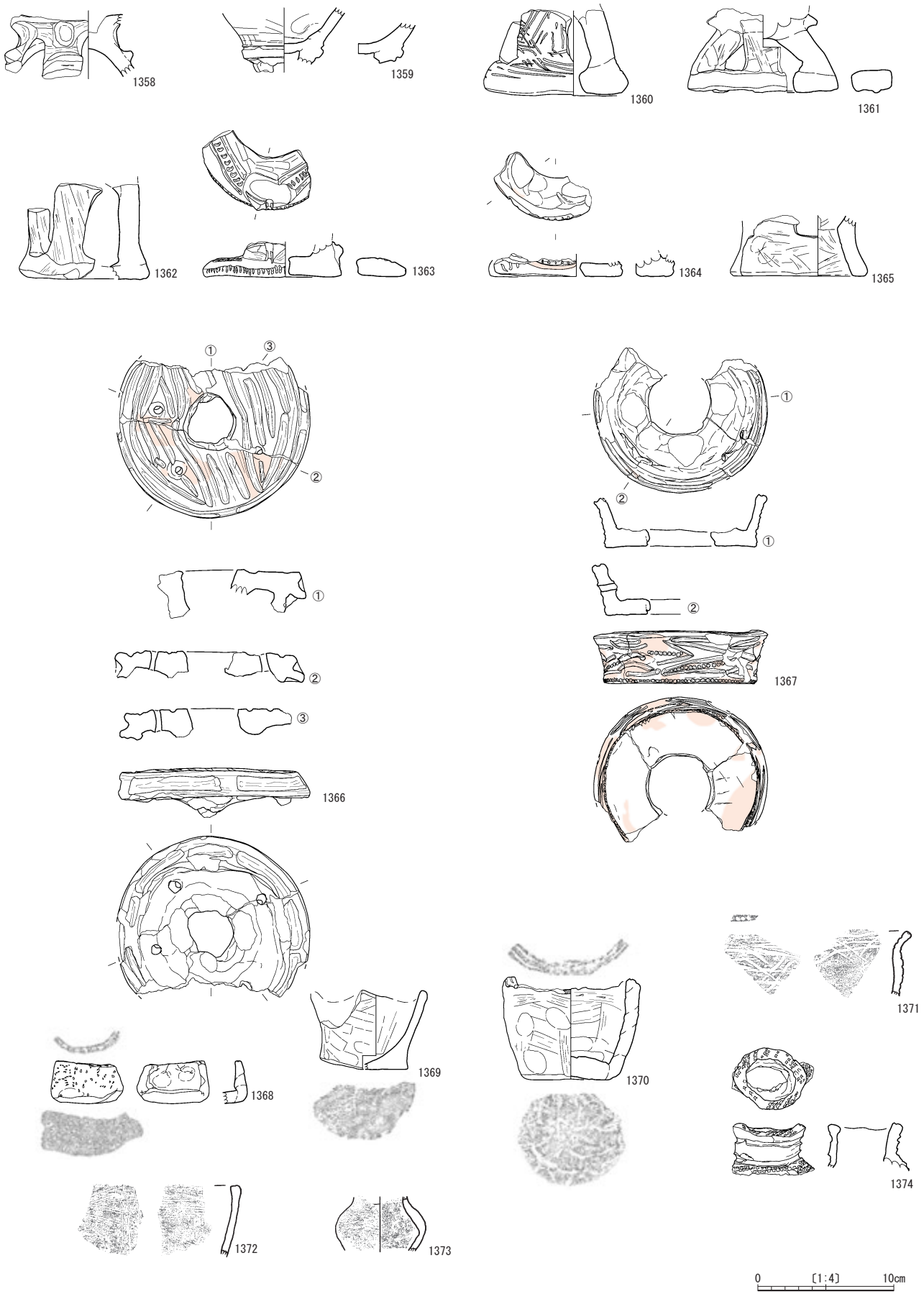
Ⅲａ～Ⅲｅ類に分類できなかったものをまとめた。

1358～1365は，鉢もしくはⅢの上部構造に付属する脚台である。1358・1359は，上部構造の底面から脚部まで残存する。1358は脚が２本残存し，全体では４本と考えられる。脚と鉢部との境には粘土を貼り付け，その上から凹点を施す。脚の下位には三角突帯を貼り付ける。1359は，鉢もしくはⅢの下部から脚の接合面まで残存する。破断面が３か所残ることから，３本の脚をもっていたことがわかる。上部構造と脚の境に２条の沈線を巡らし，沈線間を突帯風に作る。1360～1364は，ドーナツ状の底部に脚を乗せて脚台を作る。1360は脚が２本残存し，１か所に剥離痕が残ることから全体では３本の脚であったことがわかる。外面には浅く沈線を施すが，その後にナデ消している。1361・1362は，それぞれ２本の脚が残存する。1361は，脚と上部構造との境に三角形の突帯を巡らす。1363は，脚の一部が１か所残る。底部側面に連続刺突を巡らせ，上面には間に刺突を施す２条の沈線が脚を繋ぐように施される。脚の外面には縦位の沈線が施される。1364は，脚の剥離痕が底部に２か所残る。底部側面には沈線と刺突が施される。1365は中空の脚台で，透かし孔が１か所残る。

1366・1367は接合はしないが，胎土・色調・焼成等から同一個体と考えられるものである。1366が上部で1367が下部と考えられ，それぞれ中央部には孔をもつ。また，上部と下部を繋ぐと考えられる脚は欠損するが，それぞれに痕跡が４か所残る。1366は中央に上面全体に深い沈



第2-69図　Ⅲ類土器（30）



第2-70図　Ⅲ類土器（31）

線を施し，焼成前の上から下に向けた穿孔を４か所もつ。側面を４分割するような凹線を４条巡らすと考えられる。上面の一部には赤色顔料が残る。1367は，断面箱形を呈する。側面には横「Ｖ」字状と曲線の沈線文と刺突文を施し，下端には棒状工具による刺突を連続して巡らせる。さらに，側面には横に２㎝程度の細長い透かしが２か所残る。口唇部に相当する上面には１条の沈線を巡らす。底面と側面に赤色顔料が部分的に残る。1367の上に円盤状の1366が脚で繋がる器台の可能性が考えられる。

1368～1373は，小型土器である。1368は手捏土器で，口唇部と胴部に刺突を施す。1369は波状を呈する口縁部をもち，底部は湾曲するため座りが悪い。1370は波状口縁で，口唇部に２条の沈線を巡らす。1371は外反する口縁部をもち，内外面には沈線が施される。口唇部には，刺突が残る。1372は，内湾する口縁部の外面に細沈線を施す。1373は，胴部が張る小型の鉢と考えられる。

1374は，深鉢もしくは鉢の突起部と考えられる。沈線と刺突を施す。

【Ⅳ類土器】

肥厚させた口唇部を文様帯とし，縦位の沈線・刻み・刺突と口唇部を巡る１条から数条の沈線により文様を構成する一群である。器種は深鉢・鉢・皿があり，そのうち深鉢を施文部位及び器形によりⅣａ・Ⅳｂ類に分けた。Ⅳａ・Ⅳｂ類に分類できないものをⅣｃ類とし，Ⅳｄ類に鉢などその他の器種を入れた。深鉢の器形は口縁部が外反し，口縁部下位がくびれ，胴部が張る。Ⅳ類土器の分類は，次のとおりである。

Ⅳａ類土器

肥厚させた口唇部に縦位と横位の沈線を，外面の口唇部直下に沈線を施すものである。口縁部はやや外反もしくは直立し，胴部はあまり張らない器形となる。

Ⅳｂ類土器

肥厚させた口唇部に縦位と横位の沈線を施し文様を構成する点はⅣａ類と同じだが，口唇部直下の外面に文様をもたないことを特徴とする。ただし，胴部に文様をもつものもある。口縁部はやや外反もしくは外反し，胴部が張る器形となる。

各文様構成や施文具により５つに細分類した。

Ⅳｂ-１類　口唇部に縦位の沈線もしくは刻みのみを施すものである。

Ⅳｂ-２類　口唇部に縦位の沈線もしくは刻みを施し，さらに横位の沈線を１条もしくは２条巡らすものである。

Ⅳｂ-３類　口唇部に縦位もしくは斜位の刺突を施し，さらに横位の沈線を１条から３条巡らすものである。なお，波頂部に刻みと貝殻刺突の両方を施すものもある。

Ⅳｂ-４類　口唇部に縦位もしくは斜位の沈線及び刺突を施し，さらに横位の沈線を巡らせ，沈線間に刺突を行うものである。

Ⅳｂ-５類　Ⅳｂ-１～４類に含まれないものである。

Ⅳｃ類

Ⅳａ・Ⅳｂ類に分類できなかったものである。

Ⅳｄ類

鉢形土器等をまとめた。

以下，分類に従って記述する。なお，掲載遺物番号1451は，放射性炭素年代測定を行った。

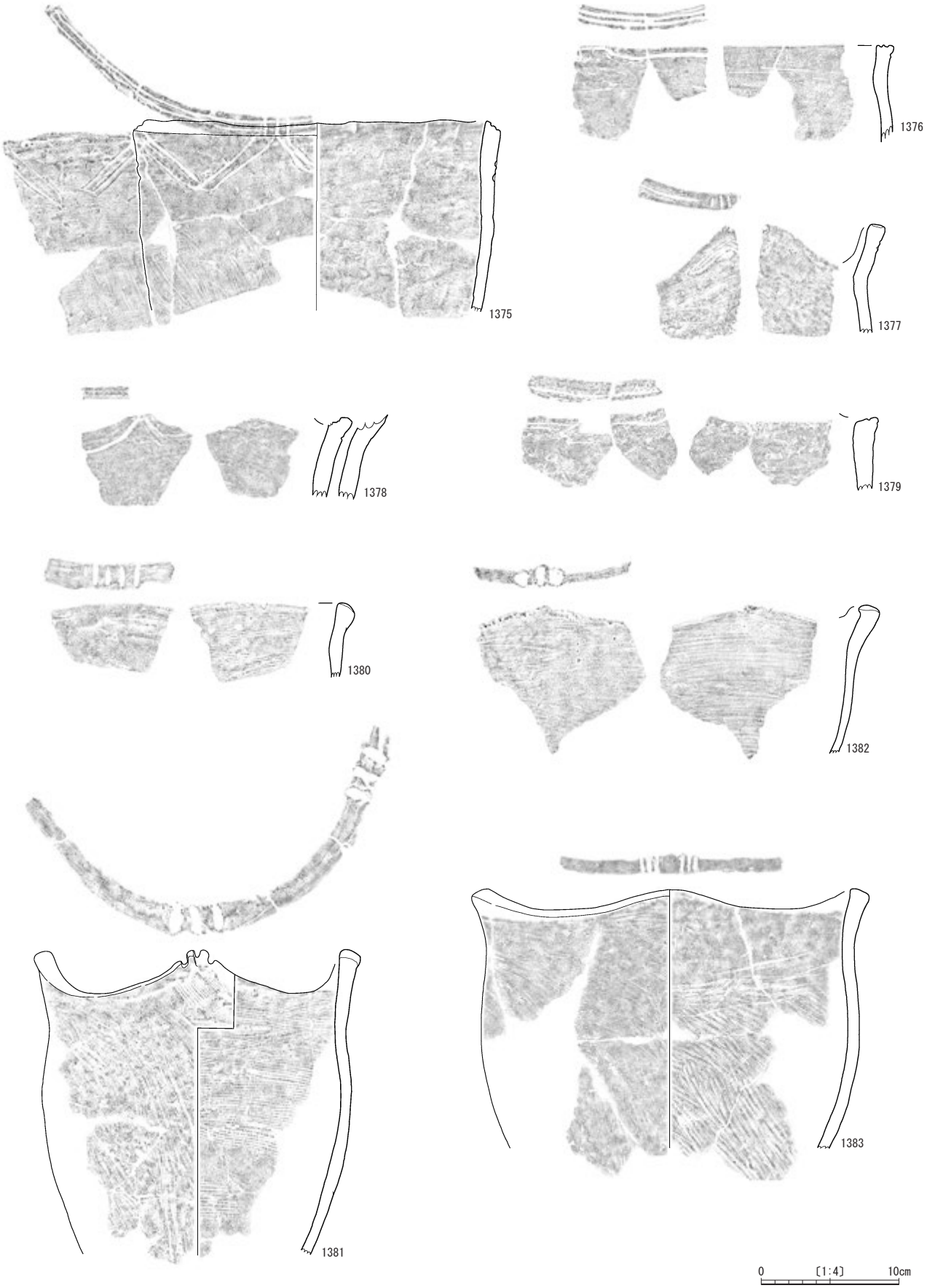
Ⅳａ類土器（第2-71図1375～1379）

1375・1376は，平口縁である。1375は口唇部に沿って２条の沈線を巡らせた後に縦位の沈線を３条，全体で４か所に施すと考えられる。上向きの口唇部は，途中で外向きへと変化する。さらに，口唇部直下の外面に平行沈線で鋸歯文を巡らす。なお，口唇部に施される縦位の沈線が起点となり，口唇部直下の文様が構成される。1376は口唇部に２条の沈線を，口唇部直下の外面に横位の沈線を１条巡らす。1377～1379は，波状を呈する口縁部をもつ。1377は突起部が半分程度欠損するが，突起部の左右に縦位の沈線をそれぞれ３条，口唇部に沿って１条の沈線を施すと考えられる。突起部直下の外面には矢印状の文様を沈線で描く。1378は突起部の内面を欠損するため，縦位の沈線の有無は不明である。内傾する口唇部には１条の沈線を巡らせ，口唇部直下を巡る横位の沈線は突起の頂部に合わせるように跳ね上がる。1379はやや内傾する口唇部に１条の細沈線を，口唇部直下の外面に横位の沈線を１条施す。

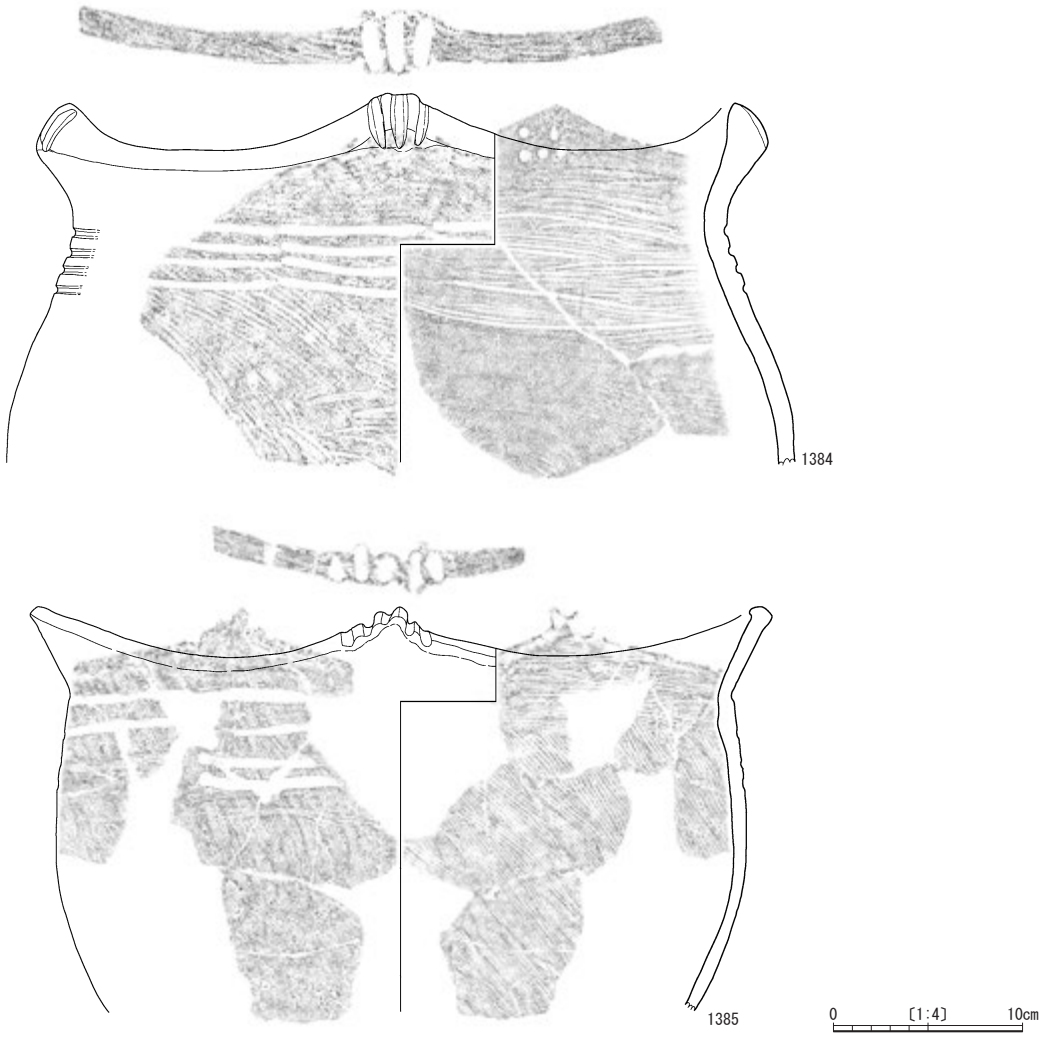
Ⅳｂ類土器

Ⅳｂ-１類土器（第2-71・72図1380～1385）

1380は平口縁で，丸く収めた口唇部に縦位の沈線を４条施す。1381～1385は，波状口縁となる。1381・1382は，押圧による刻みを波頂部に３か所施す。1383は，波頂部の左右に３条ずつの沈線を施す。いずれも波頂部は２か所残存し，全体では４か所と考えられる。1384・1385は，胴部に幅広の沈線を４条巡らす。1384は胴以下を欠損するが，口縁部は全て残存する。口径35.4㎝を測る口縁部は外反し，胴部との境でくびれ，胴部は張りながら胴下部へ続く。同類と比べ口唇部が広く，外向きとなる。口唇部には波頂部を４か所もち，それぞれの頂部に押圧による刻みを３か所施す。さらに，波頂部内面には円形の刺突を上位に２か所，下位に３か所の２段にわたって施す。胴部には長さ15㎝程度の沈線を４段施し，これを横位に展開して一周させる。部分的に端部を強く押し込む沈線もある。1385は，外反する口縁部の波頂部に押圧による刻みを５か所に施す。波頂部は，４か所と考えられる。口縁部と胴部の境から胴部にかけては長さ10㎝以上



第2-71図　Ⅳ類土器（１）



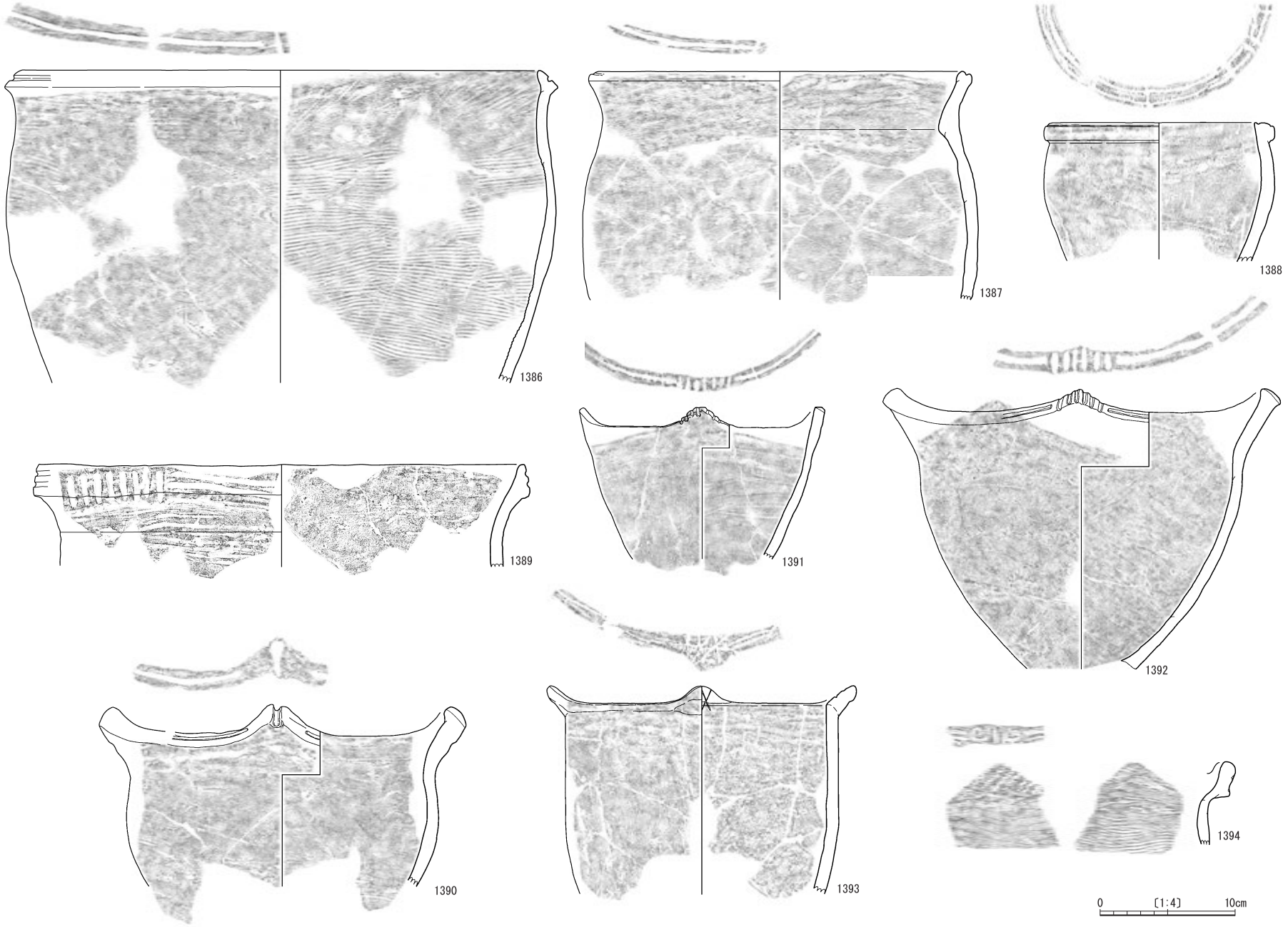
第2-72図　Ⅳ類土器（２）

の沈線を４段施し，これを横位に展開させる点は1384と同じと考えられる。また，沈線の端部付近には１列５個の円形の刺突を縦に２列配する。ただし，１列しか施さない部分もある。

Ⅳb-２類土器（第2-73図1386～1394）

1386～1389は平口縁で，肥厚させた口唇部に縦位の沈線もしくは刻みを施し，口唇部に沿って１条もしくは２条の沈線を巡らす。1386はやや外反する口唇部を肥厚させ，胴部はやや張りをもちながら胴下部へ至る器形である。口唇部に施される縦位の沈線付近が欠損しているため詳細は不明だが，縦位の沈線は２条以上と考えられる。横位の沈線は１条施される。1387は口唇部に施される縦位の沈線は２条以上，横位の沈線は１条である。口縁部は「く」の字状に外反し，内面には稜をもつ。1388は口縁端部を肥厚させるが，器壁の厚さが不均衡である。口唇部に縦位の沈線を２条施す。刻みは，全体で４か所と考えられる。横位の沈線は２条である。1389は外反する口縁部をもち，肥厚する口唇部は外向きとなる。口唇部に施される縦位の沈線は９条以上，横位の沈線は２条である。外面には明瞭な条痕が残る。

1390～1392は波状口縁で，波頂部に押圧による縦位の沈線を施し，口唇部に沿って１条の沈線を巡らす。1390は，口唇部に向かって口縁部を肥厚させる。口縁部下のくびれも明瞭で，胴部は張りをもつ。波頂部には押圧による深い刻みを，口唇部には１条の沈線を横位に施す。1391は，口縁部から胴下半に向かって直線的にすぼまる器形となる。波頂部は２か所残存するが，１か所には７つの刻み，もう１か所には５つの刻みが施される。また，口唇部に沿って１条の沈線が巡る。波頂部は４か所と考えられ，上面観は円形である。1392は円盤貼付の底部を欠損し，接合面で剥離する。口縁部は外反するが，胴部の張りは弱く，すぼまるように底部に向かう。波頂部に６か所の押圧による刻みを施す。口唇部に沿って１条の沈線を巡らすが，その端部は強く押し止める。



第2-73図　Ⅳ類土器（３）

1393・1394は文様構成が本類に近いことから，ここに掲載した。1393は胴部から口縁部にかけて直立し，波頂部は三角形状に粘土を貼り付けて外反させる。口唇部から続く波頂部内面を文様帯とする。波頂部内面に「X」状の短沈線を２か所，口唇部に沿って１条もしくは２条の沈線を施文する。1394は，強く外反する口縁部をもつ。波頂部には粘土を貼り付け肥厚させ，その外面に貝殻刺突を斜位に施す。波頂部に縦位の刻みを３か所，その両脇には渦巻状の沈線を配する。口唇部には２条の沈線を巡らせる。内面には明瞭な条痕を残す。

Ⅳb-３類土器（第2-74・75図1395～1407）

1395～1398は平口縁で，外反する口縁部をもつ。口唇部に刺突と沈線を施すものである。1395は口唇部に縦位の貝殻刺突を６か所，横位の沈線を２条巡らせ，その上下にも貝殻刺突を部分的に施す。1396は口唇部に貝殻刺突を「ハ」の字状に重ねて施し，横位の沈線を２条巡らせる。1397は口唇部に１列３か所の刺突を３列施し，横位の沈線を１条巡らせる。1398は口唇部に二叉状の工具で刺突を行い，その両側には端部を強く押さえた１条の沈線を巡らせる。

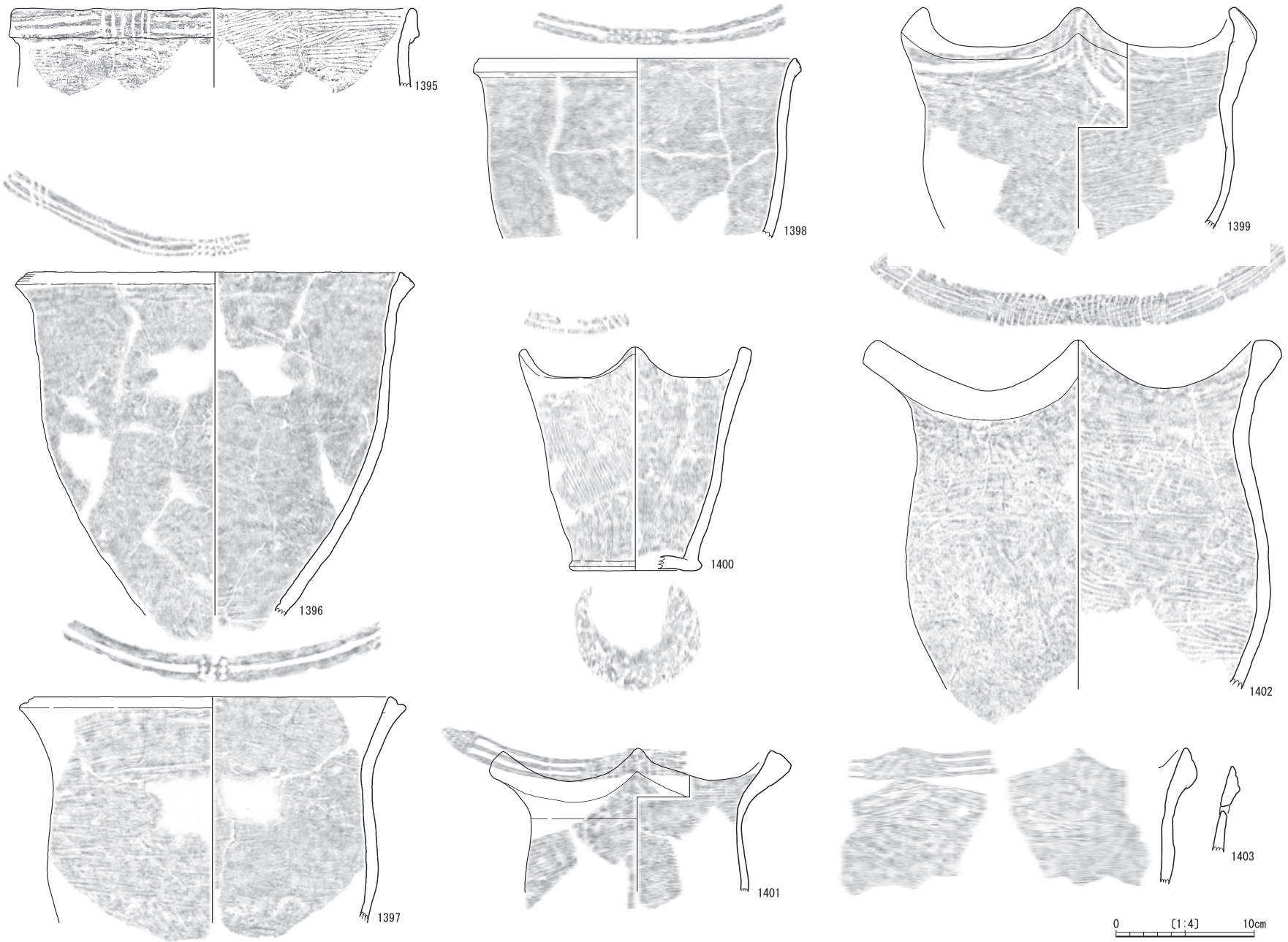
1399～1403は波状口縁で，波頂部に縦位または斜位の刺突を，口唇部に横位の沈線を施すものである。1399はやや張る胴部から口縁部で外反し，波頂部の端部は内湾する器形をもつ。波頂部には縦位の貝殻刺突を５～７か所施し，口唇部に沈線を１条巡らせる。1400は底面が張り出し，口縁部に向かって直線的に伸びる器形である。波頂部器面の半分ほどが剥落するが，貝殻刺突が４か所残る。口唇部には横位の沈線が１条施される。1401は波頂部の両側にそれぞれ８～10か所の刺突を縦位に施し，口唇部に２条の沈線を巡らし，その端部は強く押し止める。波頂部は４か所残存し，上面観は方形である。1402は４か所に波頂部をもち，上面観はほぼ方形である。張りをもつ胴部は頸部でややくびれ，口縁部は外反する。波頂部の両側に貝殻刺突を10か所以上施し，その両側には端部を強く抑える沈線を３条巡らす。1403は波頂部の両側に貝殻刺突を施し，口唇部に２条の沈線を巡らす。口縁部には焼成後の穿孔が残る。

1404・1405は波頂部に刺突と刻みを施し，口縁部に沈線を巡らす。1404は，波頂部に押圧による幅広い刻みを３か所施す。頂部の刻みの中に竹管文，両側の刻みの中には貝殻刺突文を施す。口唇部には横位の沈線を３条巡らせ，その端部には３本の沈線と呼応するように竹管文を施す。1405は，器壁の厚い底面から緩やかに膨らみながら立ち上がる。口縁部は口唇部に向かって徐々に肥厚し，波頂部は外反する。波頂部を４か所もち，頂部には棒状工具よる刺突を縦位に１列３か所，その両側に貝殻刺突をそれぞれ２か所施す。口唇部には１条の沈線を巡らす。さらに，口唇部外端に沿って横位の貝殻刺突を連続して施す。

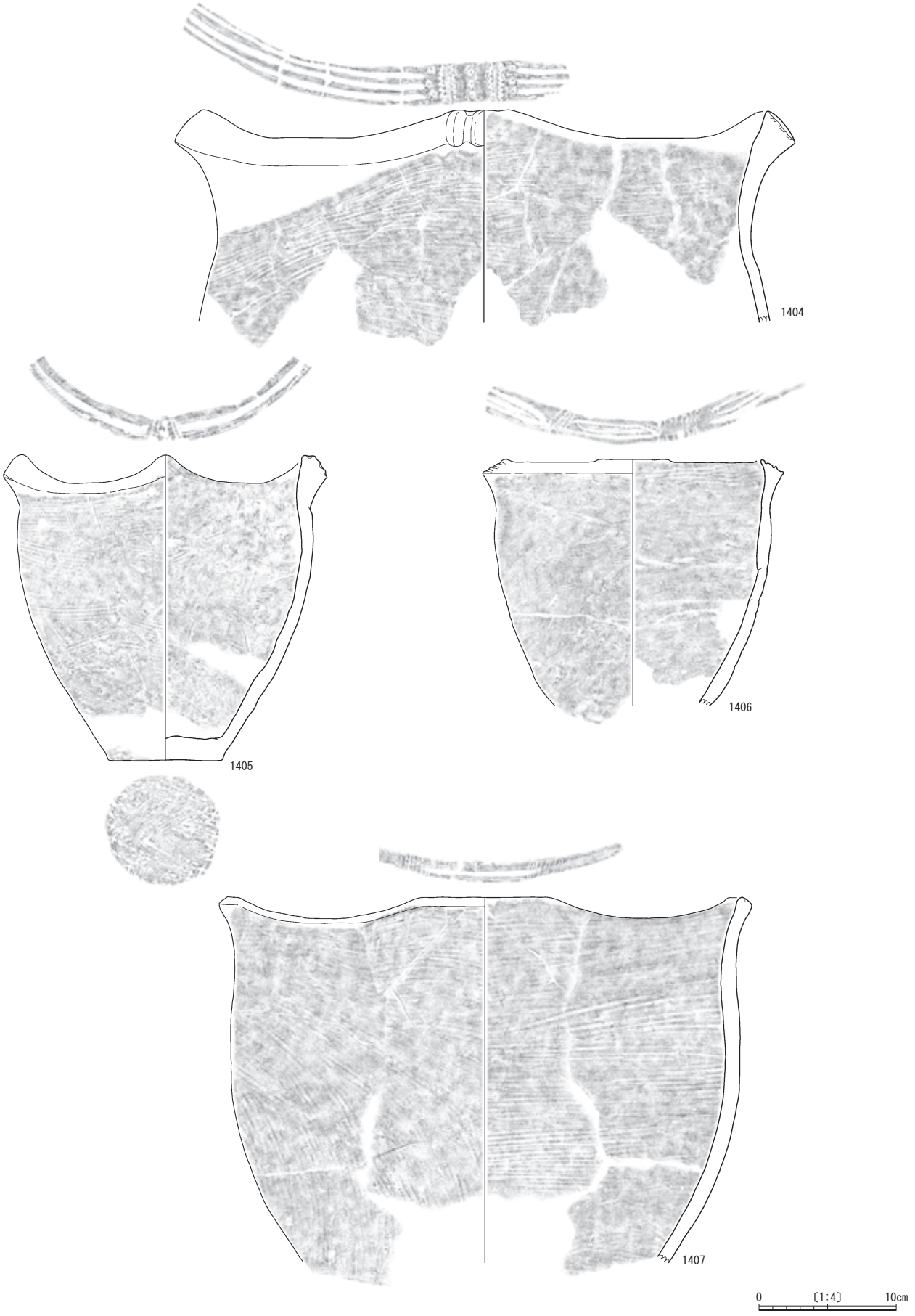
1406・1407は，高さのないヒレ状突起をもつものである。いずれも全体的には４か所の突起を想定するが，５か所の可能性もある。内外面には条痕が残る。1406は，口唇部を幅広く作る。ヒレ状突起の中央部に３条の沈線を，ヒレ状突起の左右の頂点付近には貝殻刺突を施す。口唇部には３条の沈線を巡らす。1407は，膨らみをもつ胴部からかすかにくびれながら緩やかに外反する口縁部へと続く器形をもつ。ヒレ状突起の口唇部に１条の沈線を施した後，左右の頂点付近に縦位の貝殻刺突を８～９か所施す。

Ⅳb-４類土器（第2-76～79図1408～1428）

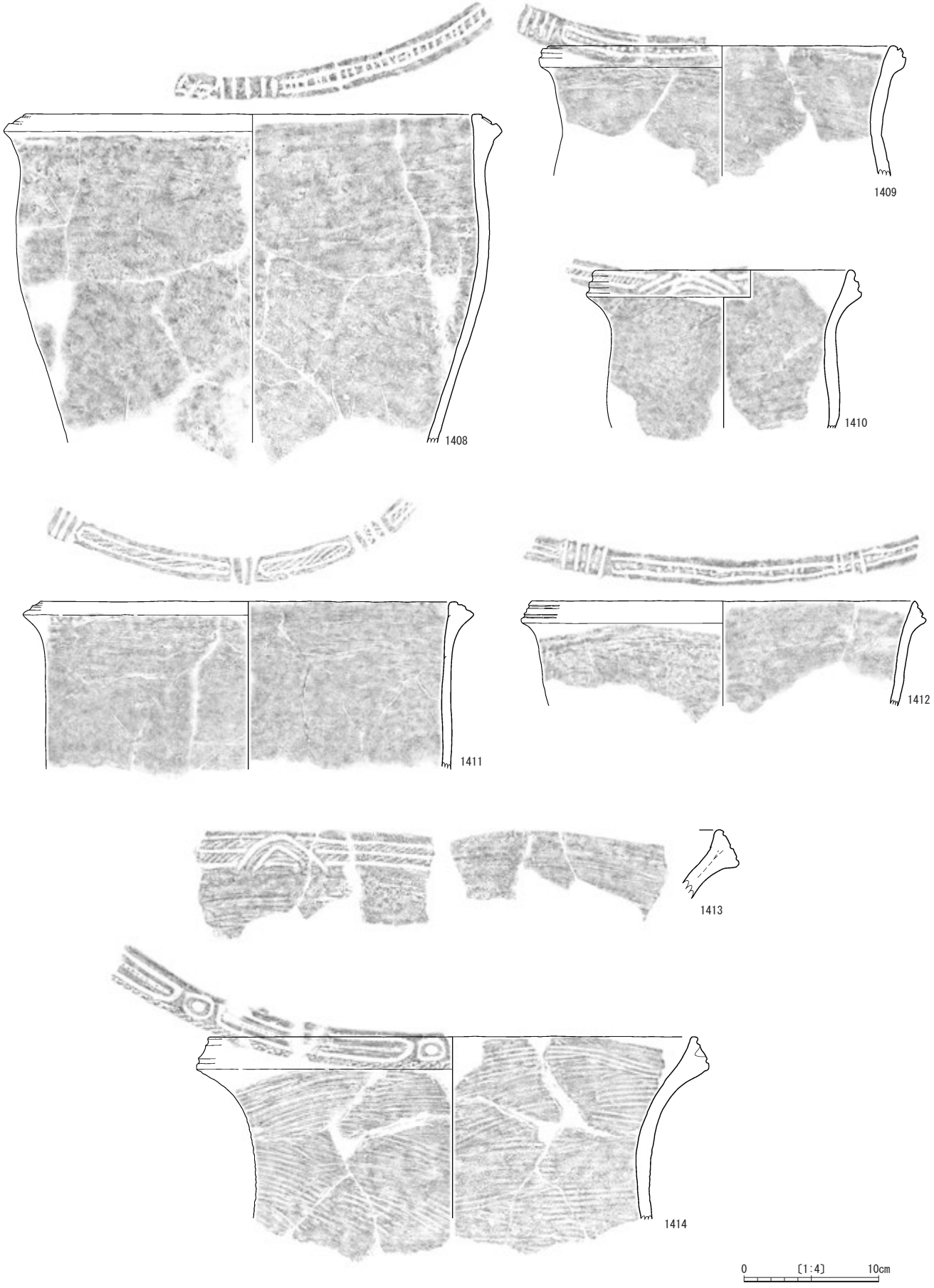
1408～1420は肥厚させた口唇部に沈線や刺突で構成する文様を起点とし，その両側に沈線を巡らせ，さらに沈線間に刺突を行うものである。1408はやや膨らむ胴部は口縁部との境付近でくびれ，口縁部は外反する。口唇部に縦位の沈線を５条，口唇部に沿って２条の沈線を巡らせ，横位の沈線間に貝殻刺突を施す。1409は口唇部に縦位の沈線を５条以上施し，その横に沈線で細長い楕円形状の区画を設け，その中に棒状工具で細かい刺突を行う。1410は，口唇部に山形の沈線を重ねて３条施す。ただし，最上位の沈線は口唇部上端までの施文で連続しない。さらに，横位の沈線を２条巡らせ，その間は貝殻で押引き状の刺突を行う。1411は口唇部に縦位の沈線を３条施すが，この沈線の間に貝殻刺突を施す部分と施さない部分がある。さらに，両側に設けた楕円形状の沈線の中に斜位の貝殻刺突を行う。1412は口唇部に縦位の沈線を４条，口唇部に沿って２条の沈線を施す。縦位及び横位の沈線間には棒状工具による刺突を行う。1413は，口縁部に粘土を貼り付け肥厚させる。口唇部の下端に配した１条の短沈線を覆う様に山形の沈線を２条施す。この上位の沈線の中には棒状工具による刺突を連続して行う。さらに，口唇部には３条の沈線を横位に巡らせる。口唇部に配した山形及び横位の沈線間には横位及び斜位の貝殻刺突を施す。横位の沈線の端部は，強く押し止める。1414は口唇部に沈線で方形状に区画し，その中に円形で深い刺突を行う。さらに，沈線で長楕円形に区画した中に横位の沈線を１条施す。この横位の沈線は連続刺突が上描きされる。口縁部下端にも連続貝殻刺突を行い，縄文を模倣する。1415は一部を欠損するが，３か所の波頂部が残存する。全体では４か所の波頂部をもち，上面観は方形である。幅広い口唇部に細長い楕円形の区画を設け，中に刺突を施す。波頂部の上下には，２条の半円形の沈線を重ね，それぞれの沈線の上下に刺突を施す。口径に対して胴径は小さい。1416は口唇部に斜位の沈線を「V」字状に重ねて施文し，その両側に２条の沈線を巡らせ，沈線間に貝殻刺突を行う。胴部から口縁部に向かって直線的に伸びる器形をもつ。1417は口唇部に



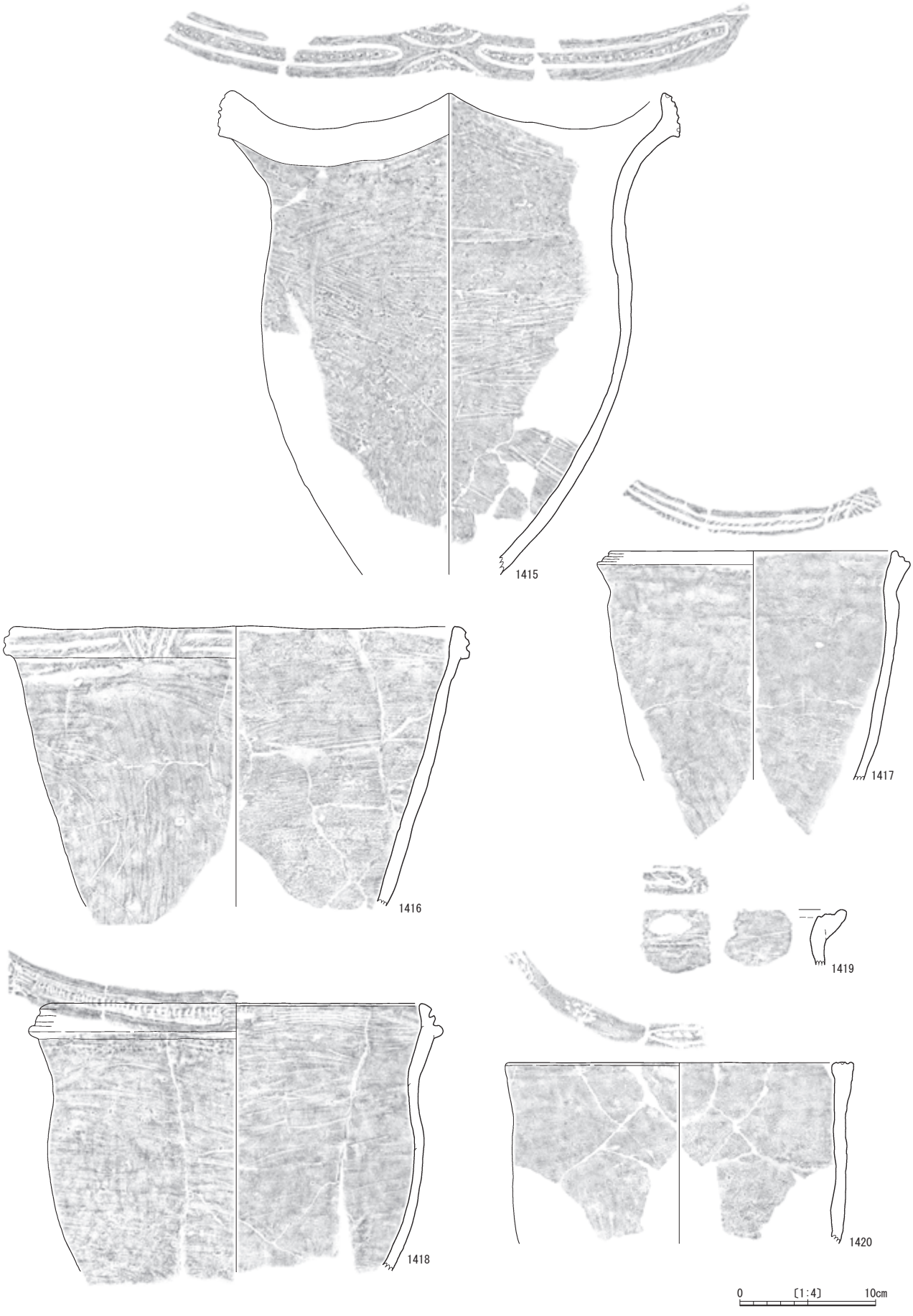
第2-74図　Ⅳ類土器（４）



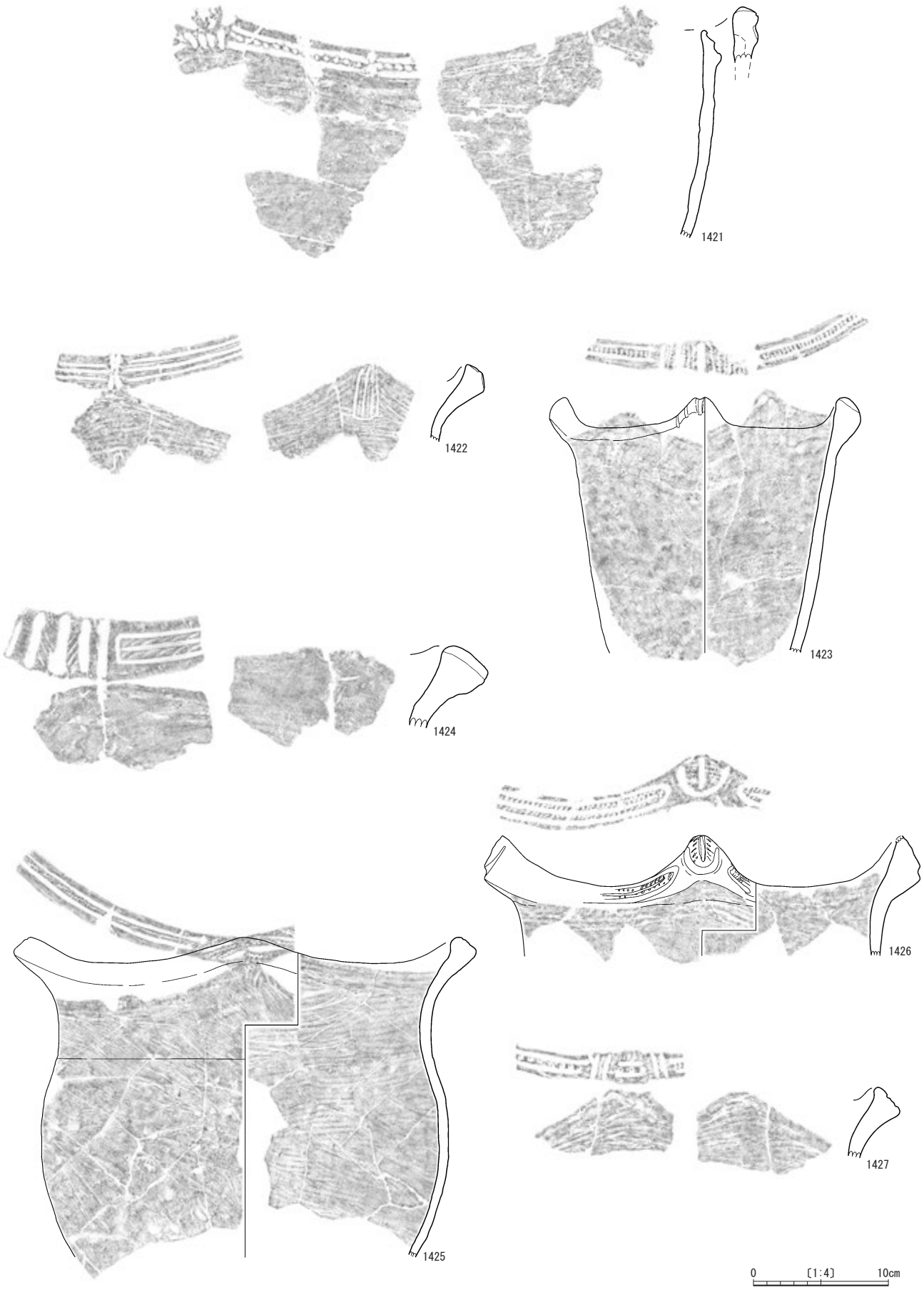
第2-75図　Ⅳ類土器（５）



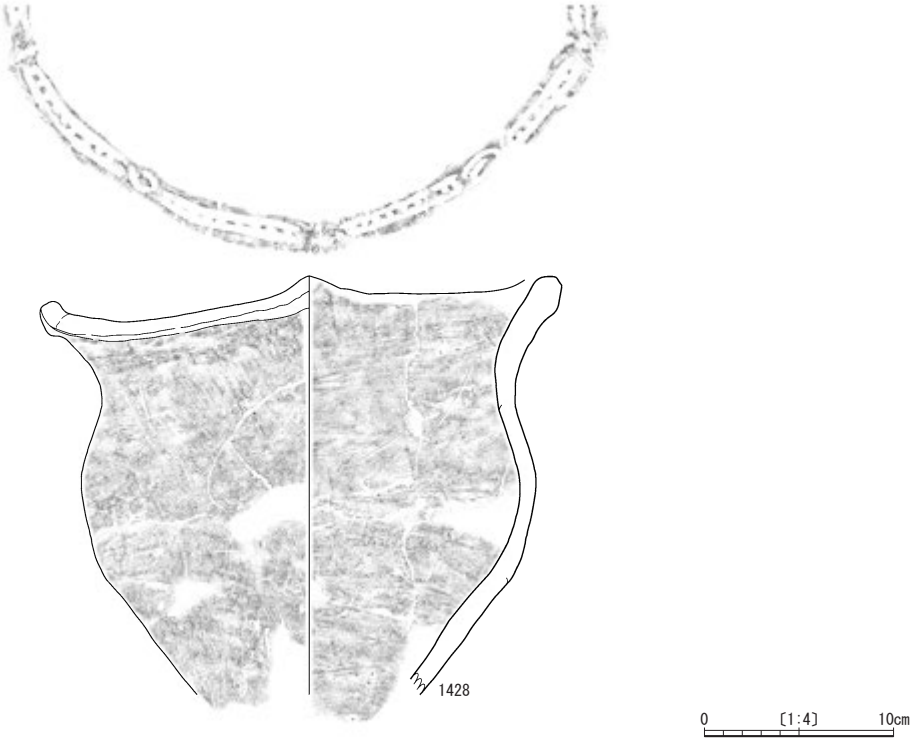
第2-76図　Ⅳ類土器（６）



第2-77図　Ⅳ類土器（７）



第2-78図　Ⅳ類土器（８）



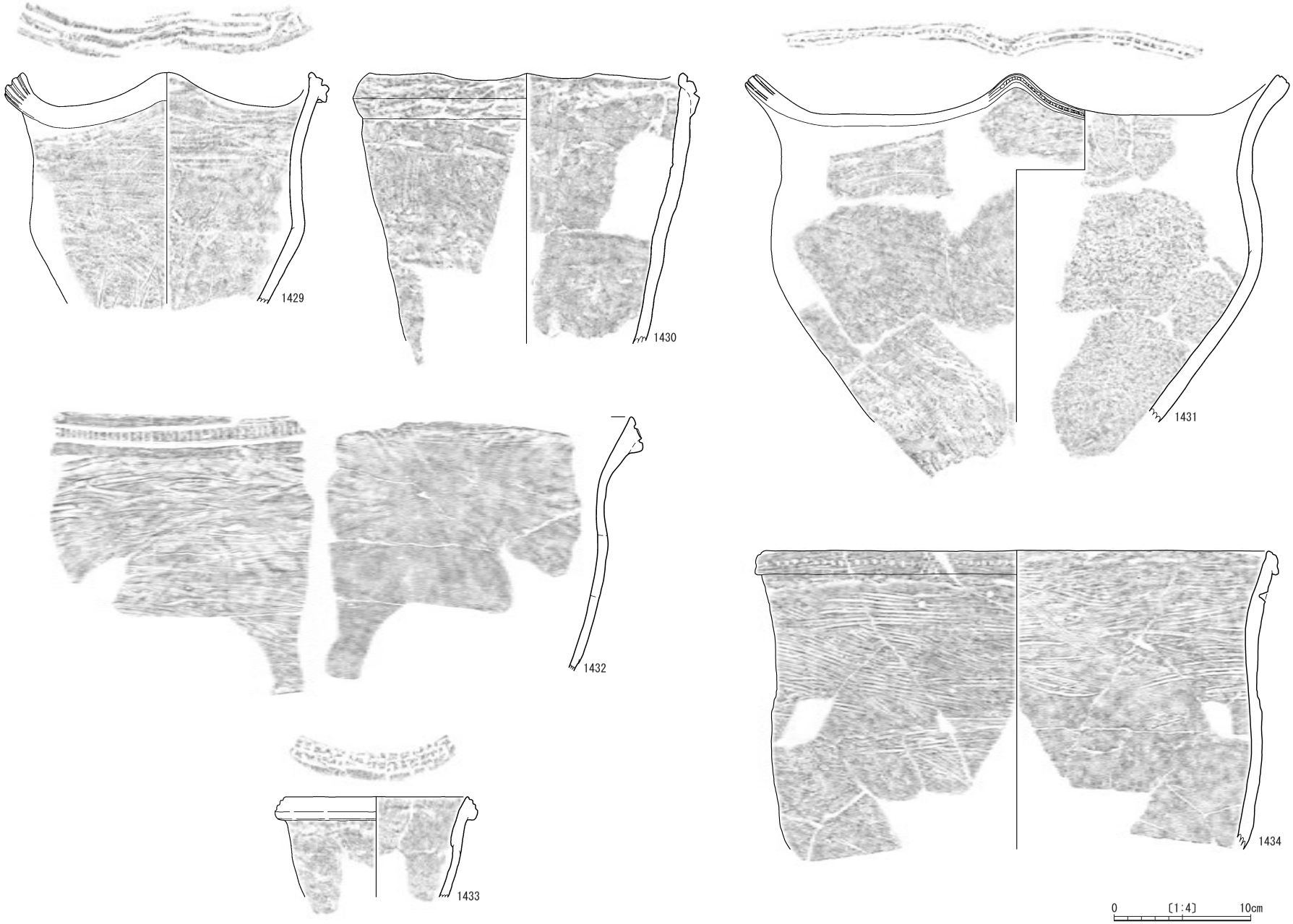
第2-79図　Ⅳ類土器（９）

斜位の貝殻刺突を「ハ」の字状に重ねて施し，さらに横位の沈線を２条巡らす。横位２条の沈線間と口唇部外端にも貝殻刺突を施すが，部分的である。1418は，口縁部に横位の貝殻刺突を縦１列に８～10回以上行う。その横には２条の沈線を施し，沈線間に貝殻刺突を連続で行う。1419は口縁外面を厚く肥厚させ，口唇部に幅広の平坦面をもつ。口唇部に縦位の貝殻刺突を２か所以上，沈線で楕円形状に区画される中にも貝殻刺突を施す。1420は口唇部に楕円形状に連点を，少し離れて楕円形状に施した沈線の区画内に刺突を行う。

1421～1428は波状口縁で，波頂部に沈線や刺突を施し，口唇部に沿って沈線を巡らせ，この沈線間や沈線上に刺突を行うものである。1421・1422は，波頂部に沈線を縦位に施すものである。1421は部分的に波頂部が欠損するが，縦位の沈線が４条残る。さらに，波頂部直下の外面に４条の短沈線を施す。口唇部に２条の沈線を巡らせ，その間に棒状工具によると考えられる刺突を行う。1422は波頂部に縦位の２条２段の短沈線，口唇部に沿って横位の沈線を３条施す。この沈線には刺突が上描きされる。波頂部内面に沈線で縦長三角形の区画を設け，その中に沈線と刺突を施す。1423～1427は，波頂部に沈線と刺突を施すものである。1423は，波頂部の一部が欠損する。波頂部に縦５条の幅の広い沈線を，口唇部には横位の沈線を施す。縦位・横位の沈線間には貝殻刺突を連続して行う。胴下半から口縁部にかけて直線的に広がる器形をもつ。1424は波頂部に縦位に５条以上の短沈線を施し，その間に貝殻刺突を行う。口唇部に沿って沈線で方形の区画を設け，その中に横位の沈線と連続する貝殻刺突を行う。1425は，波頂部に沈線と貝殻刺突を「ハ」の字状に配す。口唇部に沿った２条の沈線間には貝殻刺突を施し，この沈線の端部には円形の刺突を施す。1426は波頂部に「↓」状の沈線の間に横位の貝殻刺突，波頂部の両脇に沈線で細長い楕円形状の区画を設け，中に横位の沈線を１条と貝殻による連続刺突を行う。1427は波頂部に横位の短沈線を２条，その左右に縦位の短沈線を２条ずつ施す。横位の短沈線の間と口唇部に沿った２条の沈線間にも竹管文を連続して行う。1428は４か所の波頂部が残存し，上面観は円形を呈する。波頂部には棒状工具による刺突を縦位に２か所施す。さらに，波頂部と波頂部の中間地点にあたる谷部には「の」の字状の沈線，その両脇には沈線で方形の区画を設け，その中に棒状工具による刺突を施す。

Ⅳb-５類土器（第2-80・81図1429～1440）

1429～1434は，Ⅳb-１～４類に分類できなかったものである。口唇部に縦位の施文がなく，単一の文様を巡らせるものである。1429は口縁部が半分以上欠損しているため全体像は不明だが，波頂部をまたいで２～３条の沈線が施される。沈線間には部分的に貝殻刺突が施される。



第2-80図　Ⅳ類土器（10）

1430は口唇部に２条の沈線を横位に巡らせ，この沈線の上に斜位の貝殻刺突を連続して施す。器面調整は，極めて粗い。1431は，波頂部も含めた口唇部に２条の沈線とこの沈線間に刺突を施す。1432は平口縁で，口唇部に２条の沈線間に貝殻刺突を連続して施す。1433は，横位の沈線と刺突が口唇部を巡る。1434は口唇部に斜格子状の沈線を施し，さらに棒状工具による連続刺突を巡らせる。

1435～1437は，口唇部に横位の沈線を１条と刺突や刻みを施すものである。1435は口唇部に縦位の沈線を４条，その両脇に横位の沈線を巡らす。横位の沈線の外側には，縦位の貝殻刺突を連続して施す。1436は1435と同じ文様構成であるが，口唇部を巡る横位の沈線の外側には刻みを連続して施す。1437は口唇部に横位の沈線を巡らせ，その両側に刻みを施す。

1438～1440は，特異な突起部を図化したものである。1438・1439は，波頂部の先端に角状の突起をもつ。1438の突起は横位の沈線と貝殻刺突を施し，先端は窪ませる。口唇部には２条の沈線を巡らせ，沈線には貝殻刺突を沿わせる。1439は突起の外面に横位の沈線を互い違いに施し，先端は窪ませる。口唇部には横位の沈線と貝殻刺突を巡らせる。1440は波頂部の先端に２本の粘土紐を内外面を渡すように，さらに外面にはこの２本を繋ぐように１本の粘土紐を横位に貼り付ける。また，波頂部の先端から下方に向かって穿孔が行われる。口唇部には１条の沈線を施す。波頂部直下の口縁部外面には幅広い沈線がほぼ縦位に，内面にも沈線で文様を施す。1439・1440は，台付皿の可能性も考えられる。

Ⅳｃ類土器（第2-81図1441～1445）

Ⅳａ類とⅣｂ類に分類できなかったものである。1441は，口唇部に縦位の短沈線を巡らせる。1442は，粘土を貼り付けて波頂部を肥厚させる。波頂部に横位，その両脇に縦位の短沈線を配し，外面には沈線で不定形の文様を施す。1443は口唇部に斜位，不定形の沈線を巡らす。1444は口唇部に斜位の貝殻刺突を巡らせた後，口唇部の中央付近に長さ12～13㎝ほどの沈線を横位に施す。さらに２㎝ほどの間隔をおいて横位の沈線を繰り返し施す。沈線の端部は，強く押し込む。1445は，口唇部に２条の沈線とヘナタリによる回転押圧文を施す。

Ⅳｄ類（第2-81・82図1446～1453）

1446～1448は，直立する口縁部をもつ。1446は平口縁で，胴部はやや張る器形である。外面はケズリ後ナデ，内面は条痕後ナデの器面調整を行う。口縁部内面に緩やかな稜をもつ。1447は波状口縁で，２か所の波頂部が残る。全体では４か所の波頂部をもつと考えられる。一部，口縁端部が外反する所もある。内外面ともケズリ後ナデの器面調整を行うが，器壁の厚さが一定しない。1448は波状口縁で，波頂部には５条の刻みをもつ。内外面ともナデで器面調整を行うが，器壁の厚さは一定しない。

1449は，直線的に外開きになる口縁部をもつ。口唇部が幅広く作り，外向きとなる。上面観は歪な円形となる。

1450～1452は，外反する口縁部をもつ。1450は口唇部に丸味をもたせ，胴下部がやや張る。胴下部から底部に向かってすぼまる。1451は方形に近い口縁部断面で，内面には稜をもつ。外面はケズリ後ナデ，内面はケズリ及び条痕後ナデで器面調整を行う。内面にはススが付着する。1452の口唇部は幅広く，外向きとなる。

Ⅳｅ類土器（第2-82図1454～1457）

1453～1457は，鉢である。1453は強く張る胴部が最大径をもち，口縁部は内傾する。口縁部に２条の細い平行沈線を巡らせ，紐状の粘土紐を２か所貼り付ける。1454は口唇部に２条の沈線を巡らせ，その端部は強く押し止める。1455は，脚台付鉢である。波頂部に４～５条の貝殻刺突，口唇部に１条の沈線を施文する。口縁部はやや直立し，胴部は張らず脚台との境に向かってすぼまり脚台は直立する。底部外面に横位や斜位の貝殻刺突を施文する。1456は，鉢の把手である。把手を貼り付けた口縁端部が欠損していることから，突起部があったと考えられる。幅広い口唇部には縦位の沈線が施される。把手は口縁端部と胴部に２本の脚を渡し，さらに２本の脚を繋ぐように作られる。脚には沈線を施し，正面には渦巻文を描く。1457は台付皿で，口唇部に１条の沈線を巡らせる。脚台は欠損するが，破断面が摩滅していることから欠損後も利用した可能性も考えられる。

【Ⅴ類土器】

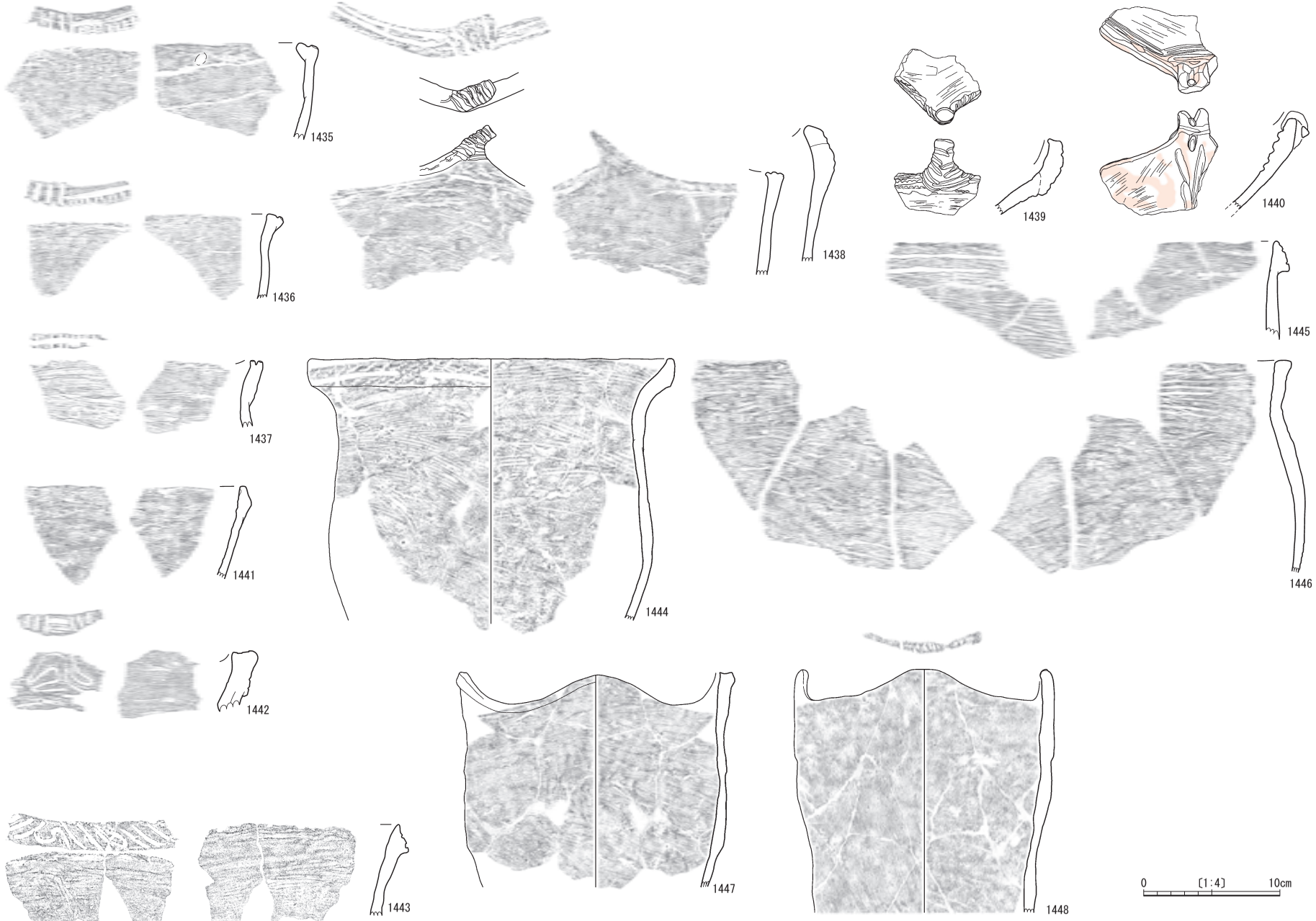
口唇部から口縁部にかけて文様帯に貝殻や竹管及びヘラなどの工具による連続刺突文を施す一群である。口唇部は肥厚し，口縁部は直立～外反し，胴部はやや張る器形をもつ。連続刺突文は縦位・斜位が多いが横向きや山形を呈するものもある。器種は深鉢，鉢，台付皿がある。深鉢を施文具によりⅤａ類とⅤｂ類に大別し，Ⅴｃ類に鉢及び台付皿をまとめた

Ⅴａ類土器

口唇部から口縁部にかけて文様帯に貝殻刺突文を連続して施すものである。施文部位及び器形により４つに細分した。

Ⅴａ-１類　口唇部上面の平坦面を文様帯とし，貝殻刺突文を連続して施すものである。口縁部は直立もしくはやや外反し，胴部はあまり張らない器形をもつ。口唇部は肥厚するものとしないものがある。

Ⅴａ-２類　肥厚し，外面端部がやや下がる口唇部を文様帯とし，貝殻刺突文を連続して施すものである。ただし，文様帯とする口唇部の幅があまり広くならないことを特徴とする。口縁部は直立もしくは外反し，胴部はやや張る器形



第2-81図　Ⅳ類土器（11）



第2-82図　Ⅳ類土器（12）

をもつ。

Ⅴa－３類　口縁部断面が二等辺三角形から直角三角形に近い形状を呈し，口縁部下端が強く張り出す面を文様帯とし，貝殻刺突文を連続して施すものである。口縁部は直立からやや外反し，口縁部下端部が強く張り出し，口縁部直下にくびれや段をもつものである。Ⅴa－２類より文様帯が広いことを特徴とする。

Ⅴa－４類　口縁部下端部が肥厚し，断面が細長い三角形状を呈する口縁部外面を文様帯とし，そこに貝殻刺突文を連続して施すものである。口縁中央が凹み，口縁部直下に段をもつものである。口唇端部の断面は，やや方形を呈す。口縁部は外反し，胴部はあまり張らない。文様帯がⅤa－３類よりさらに広くなることが特徴である。

Ⅴｂ類土器

文様帯に竹管及びヘラなどの工具により連続刺突文を施すものである。文様帯の形状や施文部位及び器形によりⅤａ類と同様に４つに細分した。

Ⅴb－１類　口唇部上面の平坦面を文様帯とし，工具による刺突文を連続して施すものである。口縁部は直立もしくはやや外反し，胴部はあまり張らない器形をもつ。口唇部は肥厚するものとしないものがある。

Ⅴb－２類　肥厚して外面端部がやや下がる口唇部を文様帯とし，工具による刺突文を連続して施すものである。ただし，文様帯とする口唇部の幅があまり広くならないことを特徴とする。口縁部は直立もしくは外反し，胴部はやや張る器形をもつ。

Ⅴb－３類　口縁部断面が二等辺三角形から直角三角形に近い形状を呈し，口縁部下端が強く張り出す面を文様帯とし，工具による刺突文を連続して施すものである。口縁部は直立からやや外反し，口縁部下端部が強く張り出し，口縁部直下がくびれ段をもつものである。Ⅴb－２類より文様帯が広いことを特徴とする。

Ⅴb－４類　口縁部下端部が肥厚し，断面が細長い三角形状を呈する外面を文様帯とし，工具による刺突文を連続して施すものである。口縁中央が凹み，口縁部直下に段をもつものである。口唇端部はやや方形を呈す。口縁部は外反し，胴部はあまり張らない。Ⅴb－３類より文様帯がさらに広くなることが特徴である。

Ⅴｃ類土器

鉢及び台付皿をまとめた。

以下，分類に従って記述する。なお，掲載番号1523は，放射性炭素年代測定を実施した。

Ⅴａ類土器

Ⅴa－１類土器（第2-83図1458～1466）

1458～1461は，口唇部に貝殻による連続刺突を施す。1458は平口縁と考えられるが，波状口縁の可能性もある。口唇部に巻貝頂部による刺突を連続で行う。口縁部は直立し，外面に未貫通の補修孔が１か所と補修孔と考えられる欠けが１か所残る。1459は，口唇部に弧状の貝殻刺突を２条ずつ施文する。口縁部は直立し，内面に接合痕が残る。1460は貝殻復縁部を斜めにし，刺突幅を広くする。口縁部は，やや外傾する。1461は，口唇部に斜位の貝殻刺突を８mm 程度の間隔で施文する。口径12㎝，底径8.4㎝，器高12.7㎝を測る。口唇は肥厚させず，底部外端は外側へ張り出す。底面には白色土が円形に付着する。

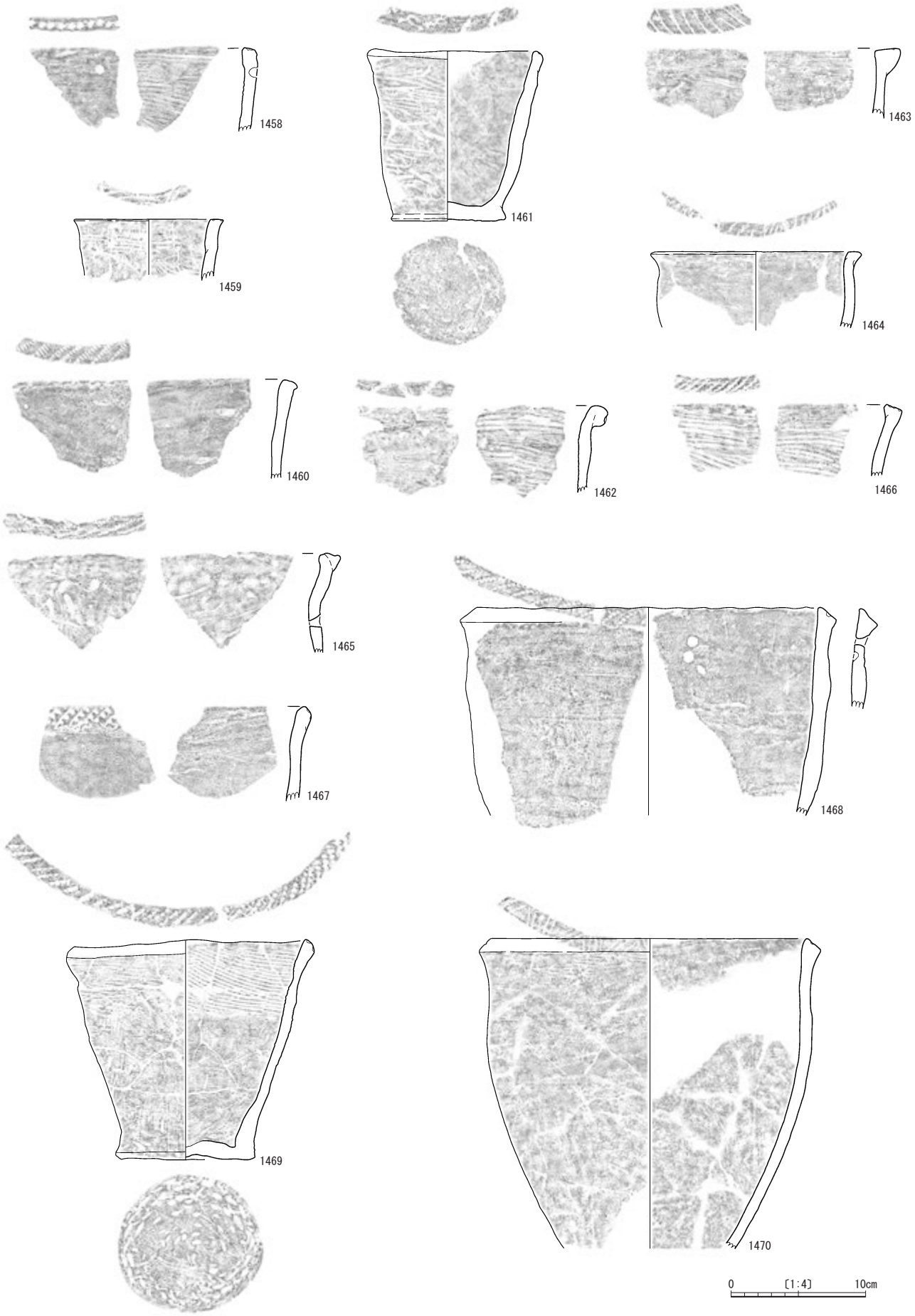
1462～1466は，肥厚させた口唇部に貝殻刺突を連続して施す。1462は，貝殻復縁部による刺突を鋸歯状に施文する。口唇部を外側に広く肥厚させ，直下に段を設ける。胴部割れ面に半分に割れた堅果類と考えられる圧痕が残る。1463は口唇部を広く外側に肥厚させ，口唇部に幅広の平坦面を作り貝殻復縁部による斜位の刺突を行う。肥厚部直下に段を設け，口縁部は直立する。1464は，貝殻の部位を施文場所によって使い分けている。口唇部は肥厚するが，いびつで口唇部の幅が場所によって異なる。1465は，口唇部に横「Ｖ」字状に連続刺突を行う。口唇部外面を肥厚させ，口唇部直下に段をもち，そこに接合面が良好に残る。口縁部は外反し，補修孔を１か所もつ。1466は，口縁部が外傾する。口唇部内面を肥厚させ，直下に段を設ける。

Ⅴa－２類土器（第2-83・84図1467～1477）

1467・1468は，口縁部がほぼ直立する。1467は口唇部外面がやや肥厚し，そこに貝殻腹縁部で刺突を行う。土器片の下辺が湾曲し，破断面が丸味をもつことから，円盤形土製品の未製品と考えられる。1468は，口唇部に貝殻腹縁部による深い連続刺突を行う。口縁部下位に焼成後の穿孔が１か所残り，内面には穿孔直下に未貫通の穿孔も残る。

1469は，口縁部が外傾する。口唇部に貝殻腹縁による連続刺突を行う。底面に網代編の圧痕が残るが，一部をケズリ消す。

1470～1477口縁部が外反し，そのうち1475～1477は強く外反する。1470は，口唇部に３～５条の鋸歯状の貝殻刺突を行う。胴部は直立し，底部に向かってすぼまる。1471は，口唇部に約５mm の間隔で斜位の貝殻刺突を施文する。口唇部が波打ち，口唇部幅は12㎜から17㎜と一定しない。1472は幅の狭い口唇部に貝殻腹縁部による連続刺突を行うが，一部施文しない範囲がある。胴部の張りは弱い。口縁部から胴部内面に強い条痕が残る。1473


1458
1461
1463
1459
1464
1460
1462
1466
1465
1468
1467
1469
1470
0
[1:4]
10cm

第2-83図　Ｖ類土器（１）

は，胴部が強く張る器形と考えられる。口唇部には斜位の貝殻刺突を密に施す。1474は，口唇部に２条ずつ弧状の貝殻刺突を行う。1475は，口唇部に貝殻復縁部の連続刺突を深く行った後にナデを施している。胴部が緩く張り，口縁部断面は方形を呈する。口縁部内面に稜をもつ。1476は口縁部内面がやや窪み，胴部が直立する。内外面には条痕が残る。1477は波打つ口唇部に５列以上の貝殻刺突を一組とし，間隔をあけて施文する。口縁部内面に稜をもち，胴部が強く張る。

Ⅴa－３類土器（第2-84～86図1478～1495）

1478・1479・1480・1481は，口縁部が短く外反する。1478は外面に吹きこぼれと考えられるススが残り，口唇部内外面は黒化する。1479は，底部を欠損する。文様帯には斜位の貝殻刺突を施す。内面には条痕が残る。胴部中位の内面に粘土の接合痕が一周残る。1480は，文様帯に横位の貝殻刺突文４列を施す。1481は文様帯に縦位の貝殻刺突を施すが，豆類と考えられる圧痕が残る。

1482～1491は，口縁部が外反するものである。1482は口径17.4㎝を測り，口縁部が外反した後短く直立する。口縁部幅がやや狭く，胴部は張り，胴部内面にススが残る。1483は口縁部がやや外反し，口縁外面下端部を肥厚させ角張る。口縁部に巻貝による刺突を施す。胴部は緩く張る。1484・1485・1486は，口縁部に斜位の貝殻刺突文を施す。いずれも胴部の張りは緩い。1486は，文様帯に貝殻刺突を施した後ナデている。内面には条痕を残すが，器面調整は極めて粗い。1487は器面が粗く，一部剥落する。内外面とも胴部から口縁部にかけて条痕が残る。1488は，文様帯に深い貝殻刺突を施す。口縁部直下に明瞭な段をもつ。1489～1491は，文様帯が横向きとなる。1489は，貝殻刺突文７列を一組として一定間隔で施す。1490は文様帯に貝殻刺突を施した後，その上端に棒状工具による刺突を施すが，一部貝殻刺突とずれる所もある。1491は，口縁部直下に明瞭な段をもつ。

1492～1494は，外傾する口縁部をもつ。1492は，口縁部内面に粘土接合痕が良好に残る。文様帯に弧状の貝殻刺突を３重に施す。1493は，文様帯に貝殻押引文を施す。1494は口縁下端部がやや張り出し，口縁部が外傾する。文様帯に巻貝と考えられる工具による刺突を施す。

1495は口唇部に粘土を内向けに貼り付け，内湾させた面を文様帯とする。底部から口縁部に向かってまっすぐ外に開き，口縁部内面で強くくびれ，強い稜をもつ器形となる。断面形状は，逆「く」の字状を呈す。口縁部内面に指頭圧痕が残る。

Ⅴa－４類土器（第2-86図1496～1502）

1496は口縁部が直立し，1497～1502は外反する。1496は，文様帯が口径に対し幅広である。外面に吹きこぼれと考えられるススが残る。1497は文様帯下端に粘土を貼り付け，肥厚させる。文様帯には横位の貝殻刺突を間隔を空け施す。1498・1499は文様帯下端部が強く張り出し，直下に強い段をもつ。1499は，貝殻刺突をやや横向きに施す。1500は文様帯の中央付近が窪み，間隔の空いた貝殻刺突を施す。1501は，貝殻刺突をまばらに施す。1502は波状口縁で，文様帯の中央付近がやや窪む。口縁部直下も窪み，胴部が張る。

Ⅴb 類土器

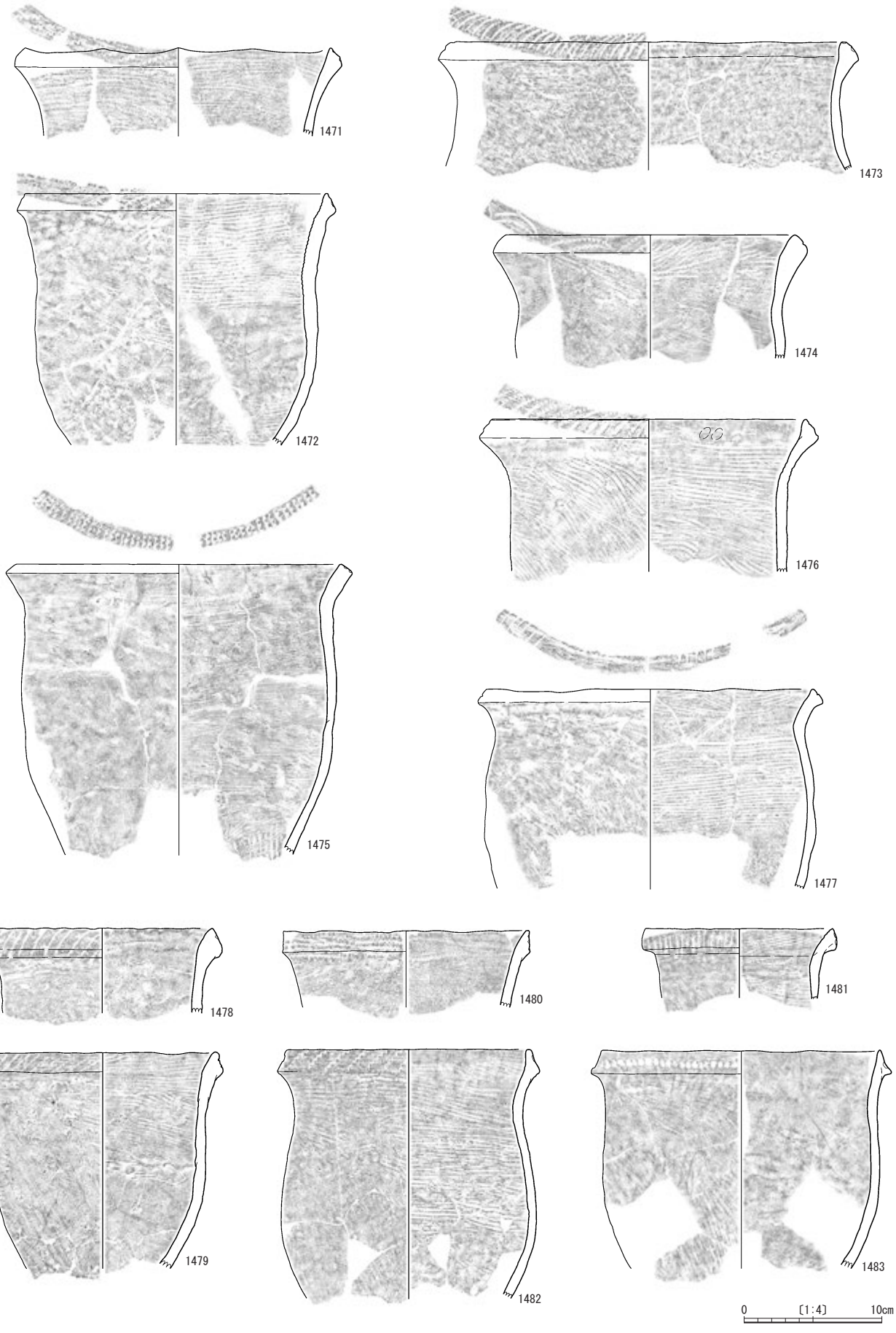
Ⅴb－１類土器（第2-87図1503～1509）

1503～1505は，口唇部にヘラ状工具による刺突を行う。1503は丸い口唇部に粘土紐を貼り付け，斜位の刺突を向きを変えながら施す。口唇部内面の接合部は粗雑で輪積み痕が明瞭に残り，一部剥離する。口縁部はやや内湾する。外面は丁寧なナデ，内面はケズリで器面調整を行う。1504は，口唇部に刺突を連続して行う。口縁部は直立し，内面は一部摩滅する。1505は口縁部下位がくびれ，口縁部がやや外反し，胴部が張ると考えられる。口唇部を面取りし，そこに刺突を連続して行う。

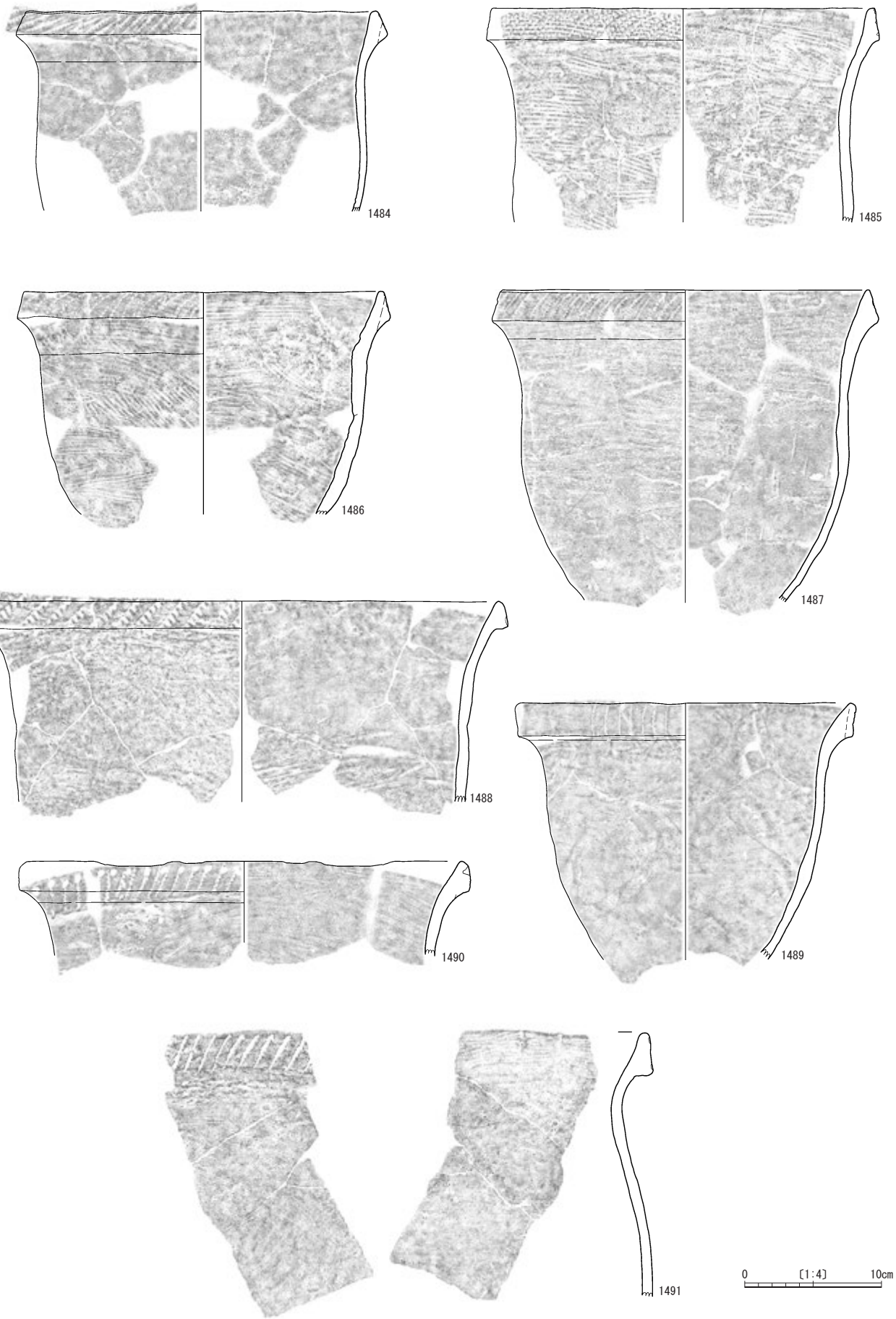
1506～1509は，肥厚させた口唇部にヘラ状工具による連続刺突を行う。1506は，口唇部上面と口唇部直下の肥厚部に幅約８㎜の工具による刺突を行う。口縁部下位はくびれ，その内面に稜をもつ。口縁部はやや外反し，胴部は張らない。1507は，上面にやや内下がりの平坦面を作出する。口唇部には幅約９㎜の工具で斜め右方向から刺突を行う。口縁部は直立し，胴部の張りは少ないと考えられる。全体的に器面調整は粗雑で部分的に接合痕がみられ，特に口唇部外面の接合部には指頭圧痕が残る。1508は口唇部外面が肥厚し，口縁部がくびれる。口唇部に平坦面を作り，その中央を凹ませ爪形刺突文を施す。1509は口唇部外面に方形の粘土紐を貼り付けて肥厚させ，広い平坦面を作り，端部を面取りする。幅２㎝程度の口唇部上面には幅1.5㎝程の凹線を巡らせる。さらに，上面外端部には押圧状の浅い刺突を施す。口縁部に強いくびれをもつ。口縁端部の内面はやや凹み，内外面はケズリによる器面調整を行う。

Ⅴb－２類土器（第2-87図1510～1518）

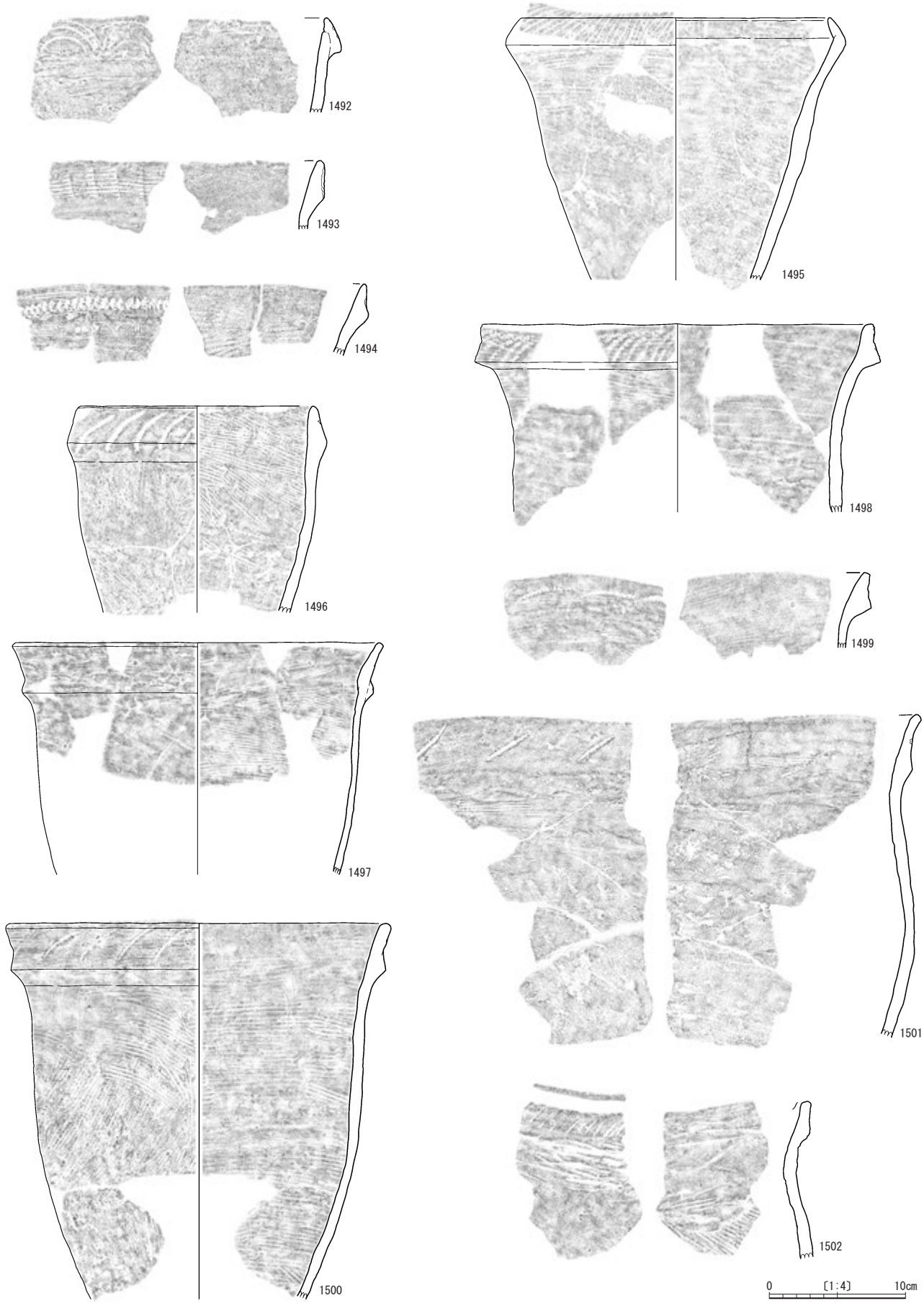
1510～1516は，平口縁となる。1510・1511は口縁部がやや内湾し，胴部が緩く張る。1510は，口唇部に先端の尖った工具による刺突を行う。1511は，肥厚させた口唇部外面にヘラ状工具による刺突を行う。外面には粘土の接合痕が良好に残る。1512は，口縁部が直立する。口唇外面を三角形状に肥厚させ，端部を角張らせる。半裁竹管文状の刺突を施す。1513は，口唇部に工具による深い刺突を行う。内面に植物の種子と考えられる圧痕が残る。1514は，口唇部に先端の尖った工具による深い刺突を施す。内外面に一部橙色を呈す部分がある。外面に指頭圧痕が残る。1515は口唇部に粘土を貼り付けて肥厚させ，先端が丸い工具で斜めに刺突を施す。1516は口唇部に竹管による刺突を施し，口縁部内面には凹みをもつ。


1471
1472
1473
1474
1475
1476
1477
1478
1479
1480
1481
1482
1483
0 〔1:4〕 10cm

第2-84図　Ｖ類土器（２）



第2-85図　Ｖ類土器（３）


1492
1493
1494
1495
1496
1497
1498
1499
1500
1501
1502
0 [1:4] 10cm

第2-86図　Ｖ類土器（４）


1503
1504
1505
1506
1507
1508
1509
1510
1511
1512
1513
1514
1515
1516
1517
1518
0 〔1:4〕 10cm

第2-87図　Ｖ類土器（５）

1517・1518は口縁部が外反し，波状を呈する。1517は，幅の狭い口唇部の外端よりにヘラ状工具による刺突を行う。胴部はやや張り，胴部下位でくびれ底部に向かってすぼまる器形をもつ。1518は口縁部が強く外反し，内面に稜をもつ。口唇部には深い刺突を施す。

Ⅴb－３類土器（第2-88図1519～1525）

1519～1524は平口縁で，1525は波状口縁となる。いずれの口縁部も外反する。1519は口縁部がやや外反し，一部欠損した突起が１か所残存するが，全体形は不明である。文様帯に端部が丸い工具で刺突を施すが，一部押引状となる。さらに突起の上面及び内面にも刺突を施す。1520は，文様帯にヘラ状工具による刺突を横位２列に施す。1521は，粘土を貼り付けて幅広く作った文様帯の中央部にヘラ状工具による刺突を１列施す。1522は口縁部が強く外反し，胴部は張らず直立する。文様帯に端部が平坦な棒状工具（径約４㎜）で密に刺突を施す。1523は，口唇部上部に粘土を貼り付けて文様帯を形成する。文様帯の中央部を窪ませ，縦長の刺突を密に施す。口縁部内面に稜をもち，粘土の接合痕が一部残る。文様帯直下は強くくびれ，そこには指頭圧痕が残る。胴部はほぼ張らず，底部に向かってすぼまる。胴部内面にススが付着する。1524は口縁部外面直下が強くくびれ，胴部はあまり張らない。口縁部に細い刺突を密に施す。1525は，肥厚させた文様帯に下から上方向に棒状工具で刺突を行う。

Ⅴb－４類土器（第2-88～90図1526～1548）

1526～1528は，内湾する口縁部をもつ。1526は，内湾する文様帯の下端に粘土を貼り付けて肥厚させる。さらに粘土を貼り付けた上辺に沈線を巡らせ，肥厚部を強調する。文様帯にはヘラ状工具による細い刺突を行う。胴部の張りは弱く，直線的に底部に至る。1527は胴部上位から口縁部に向かって内湾し，胴部がほぼ直立し，胴部下位から底部に向かってすぼまる。口縁部には高さのない突起が１か所残存する。幅の狭い文様帯には粘土を貼り付け肥厚させ，ヘラ状工具で押圧に近い刺突を施す。1528は，幅の狭い文様帯に斜位の刺突を連続して施す。口縁部直下に粘土の接合痕が残る。内外面に堅果類の圧痕が複数残り，種子が貫通した箇所もある。二次焼成を受けたと考えられ，表面がざらつき，桃色や薄灰色の色調を呈す。

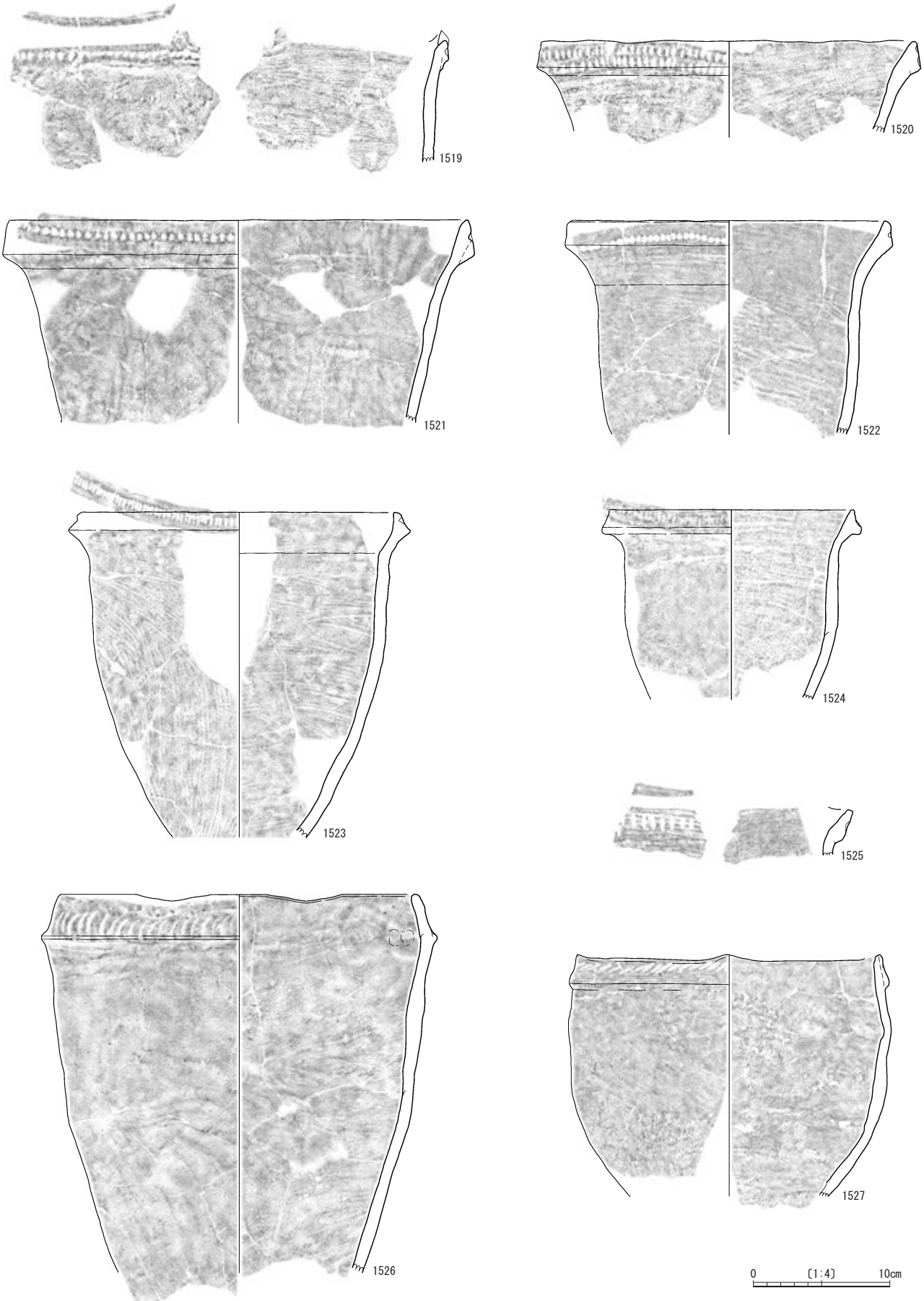
1529～1535は，直立した口縁部をもつ。1529・1530は胴部から口縁部へほぼ直立し，口縁端部が短く外反する。1529は，文様帯に２本一組の沈線を間隔を空けて施す。1531は胴部から口縁下部まで内湾し，口縁部が直立する。胴部に最大径があり，口唇部は方形を呈し平坦面をもつ。1532～1535は波状を呈する口縁部をもち，文様帯には斜位の刺突を連続して行う。また，1532・1534・1535は，文様帯の下辺に沿うように刺突を施文する。1532は内面に粗いケズリ調整を施し，口縁部直下から胴部中位までススが付着する。1533・1534は，口縁部下端部が外に張り出して厚みがある文様帯をもつ。1535は口唇部が方形を呈し，波頂部にも４条の刺突を施す。

1536～1541は平口縁で，口縁部が直線的に外に開き，胴の張りの弱い器形をもつ。1536・1538・1539は，文様帯にヘラ状工具による斜位の刺突を連続して施す。1537は，２列一組の半裁竹管文を間隔をおいて施す。1540は口縁部中央が強く凹み，そこに竹管による刺突を横位に施す。

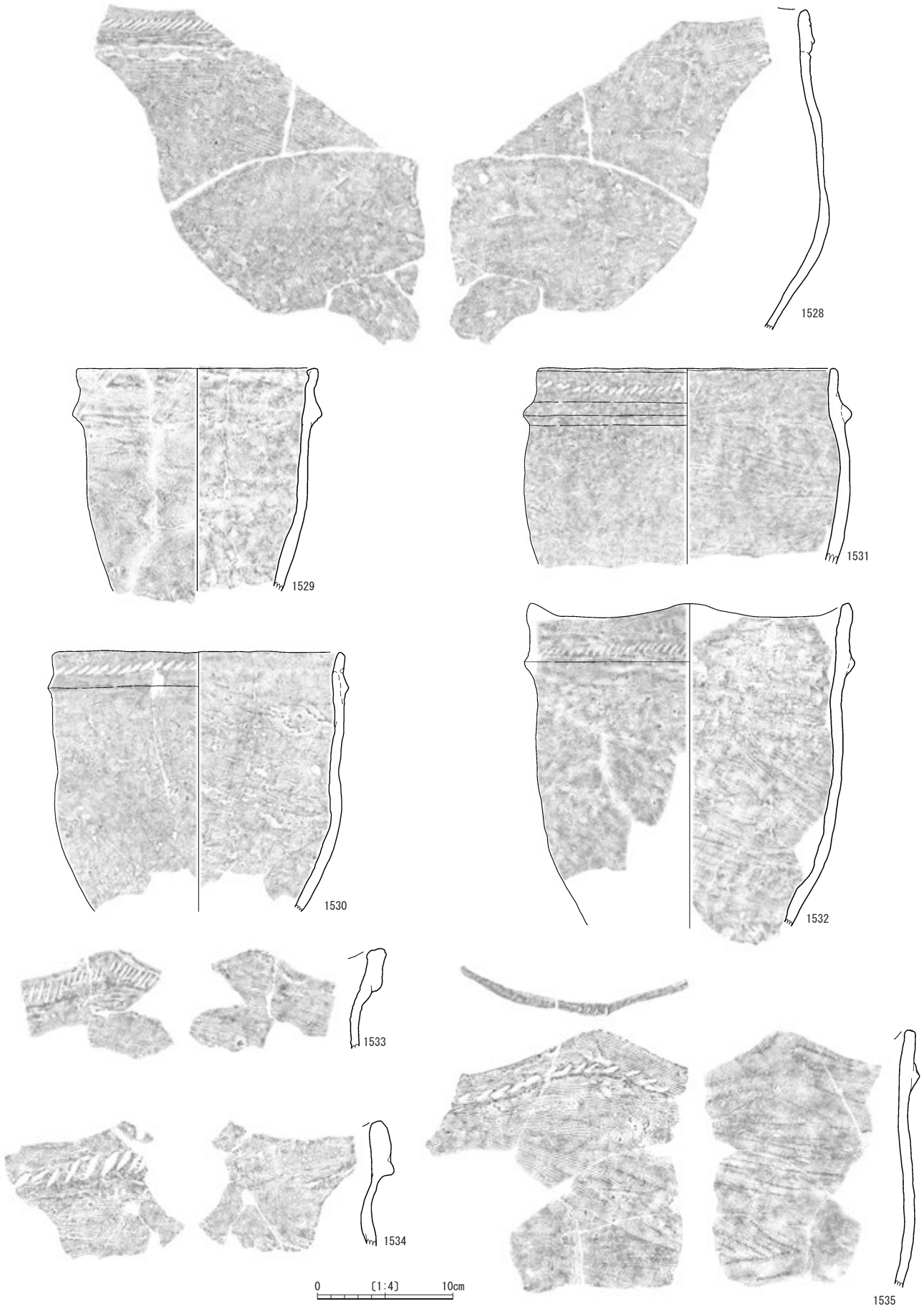
1541～1548は，外反する口縁部をもつ。1541は口縁部幅が幅広く，口縁部の中央に一列隙間なく斜位の刺突を施す。胴部内外面にススが付着する。1542は幅広い口縁部をもち，口縁部下位でくびれ，胴部が張る。口縁部下半に太い１列の凹みを作り，そこに粘土を充填しその上から斜位の刺突を施す。部分的に刺突を施したあと上から凹線を引き，その上に粘土をさらに貼り付ける部分もある。充填した粘土は一部剥離する。内外面にススが付着する。1543は，粘土を貼り付け文様帯の下部を肥厚させる。胴のやや長い器形となる。文様帯に横位の爪形文を巡らし，内外面にススが付着する。1544は口縁部がやや外反し，口縁部直下でくびれ，胴部がやや張り，底部に向かってすぼまる。波頂部が，２か所残存する。幅広い文様帯にはヘラ状工具による斜位の刺突を連続して施す。口縁部から胴部の膨らみまでが狭く，器形は寸胴となると考えられる。口縁部の内外面にススが付着する。1545は口縁部が外反し，胴部が張る器形をもつ。あまり肥厚しない文様帯には斜位の刺突を施す。波頂部が２か所残存する。1546は口縁部直下でくびれ，胴部が張り底部に向かってすぼまる。口縁部に幅広の刺突を施す。口縁部外面にススが一部付着する。1547は波頂部下に刺突を施すが，右側には施文されない箇所がある。1548は粘土を貼り付け文様帯を肥厚させるが，波頂部下はさらに肥厚させる。文様帯にヘラ状工具による刺突を施すが，波頂部上面にも刺突を行う。

Ⅴc 類土器（第2-91図1549～1557）

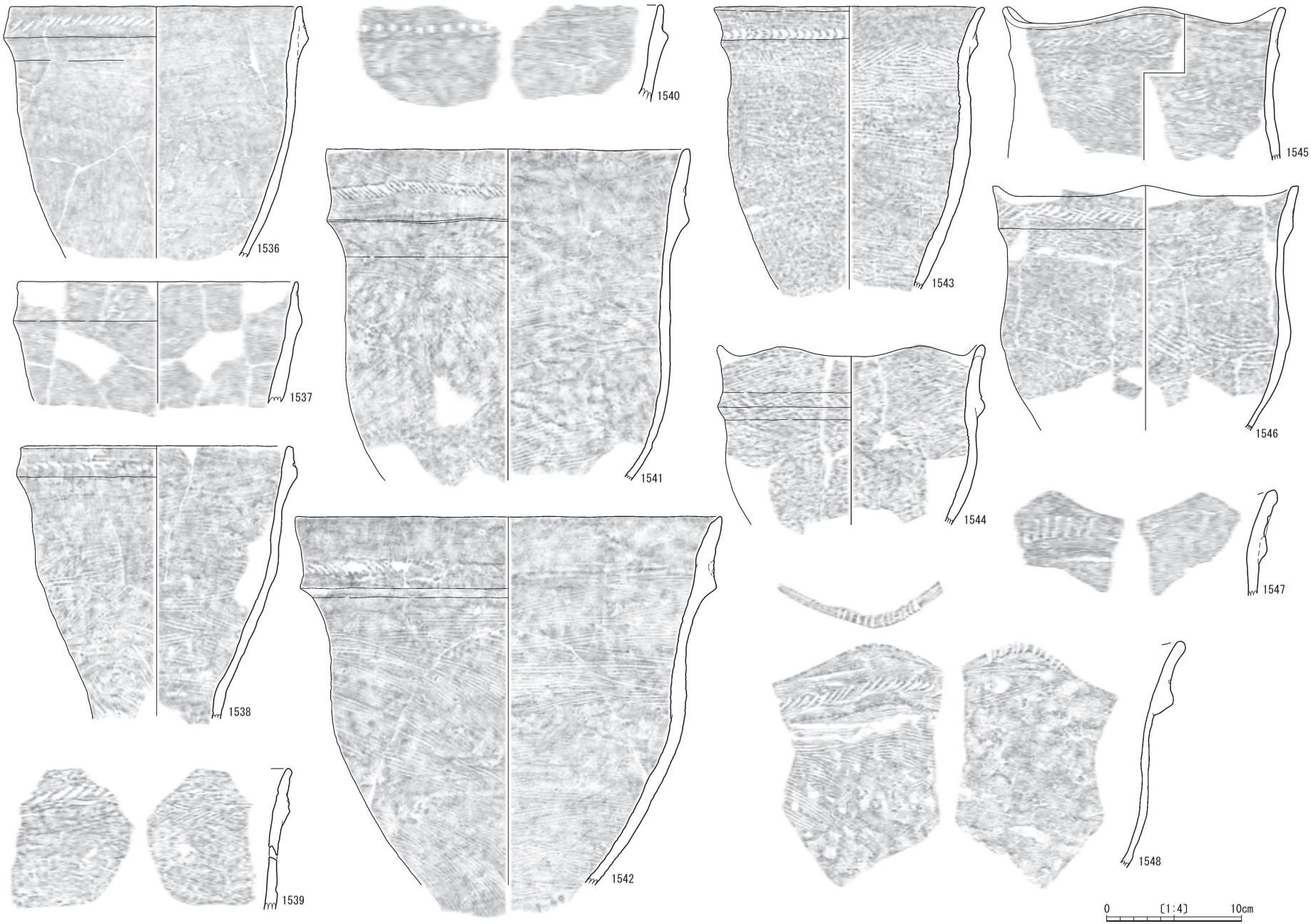
1549～1556は鉢で，1557は台付皿である。1549～1552は，口縁部が内湾する。1549・1550は，口唇部幅が狭く上向きで外面端部が角張る。1551は口唇部がやや方形を呈し，口唇部直下に方形の突帯を貼り付け，口唇部と突帯に棒状工具による刺突を施す。1552は，胴部から口縁部に向かって直線的に内傾する。口唇部が方形を呈し，口縁部中央がくびれ，口縁部下端部が張り出す。口縁部直下に段をもつ。刺突は口縁部中央に施すが，やや下に下がる箇所もある。1553・1554は外反する口縁部をもち，口縁部下位で強くくびれ胴部に向かって強く張り出し，胴部に最大径をもつ。1553は口唇部がやや垂れ下がり，そこに斜位の刺突を施す。二次焼成を受けたと考えられ，表面が粗く，桃色や薄灰色を呈す。1554は，方形を



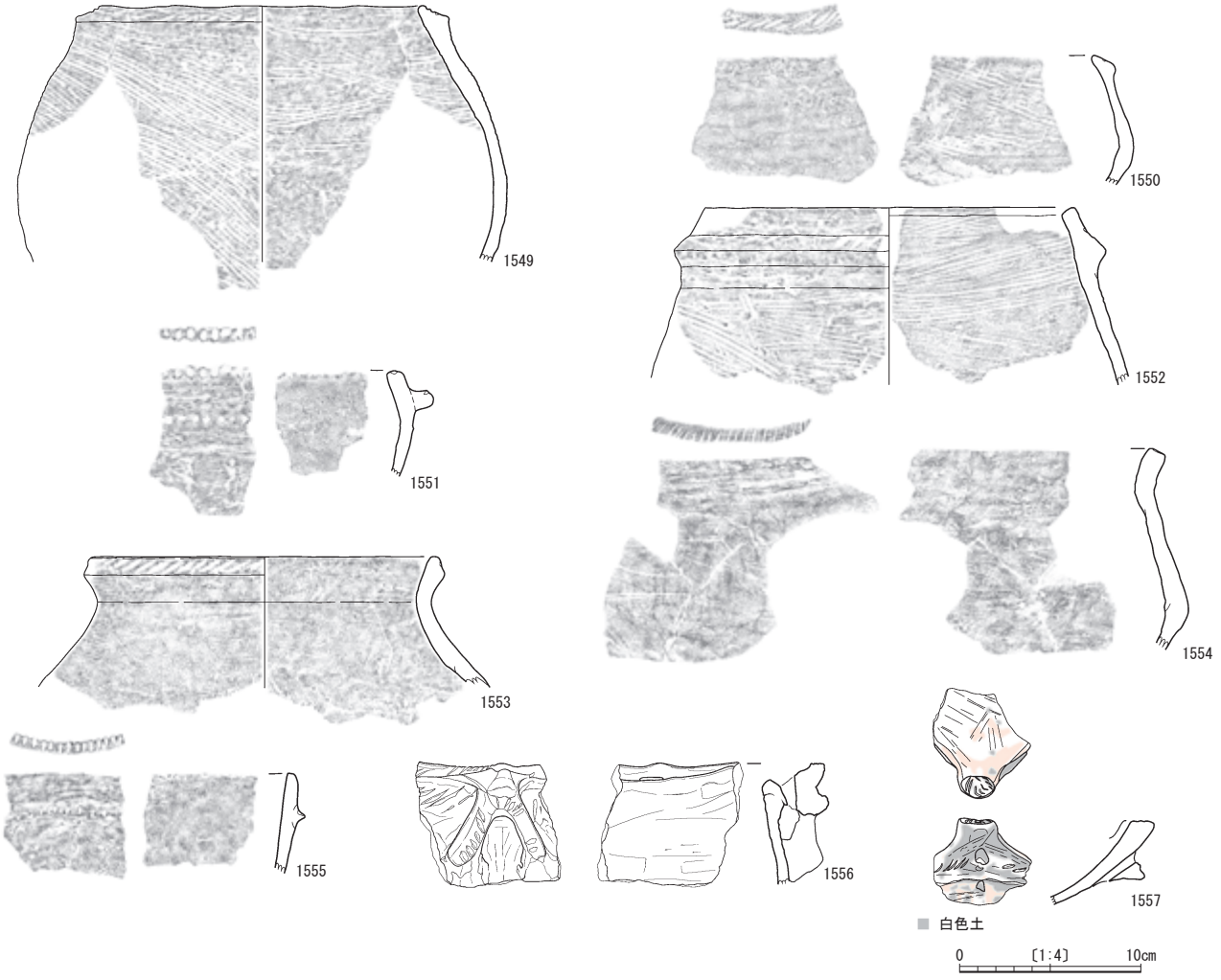
第2-88図　Ｖ類土器（６）



第2-89図　Ⅴ類土器（７）


1536
1537
1538
1539
1540
1541
1542
1543
1544
1545
1546
1547
1548
0
〔1:4〕
10cm

第2-90図　Ⅴ類土器（８）



第2-91図　Ⅴ類土器（９）

呈する口唇部に刺突を施す。口縁部の外反は短く，胴部に稜をもつ。1555は，口縁部が外傾する。口縁部に三角突帯を貼り付け，突帯上面に外から押し当てるように刺突を施す。口唇部には刻みを施す。1556は波状口縁で，波頂部に突起と把手をもつ。把手は棒状粘土２本を逆「Ｖ」字状に貼り付け，その頂部に山形の突起を２つ貼り付けて口唇部と合流する。波頂部上面に上面から穿孔を行う。突起の上面・外面及び把手の外面に刺突を施す。口縁部にも大きい刺突を施す。口唇部の断面は方形を呈し，平坦面をもつ。

1557は台付皿で，波状口縁をもつ皿部である。波頂部上面に楕円形の平坦面をもち，そこに刺突を施す。波頂部直下の口縁部から胴部に向かって斜めの穿孔を行う。口縁部中央は凹み，そこにも刺突を施す。全面に白色土が，一部に赤色顔料が付着する。赤色顔料の残り方から白色土を下地にし，その上から赤色顔料を塗布している。

【Ⅵ類土器】

口縁部の上下を刺突で区画して文様帯とし，その内側に沈線や凹線，刺突，凹点，刻みを行うものである。深鉢や鉢，台付皿，注口土器の器種がある。

深鉢は口縁部が外反し，口縁部下端が強く張り出し口縁部直下がくびれる。口縁部の断面形態は，三角形または「く」の字状を呈する。胴部はあまり張らない。深鉢は文様構成及び器形によりⅥa類とⅥb類に大別し，さらに器形は同様であるが文様帯に区画をもたないものをⅥc類，無文のものをⅥd類に分類した。また，鉢をⅥe類，台付皿・注口土器・舟形土器をⅥf類として報告する。Ⅵ類の分類は，次のとおりである。

Ⅵａ類土器

口縁部上下を刺突で区画して文様帯とし，そこに沈線や刺突で文様を構成するものである。ただし，口縁部上下を区画する刺突に代わって刻みとなる場合もある。口縁部は外反し，口縁部下端部が張り出し，口縁部直下がくびれる。口縁部中央が凹むものもある。胴部は，張るものと張らないものがある。平口縁と波状口縁があり，波状口縁の波頂部には刺突とその左右に貝殻刺突を連続

で行うものもある。内面や胴部に文様を施すものや口縁部下位に突起をもつものもある。文様構成によって，さらに４つに細分した。

Ⅵａ－１類　口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設けるものである。区画内の施文は行われない。

Ⅵａ－２類　口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け，その区画内に横位の沈線を施すものである。

Ⅵａ－３類　口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け，その区画内に刺突を施すものである。

Ⅵａ－４類　口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け，その区画内に横位の沈線と刺突を施すものである。

Ⅵb 類土器

口縁部上下を刺突で区画した文様帯に「Ｃ」字状の凹点と凹線や刺突，刻みで文様を構成するものである。凹点や凹線が，刺突や沈線となる場合もある。口縁部は中央部が凹むが，口縁部の断面が三角形を呈すものもある。口縁部下端が張り出し，口縁部直下はくびれ，胴部は張らない器形となる。口縁部下位に突起をもつものや口縁部内面や口縁部下位（胴部）まで文様を施すものもある。文様構成によって，次の３つに細分した。

Ⅵb－１類　口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け，その区画内に「Ｃ」字状の凹点を施すものである。

Ⅵb－２類　口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け，その区画内に主に「Ｃ」字状の凹点と横位の凹線を施すものである。

Ⅵb－３類　口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け，その区画内に主に「Ｃ」字状の凹点と横位の凹線及び刺突を施すものである。

Ⅵｃ類土器

口縁部上下を刺突で区画せず，刺突や沈線で文様を構成するものである。口縁部は外反し，口縁部下位が張り出し，口縁部直下でくびれる。口縁部断面形態は三角形や「く」の字状を呈するものがある。口縁部下位に突起をもつものや口縁部内面や口縁部下位（胴部）まで文様を施すものもある。文様構成によって４つに細分した。

Ⅵc－１類　沈線を施すもの。

Ⅵc－２類　貝殻刺突と工具による刺突を連続で施すものである。

Ⅵc－３類　「Ｃ」字状の凹点と刺突を施すものである。

Ⅵc－４類　Ⅵc－１類からⅥc－３類に分類できないものである。

Ⅵｄ類土器

口縁部に文様をもたない無文のものである。口縁部下端部が張り出し，口縁部直下がくびれる。口縁部形態で２つに細分できる。

Ⅵd－１類　口縁部は肥厚し，特に口縁部下端部が張り出すもの。

Ⅵd－２類　口縁部中央が凹み，いわゆる口縁部断面形態が「く」の字状を呈するもの。

Ⅵｅ類土器

鉢は胴部から口縁部にかけて内湾し，胴部が強く張り出す器形をもつ。中には突起をもつものもある。また，台付鉢の脚台もここに含めた。

Ⅵｆ類土器

台付き皿及び注口土器，舟形土器をまとめた。

以下，分類に従って記述する。なお，掲載番号1586・1595・1621・1649・1657は，放射性炭素年代測定を行った。

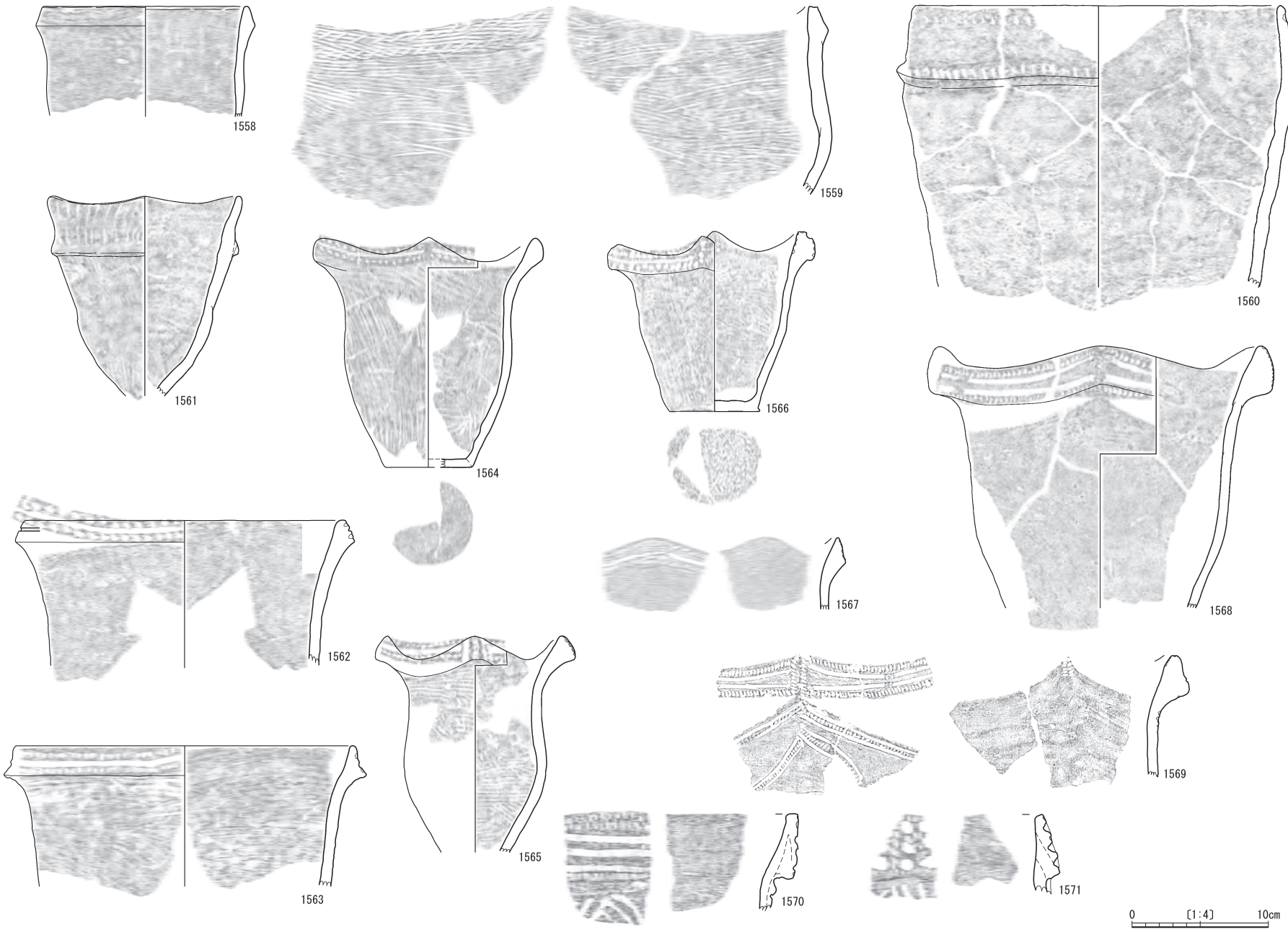
Ⅵａ類土器

Ⅵa－１類土器（第2-92図1558～1561）

1558は口縁部下端部が肥厚し，胴部上位でややくびれ，胴部はあまり張らない器形をもつ。口縁部の上下に棒状工具による刺突を巡らせ区画する。1559は口縁部下端部が張り出し，口縁部直下に段をもつ。口縁部はやや内湾し，胴部が張り，ここに最大径をもつ。口唇部は，方形を呈す。口縁部に爪形刺突による区画を行う。1560は，内湾する口縁部下端に粘土を貼り付け肥厚させる。そして，口縁部上端と肥厚させた部分に棒状工具で連続した刺突を巡らせ区画する。器面調整は粗く，胎土の小礫の混入が目立つ。1561は，波頂部が１か所残存する。口縁部下端に粘土を貼り付け肥厚させ，口縁部の上下に刻みを連続して施し区画を設ける。口縁部から胴部にかけての内外面には，部分的に赤色顔料が残る。

Ⅵa－２類土器（第2-92図・93図1562～1577）

1562～1571は口縁部の上下に棒状工具による連続した刺突を行い，区画を設けるものである。1562～1564は口縁部の区画は上下のみであるが，1565～1571は刺突による縦位の区画をもつものである。また，1562～1567は区画内に横位の沈線を１条，1568～1571は区画内に横位の沈線を複数施す。1562は平口縁で，口縁部が外反し，口縁下端部がやや張り出し胴部は直立する。1563は平口縁で，口縁部中央がやや凹み，口縁部下端部が張り出し胴部は直立する。口縁部内面に緩い段をもつ。1564は波状口縁で，口縁部が強く外反し，胴部がやや張る。波頂部直下まで横位の沈線は及ばない。1565は波頂部が１か所残存し，上面観は方形と考えられる。波頂部外面の屈曲部に４個の刺突とその左右に短沈線を施す。口縁部が外反し，胴部が張る。1566は波頂部外面の屈曲部に３～４個の刺突を２列施し，内面にも３～４個の刺突を施す。口縁部は直立し，波頂部は外反する。胴部はあまり張らず，底部に向かって直線的にすぼまる。口縁部の作りはいびつで上面観は方形を呈すが，一角が外側へ飛び出る。1567は波頂部外面の屈曲部に４個の刺突を縦３列に


1558
1559
1560
1561
1564
1566
1567
1568
1562
1565
1563
1569
1570
1571
0 [1:4] 10cm

第2-92図　Ⅵ類土器（１）

施す。1568は波頂部外面の屈曲部に刺突を，区画内に横位の幅の広い沈線を２条施す。この沈線の端部は，強く押し止める。波頂部は外反し，下端部が厚く肥厚する。1569は波頂部外面の屈曲部の両脇に刺突を縦位に施し，口縁部の縦区画を波頂部で閉じる。波頂部内面にも５個の刺突を縦２列に施す。また，口縁部の上下に施される連続刺突で区画する中に横位の沈線を２条巡らす。口縁部の谷部の沈線上に２個の刺突を縦２列に施す。沈線間に刺突を施す文様を口縁部直下には横位に，胴部には山形に配する。また，口縁部及び胴部の沈線端部には深い刺突を施す。口縁部は直立し，波頂部は強く外反する。1570・1571は同一個体と考えられ，口縁部直下の胴部にも沈線で文様を施す。1570は口縁部上端を横２列，下端を横１列の刺突で区画し，その内側に３条の沈線を施す。1571は口縁部上下を刺突で区画し，その内側に３個の凹点を横３列施す。凹点の列間に縦を区画すると考えられる棒状工具による刺突を施す。

1572・1573・1574は口縁部の上下に貝殻による連続した斜位の刺突を行い，区画を設けるものである。1572は，区画内に１条の深い沈線を巡らす。口縁部下端部はやや肥厚し，口縁部直下がくびれ胴部がやや張る。1573は，区画内に幅広く長さが10㎝程度の短沈線を巡らす。短沈線の端部は，強く押し止める。1574は区画内に４㎝から６㎝程度の短沈線を横位に２条施すが，部分的には１条となる。高さのある波頂部が２か所残存するが，それぞれ一部欠損する。この上面には３～５個の刺突を，内面には６個以上の刺突を施す。

1575～1577は，本類の中でもやや異質な小片である。1575は，区画内に渦巻文を施す。薄橙色を呈し摩滅する。1576・1577は波状口縁で，波頂部外面の屈曲部に刺突を施さず，胴部には文様を施す。1576は，口縁部区画内に横「Ｖ」字状の沈線を施す。口縁部直下には横位の短沈線とその下に中空の工具による深い刺突を１か所施す。沈線端部に深い刺突を施す。1577は口縁部区画内に３条の沈線を施し，沈線端部に深い刺突を施す。波頂部上面に「Ｖ」字状の面をもち，内面に三日月状の刺突を上下に施し，その間に爪形刺突と弧状の短沈線を施す。波頂部直下に把手と考えられる剥離面が残る。胴部に横位の連続刺突と沈線を交互に施す。

Ⅵa-３類土器（第2-93～95図1578～1590）

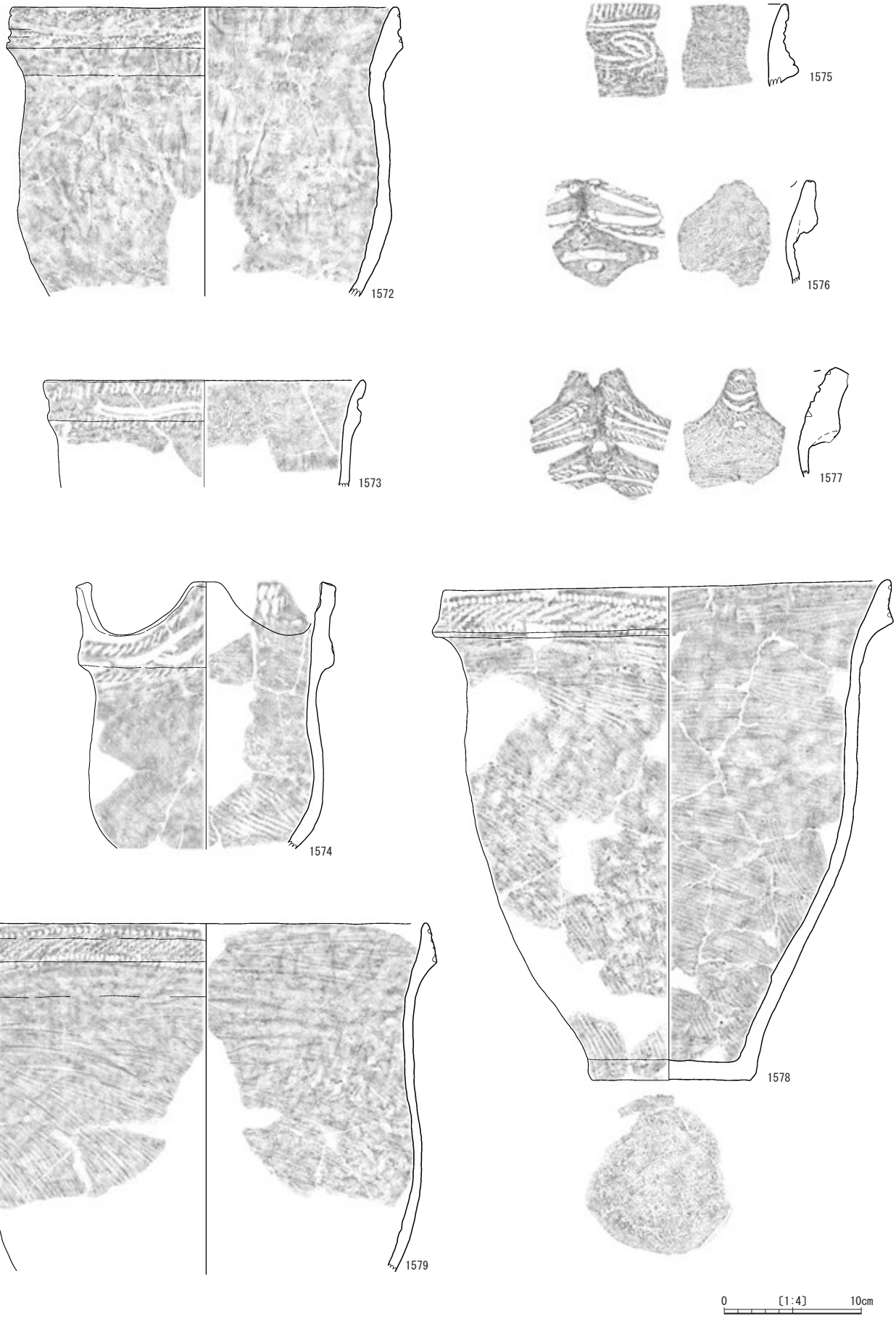
1578～1583は平口縁で口縁部上下を棒状工具による刺突で区画して文様帯とし，その区画内に主に斜位の貝殻刺突を密に施す。1578は口縁部が外反し，張りのない胴部は底部に向かってすぼまり，底部はやや直立する器形となる。底面に白色土が付着する。1579は口縁部がやや外反し，胴部がやや張る器形をもつ。胴部外面にススが付着する。1580は口縁部が外反し，胴部はあまり張らない。1581は口縁部がやや外反し，口縁部上位が直立する。1580と同様に口縁部下端部の刺突を起点に貝殻刺突を施す。1582は口縁部が強く外反し，胴部に張りはない。口縁部内面には強い段をもつ。文様帯に施される斜位の貝殻刺突はややまばらになる。1583は口縁部上下を横位の貝殻刺突で区画し，そこにヘラ状工具による刺突を密に施す。

1584～1590は口縁部の上下を棒状工具等による刺突で区画し，区画内に貝殻刺突をまばらに施す。1584は平口縁で，口縁部は外反する。口縁部中央が凹み口縁下端部に粘土を貼り付けて肥厚させる。口縁部上下を竹管文で区画し，そこに横位の貝殻刺突を螺旋状に施す。1585は波状口縁で，口縁部はやや外反する。口縁部の上中下にヘラ状工具による横位の刺突を施し，この刺突の間にもまばらな貝殻刺突を施す。1586～1589は平口縁で，口縁部が外反する。口縁部下端部が張り出しさらに口縁部中央が凹む。口縁部上下を刺突で区画し，その間に斜位の貝殻刺突をまばらに施す。1587は，胴部内外面にススが付着する。1588は，口縁部がやや薄手であまり肥厚しない。1587と1588は，ほぼ同じ文様を構成する。1590は口縁部中央が凹み，さらに口縁部下端部が強く張り出す。口縁部直下は強くくびれ胴部が張り，胴部内面が一部分厚くなる。口縁部上下を竹管文で区画し，その間に斜位の短沈線を施す。

Ⅵa-４類土器（第2-96～98図1591～1610）

1591・1592は，文様帯に沈線と貝殻刺突を施す。1591は口縁部上下を横位の貝殻刺突で区画して文様帯とし，そこに２条の沈線と横位の貝殻刺突を施す。貝殻刺突は一部重ねて施される。口縁部は直立し，波頂部は強く外反する。口縁部直下でくびれ，胴部はやや張る。波頂部内面に強い指頭圧痕が１か所残る。1592は区画した文様帯に横位の沈線を３条，その間に貝殻刺突を施す。沈線端部に巻貝の頭頂部による刺突を施す。波頂部が１か所残存し，外端に貝殻刺突を施す。口縁部内面に粘土の接合痕が残る。

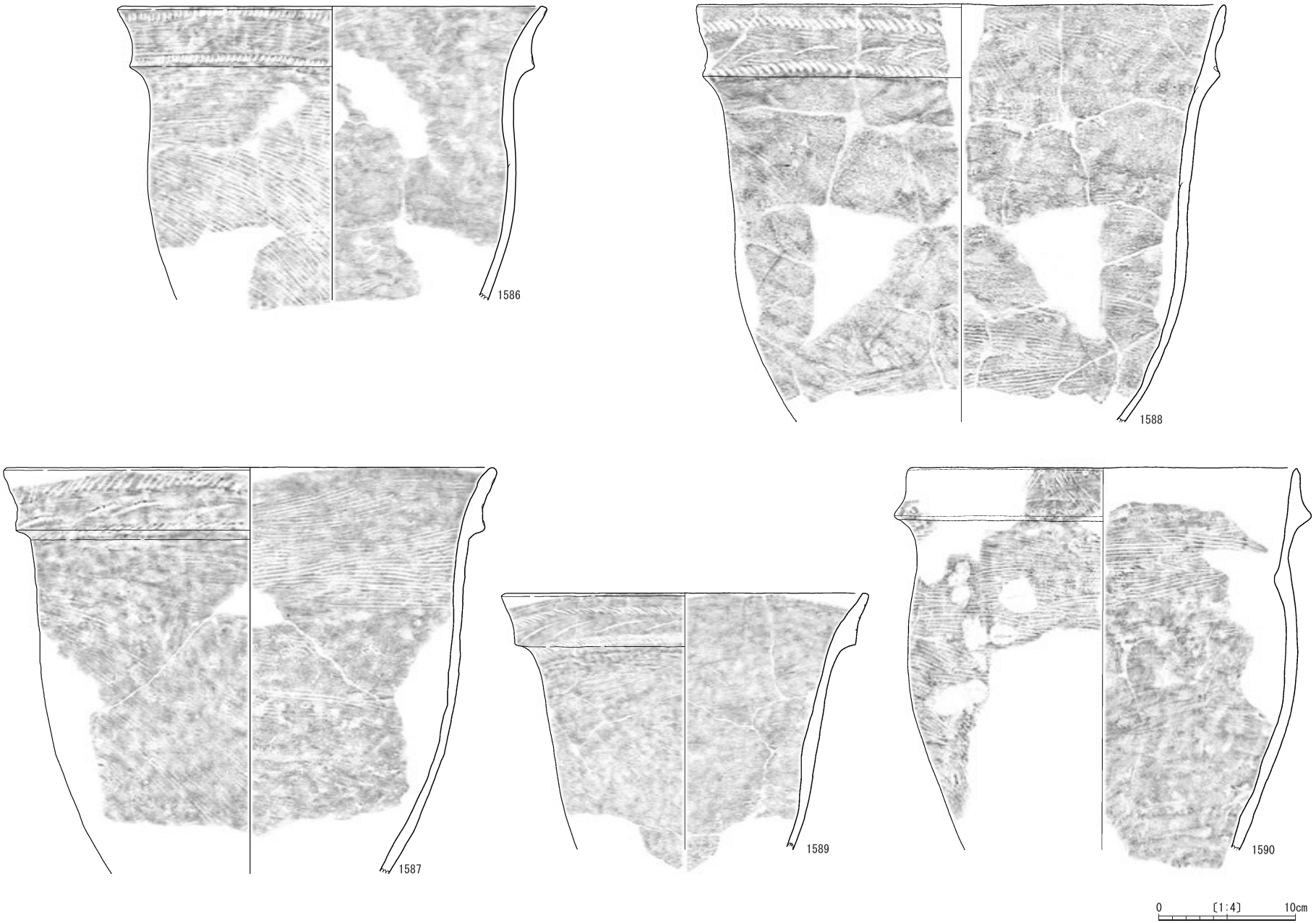
1593～1599は，文様帯に沈線や刺突で縦位の区画を設けるものである。1593～1595は平口縁で，1596～1599は波状口縁である。1593は文様帯に横位の沈線を３条施し，中央の沈線にはヘラ状工具による連続刺突が上描きされる。また，文様帯の上下を区画する横位の連続刺突を結ぶように斜位の沈線とその左右に細い棒状工具による刺突を１列ずつ施し，文様を区画する。口縁部は強く外反し，口縁部直下でくびれ胴部は張らない。1594は口縁部の上端に右下がりの貝殻刺突を，下端に右上がりの貝殻刺突を施して区画する。さらに，山形の沈線３条と貝殻刺突で文様帯を縦に区画し，文様帯には横位の沈線を２条，その間に貝殻刺突を施す。口縁部は直線的に開き，胴部の張りはほぼない。1595は口縁部上下にヘラ状工具による連続刺突を行い区画し，区画内に幅広で浅い



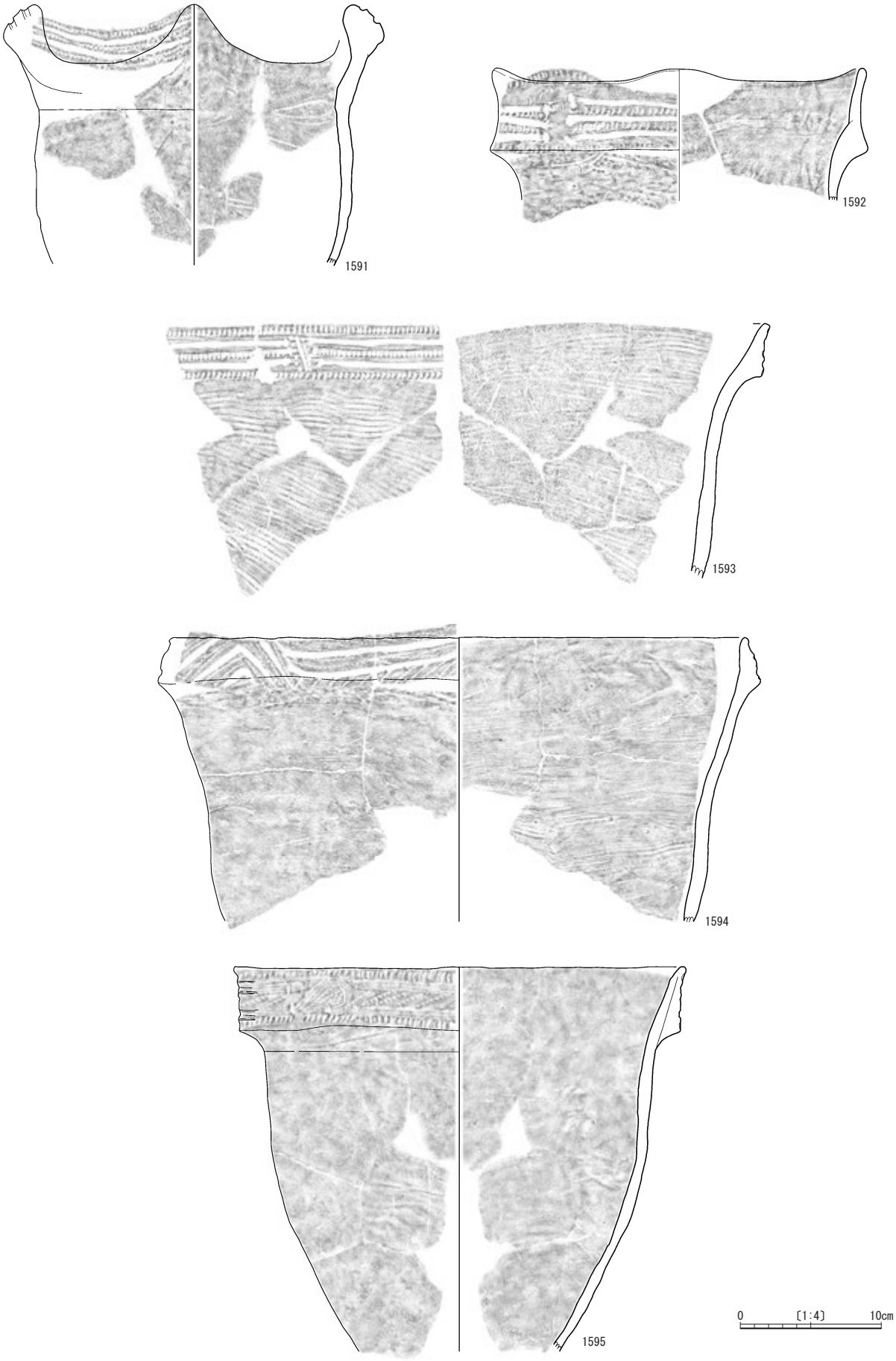
第2-93図　Ⅵ類土器（２）



第2-94図　Ⅵ類土器（３）



第2-95図　Ⅵ類土器（４）



第2-96図　Ⅵ類土器（５）

２条の沈線とその間に斜位の貝殻刺突を施す。また，下位の沈線からつながる渦巻文で縦の区画を行い，さらに４個一組の刺突を文様帯を巡る沈線上にまばらに施す。渦巻文の中にも貝殻刺突を施す。口縁部は外反し，口縁部直下でくびれ，胴部が直立し底部に向かってすぼまる器形をもつ。1596は波頂部外面の屈曲部に刺突を縦位に施し，波頂部上面にも同じ工具による刺突が１か所施される。口縁部文様帯に３条の沈線と沈線の間に貝殻刺突を施す。沈線の端部には棒状工具による深い刺突を施す。３条の沈線のうち，中央の沈線は波状口縁の谷部付近には施文されず，棒状工具による深い刺突が１か所施される。横位の沈線の端部には刺突を行うが，部分的である。1597は，波頂部外面の屈曲部に６個の刺突を縦に施す。口縁部上下を爪形刺突で区画し，その間に１条の幅広の沈線を，沈線端部は深い刺突を施す。口縁部直下から胴部にかけても文様帯と同様の文様を施す。口縁部は外反し，口縁部内面に粘土接合痕が明瞭に残る。また，口縁部下位の肥厚部が一か所剥離し，そこに土器作成時の指紋が明瞭に残る。1598は波頂部外面の屈曲部の左右に２列の刺突を施す。文様帯を巡る２条の沈線は波頂部付近では間隔が広くなり，貝殻刺突が複数回行われる。文様帯の一部には赤色顔料が付着する。口縁部直下でくびれ，胴部はあまり張らない器形をもつ。1599は波頂部外面の屈曲部とその両脇に刺突を縦に施し，さらにその外側に短沈線を施すが，これの下端は強く押し止める。波頂部の頂部にも刺突を施す。上下を連続刺突で区画する文様帯には横位の沈線を２条配し，両端を強く押し止める。さらに波頂部屈曲部の下端から胴部を巡る文様まで縦位３列の刺突を垂下させる。胴部及び口縁部沈線端部の刺突は端部が平坦な棒状工具を使用している。口縁部は直立し波頂部が強く外反し，胴部が張る器形をもつ。波頂部は４か所残存し，上面観は方形である。内外面に整然とした貝殻条痕を行う。外面は橙色を呈し，口縁部から口唇部は黒色を呈す。

1600～1603は波頂部外面の屈曲部に棒状工具による刺突を縦位に行い，その両脇には縦位の貝殻刺突を複数施すものである。いずれも波状口縁である。1600は口縁部上下を刺突で区画し，その間に２～３条の沈線と沈線の間に貝殻刺突を施す。口縁部は外反し，特に波頂部は強く外反する。口縁部断面は三角形を呈し，口縁部直下でくびれ，胴部がほぼ張らない。1601・1602・1603は，口縁部文様帯に横位の沈線と貝殻刺突を施す。1601は肥厚させた波頂部の上面に平坦面を作り，そこに４個の刺突を施す。1602の波頂部上面にも１個の刺突を施す。口縁部文様帯に横位に施される沈線の端部は強く押し止めるように施文する。波頂部は外反し，胴部がやや張る器形をもつ。1603は，沈線の端部に竹管で刺突を施す。1604は口縁部の上下にヘラ状工具の浅い刺突で区画を設け，区画内に極めて浅い沈線と波頂部外面に刺突を「ハ」の字状に施す。1605は，文様帯に細長い楕円形状の文様を沈線で描く。楕円形状の文様の中には横位の沈線と連続刺突を施す。口縁部はやや外反し，口縁部上位は直立し口唇部は方形を呈す。口縁部内面に粘土の接合痕が残る。1606は，口縁部内外面及び胴部に文様を施す。波頂部外面に２か所の指頭圧痕とそれを囲むように竹管文を施す。口縁部の上下には貝殻刺突を施し区画を行い，その中に沈線で方形状の文様と竹管文を施す。口唇部から口縁部内面にかけて幅広の面を作り，その波頂部に大きな指頭圧痕と両脇に貝殻刺突を施す。さらに，幅広の面の上下には貝殻刺突を，その間には２条の平行沈線を施す。胴部は間に刺突を施す２条の沈線で描く渦巻文，その左右に「ハ」の字状に広がる文様を展開させる。口縁部外面に幅広く粘土を貼り付けて肥厚させ，口縁部直下に明瞭な段をもつ。1607は口縁部の上には貝殻刺突，下には沈線を施して区画する。1608・1609は，文様帯に施される横位の沈線に刺突が上描きされる。1610は，文様帯に横位の沈線を３条と貝殻刺突を施す。波頂部外面の直下に突起もしくは把手と考えられる剥離面が残る。波頂部上面から内面にかけて凹みをもち，そこに貝殻刺突を施す。波頂部内面の口唇部に半裁竹管文と直下に竹管文を４～５か所施す。

Ⅵb 類土器

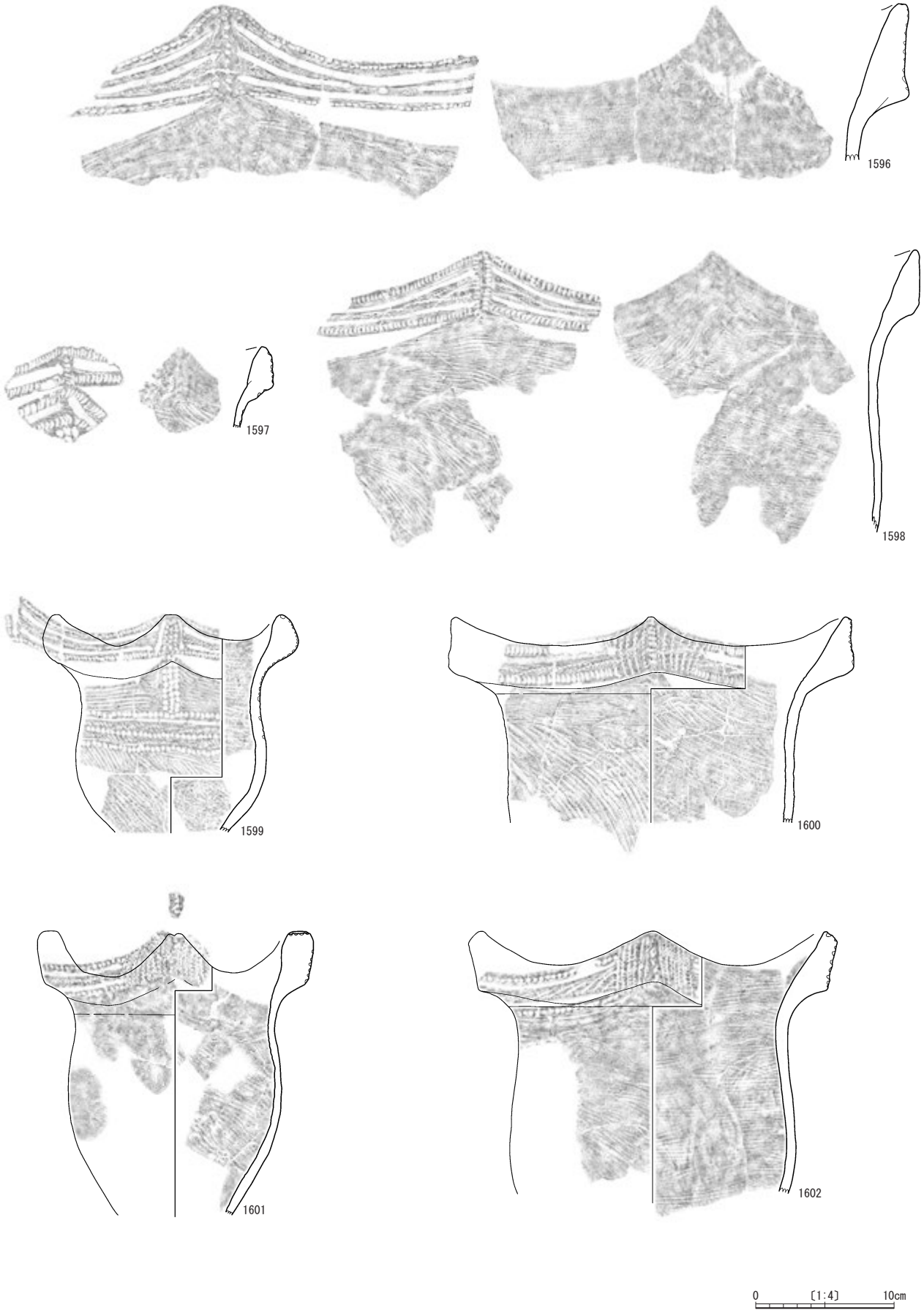
Ⅵb－１類土器（第2-99図1611～1616）

1611・1612は波状口縁で，口縁部上下を連続刺突で区画した文様帯に「Ｃ」字状の凹点を単独で施す。1611は，波状口縁の谷部に「Ｃ」字状の凹点を上向きに１か所施す。1612は，波頂部に刺突を２個一組で３列施す。波頂部間に間隔をあけて「Ｃ」字状の凹点を上向きに２か所施す。胴部に円盤形加工品と考えられる破片が接合している。円盤形加工品の作成方法を復元する資料となると考えられる。

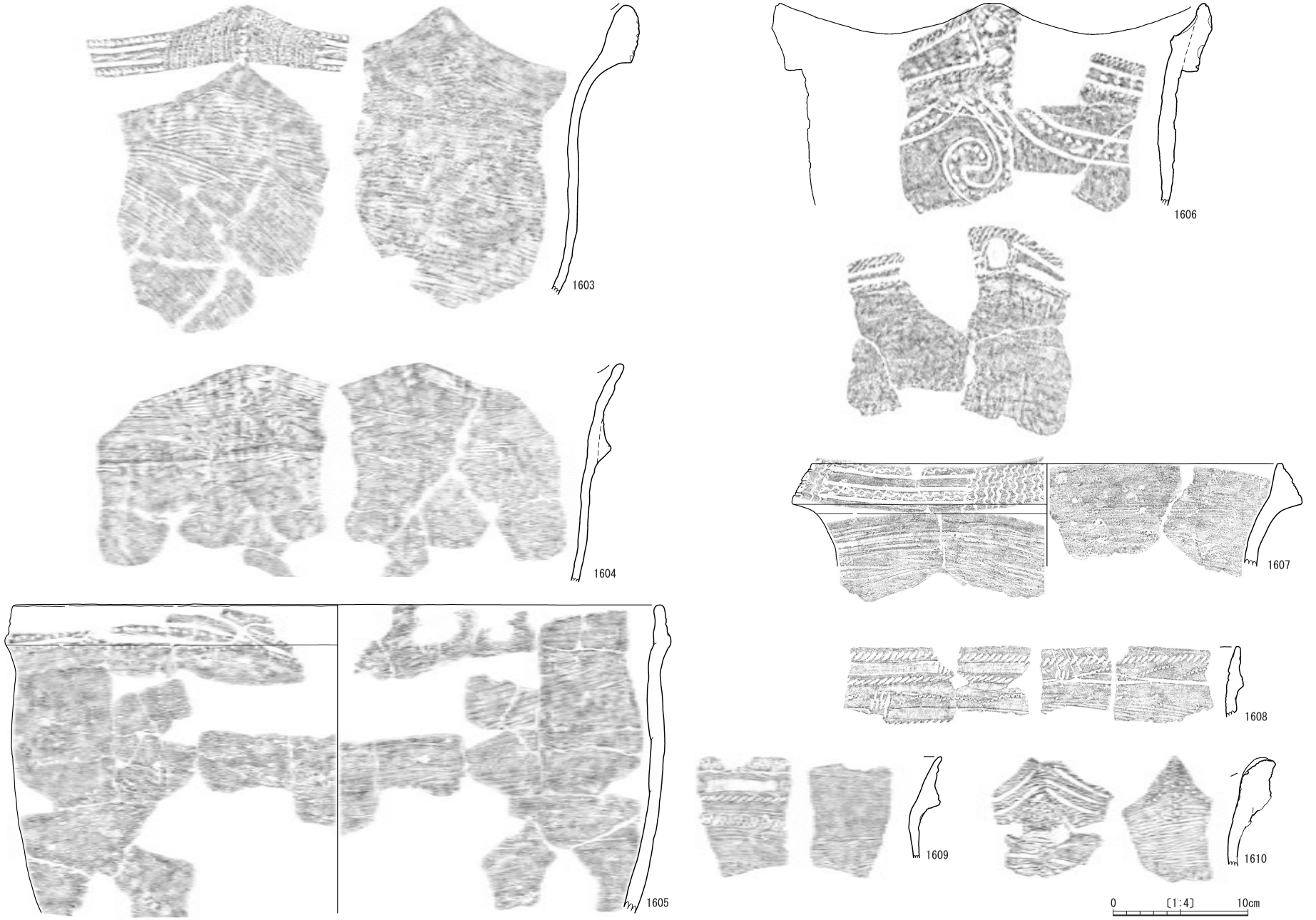
1613～1616は，区画内に「Ｃ」字状の文様を複数施す。1613は平口縁で，文様帯に４個一組の「Ｃ」字状の貝殻刺突を４㎝ほどの間隔で巡らす。1614～1616は，波状口縁である。1614は胴部から口縁部が内湾し，波頂部や谷部に「Ｃ」字状の凹点を背中合わせに配置し「Ｘ」字状の文様を施す。口縁部下端部が肥厚し口縁部直下に段をもつ。胴部が強く張り出し最大径をもつ。1615は波頂部と谷部に「Ｃ」字状の凹点を組み合せ「Ｘ」字状に施す。波頂部の口唇部及び内面に８～９個の刺突を施す。口縁部下端部が張り出し，口縁部直下に段をもつ。1616は，波頂部に「Ｃ」字状の凹点を「Ｘ」字状に施す。波頂部と口縁部下端部が肥厚し，口縁部直下に段をもつ。口縁部の作りは，粗雑である。

Ⅵb－２類土器（第2-99～102図1617～1636）

1617～1628は，文様帯に「Ｃ」字状の凹点を２～３個



第2-97図　Ⅵ類土器（６）



第2-98図　Ⅵ類土器（７）

と横位の凹線を施すものである。その内，1617～1622は，「C」字状の凹点を同じ向きに重ねて施すものである。1617・1618は，平口縁である。1617は胴部がほぼ張らず胴部中位で屈曲し，底部に向かってすぼまる。文様帯に縦長の凹点と横位の凹線を２条施す。1618は文様帯に横位の凹線を２条巡らせ，凹線上に「C」字状の凹点を上向きに縦に並べて施す。1619・1620は，平口縁の口唇部にヒレ状突起が付くものである。1619は文様帯に横位の凹線を１条巡らせ，突起部外面には上向きの「C」字状の凹点を縦に３個，突起部間の谷部には２個施す。突起部の断面は方形を呈し，その口唇部と内面に９～10個の刺突を施す。1620は文様帯に浅く幅の広い凹線を１条巡らせ，突起部外面と突起部間の谷部に上向きの「C」字状の凹点を縦に２個施す。ゆるやかなヒレ状突起をもち，胴部が緩く張り，底部に向かってすぼまる器形である。底部接合面で剥離する。1621は，波状口縁をもつ。口縁部下端部が肥厚し，口縁部直下でくびれ，胴部はあまり張らず胴部下位へ向かってすぼまる。胴部下位から底部は直立する。口縁部から底部まで器壁は薄く，胴部内外面にススが付着し，胴部内面には炭化物が付着する。文様帯に「C」字状の凹点を上向きに２個，約２㎝間隔で巡らす。1622は，文様帯に同じ向きの「C」字状の刺突を２個一組で上下に施す。また，横位の凹線は，部分的である。口縁部に焼成後の穿孔を１か所もつ。

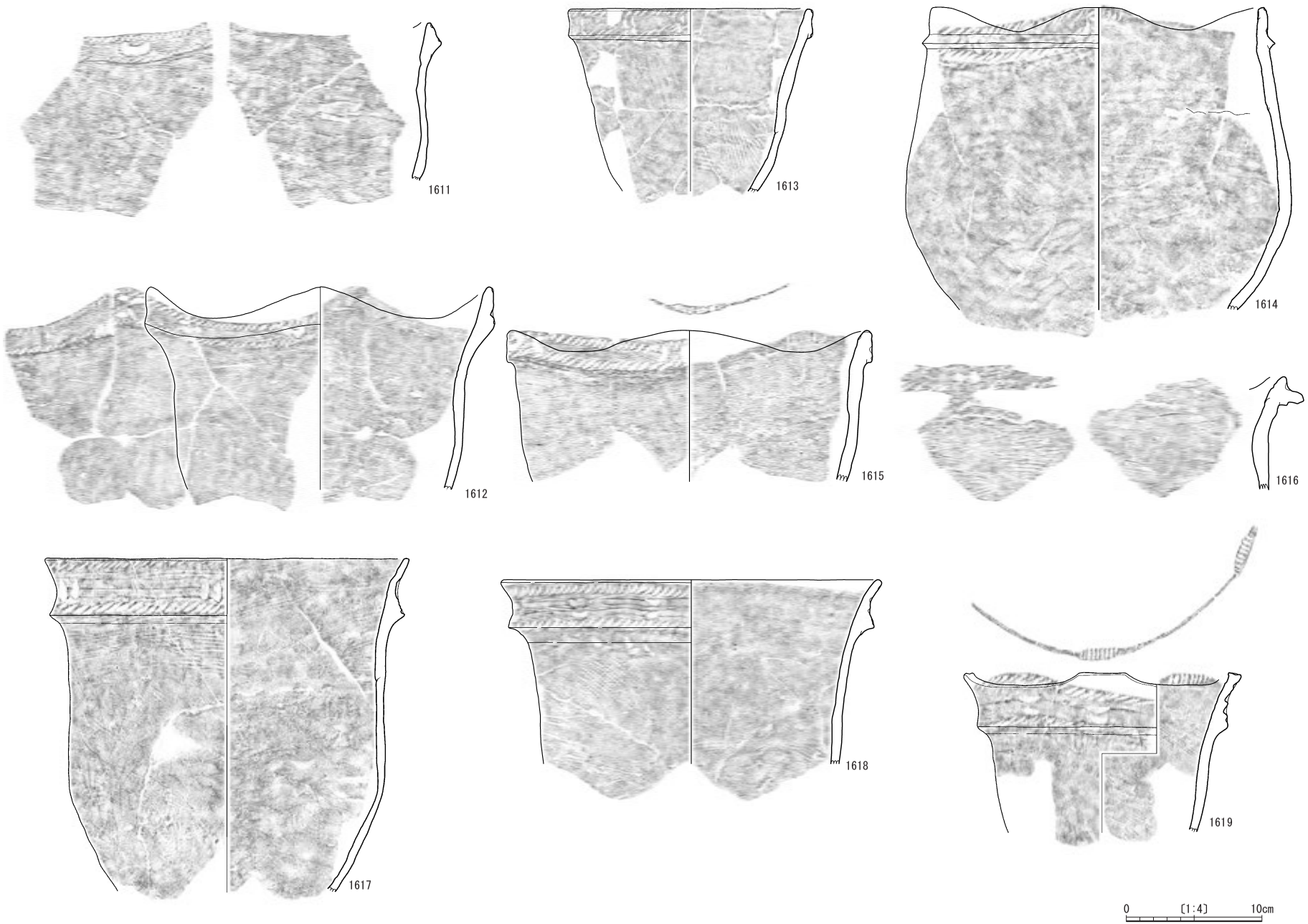
1623～1628は文様帯に施される「C」字状の凹点を組合せ，主に「X」字状の文様を描くものである。1623は，平口縁である。文様帯に沈線で「X」字状の文様を施して，その両側には端部を深く差し込む２条の沈線を巡らす。1624～1628は，波状口縁となる。1624～1626は，文様帯に横位の凹線を２条と「C」字状の凹点を「X」字状に描く。1624は口縁部が内湾し，口縁部上下を区画する刺突はややまばらに施す。1625・1626は胎土が灰色を呈し，２次焼成によって変色したものと考えられる。1627は，口縁部下端が強く張り出す。口縁部の上下を細い棒状工具による連続刺突を行い，区画を設ける。波頂部外面には「C」字状の凹点を上向きに２個，下向きを１個施す。波頂部間の谷部には同じような凹点を上向きと下向きを１個ずつ施す。また，文様帯には横位の沈線が２条巡る。1628は波頂部の直下で途切れる横位の凹線を２条施すが，その端部は強く突き刺す。波頂部間の谷部には「C」字状の凹点を「X」字状に描く。

1629～1631は，文様帯に凹点と凹線で多様な文様を描くものである。1629は，波頂部外面に縦長の凹点を２個とその直上に半円形の凹線を施す。1630は口縁部上下の連続刺突を波頂部外面の屈曲部まで施し，方形の区画を設ける。区画内に横位の凹線４条を施す。さらに，凹線の両端部付近に「C」字状の凹点を２個一組として施す。谷部には２条の凹線で山形文を描き，その上下に横位の，両脇に斜位の「C」字状の凹点を２個ずつ施す。波頂部の口唇部と内面に刺突を５～６個施す。口縁部直下に横位の連続刺突を３段施し，波頂部下の口縁部下端から胴部にかけて長方形の突帯を縦位に貼り付け，その下に低い横位の長楕円形突帯を貼り付ける。縦位の突帯の上面及び側面に，横位の突帯の縁と突帯を取り囲む様に連続刺突を施す。さらに，横位の突帯の下位に10個の刺突を２段施す。口縁部はやや内湾し，波頂部は外反し，胴部はやや張る。胴部内外面に部分的にススが付着する。口縁部下位は強く張り出す。1631は平口縁で，中央が凹んだ口縁部の上下を刺突で区画する。その区画内に太い沈線で波形文を描き，２個の「C」字状凹点は，縦に２～３回ずらして施文する。口縁部下端部に粘土を貼り付けて肥厚させる。

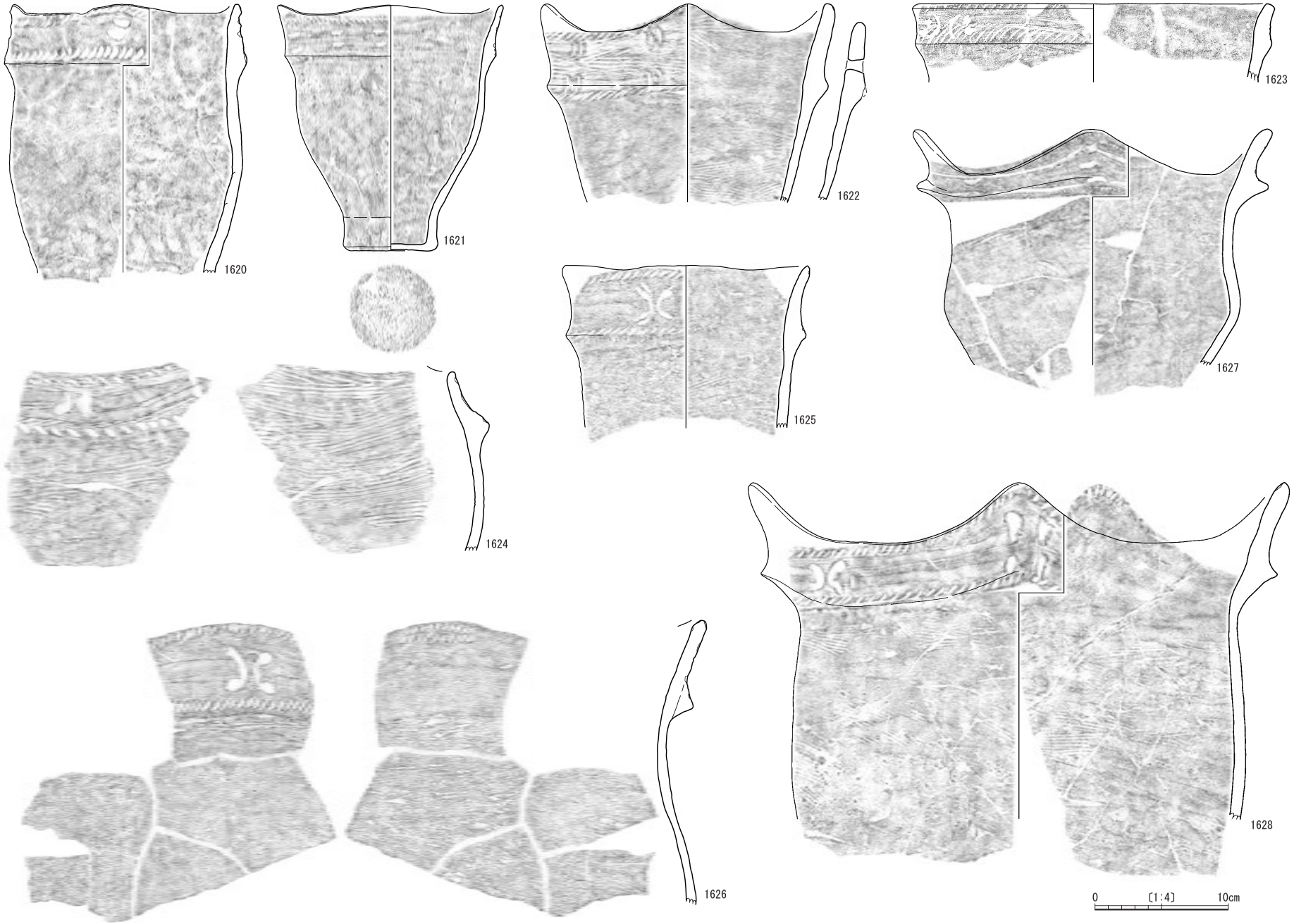
1632～1636は，文様帯に４個以上の「C」字状の凹点で構成する文様をもつものである。1632は波頂部外面に「C」字状の凹点を上向きに４個，波頂部間の谷部に縦に２個×２列施す。横位の凹線は，３条巡らす。波頂部の口唇部及び内面に６～８個の刺突を行う。口縁部は外反し，口縁部下端部は強く張り出す。口縁部直下に段をもち，胴部がやや張る。口縁部内面に植物と考えられる圧痕が残る。1633は文様帯に１～２条の凹線を横位に巡らせ，上向きの「C」字状の凹点を波頂部外面に縦に５個，その左右に２個ずつ施し，さらに外側の左右に１個ずつ施す。波頂部間の文様帯には２個一組の「C」字状の凹点を方向を変えて施す。口縁部は外反し，口縁部下端部は強く張り出す。1634は，文様帯に２～３条の凹線と「C」字状の凹点を２～４個一組で施す。波頂部の凹線は横位に３条，平口縁部分は半円状に２条施す。下向きの「C」字状の凹点を波頂部外面には縦位に３個，その左右の上下に２個施す。さらに，その横には４個と２個の「C」字状の凹点を組み合わせて文様を描く。口縁部は外反し，口縁部下端部は強く張り出す。1635は口縁部区画内に２～３条の凹線を施し，６個一組の「C」字状の凹点を組み合わせて文様を描き，これを一定間隔で施す。波頂部内面に横位の「C」字状の凹点を縦に４個施す。波頂部口唇部に６個の刺突を施す。口縁部内面が部分的に赤色を呈す。1636は，４個一組の「C」字状の凹点を「X」字状に施す。波頂部は欠損し，波頂部直下に把手をもつ。把手の外面及び側面に幅広の爪形刺突を各列が互い違いになるように施す。胎土が橙色からやや灰色を呈し，表面がやや摩滅することから二次焼成の影響と考えられる。

Ⅵb-３類土器（第2-102～104図1637～1646）

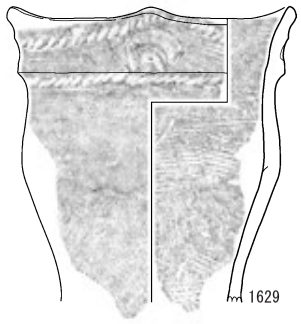
1637～1640は，平口縁である。口縁部上下を刺突で区画し，区画した中に１～２条の凹線と凹線上に４～５個一組の「C」字状の凹点を施し，凹線間や凹線上にも貝殻刺突を施す。1637・1638は文様帯に２条の凹線と同じ

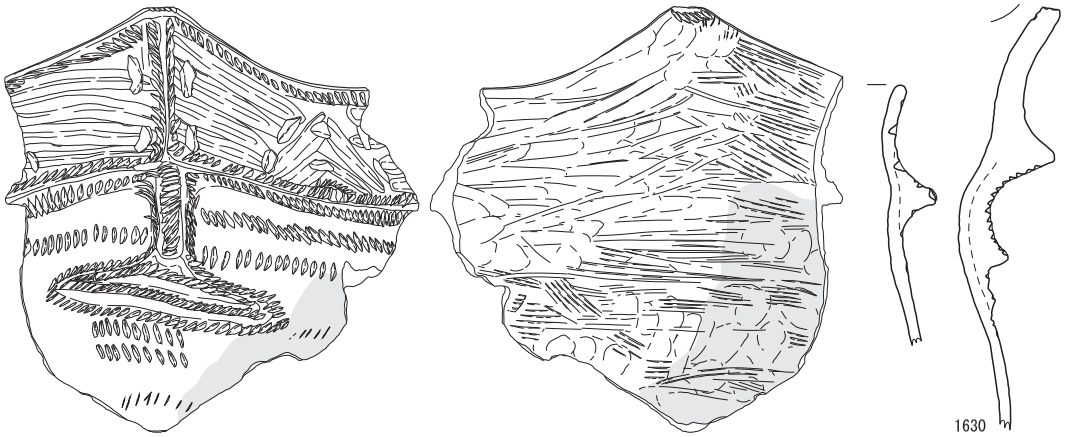


第2-99図　Ⅵ類土器（８）

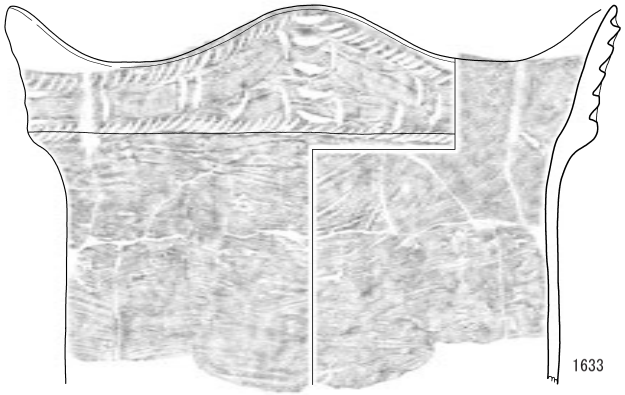


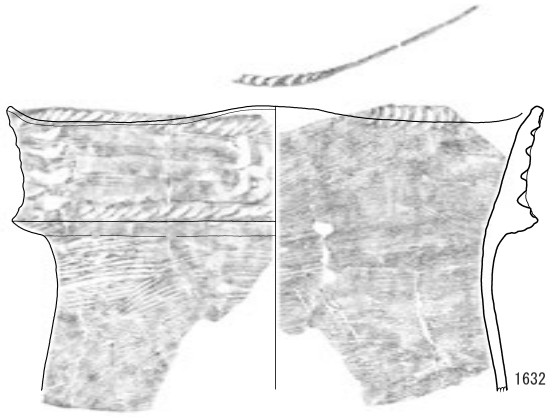
第2-100図　Ⅵ類土器（９）

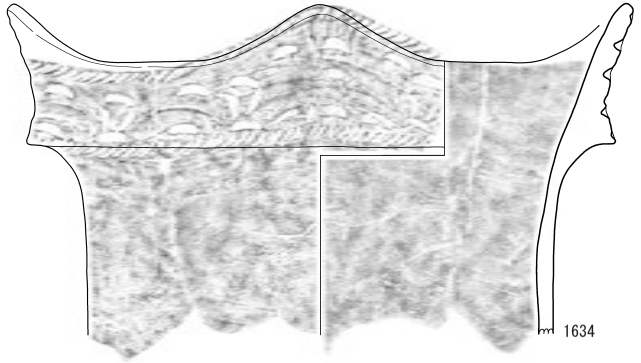




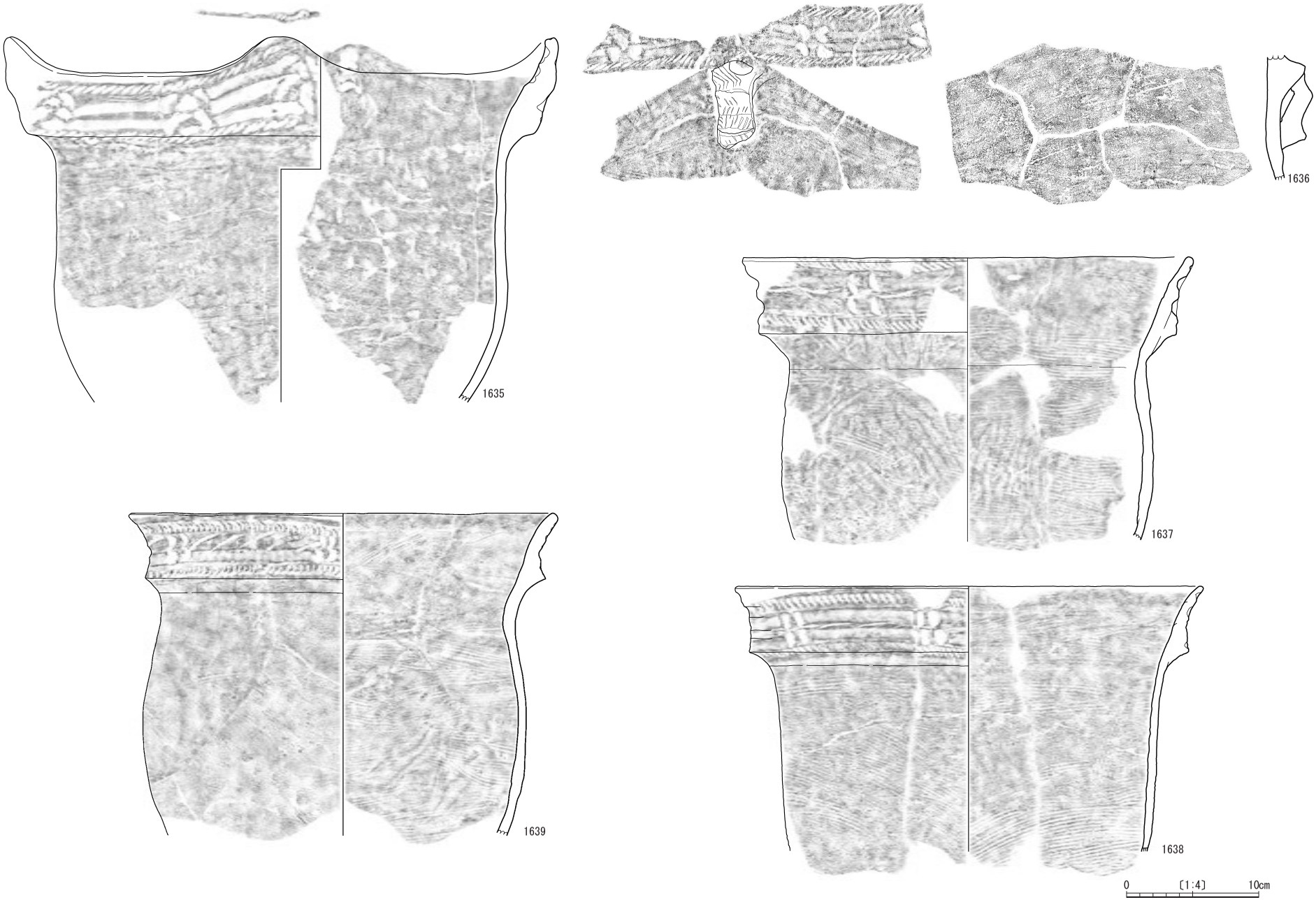








第2-101図　Ⅵ類土器（10）



第2-102図　Ⅵ類土器（11）

向きの「C」字状の凹点を４個一組で施し，凹線の間に横位の貝殻刺突を施す。1637は口縁部が強く外反し，胴部はやや張る。1638は口縁部が外反し，胴部は張らない。1639は文様帯の下位に１条の凹線，その上位に斜位の貝殻刺突を施し，４個一組の「C」字状の凹点を一定間隔で施す。口縁部は強く外反し，胴部は張る。口唇部から胴部外面にかけてススが付着する。1640は文様帯に２条の凹線と５個一組の「C」字状の凹点を施し，凹線の間に横位からやや斜位の貝殻刺突を密に施す。

1641・1642は，波状口縁である。口縁部上下を刺突で区画して文様帯とし，そこに２条の凹線と２～５個一組の「C」字状の凹点と凹線間に貝殻刺突を施す。1641は文様帯に５個一組の「C」字状の凹点と２条の凹線を施し，凹線間に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部は外反し，口縁部下端部が強く張り出す。1642は文様帯に２条の凹線を巡らせ，「C」字状の凹点を５個一組と２個一組で構成する文様を一定間隔で交互に施す。凹線間に貝殻刺突を横位に施す。

1643は方形状の突起をもち，その口唇部に１条の沈線と口唇部内面に連続刺突を施す。口縁部上下を浅い刺突で区画し，その区画内に２条の浅い凹線と４個の「C」字状の凹点を施す。突起部の両端に４個，中央に６個の「C」字状の凹点と３条の浅い凹線と凹線間に浅い刺突を部分的に施す。

1644～1646は，文様帯に２～３条の凹線と２～６個の「C」字状の凹点を施す。さらに，凹線の間に工具による連続刺突を施す。1644は文様帯に２条の凹線と凹線端部に「C」字状の凹点を施し，凹線の間に爪形刺突を施す。1645は波頂部に「C」字状の凹点を６個上向きに配し，平口縁部に４個の「C」字状の凹点を施し，３条の凹線の間には連続刺突を施す。波頂部の口唇部及び内面に刺突を６条施す。1646は「C」字状の凹点を波頂部外面の屈曲部両脇に３個施し，これを起点とした凹線を３条巡らし，中央の凹線内には連続刺突を施す。波頂部間の谷部には凹線上に７個の「C」字状の凹点を施す。波頂部上面の口唇部に刺突を施し，内面に刺突を７か所，その下位に下向きの「C」字状の凹点を１個施す。口縁部は強く外反し，胴部は張らない。

Ⅵc類土器

Ⅵc-１類土器（第2-105・106図1647～1657）

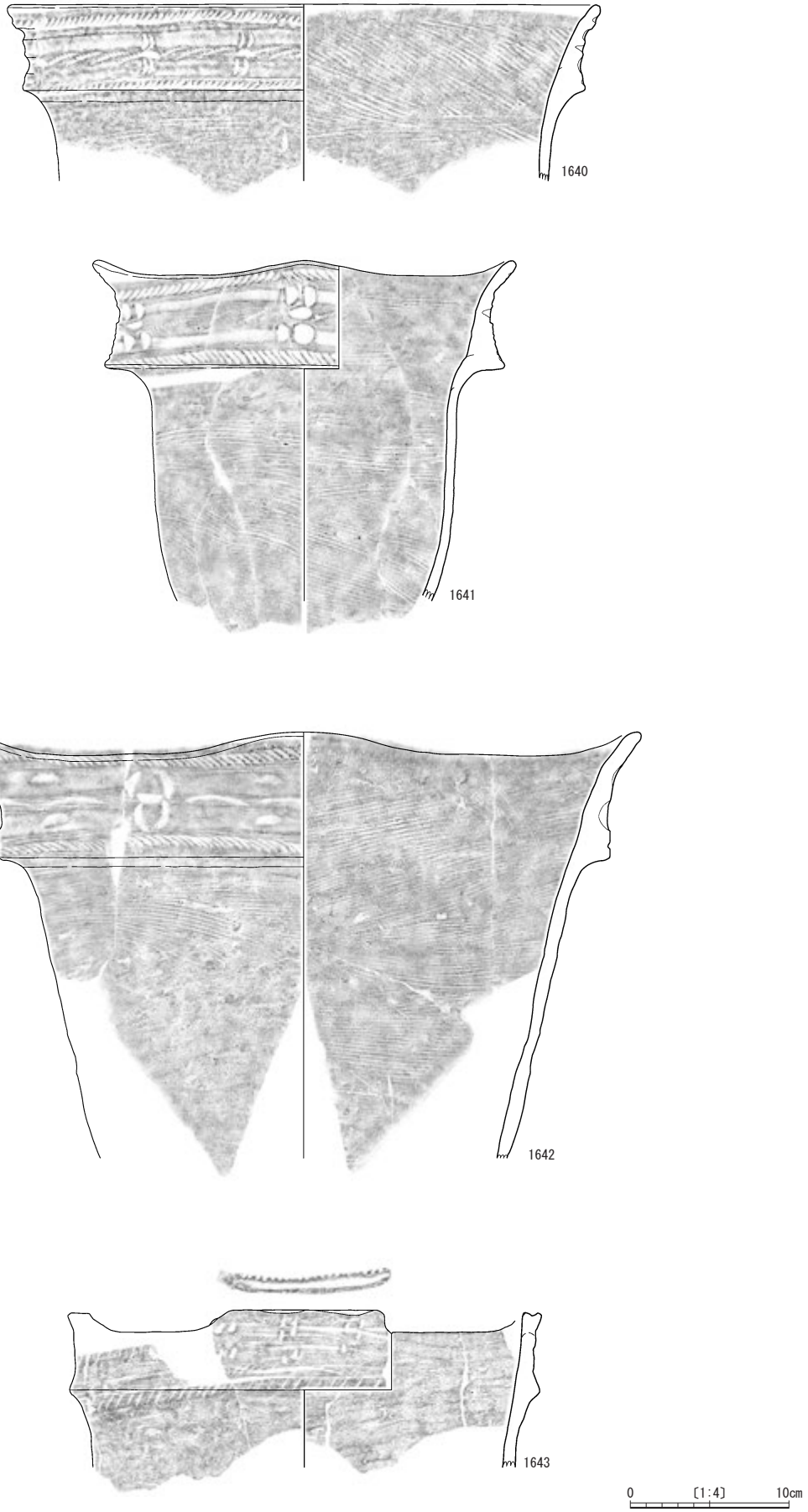
1647・1648は，口縁部の下端に貝殻による連続刺突を巡らせる。1647は内側に肥厚した口唇部を文様帯とし，口唇部下端に横位の貝殻刺突を巡らす。文様帯には工具による刺突を連続して施す。胴部は直立する。1648は口縁部の幅が狭く，文様帯には斜位の貝殻刺突を密に施す。口縁部は，直線的に外に開く。

1649～1657は，口縁部の下端に工具による連続刺突を巡らせる。1649は文様帯に弧状の沈線や横「V」字状の沈線を施し，胴部から口縁部にかけては直線的に立ち上がる。内外面にススが部分的に付着し，胴部の内外面の一部には炭化物が付着する。1650は，文様帯に２条の沈線を巡らせる。口唇部には爪形刺突を密に施す。波頂部直下に把手をもち，外面に１条の沈線を縦位に深く２段階で施す。波頂部内面に横「W」字文を施す。口縁部はやや外反し，口縁部下端部が張り出す。1651～1653は平口縁で，文様帯に斜位の貝殻刺突を施す。1651は底部接合箇所で剥離し，胴部内外面に植物の種子と考えられる圧痕が残り，胴部内面にはススが残る。1652の口縁部下端に施される刺突は，場所によって高さが異なる。1653は口縁部が内湾し口縁上位が強く外反し，胴部はやや張りをもつ。1652と同様に口唇部が細かく波打つ。1654は波状口縁で，口縁部下端に巻貝による貝殻刺突を施し，文様帯には二枚貝による横位もしくは斜位の貝殻刺突をまばらに施す。波頂部内面にも巻貝による貝殻刺突を施す。口縁部の下端は張り出し，直下でくびれ，胴部は張る。1655・1656は波状口縁で，文様帯に横長の刺突を施す。1655は，文様帯に横長の刺突を２個一組で間隔をあけて施す。波状口縁だが波頂部は一定ではなく歪である。外面に部分的にススや炭化物が付着する。1656は波頂部外面に横長の刺突を縦に４個，波頂部間に縦に３個を２か所に施す。口唇部にも貝殻刺突を密に施す。胴部から口縁部は内湾し，口縁部上位が外反する。胴部は張りをもち，底部に向かってすぼまる。口縁部下端の張り出しは不均衡である。1657は，文様帯に斜位の貝殻刺突と横向き「C」字状の凹点２個を交互に施す。口縁部直下の胴部外面にススが付着する。

Ⅵc-２類土器（第2-106～107図1658～1667）

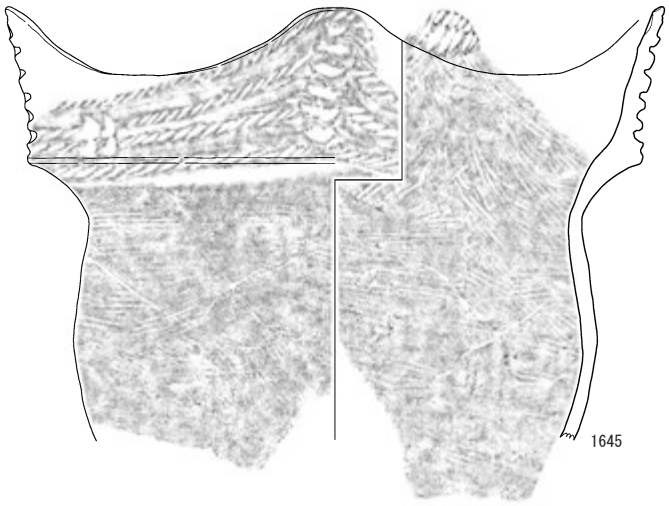
1658～1660は波状口縁で，文様帯に横位の沈線を施す。1658は，文様帯に波頂部に向かって横位の沈線を２条施す。口縁部は外反し，波頂部は特に強く外反し口縁部が強くくびれる。口縁部下端部が張り出し，胴部が張る。波頂部の口唇部は方形を呈し，そこに４条の刻みを施す。波頂部内面にも上向きの「C」字状の凹点を縦に３個施す。焼成後の穿孔が，胴部上位に１か所残る。1659は文様帯に波頂部へ向かって３～４条の沈線を施し，縦位の短沈線を施す部分もある。波頂部は強く外反し，口縁部はくびれ，口縁部下端が張り出す。1660は，あまり肥厚しない文様帯に４条の沈線を施す。胴部にも沈線を斜位に配置する。

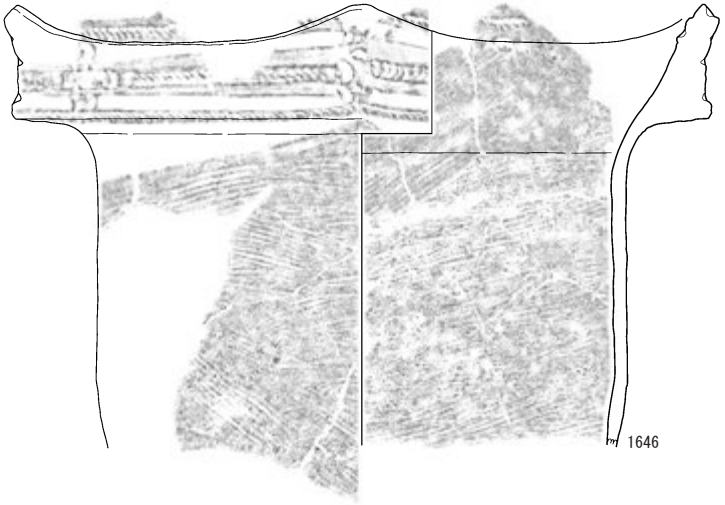
1661～1664は，文様帯に横位や斜位・弧状の凹線を施す。1661は，文様帯に横位の凹線を３条と斜位の凹線を２条施す。口縁部下位が肥厚し，口縁部直下が強くくびれる。沈線の端部は深く突き刺す。1662は，文様帯に２条一組の弧状の凹線を上下に向きを変えながら一定間隔で施す。口縁部下位が肥厚し，胴部から口縁部にかけて直線的に開く。1663は，文様帯に浅い弧状の凹線を２～

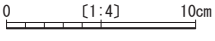


第2-103図　Ⅵ類土器（12）





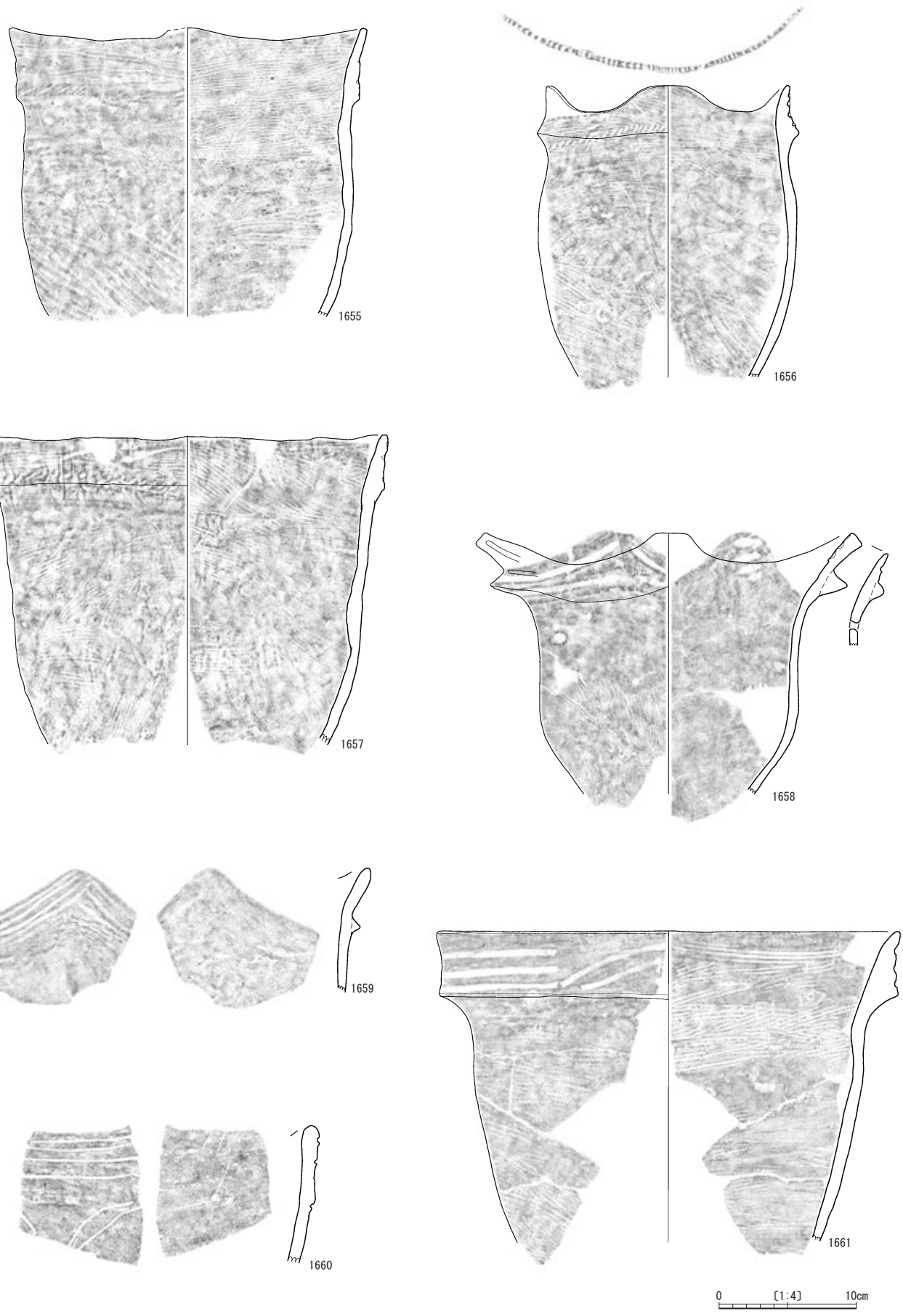




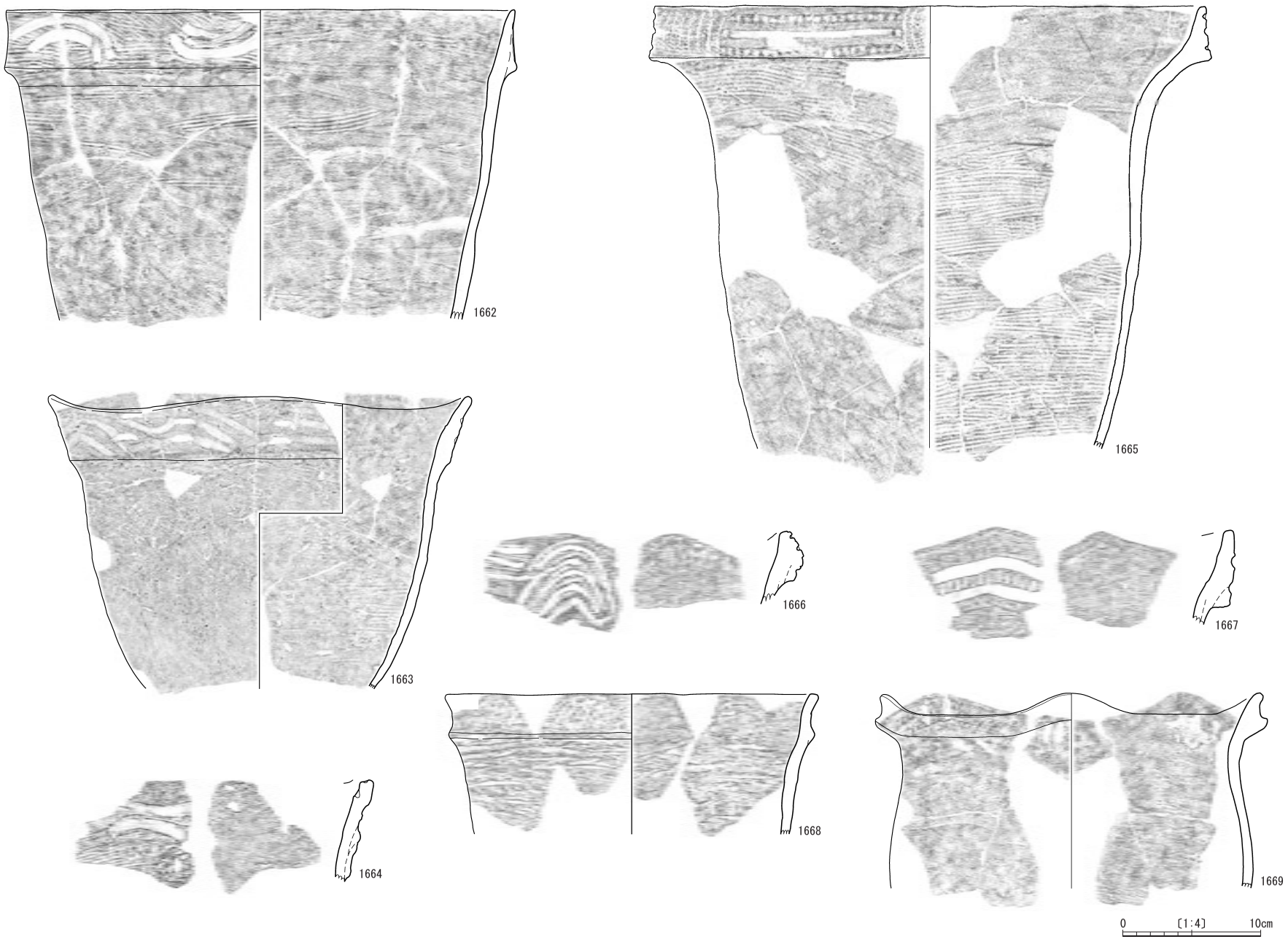
第2-104図　Ⅵ類土器（13）



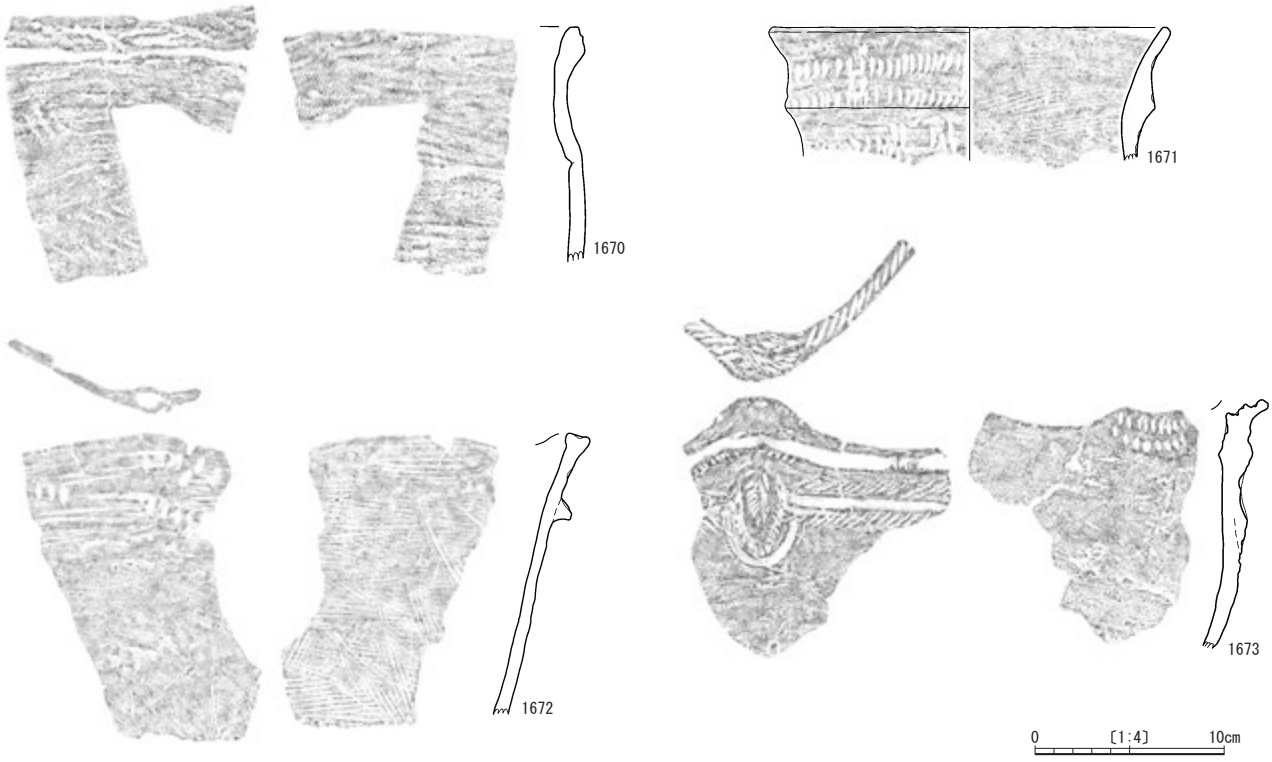
第2-105図　Ⅵ類土器（14）



第2-106図　Ⅵ類土器（15）



第2-107図　Ⅵ類土器（16）



第2-108図　Ⅵ類土器（17）

３条重ねながら施す。その上に下向きの「C」字状の凹点を２個一組として間隔をあけて施す。口縁部は外反し，胴部はあまり張らない。1664は，文様帯に弧状の凹線を逆向きにして施す。波頂部直下に円形の粘土を貼り付けてその中央を凹ませ，円形に刺突を施す。波頂部口唇部から内面にかけて「C」字状の凹点を２個施す。

1665～1667は，文様帯に沈線と刺突を行う。1665は平口縁で，口縁部断面が三角形を呈する。文様帯を多条の縦位の貝殻刺突で区画する。さらに３条の平行沈線を巡らせ，その上下の沈線内に連続刺突を施す。口縁部は強く外反し，胴部は直立する。1666は波頂部に半円状の貝殻刺突と沈線を交互に各２条施し，沈線内に１か所ずつ刺突を施す。沈線端部には深い刺突を施す。その左右に横位の沈線と貝殻刺突を２条ずつ交互に施す。波頂部直下に口縁部とつながる逆「U」字形の突帯を貼り付け，そこに貝殻刺突と沈線を２条ずつ施す。口縁部は外傾し，口縁部直下に段をもつ。1667は，文様帯に２条の平行沈線とその間に連続刺突を施す。

Ⅵc-３類土器（第2-107図1668・1669）

1668・1669は文様帯全面に斜位の爪形刺突文を施し，その上から刺突や「C」字状の凹点を施す。1668は平口縁で，「C」字状の凹点を組合せて「X」字状の文様を一定間隔で施す。1669は波状口縁で，波頂部と谷部に先端が長方形の工具による凹点を施す。口縁部は外反し，胴部外面に一部ススが付着する。

Ⅵc-４類土器（第2-108図1670～1673）

1670～1673は，文様帯に多様な文様を描くものである。1670は文様帯に工具刺突や貝殻刺突，短沈線などを斜位や横位に不規則に施す。口縁部は外反し，胴部は張る。1671は平口縁で，文様帯に２列の連続刺突を施し，その間に浅い凹線を施す。胴部には浅い凹線と刺突を，凹線端部には刺突を施す。口縁部は外反し，口縁部中央は凹み，口縁部直下がくびれる。1672は波状口縁で，文様帯に横位の凹線と刺突を施す。波頂部上位に菱形に刺突を４個，下位に横方向に刺突を４個施し，その左右に凹線を２条施す。凹線間に部分的に刺突を３個施す。凹線の端部には刺突を施す。口唇部は方形を呈し，波頂部の口唇部に１か所凹点を施す。口縁部下端部が肥厚し，胴部から口縁部に向かって外に開く。口縁部は歪で焼成時のひび割れが残る。1673は波状口縁で，文様帯に幅広の沈線と沈線の間に６条の爪形刺突を施す。波頂部の口縁部下端部には刺突を施す。胴部には横位の凹線と上下に貝殻刺突を巡らせ，波頂部直下に長楕円形の突帯を貼り付けその外面に刺突を施す。突帯を囲む様に刺突と凹線を施す。刺突は，一部突帯の側面にかかる。口唇部に平坦面をもち，そこに斜位の刺突を施す。波頂部の上面は特に幅広で「C」字状に刺突を施し，その中央に深い刺突を施す。波頂部内面には８～10個の刺突を２列施

す。口縁部は直立し，波頂部の口唇部外面のみ強く外に張り出す。胴部はあまり張らない。

Ⅵd 類土器

Ⅵd－１類土器（第2-109図1674～1678）

1674～1678は，狭い幅の口縁部をもつものである。この中でも1674・1675は口縁部が直立し，1676～1678は外反する。

1674は口縁部下端部がやや張り，口縁部直下にくびれをもつ。胴部はあまり張らない。1675は，波状口縁である。波頂部は１か所残存するが，その半分近くは欠損する。波頂部の外面には屈曲部を作り，上面観は方形を呈すと考えられる。口縁部下端はやや張り出し，口縁部直下にくびれをもつ。胴部はやや張り，底部に向かってすぼまる。1676は，波頂部上面に幅広の凹みを作る。口縁部直下にくびれをもつ。1677は波頂部が１か所残り，波頂部の上面に方形の突起をもつ。突起の上面はやや菱形状に凹み，波頂部外面には屈曲部をもつ。1678は口縁部が肥厚し，口縁部直下にくびれをもつ。口縁部中央は凹むが，波頂部下は大きく凹む。口縁部幅は狭いが，波頂部のみ間延びする。上面観は，円形を呈す。

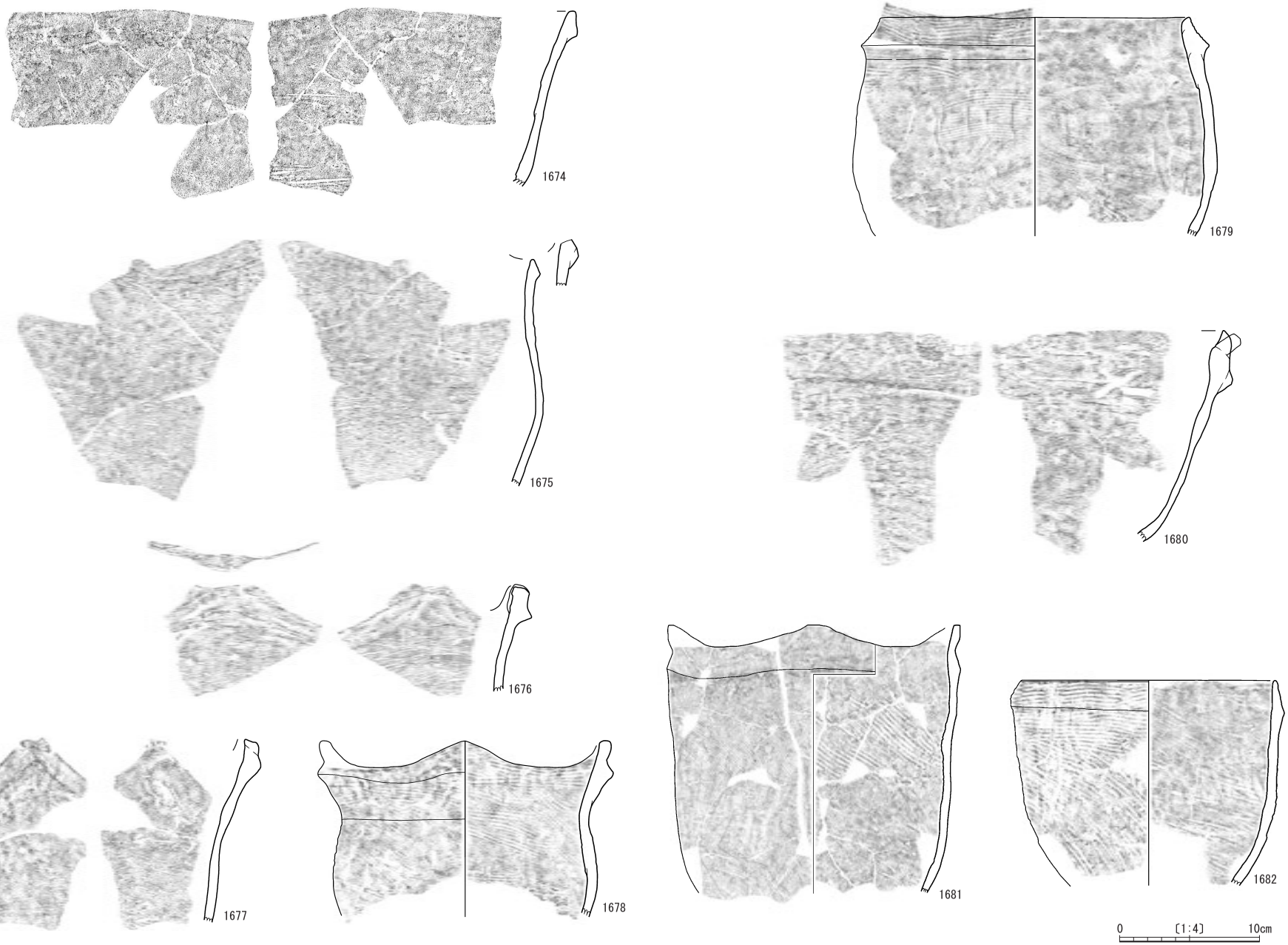
Ⅵd－２類土器（第2-109・110図1679～1690）

1679～1690は，幅の広い口縁部をもつ。1679は胴部から口縁部が内湾し，胴部に最大径をもつ。口縁部下端が肥厚し，口縁部中央が凹む。口縁部直下にはくびれをもつ。口唇部は，やや方形を呈す。口縁部は横位の貝殻条痕で，胴部上位は横位の条痕後ナデで，胴部下半はケズリ後ナデで器面調整を行う。口縁部内面に粘土接合痕が良好に残る。1680は口縁部が直立し，口縁部下端が張り出す。口縁部直下にくびれをもち，胴部はほぼ直立する器形である。1681は，口縁部内面に接合痕が残る。胴部から口縁部にかけてやや外に開き，胴部の張りは見られない。口唇部は，方形を呈す。1682は胴部から口縁部が直立し，胴部から底部に向かってすぼまる。口縁部から口縁部直下にかけて横位の貝殻条痕を，胴部は斜位の条痕を行う。1683は，波頂部外面に逆「Ｖ」字状の粘土紐を貼り付る。波頂部の上面は押し潰したような平坦面をもち，そこに刺突を施す。波頂部外面には，屈曲部をもつ。1684は口縁部上端がやや外反し，下端は張り出す。口縁部直下に段をもち，胴部は直立する。口縁部は横位の条痕後ナデを行う。1685は，胴部から口縁部にかけて直線的に外に開く。口唇部は，方形を呈す。1686は，口縁端部がやや外反する。胴部内面に接合痕が残る。1687は，口縁部下端の張り出しは弱い。口縁部直下でややくびれ，胴部は張りをもつ。口唇部は部分的に方形を呈す。1688は口縁部が外反し，口縁部直下でくびれ，胴部は張る。1689は胴部から口縁部にかけて直線的に外開きとなり，口唇部は平坦に仕上げ，口縁部下端が張り出す。波頂部外面に屈曲部を作り，上面観は方形を呈すと考えられる。1690は口縁部が強く外反し，口縁部下端が張り出す。口縁部直下は強くくびれ，胴部は張りをもつ。口縁部に横位の条痕後部分的にナデを，胴部も口縁部直下は横位，中位以下は斜位の条痕を行う。

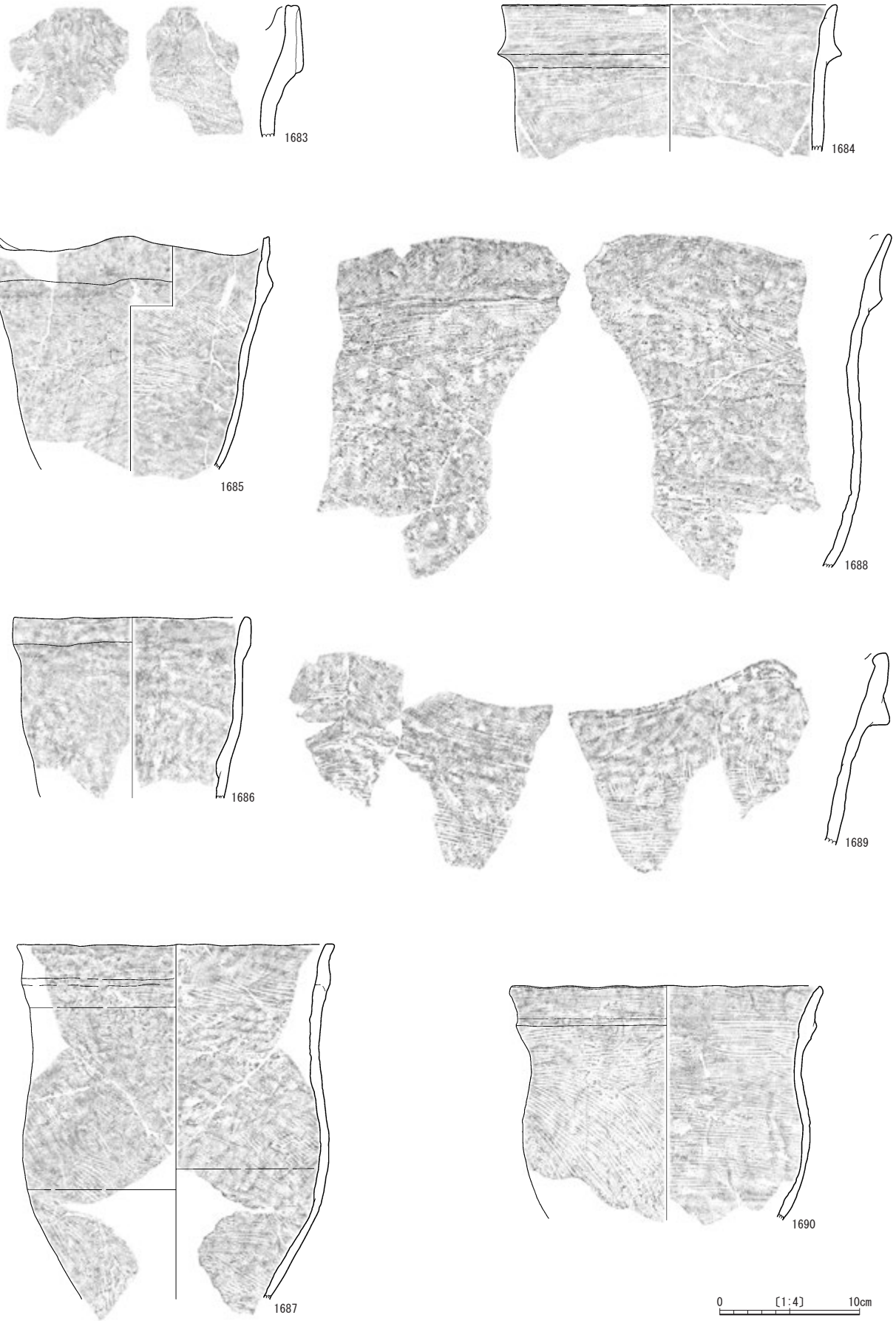
Ⅵe－１類土器（第2-111図1691～1697）

1691～1697は，鉢である。1691・1692は口縁部が短く外反し，胴部が外に開く器形をもつ。肥厚した口縁部を文様帯とし，横位の沈線と斜位の短沈線で構成する文様を施す。口縁部直下は段をもち，口縁部内面に稜をもつ。1693・1694は下端を肥厚させた口縁部が内湾し，文様帯は上向きとなる。1693は口縁部が短く内湾し，胴部は張らず底部に向かってまっすぐすぼまる。口縁部は上下を連続刺突文で区画して文様帯とし，そこに半円状の凹線を互い違いに施す。1694は波状口縁で，口縁部直下に緩いくびれをもつ。胴部は短く強く張り，ここに最大径をもつ。口縁部は上下を斜位の刺突で区画し，下端部は一部施さない部分もある。口縁部区画内に２条の沈線を施すが，波頂部下では途切れ，ここのみに刺突を施す。波頂部の口唇部にも刺突を施す。

1695～1697は波状口縁で口縁部が強く外反し，波頂部直下に把手をもつものである。1695は，波頂部の頂部に円形の深い刺突を施す。また，波頂部の下部に円形の突起を付け，そこにも刺突を施す。波頂部の屈曲部両脇には縦位の貝殻刺突を，さらに外側には３条の平行沈線を巡らせ，端部には深い刺突を施す。平行沈線の２条目は，細く浅い。波頂部直下に把手をもち，把手の両端の根元に沿って刺突を施す。把手の外面には刺突を横２列，縦１列に施す。波頂部の内面にも刺突を横２列，縦４列に施す。1696は波頂部上面に１か所，屈曲部外面に２か所の深い竹管文を施す。さらに，屈曲部の両脇には縦位の貝殻刺突と短沈線を施す。文様帯には２条の平行沈線とその間に横位の貝殻刺突を施す。屈曲部直下には把手をもち，把手の上下に深い竹管文を１か所ずつ施し，下位の刺突の周囲には貝殻刺突を円形に施す。また，把手の外面には縦位の貝殻刺突と沈線が施される。口縁部直下に２条の平行沈線とその間に貝殻刺突を巡らせる。胴部上位に２条の平行沈線とその間に貝殻による刺突を施し，山形の文様を展開する。その下位にも２条の平行沈線とその間に貝殻頂部による刺突を施す。口縁部内面には２条の平行沈線とその間に貝殻刺突を口唇部に沿うように巡らす。口縁端部の内外面に赤色顔料が残存し，胴部外面には部分的に残存する。1697は間に沈線を施す２条の沈線を基本とした文様を口縁部の上下端，波頂部の屈曲部外面，把手の外面，胴部に施す。波頂部の屈曲部には渦巻文，把手外面には平行沈線の上位にも刺突を，胴部には３条の沈線とその間に刺突を横位に施す。把手の中央付近には透かし孔を１か所設ける。波頂部の内面にも円形の沈線とその内側に刺突，さらに中央に深い凹点を



第2-109図　Ⅵ類土器（18）



第2-110図　Ⅵ類土器（19）

施す。口縁部から波頂部の沈線の内側に赤色顔料が部分的に残存する。1695～1697は口縁部の文様構成からⅣ類の可能性もあるが，波頂部の文様構成及び口縁部下端部の強く張り出す器形がⅥ類と同様のため本類とした。

Ⅵe－２類土器（第2-111図1698～1705）

1698～1705は，台付鉢の中空脚台である。1698～1702は，脚台の上下に貼付突帯を巡らす。そこに1700は貝殻で，他は工具で連続刺突を施す。1698は胴下部が部分的に残存するが，鉢の底面は剥離して残存しない。脚台には焼成前に外面から内面に向けてあけた５か所の透かしをもつ。脚台の外面には白色土が残存する。1699は，脚台に外面の上方向からあけた楕円形の穿孔を５か所もつ。脚台の上下に貼付けた突帯に施される刺突は，深さや長さが一定しない。底面形は歪で，内面には鉢部と底部の接合痕が良好に残る。鉢部の底面のみ残存し，ボウル状を呈す。1700は，脚台に外面から内面に設けた焼成前の透かしが２か所残存する。貼付突帯を巡らし，貝殻腹縁による刺突を施す。底部端部の突帯は色調の異なる土を貼り付け，接地面の突帯は外面との境に沈線を施す。上位の突帯は幅広だが，厚みは薄い。鉢部は底面が剥離して残存しない。1701は脚台に焼成前の楕円形の透かしが３か所残存し，全体では６か所と考えられる。底部端の貼付突帯は大きく刺突も大きい。底面は内側に向かって削り取るように成形し，鉢部は残存しない。1700・1701は，台付皿の可能性も考えられる。1702は，脚台外面に４か所の深い縦長の刺突が残存する。鉢部底面は粘土の接合箇所で剥離して残存しない。底部端の突帯には棒状工具による刺突を，鉢部との境の突帯にはヘラ状工具による刺突を行う。底面及び外面に白色土が付着する。

1703～1705は，脚台の上下に２条の突帯をもたないものである。1703は，突帯のない無文の脚台である。脚台には外面から内面にあけた焼成前の楕円形の透かしを８か所設ける。底面は網代痕が残存し，調整は内外面ともに粗雑である。鉢部底面の内側は，摩滅する。1704は脚台の上下境に貼り付け突帯をもたず，外面下端部に斜位の貝殻刺突文を巡らせる。底面には網代痕が残存する。1705は外面下端部のみに突帯を貼り付け，刺突を施す。脚は逆「ハ」の字状に開く。底面から突帯下位にかけて白色土が，良好に付着する。

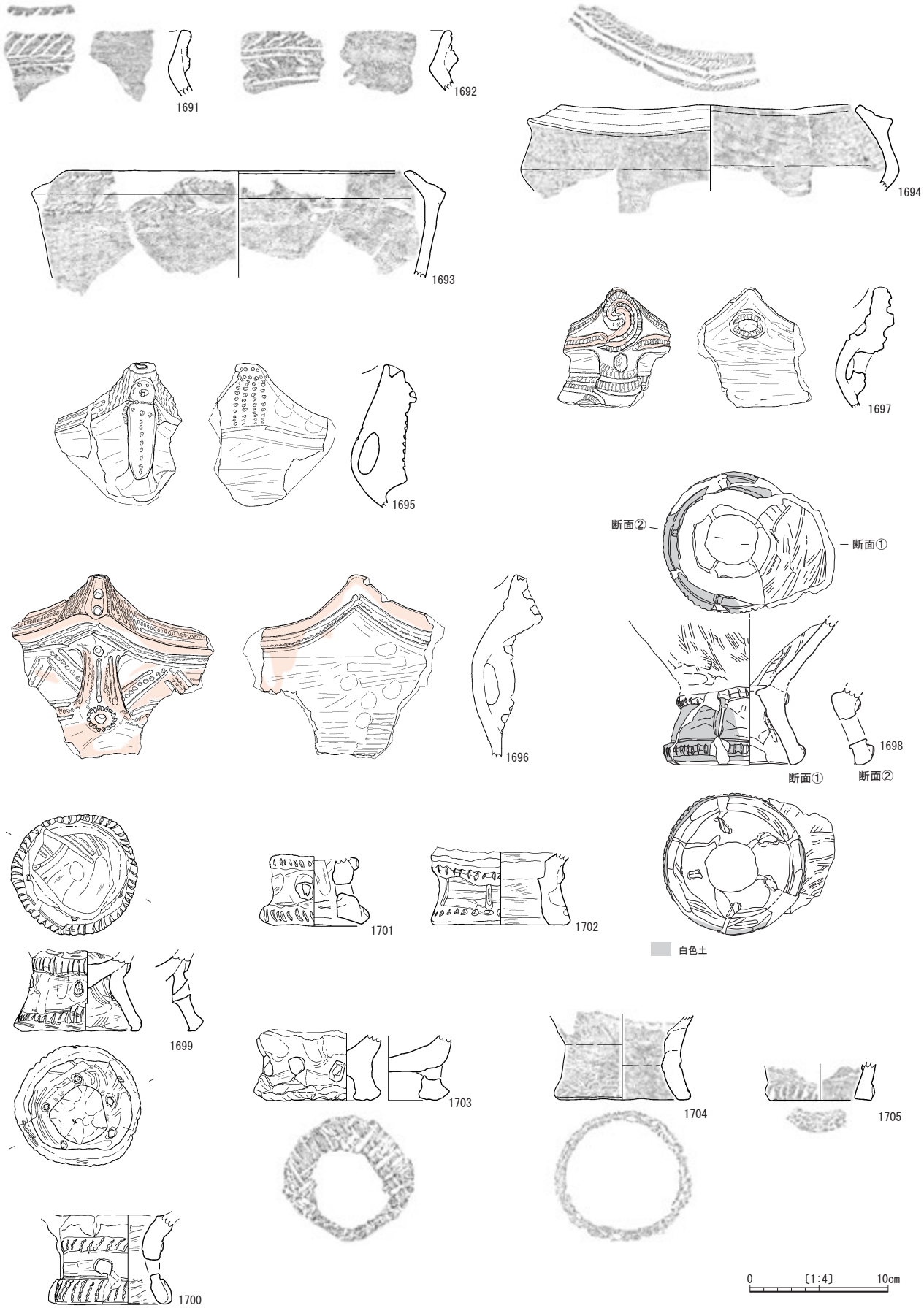
Ⅵｆ類土器（第2-112・113図1706～1735）

1706～1719は，台付皿の皿部である。

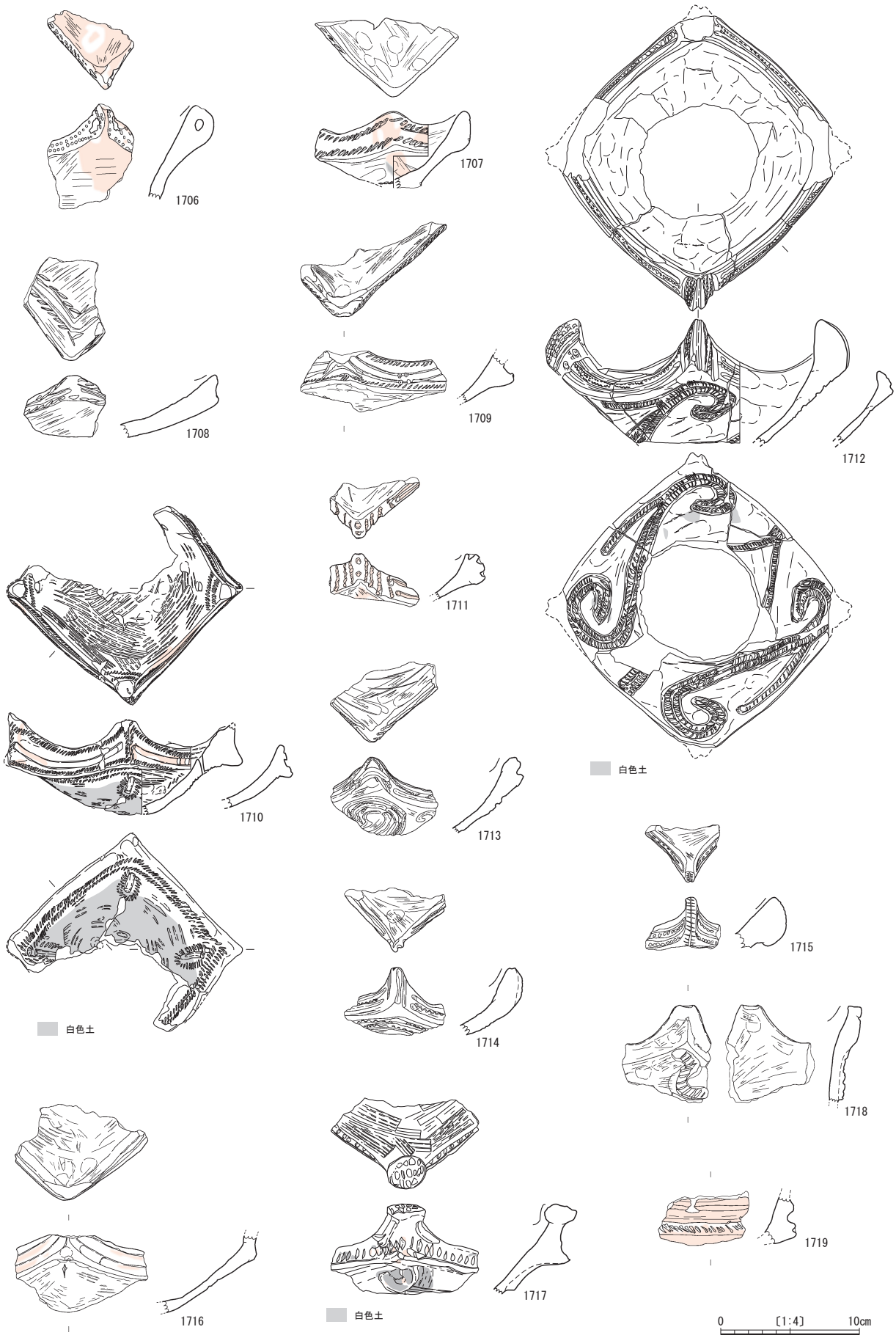
1706～1710は口縁部上下を刺突で区画して文様帯とし，そこに沈線や刺突を施す。1706は細い棒状工具による連続刺突を口縁部上下，波頂部の屈曲部両脇に施す。さらに同じ刺突を文様帯の中央に横位に巡らすが，施文されない部分もある。波頂部の屈曲部上位に横方向の穿孔を入れて把手状に見せる。内外面の一部には赤色顔料が残存する。1707は口縁部上下を連続刺突で区画し，右側文様帯は上位の刺突下に沈線を施す。口縁部から胴部外面に赤色顔料が部分的に残存する。脚台との境にも刺突を巡らせ，皿部の底面に脚台との剥離面が残る。1708は，文様帯に上下を区画する連続刺突と中央に１条の沈線を巡らす。口縁部内面に２列の刺突とその内側に２条の平行沈線を施す。1709は，波頂部が欠ける。口縁部上下を刺突で区画した文様帯には２条の沈線，谷部の沈線上に４個の竹管文を施す。波頂部の下端部は強く張り出し，そこに爪形刺突を施す。口唇部には一部赤色顔料が残存する。1710は波頂部が３か所残存し，全体では４か所と考えられる。各波頂部上面に押圧を行い，内面に２条の連続刺突文を弧状に施す。口縁部の上下と波頂部の屈曲部両脇に連続刺突を施し，文様帯を方形に区画する。文様帯には横位の太い凹線を１条，凹線上の中央部に刺突を２か所に施す。胴部外面には２条の連続刺突文を口縁部に沿って巡らし，屈曲部下には縦長楕円形の連続刺突文の間に短沈線を施文する。波頂部内面に内から外に向かって焼成前の穿孔を対角線上に２か所行う。皿部と脚台との接合面が明瞭に見られない。このことから脚台が付属せず，２か所の穿孔を利用して吊り下げて使用していた可能性が考えられる。口縁部の沈線内に赤色顔料が，胴部外面に白色土が一部残存する。

1711～1715は，口縁部上下に２条の沈線で区画して文様帯とする。1711は，口縁部を区画する沈線のみの施文である。1712～1714は文様帯に貝殻刺突を，1715は文様帯に棒状工具による刺突を施す。1711は波頂部上面に１か所，外面に２か所の深い竹管文を施し，その左右に縦位の貝殻刺突を４条施す。口縁部を区画する２条の平行沈線の端部には深い刺突を施す。沈線や刺突内に赤色顔料が良好に残存し，内外面にも一部残存する。1712は波頂部の屈曲部に縦位の短沈線を１条，その左右に縦位の貝殻刺突文を３条と短沈線を１条施す。文様帯には２条の平行沈線とその間に横位の貝殻刺突文を施す。沈線の端部は強く押し止める。胴部外面には間に工具による刺突を施す３条の沈線で逆「Ｓ」字状の文様を２か所に描く。さらに，２条の沈線と刺突を横位と山形に配する。底面は脚台との接合部分で剥離する。1713は，波頂部に斜位の貝殻刺突を施した後に屈曲部を横断する深い沈線を１条施す。胴部外面は1712と同様に逆「Ｓ」字状の沈線とその内側に貝殻刺突を施す。1714は波頂部の屈曲部に１条，その両脇に２条の短沈線を施す。胴部外面には３条の曲線状の沈線間に貝殻刺突を施す。1715は，幅広く作った波頂部の屈曲部に縦位と横位の短沈線を施す。口縁部に方形の沈線の内側と口縁部下端に浅い棒状工具による刺突を施す。沈線内の一部に赤色顔料が残存する。1711～1715は器形から本類に含めたが，文様構成からはⅣ類土器の可能性も考えられる。

1716は，口縁部の上下に２条の平行凹線を施す。凹線



第2-111図　Ⅵ類土器（20）



第2-112図 Ⅵ類土器（21）

内と胴部外面に赤色顔料が一部残存する。口縁部下端は張り出し，口縁部内面に段をもつ。1717は口縁部下端に沈線を，中央には刺突を連続して施す。波頂部に円形の突起をもち，その上面に刺突を施す。波頂部の屈曲部には「ハ」の字状の凹線を施す。屈曲部直下に「Ｊ」字状の突帯を貼り付け，突帯状に浅い凹線を施す。口縁部から胴部外面に白色土と赤色顔料が一部残存する。「Ｊ」字状の突帯は白色土と赤色顔料が良好に残存し，一部白色土の上から赤色顔料を塗っていることが観察できる。1718は口縁部に施文はなく，波頂部上面に押圧による凹みを施す。波頂部直下に逆「Ｓ」字状の突帯を貼り付け，突帯に爪形刺突を施す。1719は，口縁部下端部のみ残存する。口縁部下端を連続刺突で区画し，内側に２条の深い沈線を施す。外面に赤色顔料が残存する。

1720～1730は，台付皿の脚台である。1720～1724は，脚台が「ハ」の字状に強く広がる。1720は脚台の上端と下端に突帯を巡らせ，下端の突帯を挟むように沈線を施す。また，下端の突帯上と上端の突帯の直下に斜位の刺突を施す。さらに，上下の突帯を繋ぐように２状の突帯を縦位に貼り付け，突帯の上には沈線を施す。縦位の突帯間に外から内に向けて孔が穿たれる。1721は脚台の底面端部に幅広の突帯を貼り付け，そこに２段の刺突を巡らす。脚台の外面には沈線で渦巻文を施す。沈線及び刺突の内部には赤色顔料が部分的に残存する。1722・1723は，脚台の外面に貝殻刺突を施す。1722は底面断面が方形を呈し，上側に斜位の貝殻刺突を３段施す。1723は底部接地面が狭く，脚台の外面に３段の貝殻刺突を横位に施す。外面に外から穿った焼成前の穿孔が２か所残存する。脚台の内外面に白色土が残る。1724は，底面端部に約１㎝の連続凹点を施す。外面の凹点から底部接地面にかけて白色土が部分的に残る。

1725～1730は，脚台が弱く広がるものである。1725は外面に刺突を施した突帯で方形や楕円形に区画し，区画した内部を白色と赤色の顔料で塗り分ける。赤色顔料は，下地に白色土を使用している。1726は底端部とその上部にある２条の貼付突帯で区画し，その間に半円状に粘土を貼り付け，その横に沈線を横位や楕円形に施す。脚台の外面には部分的に赤色顔料が付着する。1727は，皿部との境に刺突を施した突帯を貼り付ける。底端部にも突帯が貼り付けていたと考えられるが欠損する。突帯の間に斜めに「Ｃ」字状の粘土を貼り付け，その上に沈線を施す。1728は，粘土を幅広く貼り付けて脚部を肥厚させる。脚台外面に上位から横位の沈線を１条，横位の貝殻刺突を１段，平行沈線を３条，横位の貝殻刺突を１段，横位の沈線を１条巡らせ，脚台の中央部付近に棒状工具による刺突を１か所施す。脚台外面を縦に区画する縦位の沈線が１条確認できるが，全体像は不明である。脚台に外から内に行う焼成前の穿孔と考えられる痕跡が２か所残存する。底部接地面には白色土が，良好に残存する。1729は，外面下端部に横位の貝殻刺突文を３段施す。1730は底面が方形を，皿部は円形を呈す。脚台は四隅が突出し，対角上に同様の突出部をもつと考えられる。突出部１か所は把手状を呈すと考えられ，対角上の１か所は突出のみである。外面には３条の沈線を横位に施す。外面の上部に４か所の横長方形の透かしを作る。底面にも沈線を施す。外面の沈線内に一部赤色顔料が残る。胎土は，黒褐色を呈する。

1731・1732は，片口付壺の突起部である。1731は，外面全面に赤色顔料を塗布する。突起部には刺突文と沈線で施文する。1732は，外面の一部に赤色顔料が残る。突起部には刺突文で施文する。

1733～1735は，注口土器の注口部である。1733は上向きの注ぎ口で，胴部との接続部まで一部残存する。1734は向きが不明であるが，注ぎ口端部が弱くくびれる。丁寧なナデ調整で成形する。1735は，注ぎ口部の半個体である。胴部接続部が残存し，接続部の外面に沈線を巡らせる。注口土器は，後期後半の可能性も考えられる。

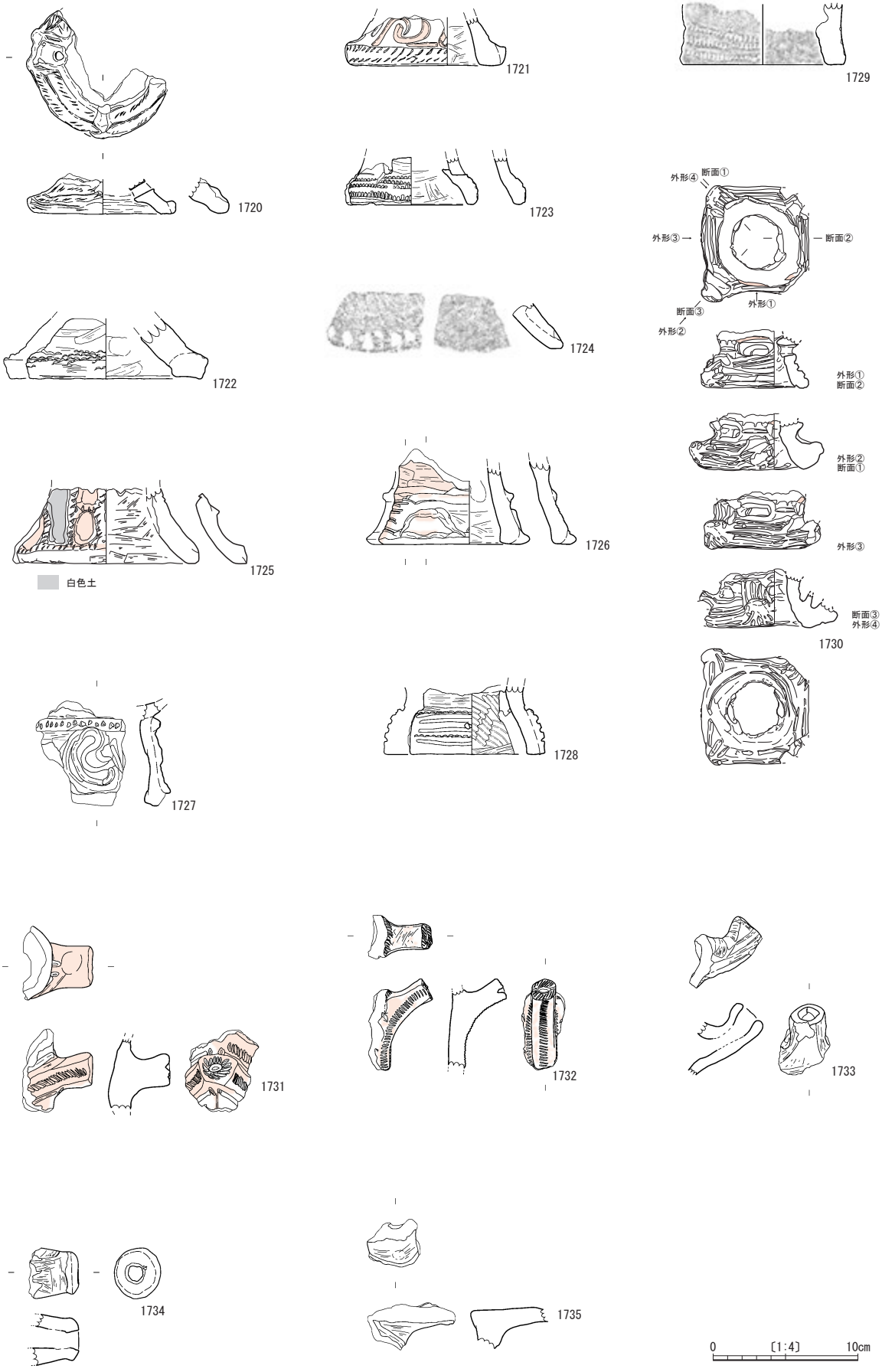
【Ⅶ類土器】

Ⅰ類土器からⅥ類土器に含まれない後期中葉から後半に該当する土器をまとめた。これらの土器は個体数が少なかったため便宜的に型式毎に報告する。具体的には丸尾式土器，北久根山式土器，西平式土器，三万田式土器及びその他に分類した。

丸尾式土器（第2-114・115図1736～1749）

1736～1749は，丸尾式土器である。口縁部直下から下位にかけて連続刺突文を１～２段施す。口縁部は外反し，胴部はあまり張らない器形をもつ。口縁部は，直立するものや肥厚するものもある。深鉢には平口縁と波状口縁がある。

1736～1743は，平口縁である。1736～1739は，口縁部下端がやや肥厚する。1736は，口縁部上下及び口縁部直下に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部の貝殻刺突の間に横位の凹線を３条施し，斜位の凹線で区画する。胎土に金雲母を多量に含む。1737は口縁部上下に斜位の貝殻刺突を施し，その間に幅広の刺突を施し，弧状の沈線で縦位に区画する。Ⅵ類の可能性も考えられる。1738は，口縁部下端に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部の断面は，方形を呈す。Ⅴ類の可能性も考えられる。1739は口縁部上端に右上がり，下端に右下がり，口縁部直下に右上がりの連続刺突を施す。口縁部下端はやや肥厚する。1740は，口縁部の上下と口縁部直下に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部が直立し，口縁部直下が胴部に向かってすぼまる。1741は，口縁部中央と直下に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部は直立し，口縁部直下がくびれる。1742は，口縁部下端に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部はやや外に開く。



第2-113図　Ⅵ類土器（22）

1743は，口縁部下位に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部がやや外反し，胴部は張らず直立する。口縁部下位は器壁が厚く，そこから口唇部に向かって器壁が薄くなる。胎土に粒の大きい５mm 前後の小礫が多量に含まれる。

1744～1749は，波状口縁である。1744・1745は，口縁部内面がくびれる。1744は，口縁部下端と直下に斜位の連続刺突を施す。口縁部が内湾し，口縁部内面及び直下がくびれる。内外面に丁寧なナデを行う。1745は口縁部に２段の刺突を施し，上位は右上がり，下位は右下がりとなる。口縁部が短く内湾し，内面に緩いくびれをもつ。1746～1749は，外開きから外反する口縁部をもつ。1746は，口縁部下端に方向の異なる貝殻刺突を上下に施す。口縁部がやや外開きとなり，波頂部が２か所残存する。1747は口縁部がやや外反し，口縁部下端に斜位の貝殻刺突を施す。波頂部の頂部に「Ｓ」字状の突起を貼り付ける。1748は，口縁部のくびれ部に半円状の貝殻刺突を施す。口縁部は強く外反し，胴部が張る。1749は，口縁部下端の上下に２段貝殻刺突を縦位に施す。直立する口縁部の下端がやや肥厚し，稜線をもつ。口縁部直下は，弱くくびれる。内面は，条痕による器面調整を行う。

北久根山式土器（第2-115図1750～1752）

1750～1752は，北久根山式土器の深鉢である。口縁部に刺突文を施し，口縁部は短く直立し，口縁部直下が強くくびれ，胴部が強く張るものである。1750は，波状口縁の深鉢である。波頂部が３か所で，口縁部から底部接合部まで残存する。口縁部は短く直立し，口縁部に貝殻復縁による縦位の刺突を１段巡らせる。波頂部の頂部には４～５条の刻みを施す。口縁部直下でくびれ，胴部は，丸みを帯びて張る。底部との境は，直立もしくはくびれると考えられる。1751は，波状の口縁部である。波頂部に縦位の，その左右に斜位の短沈線を施す。口縁部は肥厚し，強く外反し，胴部は膨らむ。内外面に横方向のミガキを行う。1752は，口縁部下端から胴部まで残存する。口縁部下端に刻みを施す。口縁部直下は強くくびれ，胴部中位で強く張り，胴部が最大径になると考えられる。胴部下位は，底部に向かって急激にすぼまる。

西平式土器（第2-115図1753）

1753は，西平式土器の深鉢である。波状口縁で口唇部は幅広く平坦面を作る。断面は方形を呈し，内面に段を作る。口縁部に２条の細い沈線を施す。胴部から口縁部へかけて直線的に開く器形である。

三万田式土器（第2-115図1754）

1754は，三万田式土器の鉢である。胴部上位でくびれ，胴部中位で張り，胴部下位に向かって直線的にすぼまる。胴部の張り出し部に稜線をもつ。胴部くびれ部に１条の沈線，その下に１段の刻みと沈線を２条，胴部張り出し部直上に刻みを１段施す。外面は，ミガキに近い細かいナデを行う。

その他（第2-115図1755～1757）

1755～1757は，後期中葉～後半に含まれる土器と考えられる。1755は口唇部下端部が張り出し，口唇部直下に段をもつ。口唇部内面に６個の楕円形の刻みを施す。口縁部はやや外反し，胴部は張る。内面に横方向の丁寧なナデを行う。1756は口唇部に広い平坦面を作り，そこに１条の沈線を施す。口唇部内外面の直下に段をもつ。口縁部は強く外反し，口縁部直下で強くくびれ，胴部は，強く張る。内外面に横方向のナデを行う。1757は口縁部が短く外反し，胴部が強く張り稜線をもつ。口縁部から胴部中位の内面に深い条痕で器面調整を行う。

【底部】

底部については，底面の特徴をもとにして以下の４種に分類して掲載，記述する。

Ａ類…平底及び若干上げ底気味の底部。圧痕は有さない。
Ｂ類…平底で，底面に何らかの圧痕を有する底部。網代編みやもじり編みの圧痕や木葉等の圧痕がある。
Ｃ類…脚台を有する底部，及び脚台状を呈する底部。
Ｄ類…その他の特色を有する底部。

Ａ類（第2-116・117図1758～1777）

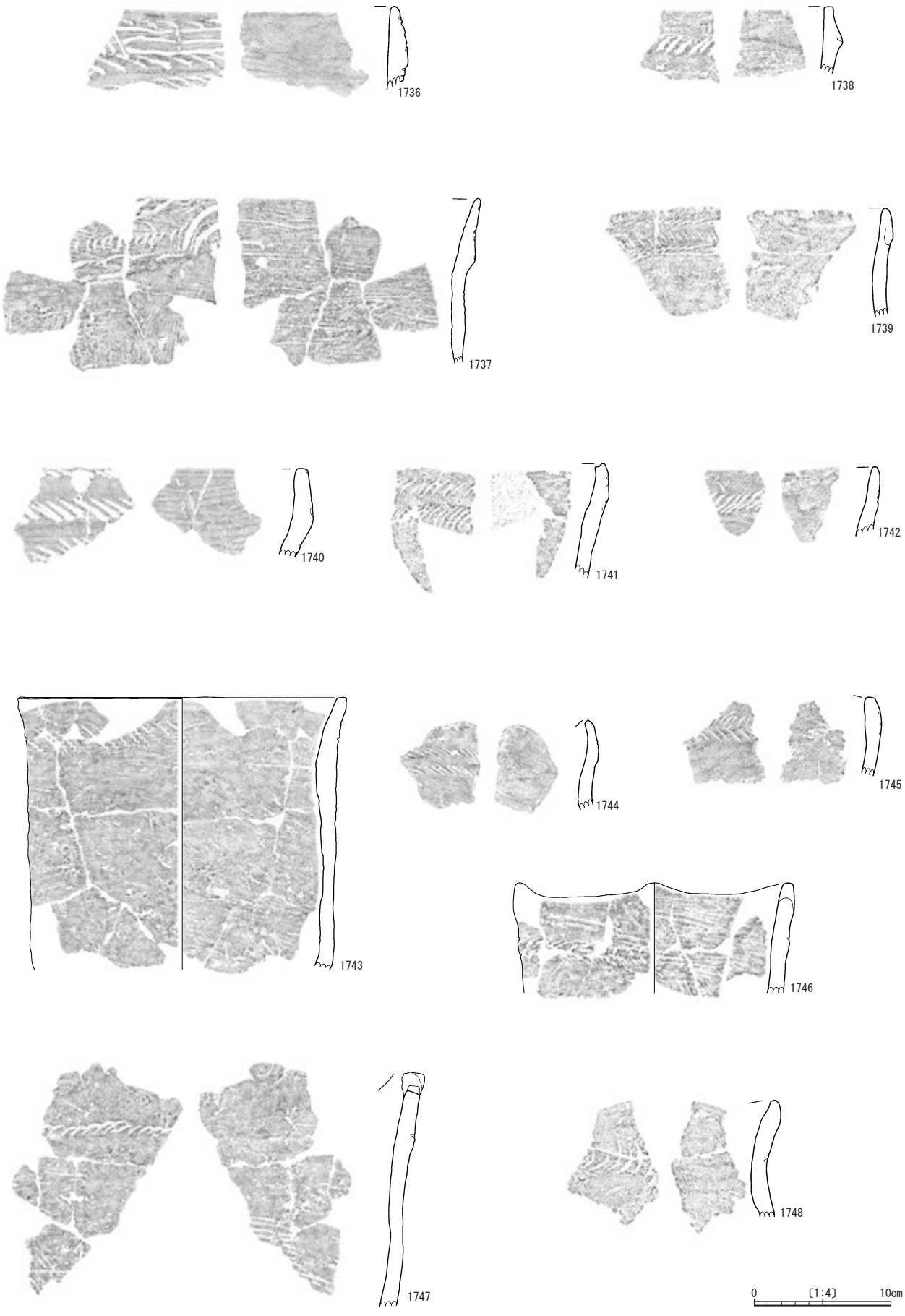
Ａ類は平底及び若干上げ底気味で，圧痕は有さない底部である。ほぼ平坦な底面を有する底部は1758・1759・1765・1770・1777・1780のみで，他は若干上げ底気味の底部である。Ｃ類のように脚台を有するほどではないが，底面の縁辺部を接地面として，底面中央部に向けてやや盛り上げ，レンズ状の上げ底を呈する底部である。Ａ類の９割弱が上げ底を呈するという状況は，土器製作時の最終仕上げの段階で，底面中央部が若干盛り上がるような手立てを意識的に施した結果である可能性が高いと考えられる。

底面の整形は丁寧なナデ仕上げを基本とするが，1774～1776のように貝殻条痕による仕上げや，1777のようにケズリ仕上げの痕跡が残る底部もある。1760と1762の底面外面と1764の底面内外面には，木の実１個体分の圧痕が残る。約半分の底面で白色土の付着が見られるが，特に1765には多量に付着していた。

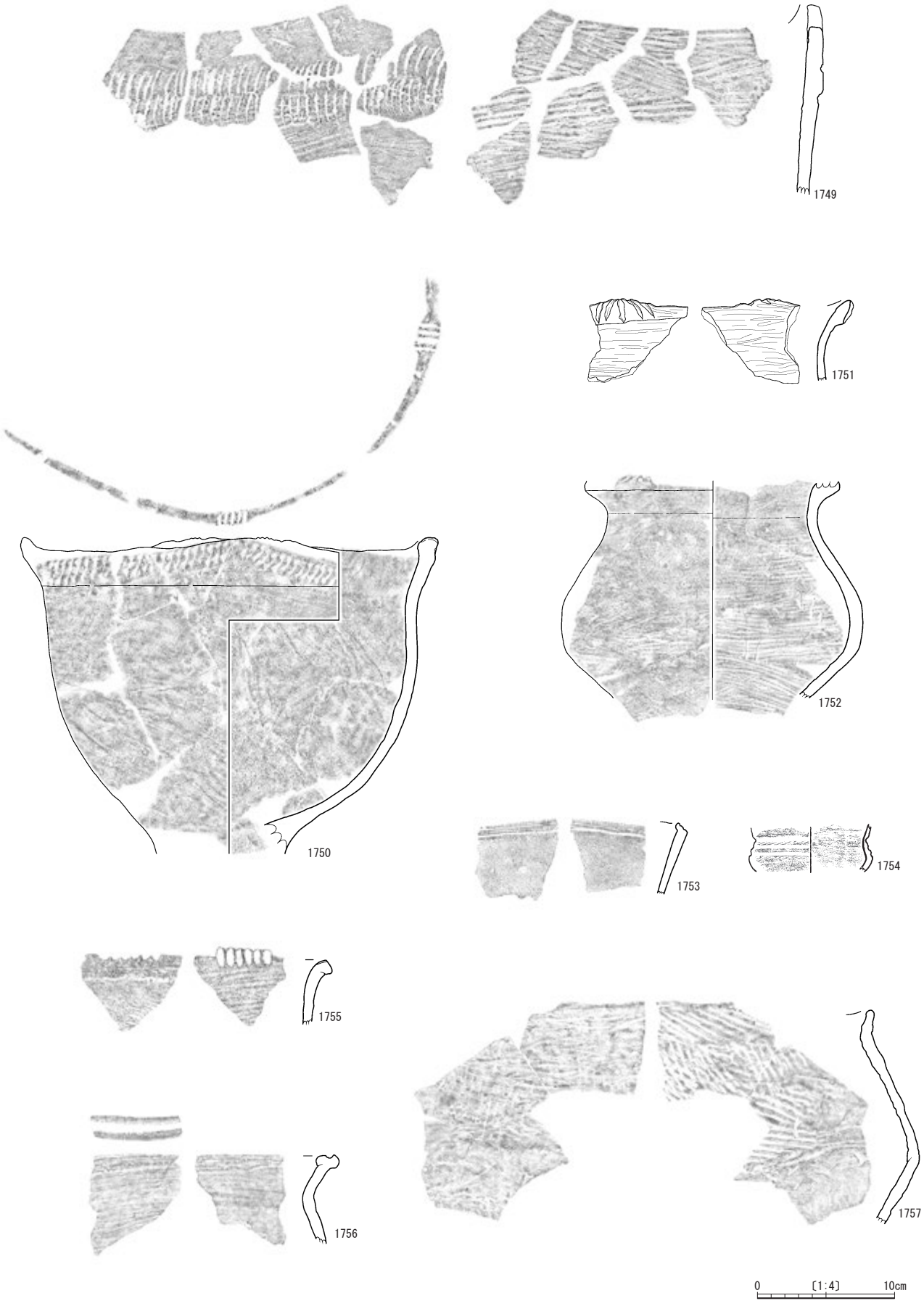
Ｂ類（第2-117～120図1778～1834）

Ｂ類は，平底を基本とする底面に何らかの圧痕を有する底部である。網代編みやもじり編みの圧痕，木葉等の圧痕がある。

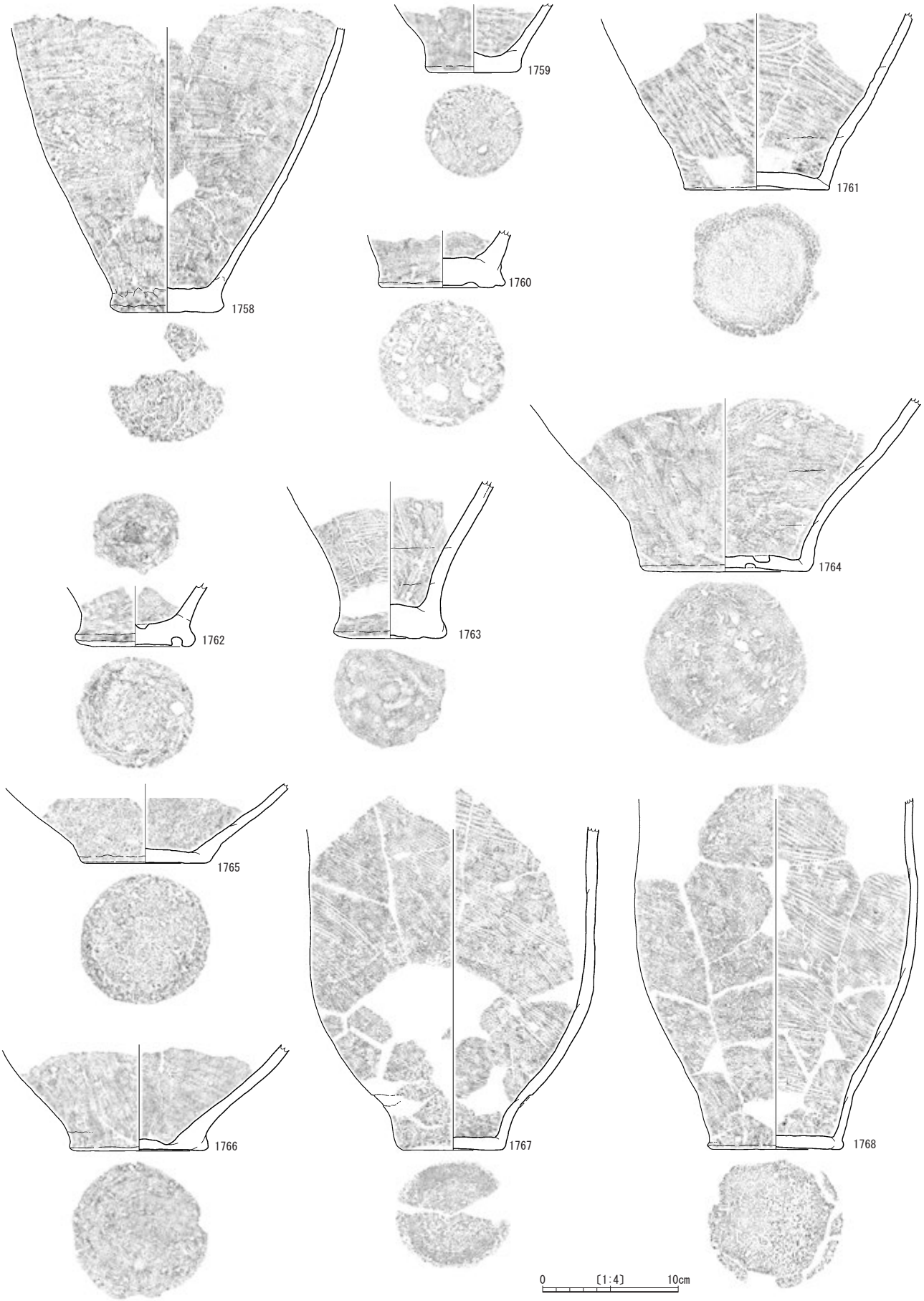
1778～1797は，網代編みの圧痕が残る底部（網代底）である。全て若干上げ底状を呈している。1785のように網代編みの痕跡を残したまま，中央部にやや大きめの木の実を当てて底面を押し上げたものもある。圧痕は全面に残るものが多いが，1781や1790は外縁部をケズリ仕上げし，1789は底面中央部をナデ消している。全体の７割



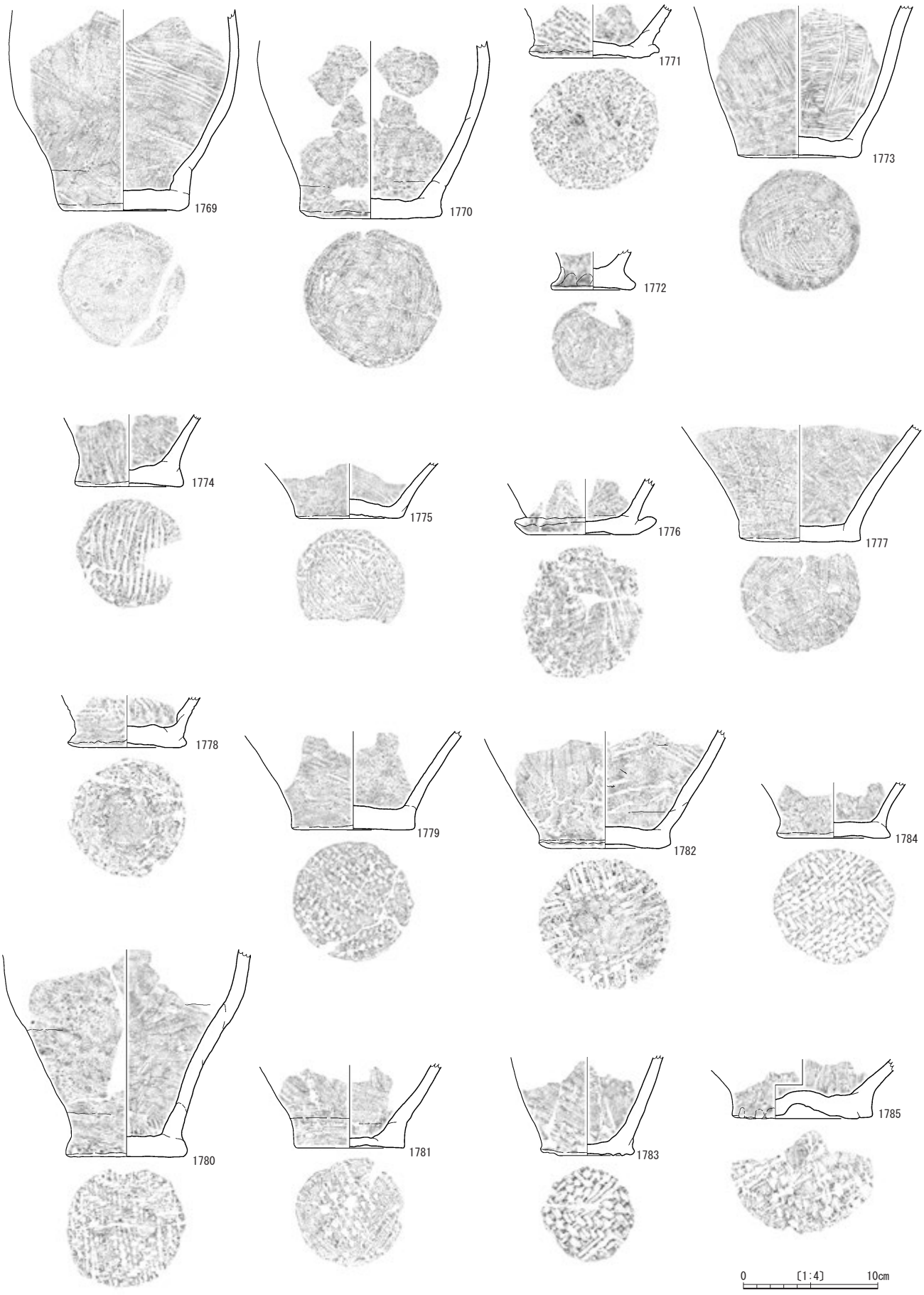
第2-114図　Ⅶ類土器（１）



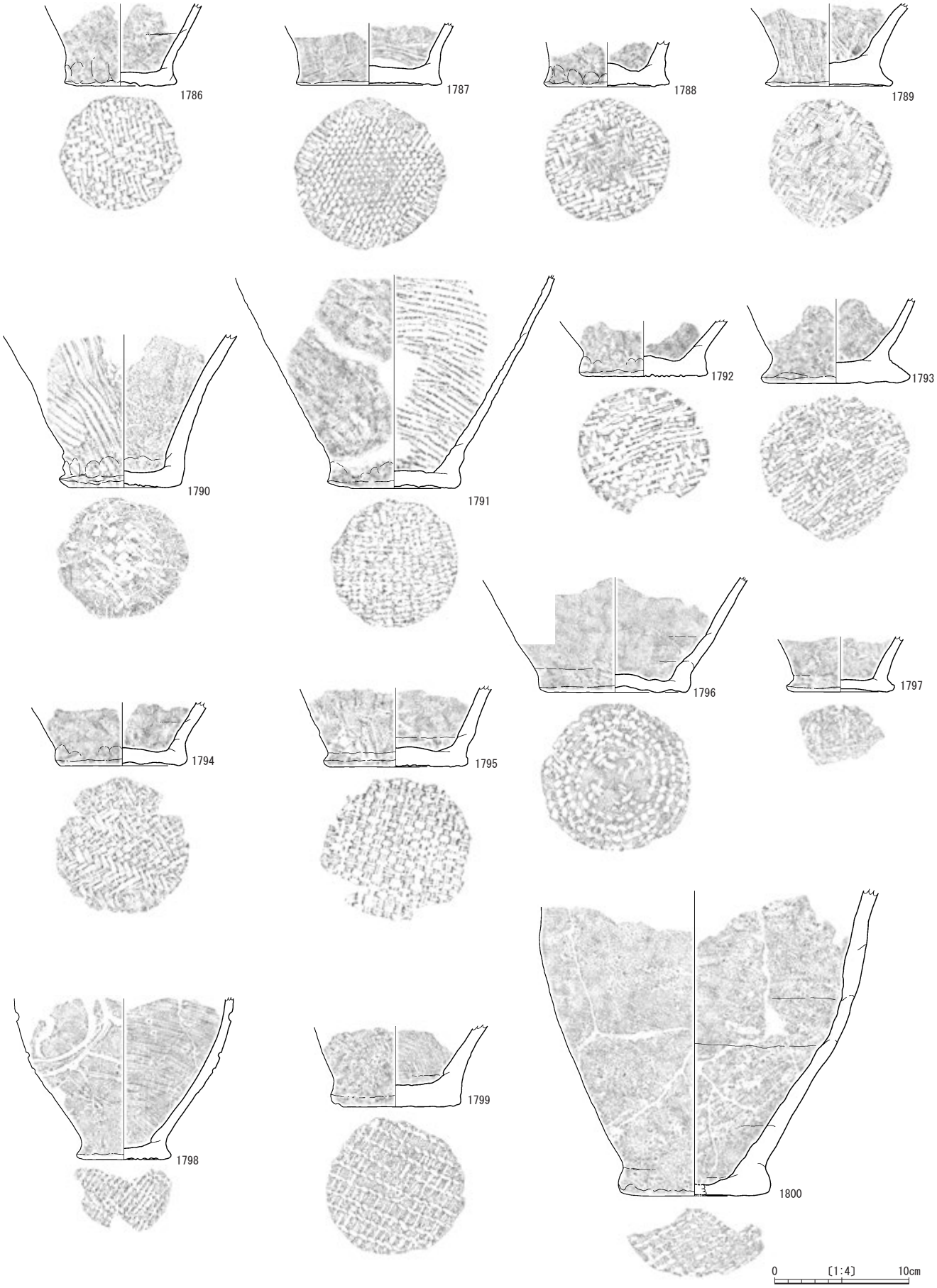
第2-115図　Ⅶ類土器（２）


1758
1759
1760
1761
1762
1763
1764
1765
1766
1767
1768
0 〔1:4〕 10cm

第2-116図　底部（１）


1769
1770
1771
1772
1773
1774
1775
1776
1777
1778
1779
1780
1781
1782
1783
1784
1785
0 〔1:4〕 10cm

第2-117図　底部（２）


1786
1787
1788
1789
1790
1791
1792
1793
1794
1795
1796
1797
1798
1799
1800
0 [1:4] 10cm

第2-118図　底部（３）

強の底面で白色土が付着し，特に1778・1779・1793では多量の付着が見られた。1796は網代編みともじり編みの圧痕が，1797は網代編みと木葉痕がそれぞれ同面で見られる例である。

1798～1814は，もじり編みの痕跡が残る底部である。網代底のほぼ全てが上げ底を呈するのに対し，３割強がほぼ平底を呈する底部とやや違いを見せる。全体の６割弱の底面で白色土の付着があり，特に1800では多量の付着が見られた。1814は，もじり編みと木葉の圧痕が同面で見られる例である。

1815～1826は，木葉の圧痕が残る底部（木葉底）である。1815～1818は，オオタニワタリの木葉を利用していると考えられる。1819と1823はほぼ平底を呈するが，他は全て上げ底状の底部である。また，1815・1826以外，８割強の底部で白色土の付着が見られた。

1827～1834は，上記以外の圧痕が残る。1827・1828は底面の周縁部にごく小さな凹部がややまとまって見られるもので，クジラの脊椎骨の圧痕を有する底部である可能性もある。いずれもやや上げ底状を呈し，1827の底面には白色土の付着も見られる。底面のごく一部に1829～1833は網代編み，1834はもじり編みの痕跡が残るものである。1829・1830・1832・1834は，貝殻条痕による整形痕の一部に圧痕が残る。その内，1829・1830・1834は，底面周縁部に圧痕が残る。1829・1832・1834が平底で，その他は若干上げ底気味の底部となっている。1829を除く全ての底面で白色土の付着が見られた。1833の底面には，木の実１個体分の圧痕が見られた。

Ｃ類（第2-121図1835～1852）

Ｃ類は，底部が脚台もしくは脚台状を呈する土器である。1835～1845は上げ底を意識した底（脚）部作りが見られる一群で，わずかではあるが脚台状を呈している底部である。拓本に示したように，接地面がリング状を呈するのが特徴である。1835は脚台の接地部だけでなく，底面全体に多量の白色土が付着しており注目される。

1846～1851は上げ底感をより明瞭にした脚台をもつ底部で，いわゆる中空の脚台を呈する土器である。

1852は脚台部を欠損するが，鉢の底部を円盤皿状に仕上げた様子がうかがえる資料である。口縁部側からキャップ状にはめ込む形で整形したものと考えられる。

Ｄ類（第2-121図1853～1857）

Ｄ類は，その他の特色で包括した土器である。

1853は，底面に植物繊維痕を残すくびれ底である。小型の土器と考えられる。1854は，底部外面に細沈線と連点状の連続刺突文を組み合わせた文様を巡らす。色調が薄紫色を呈することから指宿地域の胎土と考えられる。1855・1856は，底面に径１㎝程度の焼成前の円孔が施される。円孔は1855が底面のほぼ中央，1856は中央からやや外れた部分に位置する。用途は不明である。1857は脚台状を呈するが，上位にあると想定される器部との接点が把握できない土器である。器台状を呈する可能性もある。

（２）土製品

円盤形土製品（第2-122～127図1858～1942）

土器片を利用した円盤形土製品が，1132点出土した。今回は，その中から良好に残存している85点を図化した。使用している土器は，縄文時代後期の指宿式土器や磨消縄文系土器が多い。使用部位は，口唇部・口縁部付近・胴部・底部と様々である。側面への調整は，丁寧に研磨するもの，打ち欠いたのちに簡単に研磨するもの，打ち欠きのみで成形されるものの３種類が確認できた。

1858～1873は，口唇部を残すものである。最大径４～６㎝のものが多く，他の部位を使用したものよりも大型である。1863のように口唇部を利用し，四角形を意識したような形状のものもある。1866や1867のように口唇部を一部だけ残し，不定形のものもある。

1874～1909は，口縁部付近を利用したものである。最大径４㎝程度のものが多い。1874は，最大径8.2㎝の大型品である。器壁が薄い部分を利用しており，断面はやや湾曲する。1874・1897～1901は打ち欠き後研磨を施すもの，1904～1909は打ち欠きのみの調整のもの，そのほかは研磨による調整のものである。

1910～1931は，胴部を利用したものである。最大径が3.0～9.5㎝とばらつきがある。端部の調整は丁寧に研磨を施すものが多く，円形を呈するものが多い。

1932～1942は，底部を利用したものである。底部の形状をそのまま利用し，円形を呈するものが多い。1938のように網代圧痕が確認できるものもある。

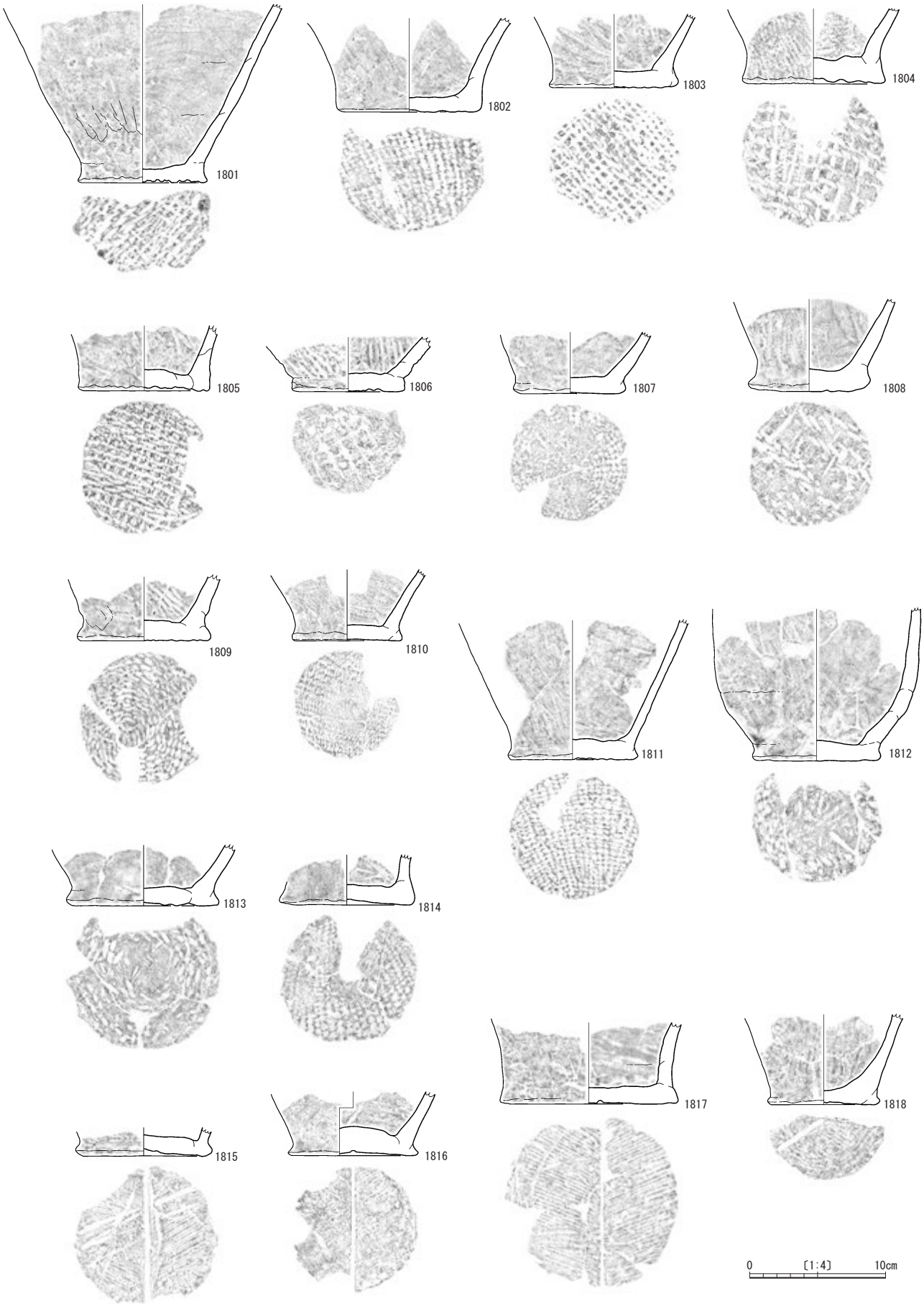
その他の土製品（第2-128図1943～1961）

穿孔が確認できる土製品は，27点出土した。その中から良好に残存している16点を図化した。1943～1955は穿孔を確認できるもので，そのうち1952～1955は破損品である。1956～1958は，未貫通である。穿孔の直径も0.8㎝から1.8㎝とばらつきがあり，複数の穿孔具があった可能性がある。1943は最大径9.0㎝と大型で，両面から孔が穿たれる。

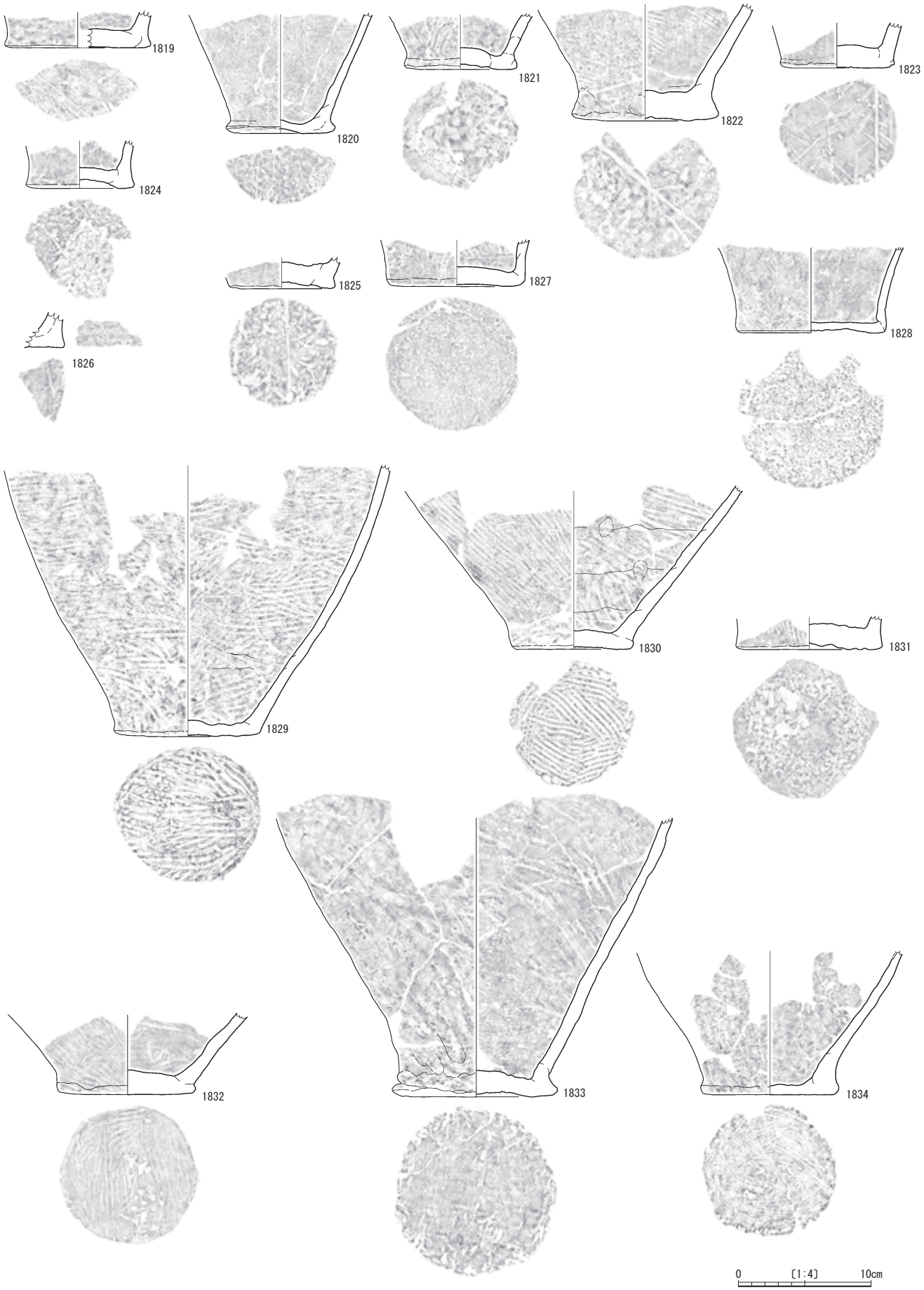
1959は指宿式土器の口唇部を利用し，２つの突起物を残す。表面には沈線があり，三角形の頂点部分に円が描かれる。1960は四角形状を呈し，各側面を丁寧に研磨して仕上げる。表面には焼成後の線刻があり，菱形の中に円が描かれる。1961は，側面に滑車状の凹みをもつ土製品である。土錘の可能性がある。

２　縄文時代中期以前の土器・土製品

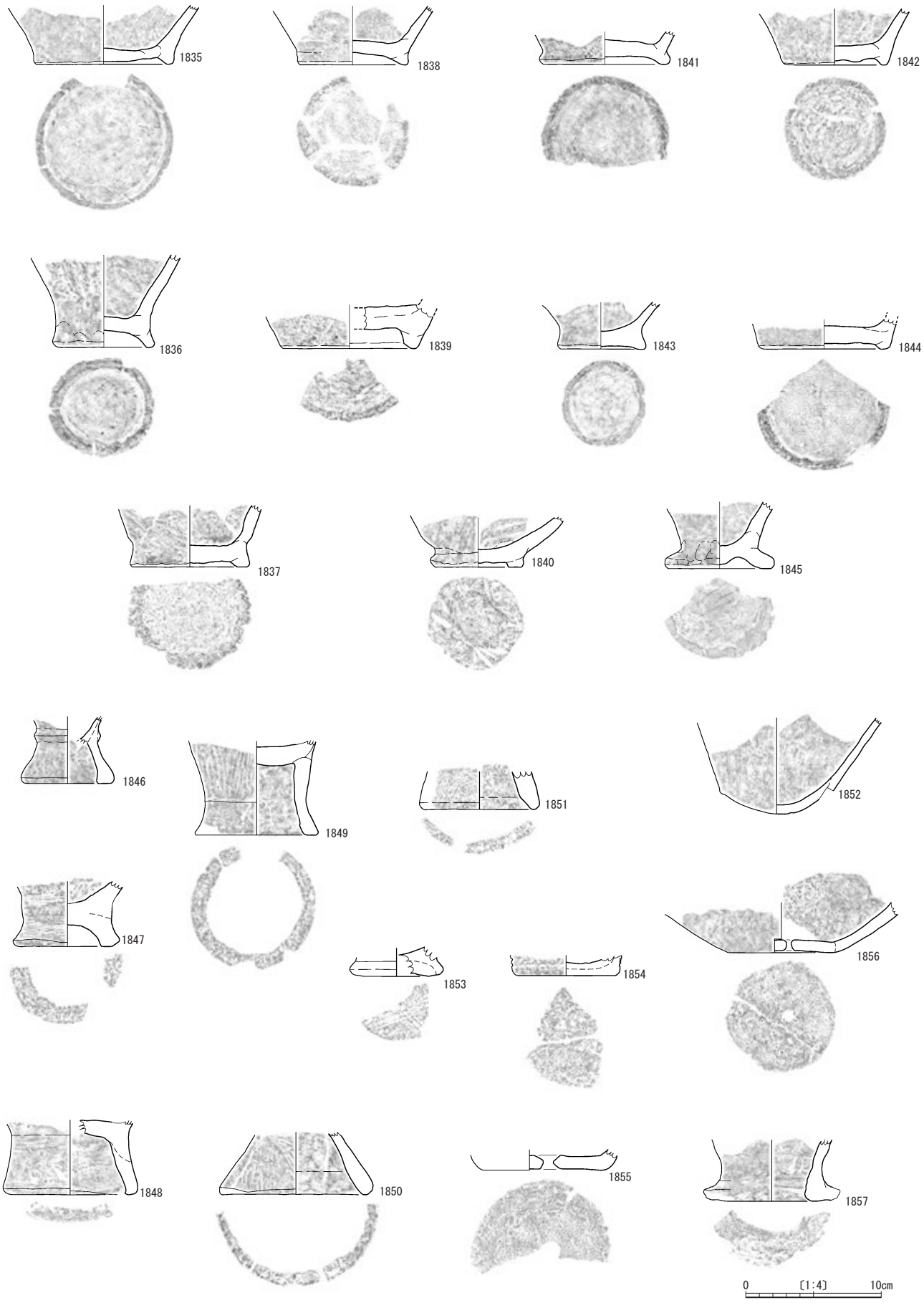
縄文時代早期及び前期，中期に属する土器・土製品については，出土量が少ないことから型式毎に記述する。


1801
1802
1803
1804
1805
1806
1807
1808
1809
1810
1811
1812
1813
1814
1815
1816
1817
1818
0 〔1:4〕 10cm

第2-119図　底部（４）


1819
1820
1821
1822
1823
1824
1825
1826
1827
1828
1829
1830
1831
1832
1833
1834
0 〔1:4〕 10cm

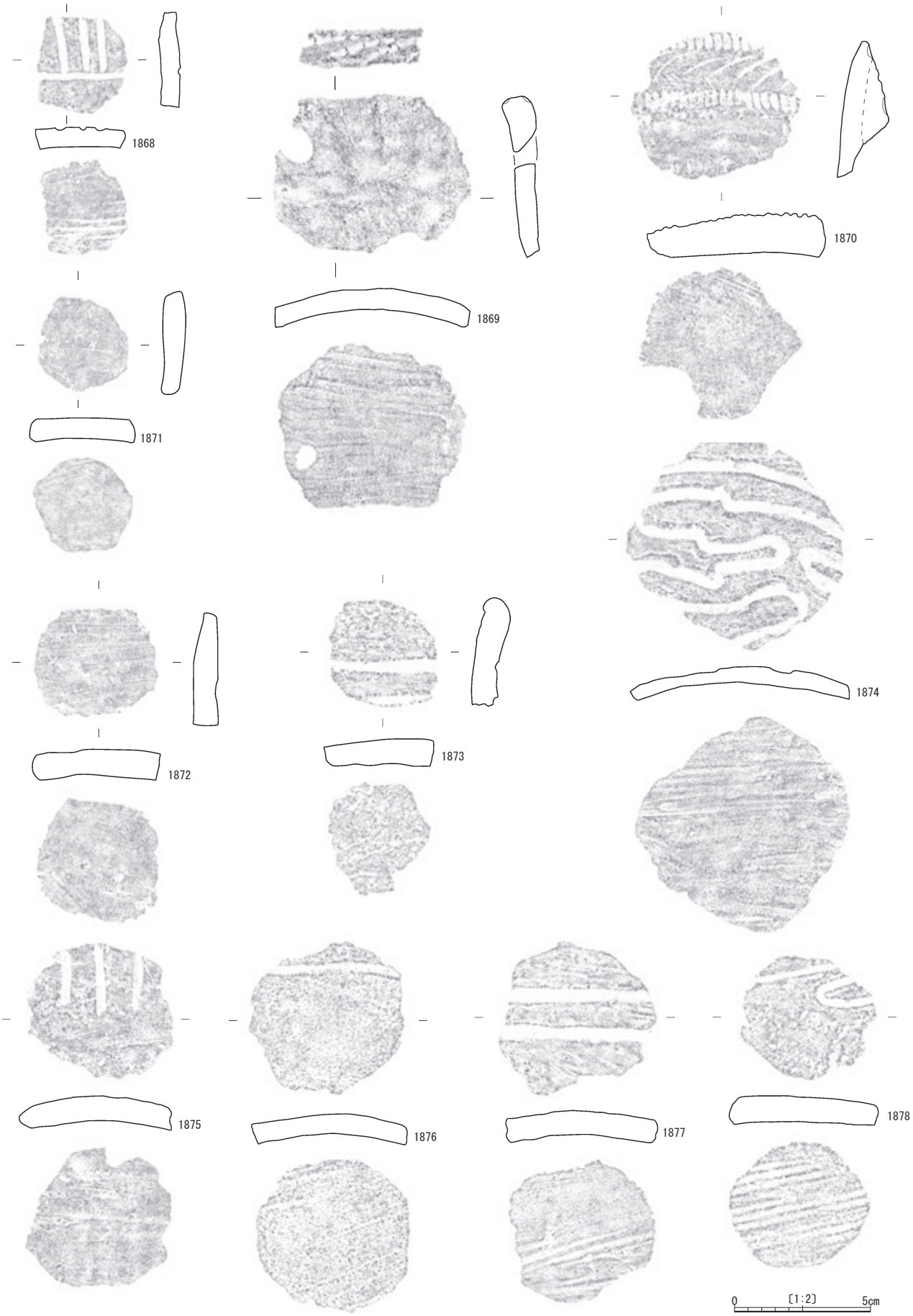
第2-120図　底部（５）


1835
1838
1841
1842
1836
1839
1843
1844
1837
1840
1845
1846
1849
1851
1852
1847
1853
1854
1856
1848
1850
1855
1857
0
[1:4]
10cm

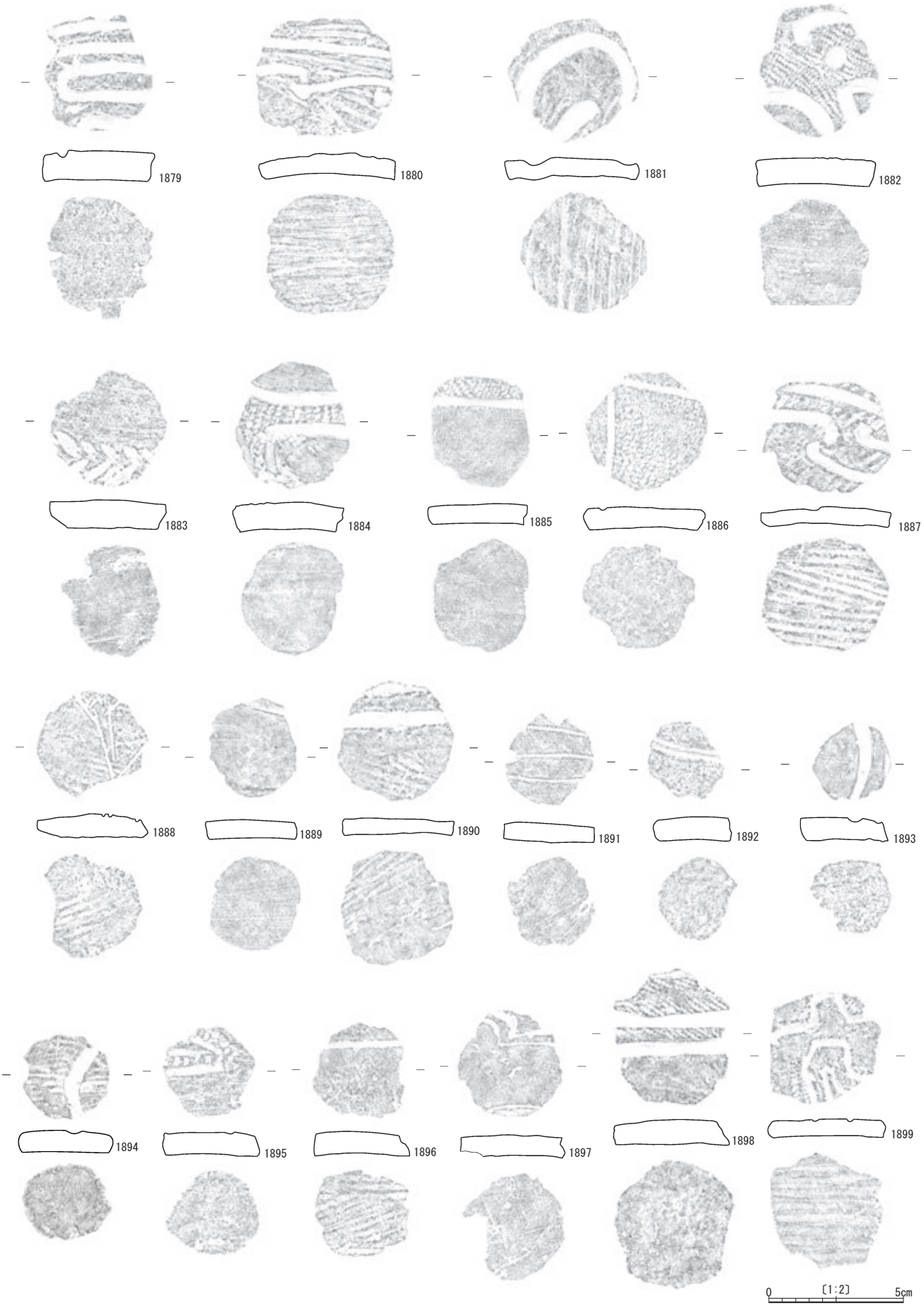
第2-121図　底部（６）



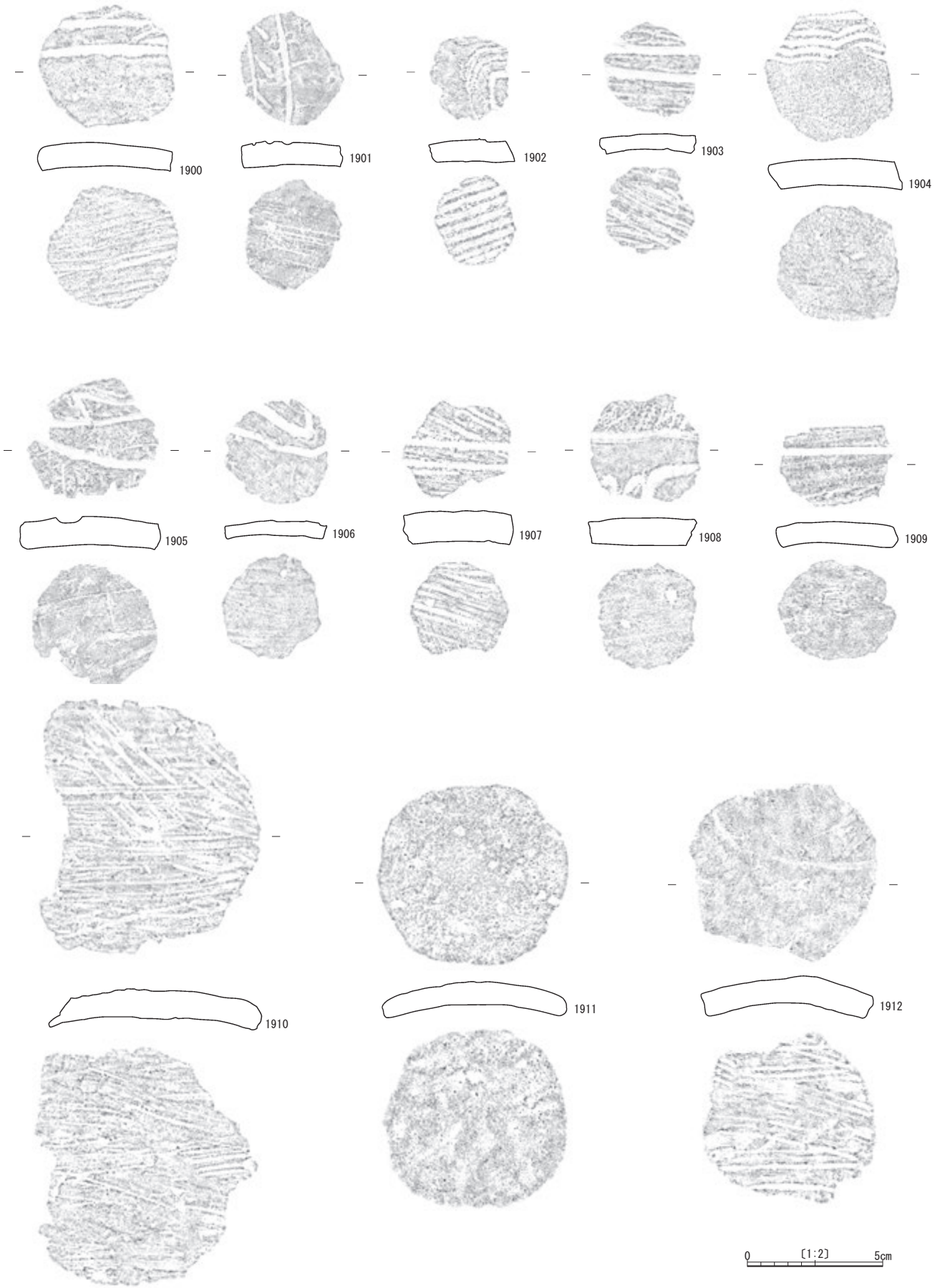
第2-122図　土製品（１）


1868
1869
1870
1871
1872
1873
1874
1875
1876
1877
1878
0
〔1:2〕
5cm

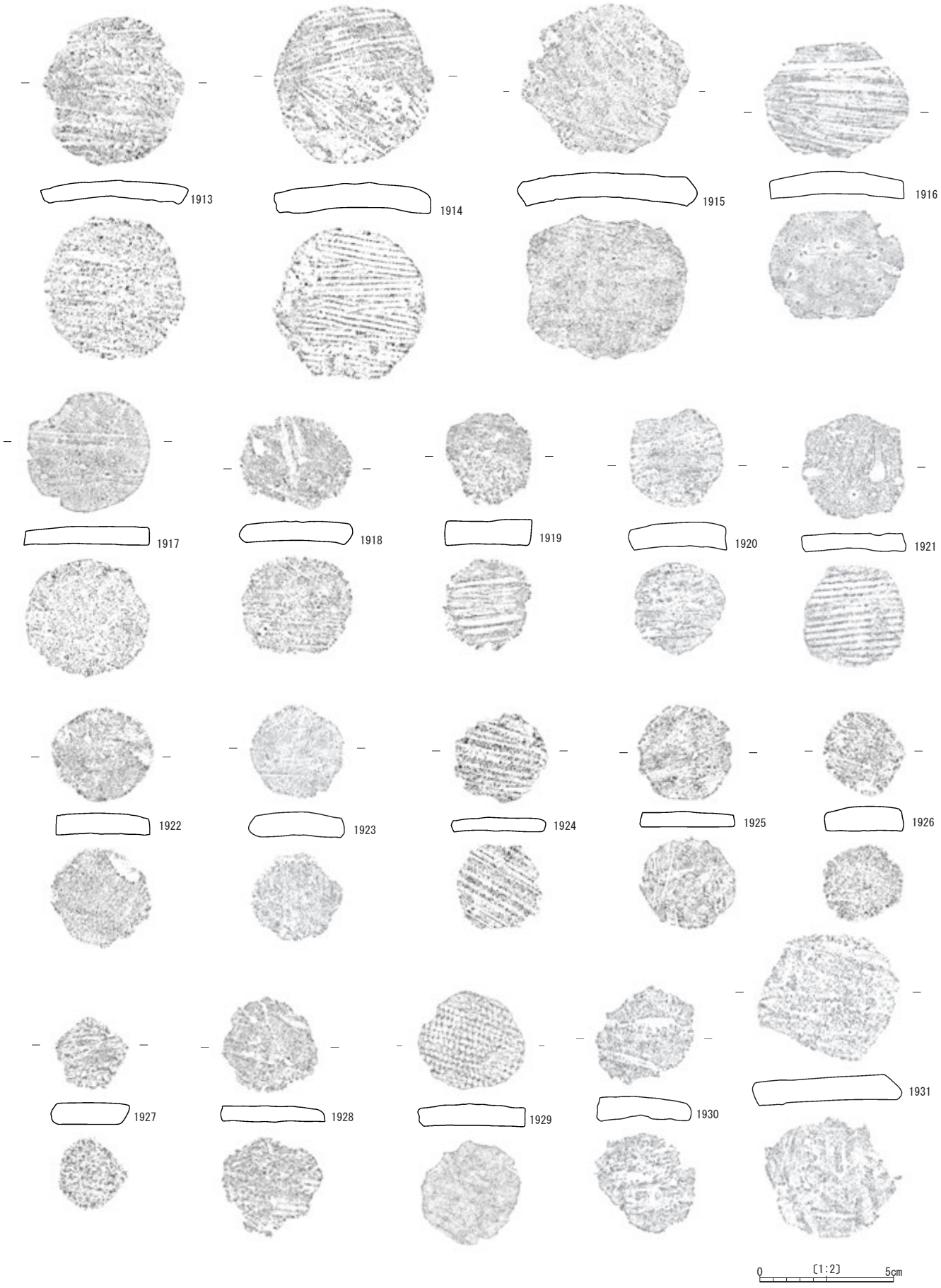
第2-123図　土製品（２）


1879
1880
1881
1882
1883
1884
1885
1886
1887
1888
1889
1890
1891
1892
1893
1894
1895
1896
1897
1898
1899
0
[1:2]
5cm

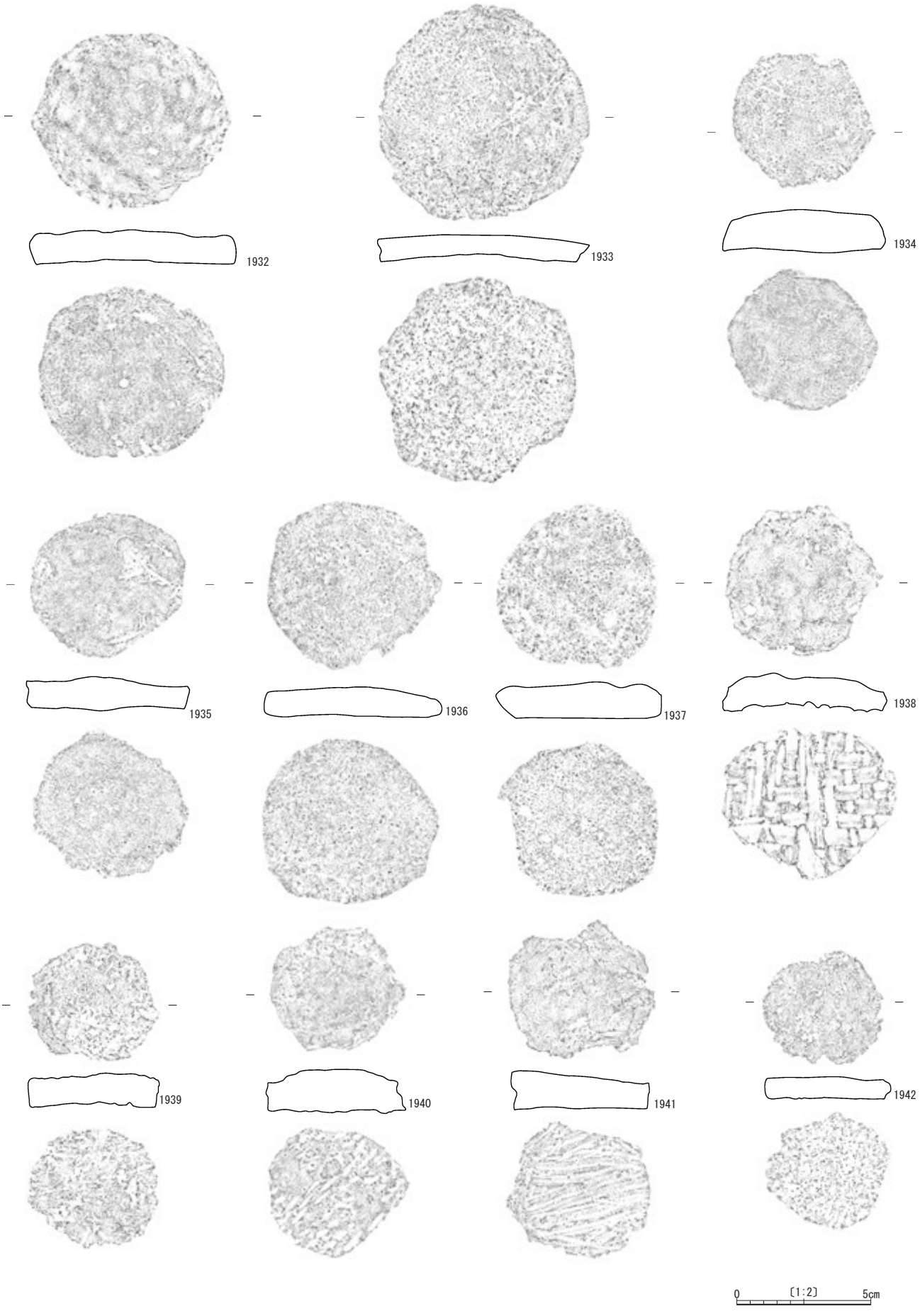
第2-124図　土製品（３）


1900
1901
1902
1903
1904
1905
1906
1907
1908
1909
1910
1911
1912
0
[1:2]
5cm

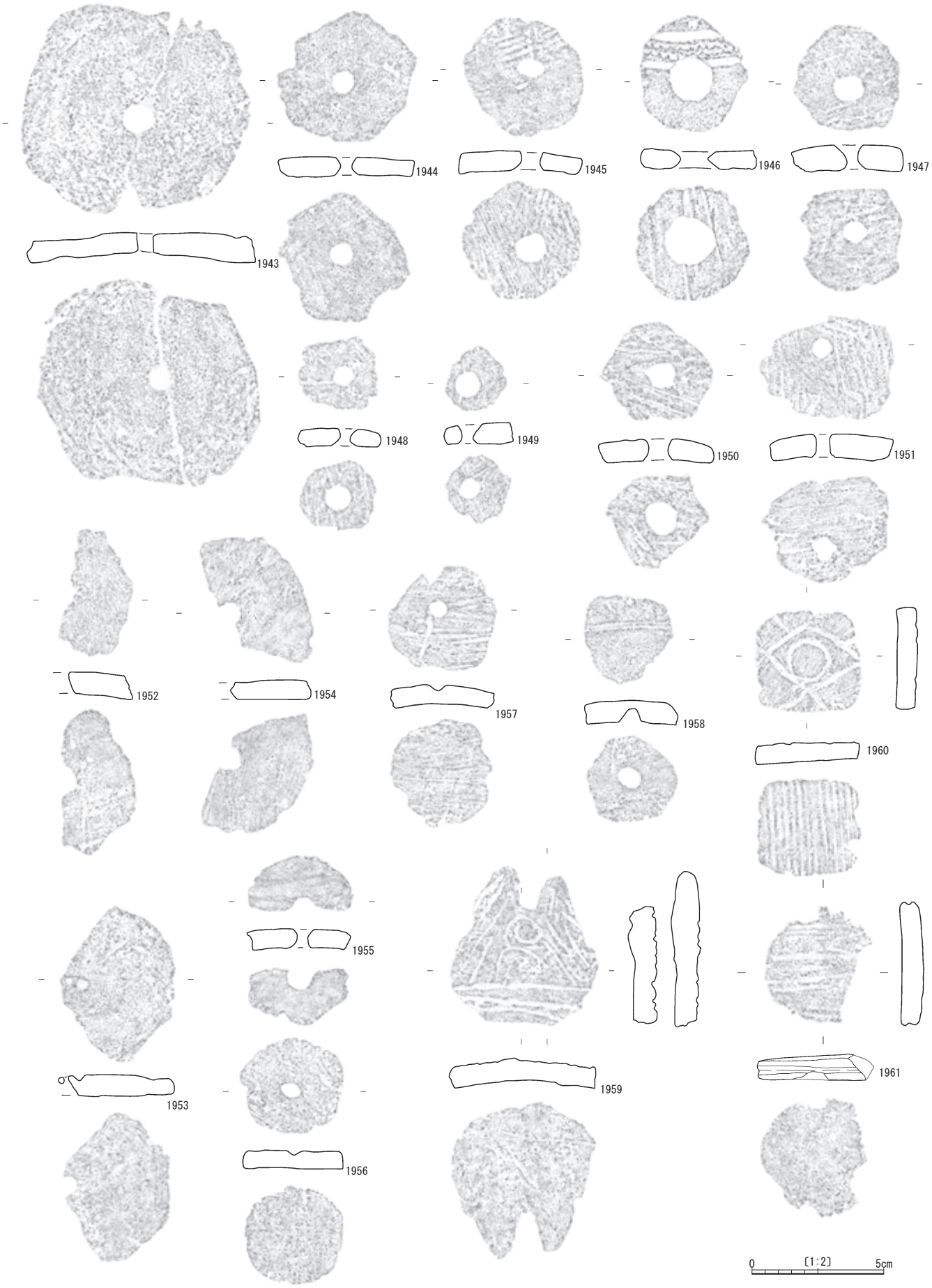
第2-125図　土製品（４）


1913
1914
1915
1916
1917
1918
1919
1920
1921
1922
1923
1924
1925
1926
1927
1928
1929
1930
1931
0
〔1:2〕
5cm

第2-126図　土製品（５）


1932
1933
1934
1935
1936
1937
1938
1939
1940
1941
1942
0
〔1:2〕
5cm

第2-127図　土製品（６）


1943
1944
1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1954
1957
1958
1960
1955
1959
1961
1953
1956
0 〔1:2〕 5cm

第2-128図　土製品（７）

（１）**阿高式土器**（第2-129図1962・1963）

掲載した阿高式土器は，２点である。1962は胴部で，円形の凹線を３条施し，内面には外面の凹線による凹圧痕が残る。1963は，口縁部に貼り付ける突帯が剥離したものである。「Ｕ」字形で外面に２列の刺突間に沈線を施す。

（２）**春日式土器**（第2-129図1964～1967）

掲載した春日式土器は，４点である。1964は内湾する口縁部をもち，横位の連続した刺突が４段めぐる。内面は，器面調整の条痕が残る。1965は口縁部が内湾し，口唇部は方形を呈し，口唇部に刺突を施す。口唇部直下に爪形刺突を施し，その下に波形の突帯を貼り付け，そこに刺突を施す。口唇部は，一部山形の突起を貼り付ける。1966は口縁部は直立し，口縁部内面から外面にかけて刺突の施された紐状の隆帯を貼り付けるものである。器面調整は内外面ともナデで，焼成は良好である。1967は口縁部が外反し，３条の縦位の刻目突帯を貼り付ける。突帯間に白色土の上から赤色顔料を塗布する。内面は，条痕による器面調整を行う。口唇部は，一部方形を呈す。1964・1965は轟ヶ迫段階，1966・1967は南宮島段階と考えられる。

（３）**轟式土器**（第2-129図1968～1970）

轟式土器は，３点図化した。1968は直立する口縁部をもち，やや細くなる口唇部には刻みが施される。外面にはミミズバレ状の隆帯文を波状に３条配し，刻みを施す。隆帯文の下位には横位の細沈線が残る。内面は，比較的明瞭な条痕調整を残す。1969は，直立する口縁部に内面から外面にかけて粘土紐を貼り付け垂下させる。1968・1969とも轟Ｂ式土器に比定でき，1969は荘タイプと呼ばれるものである。1970は胴部片で，器面を指頭で両側から押し出すことにより縦位の隆帯をつくる。器面には指頭痕が明瞭に残る。内面は，器面調整の条痕が残る。詳細は不明であるが，特徴から轟式土器の範疇に含まれると判断した。

（４）**曽畑式土器**（第2-129・130図1971～1999）

出土した曽畑式土器の器形は口縁部が外反もしくは直立し，胴部はやや膨らむものと直立するものがあるという特徴をもつ。文様は沈線と刺突で構成され，全体的に器壁が幾分薄い。胎土に滑石を明らかに含むものが，３点あった。

1971～1986は口縁部で，その中でも1971～1980は口縁部の内外面に施文を行うものである。1971・1972は口縁部が外反し，口唇部には刻みを施す。内外面とも横位の沈線で文様を構成する。1973・1974は，幅広の口唇部に刺突を施す。外面には横位と縦位の沈線で四角文と考えられる文様を施す。内面は，横位の短沈線が残る。1975は口縁部が外反し，断面方形の口唇部に連続した刺突を施す。外面は口唇部直下に横位の沈線を施し，その下には区画を意識した斜位の沈線を山形状に配し，その区画を充填する縦位の沈線を施す。内面には横位の沈線を５条施す。1976はやや外反する口縁部をもち，幅広の口唇部には刺突を施す。外面は斜位の沈線で文様を構成し，内面は横位の沈線を施す。1977は外面に横位と斜位の沈線，内面は横位の沈線を施す。1978・1979は，内面に連続した横位の刺突とその下に沈線を施す。1979は，外面に横位の沈線の上に縦位の沈線を施す。1980は，内外面に刺突を施すものである。

1981～1986は内面に文様を施さないもので，口縁部は直立する。1981～1983は，縦位・斜位・横位の沈線で文様を構成する。1984～1986は，刺突で施文する。1984は口唇部から内面に向かって刻みを入れ，外面に羽状の刺突を巡らせ，その下位に横位の沈線を施す。1985・1986の刺突は口縁部に向かい，連続して施される。施文及び胎土等から両者は同一個体と考えられる。

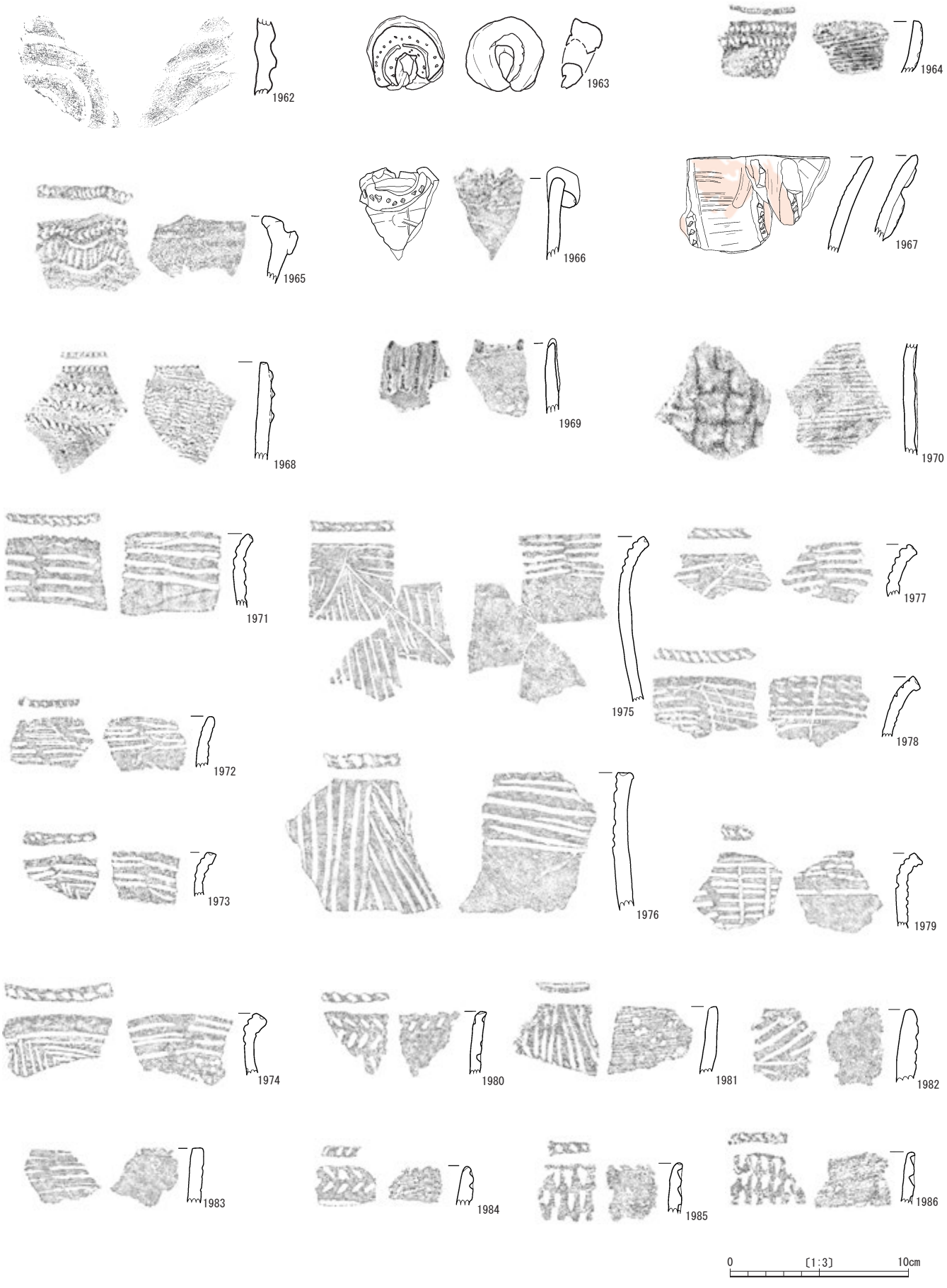
1987～1994は，胴部片である。1987は，口縁端部と底部を欠損する。文様は全面に施される。斜位の沈線で菱形に区画し，その区画を縦位の沈線で充填する文様をもつ。また，底部付近は，横位に近い沈線が施されている。口縁部内面には横位の沈線が残る。文様構成や胎土等から1975と同一個体と考えられる。1988は，斜位の細沈線を施す。1989は，横位もしくは斜位の沈線に縦位の沈線が上描きされる。胎土に滑石を含む。1991・1992は，同一個体と考えられる。器面を縦に区画するように３条の沈線を配し，逆「Ｓ」字状の曲線を上描きする。さらに，その両側には縦位・横位・斜位の沈線で規格性の乏しい文様を構成する。1993・1994も同一個体と考えられ，胎土には滑石を含む。文様は，横位の短沈線と連続した刺突で構成される。

1995は，底部片である。横位のやや幅広の短沈線で胴部と底部を区画し，底面中央に向かって縦位の短沈線を配する。

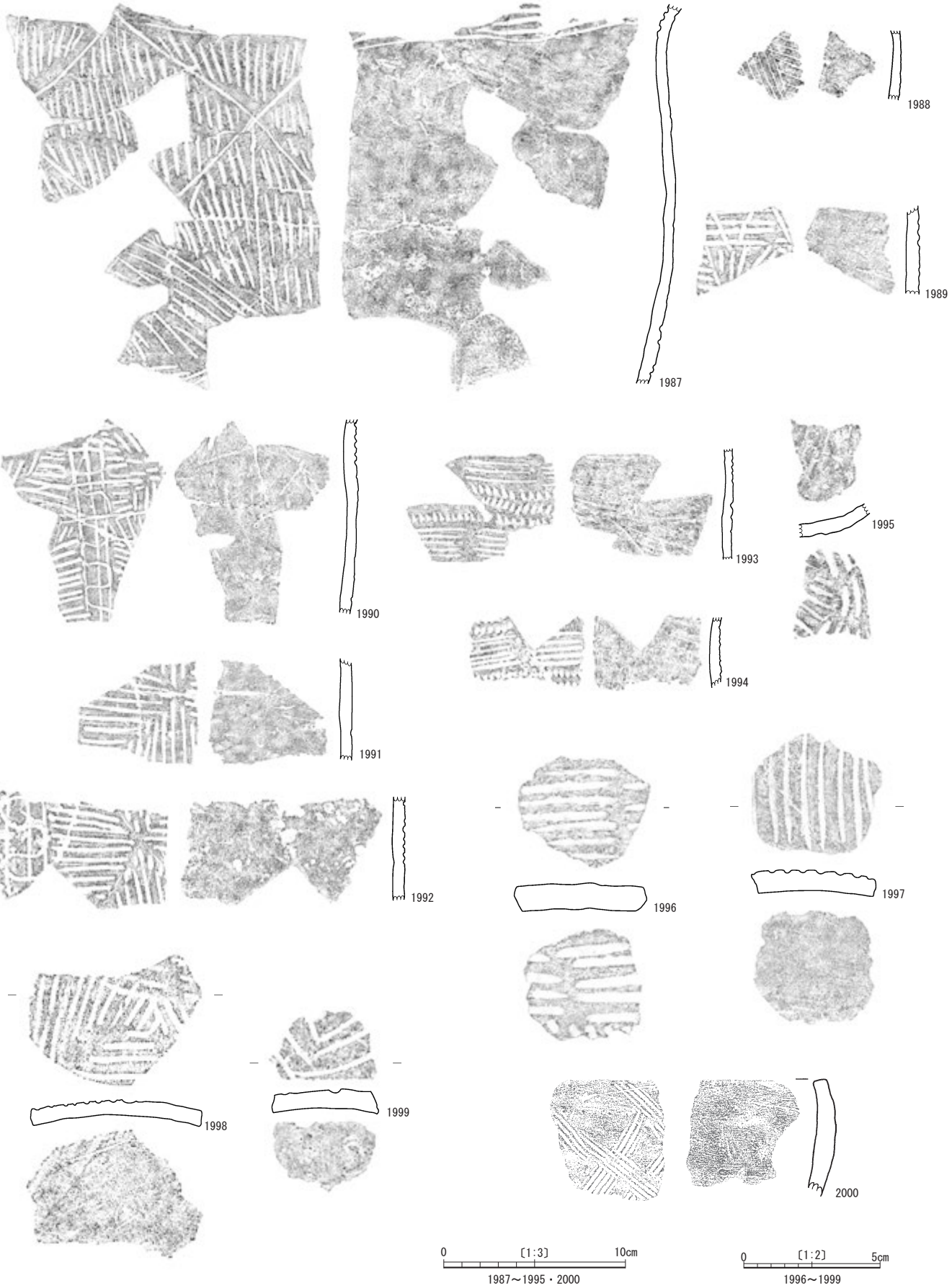
1996～1999は円盤形土製品で，いずれも沈線で文様が構成される深鉢の破片で作成され，側辺部は，打ち欠き作業を行っている。1996・1997は口縁部近辺の破片で，1998・1999は胴部片で一部欠損する。1996は，内面にも文様を施している。

（５）**塞ノ神式土器**（第2-129図2000）

塞ノ神式土器は，１点を図化した。2000は口縁部が内湾し，口縁部に斜めの格子目に貝殻押引文を施す。口唇部は方形を呈す。押引文は右上がりのあと，左上がりに施す。塞ノ神式土器としたが，苦浜式土器の可能性も考えられる。



第2-129図　縄文時代中期以前の土器・土製品（１）



第2-130図　縄文時代中期以前の土器・土製品（２）

第2-4表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（1）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-31	1081	E·F-12·13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰa	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	灰	灰	良好	○	○	△				△			
	1082	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰa	−	−	−	ナデ, ミガキ	ナデ, ミガキ	沈線, 縄文	黒褐	褐灰	良好		○			○					スス 試料No.34
	1083	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰa	−	−	−	ミガキ, ナデ	ナデ	縄文, 沈線	褐灰	褐灰	良好	○	◎			◎					
	1084	C·D·E-21	Ⅱ·Ⅲ	鉢	□～胴部 胴～底部	後期	Ⅰa	17.8	10.6	上部(12.4) 下部(2.9)	ナデ, ミガキ	条痕→ナデ, ミガキ ケズリ→ナデ, 指頭圧痕	沈線, 転圧文 刺突	橙	明赤褐	良好	○	○	○	○	○	○	○		把手, 穿孔
	1085	E-16	Ⅲ	浅鉢	□縁部	後期	Ⅰa	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	黄灰	黄灰	良好	○				○		△			
	1086	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰb	48.0	−	(23.2)	ナデ	条痕	沈線, 縄文	にぶい橙	橙	やや不良		◎			◎					
2-32	1087	E-14	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	条痕	沈線, 縄文	にぶい黄橙	浅黄橙	やや不良		◎			◎					
	1088	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	条痕	沈線, 縄文	灰黄褐	黒褐	やや不良		◎			◎					破片で色調が異なる
	1089	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○				◎				
	1090	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰb	42.0	−	(27.8)	ナデ	ナデ	沈線, 縄文 刺突	橙	浅黄橙	良好	○	○			○					小池原下層式頃か
	1091	D-13 D-14	Ⅲ·Ⅳ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ, 条痕	ナデ	沈線, 縄文	にぶい黄橙	灰白	良好		○	○		○		○			
	1092	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ, 条痕	条痕	沈線, 縄文 刺突	橙	橙	良好	○	◎			◎					
	1093	D-16	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ミガキ	ミガキ	沈線, 縄文	浅黄	明黄褐	良好	○	△		△						
	1094	D-14	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	黒褐	灰褐	やや不良		○			○					
2-33	1095	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰb	29.5	−	(14.0)	ナデ	ナデ	沈線, 縄文 押圧	橙	橙	良好	○	◎			◎					
	1096	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文 押圧	にぶい褐	にぶい褐	良好	△	○			○		○			
	1097	E-17	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	擬縄文	にぶい黄褐	褐	良好	○	○			○			○		
	1098	E-17	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	条痕, ナデ	沈線, 縄文	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○			△		小池原上層式か
	1099	E-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文 刺突	にぶい赤褐	黒	普通	○	△			○					
	1100	B-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい赤褐	にぶい橙	良好	○		○				△	○		補修孔
	1101	E-17	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	不良	○	○		○	○					補修孔
	1102	D-25	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	擬縄文	明赤褐	明赤褐	良好	○	○			○			○		
	1103	E·F-12·13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ, 条痕	ナデ	沈線, 縄文	にぶい橙	にぶい橙	やや不良		○			○					小池原上層式か, スス
	1104	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい黄橙	にぶい橙	不良		△	○		○					小池原上層式か
	1105	D-12	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい褐	灰褐	良好		○	○		○					穿孔
	1106	D-12	Ⅲb	鉢	□縁部	後期	Ⅰb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 転圧文 押圧	明赤褐	にぶい赤褐	良	○	○			○					赤色顔料
2-34	1107	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰc	−	−	−	ナデ, 条痕	ナデ, 条痕	沈線, 縄文	黒褐	灰褐	良好	○	△	◎							
	1108	D-14	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰc	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○	○							
	1109	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰc	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文 刺突	にぶい褐	にぶい褐	やや不良	△	△	○							
	1110	D-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰc	−	−	−	丁寧なナデ	丁寧なナデ	沈線, 縄文	橙	にぶい橙	普通	○	○					○			
	1111	D-12	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰc	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線	褐灰	にぶい黄褐	良好	○	○			△					補修孔
	1112	D-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰc	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文 刺突	にぶい橙	にぶい橙	普通	△	○			○					
	1113	E-15	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰc	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	橙	橙	不良	○	○			◎					
	1114	E-18	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰc	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	橙	褐灰	良好	○	○			◎					
	1115	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰd	33.0	−	(11.3)	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい橙	褐灰	良好	○	○			○		△	△		赤色顔料
	1116	D-12	Ⅱ	鉢	□縁部	後期	Ⅰd	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	橙	にぶい橙	不良	○	○			○		◎	◎		小池原上層式か 穿孔
	1117	D-12	Ⅲb	鉢	□縁部	後期	Ⅰd	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	灰黄	灰黄	良好	○	○			○		○			小池原上層式か 穿孔
	1118	D-12	Ⅲa	深鉢	胴部	後期	Ⅰd	−	−	−	丁寧なナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい褐	にぶい褐	普通	○	○			◎					小池原上層式か
	1119	E-14	Ⅲa	深鉢	胴部	後期	Ⅰd	−	−	−	丁寧なナデ	ナデ	沈線, 縄文	灰褐	にぶい橙	やや不良	○	○			○			○		小池原上層式か
	1120	E-13 F-13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰd	27.2	−	(12.8)	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	灰黄褐	灰黄褐	普通	○	◎								小池原上層式
	1121	E·F-14·15	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰd	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			△					1120と同一
	1122	F-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰd	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	明褐灰	明褐灰	良好	○	○			△					1120と同一
2-35	1123	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰe	32.0	−	(11.2)	条痕→丁寧なナデ	丁寧なナデ	沈線, 縄文 刺突	にぶい黄褐	暗褐	普通	○	○			△					鐘崎式
	1124	D-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰe	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 縄文 刺突	褐灰	褐灰	普通	○	○								鐘崎式
	1125	E-11	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅰe	−	−	−	ナデ, 条痕	丁寧なナデ	沈線, 縄文	褐	にぶい褐	普通	○	○			△		△			
	1126	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅰe	−	−	−	ナデ	丁寧なナデ	沈線, 縄文 刺突	灰褐	褐灰	普通	○	○			◎		△			鐘崎式

第2-5表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（２）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-35	1127	E-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰe	－	－	－	ナデ	丁寧なナデ	沈線, 縄文刺突, 押圧	灰黄	黒褐	やや不良					◎					外面剥落 鐘崎式
	1128	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰe	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突押圧, 縄文	灰	オリーブ黒	不良	◎	○			○		△			鐘崎式 1129と同一
	1129	E-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰe	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 縄文刺突	褐灰	褐灰	不良	○	○			◎		△			鐘崎式 1128と同一
	1130	D-13 E-13	Ⅲ Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰe	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	灰	灰	不良	○	○			◎					穿孔
2-36	1131	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅰf	20.8	－	(14.5)	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい褐	にぶい黄橙	普通	○	○			○					
	1132	E-13	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 縄文押圧	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○	◎							ススス
	1133	E･F-12･13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 縄文沈線	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	○		◎		○					
	1134	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	条痕	刺突, 縄文沈線, 押圧	灰褐	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1135	E-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	ナデ	縄文	褐灰	灰褐	良好	○	○			○					
	1136	D-22	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	ナデ	縄文	橙	橙	良好	○	○			○		△	○		
	1137	E-16	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 縄文刺突, 押圧	灰褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					
	1138	D-15	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	ナデ	縄文, 沈線	灰褐	褐灰	良								○		ススス 1139と同一
	1139	D-15	Ⅱ	深鉢	胴部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい赤褐	褐灰	良		○			○			○		1138と同一
	1140	D-13	Ⅲ	深鉢	胴部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	ナデ	縄文	橙	橙	良好		○	○		○					
	1141	D-13	Ⅲa	深鉢	胴部	後期	Ⅰf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	橙	にぶい褐	普通	○	○			○					
2-37	1142	E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱa	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線, 凹点	にぶい褐	にぶい橙	良好	○				○		○			
	1143	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱa	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線, 刺突	褐灰	明褐	良好	○	○			○					
	1144	D-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱa	－	－	－	ナデ	条痕, ナデ	沈線, 刺突	灰褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○					
	1145	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱa	28.0	－	(15.5)	ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刺突貝殻押引文	にぶい黄橙	灰黄褐	良好	○	○			△			△		
	1146	E-14	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱa	－	－	－	ナデ	ナデ	貝殻押引文凹線, 刺突	黒褐	にぶい黄橙	良好	○	○	△		○		△	△		
	1147	E-14	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱa	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突凹線	赤褐	黒褐	良好	○	○			○		△			補修孔
	1148	E-16	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱb	30.0	－	(14.3)	ナデ, ケズリ	丁寧なナデ	刻み, 刺突凹線	にぶい橙	橙	良好	◎	○			○			○		
	1149	D-12 E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱb	25.5	－	(18.2)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	凹線	褐灰	褐灰	良	○	○			○			○		
	1150	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	28.0	－	(9.1)	ナデ	ナデ	沈線, 刻み凹線	にぶい赤褐	褐灰	良好	○	○			○		△			
	1151	D-13 E-12	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱb	25.0	－	(15.8)	ナデ	ナデ	沈線	褐灰	黒褐	やや不良	○	○			○		△			
	1152	D-18	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線, 凹点短沈線, 押圧	にぶい赤褐	灰黄	普通	○	○			○					
	1153	E-15	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐	橙	良好	○	○			○			△		
2-38	1154	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線, 凹点	明褐	にぶい橙	普通	○	○		○	○					
	1155	D-17	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線	にぶい褐	にぶい褐	良好	◎	○			◎			△		
	1156	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線	灰褐	にぶい黄橙	やや不良	○	○			○					
	1157	D-19	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ケズリ, ナデ	ナデ	凹線	褐	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1158	E-15 E-16	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	凹線	橙	赤灰	良好	◎	◎					○	△		ススス
	1159	E-15	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	橙	灰黄褐	普通	○	○			○					補修孔
	1160	E･F-12･13 F-15	Ⅱ・Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	条痕, ナデ	沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	○			◎		◎			ススス
	1161	F-13 F-16	Ⅲa カクラン	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱb	23.0	－	(11.7)	ケズリ→ナデ	ナデ	沈線	暗赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○					
	1162	E-19	Ⅱc	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	明褐	明褐	やや不良	○	○			○					
	1163	E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	灰褐	灰褐	良好	○	○			○			○		
	1164	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	橙	橙	普通		○			○		○			
	1165	E-21	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	連点, 沈線	橙	橙	良	○	○			○		○	○		
	1166	E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	灰褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○					
	1167	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ, 条痕	ナデ, 条痕	刻み, 沈線	黄橙	褐灰	良好	○	○			○					
	1168	E-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	黒褐	良好	○	○			○					
2-39	1169	E-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突刻目突帯	黒褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1170	D-20 D-21	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線刻目突帯	褐	にぶい褐	やや不良	○	○			◎					
	1171	E-19	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線, 突帯沈線	にぶい赤褐	にぶい橙	良好	○	○			○		○			
	1172	E-14	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	－	－	－	ナデ	ナデ	凹点, 沈線, 突帯刺突, 凹線	灰黄褐	灰黄褐	良好	△	△			◎					

第2-6表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（３）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-39	1173	E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	−	−	−	ナデ	ナデ	凹点, 沈線, 刺突, 突帯, 凹線	灰褐	灰褐	良好	○	△			○					
	1174	E-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	−	−	−	ナデ	ナデ	凹点, 沈線突帯	黒褐	赤褐	良好	○	○			○		○			
	1175	E-19	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 刺突突帯	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○			○		○			把手
	1176	B-18	Ⅲ	深鉢	胴部	後期	Ⅱb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線刻目突帯	褐灰	橙	良好	○	○			○					
	1177	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱb	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 突帯	明赤褐	明赤褐	良好	○	◎			○		△			
	1178	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱc	16.2	−	(3.2)	ナデ	ナデ	刺突	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	△	△			△					
	1179	E-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅱc	−	−	−	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 突帯	黒褐	にぶい黄褐	良好	○	○			○			△		把手穿孔
	1180	E-15	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱc	−	−	−	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	△		△	△			△		
	1181	E-15	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱc	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線	明褐	黒褐	良好	○	○		○	○					穿孔
	1182	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅱc	−	−	−	ナデ	ナデ	刺突	橙	明褐	良好	○	○			○			○		
	1183	E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅱc	29.6	−	(8.3)	ナデ	ナデ	刺突	橙	褐灰	良好	○	○			○					
	1184	E-15	Ⅲa	浅鉢	□縁部	後期	Ⅱc	−	−	−	ナデ	ナデ	突帯	明赤褐	灰白	良好	◎	△			○					赤色顔料把手
	1185	E-26	Ⅲa	浅鉢	□縁部	後期	Ⅱc	−	−	−	ナデ	ナデ	突帯	橙	黒褐	良好	◎	△			○					
2-40	1186	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-1	49.8	−	(25.4)	条痕→ケズリ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい橙	にぶい赤褐	良	○	○			○					穿孔
	1187	D-13 E-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲa-1	29.5	9.8	25.0	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	橙	褐灰	良	○	○			○			○		網代痕
	1188	E-14	Ⅱ Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅲa-2	27.0	11.1	30.7	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	暗赤褐	にぶい赤褐	良	○	○			○					白色土
2-41	1189	E-12	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-2	33.0	−	(12.1)	ナデ	条痕→ナデ	沈線	赤褐	赤褐	良	○	○			○		○	○		
	1190	D-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-2	30.0	−	(31.6)	条痕, ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい橙	良	○	○			○			○		
2-42	1191	D-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-2	29.2	−	(27.1)	条痕→ナデ	条痕→ケズリ	沈線	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○					
	1192	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-2	26.0	−	(22.3)	ケズリ→ナデ	ナデ	沈線	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					
2-43	1193	D-12	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-2	18.1	−	(16.1)	条痕→ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刻み, 刺突沈線	明褐灰	灰褐	良	○	○			○					
	1194	D-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-2	28.0	−	(23.1)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					
	1195	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-2	27.0	−	(15.0)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	褐灰	褐灰	良	○	○			○					
	1196	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-2	−	−	−	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	褐灰	黒褐	良					○			○		
2-44	1197	D-12	Ⅱ	深鉢	□縁付近～底部	後期	Ⅲa-2	−	12.3	(40.1)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	灰褐	黒褐	良	○	○			○			○		網代痕
	1198	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲa-2	22.1	−	(15.1)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	暗赤褐	灰褐	良	○	○			○			○		
2-45	1199	E-14	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-1	23.6	−	(13.7)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	沈線	橙	褐灰	良	○	○			○			○		
	1200	E-14	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅲb-1	16.6	8.3	17.1	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	刺突, 沈線	にぶい赤褐	にぶい橙	良	○	○			○					鯨骨圧痕白色土
2-46	1201	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	35.0	−	(21.4)	条痕→ナデ	条痕	沈線	褐灰	褐灰	良	○	○			○			○		
	1202	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	30.0	−	(16.9)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい黄褐	灰黄褐	良	○	○			○			○		
	1203	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	29.8	−	(15.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	灰褐	暗灰黄	良	○	○			○					
	1204	E-19	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-2	32.7	10.0	35.3	条痕→ナデ	条痕→ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○		○	○		網代痕
2-47	1205	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲb-2	31.9	6.6	33.8	条痕→ナデ	条痕→ケズリ→ナデ	沈線	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○			○		網代痕
	1206	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	32.0	−	(23.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線 半竹管文	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○		○			
	1207	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	24.8	−	(20.1)	ケズリ→ナデ	条痕→ケズリ	沈線	橙	にぶい褐	良	○	○			○			○		
	1208	E-14	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	28.0	−	(18.2)	ケズリ→ナデ	条痕→ケズリ→ナデ	沈線	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○					
2-48	1209	E-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	28.8	−	(27.1)	条痕	条痕→ナデ	沈線	灰	灰	良	○	○			○					
	1210	D-19	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	27.9	−	(18.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○			○		
	1211	E-18	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	43.2	−	(39.8)	条痕→ナデ	条痕	沈線, 刺突刻み	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					
	1212	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	26.0	−	(23.4)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄橙	明褐	良	○	○			○			○		
	1213	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	26.6	−	(21.4)	ナデ	条痕→ケズリ	沈線	橙	橙	良	○	○			○					スス 試料No.28
2-49	1214	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	30.0	−	(27.0)	条痕→ケズリ	条痕→ナデ	沈線	暗赤褐	灰褐	良	○	○			○			○		試料No. KAMBAN-20
	1215	D-13	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	29.0	−	(22.3)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	橙	にぶい橙	良	○	○			○			◎		
	1216	D-13	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	26.2	−	(22.8)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	暗赤褐	暗赤褐	良		○			○			○		
	1217	D-12	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅲb-2	35.7	12.0	36.8	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線	にぶい赤褐	橙	良	○	○		○	○			◎		網代痕 白色土
	1218	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	33.0	−	(25.4)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい橙	褐灰	良	○	○			○					

第2-7表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（４）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-50	1219	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−2	25.0	−	(21.1)	ナデ, 指頭圧痕 条痕	条痕→ナデ	沈線	にぶい褐	褐灰	良	○	○			○					ススス
	1220	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−2	24.0	−	(16.7)	ケズリ→ナデ	ナデ, 条痕	沈線	褐灰	褐灰	良	○	○			○			◎		
	1221	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅲb−2	−	−	−	条痕	ケズリ→ナデ	沈線	褐灰	褐灰	良	○	○			○			○		補修孔
	1222	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅲb−2	−	−	−	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	灰褐	灰褐	良	○	○					○	○		
2-51	1223	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	26.0	−	(9.9)	ナデ	ナデ	沈線	橙	橙	良	○	○			○					補修孔 1224と同一
	1224	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	26.0	−	(20.4)	ナデ	ナデ	沈線	橙	褐灰	良	○	○			○					1223と同一
	1225	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	51.4	−	(35.1)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	褐灰	褐灰	良	○	○			○					
	1226	E-18	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	25.6	−	(12.7)	ケズリ	ケズリ→ナデ	沈線	橙	にぶい橙	良	◎	○			○		◎	◎		
2-52	1227	D-12 E-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲb−3	34.5	9.6	37.0	ナデ, 条痕	条痕	沈線	橙	橙	良好	◎	○			○					網代痕 白色土
	1228	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	27.0	−	(19.0)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突	黄灰	橙	良		○			○		◎	◎		
	1229	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	25.0	−	(14.8)	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	黒褐	にぶい黄橙	良	○	○			○			○		
	1230	E-18	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	16.8	−	(24.7)	条痕→ナデ	条痕, ナデ	沈線, 刻み	橙	にぶい橙	良	○	○			○					
	1231	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	13.2	−	(21.5)	ナデ	ナデ	沈線	にぶい赤褐	暗赤褐	良		○			○					白色土
2-53	1232	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	18.3	−	(18.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	黒褐	黒褐	良	○	○			○			○		
	1233	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線	にぶい橙	灰黄褐	良	○	○			○			○		
	1234	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	25.0	−	(21.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	浅黄	暗灰黄	良	○	○			○			○		
	1235	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	30.0	−	(19.0)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい褐	にぶい褐	良	○	○			○			○		
	1236	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−3	39.7	−	(33.3)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 条痕	沈線, 刺突	浅黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○			○		
2-54	1237	E-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲb−4	19.0	6.5	17.3	条痕	ケズリ, ナデ	沈線	灰黄褐	灰黄褐	良		○			○			○		網代痕
	1238	D-12	Ⅲ Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	34.6	−	(31.1)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	明黄褐	にぶい黄橙	良	○	○			○					
	1239	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	30.0	−	(22.5)	条痕, ナデ	条痕	沈線	灰黄褐	にぶい黄橙	良	○	○			○					試料No. KAMBAN-17
	1240	D-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	29.0	−	(19.6)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刻み	にぶい褐	橙	良	○	○			○			○		
	1241	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	21.8	−	(21.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突 刻み	橙	褐灰	良	○	○			○			○		
2-55	1242	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	38.0	−	(31.5)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	黒褐	褐灰	良	○	○			○			○		
	1243	E-18	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲb−4	26.0	10.9	24.7	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線, 刻み	にぶい褐	黒褐	良	○	○			○		○	○		網代痕 白色土
	1244	D-22	Ⅱ	深鉢	完形	後期	Ⅲb−4	31.7	9.0	26.2	条痕→ナデ	条痕, ナデ	沈線, 刺突 刻み	明赤褐	明赤褐	良	○	○			○		○	◎		
	1245	D-12	Ⅱ Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	27.5	−	(17.3)	ケズリ→ナデ	ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刻み	にぶい黄橙	黒	良	○	○						○		補修孔
2-56	1246	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	20.0	−	(7.4)	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	褐	灰褐	良	○	○			○			○		
	1247	E-17	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	25.0	−	(12.5)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○			◎		突起ねじれ
	1248	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	26.0	−	(11.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	灰褐	にぶい褐	良	○	○			○					穿孔
	1249	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−4	25.6	−	(13.5)	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい橙	明褐灰	良	○	○								
2-57	1250	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	(26.5)	−	(8.5)	ナデ	ナデ	沈線	黒褐	黒褐	良	○	○			○			○		
	1251	D-12	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅲb−5	16.6	6.6	14.0	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	褐	褐	良	○	○			○			○		
	1252	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	18.0	−	(15.0)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刻み, 沈線	褐	灰褐	良	○	○			○		○	○		
	1253	D-12	Ⅱ·Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	22.2	−	(13.3)	ケズリ→ナデ	条痕→ケズリ ナデ	沈線	黒褐	褐灰	良	○	○			○			○		
	1254	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	36.2	−	(27.0)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい褐	にぶい黄褐	良		○			○			◎		
	1255	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	33.6	−	(21.6)	ケズリ→ナデ	条痕→ケズリ	沈線	にぶい橙	にぶい褐	良	○	○			○					
	1256	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	24.3	−	(19.3)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	刻み, 沈線	灰白	にぶい黄褐	良	○	○			○			○		
	1257	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	27.9	−	(21.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突 刻み	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○					
2-58	1258	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	14.0	−	(10.1)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	暗褐	褐	良	○	○			○					
	1259	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	16.8	−	(13.0)	ナデ	ナデ	沈線	橙	橙	良	○	○			○					
	1260	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	16.3	−	(8.3)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刻み	褐	にぶい赤褐	良	○	○			○					
	1261	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	15.5	−	(8.0)	ナデ	ナデ	沈線	暗灰黄	黄灰	良	○	○			○					
	1262	D-12	Ⅲ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	26.6	−	(10.9)	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	にぶい橙	にぶい褐	良	○	○			○					
	1263	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	20.8	−	(6.8)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刻み, 沈線	にぶい橙	にぶい褐	良	○	○			○		○			
	1264	D-19 E-19	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb−5	−	−	−	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい黄橙	褐灰	良	○	○			○		○			

第2-8表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（５）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-58	1265	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	27.6	－	(21.0)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					
	1266	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	24.6	－	(18.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	灰黄褐	にぶい黄褐	良		○			○			◎		
	1267	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	29.1	－	(24.4)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ケズリ ナデ	沈線, 刻み	黒褐	灰褐	良	○	○			○			◎		
	1268	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	29.0	－	(17.8)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	褐灰	褐灰	良	○	○			○					
2-59	1269	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲb-6	24.6	7.6	21.0	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	黒褐	黒褐	良	○	○								
	1270	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-6	20.2	－	(20.3)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	灰黄褐	褐灰	良	○	○			○					
	1271	C-16	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-6	14.6	7.4	15.0	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刻み, 沈線 刺突	橙	橙	良	○	○			○			◎		
	1272	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-6	－	－	－	条痕→ナデ	ナデ	沈線 竹管文	灰褐	灰褐	良	○	○			○					
	1273	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅲb-6	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	擬縄文, 沈線 竹管文	にぶい黄橙	灰褐	良	○	○			○					
	1274	D-13 E-12	Ⅲ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-6	15.8	－	(6.2)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線 擬縄文	褐灰	橙	良	○	○			○			○		
	1275	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	26.2	－	(20.1)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	沈線	褐灰	にぶい黄褐	良	○	○			○			○		
	1276	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	35.4	－	(23.3)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○			○		
2-60	1277	D-19	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	30.0	－	(22.0)	条痕→ナデ	条痕	沈線, 刻み	黄灰	にぶい黄	良	○	○			○					
	1278	E-12	Ⅱ Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	49.6	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線	橙	褐灰	良	○	○			○		○	○		
	1279	D-11 E-11	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	27.5	－	(26.2)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	沈線	灰黄褐	灰黄褐	良	○	○			○					
	1280	E-16	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-7	32.5	8.8	30.9	条痕	条痕→ナデ	沈線	にぶい黄橙	にぶい黄褐	良	○	○			○			◎		網代痕→条痕, 穿孔
2-61	1281	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	20.8	－	(16.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	黒褐	灰黄褐	良	○	○			○					穿孔2か所
	1282	D-12 F-13	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	13.0	－	(6.6)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい黄橙	褐灰	良	○	○						○		
	1283	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	27.0	－	(20.7)	条痕	条痕, ケズリ→ナデ	沈線	褐	明褐	良	○	○			○			◎		網代痕
	1284	E-13 E-14	Ⅱ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-7	12.5	6.0	16.5	ナデ	ナデ	沈線	にぶい橙	にぶい褐	良	○	○			○			○		網代痕
	1285	D-12	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅲb-7	19.8	10.2	23.3	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突 刻み	にぶい橙	にぶい褐	良	○	○			○			◎		網代痕
2-62	1286	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲc	30.8	10.7	30.0	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	橙	にぶい褐	良	○	○			○					
	1287	E-18	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲc	23.0	9.6	21.9	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	橙	にぶい橙	良	○	○			○					
	1288	E-14	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲc	16.0	－	(15.3)	条痕→ケズリ	条痕→ケズリ ナデ	刺突	明赤褐	明赤褐	良	○	○			○			◎		
	1289	E-16	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅲc	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	凹点	灰黄褐	灰黄褐	良	○	○			○					
	1290	E-13 E-14	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲc	23.0	－	(19.6)	条痕→ケズリ	条痕→ケズリ ナデ	沈線	にぶい橙	灰黄褐	良	○	○			○			○		
	1291	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲc	12.5	6.2	12.0	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	刻み, 刺突	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	○	○			○					
	1292	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲc	35.0	－	(24.6)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	灰黄	黄灰	良		○			○					
2-63	1293	D-27	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	13.2	－	(11.4)	ナデ, 条痕	ナデ	－	橙	にぶい赤褐	良	○	○			○					
	1294	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	11.6	7.7	12.6	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	○	○			○					
	1295	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	17.0	7.9	15.4	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	－	灰褐	にぶい橙	良	○	○			○					網代痕 ススス
	1296	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	27.4	21.7	21.6	ケズリ	ケズリ→ナデ	－	浅黄橙	にぶい橙	良	○	○			○			◎		網代痕
	1297	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	11.2	5.6	13.6	ナデ	ナデ	－	明褐	橙	良	○	○			○		○	○		網代痕
	1298	E-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	10.9	6.3	16.1	条痕→ナデ	ナデ	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○	○		○	○				ススス 網代痕
	1299	D-12	Ⅲ Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅲd	13.0	7.0	13.4	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	－	にぶい橙	黒	良	○	○			○			○		白色土
	1300	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	29.8	－	(19.9)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	－	灰褐	にぶい褐	良	○	○			○			○		ススス
	1301	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	27.0	9.0	24.8	ナデ	条痕→ナデ	－	灰黄	褐灰	良		○			○					補修孔, 白色土, 網代痕
2-64	1302	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	17.6	7.5	17.8	条痕	条痕, ナデ	－	褐灰	黒褐	良	○	○			○			○		
	1303	E-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	21.8	9.5	22.9	条痕	条痕, ナデ	－	にぶい橙	にぶい黄橙	良	○	○			○		○			ススス 網代痕
	1304	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	13.2	9.6	10.4	ナデ	条痕→ナデ	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	○	○			○					網代痕
	1305	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	13.6	7.6	14.4	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ナデ	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					堅果類圧痕 ススス
	1306	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	15.6	8.0	16.9	条痕→ケズリ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	－	橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					ススス
	1307	B-16	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	25.7	6.0	23.4	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	－	橙	明赤褐	良	○	○			○					
	1308	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	27.5	12.2	26.0	条痕→ナデ	条痕→ナデ	－	明赤褐	灰褐	良	○				○					網代痕 ススス
	1309	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	13.0	－	(10.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	－	橙	にぶい橙	良	○	○			○			○		
2-65	1310	D-12	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	15.5	6.2	13.6	ナデ	ケズリ→ナデ	－	にぶい赤褐	橙	良	○	○			○			○		もじり痕 網代痕

第2-9表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（６）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-65	1311	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	14.8	7.5	14.0	ナデ	ナデ	－	にぶい黄橙	褐灰	良	○	○			○			○		
	1312	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	20.0	－	(17.5)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	にぶい褐	にぶい橙	良	○	○			○			○		堅果類圧痕ス入
	1313	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	(28.2)	－	(18.0)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刻み	にぶい褐	明褐	良	○	○			○		○			穿孔
	1314	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	18.8	8.0	21.7	ケズリ→ナデ	ナデ	－	にぶい褐	にぶい黄橙	良	○	○			○					
	1315	E-17	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	21.6	9.0	20.1	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	－	明赤褐	にぶい赤褐	良	○	○			○					白色土
	1316	D-12	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	29.4	－	(28.2)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	－	にぶい橙	明褐灰	良	○	○			○					ス入
	1317	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	31.8	－	(33.5)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	－	にぶい黄橙	灰黄褐	良	○	○			○					突起ねじれ
2-66	1318	E-12	Ⅲb	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-1	17.4	－	(11.8)	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○			○		
	1319	D-12	Ⅲa Ⅲb	鉢	完形	後期	Ⅲe-1	－	9.0	14.8	ナデ	条痕→ナデ	沈線	灰黄	浅黄	良	○	○			○			○		
	1320	E-13	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-1	20.6	－	(9.5)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	灰黄褐	灰黄	良	○	○			○					ひねり紐突起
	1321	E-12	Ⅱ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	15.0	－	(10.7)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	灰黄	灰黄	良	○	○			○					
	1322	D-12 E-12	Ⅲb	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	24.2	－	(11.0)	条痕→ナデ	条痕	沈線, 刺突	橙	橙	良	○	○			○			○		
	1323	D-12 D-14	Ⅲ Ⅲb	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	23.4	－	(17.4)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ 条痕→ケズリ	刻み, 刺突 沈線	にぶい褐	灰黄褐	良	○	○			○			◎		
	1324	D-12	Ⅲb	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	－	－	－	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄橙	灰黄褐	良	○	○			○			○		穿孔
	1325	E-19	Ⅲ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	14.2	－	(7.1)	条痕	ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい橙	良	○	○			○		○			
	1326	D-12	Ⅲ Ⅲa	鉢	胴部	後期	Ⅲe-2	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	にぶい褐	灰褐	良	○	○			○					
	1327	E-14	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-2	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					
	1328	D-19 D-20	Ⅲ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	21.0	－	(7.1)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	橙	赤褐	良	○	○			○		○	○		
2-67	1329	D-13	Ⅲ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	22.0	－	(9.2)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	橙	橙	良	○	○			○			◎		
	1330	D-13 E-13	Ⅲ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	15.8	－	(7.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	沈線	黒褐	黒褐	良	○	○			○					
	1331	D-12	Ⅲa	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	21.2	－	(11.2)	ナデ	ナデ	沈線, 刻み 刺突	黒褐	黒褐	良	○	○			○					
	1332	D-12	Ⅲa	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	19.6	－	(7.4)	ナデ	ナデ	沈線	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○			○		
	1333	D-13	Ⅲ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	17.8	－	(10.6)	ナデ, 指頭圧痕	条痕→ナデ	沈線	黒褐	褐	良	○	○			○					
	1334	D-11	Ⅲb	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	20.0	－	(13.9)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい黄	黄灰	良	○	○			○					
	1335	D-13	Ⅲ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	16.0	－	(6.0)	ナデ, 指頭圧痕	条痕→ナデ	沈線	明赤褐	にぶい赤褐	良	○	○			○					
	1336	D-12	Ⅲb	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-2	18.8	－	(6.3)	ナデ	ナデ	刻み, 沈線	灰褐	褐	良	○	○			○			○		
	1337	D-12	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-2	－	－	－	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	灰白	灰白	良	○	○			○			○		穿孔
	1338	D-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-2	－	－	－	条痕→ケズリ	指頭圧痕, 条痕	沈線, 刺突	褐灰	褐灰	良	○	○			○					
2-68	1339	D-12 E-12	Ⅱ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-3	17.9	－	(15.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突	にぶい橙	灰褐	良	○	○			○			◎		
	1340	F-13	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-3	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線 擬縄文	にぶい褐	にぶい赤褐	良	○	○			○					
	1341	D-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-3	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	褐灰	褐灰	良	○	○			○					穿孔
	1342	D-13 E-13	Ⅲ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-3	16.8	－	(9.4)	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	にぶい褐	橙	良	○	○			○					
	1343	D-12	Ⅱ	鉢	□～胴部	後期	Ⅲe-4	25.4	－	(14.4)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	浅黄橙	浅黄橙	良好	○	○	○		○	○				穿孔
	1344	E-13	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい褐	にぶい褐	良	○	○			○			○		ス入 試料No.29
	1345	D-20	Ⅲ	鉢	胴部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい黄橙	橙	良好	○	○			○		○	○		
	1346	E-11	Ⅲb	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	○	○	○		○					赤色顔料
2-69	1347	D-12	Ⅲb	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	○	○			○					
	1348	D-19	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○		○			穿孔
	1349	E-12	Ⅲb	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線	にぶい赤橙	にぶい赤橙	良	○	○			○			○		穿孔
	1350	E-14	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	浅黄	明褐灰	良	○	○			○					
	1351	F-13	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○			○		
	1352	D-12	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	沈線	橙	にぶい褐	良	○	○			○			○		赤色顔料穿孔
	1353	C-12	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ, 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	沈線	橙	にぶい橙	良	○	○			○					
	1354	D-12	Ⅱ	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい橙	灰褐	良	○	○			○			○		赤色顔料穿孔
	1355	D-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	にぶい赤褐	良	○	○			○			○		
	1356	E-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅲe-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線	赤灰	赤灰	良	○	○			○			○		穿孔

第2-10表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（７）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-69	1357	D-12	Ⅲb	鉢	口縁部	後期	Ⅲe−4	−	−	−	ナデ, 指頭圧痕	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線	浅黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○			○		
2-70	1358	E-12	Ⅲb	台付皿	脚部	後期	Ⅲf	−	−	−	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	突帯, 凹点	にぶい橙	にぶい黄橙	やや不良	○	○			○					
	1359	D-13	Ⅱ	台付皿	皿〜脚部	後期	Ⅲf	−	脚6.0	−	ナデ	ナデ	沈線	にぶい橙	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1360	E-17	Ⅲ	台付皿	脚台	後期	Ⅲf	−	10.6	(6.2)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	沈線	浅黄橙	橙	普通	○	○			○					
	1361	D-12	Ⅲa	台付皿	脚台	後期	Ⅲf	−	11.0	(5.7)	ナデ	指頭圧痕, ナデ	突帯	浅黄橙	にぶい橙	良好	○	○			○			○		
	1362	D-13	Ⅲa	台付皿	脚台	後期	Ⅲf	−	9.4	(7.0)	ナデ, ケズリ	ナデ	−	橙	にぶい橙	良好	○	○			○			○		
	1363	E-13	Ⅲ	台付皿	脚台	後期	Ⅲf	−	10.2	(2.6)	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい橙	にぶい褐	普通	○	○			◎					穿孔
	1364	E-14	Ⅱ	台付皿	脚台	後期	Ⅲf	−	9.6	(1.7)	指頭圧痕, ナデ	ケズリ, ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○			○					赤色顔料穿孔
	1365	D-13	Ⅲa	台付皿	脚部	後期	Ⅲf	−	10.0	(4.4)	指頭圧痕, ナデ	ナデ	−	灰黄褐	にぶい橙	普通	○	○			○		△			穿孔
	1366	D-18 E-17	Ⅲ	器台	盤	後期	Ⅲf	14.2	−	(3.6)	ナデ→ミガキ 指頭圧痕	ナデ→ミガキ 指頭圧痕	凹線	橙	橙	良好	○	○		○	○					赤色顔料穿孔
	1367	C-28	Ⅱ・Ⅲ	脚台	底部	後期	Ⅲf	12.8	11.1	(4.0)	丁寧なナデ	丁寧なナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突	橙	橙	良好	○	○	○		○					赤色顔料穿孔
	1368	F-13	Ⅲa	小型土器	口〜胴部	後期	Ⅲf	−	−	−	ナデ, 指頭圧痕	指頭圧痕	刺突	にぶい黄橙	にぶい黄橙	不良		○			○					
	1369	D-27	Ⅲ	小型土器	完形	後期	Ⅲf	−	6.4	5.8	ナデ	ナデ	−	褐灰	橙	やや不良		○			○		○	○		
	1370	E-13	Ⅲ	小型土器	完形	後期	Ⅲf	10.0	5.4	7.6	指頭圧痕, ナデ	ナデ, 指頭圧痕	沈線	灰黄褐	にぶい黄橙	やや不良	△	○			○		○			
	1371	D-13	Ⅲ	小型土器	口縁部	後期	Ⅲf	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					
	1372	E-18	Ⅲ	小型土器	口縁部	後期	Ⅲf	−	−	−	ナデ	条痕, ナデ	線刻	灰黄褐	黒褐	良	○	○			○					
	1373	D-14	Ⅲ	小型土器	頸〜胴部	後期	Ⅲf	−	−	−	ナデ	指頭圧痕, ナデ	−	灰褐	褐灰	良	○	○						○		
	1374	D-12	Ⅲa	深鉢	突起部	後期	Ⅲf	5.4	−	(3.8)	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○				◎			△	
2-71	1375	F-13	Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳa	26.6	−	(13.6)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい橙	にぶい褐	良	○	○			○			○		
	1376	E-14 F-16	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅳa	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線	明赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○		○			
	1377	F-15	カクラン	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳa	−	−	−	ケズリ→ナデ	ナデ	刻み, 沈線	にぶい褐	にぶい橙	良好	○	○			○			○		
	1378	E-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅳa	−	−	−	ナデ	ナデ	沈線	にぶい褐	灰褐	普通	○	○			○					
	1379	E-15	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅳa	−	−	−	ナデ	ケズリ	沈線	にぶい橙	にぶい橙	普通	○	○		○	○		○			
	1380	E-15	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅳb−1	−	−	−	ナデ	条痕→ナデ	沈線	灰黄褐	灰黄褐	普通	○	○			○					
	1381	F-12 F-13	Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−1	23.6	−	(22.2)	ナデ	条痕	刻み	黒褐	灰褐	良好	○	○			○			○		
	1382	E-12	Ⅲb	深鉢	口縁部	後期	Ⅳb−1	−	−	−	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刻み	黄灰	黄灰	良好	○	○			○					
	1383	E-12	Ⅱ	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−1	26.5	−	(18.7)	ケズリ, ナデ	条痕→ナデ	沈線	灰褐	褐灰	良好	○	△			○			△		
2-72	1384	E-12	Ⅲ	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−1	35.4	−	(19.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刻み, 刺突	にぶい赤褐	にぶい橙	良好	○	○			○					
	1385	E-19	Ⅱc Ⅲ	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−1	38.4	−	(21.2)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕	刻み, 沈線	にぶい赤褐	橙	良好	○	○		○	○			○		
2-73	1386	F-13	Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−2	38.0	−	(23.1)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ナデ	沈線	黒褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1387	E-13	Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−2	27.0	−	(16.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	灰褐	にぶい褐	良好	○	○			○			○		
	1388	F-13	Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−2	15.7	−	(10.2)	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	にぶい橙	にぶい橙	普通	○	○			○					
	1389	E, F-12, 13 F-15	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅳb−2	36.0	−	(7.6)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	褐	にぶい黄橙	良好		○		○	○					
	1390	E-13	Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−2	25.0	−	(13.2)	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	橙	にぶい橙	良好	○	○			○					
	1391	E-13 E-14	Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−2	17.6	−	(11.6)	ナデ, ケズリ	条痕→ナデ	沈線, 刻み	にぶい黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1392	F-13	Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−2	27.0	−	(20.6)	ケズリ→ナデ	ナデ	沈線, 刻み	褐	暗褐	良好	○	○			○		○			
	1393	E-15 F-15	Ⅲa カクラン	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−2	22.4	−	(15.4)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい褐	にぶい褐	普通	○	○			○		○			
	1394	−	−	深鉢	口縁部	後期	Ⅳb−2	−	−	−	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突, 刻み	褐	橙	良好	○	○			○					
2-74	1395	E-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅳb−3	29.4	−	(5.7)	条痕→ナデ	条痕	刺突, 沈線	灰褐	にぶい褐	良好	○	○			○		○	△		
	1396	E-13	Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−3	27.0	−	(24.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 条痕	沈線, 刺突	橙	橙	良好	○	○			○			△		
	1397	F-13 E-13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−3	25.7	−	(16.3)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	褐灰	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1398	D-13	Ⅲ	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−3	23.0	−	(13.0)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐	暗褐	普通	○	○		○	○					
	1399	D-13	Ⅲ	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−3	22.6	−	(15.9)	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	にぶい褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1400	F-13	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅳb−3	15.8	8.8	6.2	条痕, ケズリ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	にぶい褐	灰黄褐	良好	○	○			○					もじり痕
	1401	E-13	Ⅱ	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−3	19.2	−	(10.2)	条痕→ナデ	条痕	刺突, 沈線	明褐	黒褐	良好		○			○		○			
	1402	F-13	Ⅱ・Ⅲ Ⅲa	深鉢	口〜胴部	後期	Ⅳb−3	28.5	−	(25.7)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	にぶい褐	灰褐	良好	○	○			○					

第2-11表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（８）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-74	1403	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-3	－	－	－	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突, 沈線	にぶい赤褐	灰褐	良好	○	○			○					ススト穿孔
2-75	1404	F-15	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-3	41.2	－	(15.2)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突 竹管, 刻み	明赤褐	橙	良好	◎									
	1405	E-13	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅳb-3	20.2	8.2	22.2	条痕→ナデ ケズリ	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい橙	褐灰	良好	○	○			○					もじり痕
	1406	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-3	18.8	－	(17.9)	条痕→ナデ	条痕, ケズリ→ ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	褐灰	普通	○	○			○			◎		
	1407	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-3	37.4	－	(26.6)	条痕→ナデ	条痕	沈線, 刺突	にぶい橙	にぶい橙	良好	○				○		○			
2-76	1408	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	34.0	－	(24.4)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄褐	黄灰	良好	○	○			○		△	△		
	1409	F-15 F-16	Ⅲa カクラン	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-4	25.3	－	(9.6)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	明赤褐	良好	△	○			○		○			
	1410	E-13	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	19.2	－	(11.7)	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	黒褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1411	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	32.4	－	(12.4)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	黒褐	にぶい黄褐	良好	○	○								
	1412	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-4	28.4	－	(7.8)	条痕→ナデ	ナデ	沈線, 刺突	灰褐	にぶい褐	良好	○	○			○			△		
	1413	F-15	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-4	－	－	－	条痕→ケズリ→ ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	橙	明赤褐	良好	○		○							
	1414	E-14	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	36.0	－	(13.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	褐	褐	良好	○	○			○					
2-77	1415	E·F- 10～13	Ⅱ·Ⅲ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	32.2	－	(35.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○			◎		
	1416	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	32.0	－	(20.2)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	赤	にぶい黄橙	普通	○	○			○					
	1417	E-13 E-14	Ⅲa カクラン	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	21.0	－	(16.8)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	灰褐	にぶい褐	良好	○	○			△					
	1418	E-13	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	27.2	－	(19.6)	ケズリ→ナデ	条痕, ケズリ→ ナデ	沈線, 刺突	にぶい褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1419	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-4	－	－	－	条痕→ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい褐	灰褐	普通	○	○			○					
	1420	F-15	Ⅱ Ⅱa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	25.3	－	(13.3)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	にぶい褐	普通	○	○			○		○	○		
2-78	1421	F-13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	－	－	－	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ, ケズリ →ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刺突	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○		◎	○		
	1422	F-15	Ⅲa カクラン	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	赤褐	明赤褐	良好	◎	△								
	1423	D-14	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	20.6	－	(18.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	灰褐	良好	○	○		○	○			◎		
	1424	E-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	明赤褐	良好	◎									
	1425	F-15	Ⅱ·Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	32.0	－	(23.7)	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ	沈線, 刺突	橙	橙	良好	◎	△								
	1426	F-13 F-15	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-4	29.6	－	(8.8)	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	にぶい褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1427	E-14 F-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-4	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 竹管	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○		○			
2-79	1428	E·F-13 注記なし	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-4	26.8	－	(22.1)	ケズリ→ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	にぶい褐	良好	○	○			○					ススト
2-80	1429	E·F- 12·13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-5	21.0	－	(16.9)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1430	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-5	23.0	－	(19.8)	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	褐灰	黒褐	良好	△	△						◎		
	1431	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-5	38.2	－	(25.4)	ケズリ→ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい黄橙	黄灰	普通	○	○			○			○		
	1432	F-15	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-5	－	－	－	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刺突	にぶい赤褐	にぶい橙	普通	○	○			○					
	1433	E-13 E-14	Ⅲ Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-5	13.2	－	(7.2)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1434	E-14 E-16	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳb-5	36.8	－	(21.6)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突, 沈線	黒褐	灰褐	普通	○	○			○					補修孔
2-81	1435	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-5	－	－	－	ケズリ→ナデ	指頭圧痕, ナデ	沈線, 刺突	褐灰	にぶい黄褐	良好	○	○		○	○					
	1436	D-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-5	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 沈線 刻み	褐灰	灰黄褐	良好	○	○			○			△		
	1437	E-15	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-5	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	にぶい黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○					○	◎		
	1438	F-12 F-13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅳb-5	－	－	－	ケズリ→ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい褐	褐灰	良	○	○					△	◎		
	1439	D-13	Ⅲa	台付皿	□縁部	後期	Ⅳb-5	－	－	－	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄橙	灰黄褐	良好	○	○			○			○		
	1440	E-12	Ⅲb	台付皿	□縁部	後期	Ⅳb-5	－	－	－	ケズリ→ナデ	ナデ	沈線, 突帯	にぶい褐	明褐	良好	○	○			○					赤色顔料穿孔
	1441	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳc	－	－	－	ケズリ, ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○					
	1442	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅳc	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	灰褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1443	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅳc	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	にぶい褐	灰黄褐	良好	○	○		○	○					
	1444	F-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳc	26.4	－	(19.1)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	灰褐	にぶい橙	良好	○	○			○			◎		
	1445	E-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅳc	－	－	－	条痕→ナデ	ナデ	回転押圧 沈線	黒褐	黒	普通	△				△					ヘナタリ
	1446	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳd	－	－	－	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	－	橙	にぶい黄橙	普通	○	○			○		○	◎		
	1447	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳd	20.0	－	(15.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	－	橙	褐灰	良好	○	○			○					
	1448	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳd	17.8	－	(17.8)	ナデ	ナデ	刻み	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○			○			○		

第2-12表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（９）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-82	1449	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳd	20.3	－	(14.5)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	－	橙	橙	良好	○	○			○					
	1450	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳd	21.6	－	(21.3)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	－	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	○	○			○					
	1451	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳd	21.4	－	(17.2)	ケズリ→ナデ	ケズリ条痕→ナデ	－	灰黄褐	灰黄褐	良好	○		○					○		ススト試料No, 33
	1452	D-12 E-12	Ⅱ Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅳd	－	－	－	ケズリ→ナデ	ケズリ, ナデ	－	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○			○			○		
	1453	D-13	Ⅲ	鉢	□～胴部	後期	Ⅳd	19.0	－	(17.3)	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○					貼付突起
	1454	E-13	Ⅲ	鉢	□～胴部	後期	Ⅳe	17.6	－	(7.4)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	にぶい褐	普通	○	○			○			○		
	1455	E-13	Ⅲ	台付鉢	完形	後期	Ⅳe	15.5	5.8	12.4	ケズリ→ナデ	ナデ	刺突, 沈線	褐	褐	良好	△	△								
	1456	E-18	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅳe	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	明赤褐	にぶい赤褐	良	○	○					○			
	1457	E-11	Ⅲb	台付皿	□～底部	後期	Ⅳe	14.5	－	(5.6)	ナデ	－	沈線	灰黄褐	灰黄褐	普通	○	○			○					
2-83	1458	E-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Va-1	－	－	－	条痕→ナデ	条痕	刺突	にぶい橙	橙	良好	○				○					補修孔
	1459	E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-1	11.0	－	(4.2)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1460	E·F-12·13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-1	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○					△	○		
	1461	E-13	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Va-1	12.7	8.4	12.0	条痕→ナデ ケズリ	条痕	刺突	褐	オリーブ黒	良好	○	○			○		○			白色土
	1462	E-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Va-1	－	－	－	ナデ	条痕	刺突	黒褐	褐灰	良好	○	○					○			堅果類圧痕
	1463	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-1	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1464	F-15	Ⅱ·Ⅲ Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-1	15.0	－	(5.6)	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	灰褐	にぶい褐	良好		○			○			○		
	1465	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-1	－	－	－	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	刺突	黒褐	にぶい赤褐	良好	○	○		○						補修孔
	1466	E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-1	－	－	－	指頭圧痕, 条痕	条痕, ナデ	刺突	にぶい赤褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1467	E-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-2	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい黄褐	褐灰	良好	○	○			○					
	1468	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Va-2	25.4	－	(15.4)	ナデ	ナデ	刺突	褐灰	にぶい黄褐	やや不良	○	○		○	○					穿孔
	1469	E-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Va-2	17.3	9.5	16.3	条痕→ナデ	条痕, ナデ	刺突	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○		○	○					網代痕
	1470	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-2	23.4	－	(23.0)	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	暗赤褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○			○		
2-84	1471	E-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-2	22.2	－	(6.4)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					
	1472	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-2	22.0	－	(18.2)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○		○	○		
	1473	E-13 E-14	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Va-2	28.2	－	(9.3)	ナデ	ナデ	刺突	灰褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1474	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-2	20.8	－	(8.9)	ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい褐	にぶい褐	良好	○	○			○			○		
	1475	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-2	23.7	－	(21.0)	ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい黄褐	灰黄褐	良好	○	○		○	○		△	○		
	1476	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-2	22.8	－	(11.0)	条痕→ナデ	ナデ, 条痕 指頭圧痕	刺突	暗褐	にぶい橙	良好						○		○	○	
	1477	E·F-12·13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Va-2	23.6	－	(14.5)	ケズリ→ナデ	条痕	刺突	黒褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1478	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Va-3	16.0	－	(6.1)	ナデ	ナデ	刺突	明赤褐	褐灰	良好	○	○			○					ススト
	1479	F-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	16.6	－	(15.7)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい橙	灰黄褐	良好	○	○			△			◎		
	1480	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Va-3	17.9	(6.2)	－	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰黄褐	褐	普通	○	○			○			○		
	1481	E-13 E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-3	13.6	－	(5.1)	ナデ	条痕→ナデ	刺突	橙	褐灰	やや不良	○	○								赤色顔料粗子圧痕
	1482	F-12	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-3	17.4	－	(8.1)	条痕, ナデ	条痕, ナデ	刺突	灰褐	灰褐	－		○								ススト
	1483	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	20.0	－	(15.8)	条痕→ナデ	指頭圧痕 条痕→ナデ	刺突	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	△		△						△	
2-85	1484	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	27.1	－	(14.6)	ナデ	ナデ	刺突	褐灰	褐灰	普通	○	○			◎					
	1485	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	28.0	－	(15.6)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい黄橙	明黄褐	良好	○		○			○		○		
	1486	E-14	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	26.2	－	(16.2)	条痕, ナデ	条痕, ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○					
	1487	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	27.0	－	(22.8)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	褐灰	にぶい赤褐	普通	○	○			○					
	1488	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	37.6	－	(14.7)	ナデ	ナデ	刺突	黒褐	褐	良好	○	○			○					
	1489	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	24.2	－	(18.7)	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	刺突	にぶい黄橙	にぶい黄褐	良好	○	○			○					
	1490	E-13	Ⅱ Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Va-3	32.0	－	(5.9)	ナデ	条痕→ナデ	刺突	褐灰	にぶい褐	良好	○	○			○			△		
	1491	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	○	○								
2-86	1492	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	暗赤褐	灰褐	良好	○	◎			○					
	1493	E·F-12·13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-3	－	－	－	ナデ	ナデ	貝殻押引	灰褐	灰褐	普通	○	○			○					
	1494	E-18 F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-3	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突	黒褐	明赤褐	良好			○		○					

第2-13表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（10）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-86	1495	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-3	22.4	－	(19.2)	ケズリ→条痕 ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突	暗褐	にぶい褐	良好	○	○			○			○		
	1496	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-4	17.0	－	(15.1)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	暗赤褐	暗赤褐	普通	○	○	○							ススス
	1497	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-4	26.5	－	(17.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	褐灰	にぶい黄橙	良好	○				○			△		
	1498	E･F-12･13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Va-4	28.6	－	(14.3)	ナデ	ナデ	刺突	灰褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○					
	1499	E･F-12･13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-4	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	明赤褐	褐灰	良好	○	○			○					
	1500	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Va-4	27.8	－	(27.5)	条痕→ナデ	条痕，ナデ	刺突	灰黄褐	にぶい黄褐	良好	○		○			○				
	1501	D-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Va-4	－	－	－	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい黄橙	にぶい橙	普通	○	○			○					
	1502	D-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Va-4	－	－	－	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 条痕	刺突	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	○	○		○	○			◎		
2-87	1503	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Vb-1	－	－	－	丁寧なナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい褐	普通	○	○			○					
	1504	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-1	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	黒褐	褐灰	不良	○	○			○		△	△		
	1505	E-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Vb-1	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	灰黄褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1506	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Vb-1	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	灰褐	にぶい橙	良好	○	○			○					
	1507	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Vb-1	－	－	－	ナデ，指頭圧痕	ナデ	刺突	灰褐	にぶい橙	普通	○	○			○					
	1508	D-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Vb-1	13.2	－	(4.7)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい橙	灰褐	普通	○	○			○					
	1509	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Vb-1	－	－	－	ケズリ→ナデ	ナデ	凹線，刺突	にぶい褐	にぶい褐	普通	○	○		○	○					
	1510	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Vb-2	23.0	－	(15.8)	ナデ，指頭圧痕	ナデ	刺突	にぶい黄褐	灰黄褐	やや不良	○	○			○					
	1511	E-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Vb-2	－	－	－	ケズリ→ナデ 条痕，指頭圧痕	条痕，ケズリ ナデ	刺突	黒褐	黒褐	良好	○	◎			◎					
	1512	D-23	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Vb-2	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	半裁竹管	灰褐	明褐	良好	○	○								
	1513	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Vb-2	18.6	－	(15.8)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	黒褐	暗褐	良好	○	○								堅果類圧痕
	1514	E-14	Ⅱ Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-2	23.2	－	(14.1)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ	刺突	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○			△		
	1515	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Vb-2	20.4	－	(9.8)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	○	○	◎					○		
	1516	E･F-12･13	Ⅱ Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Vb-2	－	－	－	ナデ	ナデ	竹管	にぶい橙	にぶい橙	普通	○		○				○			
	1517	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-2	15.4	－	(14.2)	ナデ	条痕	刺突	黒褐	黒褐	普通	○	○								
	1518	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Vb-2	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい橙	にぶい橙	普通	○	○			○					
2-88	1519	D-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Vb-3	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰褐	にぶい赤褐	普通	◎	○		○				○		
	1520	D-17 E-17	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Vb-3	27.3	－	(6.6)	ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい褐	にぶい褐	良好	○		○			○				
	1521	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-3	33.5	－	(14.8)	ナデ	ナデ	刺突	黒褐	灰褐	良好	○		◎				○			
	1522	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-3	23.0	－	(15.6)	ナデ，指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい褐	橙	普通	○		◎							赤色顔料
	1523	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-3	22.8	－	(23.7)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕，ナデ 指頭圧痕	刺突	暗灰黄	暗灰黄	良好	○	○	○		○					ススス，試料No.KAMBN-13C
	1524	D-13	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-3	18.0	－	(11.5)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	にぶい黄褐	暗オリーブ褐	良好	○		◎				○			
	1525	F-15	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Vb-3	－	－	－	条痕→ナデ	ナデ	刺突	褐	にぶい褐	普通	○	○			○					
	1526	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	26.0	－	(28.2)	ケズリ→ナデ	指頭圧痕 ケズリ→ナデ	刺突，沈線	にぶい橙	褐灰	良好	○	○			○			○		
	1527	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	22.0	－	(17.6)	ナデ	指頭圧痕，ナデ	刺突	暗赤褐	灰褐	やや不良	○	○			○					
2-89	1528	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	－	－	－	条痕→ナデ ケズリ，指頭圧痕	ナデ，指頭圧痕	刺突	にぶい橙	にぶい橙	普通	○	○			○		○			堅果類圧痕
	1529	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	17.6	－	(16.4)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線	明赤褐	暗赤褐	普通	○	○								
	1530	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	20.8	－	(19.1)	指頭圧痕 ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい橙	良好	○		○							
	1531	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	21.6	－	(14.4)	ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰褐	暗赤褐	良好		○	◎		○					
	1532	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	23.6	－	(23.8)	ナデ，指頭圧痕	条痕，ナデ 指頭圧痕	刺突	暗灰黄	にぶい黄橙	普通			◎					◎		ススス
	1533	E-12 F-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Vb-4	－	－	－	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい褐	にぶい黄褐	良好										
	1534	E-12	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Vb-4	－	－	－	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突	灰黄褐	にぶい褐	普通	○	◎			○					
	1535	E-11	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	－	－	－	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	黒褐	暗赤褐	良好	○	○			○					
2-90	1536	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	21.3	－	(18.6)	ケズリ，ナデ 指頭圧痕	指頭圧痕 ケズリ→ナデ	刺突	灰褐	灰褐	良好	○	○			○					
	1537	D-14	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	20.6	－	(8.9)	ナデ	ナデ	半裁竹管	黄橙	黄橙	やや不良		○			○					
	1538	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	20.2	－	(20.2)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい黄橙	灰黄褐	良好	○					△		○		
	1539	E-12	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Vb-4	－	－	－	ケズリ→ナデ	条痕，→ナデ，ケズリ→ナデ，指頭圧痕	刺突	灰黄褐	にぶい橙	普通	○	○			○					穿孔ススス
	1540	D-13	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	－	－	－	ナデ，指頭圧痕	ナデ	竹管	黒褐	灰褐	良好		○			○					

第2-14表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(11)

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-90	1541	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴb-4	26.8	－	(24.6)	条痕→ケズリ ナデ, 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい橙	にぶい橙	良好	○		○							ススス
	1542	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴb-4	31.6	－	(27.3)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線	橙	橙	普通	○		○					○		ススス
	1543	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴb-4	20.0	－	(20.9)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好			○					○		ススス
	1544	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴb-4	19.4	－	(13.3)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	橙	にぶい橙	普通	○	○			○					ススス
	1545	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴb-4	21.0	－	(11.3)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	にぶい褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1546	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴb-4	22.5	－	(18.0)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	○	○			○					ススス
	1547	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅴb-4	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	灰黄褐	にぶい黄橙	良好		○	○		○		○	○		
	1548	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴb-4	－	－	－	条痕→ナデ 指頭圧痕	指頭圧痕, 条痕→ナデ, ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい橙	普通	○	○			○		△	○		
2-91	1549	E-12	Ⅲa	鉢	□～胴部	後期	Ⅴc	17.8	－	(14.1)	条痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	橙	にぶい褐	普通	○	○			○		△			
	1550	E-12	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅴc	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい橙	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1551	E-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅴc	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 刻み	にぶい褐	灰褐	良	○			○			○	△		
	1552	D-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅴc	20.4	－	(9.8)	条痕	条痕	刺突	灰黄褐	にぶい赤褐	普通	○	○			○					
	1553	E-12	Ⅱ	鉢	□縁部	後期	Ⅴc	19.0	－	(7.2)	条痕, ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	にぶい橙	にぶい橙	普通	○	○			○					
	1554	D-13	Ⅲa	鉢	□～胴部	後期	Ⅴc	－	－	－	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい赤褐	良好	○	○			○			○		
	1555	D-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅴc	－	－	－	ナデ	ナデ	刻み, 刺突	灰	黒	良好	○	○			○					
	1556	D-13	Ⅱb	鉢	□縁部	後期	Ⅴc	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい橙	良	○	○			○			○		穿孔
	1557	E-12	Ⅱ	台付皿	□縁部	後期	Ⅴc	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	灰黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					穿孔, 白色土 赤色顔料
2-92	1558	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-1	15.0	－	(8.0)	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい赤褐	普通	○	○			○					
	1559	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-1	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	橙	橙	良好	○	○			○					
	1560	E-12	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-1	26.9	－	(20.6)	ナデ	ナデ	刺突	橙	にぶい橙	良好	○	○			○			○		
	1561	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-2	14.0	－	(14.5)	ナデ	ケズリ→ナデ	刻み	灰黄褐	灰黄褐	普通	○		○							赤色顔料
	1562	E-F-12-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-2	23.4	－	(10.6)	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい赤褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1563	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-2	24.8	－	(10.4)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突, 沈線	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○		○			○				
	1564	E-13 E-15 F-15	Ⅱ Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅵa-2	15.6	6.4	16.9	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 竹管	にぶい赤褐	にぶい橙	良好	◎	△								
	1565	F-15	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-2	12.8	－	(15.7)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	明赤褐	良好	◎	○						◎		
	1566	F-13	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅵa-2	13.2	6.6	13.2	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	灰黄褐	黒褐	良好	○		○			△				
	1567	E-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-2	－	－	－	ナデ, 条痕	ナデ	刺突, 沈線	灰褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1568	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-2	23.6	－	(19.0)	ケズリ→ナデ	指頭圧痕, ナデ	刺突, 沈線	灰褐	灰褐	普通	○	○			○			△		
	1569	E-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-2	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	灰黄	灰黄	良好	○	○	○		○			○		
	1570	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-2	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい褐	にぶい褐	良好	○	△	○		○					
	1571	D-12	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-2	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	褐灰	褐灰	普通	○	○			○					
2-93	1572	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-2	28.2	－	(21.1)	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刺突	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○			○					
	1573	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-2	11.8	－	7.8	ナデ	ナデ	刺突, 短沈線	灰褐	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1574	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-2	17.1	－	(19.4)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 条痕	刺突, 短沈線	明赤褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1575	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-2	－	－	－	ナデ	ナデ	刻み, 沈線	浅黄橙	にぶい橙	不良	○	◎			○					
	1576	E-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-2	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 短沈線	橙	黒褐	良好		○	○		◎					
	1577	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-2	－	－	－	ナデ	条痕	沈線, 刺突	褐	褐灰	良好	○	○			○		○			
	1578	E-13	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅵa-3	32.0	11.5	36.5	指頭圧痕 条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	明赤褐	黒褐	良好	◎	○			○			◎		白色土
	1579	E-13	Ⅲ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	32.2	－	(25.4)	条痕→ナデ	ナデ, 指頭圧痕 ケズリ	刺突	黒褐	暗赤褐	普通	○	○	○		○					ススス
2-94	1580	D-13	Ⅳ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	41.9	－	(32.6)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい赤褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1581	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	34.6	－	(20.0)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	橙	橙	良好	○	○	△		○					
	1582	E-14	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	32.9	－	(17.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	褐灰	灰黄褐	普通	○		◎					○		
	1583	D-26	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-3	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰褐	黒褐	普通	○	○			○					
	1584	F-13 E-13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 竹管	黒褐	灰褐	良好	○	○			○					
	1585	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突	暗赤褐	灰黄褐	普通			○			○	○			
2-95	1586	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	31.4	－	(21.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 刻み	にぶい黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					ススス, 試料No. KAMBN-6

第2-15表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（12）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm) 口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	調整 外面調整	内面調整	文様	色調 外面	内面	焼成	胎土 長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	備考
2-95	1587	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	35.4	－	(29.9)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ 条痕→ナデ	刺突	明赤褐	橙	良好	○	○								スス
	1588	D-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	19.4	－	(30.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刻み, 刺突	にぶい黄橙	浅黄橙	良好	○	○			○					
	1589	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	26.9	－	(18.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 刻み	灰黄	にぶい黄橙	良好	○	○			○			○		
	1590	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-3	28.2	－	(28.0)	条痕→ナデ	ナデ, 条痕→ケズリ	短沈線, 竹管	にぶい橙	灰黄褐	良好										
2-96	1591	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	26.1	－	(18.5)	ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突	褐灰	褐灰	良好		○			○			○		
	1592	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-4	26.4	－	(9.5)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1593	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	暗赤褐	暗赤褐	良好	○	○								
	1594	D-14	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	40.6	－	(20.5)	ケズリ→ナデ	条痕→ケズリ→ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刺突	にぶい黄橙	にぶい橙	普通	○	○			○					
	1595	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	31.8	－	(27.3)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	刺突, 沈線	橙	灰褐	良好	○	○			○			○		スス, 試料No. KAMBAN-2
2-97	1596	E-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突	暗赤褐	暗赤褐	良好	○	○								
	1597	E-15	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	橙	にぶい橙	良好	○	○			○					
	1598	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突	黒褐	黒褐	良好	○	○			△			◎		赤色顔料
	1599	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	16.6	－	(15.7)	条痕, ナデ	条痕, ナデ	刺突, 沈線	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○					スス, 試料No. KAMBAN-16
	1600	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	28.2	－	(14.8)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	橙	明赤褐	良好	○	○		○	○			○		
	1601	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	19.0	－	(20.5)	ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突, 沈線	にぶい黄	浅黄	良好	○		◎			○				
	1602	D-13 E-13	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	(25.2)	－	(18.3)	ナデ, 条痕	ナデ, 条痕	刺突, 沈線	明赤褐	明赤褐	良好	○	○						○		
2-98	1603	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	－	－	－	条痕→ナデ	ナデ, 指頭圧痕 条痕	竹管文, 沈線 刺突	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○						◎		
	1604	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	－	－	－	条痕, ケズリ→ナデ	指頭圧痕 条痕→ナデ	刺突, 沈線	にぶい橙	褐灰	普通	○	○								
	1605	E-13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵa-4	48.0	－	(22.8)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	暗褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1606	E-12	Ⅲ	特殊	□～胴部	後期	Ⅵa-4	31.5	－	(13.0)	ナデ	ケズリ, ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突 竹管	褐灰	灰褐	やや不良	○	◎			◎					
	1607	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-4	34.6	－	(7.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○		○				△			
	1608	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	○		◎					△		
	1609	D-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-4	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	橙	黄橙	普通	○		◎							
	1610	E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅵa-4	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突 竹管	にぶい黄橙	橙	良好	○		○				○			
2-99	1611	E-11	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-1	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 凹点	灰黄褐	灰褐	普通	○	○			○		△			
	1612	E-11	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-1	25.0	－	(14.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 凹点	橙	にぶい黄褐	良好	○	○			○					
	1613	E-12	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-1	17.2	－	(13.4)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ ケズリ	刺突	橙	橙	良好	○	○			○					
	1614	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-1	24.5	－	(22.3)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突, 凹点	灰褐	にぶい褐	普通	○	○			○					
	1615	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅵb-1	13.5	－	(11.1)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突, 凹点	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1616	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-1	－	－	－	条痕→ナデ	ナデ	刺突, 凹点	にぶい褐	褐灰	良好		○			○			○		
	1617	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	26.8	－	(24.6)	条痕→ナデ ケズリ	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	凹点, 凹線 刺突	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	○	○			○					
	1618	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	27.5	－	(13.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刻み 凹点	にぶい褐	橙	良好	○	○			○			○		
	1619	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	20.2	－	(11.7)	ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刺突 凹点	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					
2-100	1620	E-12	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	14.7	－	(20.0)	ケズリ→ナデ	ナデ	刺突, 凹線 凹点	にぶい橙	にぶい黄褐	良好	○	○			○			○		
	1621	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅵb-2	16.8	6.1	18.4	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線 凹点	灰黄褐	黒褐	良好	○		○							スス, 炭化物 試料No.AMBAN-12
	1622	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	21.0	－	(14.8)	条痕→ナデ	ナデ, 条痕	刻み, 刺突 凹線	橙	にぶい黄橙	良好	○	○			○					穿孔
	1623	E-12	Ⅱ Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅵb-2	26.0	－	(5.8)	ナデ	ナデ	刺突, 沈線 凹点	にぶい橙	灰褐	やや不良	○	○			○					
	1624	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線 凹点, 刻み	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1625	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	18.2	－	(12.1)	ナデ	ナデ	刺突, 凹線 凹点	オリーブ灰	オリーブ灰	不良	◎	○			○		△			
	1626	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 凹線 凹点	灰	灰	不良	○	○			○			○		
	1627	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	26.4	－	(17.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線 凹点	にぶい赤褐	褐灰	良好	○	○			○			△		
	1628	E-12	Ⅲ Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	39.8	－	(25.2)	条痕→ナデ ケズリ	条痕→ナデ ケズリ	刺突, 凹線 凹点	にぶい赤褐	にぶい黄褐	良好	○	○			○			○		
2-101	1629	E-12	Ⅲb Ⅲc	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	14.6	－	(15.6)	ナデ	条痕→ナデ	凹線, 凹点 刺突	橙	黒	良好	○	○			○					
	1630	E-14	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵb-2	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい黄橙	灰黄褐	良	○	○			◎			○		スス
	1631	C-18	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵb-2	－	－	－	ナデ	ケズリ, 条痕→ナデ	凹線, 刺突	明赤褐	明赤褐	良好	○	○			○					
	1632	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	28.2	－	(15.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刺突 凹点	にぶい黄褐	灰黄褐	良	○	○			○					型果類圧痕 試料No.KAMBAN-11

第2-16表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（13）

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-101	1633	D-13 E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	32.0	－	(19.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 凹点 凹線	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○			○					
	1634	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	32.4	－	(17.3)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刻み, 刺突 凹線, 凹点	橙	にぶい橙	良	○	○			○					
2-102	1635	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-2	41.4	－	(27.5)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突, 凹線 凹点	橙	橙	良好	○	○			○					赤色顔料
	1636	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅵb-2	－	－	－	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 凹線 凹点	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	○	○								
	1637	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-3	34.0	－	(21.4)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹点 凹線	暗褐	にぶい橙	良	○	○			○					
	1638	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-3	35.4	－	(19.9)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線 凹点	赤褐	灰褐	良好	○	◎					○			
	1639	D-12 D-13 E-13	Ⅲ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-3	32.0	－	(24.3)	ナデ	ナデ	凹点, 凹線 刺突	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○			○			○		スス, 試料No. KANBAN-22
2-103	1640	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-3	37.4	－	(11.1)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	凹線, 凹点 刺突	にぶい黄褐	にぶい黄橙	良好	○		○		○					
	1641	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-3	26.6	－	(21.4)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線 凹点	黒褐	にぶい黄褐	良好	○		○		○					
	1642	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-3	42.6	－	(26.8)	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線 凹点	黒褐	にぶい橙	良好	○	○					○			
	1643	E-12	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵb-3	30.0	－	(9.8)	ナデ	ナデ	沈線, 凹線 刺突, 凹点	褐灰	にぶい黄橙	良好	○	○			○		△			
2-104	1644	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-3	－	－	－	条痕→ナデ	ナデ, 条痕	刺突, 凹線 凹点	にぶい褐	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1645	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-3	34.8	－	(22.9)	条痕→ナデ	条痕	刺突, 凹点 凹線	にぶい橙	にぶい黄褐	良好		○			○					
	1646	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵb-3	36.0	－	(23.4)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線 凹点	褐	にぶい褐	良好	○	○			○			○		
2-105	1647	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-1	20.0	－	(10.6)	ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい橙	にぶい橙	普通	○	○			○					
	1648	F-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-1	29.5	－	(15.4)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ	刺突	にぶい褐	灰褐	良好	△	○			○					
	1649	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-1	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	灰褐	灰褐	良好	○	○			○					スス, 試料 試料No.KANBAN-3
	1650	C-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵc-1	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	褐	暗褐	良好	○	○						○		
	1651	E-13	Ⅲ	深鉢	□～底部	後期	Ⅵc-1	22.4	－	(24.7)	条痕, ナデ	ナデ	刺突	灰褐	黒褐	やや不良	○				○			◎		スス 堅果類圧痕
	1652	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-1	26.0	－	(17.4)	条痕→ナデ 指頭圧痕	ナデ	刺突, 刻み	黒褐	褐灰	良好	○	○			○					
	1653	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-1	26.4	－	(18.2)	ケズリ→ナデ 条痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい橙	にぶい橙	普通	○	○			○			○		
	1654	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-1	27.8	－	(24.3)	ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい黄橙	橙	普通	○	○			○					
2-106	1655	E-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-1	26.0	－	(20.4)	条痕→ナデ	指頭圧痕, 条痕 ケズリ→ナデ	刺突	灰黄	灰黄	良好	○	○	○							炭化物 スス
	1656	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-1	17.4	－	(21.3)	ケズリ 条痕→ナデ	ケズリ 条痕→ナデ	刺突, 刻み	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	○		○		○					
	1657	E-12	Ⅱ Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-1	29.0	－	(22.5)	条痕→ナデ	条痕→ケズリ	刺突, 凹点	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○			○					スス, 試料No. KANBAN-7
	1658	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-2	26.8	－	(19.0)	ケズリ→ナデ	ナデ, 指頭圧痕	凹点, 沈線 刻み	褐	黒褐	普通	○	○			○					穿孔
	1659	C-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵc-2	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	にぶい橙	浅黄橙	普通	○	○			○					
	1660	D-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅵc-2	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい褐	にぶい橙	やや不良	○	○			○		△			
	1661	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-2	33.4	－	(22.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	凹線	暗褐	橙	良好	○	○	○		○					
2-107	1662	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-2	36.2	－	(22.4)	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	凹線	黒褐	褐灰	良好	○	○					○	○		スス
	1663	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-2	30.8	－	(21.2)	ナデ	ケズリ→ナデ 条痕→ナデ	凹点, 凹線	褐	にぶい黄橙	良好	○		◎					○		
	1664	D-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵc-2	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線, 凹点 刺突	にぶい黄橙	灰黄褐	普通	◎	○			○					
	1665	E-13 F-13 F-15	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-2	40.0	－	(32.1)	ナデ, 条痕	ナデ, 条痕	沈線, 刺突	橙	橙	良	○	○	○					○		
	1666	E-14	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅵc-2	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	黒褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1667	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵc-2	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	灰褐	にぶい褐	良好	○	○	○							
	1668	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-3	26.8	－	(10.1)	条痕→ナデ	ナデ	刺突, 凹点	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	○	○			○		△			
	1669	D-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-3	27.0	－	(14.2)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 凹点	明黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					スス
2-108	1670	F-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-4	－	－	－	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	暗褐	暗褐	良好	◎	◎			○					
	1671	F-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵc-4	20.6	－	(6.8)	ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刺突	にぶい橙	褐	良好	○		◎							
	1672	C-12 E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-4	－	－	－	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刺突 凹点	暗褐	灰褐	良好		○			○			○		
	1673	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵc-4	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線 凹線	にぶい橙	にぶい黄橙	普通	○	○			○					
2-109	1674	E-11	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-1	－	－	－	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 条痕 指頭圧痕	－	黒褐	黒褐	良好	○	○			○			◎		
	1675	E-11	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-1	－	－	－	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	－	にぶい褐	灰黄褐	良	○	○			○					
	1676	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅵd-1	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	－	灰褐	にぶい褐	良好	○	○								
	1677	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-1	－	－	－	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	凹点	黒褐	黒褐	良	○	○			○					
	1678	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-1	20.5	－	(12.6)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ケズリ	－	褐灰	褐灰	良好	○	○			△					

第2-17表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(14)

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-109	1679	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	22.0	－	(15.6)	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	ナデ, ケズリ	－	黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					
	1680	E-12	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	－	－	－	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	－	褐灰	にぶい褐	良好	○		○					○		
	1681	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	22.8	－	(19.2)	ナデ	ナデ	－	暗赤褐	黒褐	良	○	○			○					
	1682	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	18.0	－	(14.6)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	－	橙	明褐	良好	○	○			○					
2-110	1683	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅵd-2	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	黒褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					
	1684	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	23.9	－	(10.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	－	にぶい黄橙	にぶい橙	普通	○	○			○					
	1685	E-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	20.0	－	(16.7)	条痕, ナデ 指頭圧痕	条痕, ナデ 指頭圧痕	－	灰褐	灰褐	良	○	○			○					
	1686	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	(16.8)	－	(12.9)	ナデ	ナデ	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	○	○			○					
	1687	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	22.6	－	(26.3)	条痕, ナデ	ナデ 条痕→ケズリ	－	にぶい黄橙	灰黄	良好	○	○			○			△		
	1688	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	－	－	－	ケズリ→ナデ 条痕→ナデ	条痕→ナデ	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○		○		○					
	1689	E-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅵd-2	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	－	黒褐	赤褐	良好	○	○			○					
	1690	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅵd-2	21.8	－	(16.8)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	－	褐灰	褐灰	良	○	○			○			◎		
2-111	1691	E-13	Ⅱ	鉢	□縁部	後期	Ⅵe-1	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	浅黄橙	浅黄橙	良好	○	○			○					
	1692	D-16	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅵe-1	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい黄橙	明黄褐	やや不良	○	○			○		○	○		
	1693	D-12 E-12	Ⅲb Ⅲc	鉢	□～胴部	後期	Ⅵe-1	25.1	－	(7.7)	ナデ	ナデ	刺突, 凹線	褐	にぶい褐	良好	○	○			○			○		
	1694	D-13 E-12	Ⅲa	鉢	□～胴部	後期	Ⅵe-1	21.6	－	(6.2)	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい褐	にぶい褐	普通	○	○			○					
	1695	F-15	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅵe-1	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	橙	橙	良	○	○					○			
	1696	E-14	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Ⅵe-1	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	竹管文, 沈線 刺突	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○								赤色顔料
	1697	D-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Ⅵe-1	－	－	－	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突 凹点	にぶい赤褐	橙	良	○	○						○		赤色顔料
	1698	E-14	Ⅲ Ⅲa	台付鉢	胴～脚台	後期	Ⅵe-2	－	10.3	(10.6)	ナデ	ナデ	突帯, 刺突, 沈線	にぶい橙	橙	良好	○	○	○		○					透かし 白色土
	1699	C-27	Ⅲ	台付鉢	脚台	後期	Ⅵe-2	－	9.2	(5.8)	ナデ	ナデ	突帯, 刺突	橙	橙	良好	○	○			○					穿孔
	1700	F-15	Ⅱ	台付鉢	脚台	後期	Ⅵe-2	－	8.8	(6.4)	ナデ	ナデ	突帯, 刺突, 沈線	明赤褐	橙	普通	○	○								透かし
	1701	E-13	Ⅲa	台付鉢	脚台	後期	Ⅵe-2	－	7.8	(5.2)	ナデ	ナデ	突帯, 刺突	橙	にぶい橙	良好	○	○				○				透かし
	1702	D-14	Ⅲ	台付鉢	脚台	後期	Ⅵe-2	－	10.0	(5.6)	ナデ	ナデ	突帯, 刺突, 刻み	明赤褐	明赤褐	良好	○	○				○				透かし 白色土
	1703	F-15	カクラン	台付鉢	脚台	後期	Ⅵe-2	－	9.0	(4.7)	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	－	橙	灰白	良好	○	○			○			○		透かし 網代痕
	1704	F-12	Ⅲa	台付鉢	脚台	後期	Ⅵe-2	－	9.5	(6.1)	ナデ	条痕, ナデ	刺突	橙	にぶい橙	普通	○	○			○					網代痕
	1705	E-13	Ⅲa	台付鉢	脚台	後期	Ⅵe-2	－	7.7	(4.1)	ナデ	ナデ	突帯, 刺突	暗赤灰	灰褐	良好		○		○	○					白色土
2-112	1706	D-14	Ⅲ	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	浅黄橙	にぶい橙	普通	○	○			○		○	○		赤色顔料
	1707	E･F- 12･13	Ⅲa	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	刺突, 沈線	にぶい橙	褐灰	普通	△	○				△				穿孔 赤色顔料
	1708	E-13	Ⅲ	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい橙	にぶい褐	普通	○	○			○					
	1709	E-12	Ⅱ	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ, 指頭圧痕	指頭圧痕 条痕, ナデ	刺突, 沈線 竹管文	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○	○		○					赤色顔料
	1710	E-13	Ⅲ	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	(16.4)	－	(7.3)	条痕→ナデ	指頭圧痕 条痕→ナデ	沈線, 凹線 刺突	灰黄	にぶい黄橙	良好	○	○	○		○					赤色顔料 穿孔, 白色土
	1711	E-13	Ⅲa	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 竹管文 沈線	橙	にぶい橙	良好	○	△			○		△	△		赤色顔料
	1712	E-13	Ⅲa	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	(22.0)	－	(9.0)	条痕→ナデ	ナデ, 指頭圧痕	刺突, 沈線	にぶい橙	にぶい黄橙	良好		○			○					白色土
	1713	F-13	Ⅲa	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい橙	普通	○	○		○	○					
	1714	F-12	Ⅲa	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ→ケズリ 指頭圧痕	沈線, 刺突	にぶい黄橙	黄橙	良好	○	○						○		
	1715	E-15	Ⅱ	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい赤褐	良好	○	○			○					赤色顔料
	1716	E-11	Ⅲb	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	条痕→ナデ	指頭圧痕 条痕→ナデ	凹線, 沈線	灰黄褐	にぶい黄橙	良好		○		◎						赤色顔料
	1717	E-12	Ⅲb	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ, 条痕	ナデ 条痕→ケズリ	沈線, 凹線 刺突, 突帯	にぶい褐	灰黄褐	良好		○			○			○		赤色顔料 白色土
	1718	E-12	Ⅲb	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	指頭圧痕, ナデ	指頭圧痕, ナデ	刺突, 押圧, 突帯	にぶい橙	灰褐	普通	○	○			◎					
	1719	C-16	Ⅲ	台付皿	皿部	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	浅黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○		○				○		赤色顔料
2-113	1720	E･F- 12･13	Ⅱ	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	10.4	(2.4)	ナデ	ナデ	刺突, 沈線, 突帯	にぶい橙	橙	やや不良	○	◎			◎					穿孔
	1721	E-13	Ⅲ	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	11.0	(3.5)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突, 突帯	にぶい橙	にぶい橙	普通	○	○			○					赤色顔料
	1722	F-13	Ⅲa	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	13.2	(4.1)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	刺突	浅黄橙	にぶい橙	普通	○	○			○			△		
	1723	D-13	Ⅲ	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	10.0	(3.2)	ナデ	ナデ	刺突	灰白	にぶい橙	普通	○	○			○					穿孔 白色土
	1724	E-14	Ⅲa	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	凹点	浅黄	明赤褐	良好	○	○			○					白色土

第2-18表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(15)

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-113	1725	E-14	Ⅱ	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突, 突帯	にぶい黄橙	灰黄褐	良	○	○			◎			○		赤色顔料 白色土
	1726	D-12	Ⅱ	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	11.2	(5.7)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	沈線, 突帯	にぶい橙	にぶい橙	やや不良	○	○			○					赤色顔料
	1727	E-12	Ⅲb	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突, 突帯	にぶい橙	灰黄褐	やや不良	○	○			○					
	1728	D-13	Ⅲ	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	11.0	(4.7)	ナデ	条痕, ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい橙	良好	○	○			○		○			穿孔 白色土
	1729	E･F-12･13	Ⅱ Ⅲa	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	11.0	(4.1)	ナデ	ナデ	刺突	にぶい黄褐	灰黄褐	やや不良	○				○					
	1730	E-14	Ⅱ	台付皿	脚台	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	にぶい黄橙	灰黄褐	良	○	○			◎			○		透かし 赤色顔料
	1731	E-13	Ⅲ	片口付壺型	突起	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい褐	良好	○	○						○		赤色顔料
	1732	F-15	Ⅲa	片口付壺型	突起	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	にぶい橙	暗灰	良好	○	○								赤色顔料
	1733	D-17	Ⅲ	注口土器	注口	後期	Ⅵf	注口径2.3	－	－	ナデ	ナデ	－	にぶい赤褐	黒褐	良好	○	○		○	○		○	○		
	1734	D-13	Ⅲ	注口土器	注口	後期	Ⅵf	注口径2.9	－	－	ナデ	ナデ	－	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○			○			△		
	1735	E-12	Ⅱ	注口土器	注口	後期	Ⅵf	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	にぶい褐	灰褐	良好	○	○			○					
2-114	1736	D-28	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線, 刺突	灰黄褐	橙	良好	○	○	◎							
	1737	C-27 C-28	Ⅲa Ⅲc	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	条痕	沈線, 刺突	明褐	橙	普通	○	○			○					
	1738	E-18	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	明黄褐	明黄褐	やや不良		○			○					
	1739	D-28	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	橙	にぶい黄橙	やや不良	○	○			○					
	1740	D-28	Ⅱ Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突	橙	橙	普通	○	○			○			○		
	1741	D-27	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	橙	橙	普通	○	○			△					
	1742	C-29	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	橙	橙	普通	○	○			○					
	1743	D-28	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	24.0	－	(19.8)	ナデ	ナデ	刺突	橙	にぶい褐	普通		○			○			◎		
	1744	C-17	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	橙	にぶい黄橙	良好	○	○			○					
	1745	D-26	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	橙	橙	良好		△			△			◎		
	1746	C-25 D-26	Ⅱ Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	20.0	－	(8.0)	ナデ	条痕	刺突	橙	橙	良好	○	○			○					
	1747	C-26	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰褐	明赤褐	普通	○	○								
	1748	D-18	Ⅱ	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	橙	橙	普通		○			△					
2-115	1749	C-27 C-28	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	－	－	－	条痕→ナデ	条痕	刺突	橙	灰褐	良好	○	△			△			◎		
	1750	F-13	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	北久根山式	30.0	－	(23.0)	ケズリ→ナデ	ナデ	刺突, 刻み	橙	黒褐	良	◎	○			○					ススス
	1751	E-12	Ⅲb	深鉢	口縁	後期	北久根山式	－	－	－	ミガキ	ミガキ	沈線	にぶい黄橙	灰白	良	○									
	1752	E-13	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	北久根山式	－	－	－	条痕, ナデ	条痕→ナデ	刻み	灰褐	灰褐	良	◎									
	1753	E-14	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	西平式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	にぶい黄橙	灰黄褐	良	○	○			◎			○		
	1754	E-17	Ⅲ	小型鉢	胴部	後期	三万田式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	灰黄	黄灰	良	○	○	○		○					
	1755	E-20	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅷ	－	－	－	ナデ	条痕, ナデ	刻み	橙	黄橙	良	◎									
	1756	E-12	Ⅲb	深鉢	口縁部	後期	Ⅷ	－	－	－	ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○								
	1757	D-13	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	Ⅷ	－	－	－	条痕→ナデ	条痕→ナデ	－	にぶい赤褐	灰褐	良	○	○			○			○		
2-116	1758	D-12	Ⅱ	深鉢	胴～底部	後期	A	－	8.9	(21.0)	ナデ	ナデ	－	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					
	1759	D-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	A	－	7.1	(5.0)	ナデ	条痕→ナデ	－	にぶい橙	黒褐	良	○	○		○	○			○		ススス 炭化物
	1760	D-12	Ⅱ	深鉢	底部	後期	A	－	9.4	(4.2)	ケズリ 指頭圧痕→ナデ	ケズリ, 指頭圧痕 ナデ	－	灰黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○		○	○			○		堅果類圧痕
	1761	E-13	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	A	－	10.6	(13.0)	条痕, ナデ	条痕, ナデ	－	明赤褐	にぶい赤褐	やや不良	○	○		○	○			○		白色土
	1762	E-13	Ⅱ	深鉢	底部	後期	A	－	8.3	(4.5)	ケズリ, ナデ	ナデ	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	やや不良	○	○		○	○			○		白色土 堅果類圧痕
	1763	D-13 E-13	Ⅲ	深鉢	胴～底部	後期	A	－	8.3	(11.5)	条痕, ナデ	条痕, ケズリ ナデ	－	にぶい褐	にぶい橙	不良	○	○		○	○			○		白色土
	1764	D-13	Ⅲ	深鉢	胴～底部	後期	A	－	12.7	(12.8)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	－	明赤褐	にぶい黄橙	良	○	○		○	○			○		堅果類圧痕
	1765	D-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	A	－	9.4	(5.8)	ケズリ→ナデ	条痕, ナデ, ケズリ	－	褐灰	灰褐	良	○	○		○	○		○	○		白色土
	1766	D-13	Ⅲb	深鉢	底部	後期	A	－	10.2	(7.8)	ケズリ	ケズリ	－	黄褐	明褐灰	良	○	○		○	○			○		
	1767	F-13	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	A	－	7.4	(23.8)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	－	橙	黒	－	○	○			○					
	1768	E-13	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	A	－	10.0	(26.0)	ナデ	条痕	－	にぶい黄橙	灰黄褐	良	○	○								
2-117	1769	F-12	Ⅲ Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	A	－	9.7	(15.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	－	浅黄橙	褐灰	不良	○	○		○	○			○		
	1770	D-12	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	A	－	10.6	(13.2)	ケズリ	ケズリ, ナデ	－	灰黄褐	褐灰	良好	○	○		○	○				○	

第2-19表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(16)

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-117	1771	D-19	Ⅲ	深鉢	底部	後期	A	−	9.6	(4.0)	条痕	条痕, ナデ	−	にぶい橙	にぶい橙	やや不良	○	○			○			○		
	1772	E-14	Ⅲa	深鉢	底部	後期	A	−	6.2	(2.8)	ケズリ, ナデ 指頭圧痕	ナデ	−	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○		○	○			○		
	1773	E-13	Ⅲ	深鉢	胴～底部	後期	A	−	9.0	(10.3)	条痕, ナデ	条痕	(底) 貝殻条痕	にぶい橙	褐灰	やや不良	○	○		○	○			○		
	1774	D-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	A	−	8.1	(5.3)	条痕, ケズリ	ケズリ, ナデ	(底) 貝殻条痕	にぶい赤褐	褐灰	良	○	○		○					○	
	1775	D-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	A	−	8.1	(4.2)	ケズリ, ナデ	条痕, ケズリ	(底) 貝殻条痕	褐灰	明褐灰	良	○	○		○					○	
	1776	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	A	−	10.5	(4.2)	条痕, ナデ 指頭圧痕	ケズリ, ナデ	(底) 貝殻条痕	灰褐	にぶい橙	不良	○	○		○	○				○	
	1777	D-12	Ⅱ	深鉢	胴～底部	後期	A	−	8.9	(8.7)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	−	にぶい橙	灰褐	やや不良	○	○		○	○				○	
	1778	E-12	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	−	8.8	(3.7)	ケズリ, 条痕	ケズリ, ナデ	網代痕	褐灰	にぶい褐	良		○		○			○			白色土
	1779	E・F-12・13	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	−	9.0	(7.3)	ナデ	ナデ	網代痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	不良	○			○	○			○		白色土 スス
	1780	D-13	Ⅲ	深鉢	胴～底部	後期	B	−	8.9	(15.4)	条痕→ナデ	ケズリ, ナデ	網代痕	橙	明褐灰	良	○	○		○	○					スス
	1781	D-12	Ⅱ	深鉢	胴～底部	後期	B	−	7.9	(6.2)	ケズリ	ケズリ, ナデ	網代痕	灰褐	灰黄褐	やや不良	○	○		○	○					白色土
	1782	E-12	Ⅲb	深鉢	胴～底部	後期	B	−	9.8	(8.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	網代痕	褐	にぶい褐	やや不良	○	○		○			○			白色土 スス
	1783	D-27	Ⅲ	深鉢	胴～底部	後期	B	−	7.0	(7.4)	ケズリ	ケズリ→ナデ	網代痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	やや不良	○	○		○	○					白色土
	1784	E-14	Ⅲa	深鉢	底部	後期	B	−	8.4	(4.1)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	網代痕	褐	にぶい褐	良	○	○		○	○		○			白色土
	1785	E-12	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	−	10.4	(4.4)	ケズリ→ナデ 指頭圧痕→ナデ	ケズリ→ナデ	網代痕	にぶい褐	にぶい橙	良	○	○		○			○			白色土 堅果類圧痕
2-118	1786	E-18	Ⅲ	深鉢	胴～底部	後期	B	−	8.4	(6.1)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ケズリ ナデ	網代痕	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○		○	○			○		白色土
	1787	C-13	Ⅲa	深鉢	底部	後期	B	−	10.8	(4.6)	ケズリ	ケズリ, ナデ 条痕	網代痕	灰褐	にぶい橙	良好	○	○		○	○				○	
	1788	C-20	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	−	9.3	(3.3)	ケズリ 指頭圧痕	ケズリ, ナデ	網代痕	にぶい赤褐	黒褐	良好	○	○			○			○		
	1789	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	−	9.4	(6.2)	ケズリ, ナデ	条痕, ケズリ	網代痕	にぶい褐	灰黄褐	良	○	○		○	○			○		白色土
	1790	D-12	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	−	9.0	(11.4)	条痕, ケズリ ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	網代痕	にぶい赤褐	灰褐	やや不良		○		○				○		白色土
	1791	D-12	Ⅲb	深鉢	胴～底部	後期	B	−	9.8	(16.1)	ケズリ, ナデ 条痕	条痕, ナデ	網代痕	灰黄褐	灰褐	やや不良	○	○		○	○			○		スス
	1792	D-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	−	9.5	(4.1)	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	網代痕	灰褐	褐灰	良好	○	○		○	○			○		白色土
	1793	E-18	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	−	11.1	(6.3)	ナデ	ナデ	網代痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	やや不良	○	○		○				○		白色土
	1794	D-12	Ⅲa	深鉢	底部	後期	B	−	9.8	(4.7)	ケズリ, ナデ	ナデ	網代痕	にぶい橙	にぶい橙	やや不良	○	○		○	○			○		スス
	1795	D-12	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	−	10.7	(5.9)	ケズリ, ナデ 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	網代痕	にぶい褐	褐灰	良	○	○		○	○			○		白色土
	1796	E-13	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	−	11.1	(8.5)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	もじり痕 網代痕	にぶい橙	明褐灰	良		○		○	○					白色土 スス
	1797	E-13	Ⅲa	深鉢	底部	後期	B	−	7.7	(4.1)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	網代痕 木葉痕	灰黄褐	にぶい黄橙	良		○		○			○	○		白色土
	1798	E-14	Ⅱ Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	−	7.0	(12.0)	ナデ	条痕	沈線 もじり痕	にぶい赤褐	灰褐	やや不良	○	○		○	○			○		白色土
	1799	D-12	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	−	9.5	(6.1)	ケズリ, ナデ 条痕	条痕, ナデ	もじり痕	黄褐灰	褐灰	良好	○	○		○	○					
	1800	D-12	Ⅲb	深鉢	胴～底部	後期	B	−	11.0	(22.8)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	もじり痕	灰白	褐灰	良	○	○		○				○		白色土
2-119	1801	D-12	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	−	9.5	(13.1)	ケズリ, ナデ	ケズリ	もじり痕	褐灰	灰黄褐	良	○	○		○	○			○		
	1802	D-12	Ⅲa	深鉢	底部	後期	B	−	10.5	(6.9)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	もじり痕	褐灰	にぶい褐	やや不良	○	○			○			○		白色土
	1803	D-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	−	9.5	(5.4)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	もじり痕	褐灰	にぶい黄橙	やや不良	○			○	○			○		白色土 スス
	1804	D-13	Ⅲa	深鉢	底部	後期	B	−	10.4	(5.5)	条痕	ケズリ, ナデ	もじり痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	○			○	○			○		白色土
	1805	E-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	−	9.5	(4.8)	ケズリ	ケズリ, ナデ	もじり痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	やや不良	○			○				○		白色土
	1806	E-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	−	8.2	(4.0)	条痕	条痕	もじり痕	褐灰	黒	やや不良	○	○			○			○		
	1807	D-12	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	−	8.5	(4.3)	ケズリ, ナデ	ナデ	もじり痕	灰褐	にぶい褐	良好	○	○			○					白色土
	1808	F-13	Ⅲa	深鉢	底部	後期	B	−	8.9	(6.8)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	もじり痕	明褐灰	にぶい橙	やや不良	○	○		○	○					
	1809	D-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	−	9.8	(4.7)	ケズリ, ナデ	条痕, ナデ	もじり痕	灰褐	にぶい橙	やや不良	○	○			○			○		白色土
	1810	D-13 E-13	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	−	8.0	(5.2)	ケズリ→ナデ	ケズリ, ナデ	もじり痕	明赤褐	褐灰	やや不良	○	○		○	○					白色土 炭化物
	1811	D-13	Ⅲ Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	−	9.6	(10.3)	ケズリ (一部条痕)	ケズリ→ナデ (一部条痕)	もじり痕	にぶい褐	にぶい橙	やや不良	○			○	○			○		炭化物
	1812	E-14	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	−	9.4	(11.2)	ナデ	ケズリ, ナデ	もじり痕	にぶい橙	褐灰	良	○	○		○	○			○		
	1813	E-14	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	−	10.7	(4.5)	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	もじり痕	明赤褐	橙	良	○	○		○	○					白色土 スス
	1814	E-12	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	−	9.7	(3.7)	ケズリ, ナデ 指頭圧痕	ケズリ	もじり痕 木葉痕	にぶい橙	にぶい褐	やや不良	○	○		○	○					白色土
	1815	E-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	−	10.0	(2.1)	条痕, ナデ	ナデ	木葉痕	にぶい黄橙	灰黄褐	やや不良	○	○		○	○			○		炭化物
	1816	D-25 D-26	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	−	9.5	(5.2)	ナデ	条痕→ナデ	木葉痕	橙	橙	良	○	○		○	○					白色土

第2-20表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(17)

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-119	1817	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	－	13.1	(6.3)	ケズリ, ナデ	条痕, ナデ	木葉痕	にぶい褐	にぶい黄橙	良	○	○			○					白色土
	1818	C-25 D-25	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	－	8.2	(6.6)	ケズリ, ナデ	ナデ	木葉痕	明赤褐	黒褐	やや不良	○	○		○	○			○		白色土
2-120	1819	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	－	11.0	(2.7)	ナデ	ナデ	木葉痕	明褐灰	明褐灰	良	○	○		○	○					白色土
	1820	E-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	－	8.2	(8.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ, ナデ	木葉痕	にぶい赤橙	淡赤橙	やや不良	○	○		○	○			○		白色土
	1821	D-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	－	8.5	(4.1)	条痕, ケズリナデ	ナデ	木葉痕	灰黄褐	にぶい黄橙	やや不良	○	○		○						白色土
	1822	D-12	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	－	10.9	(8.8)	条痕, ケズリナデ	条痕	木葉痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	○	○		○	○					白色土
	1823	D-14	Ⅳ	深鉢	底部	後期	B	－	8.7	(3.4)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	木葉痕	にぶい橙	灰褐	良	○	○		○	○					白色土
	1824	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	－	8.2	(3.6)	ナデ	ナデ	木葉痕	にぶい褐	にぶい橙	良	○	○			○			○		白色土
	1825	E-16	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	－	7.9	(2.3)	ナデ	ナデ	木葉痕	黒褐	灰黄褐	やや不良	○	○		○						白色土
	1826	E-16	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	－	－	－	ナデ	ナデ	木葉痕	褐灰	にぶい赤褐	不良	○	○			○			○		
	1827	D-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	－	9.8	(4.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	鯨骨圧痕	明褐灰	明褐灰	やや不良	○	○		○	○					白色土ス ス
	1828	E-12	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	－	11.0	(6.4)	ナデ	ナデ	鯨骨圧痕	にぶい橙	灰褐	普通	○	○			○		△			白色土
	1829	E-16	Ⅲ	深鉢	胴～底部	後期	B	－	10.9	(20.4)	条痕, ナデ	条痕, ナデ	条痕網代痕	にぶい黄橙	褐灰	良	○	○		○	○		○			
	1830	E-19	Ⅲ	深鉢	胴～底部	後期	B	－	9.0	(12.3)	条痕, ケズリナデ	条痕	条痕網代痕	にぶい黄橙	褐灰	やや不良	○	○		○	○					白色土ス ス
	1831	D-21	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	－	11.0	(2.5)	ナデ	ナデ	網代痕	橙	橙	良	○	○		○	○			○		白色土
	1832	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	－	10.2	(6.0)	条痕→ケズリ	条痕→ナデ	条痕網代痕	にぶい橙	灰褐	良	○	○			○			○		白色土
	1833	F-12 F-13	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	B	－	12.5	(21.0)	ナデ, 指頭圧痕	条痕	網代痕	にぶい褐	にぶい褐	－	○	○			○					堅果類圧痕 白色土
	1834	E-12	Ⅱ	深鉢	胴～底部	後期	B	－	9.9	(10.8)	ケズリ	条痕→ナデ	もじり痕→条痕	褐灰	灰褐	良	○	○		○	○		○			白色土ス ス
2-121	1835	D-14	Ⅳ	深鉢	底部	後期	C	－	10.2	(4.3)	ケズリ	ナデ	－	にぶい橙	にぶい橙	良	○	○		○	○			○		白色土
	1836	D-12	Ⅱ Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	C	－	7.5	(6.8)	ナデ	ケズリ→ナデ	－	灰褐	にぶい褐	良	○	○		○	○			○		白色土 炭化物
	1837	E-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	C	－	8.5	(4.5)	ケズリ, ナデ	条痕, ナデ	－	灰褐	灰褐	不良	○	○			○			○		白色土
	1838	E-14	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	－	7.9	(4.3)	丁寧なナデ	条痕→ナデ	－	橙	橙	やや不良	○	○		○	○			○		白色土
	1839	E･F-12･13	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	－	9.7	(3.2)	ケズリ, ナデ	ナデ	－	褐灰	にぶい褐	やや不良	○	○			○			○		白色土
	1840	D-13	Ⅲc	深鉢	底部	後期	C	－	10.2	(7.8)	ケズリ	ケズリ	－	黄褐	明褐灰	良	○	○		○	○			○		
	1841	D-12	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	－	9.6	(2.6)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	－	灰黄褐	にぶい黄橙	良好		○								白色土
	1842	E-19	Ⅲ	深鉢	底部	後期	C	－	7.5	(4.1)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ条痕	－	にぶい橙	にぶい褐	良	○	○		○	○					
	1843	F-13	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	－	6.4	(3.4)	ナデ	ナデ	－	灰褐	にぶい橙	良	○	○			○					
	1844	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	C	－	9.7	(2.2)	ケズリ→ナデ	ナデ	－	灰褐	灰褐	良	○	○		○						白色土
	1845	E-14	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	－	8.0	(4.9)	ケズリ, ナデ指頭圧痕	ケズリ, ナデ指頭圧痕	－	にぶい赤褐	にぶい黄橙	良				○	○			○		白色土
	1846	E-12	Ⅱ	鉢	脚台	後期	C	－	6.6	(4.8)	ナデ	ナデ	－	褐灰	灰褐	普通	○				○					
	1847	E-12	Ⅲa	鉢	脚台	後期	C	－	7.8	(4.8)	条痕, ナデ	ナデ	－	にぶい褐	灰黄褐	良好	○	○			○			○		白色土
	1848	E-15	Ⅲa	鉢	脚台	後期	C	－	9.6	(5.5)	ナデ	ナデ	－	にぶい黄橙	明赤褐	やや不良	○	○			○					白色土
	1849	D-12	Ⅲb	鉢	脚台	後期	C	－	8.8	(6.9)	条痕, ナデ	ナデ	－	褐灰	褐灰	普通	○	○	○		◎					白色土
	1850	D-12	Ⅲa	鉢	脚台	後期	C	－	11.2	(4.6)	条痕→ナデ	ナデ	－	灰黄褐	にぶい褐	やや不良	○	○	○		○					白色土
	1851	F-15	Ⅱ	鉢	脚台	後期	C	－	8.9	(2.8)	ナデ	ナデ	－	にぶい赤褐	にぶい橙	やや不良	○	○			○					
	1852	E-12	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	C	－	－	－	ナデ	ナデ	－	にぶい橙	にぶい褐	やや不良	○	○			○					白色土
	1853	D-26	Ⅱ	小型鉢	底部	後期	D	－	6.8	(2.2)	ナデ	ナデ	植物繊維痕	橙	灰褐	良好	○	△			○					
	1854	D-12	Ⅲ	鉢	底部	後期	D	－	7.2	(2.5)	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	黄灰	黄灰	良好	○	○			○					
	1855	E-12	Ⅲa	深鉢	底部	後期	D	－	9.0	(1.5)	ナデ	ナデ	－	にぶい黄褐	にぶい黄褐	普通	○	△	○		○					穿孔
	1856	E-14	Ⅲa	深鉢	胴～底部	後期	D	－	7.9	(3.7)	ナデ	ナデ	－	にぶい赤褐	黒	普通		○	○							穿孔
	1857	E-14	Ⅲ	鉢	脚台	後期	D	－	10.0	(4.5)	ナデ	丁寧なナデ	－	黒褐	褐灰	良好	○			○	○					
2-122	1858	F-13	Ⅲa	円盤形土製品	口縁部	後期	－	7.0	6.2	1.0	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	沈線	灰黄褐	褐灰	良好	○	○			○			○		57.8g
	1859	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	後期	－	6.3	5.6	1.2	打ち欠き	打ち欠き	－	黄灰	灰黄	良好	○	○			○			○		55.4g
	1860	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	口縁部	後期	－	5.6	5.6	0.9	研磨	研磨	沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					33.3g
	1861	D-27	Ⅳa	円盤形土製品	口縁部	後期	－	4.7	4.2	1.2	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	灰褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○		○			28.3g
	1862	E-12	Ⅲb	円盤形土製品	口縁部	後期	－	6.1	5.2	1.1	ナデ	ナデ, 研磨	凹線	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					34.9g

第2-21表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(18)

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-122	1863	E-17	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	後期	－	6.0	5.3	1.2	打ち欠き	打ち欠き	沈線	明赤褐	赤褐	良好	○	○			○		○			41.8g
	1864	E-12	Ⅲb	円盤形土製品	口縁部	後期	－	4.9	4.8	1.0	ナデ	ナデ, 研磨	縄文, 沈線	黒褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					28.0g
	1865	E-12	Ⅲb	円盤形土製品	口縁部	後期	－	4.7	4.5	0.9	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	灰黄褐	褐灰	良好	○	○			○					26.2g
	1866	D-27	Ⅳa	円盤形土製品	口縁部	後期	－	4.7	4.3	1.0	打ち欠き	打ち欠き	沈線, 刺突	暗褐	黄褐	良好	○	○			○		○			23.6g
	1867	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	後期	－	5.1	4.7	1.0	打ち欠き	打ち欠き	凹線磨消縄文	灰白	灰	良好	○	○		○	○			○		22.4g
2-123	1868	D-13	Ⅲa	円盤形土製品	口縁部	後期	－	3.5	3.3	0.7	一部研磨	一部研磨	沈線, 条痕	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○			○					10.8g
	1869	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	口縁部	後期	－	7.1	6.0	1.1	条痕→ナデ打ち欠き	ナデ, 指頭圧痕	刺突	灰褐	にぶい褐	良好	○	○		○						53.4g
	1870	D-13	Ⅱ	円盤形土製品	口縁部	後期	－	6.5	5.0	1.4	ナデ	ナデ, 打ち欠き	刺突	黒褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○			○		46.3g
	1871	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	後期	－	3.9	3.8	0.8	研磨	研磨	－	灰白	にぶい橙	良好	○	○			○					14.0g
	1872	E-12	Ⅲb	円盤形土製品	口縁部	後期	－	4.6	4.2	0.9	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	にぶい黄褐	にぶい褐	良好	○	○			○					24.6g
	1873	D-18	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	後期	－	4.0	4.0	1.0	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	灰黄褐	灰白	良好	○	○			○					19.3g
	1874	E-14	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	8.2	6.8	0.6	ナデ	ナデ, 研磨打ち欠き	沈線	灰黄褐	褐灰	良好	○	○			○		○			42.0g
	1875	C-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.6	5.4	0.9	研磨	研磨	沈線	褐灰	黒褐	良好	○	○			○					31.3g
	1876	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.7	5.7	0.7	研磨	研磨	沈線	灰褐	黒褐	良好	○	○			○		○			35.3g
	1877	D-20	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.6	5.5	0.9	打ち欠き	打ち欠き	沈線	明黄褐	褐灰	良好	○	○			○					39.0g
	1878	D-12	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.2	5.1	0.9	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	沈線	黒褐	褐灰	良好	○	○			○		○			28.3g
2-124	1879	E-14	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.8	4.1	1.1	研磨	研磨	沈線	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○			○		27.4g
	1880	D-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.1	4.6	0.7	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	○			○					22.5g
	1881	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.0	4.6	0.7	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	にぶい黄橙	橙	良好	○	○			○		○			19.4g
	1882	D-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.0	4.4	0.9	ナデ	ナデ, 研磨	沈線磨消縄文	灰黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					28.5g
	1883	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.4	4.3	1.0	研磨	研磨	刺突	浅黄橙	灰白	良好	○	○			○					23.4g
	1884	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.7	4.1	1.0	研磨	研磨	縄文, 凹線	浅黄	黒褐	良好	○	○			○					25.5g
	1885	E-18	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.3	3.6	0.7	研磨	研磨	沈線, 磨消	橙	にぶい黄橙	良好	○	○			○					16.5g
	1886	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.5	4.5	0.8	ナデ	ナデ, 研磨	縄文, 沈線	黒褐	黒褐	良好	○	○			○			○		19.0g
	1887	E-16	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.7	4.0	0.6	ナデ	条痕, 研磨	沈線, 刺突	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○					13.7g
	1888	C-28	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.0	3.8	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	沈線	褐	にぶい橙	良好	○	○			○					14.2g
	1889	E-14	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.7	3.4	0.6	研磨	研磨	沈線	褐灰	灰白	良好	○	○			○		○			12.4g
	1890	D-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.7	4.1	0.6	研磨	研磨	沈線	黒褐	黒褐	良好	○	○			○		○	○		17.1g
	1891	D-17	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.4	3.4	0.7	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	橙	にぶい褐	良好	○	○			○		○			11.1g
	1892	D-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.2	2.8	0.8	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	黒褐	黒	良好	○	○			○					8.8g
	1893	E-14	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.2	2.9	0.8	研磨	研磨	沈線	にぶい橙	橙	良好	○	○			○		○			10.0g
	1894	F-13	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.5	3.3	0.8	条痕	ナデ, 研磨	沈線	浅黄	灰黄	良好	○	○			○					9.4g
	1895	D-12	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.5	3.3	0.8	研磨	研磨	沈線, 刺突	にぶい黄橙	褐灰	良好	○	○			○					15.0g
	1896	C-21	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.8	3.5	0.8	ナデ	条痕, 研磨	沈線	赤	黒褐	良好	○	○			○			○		14.5g
	1897	E-19	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.8	3.7	0.7	打ち欠き→一部研磨	打ち欠き→一部研磨	沈線	浅黄橙	明褐灰	良好	○	○			○		○			11.9g
	1898	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.9	4.3	0.9	打ち欠き→研磨	ナデ, 打ち欠き→研磨	沈線磨消縄文	灰黄褐	黒褐	良好	○	○			○					23.6g
	1899	D-20	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.0	4.2	0.6	打ち欠き→研磨	打ち欠き→研磨	沈線, 条痕	赤褐	橙	良好	○	○			○					14.2g
2-125	1900	D-24	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.3	4.5	0.8	打ち欠き→研磨	打ち欠き→研磨	沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					27.1g
	1901	E-15	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.3	3.8	0.9	打ち欠き→研磨	打ち欠き→研磨	沈線	灰黄	灰黄	良好	○	○			○					16.4g
	1902	E-13	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.3	3.1	0.8	研磨	研磨, 条痕	沈線	黒褐	にぶい黄褐	良好	○	○			○					12.0g
	1903	E-19	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.6	3.5	0.6	研磨	研磨	沈線	にぶい黄橙	褐灰	良好	○	○			○					13.1g
	1904	D-26	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.9	4.8	1.0	ナデ	ナデ, 打ち欠き	沈線	灰黄褐	暗褐	良好	○	○			○					23.0g
	1905	E-13	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.2	5.0	1.0	打ち欠き	打ち欠き	沈線	灰褐	にぶい橙	良好	○	○			○		○			34.2g
	1906	C-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.0	3.8	0.5	打ち欠き	打ち欠き	沈線	暗褐	暗褐	良好	○	○			○			○		11.3g
	1907	D-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.1	3.5	1.1	条痕, 打ち欠き	条痕, 打ち欠き	沈線	にぶい褐	にぶい褐	良好	○	○			○			○		20.5g
	1908	C-26	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.3	4.0	1.0	条痕, ナデ	ナデ, 打ち欠き	沈線	灰黄褐	にぶい黄褐	良好	○	○			○		○	○		22.0g

第2-22表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(19)

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-125	1909	D-12	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.4	3.7	0.8	打ち欠き, ナデ	ナデ, 打ち欠き	沈線	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○	○		○					17.6g
	1910	C-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	9.0	7.8	1.0	条痕, 打ち欠き 研磨	条痕, 打ち欠き 研磨	－	にぶい黄	にぶい黄	良好	○	○			○			○		96.0g
	1911	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	6.8	6.6	0.8	研磨	研磨	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○		○	○					34.9g
	1912	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	7.0	6.3	1.0	ナデ, 研磨	条痕, 打ち欠き 研磨	－	にぶい黄褐	黒褐	良好	○	○			○		○			46.2g
2-126	1913	D-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.5	5.2	0.7	条痕, 研磨	条痕, 研磨	－	オリーブ黒	褐灰	良好	○	○			○					24.4g
	1914	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.9	5.9	0.9	条痕, 研磨	条痕, 研磨	－	にぶい橙	黒	良好	○	○			○					35.3g
	1915	C-23	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	6.7	6.0	1.0	研磨, ナデ	研磨, ナデ	－	赤褐	にぶい赤褐	良好	○	○			○		○	○		47.4g
	1916	D-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.0	4.3	0.8	研磨	ナデ, 研磨	沈線	黒褐	褐灰	良好	○	○			○					24.2g
	1917	D-17	Ⅱc Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.7	4.5	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	にぶい黄橙	灰黄褐	良好	○	○			○					17.2g
	1918	D-12	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.2	3.6	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					堅果類圧痕 15.9g
	1919	C-21	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.7	3.2	0.9	研磨, ナデ	条痕, 研磨	－	明赤褐	暗赤褐	良好	○	○			○					15.4g
	1920	D-21	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.0	3.6	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	にぶい黄橙	にぶい黄褐	良好	○	○			○					13.0g
	1921	D-20	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.9	3.9	0.7	ナデ, 研磨	条痕, 研磨	－	浅黄橙	橙	良好	○	○			○					12.5g
	1922	C-13	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.5	3.5	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	にぶい橙	にぶい橙	良好		○	○		○					12.3g
	1923	D-19	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.7	3.5	0.8	研磨	研磨	－	褐	にぶい褐	良好	○	○	○		○					13.2g
	1924	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.5	3.3	0.5	条痕, 研磨	条痕, 研磨	－	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					7.0g
	1925	D-17	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.5	3.5	0.6	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	褐灰	橙	良好	○	○	○		○					9.6g
	1926	D-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	2.9	2.9	0.9	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	にぶい黄橙	灰黄褐	良好	○	○			○					9.3g
	1927	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.0	2.9	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	褐	褐	良好	○	○			○			○		8.0g
	1928	D-14	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.9	3.7	0.6	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	褐灰	褐	良好		○	○		○					10.1g
	1929	E-14	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	－	4.0	3.7	0.8	研磨	ナデ, 研磨	縄文	褐灰	にぶい黄橙	良好	○	○			○					15.1g
	1930	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	－	3.7	3.5	0.9	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	オリーブ黒	灰	良好	○	○			○			○		13.8g
	1931	E-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	－	5.5	5.1	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	灰白	褐灰	良好	○	○			○					31.9g
2-127	1932	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	－	7.7	7.0	1.1	ナデ, 研磨	指頭圧痕, ナデ 研磨	－	褐灰	にぶい黄橙	良好	○	○			○					白色土 70.0g
	1933	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	－	8.0	8.0	0.8	ナデ, 打ち欠き	ナデ	－	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○					61.9g
	1934	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	－	6.1	5.3	1.6	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	にぶい黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					63.1g
	1935	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	－	6.2	6.0	1.3	ナデ, 一部研磨	ナデ, 一部研磨	－	橙	橙	良好	○	○			○					44.1g
	1936	E-14	Ⅲa	円盤形土製品	底部	後期	－	6.7	6.5	1.1	ナデ, 研磨	ナデ	－	にぶい黄橙	橙	良好	○	○			○			○		42.1g
	1937	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	底部	後期	－	6.1	6.0	1.4	ナデ, 研磨	指頭圧痕, ナデ	－	橙	灰白	良好	○	○	○		○			○		56.2g
	1938	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	－	6.1	5.8	1.2	打ち欠き	打ち欠き	網代痕	黄褐	にぶい黄	良好	○	○			○					45.3g
	1939	D-27	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	－	4.8	4.6	1.1	ナデ, 研磨	ナデ	－	赤褐	赤褐	良好	○	○			○					30.4g
	1940	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	－	5.1	5.0	1.6	指頭圧痕 打ち欠き	打ち欠き	もじり痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	○	○			○					42.5g
	1941	E-18	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	－	5.1	4.4	1.5	条痕, 打ち欠き	ナデ	－	赤褐	橙	良好	○	○			○			○		49.2g
	1942	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	－	4.6	4.0	0.8	打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	鯨骨圧痕	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○			○		18.1g
2-128	1943	D-13	Ⅲ	土製品	底部	後期	－	9.0	8.6	1.0	ナデ, 研磨	ナデ	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	○	○			○					穿孔 74.2g
	1944	E-14	Ⅲa	土製品	胴部	後期	－	5.5	5.1	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	浅黄橙	浅黄橙	普通	○				○		○			穿孔 21.3g
	1945	E-11	Ⅲb	土製品	胴部	後期	－	4.8	4.6	0.8	ナデ	ナデ, 研磨	－	にぶい褐	にぶい橙	良好	○	○			○					穿孔 18.9g
	1946	E-14	Ⅲ	土製品	胴部	後期	－	4.4	4.0	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	沈線, 刺突	にぶい黄褐	褐灰	良好	○	○			○		○			穿孔 17.7g
	1947	F-13	Ⅲa	土製品	胴部	後期	－	4.2	4.0	1.0	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	灰黄褐	黒褐	良好	○	○			○			○		穿孔 18.8g
	1948	E-18	Ⅲ	土製品	胴部	後期	－	3.3	3.1	0.6	ナデ	ナデ, 研磨	－	にぶい橙	褐灰	良好	○	○			○					穿孔 7.6g
	1949	C-26	Ⅱ～Ⅲ	土製品	胴部	後期	－	2.5	2.5	0.7	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	－	赤褐	灰褐	良好	○	○			○					穿孔 5.3g
	1950	E-14	Ⅲ	土製品	胴部	後期	－	4.2	4.1	0.9	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	－	にぶい赤褐	黒褐	良好	○	○			○		○			穿孔 11.6g
	1951	F-13	Ⅲa	土製品	胴部	後期	－	5.3	4.0	0.9	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	－	褐灰	黒褐	良好	○	○			○					穿孔 20.2g
	1952	E-13	Ⅲa	土製品	胴部	後期	－	5.7	2.4	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	○	○			○					穿孔 14.8g
	1953	E-13	Ⅲ	土製品	底部	後期	－	6.0	4.3	0.8	ナデ, 研磨	ナデ	－	にぶい橙	明褐灰	良	○	○			○			○		穿孔, 白色土 19.6g
	1954	E-12	Ⅱ	土製品	胴部	後期	－	6.0	3.0	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	にぶい黄橙	褐灰	良好	○	○			○			○		穿孔 17.3g

第2-23表　縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(20)

挿図番号	掲載番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土									備考
								口径(長軸)	底径(短軸)	器高(最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫	その他	
2-128	1955	E-17	Ⅲ	土製品	胴部	後期	－	4.0	1.6	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	明赤褐	橙	良好	○	○			○					穿孔 7.6g
	1956	E-19	Ⅲ	土製品	胴部	後期	－	3.8	3.8	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	－	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○					13.4g
	1957	F-15	Ⅱ	土製品	胴部	後期	－	4.3	3.9	0.7	条痕	ナデ, 打ち欠き	－	暗灰黄	黄灰	良好	○	○			○					17.0g
	1958	D-12	Ⅲ	土製品	胴部	後期	－	3.5	3.3	0.8	ナデ研磨	ナデ, 研磨	沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	○			○					13.3g
	1959	D-13	Ⅲ	土製品	口縁部	後期	－	5.9	4.4	1.0	ナデ	ナデ, 打ち欠き	沈線	黒褐	黒褐	良好	○	○			○		○	○		動物形 36.7g
	1960	E-19	Ⅲ	土製品	胴部	後期	－	4.8	3.9	0.8	ナデ, 研磨	条痕, 研磨	線刻	にぶい赤褐	暗赤褐	良好	○	○			○					19.1g
	1961	D-27	Ⅱ	土製品	胴部	後期	－	4.7	4.4	1.0	条痕, 一部研磨	ナデ	－	明褐	橙	良好	○	○			○			○		17.2g
2-129	1962	C-27 C-28	Ⅲ Ⅳa	鉢	胴部	中期	阿高式	－	－	－	ナデ	ナデ	凹線	にぶい赤褐	にぶい褐	良	○	○			○					
	1963	E-15	Ⅲa	鉢	貼付突帯	中期	阿高式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	◎	◎			◎			○		
	1964	E-19	Ⅲ	深鉢	口縁部	中期	春日式	－	－	－	ナデ	条痕	刺突	明赤褐	明赤褐	普通	○	○			○					
	1965	D-13	Ⅲ	鉢	口縁部	中期	春日式	－	－	－	ナデ	ナデ	突帯, 刺突	オリーブ褐	オリーブ褐	良		◎					○			
	1966	E-14	Ⅲa	深鉢	口縁部	中期	春日式	－	－	－	ナデ	ナデ	隆帯文, 刺突	褐灰	褐灰	良好	○	○		○						
	1967	E-12	Ⅲb	深鉢	口縁部	中期	春日式	－	－	－	条痕→ナデ	条痕, ナデ	貼付突帯, 刻み	灰褐	灰黄褐	やや不良	○	○								白色土→赤色顔料
	1968	E-14	Ⅲa	深鉢	口縁部	前期	轟B式	－	－	－	ナデ	ナデ, 条痕	隆帯文, 刻み, 沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	○								
	1969	D-24	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	轟B式	－	－	－	ナデ	ナデ	－	黒褐	褐灰	普通	○	○			○					
	1970	D-13	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	轟式	－	－	－	指頭圧痕, ナデ	条痕	－	橙	黒褐	普通	○	○			○					
	1971	D-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	刻み, 沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					
	1972	C-13	Ⅱ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	－	刻み, 短沈線	灰白	灰白	良好	○	○			○					
	1973	D-12	Ⅲa	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	橙	明黄灰	良好	○	○			○					
	1974	D-12	Ⅲa	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐灰	にぶい黄橙	良好	○	○			○					
	1975	D-17 E-17	Ⅲ	深鉢	口～胴部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					
	1976	E-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	黒褐	黒褐	良好	○	○			○					
	1977	D-17	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	褐灰	にぶい黄褐	良好	○	○			○					
	1978	E-15	Ⅱ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐灰	明褐	良好	○	○			○		○			
	1979	D-12	Ⅲa	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○					
	1980	B-17	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	褐灰	明褐	良好	○	○			○					
	1981	D-13	Ⅳ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	にぶい褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○					
	1982	D-15	Ⅱ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	明褐	明赤褐	良好	○	○			○			○		
	1983	C-19	Ⅱ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	明褐	にぶい褐	良好	○	○			○					
	1984	B-18	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	褐	褐	良好	○	○			○					
	1985	D-20	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	灰黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○			○		
	1986	D-20	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突	明黄褐	黄灰	良好	○	○			○					
2-130	1987	D-17 D-18 E-17	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	褐灰	灰褐	良好	○	○			○			○		
	1988	B-15	Ⅱ	深鉢	胴部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	灰褐	褐灰	良好	○	○			○		○			
	1989	D-13	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	にぶい褐	褐灰	良好	○	○			○	○				
	1990	D･E-14･15	Ⅱ	深鉢	胴部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	灰白	灰白	良好	○	○			○					
	1991	E-15	Ⅱ	深鉢	胴部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	灰白	にぶい黄橙	良好	○	○			○					
	1992	E-15	Ⅱ	深鉢	胴部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	灰白	灰白	良好	○	○			○					
	1993	C-18	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	赤褐	にぶい黄橙	良好	○	○			○	○				
	1994	C-18	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい褐	褐灰	良好	○	○			○	○				
	1995	D-14	Ⅳ	深鉢	底部	前期	曽畑式	－	－	－	ナデ	ナデ	沈線	黒褐	明赤褐	良好	○	○			○		○			
	1996	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	前期	曽畑式	4.8	4.0	0.9	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	刺突, 沈線	橙	橙	良好	○	○			○		○			
	1997	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	前期	曽畑式	5.0	4.6	0.8	打ち欠き	打ち欠き, ナデ	沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○			○					
	1998	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	前期	曽畑式	6.3	4.1	0.6	ナデ	ナデ	沈線	橙	褐灰	良好	○	○			○					
	1999	D-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	前期	曽畑式	4.0	2.1	0.7	ナデ	ナデ	沈線	橙	黒	良好	○	○			○					ススス
	2000	E-17	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	塞ノ神式	－	－	－	条痕	ナデ	貝殻押引文	黒褐	にぶい赤褐	良	○	○					◎			苦浜式？

第３節　遺物（石器・石製品）

本遺跡では，低地・低湿地のため，時代ごとの明確な層位を判断することは難しかった。ここでは，新しい時期の石器と判断したもの以外は，縄文時代後期の石器として，取り扱うこととした。

また，低地部であるＣ・Ｄ－25・26区や低湿地部であるＣ～Ｅ－12～14区に出土集中域がみられるが，エリア認定には至らなかったため，器種ごとに報告する。なお，石材分類（肉眼観察による）は第2-21表のとおりである。出土状況は，第2-131～134図のとおりである。

石器は，Ⅱ層とⅢ層から2380点出土（剥片・チップ含）している。各石器数の内訳は，器種毎に記載しており，石器組成については，総括にまとめてあるので，参照して欲しい。

１　打製石鏃（第2-135～142図）

Ⅱ・Ⅲ層から出土した打製石鏃，未製品，破損品を含めて406点出土しており，そのうち166点を図化（Ⅰａ類21点・Ⅰｂ類12点・Ⅱａ類47点・Ⅱｂ類18点・Ⅲａ類24点・Ⅲｂ類23点・Ⅳ類４点・Ⅴ類４点・Ⅵ類13点）した。包含層と時期区分が明確ではないが，土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属する打製石鏃と推定される。

主に形状を観察して，以下のように分類を行った。

打製石鏃分類基準

Ⅰ類　基部が平坦で抉りのない平基式無茎鏃
- ａ　正三角形状を呈するもの
- ｂ　二等辺三角形状を呈するもの

Ⅱ類　正三角形状を呈し，抉りがあるもの
- ａ　基部の抉りが浅いもの
- ｂ　基部の抉りが深いもの

Ⅲ類　二等辺三角形状を呈し，抉りがあるもの
- ａ　基部の抉りが浅いもの
- ｂ　基部の抉りが深いもの

Ⅳ類　先端部が錐状を呈するもの

Ⅴ類　欠損のため，全体形状が不明なもの

Ⅵ類　未製品

なお，石材の産地鑑定は肉眼観察によるものである。図化しなかったものの多くは，Ⅴ類である。

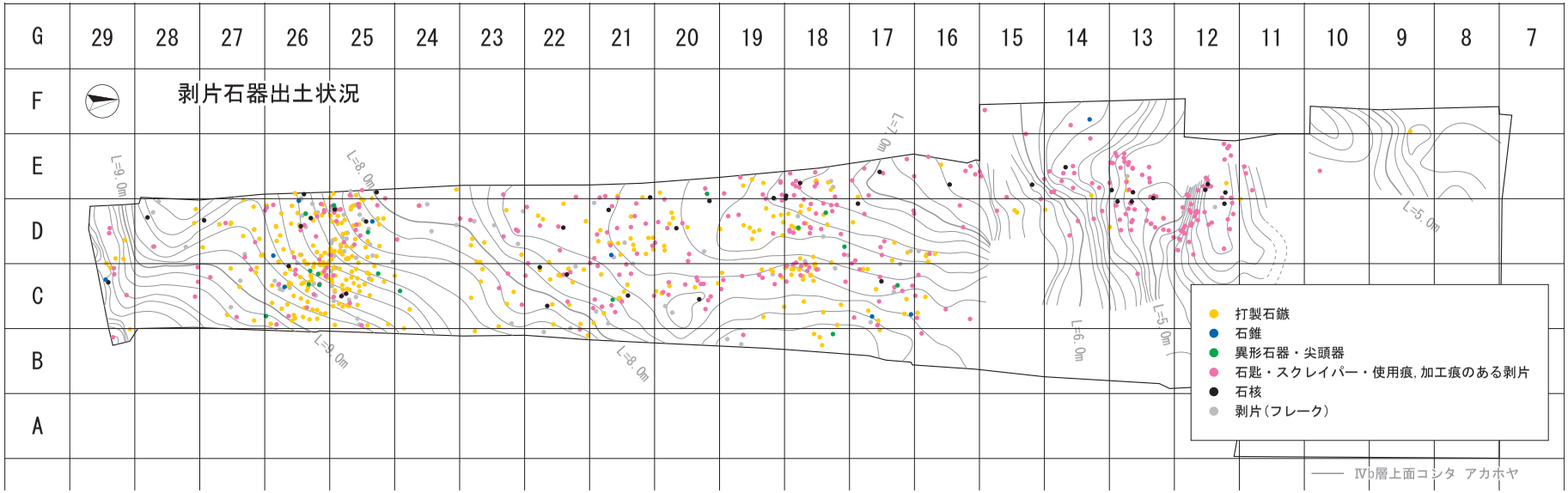
Ⅰａ類（第2-135図2001～2021）

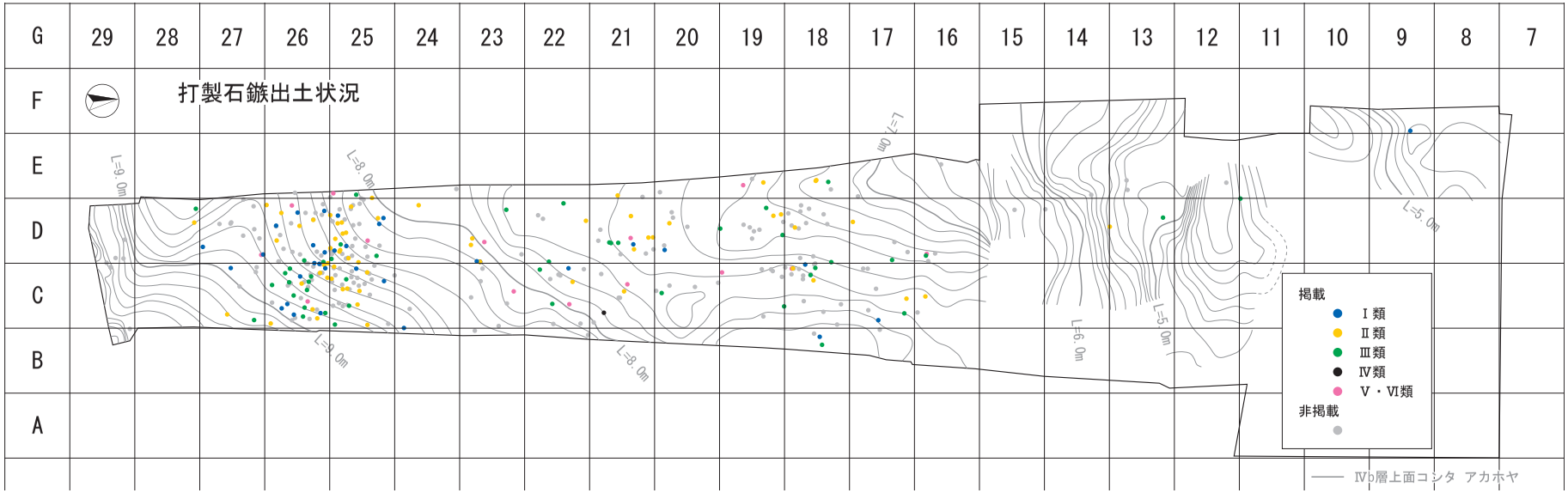
基部が平坦で抉りがない平基式無茎鏃で，正三角形状を呈するものである。

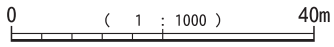
2001～2015は，腰岳産に類する黒曜石製である。2001

第2-24表　中津野遺跡における石材分類

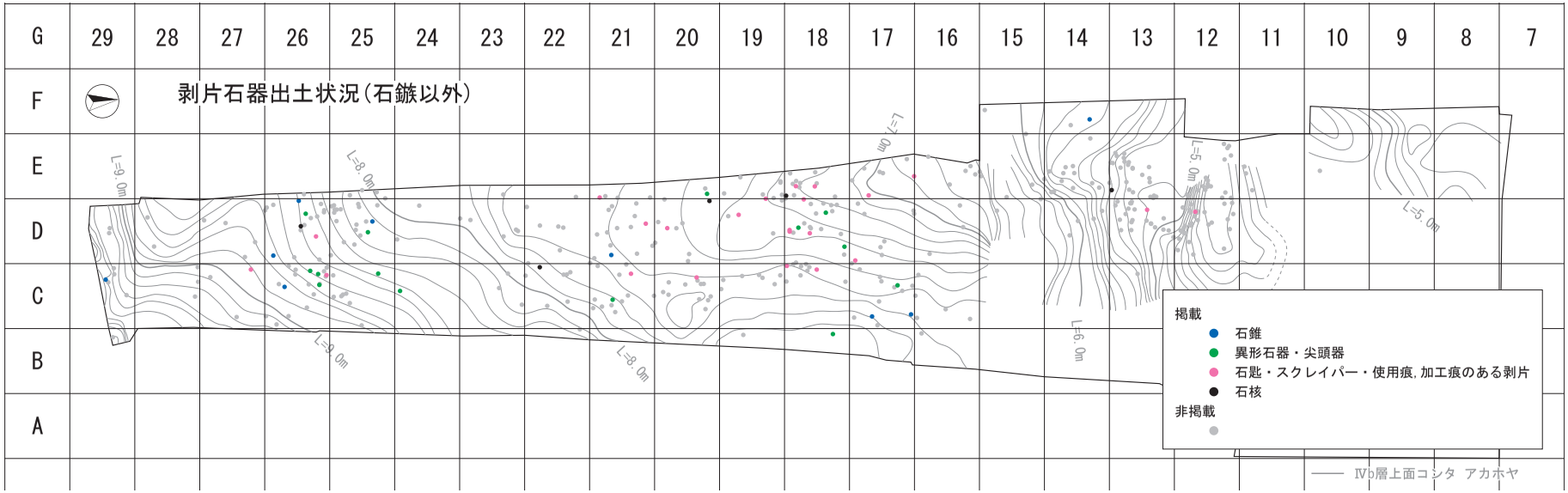
石材1	石材2	概要	備考
黒曜石（OB）	1	不純物を含み，漆黒で光を通さないものを包括した。薩摩川内市樋脇町上牛鼻，いちき串木野市平木場，いちき串木野市宇都等の原産地資料に類似する。	上牛鼻，平木場・宇都系
	2	光を通し，不純物を大量に含むものを総括した。 鹿児島市三船，伊佐市日東，五女木の原産地に類似する。	三船・日東系
	3	飴色～黒色を基調として，不純物をほとんど含まない良質や自然面が磨りガラス状を呈するものを包括した。えびの市桑ノ木津留，伊佐市上青木の資料に類似する。	桑ノ木津留・上青木
	4	黒色で不純物をほとんど含まない良質のものを包括した。佐賀県伊万里市腰岳産の資料に類似する。	腰岳系
	5	青灰色で不純物が少ないものを包括した。長崎県針尾や長崎県淀姫等西北九州の原産の資料に類似する。	西北九州系（針尾・淀姫）
	6	不純物をあまり含まない灰色のものを包括した。椎葉川周辺のものを原産地とするものに類似する。	椎葉川系
	7	乳白色を基調としており，微細な不純物を含むものを包括した。佐賀県姫島を原産地とするものに類似する。	姫島系
	8	霧島系	霧島系
安山岩（AN）	－	色調は，黒灰色～青灰色系である。 石英を質の不純物を含み，基調は滑らかでガラス質に富む質感のもの。 不純物を含み，基調はややざらついた質感のもの。	サヌカイト含む
チャート（CH）	－	色調は，白色～灰色系，青灰色～緑色系，黒色系と様々である。 珪質分に富み，光沢感を有するもの。 珪質分にやや乏しく，透明感や光沢感がほとんどないもの。	
ホルンフェルス（HF）	－	色調は，黒～暗灰色系，茶色～ベージュ系，白色系と様々である。 熱変成した泥岩～頁岩質のもので粒子が比較的細かいもの。	
頁岩（SH）	－	色調は，暗灰色～灰色，黒色～暗灰色系と様々である。 珪質分に非常に富み，光沢のあるもの。 珪質分がほとんどなく，無光沢で，節理が発達せず，緻密で良質なもの。	
砂岩（SA）	－	色調は，暗灰色～灰色系である。 砂粒，石英粒が集合して固まった堆積岩の一種である。触ると粒感が強いものを本類に含めた。	
めのう系（CC）	－	めのう・玉髄・石英・蛋白石・鉄石英・水晶などを総称して，本類に含めた。	
粘板岩（ＣＬ）	－	灰～青灰色。層状構造をなし，剥落するもの。	
花崗岩・閃緑岩（ＧＲ）	－	石英・カリ長石・雲母・角閃石・輝石などを主成分鉱物として含む。	
凝灰岩（ＴＵ）	－	気泡を多く含み，密度が低く軽い。軟質。	
その他	－	蛇紋岩や軽石など。	

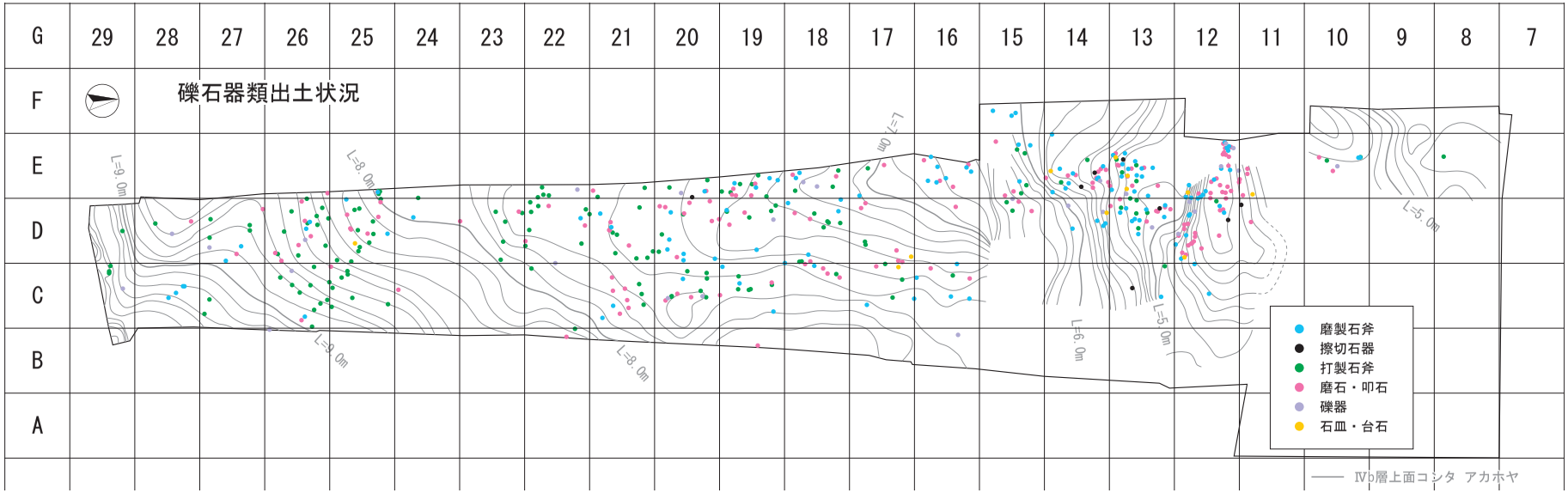






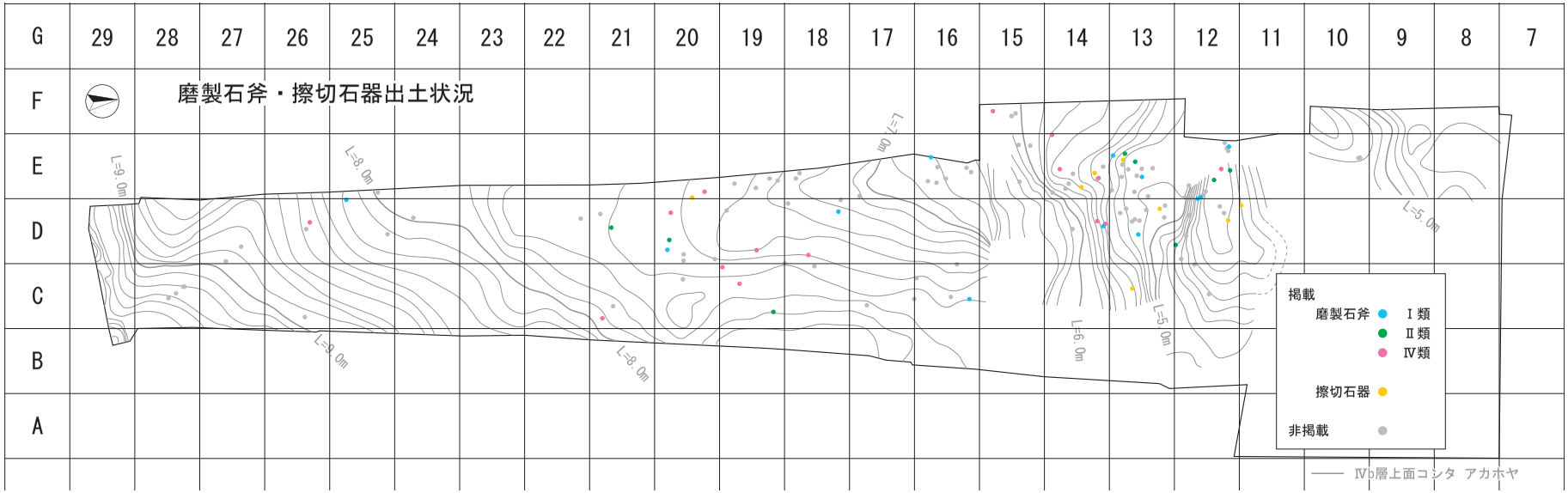
第２-131図　縄文時代後期石器・石製品出土状況図（１）

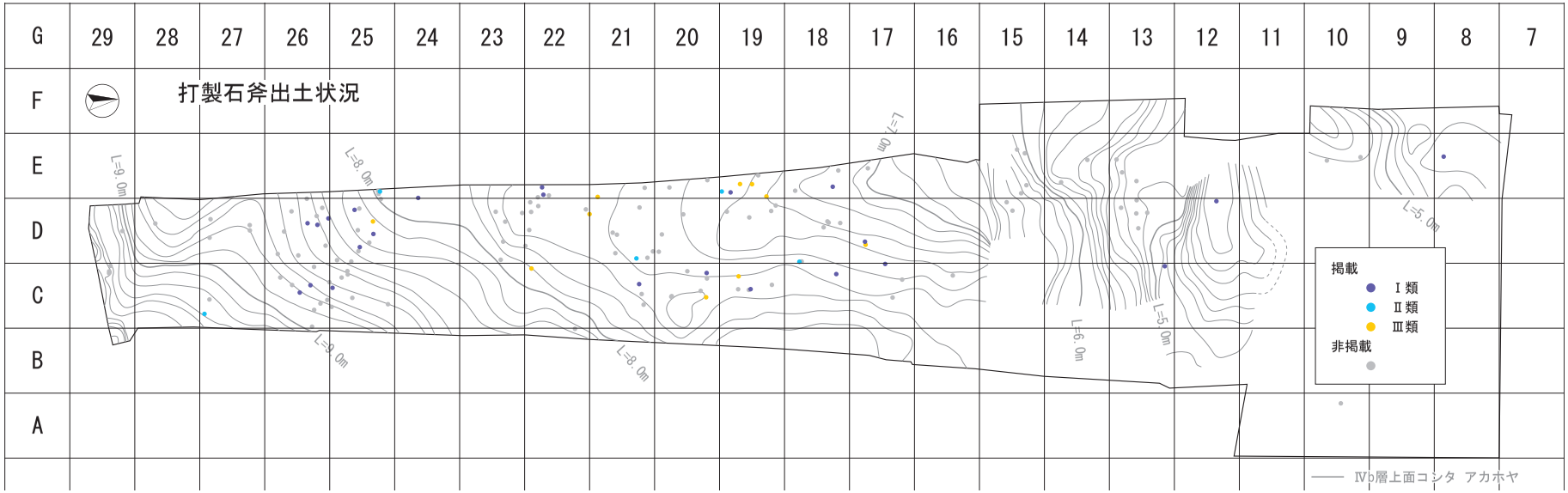


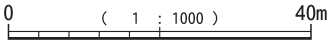


0 (1 : 1000) 40m

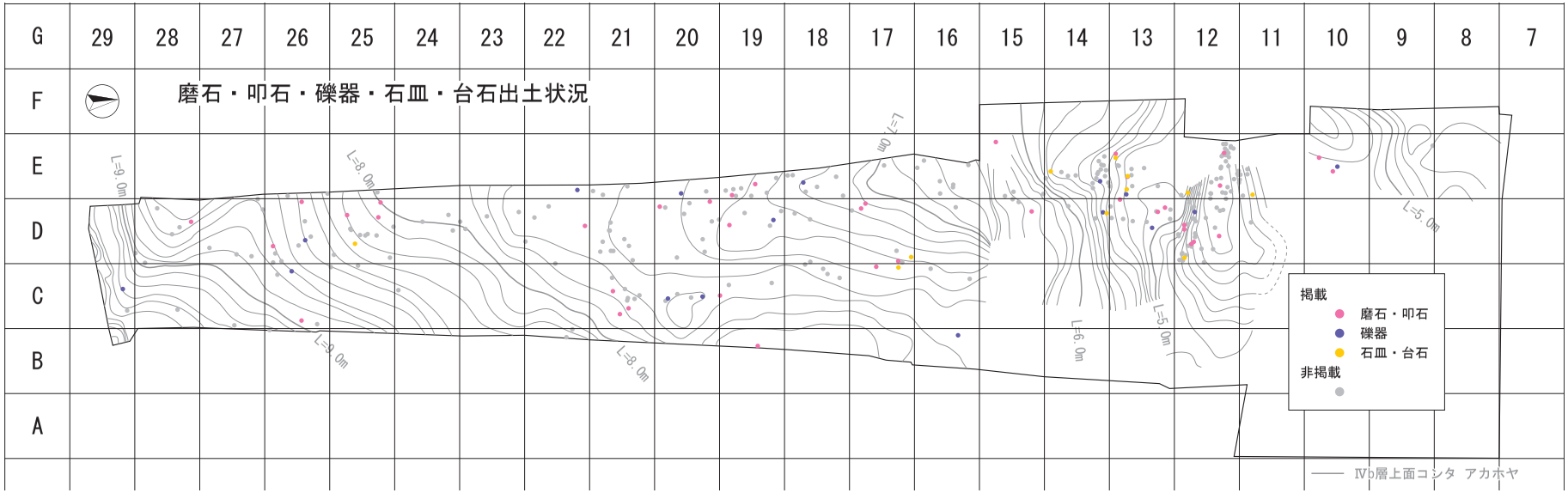
第２-132図　縄文時代後期石器・石製品出土状況図（２）

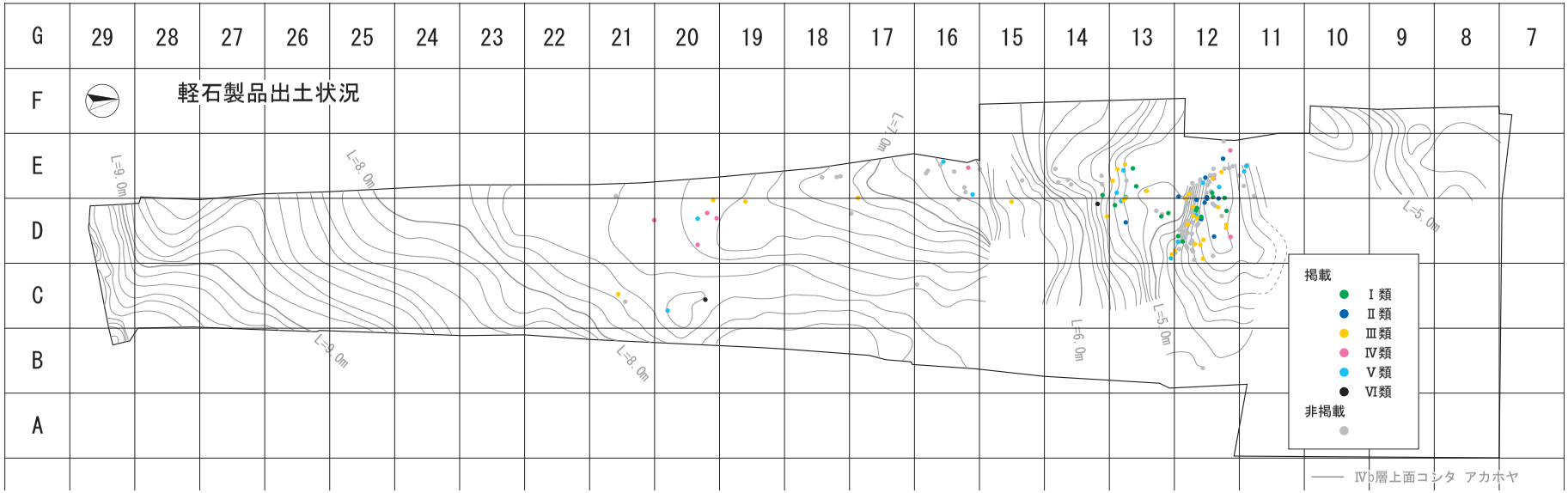






第２-133図　縄文時代後期石器・石製品出土状況図（３）





第２-134図　縄文時代後期石器・石製品出土状況図（４）

は表面基部には丁寧に押圧剥離を施すが，裏面は不純物のためか粗い調整である。2002は表面に丁寧な押圧剥離を施すが，裏面の調整は粗く自然面を残す。2003は左脚部を欠損するが，丁寧な押圧剥離を施す。2005は，全体に押圧剥離を施す。2007～2011は，丁寧な作りである。2012は，小型で薄く調整される。2013は側辺の整形が粗く，未製品の可能性もある。2014は不純物が多く，粗い整形である。2015は比較的厚みがあり，裏面は主要剥離面を大きく残す。2016～2020は，安山岩製である。2016は，側縁の調整が粗雑である。2017は丁寧な調整で，側縁は鋸歯状を呈する。2018は小型の石鏃で，丁寧な調整である。2019は，全体に丁寧な押圧剥離を施す。

Ⅰｂ類（第2-135・136図2022～2033 ）

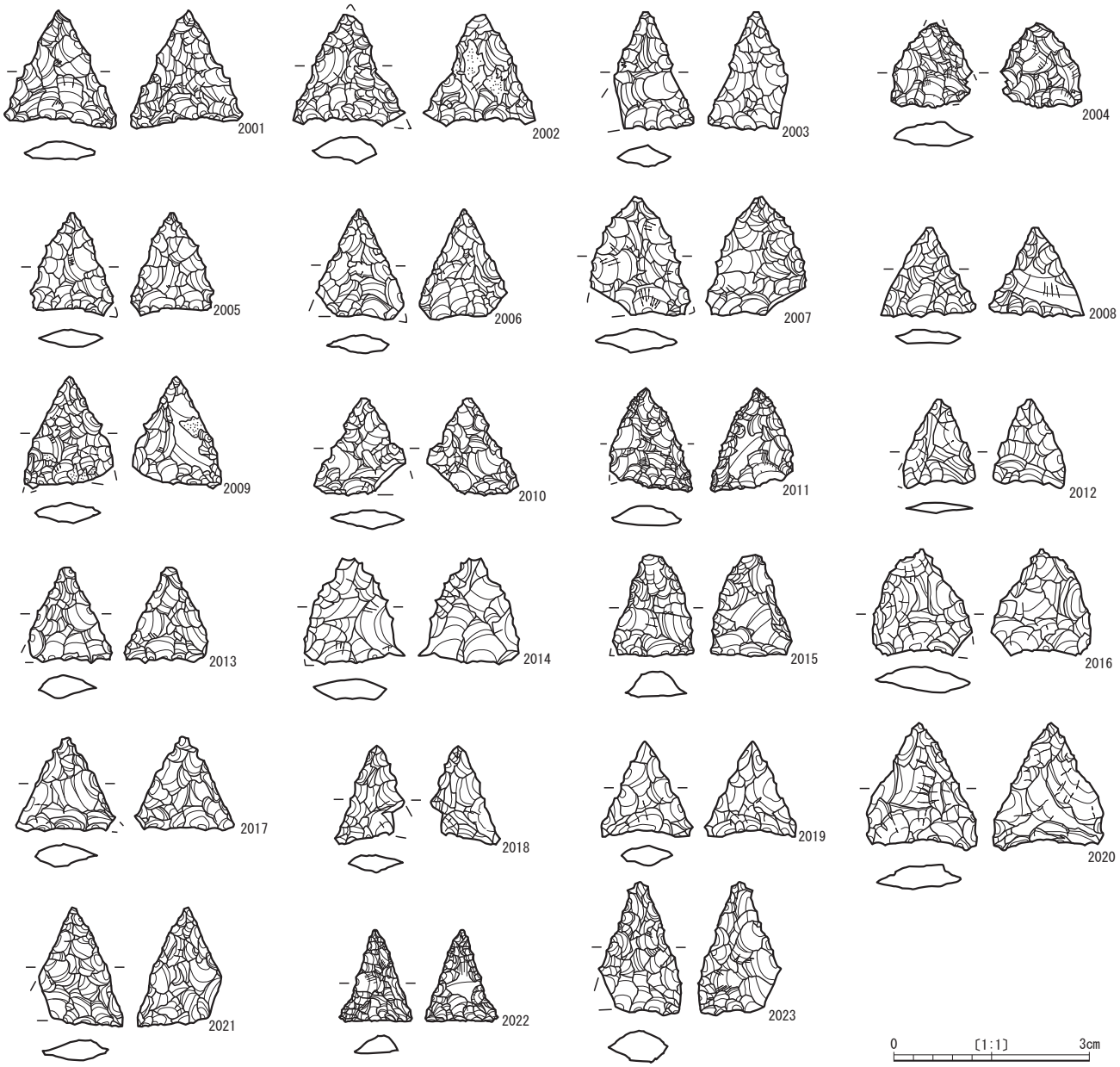
基部が平坦で抉りがない平基式無茎鏃で，二等辺三角形状を呈するものである。

2022～2024は，腰岳産に類する黒曜石製である。2022はⅠ類では一番小型で，裏面は平坦に仕上げる。2023は，先端部を薄く仕上げる。2024は体部下位に最大幅をもち，基部がわずかにすぼまる形状を呈す。2026～2030は，安山岩製である。2026はⅠ類では大型の製品で，側辺・基部に押圧剥離を施す。2028は，先端部を欠損する。2030は異質な形状であるが，基部に押圧剥離を施す平坦な基部調整のため石鏃と判断した。2031は，ホルンフェルス製である。2032・2033は，玉髄製である。

Ⅱａ類（第2-136・137図2034～2080）

形状が正三角形を呈し，基部の抉りが浅いものである。

2034～2052は，腰岳産に類する黒曜石製である。2034は丁寧な調整だが，右脚部が長脚となる。2036は左脚部



第2-135図　打製石鏃（１）Ⅰ類

を，2037は両脚部先端をわずかに欠損する。2038～2040は，小型でやや幅広の形状を呈す。2038は側縁が内湾気味で，2040は抉りがわずかに深い。2041は，側縁・基部の調整が同じである。2042は，Ⅱ類では最も小型である。2043は，丁寧な調整で全体的に薄い。2044～2047は部分的に欠損するが，残存部の形状から浅い凹基と推測した。2048は幅が広く，横長な形状である。2049は，丁寧な調整で薄い。2051は裏面の主要剥離面の平坦面を生かし，平坦に仕上げる。2053・2054は上牛鼻産に類する黒曜石製で，法量は違うが押圧剥離を丁寧に施し，側縁は細かい鋸歯状を呈す。

2055～2072は安山岩製で，わずかに縦長の石鏃が多い。2057は，わずかに深い抉りをもつ。2059～2064は，基部を欠損する。2059は，側縁がわずかに内湾する。2062は先端部から剥離が生じており，衝撃剥離の可能性がある。2066は，先端部がわずかに欠損する。2069は，両側縁部が弧状に内湾する。2072は表裏面に主要剥離面を残し，先端部がわずかに欠損する。2073は玉髄製で，丁寧に押圧剥離を施す。2074は凝灰岩製で，先端部と右脚部を欠損している。2075～2079は抉りが浅く，扇形を呈する一群で，異形石器に分類される可能性もある。2075・2079は，扇形で形状が類似する。2075は腰岳産に類する黒曜石製，2079は安山岩製である。2076～2078・2080は腰岳産に類する黒曜石製で，2076・2078は先端部が錐状を呈しⅣ類ともとれるが，2075・2077・2079に類似するため，ここに記載した。2080は欠損が多く，本来の向きは不明である。一部分のみ押圧剥離を施し，石鏃未製品あるいは石匙のつまみ部分等の可能性もある。

Ⅱｂ類（第2-138図2081～2098）

正三角形を呈し，基部の抉りが深いものである。

2081～2090は，腰岳産に類する黒曜石製である。2081は，右脚部を欠損する。2082は丁寧な作りで，2083は側縁がわずかに内湾する。2084は，全体的に薄く整形される。2085は，形状の整った整形である。2086は全体的に薄く整形され，側縁は外湾する。2087～2089は，脚部を欠損する。2090は，右脚部がやや長脚の石鏃である。2091は，上牛鼻産に類する黒曜石製である。2092～2097は，安山岩製である。2092は，右側縁に丁寧な押圧剥離を施している。2093は側縁が外湾し，全体的に団栗状の形状を呈す。2095は丁寧な整形で，押圧剥離を施す。2097は左側縁部の不純物のため，少し変形した形状を呈す。2098は玉髄製である。幅広の石鏃で，丁寧な押圧剥離を施す。

Ⅲａ類（第2-139図2099～2122）

二等辺三角形状を呈し，基部の抉りが浅いものである。

2099～2105は，腰岳産に類する黒曜石製である。2099～2101は，やや大型の石鏃である。2100は左脚部，2101は先端部がわずかに欠ける。2102は，全体に丁寧な押圧剥離を施す。2106～2121は，安山岩製である。2106～2114は，比較的大型の石鏃である。2106は丁寧な整形で，全面に押圧剥離を施す。2107は厚みがあり，粗雑な整形で未製品の可能性もある。2108は，先端部に二次的な剥離が生じている。2109は丁寧な調整で，押圧剥離を施す。2110～2112は，整形が粗雑である。2113・2114は他より縦長な石鏃で，側縁が内湾し弧状を呈す。2116～2121は，丁寧な整形を施す。2116は縦長の石鏃で，2121はⅢ類では一番小型である。2122はホルンフェルス製で風化しているが，表裏面に主要剥離面を残し，右脚部がわずかに欠損する。

Ⅲｂ類（第2-140図2123～2145）

二等辺三角形状を呈し，基部の抉りが深いものである。

2123～2129は腰岳産に類する黒曜石製で，全体的に丁寧な押圧剥離を施す。2123は，縦横比が1.7で縦長である。2129は非常に丁寧な調整で，断面三角形になるよう正面と裏面で剥離方向を意図的に変え，基部が張り出す特徴的な形状をしている。2130～2133は，針尾産に類する黒曜石製である。2131は本遺跡最大の石鏃で，丁寧な整形で脚部先端部を平坦に調整する。2130は側縁が内湾し，弧状を呈す。2133は側縁が鋸歯状を呈し，基部の抉りも深い。2134は上牛鼻産に類する黒曜石製で，抉りが深く，両側縁が外湾する形状を呈す。2135～2143は，安山岩製である。2137は，抉りが非常に深い。2142は両側縁が内湾し弧状を呈するが，基部で外湾する。2143は両側縁が内湾し弧状を呈して，細身の形状である。2144・2145は，ホルンフェルス製である。2144は，表裏面に主要剥離面を残す。2145は，風化が進んでいる。抉りが深い。

Ⅳ類（第2-141図2146～2149）

先端部が，錐状を呈するものである。

2146は，安山岩製である。縦長で，欠損した先端部を含めると3.0㎝程の長さになる。2147～2149は，腰岳産に類する黒曜石製である。2147・2148は，全体的に整形が粗雑である。2149は先端部を錐状に作り出すために，深い剥離を施す。

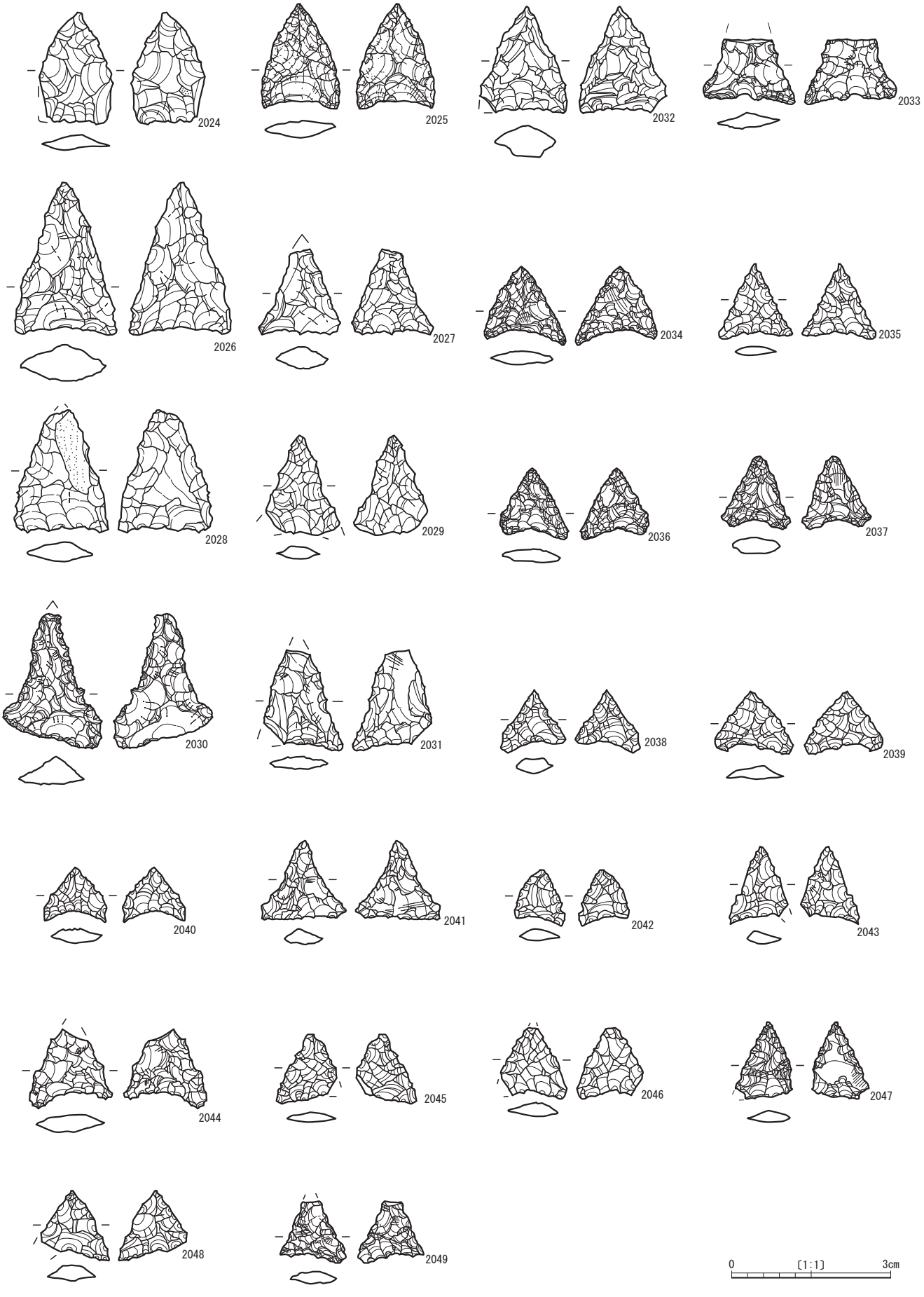
Ⅴ類（第2-141図2150～2153）

欠損のため全体形状が，不明なものである。

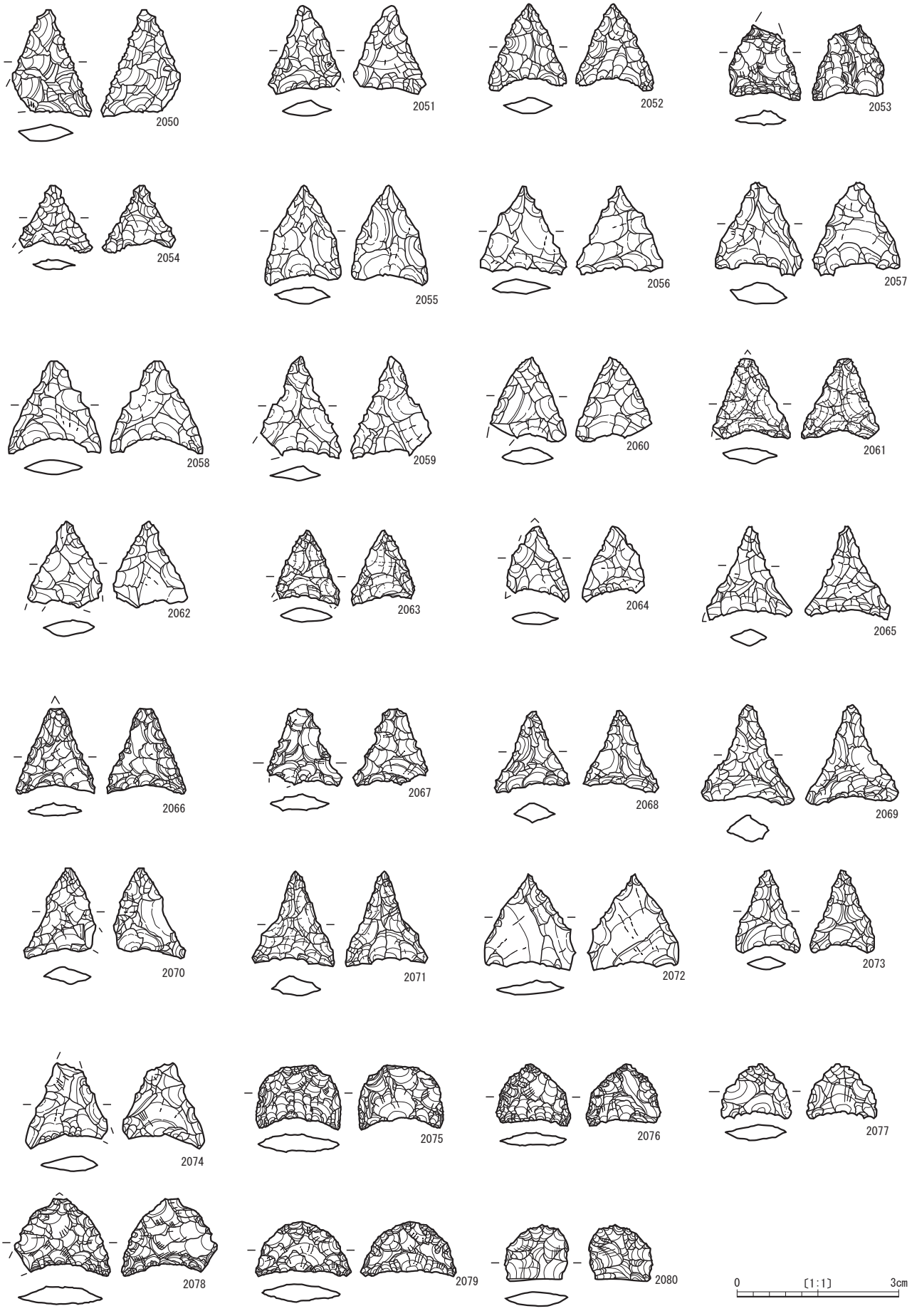
2150・2151は腰岳産に類する黒曜石製で，不純物を境に下部が欠損している。2152は安山岩製で，丁寧な押圧剥離を施す。2153は玉髄製で，丁寧な押圧剥離を施す。

Ⅵ類（第2-142図2154～2166）

Ⅵ類は，未製品としたものである。2154～2161は，腰岳産に類する黒曜石製である。多くの石鏃は，主要剥離面を残し，押圧剥離を一部施す。2159は表裏面に先行する剥離面を残しているが，周縁に丁寧な押圧剥離を施す。2161は，背部に礫面を残したまま側縁・基部の整形を行っている。裏面は主要剥離面が残り，基部のみに押



第2-136図　打製石鏃（２）Ⅰ類・Ⅱ類



第2-137図　打製石鏃（３）Ⅱ類

圧剥離を施す。2162は針尾産に類する黒曜石で，基部を欠損する。2163・2164は安山岩で，表裏面に主要剥離面を残す。2164は縦長で，基部形成がみられる。2165はホルンフェルス製で，側縁の一部に調整がみられる。2166は表裏面に素材剥離の剥離面を残し，基部を欠損する。

２　石錐（第2-143～144図2167～2180）

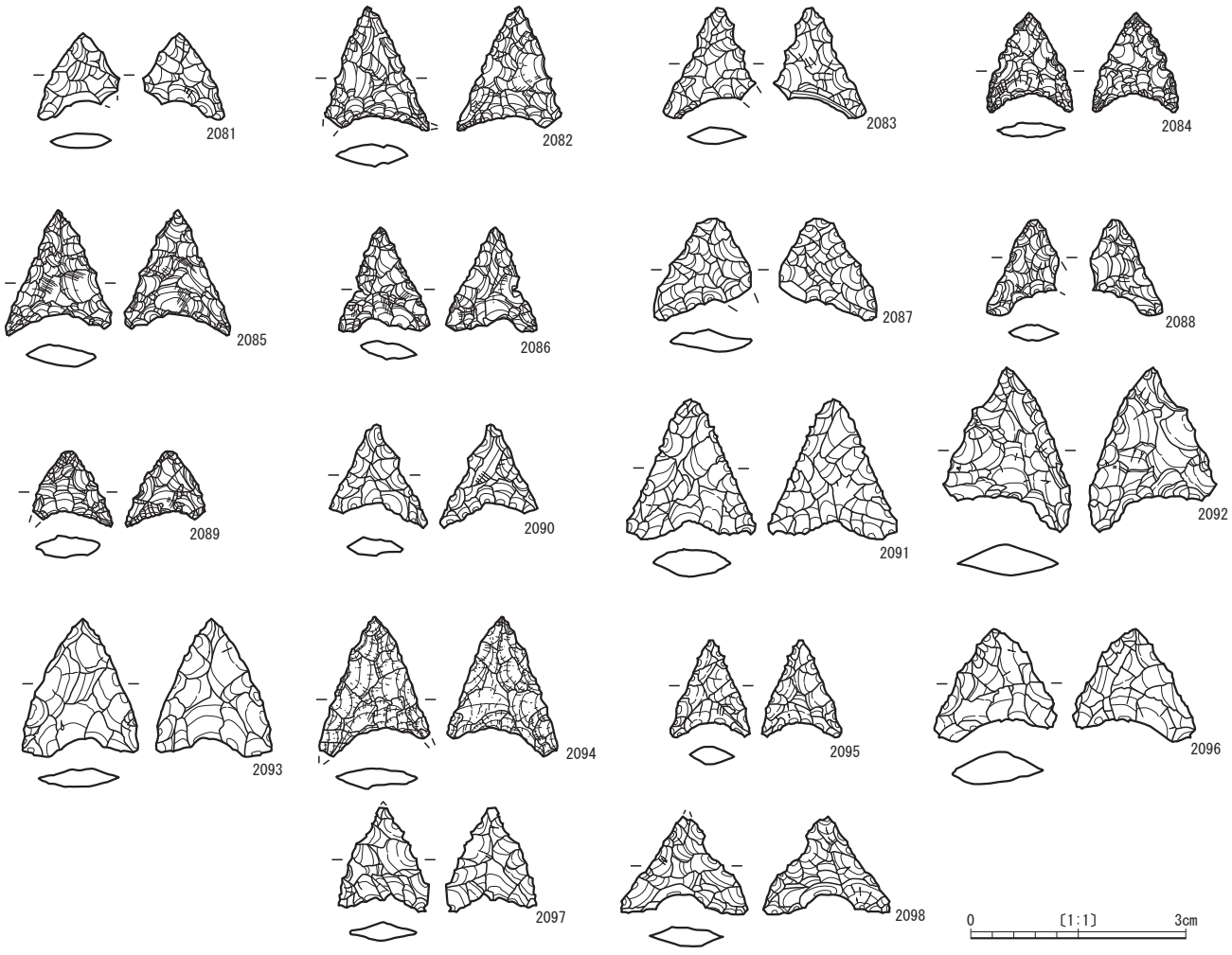
石錐は表土・Ⅱ・Ⅲ層から14点出土し，全て図化した。

主に縄文時代後期に帰属する石錐と推定される。2167は腰岳産に類する黒曜石製で，正面は均等に剥離が入るが，裏面は規則性を欠く。両端とも潰れている。2168は腰岳産に類する黒曜石製で，先端部が潰れて丸みを帯びるため回転穿孔具としたが，石鏃の脚部の一部の可能性もある。2169は，安山岩製で小型だが，厚みのある細片を素材とする。錐部の稜上にわずかに剥離がみられる。2171は，安山岩製の不定形剥片の周縁を加工している。錐部先端は丸く潰れ，わずかに光沢を帯びる。2172は安山岩製で，つまみ部は背面からの剥離で整形し，錐部は，両面から剥離調整を施す。先端を欠損する。2173は，安山岩製でつまみ部は欠損する。錐部は両面から丁寧な剥離を施しており，断面が菱形となる。先端も欠損するが，刺突用と考えられる。2174は，安山製で薄い剥片の側縁のみ加工する。先端には衝撃剥離がある。2175はホルンフェルス製で，小型の横長剥片の一端に微細な加工を施し，錐部を作り出している。2176は水晶製で，方柱状の剥片の周縁を加工し整形している。錐部先端及び周辺は整形剥離と異なる微細剥離が集中し，回転剥離の可能性がある。2177はホルンフェルス製で横長の剥片の一端に加工を加え，錐部を作り出す。先端に刺突によると考えられる微細剥離がある。2178は腰岳産に類する黒曜石製で，整形段階で欠損したものの可能性がある。2179は安山岩製で，基部を打ち欠いて整形している。2180は安山岩製で，両先端部に微細な剥離を施す。

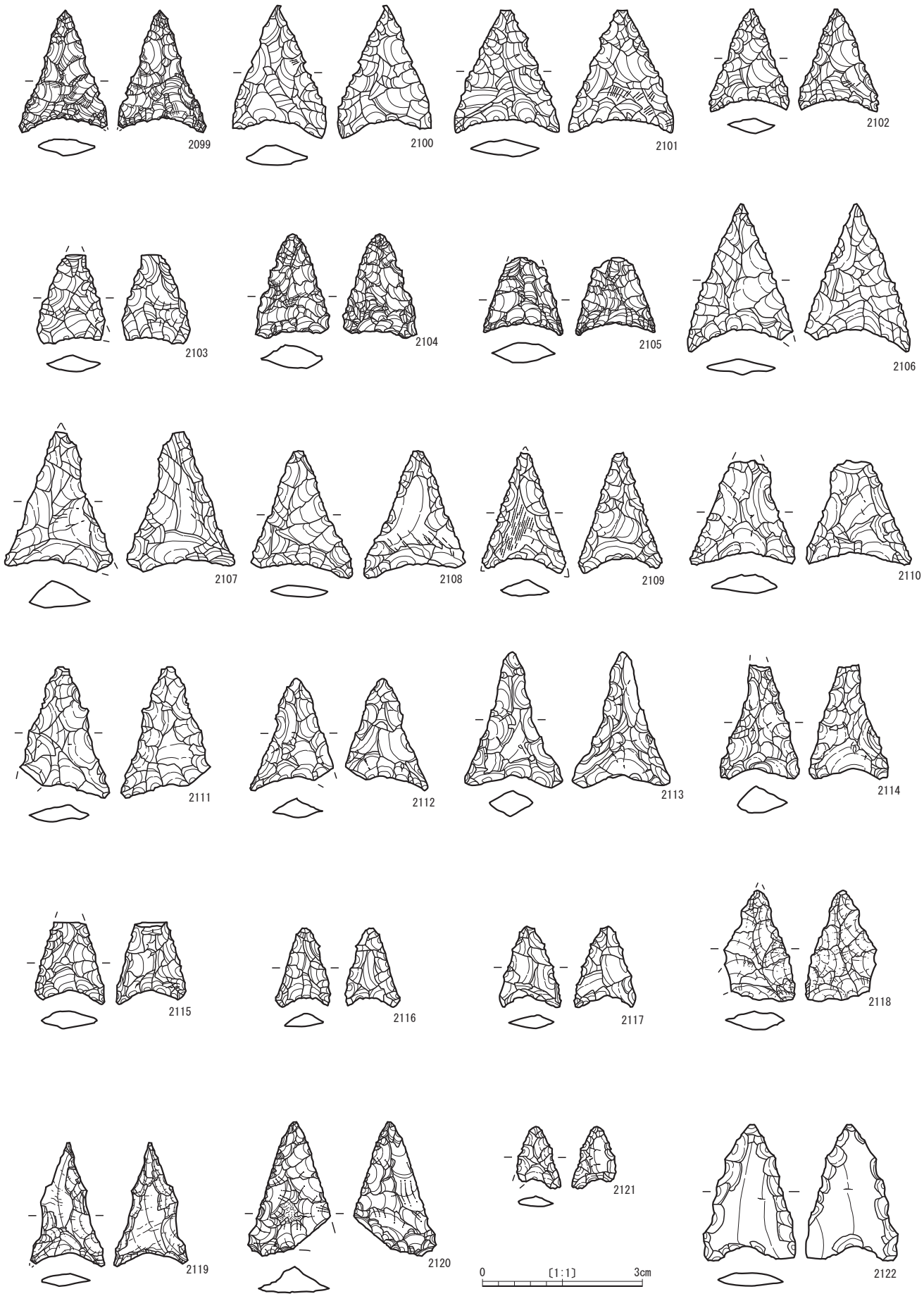
３　尖頭器（第2-144図2181～2193）

尖頭器はⅡ・Ⅲ層から13点出土しており，全て図化した。土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属する尖頭器と推定される。

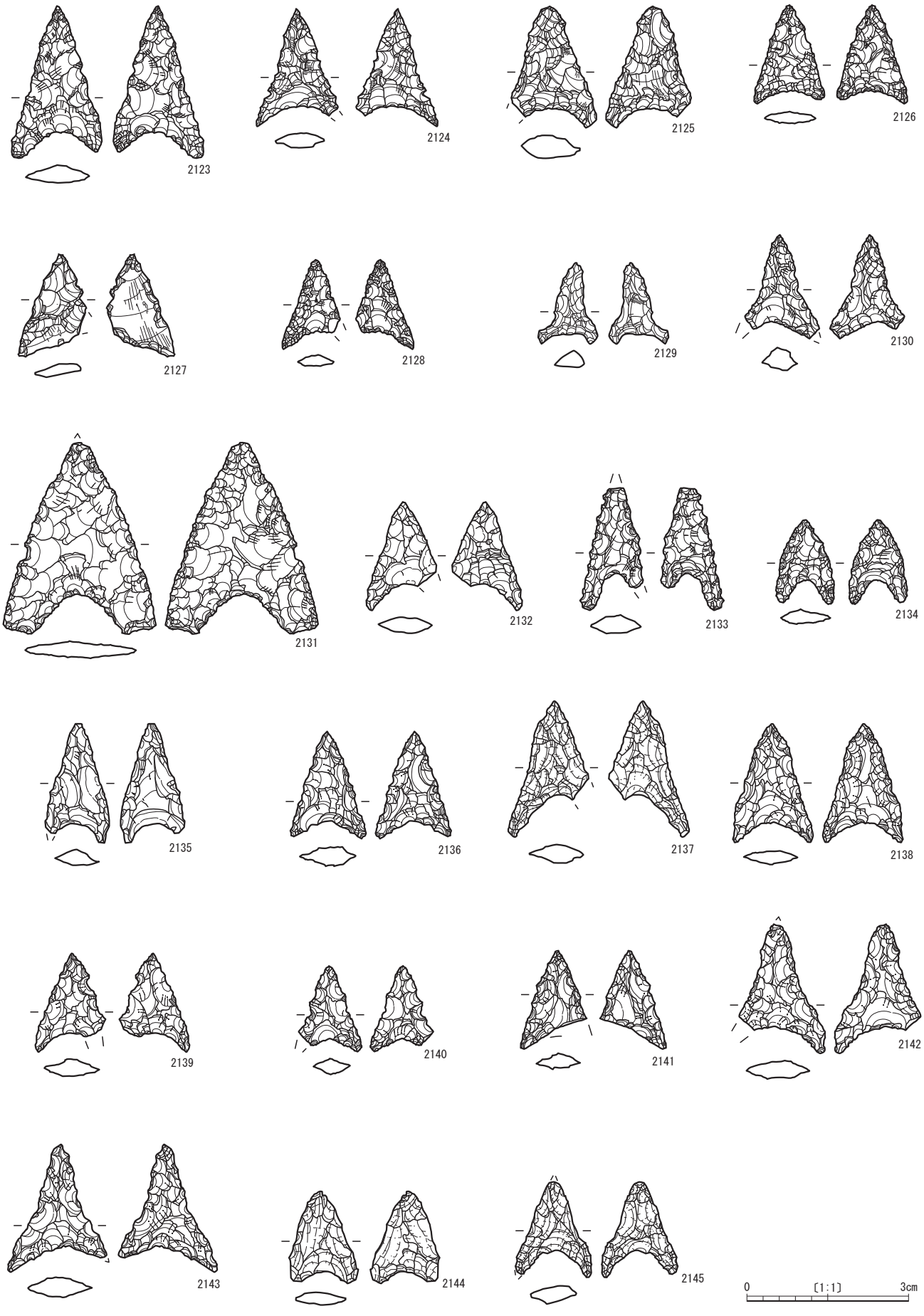
2181は安山岩製で，両面加工を施し，基部は丸く整形する。比較的大型の製品である。2182は安山岩製で，両面加工を施し柳葉形に整形する。2183は安山岩製で，両面からの剥離で細身に整形し先端のみ微細な剥離を加え



第2-138図　打製石鏃（４）Ⅱ類



第2-139図　打製石鏃（５）Ⅲ類



第2-140図　打製石鏃（６）Ⅲ類

る。石錐の可能性もある。2184は腰岳産に類する黒曜石製で，両面加工を施し基部左下端をわずかに欠損する。2185は安山岩製で，裏面はやや平坦，正面側は凸状に整形されている。両端ともわずかに欠損している。2186は腰岳産に類する黒曜石製で，左下端には正面側から細かい微細剥離で調整される。先端がわずかに欠損している。2187は腰岳産に類する黒曜石製で，表裏ともに一次加工がみられるが，縁辺への細かい剥離調整が見られないため，未製品の可能性もある。2188は安山岩製で，裏面中央稜上にわずかに摩耗がみられる。2189は安山岩製で，表裏ともに交互剥離のような加工を施す。2190は腰岳産に類する黒曜石製で，正面と右側縁上端に自然面，裏面に主要剥離面を残す。製作途中に折れが生じた可能性がある。2191は上牛鼻産に類する黒曜石製で，表裏面に先行する剥離面を残す。側縁は比較的鈍角の剥離で整えるため，鋭利ではない。左下縁を欠損している。2192は腰岳産に類する黒曜石製で，先端からの剥離面を残し，裏面はより顕著である。先端は潰れる。2193は安山岩製で，裏面に主要剥離面が残る。剥離はやや粗い。

４　異形石器（第2-144図2194）

2194は，１点出土した異形石器である。包含層および時期区分が明確でないが，土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属する異形石器と推定される。腰岳産黒曜石製で，欠損のため，形状不明である。薄いが，縁辺に微細剥離がなく未製品の可能性がある。

５　石匙（第2-145図2195～2197）

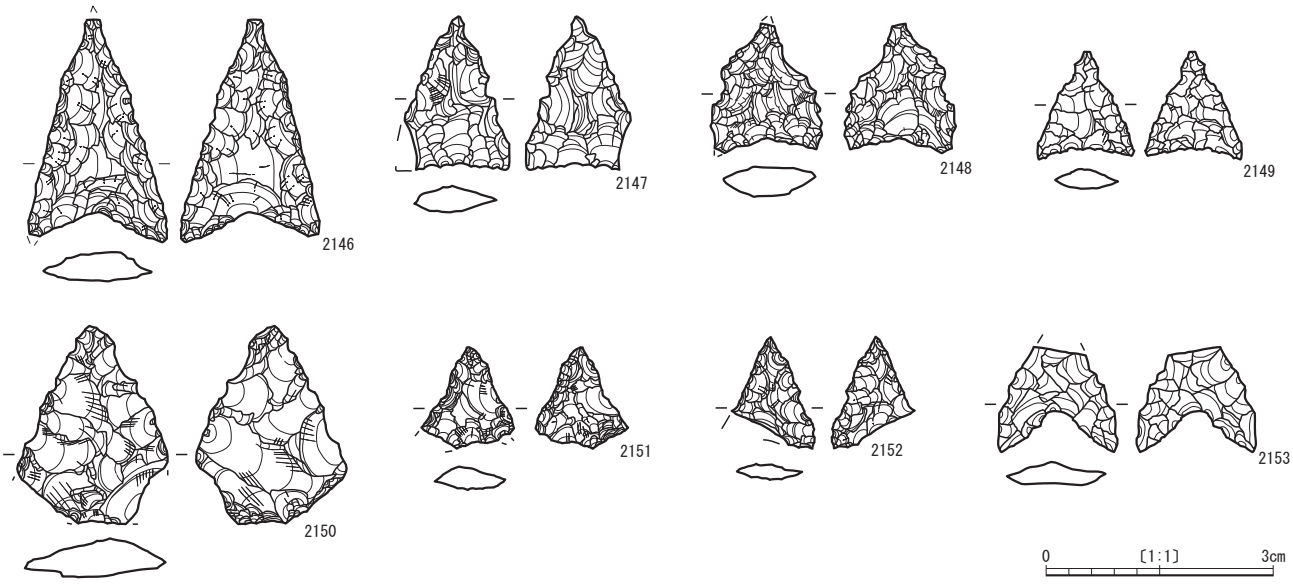
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層から出土した石匙は３点で，全て図化した。包含層の時期区分が明確でないが，土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属する石匙と推定される。

2195は横幅が12.3㎝と大型の砂岩の横長製剥片を利用し，剥離整形の後に表裏面を研磨している。2196はチャート製の不定形剥片を利用し，右側縁は，素材剥片の末端そのままである。つまみ部は両面からの加工で仕上げるが，刃部は裏面からだけの剥離で仕上げ，左下端のみ両面から剥離を加え調整している。2197は安山岩製で，つまみ部上面は自然面を残す。全形に比してつまみ部が大きい。刃部は，下縁と左側縁に形成する。素材の厚みなどから，縦形の再加工ではないと考えられる。

６　スクレイパー（第2-145・146図2198～2211）

Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層から52点のスクレイパーが出土した。破片資料が多いため，全形の分かる14点を図化した。包含層の時期区分が明確でないが，土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属するスクレイパーと推定される。

2198～2200は安山岩製，2201は腰岳産に類する黒曜石製である。側縁に加工痕があり，つまみ部が明瞭でないことからスクレイパーとしたが，石匙の可能性もある一群である。2201は正面はほぼ均等に深い剥離を求心的に施し，裏面は主要剥離面を残し，断面三角形に整形している。正面縁辺の微細剥離と裏面の整形剥離が施され，サメ歯製垂飾品を想起させる。2202は厚みのある砂岩製の不定形剥片で，両側縁に加工痕がある。左側縁が主に利用されたと考えられ，基部も軽く調整している。2203はホルンフェルス製の横長製剥片で，下縁を刃部として横刃状に使用したと考えられる。上面のみ調整加工している。2204は，ホルンフェルス製の横長剥片の下縁を使用する。刃部中心付近には潰れが生じて，わずかに凹む。2206はホルンフェルス製の幅広剥片で，表裏から調整を加え，ノッチ状の刃部を形成している。2207は安山岩製で，側縁に加工痕があることからスクレイパーとした。しかし，右下先端部に摩耗痕がみられることから，石錐の可能性もある。2208はホルンフェルス製で，細身の右側縁部は剥離で鋭利に調整されており，縦方向に図化し



第2-141図　打製石鏃（７）Ⅳ類・Ⅴ類

たが横刃の可能性もある。2209はホルンフェルス製で，周縁を剥離で加工する。下縁の刃部には摩耗が生じている。2210はホルンフェルス製で，下縁に剥離調整でやや厚みのある刃部を作る。摩耗が観察され，上縁には敲打による刃潰し加工が行われている。2211はホルンフェルス製で，下縁には丁寧な調整で刃部を形成し，刃部には摩耗が生じている。上縁には剥離で抉りを作る。周縁の摩耗から，柄の装着が行われた可能性がある。

7　使用痕剥片・加工痕のある剥片

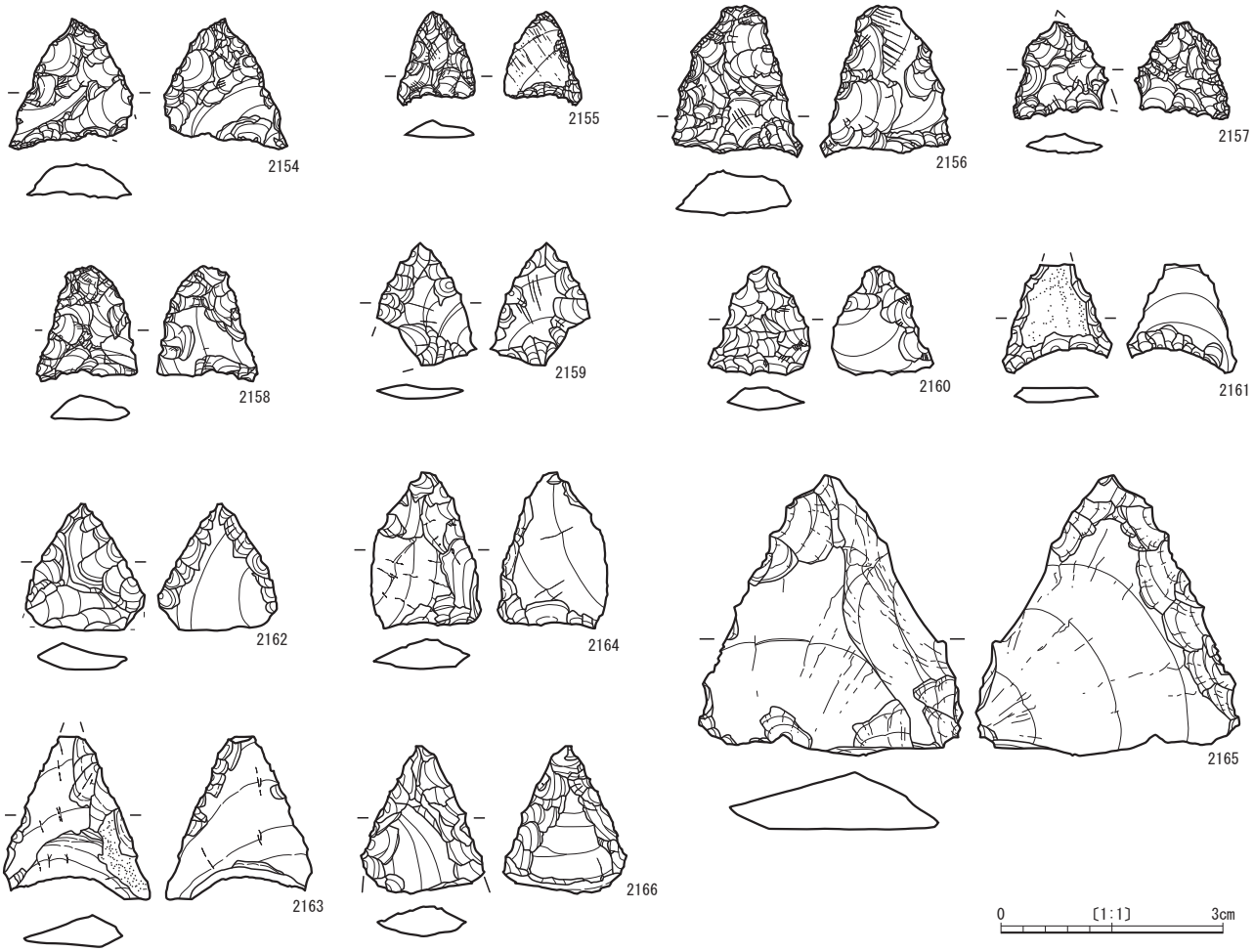
（第2-147・148図2212～2227）

Ⅱ・Ⅲ層から出土した剥片類は528点で，そのうち使用痕剥片や加工痕のある剥片16点を図化した。土器の出土状況との対比から主に縄文時代後期に帰属する石器と推定される。

2212～2217は，腰岳産に類する黒曜石製である。2212は，薄い剥片の側縁に腹面側から微細な剥離がみられる。下縁は，基部側からの加撃で整形している。2213は，厚みのある剥片の下縁に微細な剥離がみられる。左側辺にも剥離がある。2214は厚みのある小型の不定形剥片で，下端に微細な剥離がみられる。2215は，剥片の左側縁下端に微細剥離がみられる。2216は，薄い剥片の側縁に腹面側から微細な剥離がみられる。2217は，小形剥片の錐状に先細る端部の縁に微細な剥離がみられる。2218は頁岩製で，両側面に二次加工がある。明確な使用痕はみられない。2219は，ホルンフェルス製である。裏面は自然面を残し，裏面縁からの加えた打撃で整形する。2220は安山岩製で，裏面には主要剥離面を残し，下辺から左側辺部に微細剥離がみられる。2221は砂岩製で，砥石の破片を敲具に再利用したと考えられる。左右側縁の剥離に潰れが生じており，楔様の使用の可能性もある。2222は砂岩製で，転礫から剝ぎ取った横長の剥片の下縁部に使用痕がある。2223は頁岩製で，剥片の両側縁に微細剥離がみられる。2224は砂岩製で，剥片の両側縁に潰れや摩耗などの使用痕跡がみられる。2225はホルンフェルス製で，加工痕のある剥片である。敲打調整が施され摩耗が生じている。2226は砂岩製で，方柱状の剥片の下端に剥離が生じている。楔様の石器として使用された可能性がある。2227は砂岩製の大型剥片で，周縁は粗い剥離が加えられている。石斧の未製品の可能性もある。

8　石核（第2-149・150図2228～2233）

Ⅱ・Ⅲ層から出土した石核は45点で，そのうち６点を図化した。土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属



第2-142図　打製石鏃（８）Ⅵ類

する石核と推定される。

2228は，上牛鼻産に類する黒曜石を素材とする。角礫素材で上面を打面として固定し，打面調整を繰り返しながら90°単位に作業面を移動させ，剥片剥離を行っている。2229は玉髄製で，作業面と打面を入れ替えつつ連続して剥片を取り出している。2230は，安山岩製である。角礫素材で90°単位で打面転移を行いながら，各打面から左から右へ打点を移動させ，連続して剥片剥離を行っている。2231はホルンフェルス製で，礫の周縁から剥片剥離を行っている。礫器に転用された可能性がある。2232はホルンフェルス製の石核で，周縁の自然面を打面として求心状に剥片剥離が行われている。2233は，玉髄製である。90°単位で上下・左右に打面と作業面を移動して剥片剥離を行った後，先行する剥離面を打面として，周辺から求心的に不定形な剥片を剥離している。

９　磨製石斧（第2-151～154図）

磨製石斧はⅡ・Ⅲ層から178点出土し，そのうち52点を図化（Ⅰ類13点・Ⅱ類13点・Ⅲ類４点・Ⅳ類22点）した。主に刃部や基端部の形状などで以下のように分類を行った。

磨製石斧分類基準

Ⅰ類　断面が楕円形であり，頭部の細い乳房状のもの
いわゆる乳頭状磨製石斧

Ⅱ類　断面が隅丸長方形で，両側面及び頭部が研磨されたもの，いわゆる定角式磨製石斧

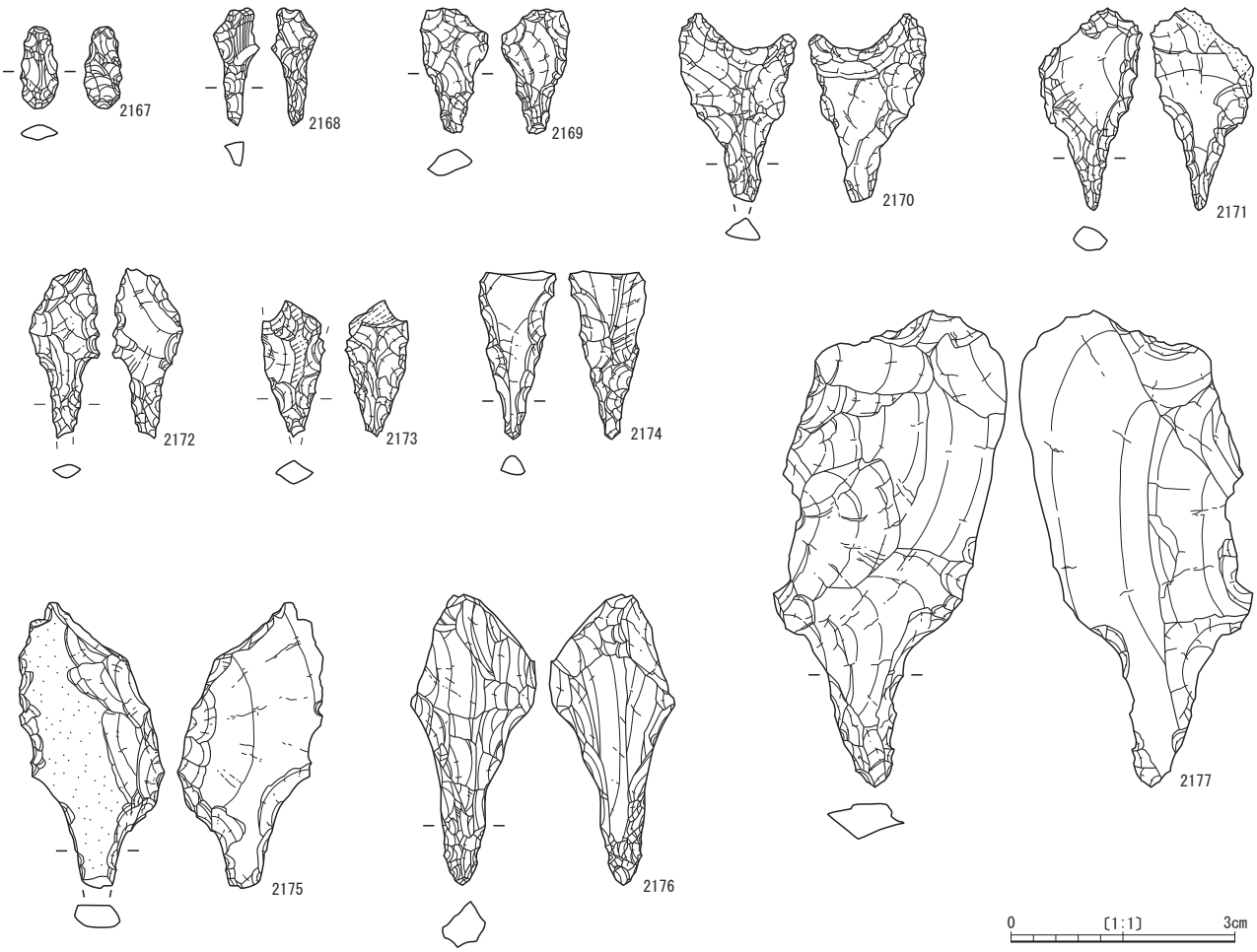
Ⅲ類　片刃で研磨成形を施すものいわゆる石ノミ形石斧

Ⅳ類　その他で，Ⅰ～Ⅲ類以外のもの

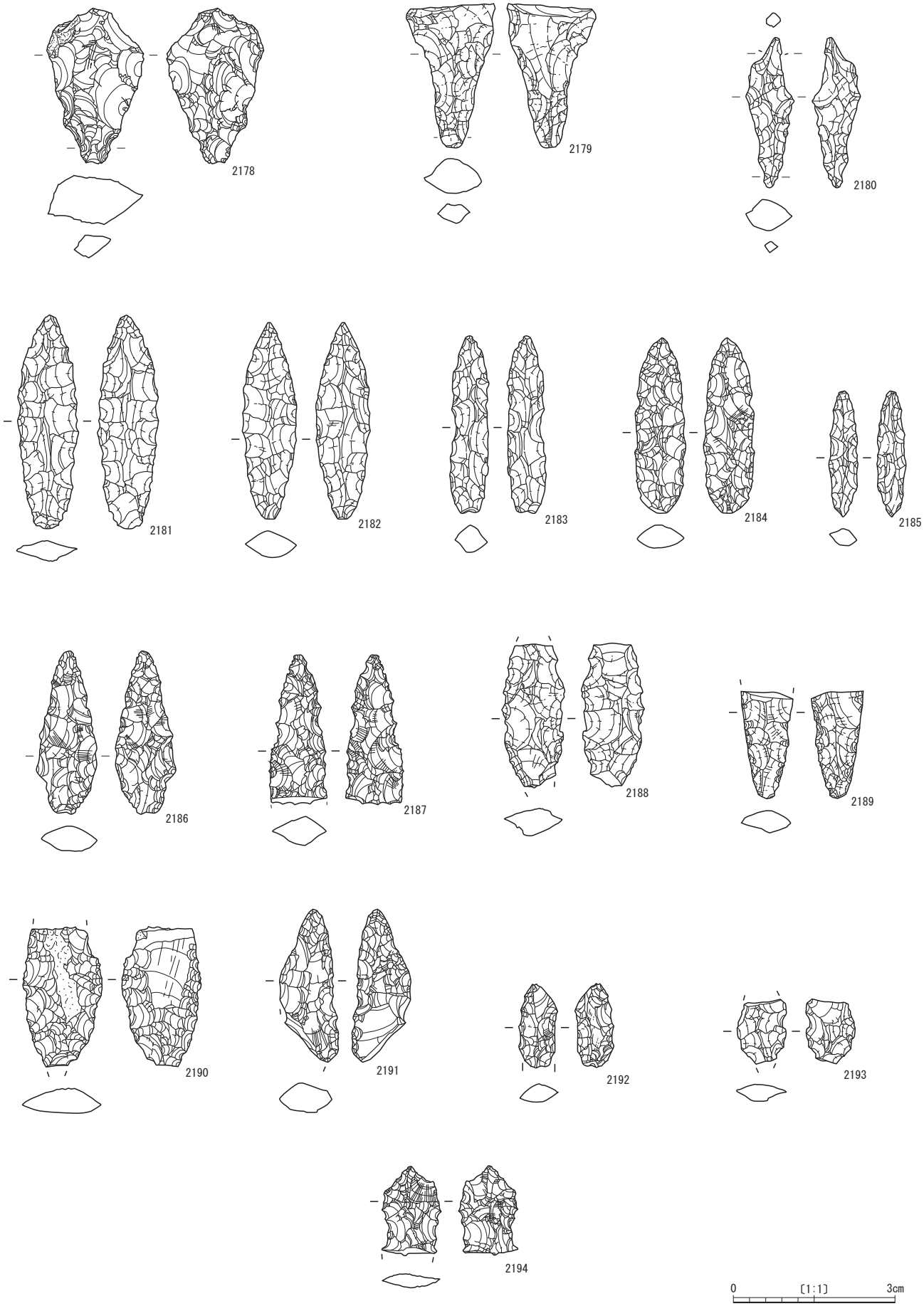
Ⅰ類（第2-151図2234～2246）

断面が楕円形を呈し，頭部の細い乳房状のもので，いわゆる乳頭状磨製石斧とされるものである。

2234はホルンフェルス製で，基部が欠損している。裏面に成形時の敲打痕が残る。2235は砂岩製で，右側面と上部に使用による敲打痕がみられる。2236は砂岩製で，裏面に打撃による剥離がみられる。2237は砂岩製で，丁寧な研磨により，蛤刃を呈する。2238はホルンフェルス製で，裏面刃部から基部の部分までに剥落が生じている。2239は閃緑岩製で，基部が欠損する。刃部は使用による摩滅と剥落がみられる。2240は砂岩製で，丁寧な研磨が施される。2241は砂岩製で，上半部を欠損している。両側縁には着装のため，再加工したとみられる痕跡が残



第2-143図　石錐（１）

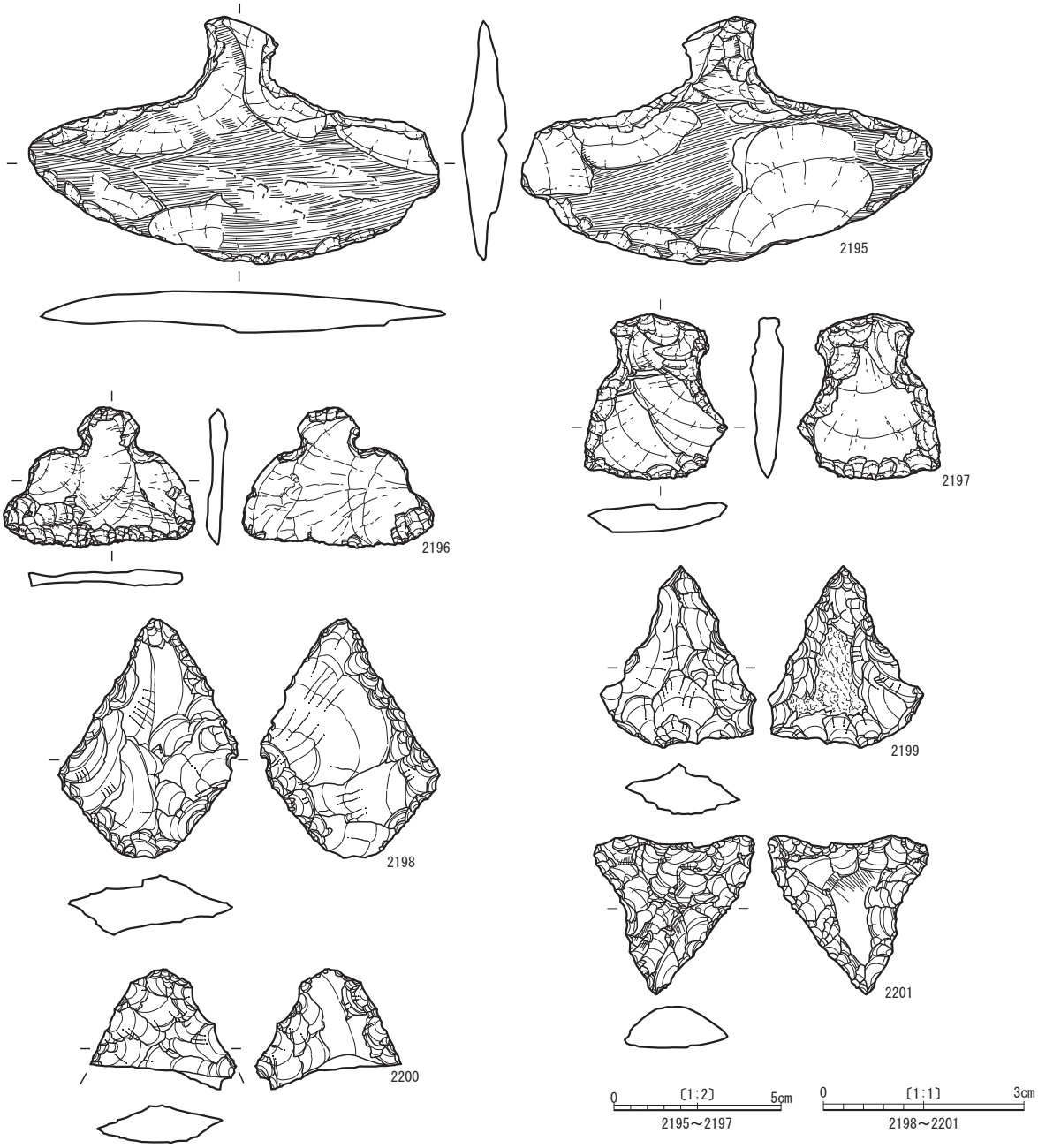


第2-144図　石錐（２）尖頭器・異形石器

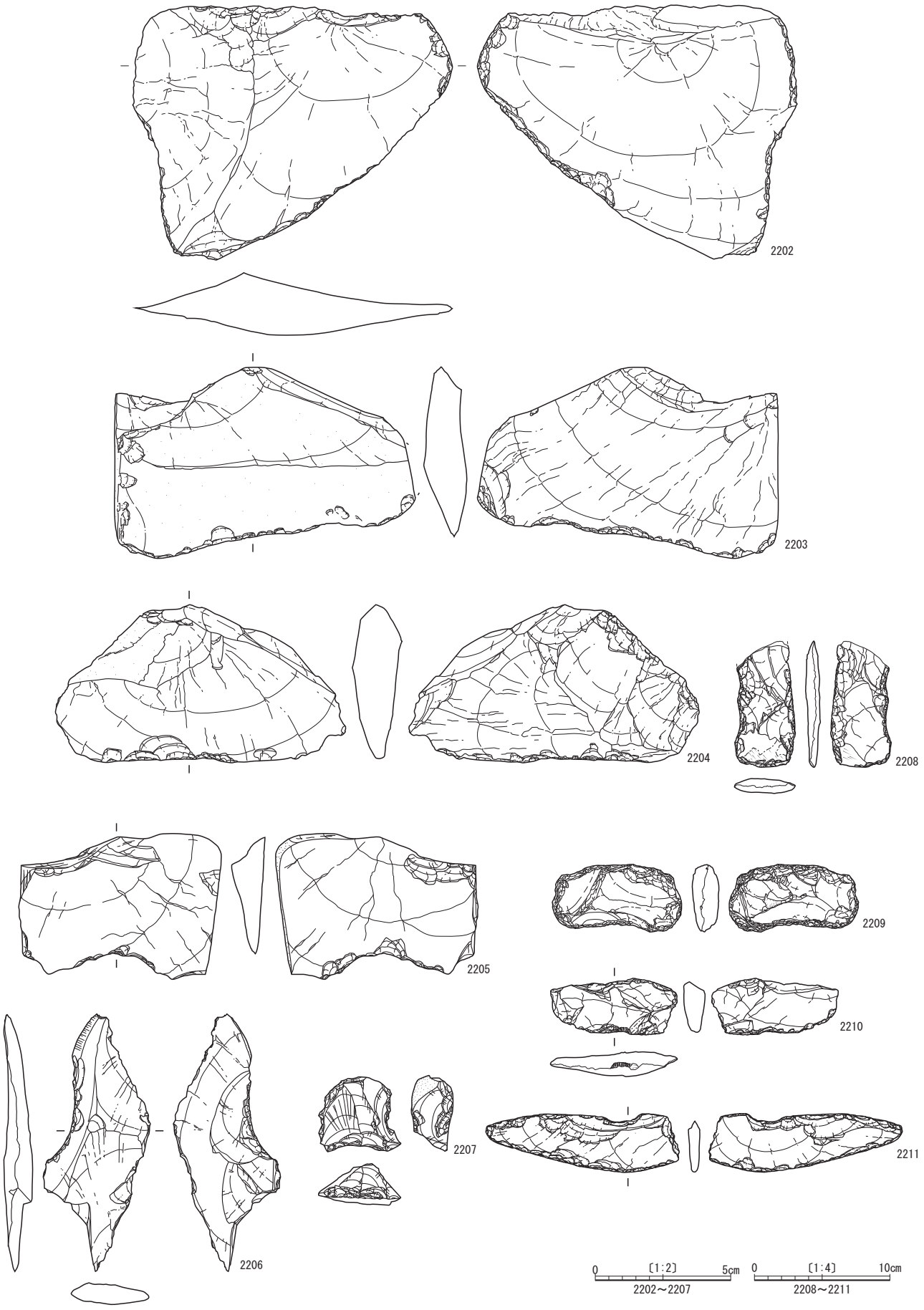
る。2242は砂岩製で，刃部を欠損する。やや扁平な形状である。2243は安山岩製で，刃部を欠損する。表面が研磨による平坦面で再加工の可能性がある。2244は頁岩製で，敲打による成形痕が全面に残る。刃部が欠損しているが，大型の製品である。2245はホルンフェルス製で，扁平で厚みが薄い。裏面が平坦面を呈している。2246はホルンフェルス製で，刃部が欠損している。

Ⅱ類（第2-152図2247～2259）

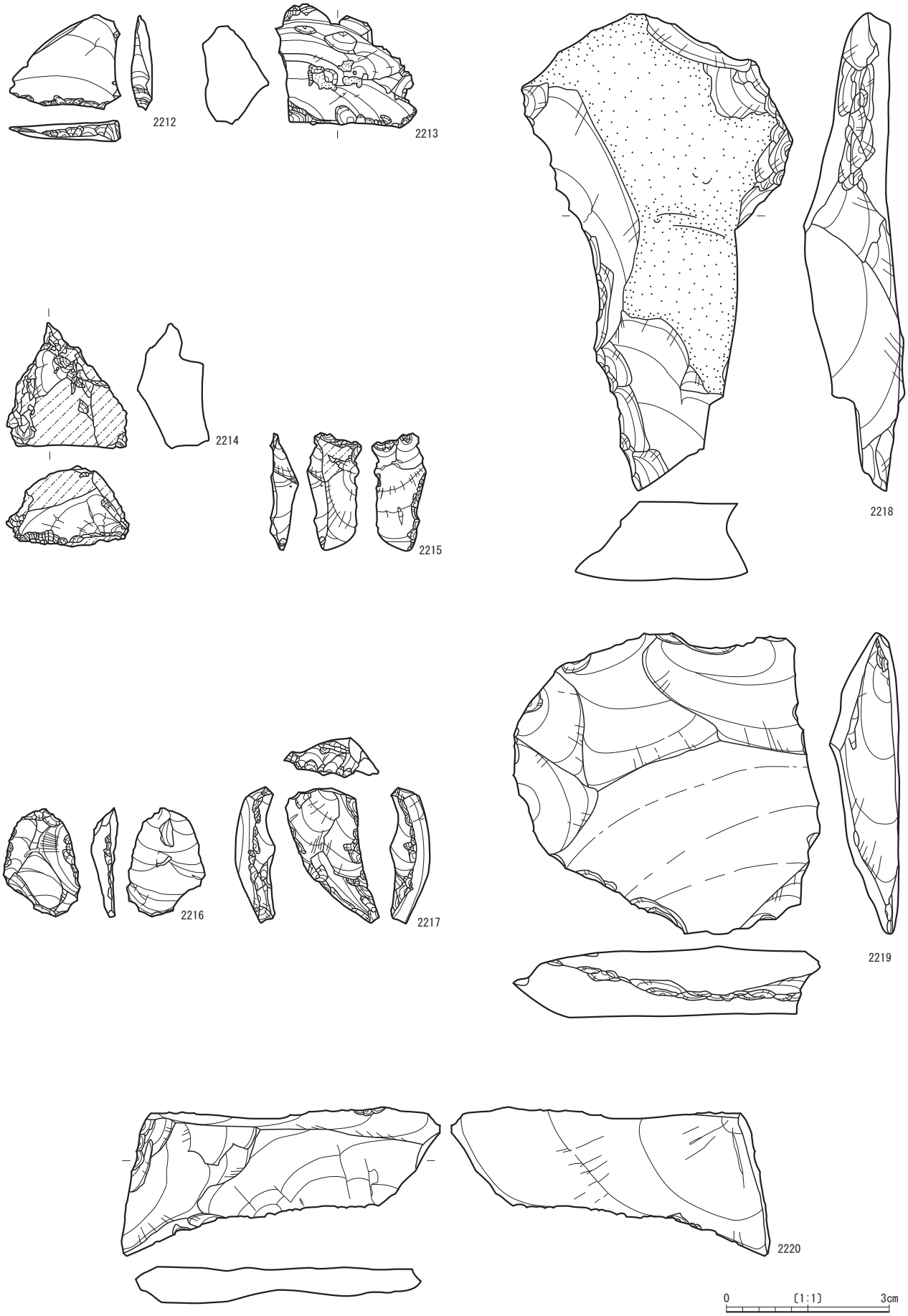
2247は蛇紋岩製で，全面に丁寧な研磨を施す。刃部は扁平な片刃で，基端部にも研磨が施される。2248は蛇紋岩製で，基部を欠損している。丁寧に研磨され，扁平な刃部は横方向の擦痕があり，片刃である。2249はホルンフェルス製で，小型撥状を呈す。丁寧に研磨され，刃部は片刃である。2250は粘板岩で，側面は擦り切り技法で，切断された可能性がある。基部は尖り気味の定角式である。2251は，全面研磨を施す。基部に向かって細くなる。基端部にも研磨が施される。2252は砂岩製で，全面に研磨が施され，両側面に平坦面をもち，刃部は片刃に近い。2253は砂岩製で，刃部のみ欠損する。2254は閃緑岩製で，刃部があれば大型の製品である。基端部を研磨している。2255はホルンフェルス製で，使用により刃部が剥落する。2256は砂岩製で，大型である。2257は頁岩製で，基部欠損しているが大型である。丁寧な研磨で仕上げられ，両側面も研磨が施される。刃部は，使用による摩滅と剥落がみられる。2258はホルンフェルス製で，上半を欠く大型の製品である。刃部は使用により摩滅と潰れがみられ，



第2-145図　石匙・スクレイパー（１）



第2-146図　スクレイパー（２）



第2-147図　使用痕・加工痕のある剝片（１）

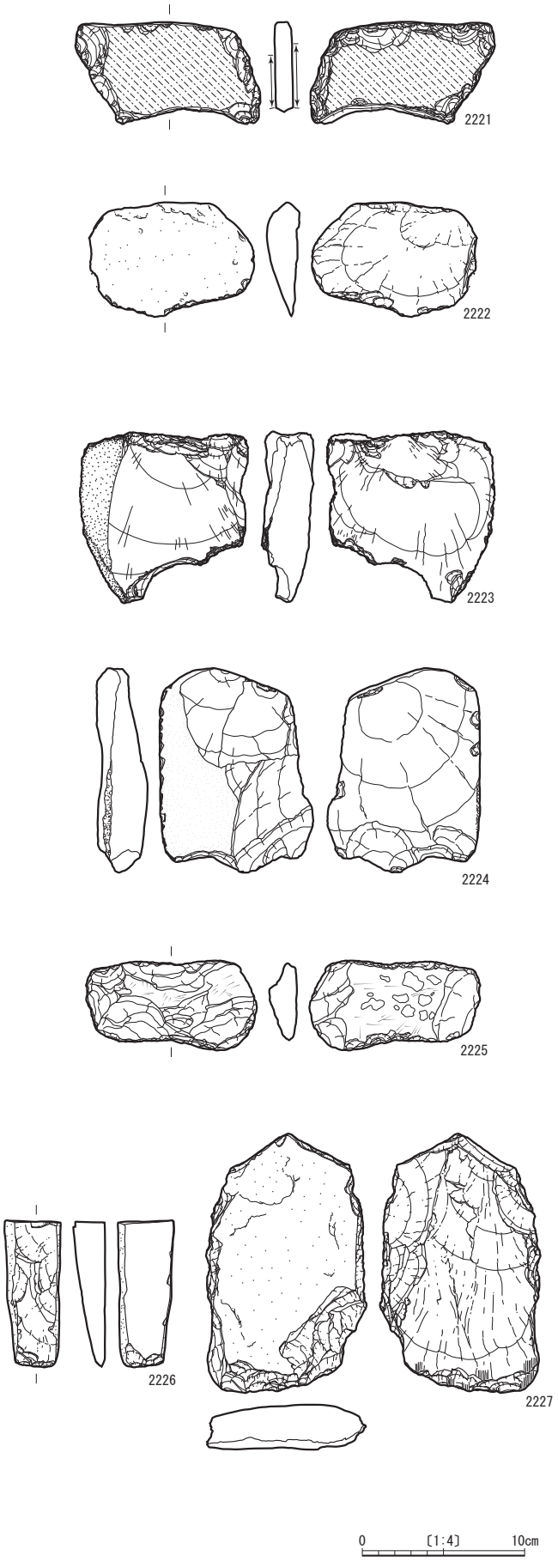
鋭利さがない。2259は閃緑岩製で，上半を欠く。右側面部がわずかに凹み，装着に伴う加工の可能性がある。

Ⅲ類（第2-153図2260～2263）

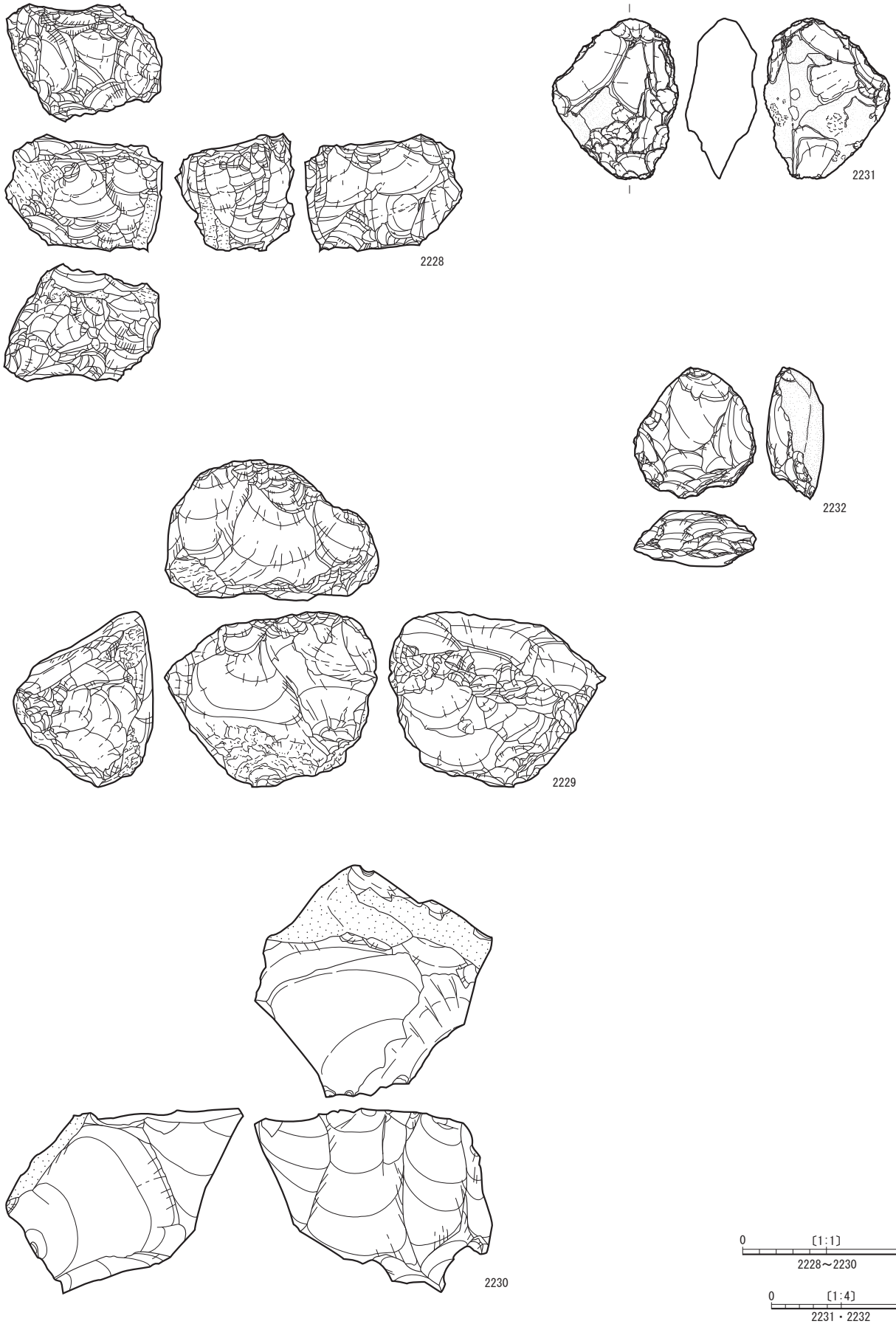
2260は砂岩製で，表裏・側縁部も研磨を施す。上下に刃部をもつ，双頭斧で，片刃で直刃である。2261はホルンフェルス製で，左側縁を大きく欠損するが，側縁にも研磨が施されている。刃部に比して基部がかなり薄い。2262は，全面に研磨が施されている。2263は粘板岩で，全面に研磨が施され，基部に段が生じているが，明瞭な装着痕は見られない。木口部分に微少な片刃の刃部を作り出す。

Ⅳ類（第2-153・154図2264～2285）

2264は砂岩製で，小型である。刃部は微細剥離が見られ，両側縁部はわずかに内湾気味となる。2265はホルンフェルス製で，基部のみで，両側縁部は平坦に研磨される。擦り切りの可能性がある。2266は頁岩製で，両側縁部は敲打痕が残る。刃部は直刃で片刃である。2267は粘板岩製で，表裏面に丁寧な研磨を施す。扁平な片刃である。2268は表裏面に剥離面を残し，刃部のみ研磨を施す扁平な片刃である。2269はホルンフェルス製で，両側縁部に研磨を施し，刃部は片刃である。2270はホルンフェルス製で，大部分は欠損している。扁平な片刃である。2271はシルト質の頁岩を素材とし，小型撥状を呈す。丁寧な研磨を施す。刃部は横方向の擦痕が残り，片刃である。2272はシルト質の頁岩を素材とし，基部を欠損する。両側縁には剥離成形の痕があり，刃部はやや扁平で片刃である。2273は蛇紋岩製で，扁平な石斧の基部である。比較的大型の製品だった可能性がある。2274は砂岩製で，全面に丁寧な研磨を施す。刃部は両刃に近く，使用による微細剥離がみられる。2275は閃緑岩製で，器面には敲打痕が残る。刃部は使用による摩滅及び剥離が生じており，鋭利さがない。2276はホルンフェルス製で，刃部は摩滅しており，鋭利さはない。全体的に剥落がみられる。2277は砂岩製で，全体的に粗雑な成形で，刃部は円刃である。2278はホルンフェルス製で，全面に丁寧な研磨を施す。刃部は片刃で，刃部幅に対して基部が非常に長い。2279は砂岩製で，刃部と基部端部には敲打痕が見られ，敲石として転用されている。2280は砂岩製で，基端部に敲打痕がみられる。2281は砂岩製で，断面方形の柱状礫で側辺の稜上に敲打の痕跡があり，磨製石斧の未製品又は敲打具として使用された可能性がある。2282はホルンフェルス製で，両側縁に剥離と部分的敲打調整がみられる。磨製石斧の未製品とみられる。2283はホルンフェルス製で，かなり細身である。研磨調整が行われ，磨製石斧の未製品の可能性がある。2284はホルンフェルス製で，厚みのある転礫の上下端に剥離が生じている。磨製石斧の未製品の可能性が高い。2285はホルンフェルス製の厚みのある剥片を素材とし，周縁から剥離を加え



第2-148図　使用痕・加工痕のある剥片（２）



第2-149図　石核（１）

ている。磨製石斧の未製品の可能性が高い。

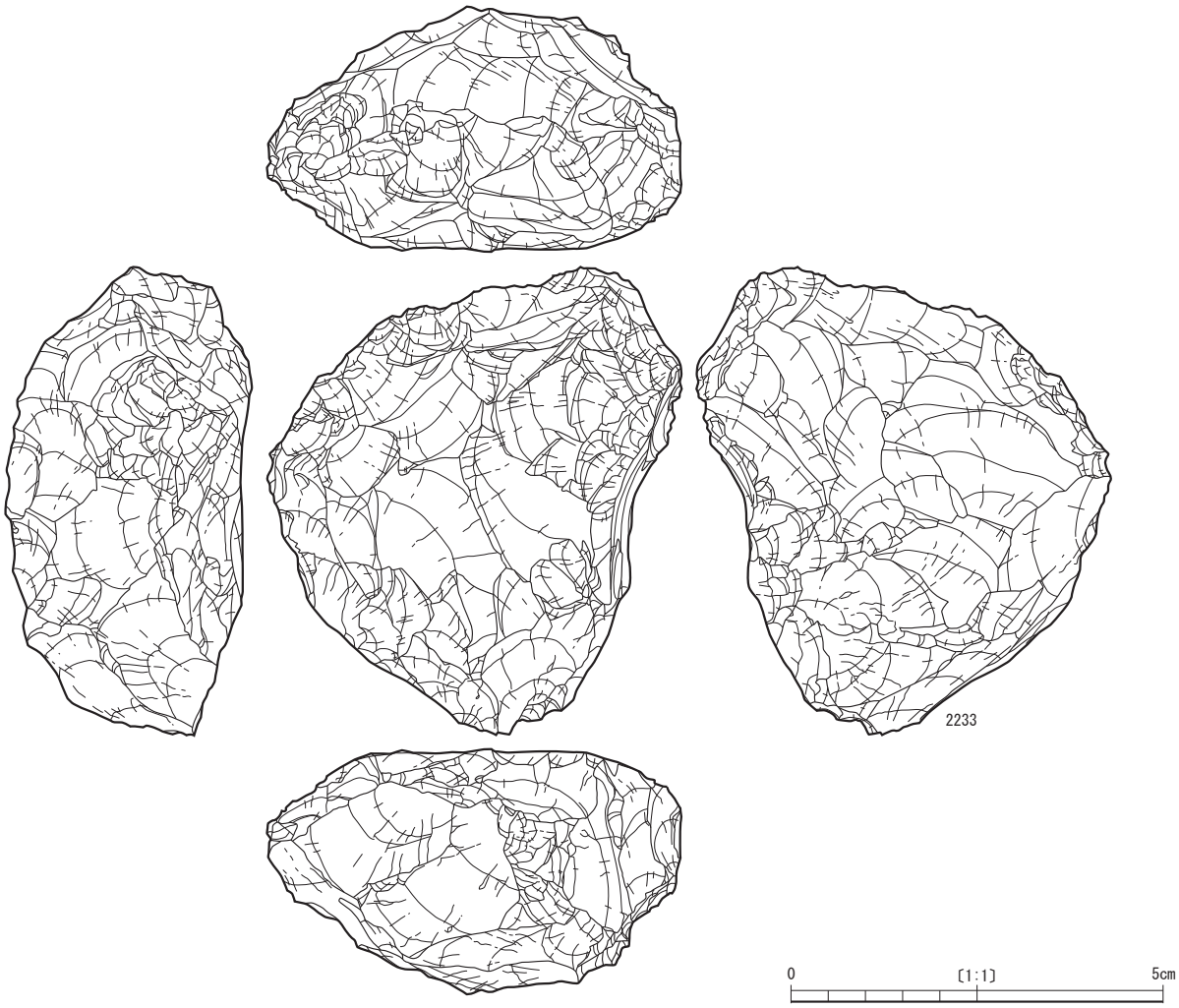
10　擦切石器（第2-155図2286～2294）

Ⅱ・Ⅲ層から９点の擦切石器が出土しており，全て図化した。土器の出土状況との対比から主に縄文時代後期に帰属すると推定される。磨製石斧との関連性もあることから，ここで記載する。

2286は細粒砂岩製で，左半分を欠損する。上面裏面側には面取りが施され，全体に丁寧な仕上げである。刃部は表裏から研ぎ出され，全体に摩耗が生じている。2287は凝灰岩製で，全体に丁寧な研磨で整形されている。右上辺には刃部と並行する擦痕が，下辺には刃部とやや斜行する擦痕が残り，いずれも擦切具として使用されたとみられる。2288は細粒砂岩製で，薄く均質な石材を用いる。刃部両端が丸く摩耗していることから，欠損後も使用されていたと考えられる。刃部は主に裏面側から研ぎ出されたものとみられるが，表裏面とも横方向の擦痕が生じている。2289は砂岩製で，左右側面を欠損する。刃部はやや片刃状で直線的だが，左端は刃先には潰れが生じている。2290は砂岩製で，上辺及び左右側辺を欠損している。刃部は表裏両面から研ぎ出されるが，全体に摩耗があり刃先部分に折れが生じている。2291は細粒砂岩製で，刃部に直行する強い擦痕が観察される。刃先には使用によって生じたと考えられる平坦面が残る。2292は細粒砂岩製で，右側辺は荒い剥離で弧状に整形し，刃部は裏面がやや厚みをもつ片刃状である。わずかに残る刃部には二次的剥離が生じているが，刃部と並行する擦痕がみられる。2293は，節理に沿って剥離した扁平な砂岩製の剥片である。剥離後，上辺に表面から調整剥離を施す。下辺は片刃状を呈するが，刃部研ぎ出しによるものではなく素材礫の形状によるものと考えられる。下辺側面側にもわずかに擦れが生じている。2294はホルンフェルス製で，上辺及び両側辺を欠損する。破損後も継続利用されている。刃部は片刃状を呈し，使用により刃先は鈍く，わずかに蛇行する。刃部に並行する擦痕が明瞭に残る。

11　打製石斧（第2-156～159図2295～2343）

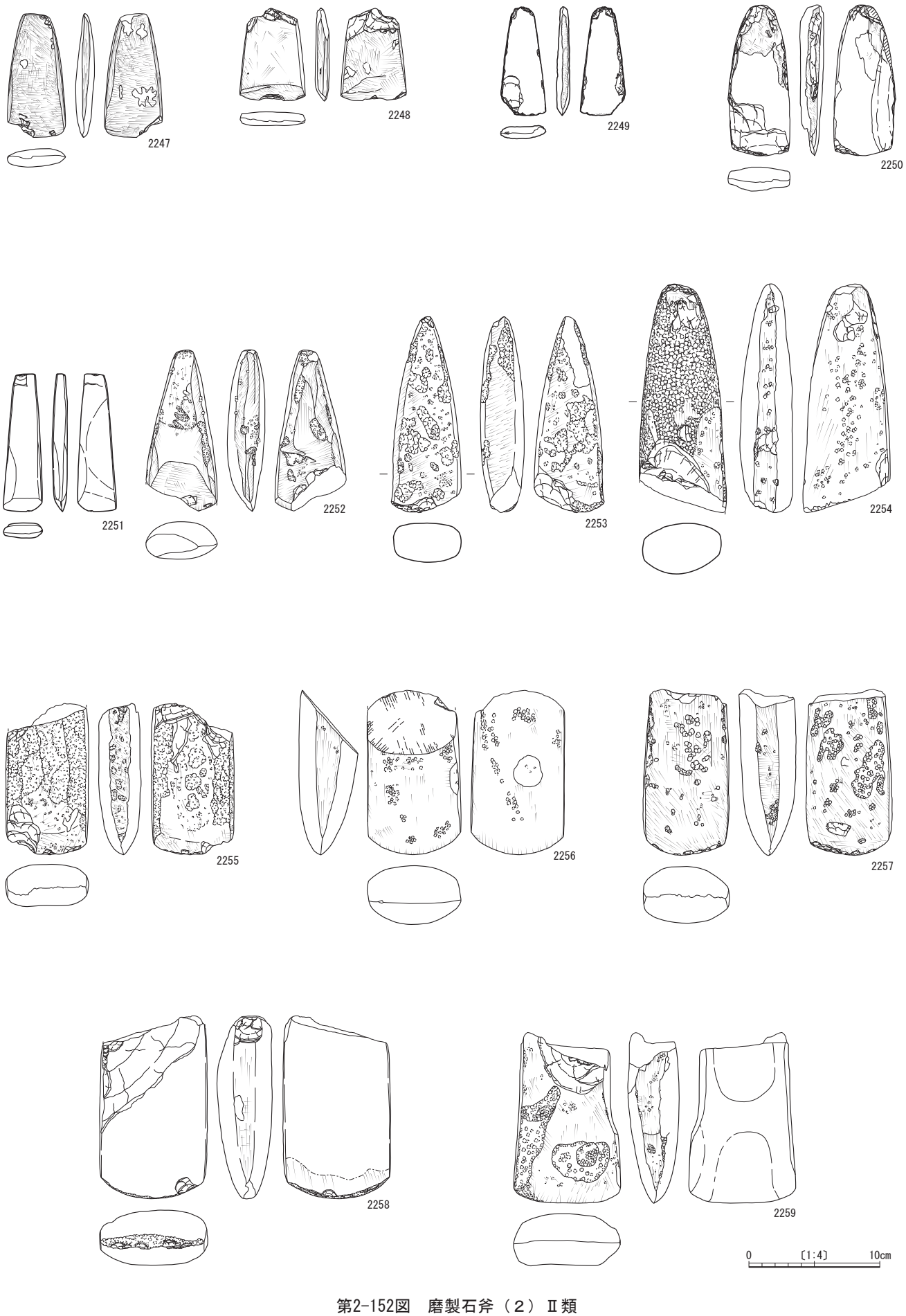
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層から打製石斧が162点出土したが，そのうち，54点を図化（Ⅰ類35点・Ⅱ類６点・Ⅲ類13点）した。主に刃部や基端部の形状などで以下のように分類を



第2-150図　石核（２）



第2-151図　磨製石斧（１）Ｉ類



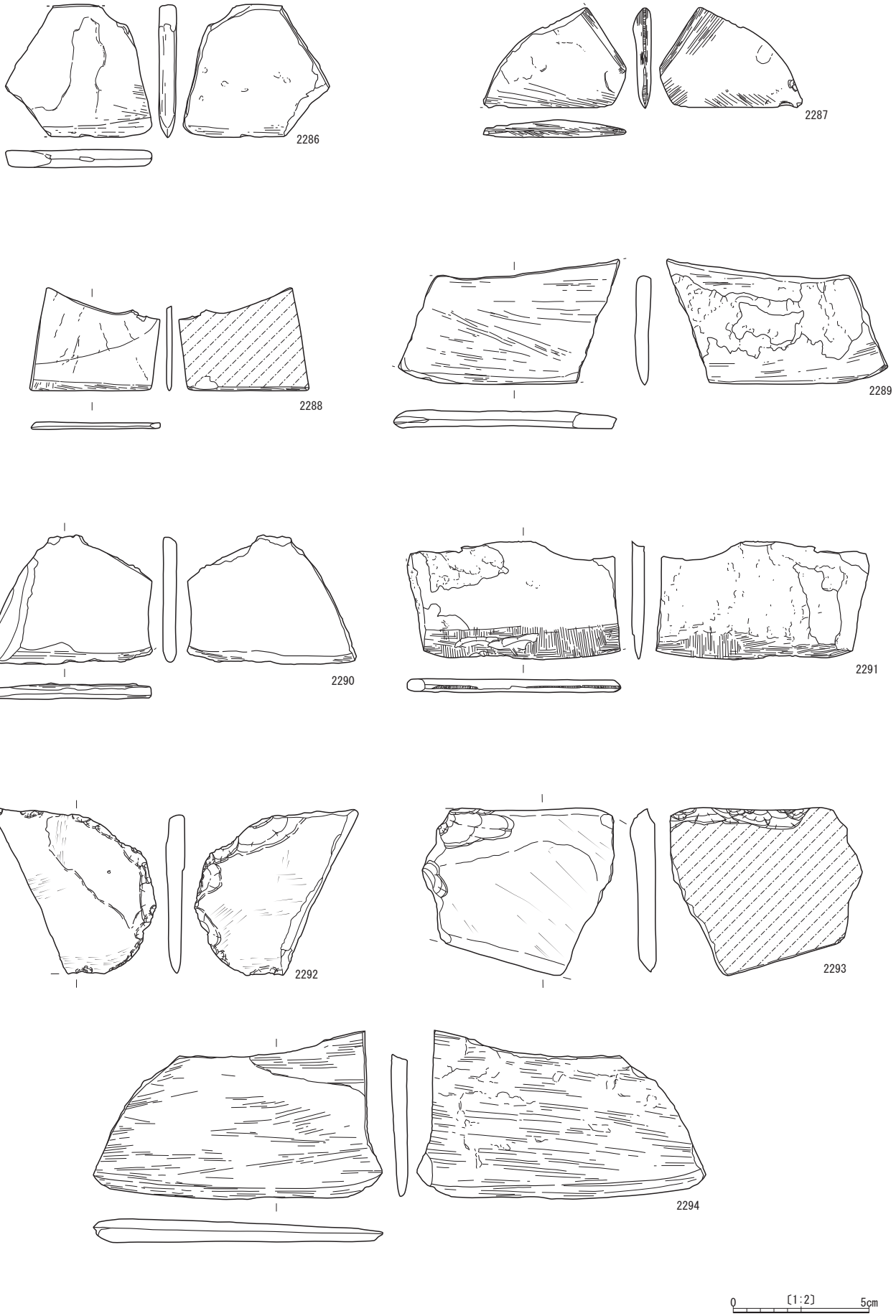
第2-152図　磨製石斧（２）Ⅱ類



第2-153図　磨製石斧（３）Ⅲ類・Ⅳ類



第2-154図　磨製石斧（４）Ⅳ類



第2-155図　擦切石器

行った。

打製石斧分類基準

Ⅰ類　ヘラ形（両耳型）で，基部に抉りがあり，刃部の両側部が摩耗し，潰れた光沢があるもの

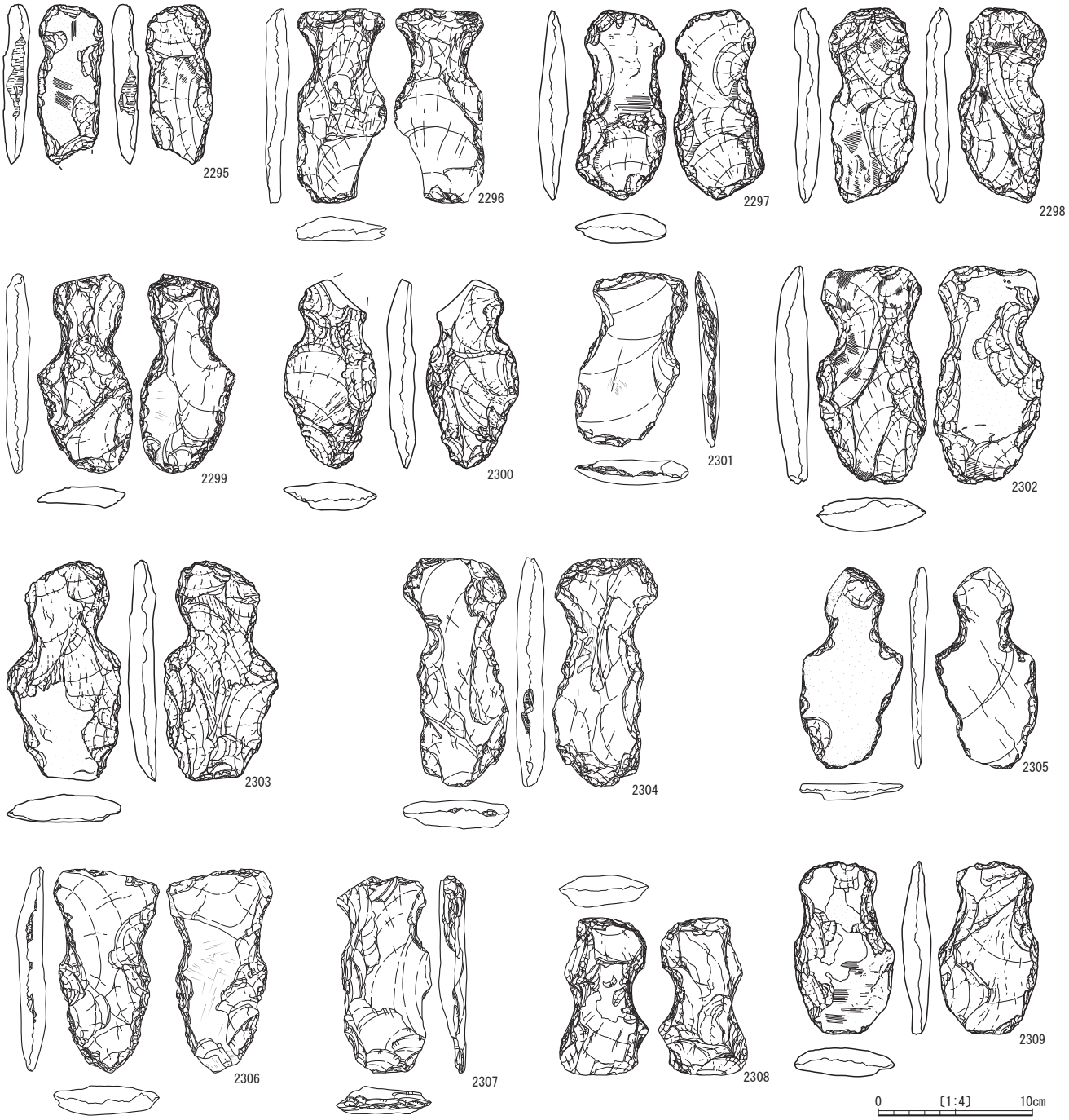
Ⅱ類　ラケット形（有肩石斧）で，刃部に刃こぼれや摩耗が生じ，基部が細く両側部に摩滅による光沢や潰れが生じているもの

Ⅲ類　その他，Ⅰ・Ⅱ類以外のもの

なお，図化しなかったものの多くは破片資料で，形状等の不明のものである。

Ⅰ類（第2-156～158図2295～2329）

2295は頁岩製で，刃部は欠損する。2296はホルンフェルス製で，先端部は歯潰れ状の微細剥離と摩滅痕がわずかにみられる。下縁右の破損で全体が大きく剥落する。2297は頁岩製で，基部側・抉り部分には，紐擦れと考えられる摩耗がある。2298はホルンフェルス製で，基部の左右から抉りを入れ，刃部は編刃で斜行する。2299は粘板岩製で，破損後に再加工された可能性がある。2300は安山岩製で，刃部裏面に斜方向の擦痕がみられる。2301はホルンフェルス製で，裏面に自然面を残す剥片を用い



第2-156図　打製石斧（１）Ⅰ類

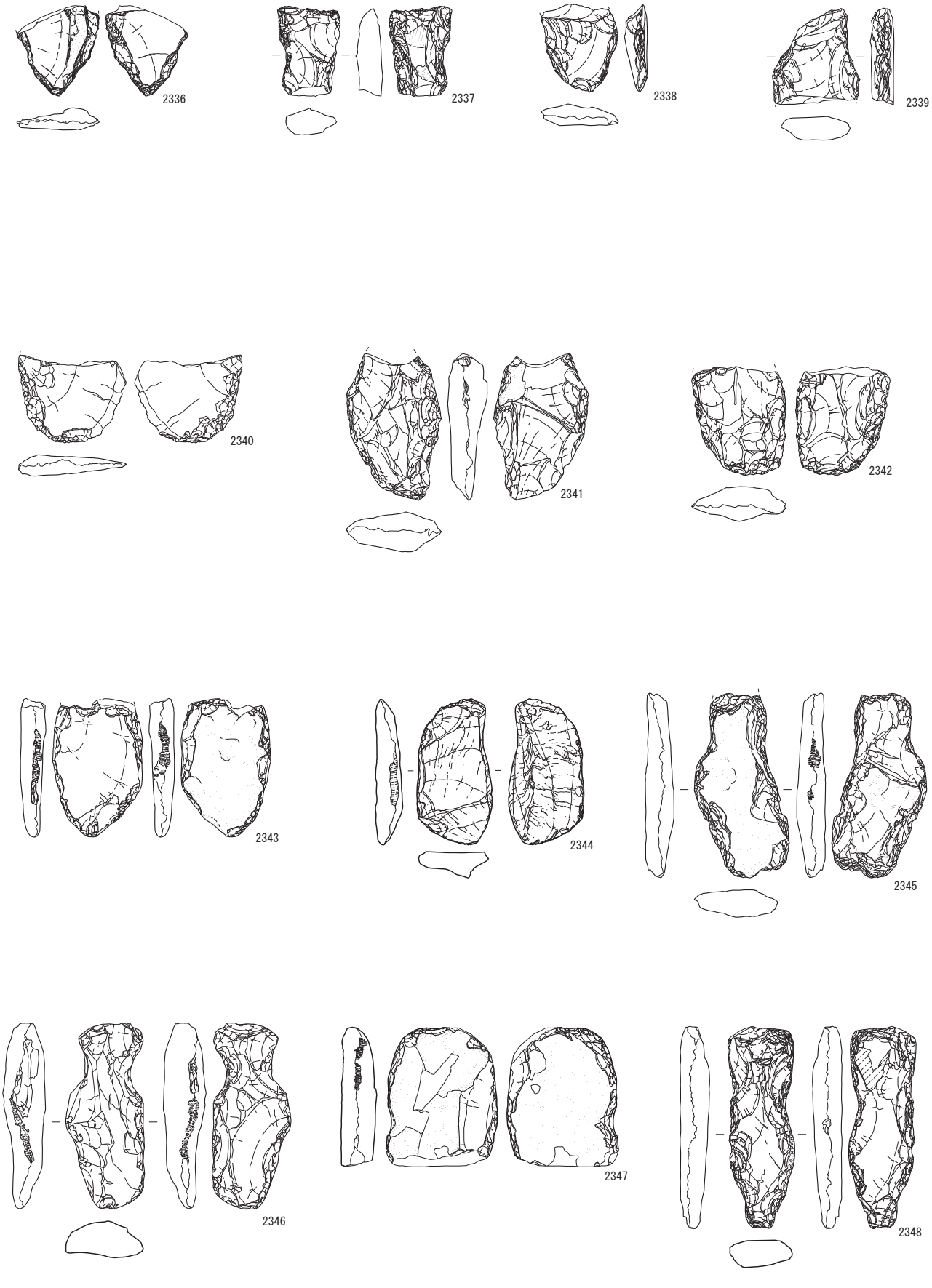


第2-157図　打製石斧（２）Ⅰ類

ている。2302はホルンフェルス製で，刃部先端はやや丸みを帯び，端部に潰れが生じる。2303はホルンフェルス製で，刃部に付近の自然面には摩耗が生じている。2304はホルンフェルス製で，刃部が欠損しており，両側縁は摩滅している。2305はホルンフェルス製で，基部に左右から抉りの入るヘラ形で表面はほぼ自然面である。抉りと刃部のみ細かい剥離で作り出し，刃部には両縁に敲打痕がある。2306は砂岩製で，基端部の幅が全形に比べ広い。2307はホルンフェルス製で，基部の両側から抉りが入り刃部周辺部は摩滅している。2308はホルンフェルス製で，刃部を大きく欠損する。2309は剥落や風化が著しく観察が困難だが，表面刃部周辺には横方向の擦痕を観察できる。端部には微細な剥離調整がみられる。2310はホルンフェルス製で欠損しているが，抉り状況からヘラ形の可能性が高い。2311は粘板岩製で，刃部が大きく欠損する。2312はホルンフェルス製で，全面に摩耗がみられる。2313はホルンフェルス製で，刃部を欠損している。抉りは摩滅がみられる。2314はホルンフェルス製で，基部を欠損するが，ヘラ形の可能性が高い。2315はホルンフェルス製で，装着痕と考えられる摩滅痕が残る。2316はホルンフェルス製で，刃部側を大きく欠損する。2317は粘板岩製で，表面に自然面を有する剥片を素材とする。2318は砂岩製で，表面に摩耗が生じている。2319はホルンフェルス製で，表裏面に横方向の擦痕が観察される。2320はホルンフェルス製で，刃部が欠損する。大型で幅広の基端部をもつ，ヘラ形の打製石斧とみられる。



第2-158図　打製石斧（３）Ⅰ類・Ⅱ類



第2-159図　打製石斧（４）Ⅲ類

2321はホルンフェルス製で，基部・刃部が欠損している。右側縁部は微細な剥離が確認できる。2322はホルンフェルス製で，刃部が右に斜行する偏刃である。2323はホルンフェルス製で，先細りの形状である。先端側に摩耗が生じている。2324は，基端部が全形に比べ幅広い。2325は粘板岩製で，刃部は先細りに尖る形状である。抉りから基端部にかけて，装着痕と考えられる摩滅がある。2326・2327はホルンフェルス製で，刃部は偏刃で先端が尖る形状である。2328はホルンフェルス製で，左下側縁部に剥離調整を施し，刃部とする。右縁部は，摩耗し線状痕が残る。2329は安山岩製で，薄い横長剥片を利用し，基部に抉りをもつ。基端部及び刃部右側を欠損する。

Ⅱ類（第2-158図2330～2335）

ラケット形（有肩石斧）で，刃部に刃こぼれや摩耗が生じ，基部が細く両側部に摩滅による光沢や潰れが生じているものである。

2330はホルンフェルス製で，完形であれば大型のラケット形打製石斧の可能性がある。2331はホルンフェルス製で，基部を欠損する。刃部の摩耗痕から，ラケット形とした。2332は，幅広の刃部をもつラケット形である。基端部も幅広で，肩部は抉り状を呈する。2333はホルンフェルス製で，基端部が幅広で抉り状を呈する。2334はホルンフェルス製で，上端部が欠ける薄い板状素材を利用している。2335はホルンフェルス製で，装着痕と考えられる摩滅痕が残る。

Ⅲ類（第2-159図2336～2348）

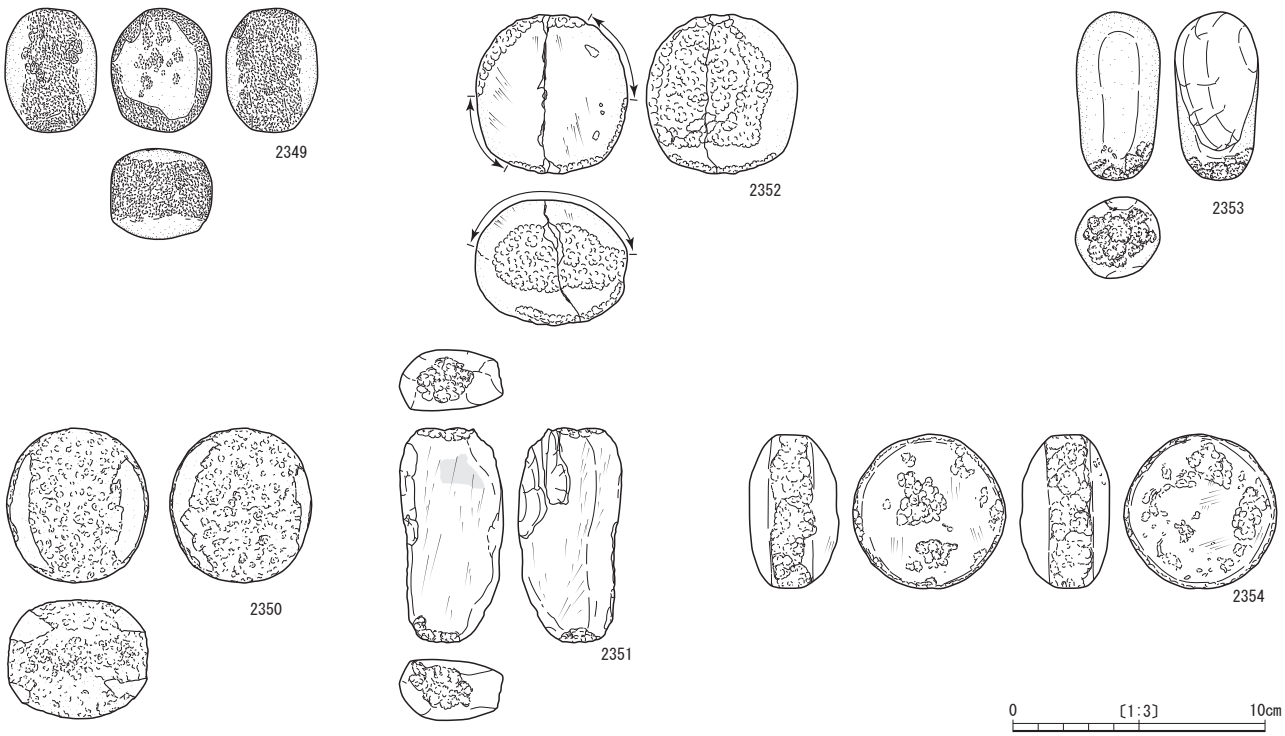
その他，Ⅰ・Ⅱ類以外のものである。

2336はホルンフェルス製で，刃部先端部に摩滅が見られる。2341はホルンフェルス製で，基部を欠損する。刃部は偏刃で，端部が尖る。2343はホルンフェルス製で，先端が尖形となる打製石斧の刃部片とみられる。裏面の刃部広範囲に摩耗が生じている。右刃側縁に敲打による潰れがあり，着装のため調整，もしくは破損後の敲打具への転用の可能性がある。2344はホルンフェルス製で，厚みのある剥片の端部にリタッチがみられる。2345はホルンフェルス製で，表面に自然面を残す。基端部を欠損している。肩部の右側面付近に摩耗が観察される。2346はホルンフェルス製で，刃部は摩滅している。抉り部分には敲打調整が加えられ，体部に厚みがあり，やや特殊な資料である。2347はホルンフェルス製で，厚みのある剥片の側縁の広い範囲に剥離と潰れがみられる。左下縁には浅いノッチ状の抉りがみられる。2348は頁岩製で，全体に整形が粗雑である。

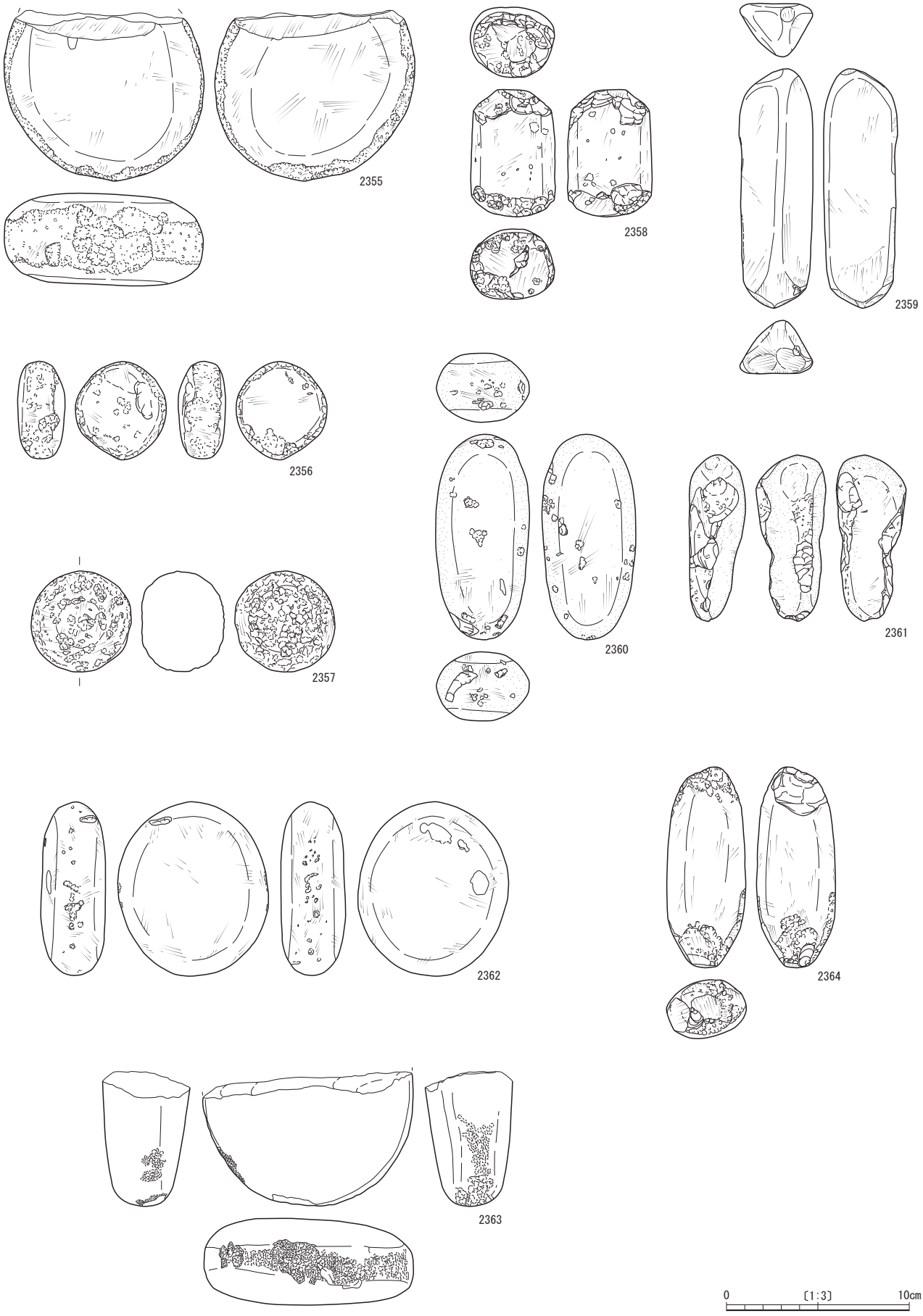
12　磨石・敲石（第2-160～163図2349～2382）

ここに掲載した磨石・敲石は，Ⅱ・Ⅲ層から出土したものである。包含層の時期区分は明確でないが，土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属すると推定される。なお，磨石もしくは敲石のみの機能をもつものもあるが，一括して記載する。磨石・敲石は191点出土し，そのうち34点を図化した。

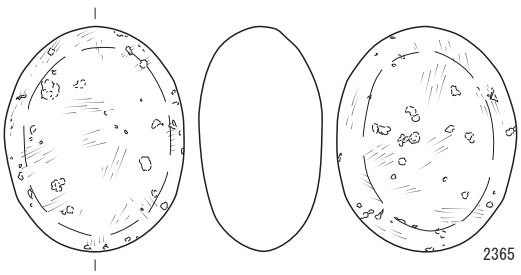
2349は石英斑岩製で，側縁の全周に敲打の痕跡がみられる。2350は砂岩製で，表面・裏面・周縁で，著しい敲

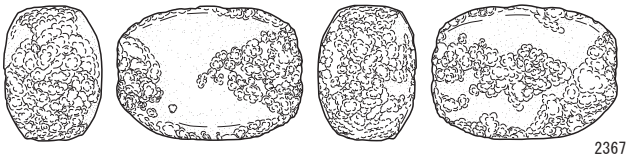


第2-160図　磨石・敲石（１）

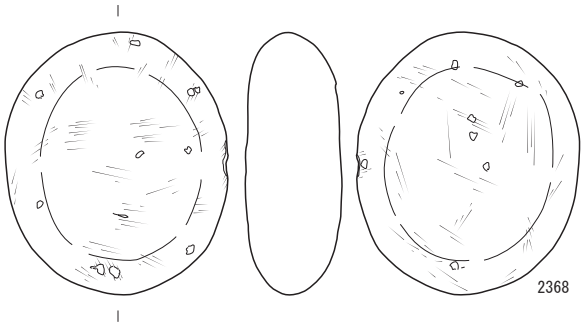


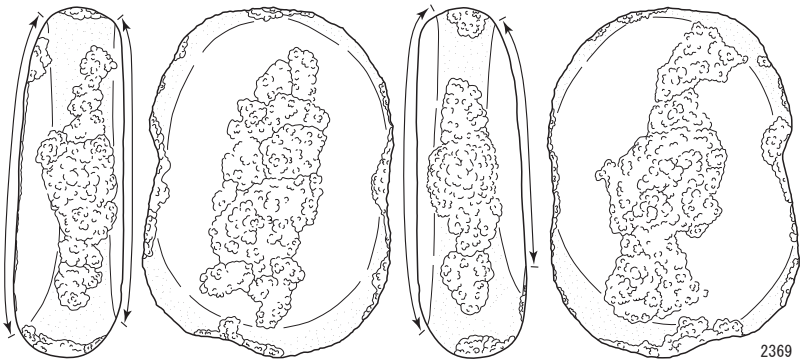
第2-161図　磨石・敲石（２）

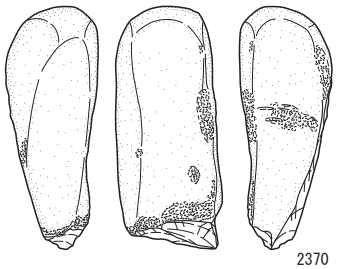


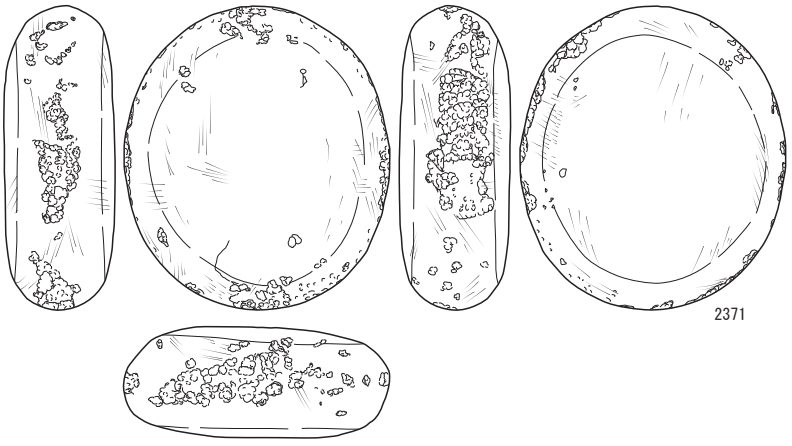


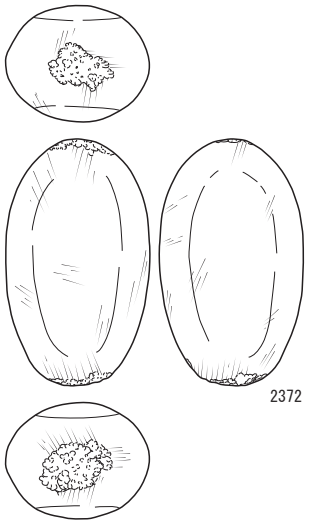


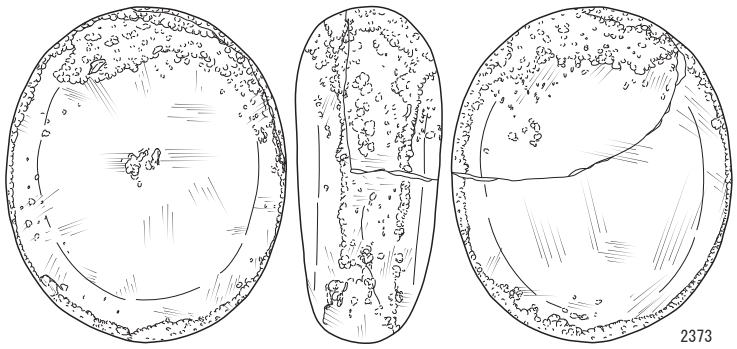


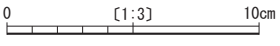




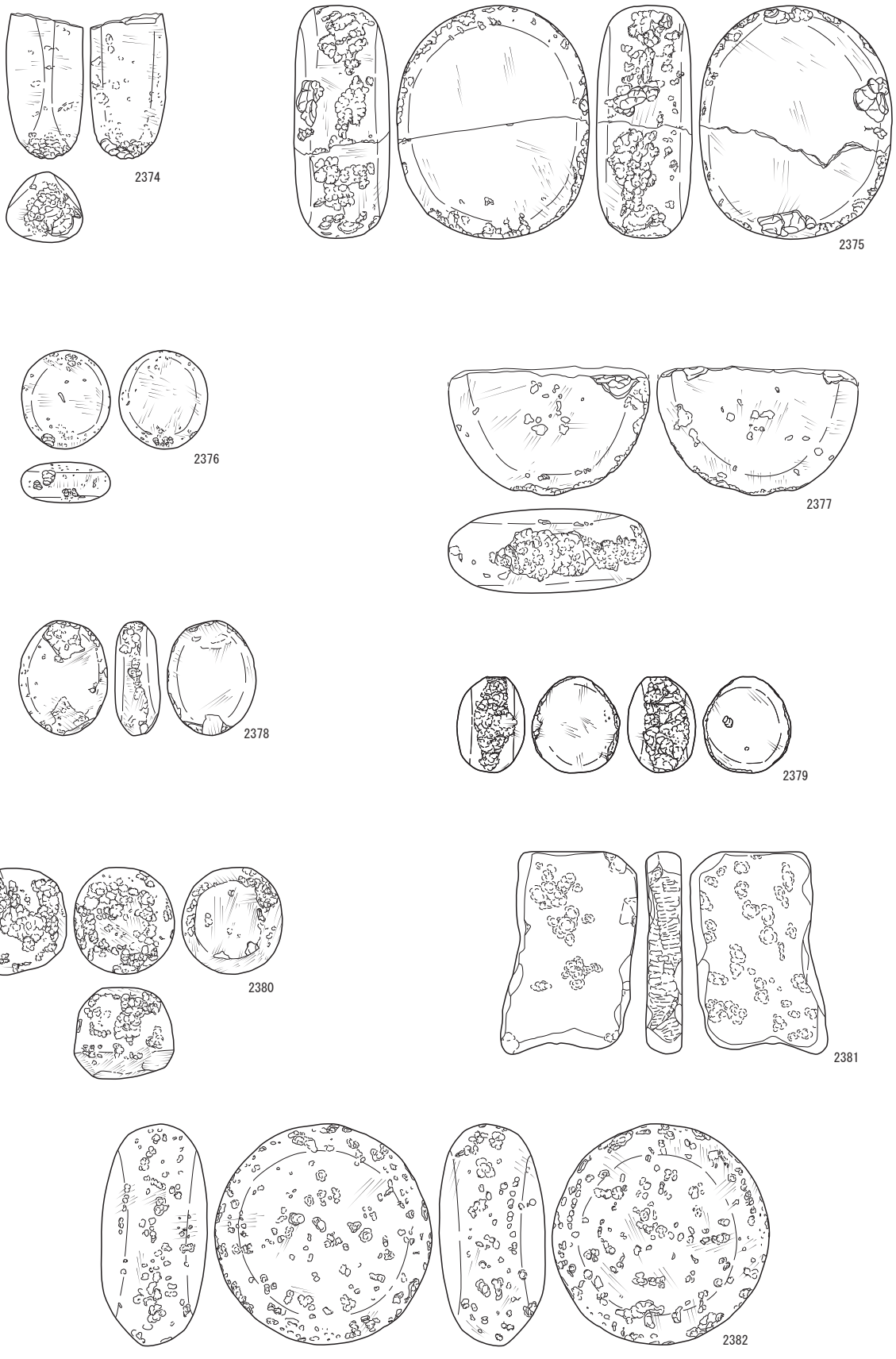








第2-162図　磨石・敲石（３）

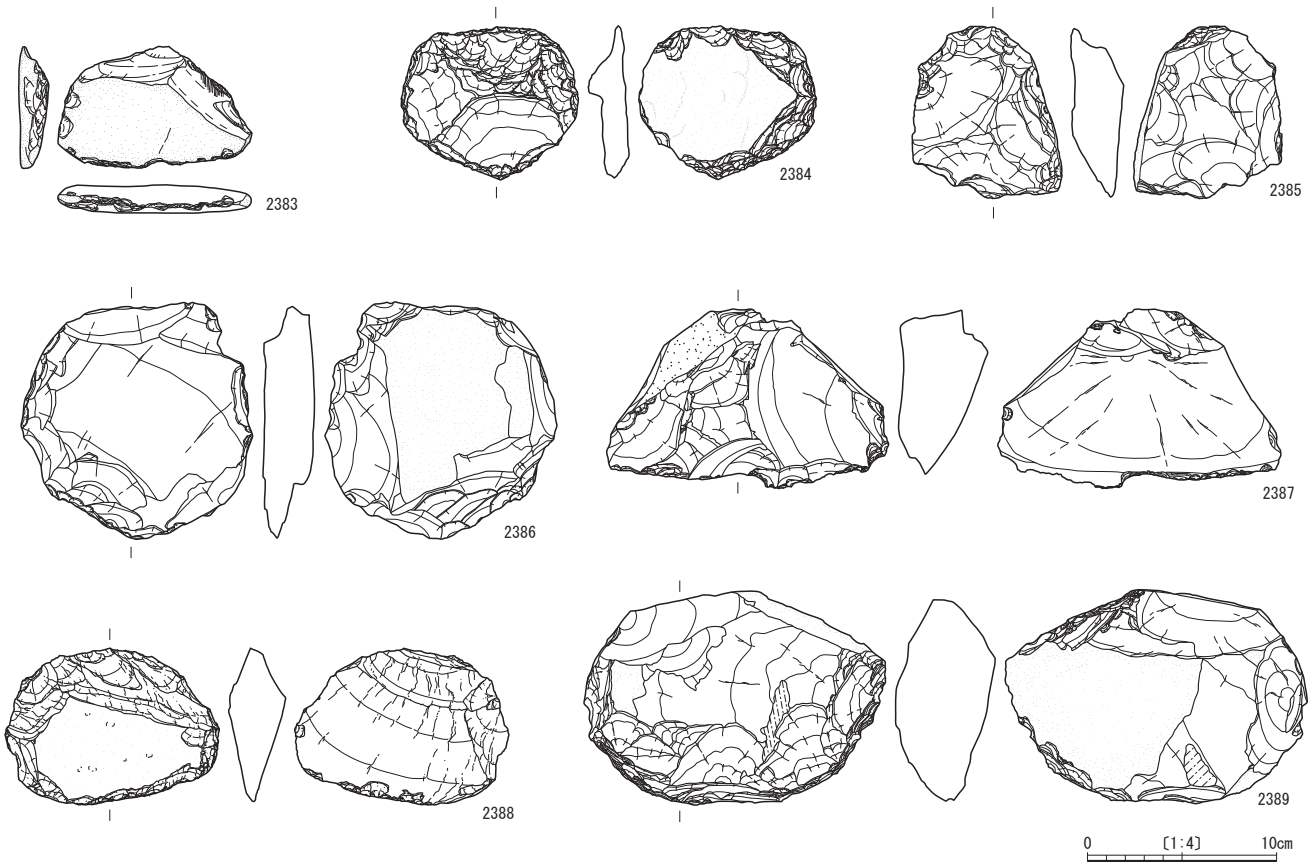


第2-163図　磨石・敲石（４）

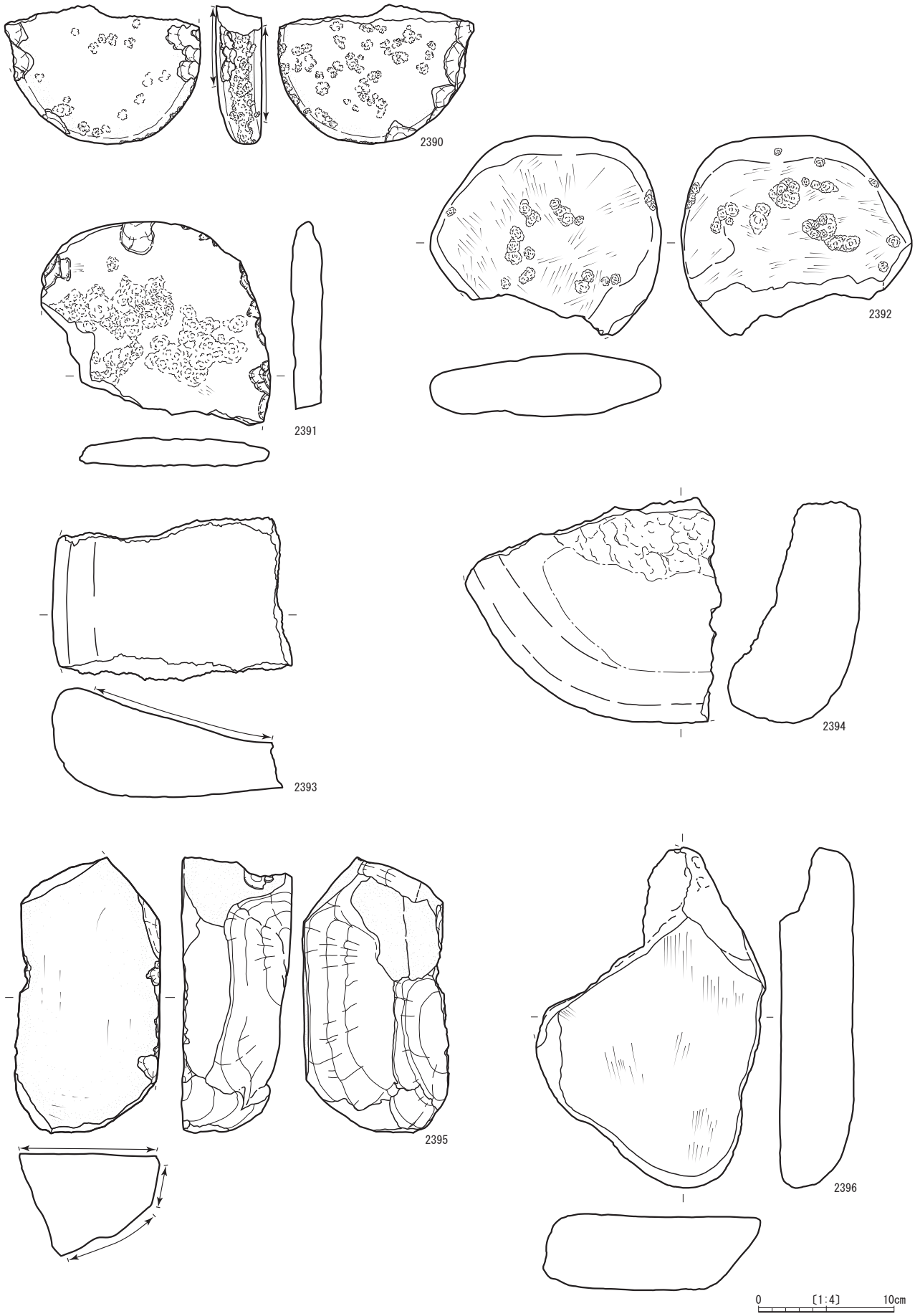
打が礫面を帯状に広がる。2351は多孔質の安山岩製で，表面は平滑な礫面で，上下端に敲打痕がみられる。2352は玉髄製の亜円礫で，上端と下端を中心に敲打具として使用している。2353は棒状の砂岩亜円礫で，1/3程を欠損している。下端に敲打痕が集中してみられる。2354は砂岩製で，周縁には敲打・つぶれにより，側面が形成される。2355は砂岩製で、表・裏面に磨面が残る。周縁に敲打・つぶれで面状を呈するが，下部にあばた状の敲打痕が集中してみられる。2356は石英斑岩で，表・裏に磨面があり，周縁は敲打・つぶれが観察できる。2357は多孔質の安山岩で，周縁には径1.5㎝大の不定形に，あばた状の敲打痕が集中する範囲が不規則に分布する。2358は安山岩製の断面楕円形を呈する棒状礫で上・下端に複数の敲打面が切り合う敲打・つぶれがみられる。2359は断面三角形を呈する砂岩礫で，下端及び左側縁の一部に敲打痕がみられる。2360は安山岩製の棒状礫で，上下端にわずかに敲打の痕跡がみられる。2361は砂岩製で，断面三角形状を呈する棒状の亜円礫の稜線上に敲打とつぶれ，線状のキズがみられる。2362は砂岩の扁平な円礫で，裏面に磨面がある。周辺にもわずかに敲打の痕跡がある。2363は砂岩製で，表面に磨面があり，周縁は敲打により面状を呈する。下面の頂部を中心に金属で抉られたような強い敲打の痕跡がある。2364は砂岩製で，下端部は複数の敲打・つぶれによる敲打面の切り合いがみられる。上端には敲打痕と，敲打によるとみられる剥落が生じており，石器製作に用いられた可能性がある。2365は安山岩の円礫で，表裏に磨面を有する。2366は砂岩製で，右側縁上部にわずかに敲打痕が残る。2367は安山岩製で方形状を呈する。各面にあばた状の敲打痕と剥離がみられ，裏面は磨面を切るように敲打痕と浅い凹みがみられる。2368は安山岩製で，表・裏面は平滑で，周縁に部分的に敲打の痕跡がある。2369は安山岩製で，表・裏の磨面を切るように中央付近に敲打による凹みがある。周縁には敲打痕がみられ，左・右側縁と下面は抉りが生じている。磨石から凹石・敲石，さらに石錘として転用された可能性がある。2370は砂岩製の棒状亜円礫で，右側面の角と右側面にわずかに敲打の痕跡が残る。2371・2373は砂岩製で，表裏に磨面が，周縁に敲打痕がみられる。2372は砂岩製の長形の円礫で，上・下端に敲打の痕跡がみられる。2374は断面が隅丸三角形を呈する砂岩の棒状礫で，下端部にあばた状の敲打痕と剝落が生じている。2375・2377は，安山岩製の磨石・敲石である。2376は表・裏に摩滅面をもつ磨石・敲石で，2379は敲石で，いずれも側縁に敲打の痕跡が残り，石器製作に関連する可能性がある。2380は花崗斑岩の亜円礫で，周縁に不規則に敲打痕が集中する部分がみられる。

13　**礫器**（第2-164図2383～2389）

Ⅱ・Ⅲ層から出土した礫器は21点出土しており，その



第2-164図　礫器



第2-165図　石皿・台石（１）



第2-166図　石皿・台石（２）

うち７点を図化した。

2383は砂岩製で，背面に自然面を残している。下縁部と左側縁部に剥離を施し，刃部とする。2384は粘板岩製で，周縁から求心状に剥離を施し刃部とする。2385はホルンフェルス製で，厚みのある剥片に調整剥離を加え，一端が尖頭状となる刃部を作る。2386はホルンフェルス製で，板状の剥片の周縁に粗い剥離を施して，刃部を作り出す。左下縁に微細剥離がやや集中する。2387は砂岩製で，厚みのある剥片の下縁に剥離を加えて刃部とする。2388は，厚みのある安山岩製の横長剥片の下縁を刃部とする。2389は分厚い砂岩製の剥片で，下縁を刃部とする。刃部には敲打痕が残る。

14　石皿・台石（第2-165～167図2390～2399）

Ⅱ・Ⅲ層から112点の石皿・台石が出土した。そのほとんどは破片資料で比較的残存状況の良い10点を図化した。

2390は花崗斑岩製で，表裏に平滑な部分をもち裏面は平坦面となる。右側縁には部分的に敲打の痕跡がある。2391は盤状の凝灰岩で，全体的に風化・摩耗がみられる。2392は盤状を呈する安山岩で，表・裏面にやや平滑な部分がみられる。2393は，安山岩製の大型の石皿の破片である。残存部からみて周縁は丸みをもって整形され，表面が凹面となる。2394は凝灰岩製で，中央が凹む縁をもつ石皿である。周縁は丸く整形されている。2395は砂岩製で，平坦な磨面をもつ石皿である。部分的に帯状に摩滅する部分があり，砥石として使われた可能性がある。2396は石英斑岩の平盤な礫で，平坦な上面に磨面が残る。2397は砂岩製で，大型の石皿の破片である。使用面と底面が平行しない。2398は平盤な砂岩円礫で，平滑な表面に部分的な磨面が残る。周縁には整形等はみられない。2399は扁平な大型の砂岩円礫で，表・裏に部分的にあばた状の敲打痕が残る。台石として，使用された可能性がある。

15　軽石製品（第2-168～179図）

Ⅱ・Ⅲ層から出土した軽石製品（加工品）は209点で，そのうち103点を図化（Ⅰａ類９点・Ⅰｂ類５点・Ⅰｃ類３点・Ⅱａ類５点・Ⅱｂ類８点・Ⅱｃ類４点・Ⅲａ類18点・Ⅲｂ類10点・Ⅲｃ類10点・Ⅳ類11点・Ⅴ類17点・Ⅵ類３点）した。意図的な穿孔や線刻，円形や板状・扁平形などへの形状加工があるものを軽石製品とした。明瞭な加工が見られないもの，また原石の状態のものは数量には入れていない。

主に形状や穿孔の有無・凹みの有無などで以下のように分類を行った。

軽石製品分類基準

Ⅰ類　特殊な軽石製品（岩偶・獣形・陰石・陽石・舟形）
- ａ　岩偶に類するもの
- ｂ　陰石・陽石に類するもの
- ｃ　舟形に類するもの

Ⅱ類　特殊な加工を施すもの
- ａ　穿孔と線刻を施すもの
- ｂ　穿孔が複数のもの
- ｃ　その他の特殊な形状

Ⅲ類　１つの穿孔のあるもの
- ａ　楕円形・長方形で穿孔のあるもの
- ｂ　円形で穿孔のあるもの
- ｃ　未貫通の穿孔のあるもの

Ⅳ類　楕円形・円形・球体に形状を整えているもの

Ⅴ類　線状又は帯状の凹みがあるもの

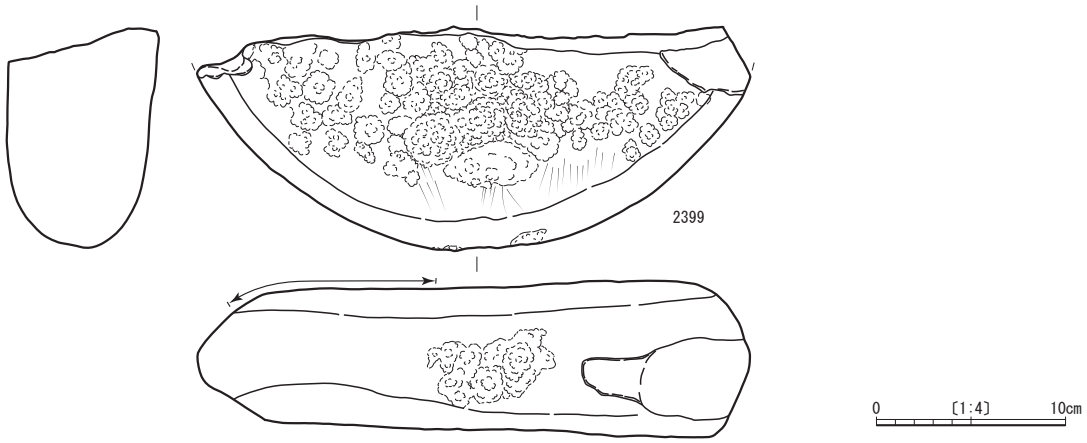
Ⅵ類　何らかの加工痕のあるもの

なお，図化しなかったものの多くはⅥ類である。

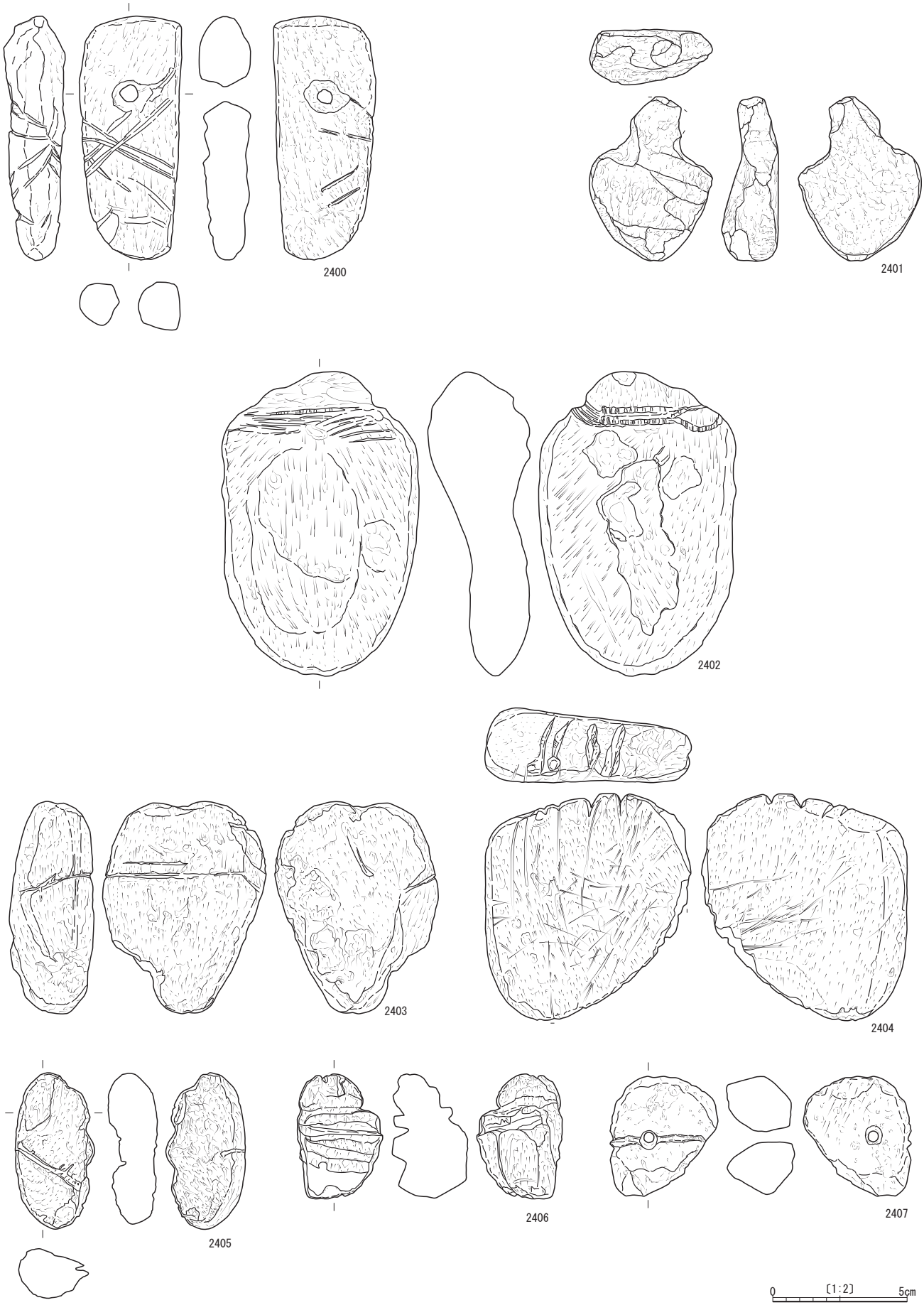
Ⅰａ類（第2-168・169図2400～2408）

岩偶または岩偶に類するもので，９点出土し全て図化した。

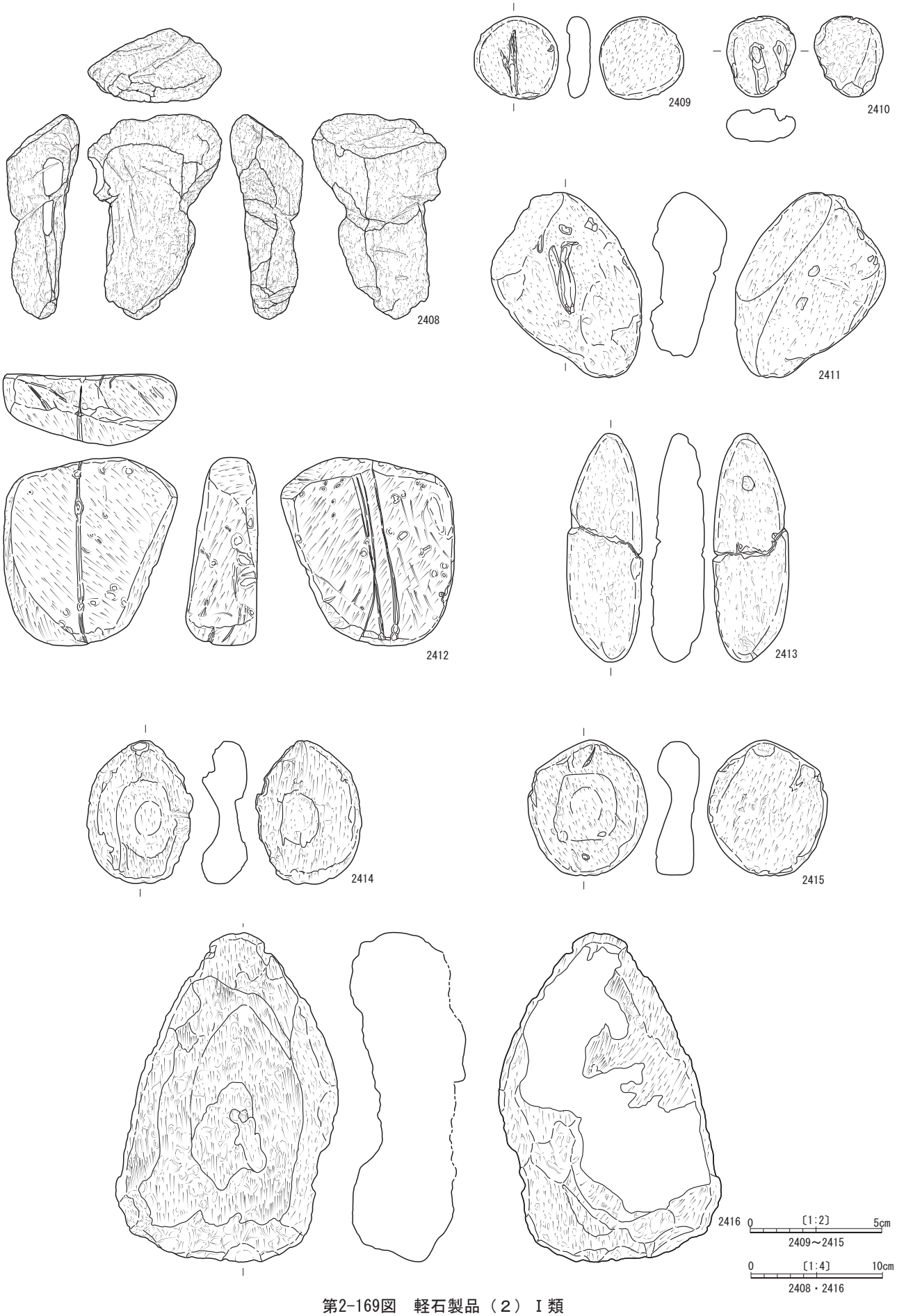
2400は表裏面・左側面に２条１対の線刻を斜位に施し，表面で交差させる。長軸の偏った位置に，両側から穿孔を施す。2401は肩部で抉れ，突起をもつ形状を呈する。各面とも加工されているが，左右下端の抉りにみえる部分は端部が欠損している。2402は上部に瘤状の突起を作り出し，突起の付け根には線状痕が廻る。表面は丁



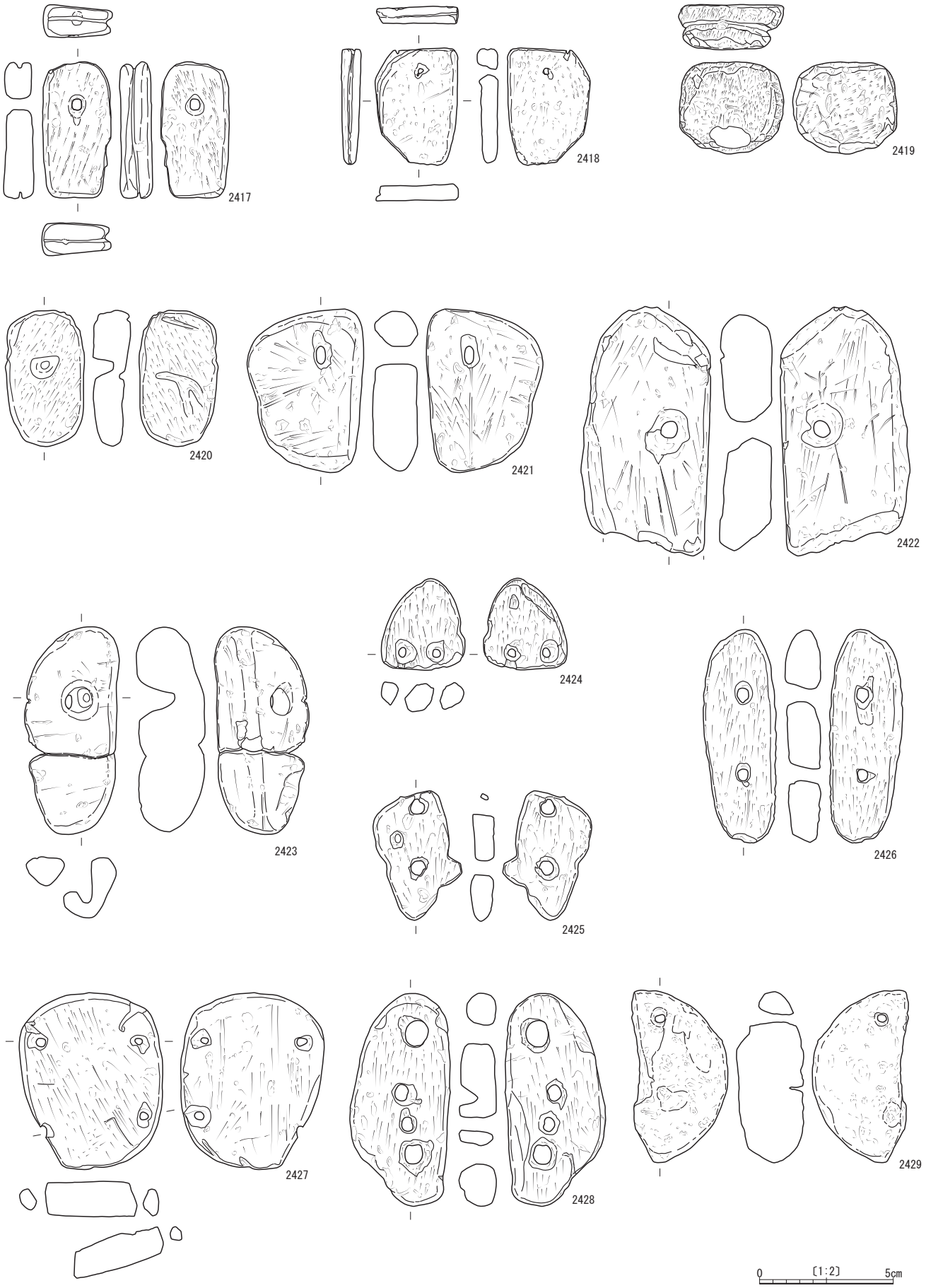
第2-167図　石皿・台石（３）



第2-168図　軽石製品（１）Ⅰ類



第2-169図　軽石製品（２）Ⅰ類



第2-170図　軽石製品（３）Ⅱ類

寧な研磨による楕円形の凹みを，裏面には不定形で粗雑な凹みをもつ。2403は２条の線刻がみられ，１本は左側面にまで施される。上下逆の可能性もある。2404は下縁の右側部分を欠損しているが，隅丸方形の形状をしていた可能性がある。上部側面から表面端部にかけて，1.7～3.0㎝，深さ0.1～0.3㎝の刻みを施す。丁寧な研磨により整形されているが，表面には縦方向の削痕が多数あり，裏面にも横方向の削痕が複数ある。

2405～2407は，獣形とも考えられる一群である。2405は表面に凹みを加工し，その中に凹線を斜位に施す。右側面は緩やかな２つの凹みを施し，平面では波状を呈するよう形状を作り出す。2406は不定形で，「Ｖ」字状の凹線を表面・右側面・裏面に廻るように２条施す。表面下部にも凹みがあるが，加工なのか素材の形状なのかは不明である。2407は不定形な軽石で，表面中位に断面「Ｖ」字状の削りを施している。その「Ｖ」字状に加工した一番軽石の薄い部分に，径約0.6㎝の丁寧な穿孔を施す。

2408は大型製品で，左右に凹みをつけ上部と下部を意識した形状である。裏面にはくびれ状に線刻を施す。上下が逆の可能性もある。

Ⅰｂ類（第2-169図2409～2413）

陰石・陽石に類するもので，出土した５点全てを図化した。

2409は，長さ2.5㎝，幅0.2㎝，深さ0.1㎝の凹線を施す。2410は２条の凹線を加工し，各凹線端部（製品の中央）で未貫通の穿孔を施す。2411は不定形で，表面に長さ2.7㎝，幅0.8㎝，深さ0.3～0.5㎝の凹線を施す。2412は不定形だが，丁寧な研磨で形状を整形している。長軸方向を廻るように凹線と刻線が施され，表面は幅0.2㎝，深さ0.1㎝の凹線を縦方向に施し，上下側面・裏面は線状となる。裏面にはその他にも線状痕・削痕が複数ある。2413に線刻はないが，陽石の可能性がある。長楕円形を呈しており，丁寧な整形である。

Ⅰｃ類（第2-169図2414～2416）

いわゆる舟形軽石製品に類するもので，出土した３点を図化した。

2414・2416は大きさが異なるが，整形や加工が類似したものである。表面全体を凹ませ，上部を三角形状に整形し，舟の軸先を思わせる。裏面は一部凹みがあり，加工なのか素材の自然の凹みなのか不明である。2415は，裏面を平坦面に整形している。

Ⅱａ類（第2-170図2417～2421）

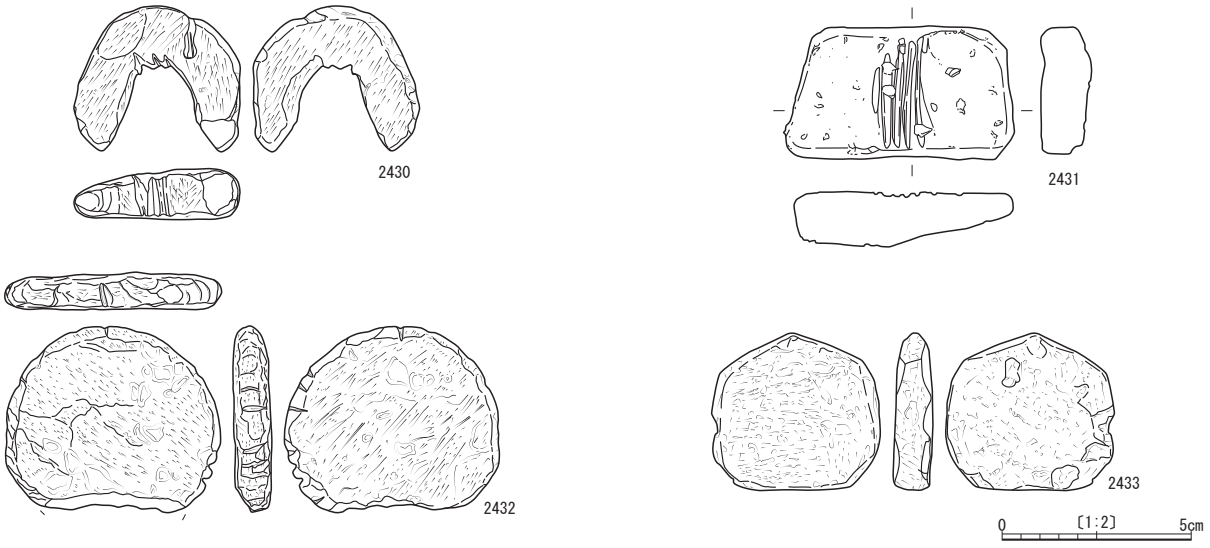
特殊な加工で，穿孔と線刻を施すものである。出土した５点を図化した。

2417・2418は長軸の一端に穿孔を施し，側面に溝状の凹線を施す。2418は，片側から穿孔を施す。2419はバレン状を呈しており，側面には「Ｕ」字状の凹線が廻る。2420は丁寧な整形で，表面に未貫通孔，裏面に２条の線刻がみられる。

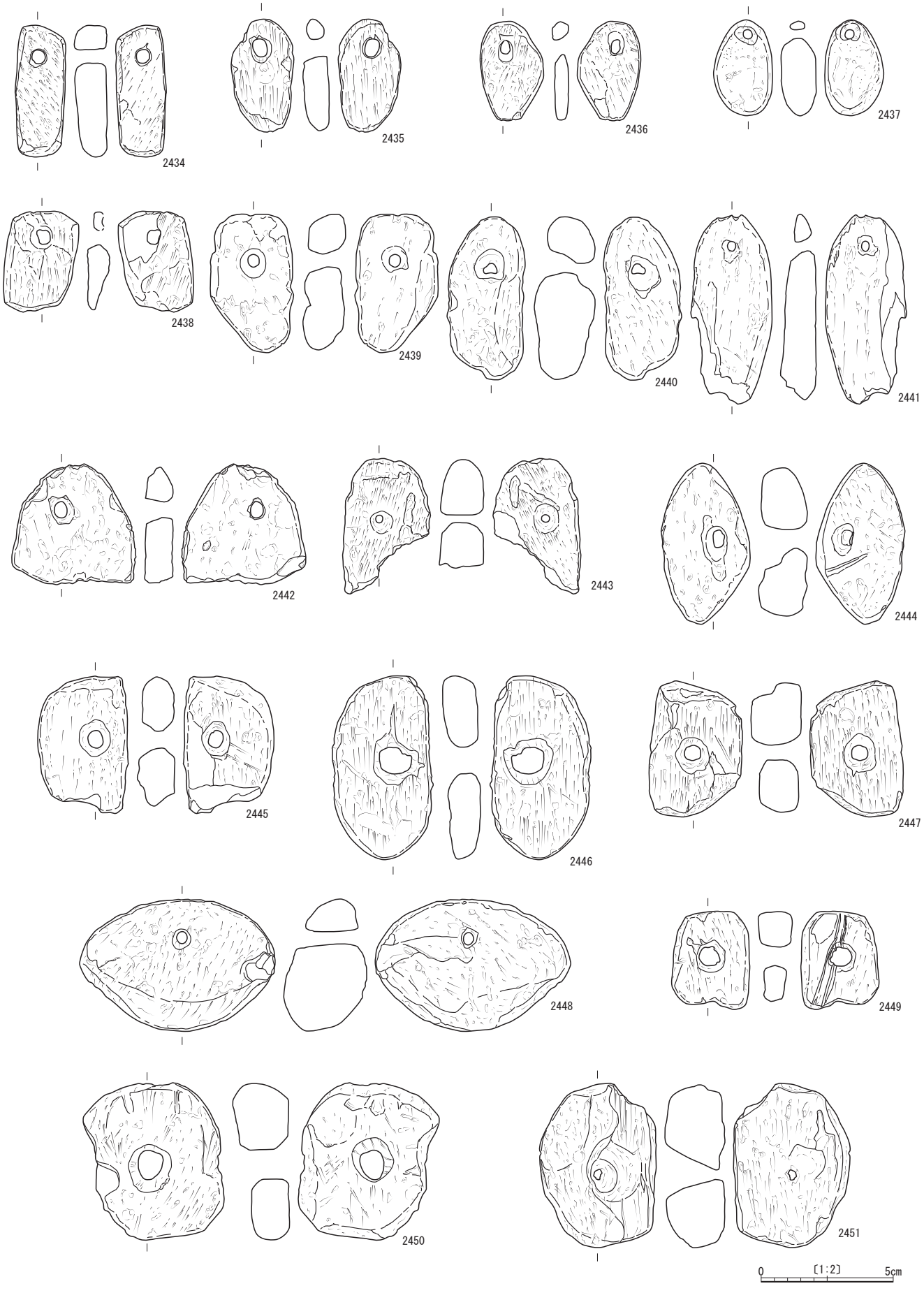
Ⅱｂ類（第2-170図2422～2429）

特殊な加工で，複数の穿孔を施すものである。出土した８点を図化した。

2422は下半部を欠損しているが，欠損箇所との境に２つの未貫通の孔痕が残る。2423は角錐状を呈しており，径約1.2㎝の孔を施す。孔は表面では１つだが，内部で２つに分岐して，１つは貫通し，１つは未貫通である。2424は三角形を呈し，底辺側に２つの穿孔を施す。2425は，２つの穿孔と未貫通の穿孔を施す。2426・2427は，丁寧な整形を行っている。2427は４つの孔をもつが，１つは側面際に穿孔し，半円となっている。2428は，ほぼ直線上に４つの穿孔が並ぶ。2429は半円形を呈しており，表面に径0.6㎝の穿孔と左側面に径0.4㎝の穿孔があり，２つの孔がつながるように施されている。裏面には未貫通の孔を施す。



第2-171図　軽石製品（４）Ⅱ類



第2-172図　軽石製品（５）Ⅲ類

Ⅱｃ類（第2-171図2430～2433）

特殊な加工を施しているものである。

2430は，逆「U」字状の形状である。本来は「U」字状の可能性もある。内面上部に３つの「V」字状の刻みを施す。2431は正面と上下左右の側面に丁寧な面取りを行うが，裏面の整形は粗い。正面中央に下端がやや左に寄った片薬研状の浅い沈線が６条彫り込まれる。2432は下部を欠損しているが，本来の形状は円形の可能性が高い。側面は丸みを帯び，長さ0.5㎝，幅0.1㎝程度の浅い刻みを複数施す。2433は五角形状を呈しており，側面形状を平坦に仕上げている。

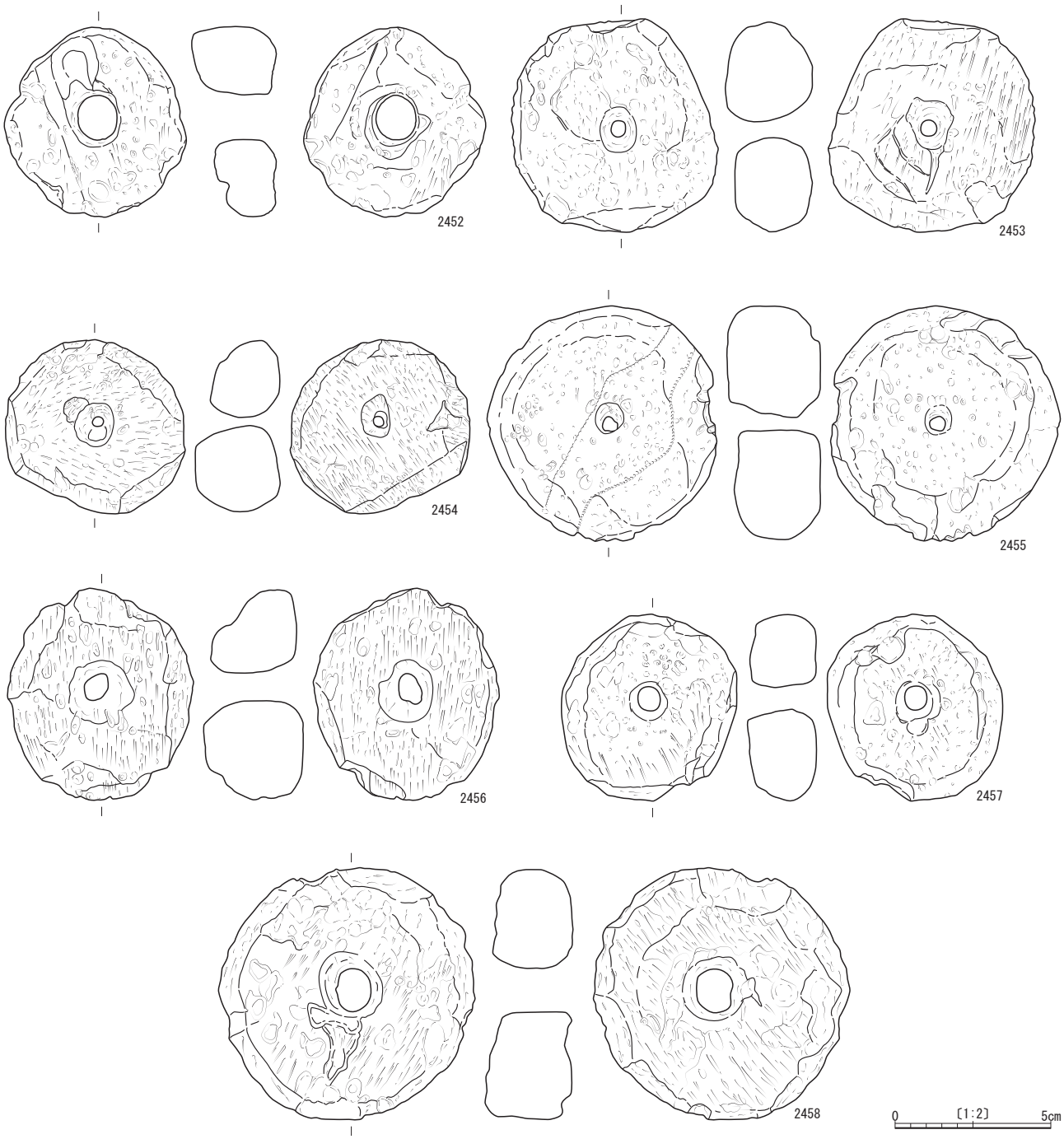
Ⅲａ類（第2-172図2434～2451）

楕円形・長方形で１つの穿孔をするものである。26点出土し，18点を図化した。

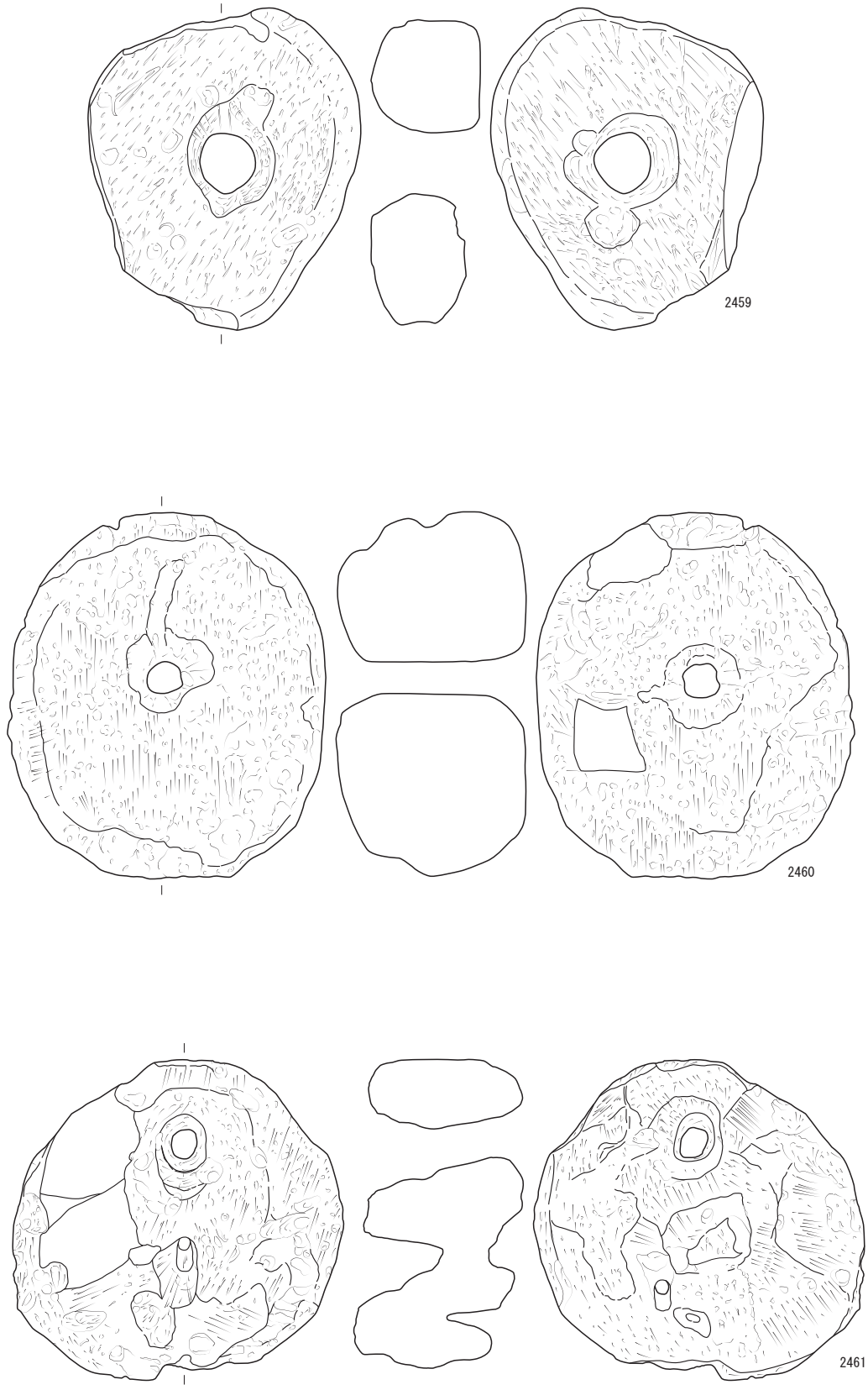
2434～2443は長軸方向の一端に穿孔するもので，いずれも両側から穿孔される。2434は形状の調整が緻密で，垂飾品を思わせる。2435～2437は，大珠を思わせる軽石製品である。

2444～2448は,短軸方向の一端に穿孔するものである。

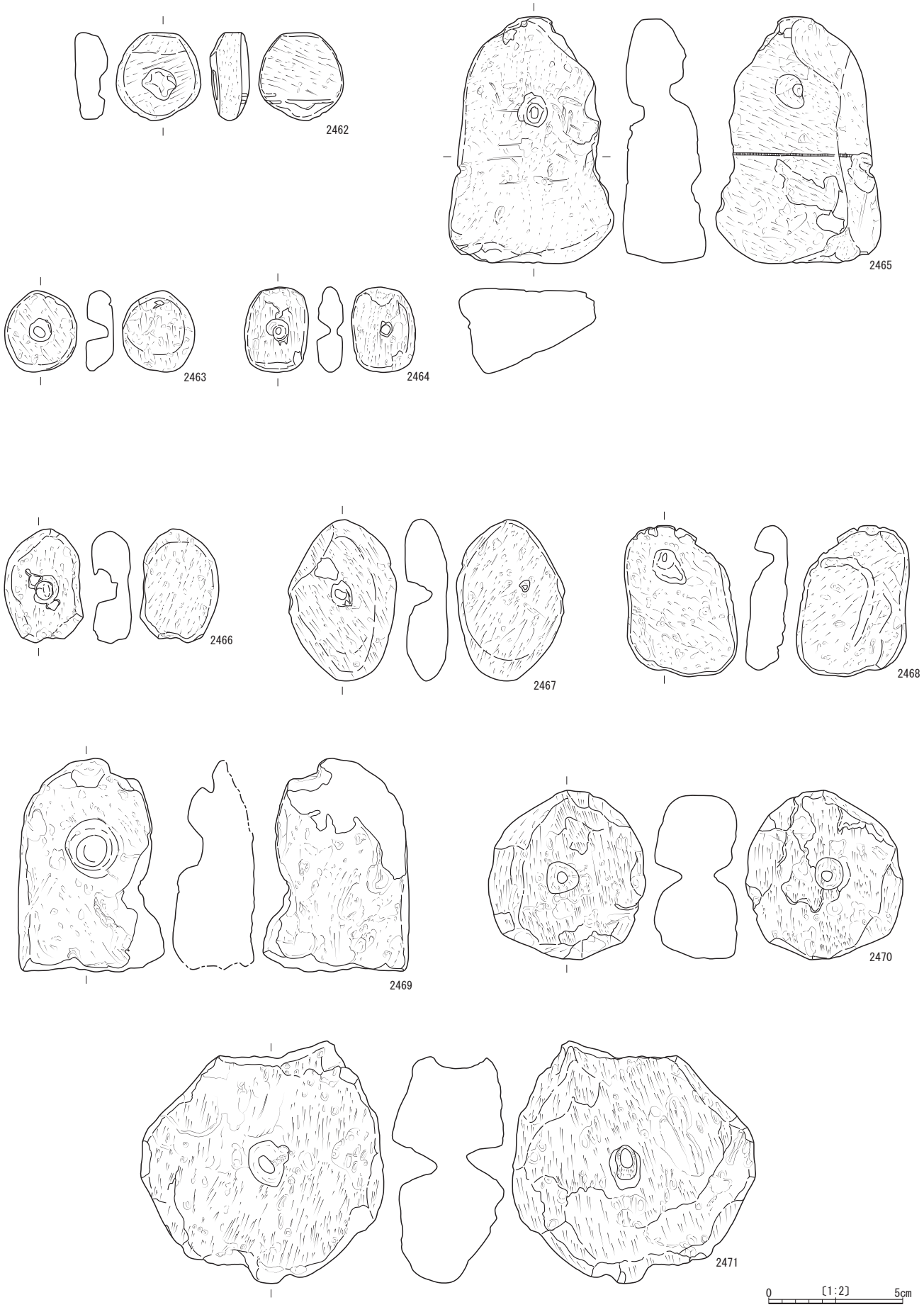
2446は，径約1.2㎝と大きな穿孔である。2448は，径



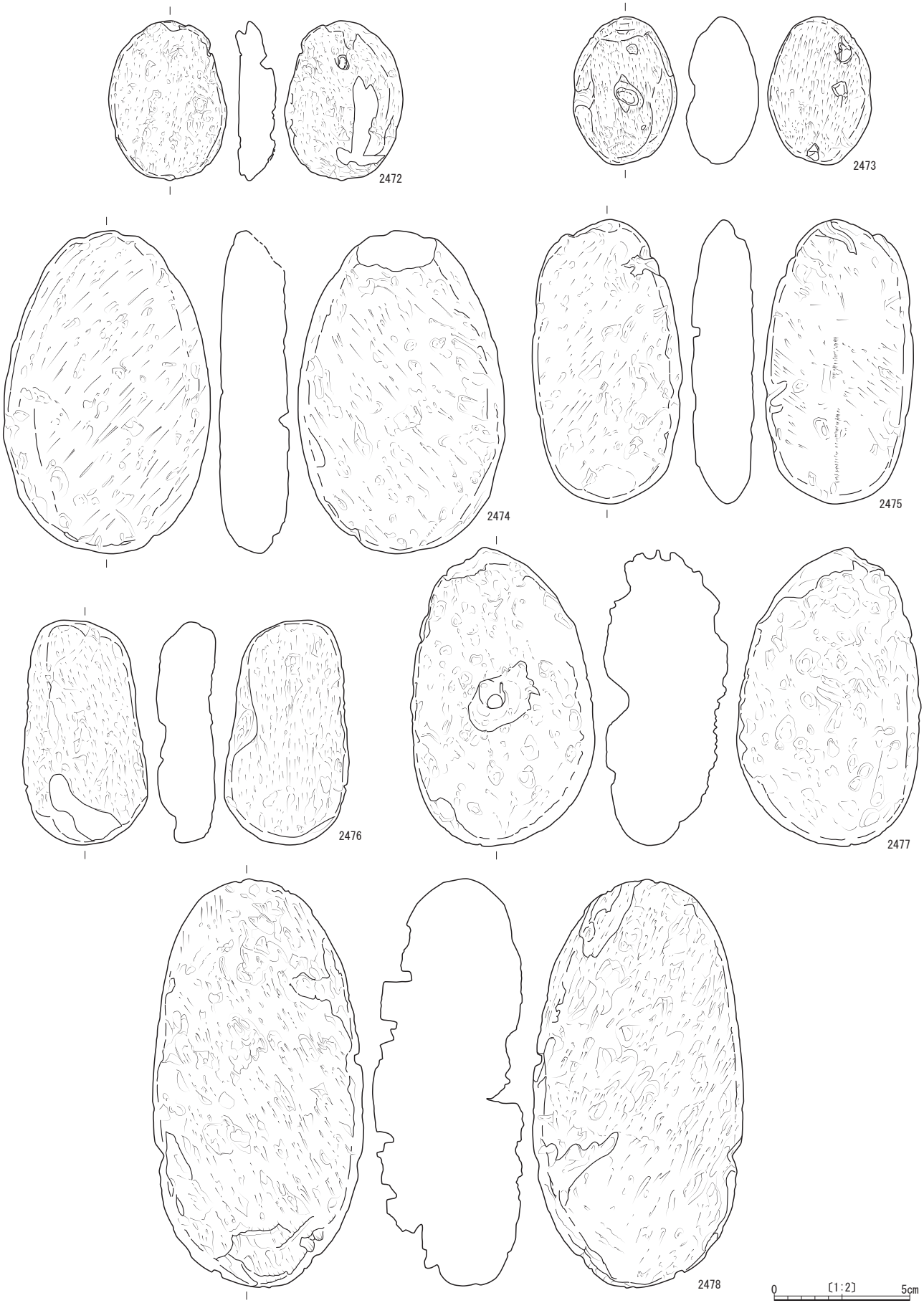
第2-173図　軽石製品（６）Ⅲ類



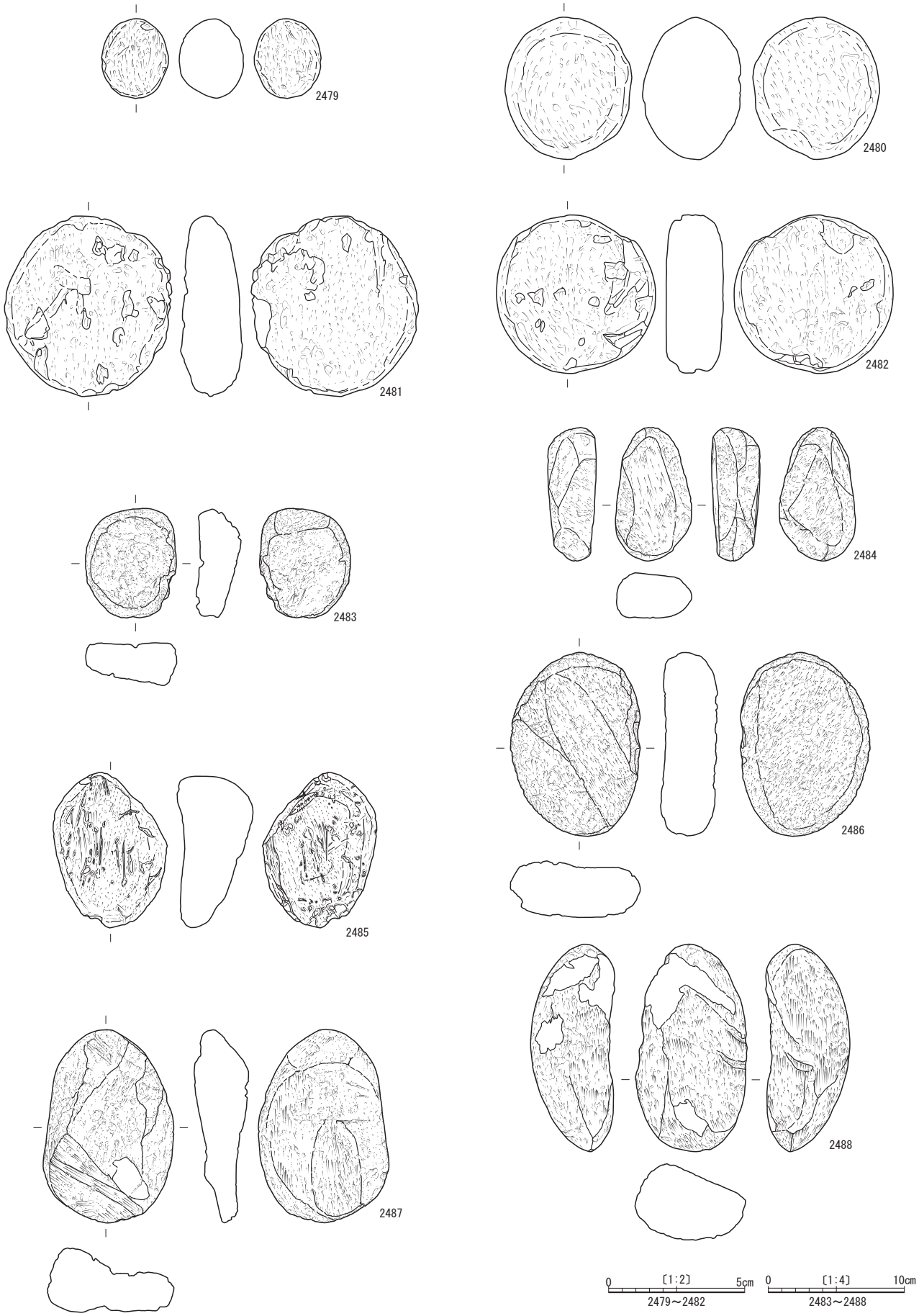
第2-174図　軽石製品（７）Ⅲ類



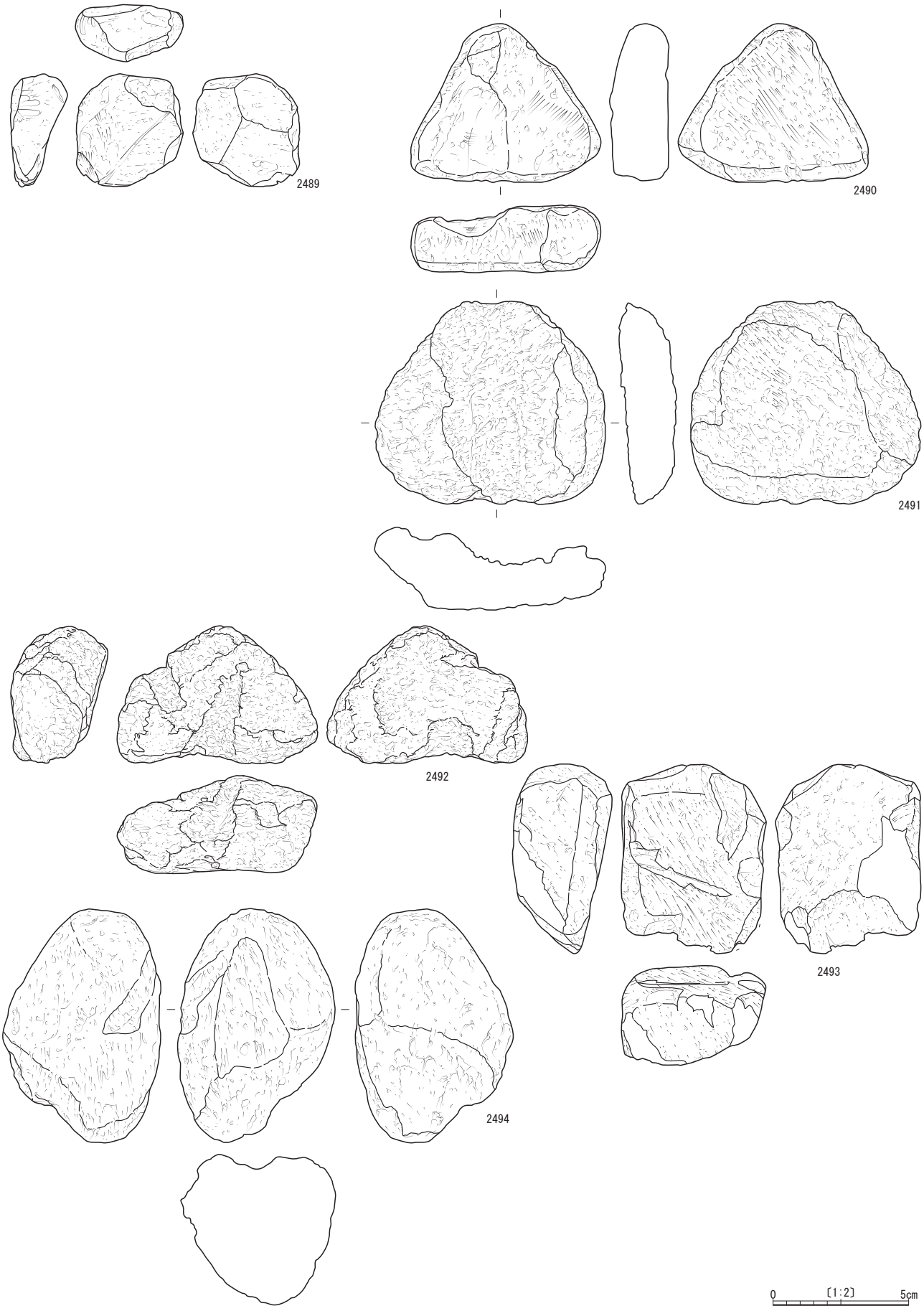
第2-175図　軽石製品（８）Ⅲ類



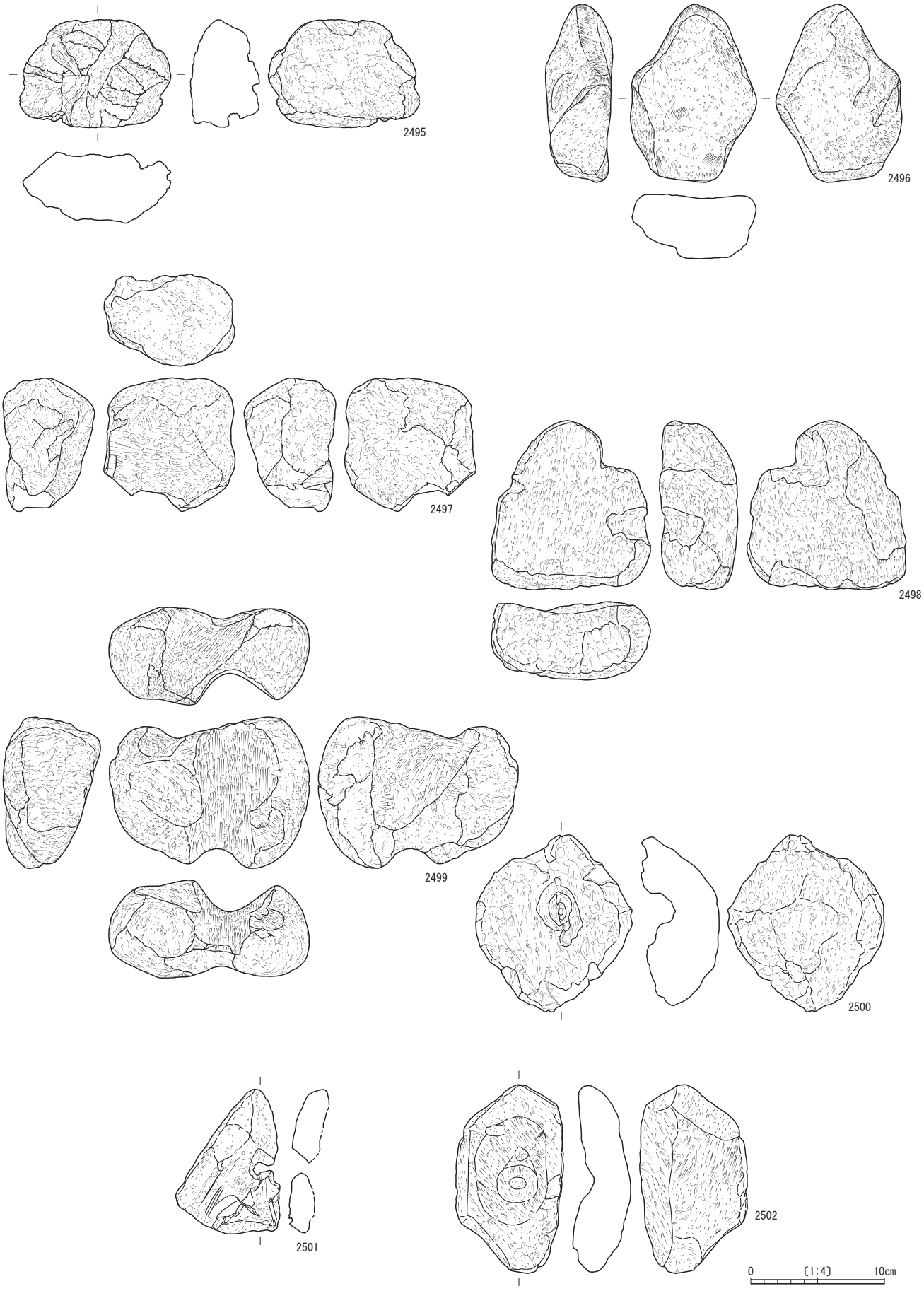
第2-176図　軽石製品（９）Ⅳ類



第2-177図　軽石製品（10）Ⅳ・Ⅴ類



第2-178図　軽石製品（11）Ｖ類



第2-179図　軽石製品（12）Ⅴ・Ⅵ類

約0.5cmの丁寧な穿孔である。

2449～2451は，ほぼ中央に穿孔するものである。2449の裏面の線刻状のものは欠損である。2451は，若干赤褐色を帯びている。片側穿孔で，表面の孔は径約2.0cmで，裏面の孔は0.4cmと狭まる。

Ⅲｂ類（第2-173・174図2452～2461）

円形で穿孔のあるものである。19点出土し，10点を図化した。

2452は孔径が1.4cmと大きく，ドーナツ状を呈している。2459は径約2.0cmの穿孔があり，軽石製品の中で最大の穿孔である。2460は，Ⅲ類の穿孔を施すものでは最大の軽石製品である。2461は長軸方向の偏った位置に径約1.5cmの穿孔と，その下に長楕円形の2.4×1.4cm，深さ2.5cmの未貫通の孔を上下に施す。その他にも径が0.6cm前後の凹みが多数みられるが，軽石素材そのものの凹みか加工痕かは不明である。

Ⅲｃ類（第2-175図2462～2471）

形状は様々だが，未貫通の孔のあるものである。19点出土し，10点を図化した。

2462・2463は丁寧な整形で，丸みを帯びる五角形状を呈している。2464は両面に未貫通の孔があり，あと0.2cmほどで貫通する。2465は三角柱の形状で，表裏面に径0.8～１cm，深さ0.5cmの未貫通の孔がある。2466は，剥離により孔が大きくなっている。2469は欠損のため全体形が不明だが，長径15cm程度の楕円形を呈していた可能性がある。径約1.8cm，深さ0.7cmの大きめの未貫通の孔を施す。2470・2471は，表裏面に未貫通の孔を施す。

Ⅳ類（第2-176・177図2472～2482）

楕円形・円形・球体に形状を整えているもので，131点出土し，数が多く欠損品が多いため，完形に近い11点を図化した。

2472～2476は楕円形で扁平状に，丁寧に整形されるものである。2473は，中央付近に長楕円形状の未貫通の孔を施す。2477・2478は楕円形の形状に丁寧に整形され，厚みをもつ。2477は，表面に径約2.0cmの未貫通孔を施す。2478は裏面が平坦に整形され，中央部が凹む。これが加工なのか，素材礫の自然の凹みなのか不明である。2479は球体に，2480は長球体に近い形状に整形されている。2481・2482は，円形で扁平な形状である。2481は，側面形状は丸みを帯びるように整形している。2482は，側面形状を平坦に仕上げている。

Ⅴ類（第2-177～179図2483～2499）

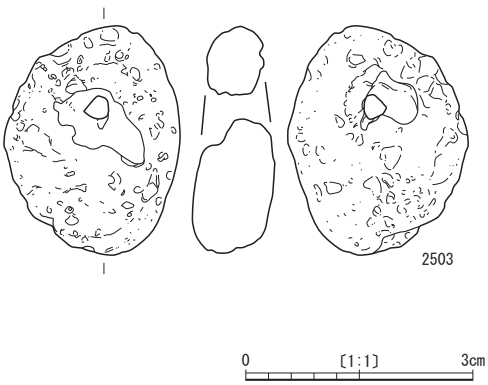
線状又は帯状の凹みがあるものである。26点出土し，17点を図化した。

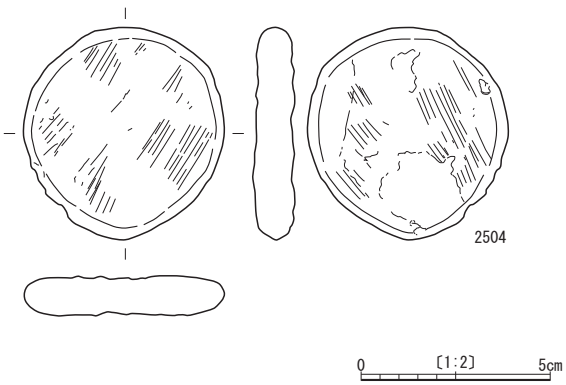
2483～2488は楕円形を呈し，凹みをもつ一群である。2483は平面楕円形，断面略長方形に各面を擦って整形し，正面はごくわずかに凹む。2485は，断面形が足形を呈した整形を施す。表面は全体を研磨により僅かに凹ませ，裏面は平坦面を作り出す。表裏面には筋状の削痕が複数残る。2486は全体を擦って整形し，表面に浅い溝状の砥面を１面設ける。作業軸を気泡の流れに合わせ，石材長軸からやや左に傾けているのが特徴である。右側面には浅い切り込みを２か所施す。2487は，表面３面，裏面１面に溝状の磨面がある。正面下側には明瞭な擦痕が残る。他に各面に切り込み痕が散見される。裏面以外，あまり全形を整えるような整形はみられない。

2489～2499は不定形で，線状又は帯状の凹みがあるものである。2489は表裏面を中心に面取りがなされ，表裏面の状況から砥石だった可能性もある。2492はおにぎり状を呈しており，その表面と左側面に交差方向の断面「U」字状の溝が彫られている。また，表面は平坦となり，砥面に利用された可能性もある。2493は，ほぼ完形品である。正面と両側面は比較的平面に仕上げて上面と裏面は曲面に粗く整え，下面は浅く凹む。2495～2499は，大型の軽石製品である。2495は縦断面が略砲弾型を呈し，表面に細い溝状の砥面が５～６面，浅い溝状の砥面が１～２面ある。下面は粗く平面に整形され，裏面は風化のため詳細は不明である。2497は正面と右側面に浅く凹む面が形成され，特に正面には擦痕が観察される。また左側面には鋭利な道具により切り込まれたような痕がある。

Ⅵ類（第2-179図2500～2502）

何らかの加工が施されているものである。32点出土





第2-180図　石製品

し，３点を図化した。

2500は菱形に近く，4.0×3.0㎝，深さ2.4㎝の楕円形の凹みを施す。2501は半分以上欠損しているが，大型のものである。本来は多面体の形状で中央に穿孔していた可能性があるが，全体の形状が不明のためⅥ類とした。2502は表面全体を研磨により凹ませ，中央に径約3.0㎝，深さ0.6㎝の未貫通孔を施す。表面に比べ，側面裏面の整形は粗雑である。

16　石製品（第2-180図2503・2504）

2503は凝灰岩製で，気泡部分に加工を施し穿孔する。2504は，凝灰岩製の円盤形石製品である。表裏面を平坦に研磨し，周縁は断面かまぼこ状に整形する。

第2-25表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（１）

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(㎝)			重量(g)	備考
								最大長	最大幅	最大厚		
	2001	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	1.80	1.70	0.35	0.54	
	2002	D-27	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.70)	(1.75)	0.35	0.66	
	2003	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.80)	(1.20)	0.25	0.44	
	2004	D-20	Ⅲ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.30)	(1.25)	0.35	0.43	
	2005	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	1.55	(1.30)	0.20	0.35	
	2006	C-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.70)	(1.35)	0.25	0.43	
	2007	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.85)	(1.60)	0.35	0.78	
	2008	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	1.30	1.45	0.18	0.32	
	2009	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.70)	(1.40)	0.25	0.44	
	2010	C-24	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.50)	(1.45)	1.25	0.39	
	2011	C-17	Ⅲ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.60)	(1.25)	0.25	0.46	
2-135	2012	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.40)	(1.17)	0.20	0.26	
	2013	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.50)	(1.35)	0.35	0.38	
	2014	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.65)	(1.50)	0.35	0.73	
	2015	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	黒曜石	OB4	(1.65)	(1.25)	0.35	0.58	
	2016	C-27	Ⅲ	打製石鏃	Ⅰa	安山岩		(1.60)	(1.60)	0.38	0.83	
	2017	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	安山岩		(1.50)	(1.50)	0.35	0.55	
	2018	D-27	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	安山岩		(1.40)	(0.85)	0.30	0.32	
	2019	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	安山岩		1.50	1.40	0.30	0.41	
	2020	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	安山岩		1.95	1.70	0.25	0.81	
	2021	D-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰa	玉髄		(1.85)	(1.30)	0.25	0.56	
	2022	B-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅰb	黒曜石	OB4	1.45	1.10	0.25	0.32	
	2023	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	黒曜石	OB4	(2.00)	(1.30)	0.45	0.84	
	2024	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	黒曜石	OB4	(2.10)	(1.35)	0.35	0.88	
	2025	F-9	Ⅱa	打製石鏃	Ⅰb	黒曜石	OB5	2.00	1.50	0.25	0.80	
	2026	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	安山岩		2.90	1.95	0.65	2.36	
	2027	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	安山岩		(1.60)	(1.55)	0.45	0.75	
	2028	C-22	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	安山岩		(2.20)	1.70	0.40	1.39	
	2029	D-21	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	安山岩		(1.85)	(1.35)	0.25	0.58	
	2030	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	安山岩		(2.54)	1.87	0.56	1.51	
2-136	2031	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	ホルンフェルス		(1.90)	(1.50)	0.25	0.57	
	2032	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	玉髄		(2.00)	(1.62)	0.55	1.32	
	2033	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅰb	玉髄		(1.24)	1.74	0.32	0.63	
	2034	C-22	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.50	1.55	0.25	0.36	
	2035	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.30	1.40	0.20	0.26	
	2036	C-21	Ⅲ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.35	1.30	0.25	0.33	
	2037	D-17	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.35	1.30	0.25	0.39	
	2038	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.00	1.17	0.25	0.21	

第2-26表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（２）

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(cm)			重量(g)	備考
								最大長	最大幅	最大厚		
2-136	2039	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.20	1.48	0.27	0.27	
	2040	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.00	1.15	0.26	0.20	
	2041	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.50	1.60	0.25	0.37	
	2042	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.10	0.95	0.20	0.17	
	2043	D-19	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	(1.50)	(0.98)	0.25	0.23	
	2044	D-22	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	(1.50)	1.52	0.35	0.46	
	2045	C-27	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.30	(0.95)	2.00	0.24	
	2046	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	(1.35)	(1.12)	0.25	0.34	
	2047	C-17	Ⅲ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	(1.50)	(1.10)	0.20	0.23	
	2048	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	(1.30)	(1.30)	0.35	0.36	
	2049	D-21	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	(1.15)	1.30	0.20	0.21	
2-137	2050	E-19	Ⅱc	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	(2.00)	(1.25)	0.30	0.65	
	2051	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	(1.60)	(1.26)	0.30	0.60	
	2052	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.60	1.45	0.30	0.48	
	2053	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB1	(1.41)	1.32	0.31	0.51	
	2054	D-13	Ⅳ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB1	(1.30)	(1.35)	0.20	0.22	
	2055	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		1.80	1.40	0.30	0.71	
	2056	C-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		1.60	1.60	0.30	0.54	
	2057	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		1.70	1.60	0.40	0.73	
	2058	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		1.75	1.70	0.30	0.74	
	2059	D-27	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.90)	(1.45)	0.30	0.54	
	2060	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.55)	(1.40)	0.30	0.53	
	2061	D-21	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.50)	(1.45)	0.25	0.40	
	2062	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.55)	(1.30)	0.25	0.49	
	2063	D-19	Ⅲ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.40)	(1.15)	0.25	0.28	
	2064	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.38)	(1.10)	0.25	0.31	
	2065	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.75)	(1.60)	0.35	0.54	
	2066	D-21	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.58)	1.47	0.26	0.44	
	2067	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.44)	(1.37)	0.30	0.43	
	2068	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		1.50	1.40	0.35	0.41	
	2069	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		1.80	1.75	0.50	0.79	
	2070	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		(1.68)	(1.30)	0.30	0.46	
	2071	D-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		1.80	1.50	0.35	0.54	
	2072	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		1.80	1.70	0.25	0.66	
	2073	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	玉髄		1.55	1.18	0.25	0.35	
	2074	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	凝灰岩		(1.58)	(1.50)	0.27	0.57	
	2075	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.18	1.09	0.33	0.59	
	2076	E-21	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.12	1.40	0.24	0.32	
	2077	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.00	1.30	0.25	0.27	
	2078	E-18	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	(1.42)	(1.78)	0.33	0.73	
	2079	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	安山岩		1.05	1.77	0.33	0.55	
	2080	D-24	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石	OB4	1.05	1.15	0.25	0.35	
2-138	2081	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	(1.15)	(1.05)	0.20	0.19	
	2082	D-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	(1.75)	(1.45)	0.30	0.48	
	2083	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	(1.50)	(1.25)	0.25	0.29	
	2084	D-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	1.40	1.19	0.22	0.23	

第2-27表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（３）

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(cm)			重量(g)	備考
								最大長	最大幅	最大厚		
2-138	2085	D-20	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	1.75	1.45	0.30	0.45	
	2086	D-18	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	1.45	1.30	0.25	0.28	
	2087	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	(1.40)	(1.40)	0.25	0.46	
	2088	E-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	(1.35)	(1.00)	0.20	0.19	
	2089	C-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	(1.05)	(1.10)	0.30	0.20	
	2090	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB4	1.40	(1.35)	0.30	0.26	
	2091	E-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅱb	黒曜石	OB1	2.00	1.80	0.40	0.94	
	2092	D-28	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	安山岩		2.30	1.75	0.45	1.08	
	2093	D-21	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	安山岩		1.70	1.55	0.25	0.69	
	2094	C-16	Ⅲ	打製石鏃	Ⅱb	安山岩		(1.95)	(1.55)	0.25	0.51	
	2095	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	安山岩		1.30	1.10	0.30	0.29	
	2096	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	安山岩		1.60	1.60	0.40	0.76	
	2097	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	安山岩		1.40	1.15	0.25	0.34	
	2098	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅱb	玉髄		1.35	1.75	0.25	0.44	
2-139	2099	D-19	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	黒曜石	OB4	2.30	1.65	0.30	0.70	
	2100	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	黒曜石	OB4	2.50	1.75	0.35	0.92	
	2101	C-27	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	黒曜石	OB4	2.30	1.93	0.35	1.06	
	2102	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	黒曜石	OB4	1.90	1.45	0.25	0.54	
	2103	D-26	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲa	黒曜石	OB4	(1.70)	(1.23)	0.35	0.60	
	2104	D-19	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲa	黒曜石	OB4	1.95	1.40	0.45	0.89	
	2105	C-17	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲa	黒曜石	OB4	(1.45)	1.50	0.40	0.60	
	2106	D-28	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(2.80)	(1.95)	0.40	1.27	
	2107	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(2.60)	(2.05)	0.70	2.05	
	2108	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		2.15	1.85	0.25	0.82	
	2109	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(2.25)	(1.60)	0.40	0.88	
	2110	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(1.90)	2.00	0.45	1.33	
	2111	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(2.40)	(1.60)	0.30	0.94	
	2112	E-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(2.10)	(1.50)	0.35	0.65	
	2113	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		2.50	1.80	0.50	1.06	
	2114	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(2.10)	1.45	0.50	1.01	
	2115	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(1.50)	1.30	0.30	0.58	
	2116	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		1.50	0.97	0.25	0.30	
	2117	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		1.25	1.15	0.25	0.35	
	2118	C-19	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(2.10)	(1.35)	0.45	0.93	
	2119	C-20	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(2.30)	(1.40)	0.20	0.52	
	2120	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(2.51)	(1.53)	0.55	1.23	
	2121	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	安山岩		(1.10)	(0.80)	0.20	0.16	
	2122	C-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲa	ホルンフェルス		2.50	1.70	0.25	1.21	
2-140	2123	C-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB4	2.82	1.67	0.37	0.93	
	2124	D-21	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB4	(2.20)	(1.50)	0.30	0.47	
	2125	D-21	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB4	(2.20)	(1.55)	0.40	1.09	
	2126	D-22	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB4	1.83	1.31	0.24	0.45	
	2127	B-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB4	(1.90)	(1.25)	0.25	0.44	
	2128	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB4	(1.63)	(1.08)	0.24	0.26	
	2129	D-17	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB4	1.50	1.10	0.35	0.33	
	2130	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB5	(1.92)	(1.38)	0.45	0.60	

第2-28表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（４）

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(cm)			重量(g)	備考
								最大長	最大幅	最大厚		
2-140	2131	D-13	Ⅲa	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB5	3.48	2.83	0.33	2.31	
	2132	C-18	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB5	(2.00)	(1.80)	0.30	0.41	
	2133	D-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB5	(2.29)	(1.18)	0.38	0.63	
	2134	D-22	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	黒曜石	OB1	1.56	1.11	0.27	0.36	
	2135	D-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	安山岩		(2.20)	(1.20)	0.40	0.61	
	2136	D-16	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲb	安山岩		1.98	1.42	0.37	0.62	
	2137	D-19	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲb	安山岩		2.50	1.50	0.35	0.74	
	2138	C-22	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	安山岩		2.19	1.52	0.26	0.66	
	2139	E-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	安山岩		1.82	1.31	0.35	0.45	
	2140	D-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲb	安山岩		(1.58)	(1.17)	0.31	0.33	
	2141	D-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	安山岩		(1.81)	(1.22)	0.32	0.47	
	2142	D-21	Ⅲ	打製石鏃	Ⅲb	安山岩		(2.39)	(1.61)	0.37	0.77	
	2143	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	安山岩		(2.37)	(1.86)	0.40	0.79	
	2144	D-11	Ⅲb	打製石鏃	Ⅲb	ホルンフェルス		1.70	1.25	0.25	0.46	
	2145	C-22	Ⅱ	打製石鏃	Ⅲb	ホルンフェルス		1.75	1.40	0.30	0.44	
2-141	2146	D-22	Ⅱ	打製石鏃	Ⅳ	安山岩		(2.93)	(1.87)	0.40	1.56	
	2147	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅳ	黒曜石	OB4	(2.00)	(1.40)	0.30	0.60	
	2148	C-21	Ⅱ	打製石鏃	Ⅳ	黒曜石	OB4	(1.70)	(1.45)	0.40	0.77	
	2149	D-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅳ	黒曜石	OB4	1.40	1.30	0.30	0.28	
	2150	C-22	Ⅲ	打製石鏃	Ⅴ	黒曜石	OB4	(2.63)	(2.10)	0.64	2.19	
	2151	E-19	Ⅲ	打製石鏃	Ⅴ	黒曜石	OB4	(1.33)	(1.22)	0.32	0.44	
	2152	D-27	Ⅱ	打製石鏃	Ⅴ	安山岩		(1.44)	(1.09)	0.21	0.22	
	2153	D-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅴ	玉髄		(1.30)	1.50	0.35	0.57	
2-142	2154	C-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅵ	黒曜石	OB4	(1.77)	(1.69)	0.59	1.02	
	2155	C-18	Ⅲ	打製石鏃	Ⅵ	黒曜石	OB4	1.25	1.05	0.25	0.25	
	2156	E-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅵ	黒曜石	OB4	2.02	1.76	0.50	1.66	
	2157	D-26	Ⅲ	打製石鏃	Ⅵ	黒曜石	OB4	(1.32)	(1.28)	0.27	0.36	
	2158	C-21	Ⅲ	打製石鏃	Ⅵ	黒曜石	OB4	1.55	1.35	0.30	0.56	
	2159	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅵ	黒曜石	OB4	(1.60)	(1.30)	0.20	0.44	
	2160	C-19	Ⅱ	打製石鏃	Ⅵ	黒曜石	OB4	1.45	1.35	0.20	0.46	
	2161	C-23	Ⅱ	打製石鏃	Ⅵ	黒曜石	OB4	(1.40)	1.50	0.25	0.45	
	2162	C-8	Ⅱa	打製石鏃	Ⅵ	黒曜石	OB5	(1.70)	(1.60)	0.50	1.16	
	2163	C-26	Ⅱ	打製石鏃	Ⅵ	安山岩		(2.10)	(2.00)	0.50	1.48	
	2164	D-25	Ⅱ	打製石鏃	Ⅵ	安山岩		2.10	1.50	0.40	1.01	
	2165	D-21	Ⅱ	打製石鏃	Ⅵ	ホルンフェルス		3.80	3.55	0.75	8.28	
	2166	D-16	Ⅲ	打製石鏃	Ⅵ	ホルンフェルス		2.00	1.65	0.40	1.25	
2-143	2167	C-26	Ⅱ	石錐	－	黒曜石	OB4	1.20	0.50	0.20	0.15	完形
	2168	C-17	Ⅲ	石錐	－	黒曜石	OB4	1.55	0.65	0.30	0.27	完形
	2169	E-26	Ⅱ	石錐	－	安山岩		(1.65)	0.90	0.35	0.63	
	2170	D-22	Ⅱ	石錐	－	安山岩		(2.55)	1.55	0.30	1.43	
	2171	C-26	Ⅱ	石錐	－	安山岩		2.70	1.35	0.30	1.47	
	2172	D-26	Ⅱ	石錐	－	安山岩		(2.25)	0.90	0.15	0.54	
	2173	D-26	Ⅱ	石錐	－	安山岩		(1.80)	0.85	0.30	0.61	
	2174	C-29	Ⅳb	石錐	－	安山岩		2.20	1.00	0.25	0.85	
	2175	C-20	Ⅰ	石錐	－	ホルンフェルス		(3.80)	1.95	0.30	3.76	
	2176	F-14	Ⅱ	石錐	－	水晶		3.90	1.70	0.60	5.80	

第2-29表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（５）

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(cm)			重量(g)	備考
								最大長	最大幅	最大厚		
2-143	2177	D-25	Ⅱ	石錐	－	ホルンフェルス		6.40	3.15	0.45	15.32	
2-144	2178	C-17	Ⅲ	石錐	－	黒曜石	OB4	2.88	1.83	0.97	4.12	
	2179	E-18	Ⅲ	石錐	－	安山岩		2.70	1.65	0.65	2.28	
	2180	D-21	Ⅱ	石錐	－	安山岩		2.80	0.90	0.55	1.23	
	2181	D-9	Ⅱ	尖頭器	－	安山岩		3.95	1.10	0.35	1.78	
	2182	C-25	Ⅱ	尖頭器	－	安山岩		3.70	1.00	0.50	1.70	
	2183	D-18	Ⅲ	尖頭器	－	安山岩		3.30	0.70	0.50	1.14	
	2184	D-18	Ⅱ	尖頭器	－	黒曜石	OB4	3.25	0.95	0.40	1.41	
	2185	C-21	Ⅱ	尖頭器	－	安山岩		2.35	0.60	0.30	0.44	
	2186	D-25	Ⅱ	尖頭器	－	黒曜石	OB4	3.05	1.20	0.45	1.31	
	2187	D-26	Ⅱ	尖頭器	－	黒曜石	OB4	(2.75)	1.05	0.55	1.29	
	2188	B-18	Ⅲ	尖頭器	－	安山岩		(2.70)	(1.15)	0.50	1.67	
	2189	C-26	Ⅱ	尖頭器	－	安山岩		(2.00)	(0.95)	0.40	0.69	
	2190	C-17	Ⅲ	尖頭器	－	黒曜石	OB4	(2.60)	1.45	0.45	2.29	
	2191	D-18	Ⅲ	尖頭器	－	黒曜石	OB1	(2.80)	1.10	0.55	1.67	
	2192	E-20	Ⅱ	尖頭器	－	黒曜石	OB4	1.55	0.70	0.30	0.41	
	2193	C-26	Ⅱ	尖頭器	－	安山岩		(1.30)	(0.90)	0.30	0.41	
	2194	C-24	Ⅱ	異形石器	－	黒曜石	OB4	(1.65)	(1.05)	0.25	0.48	
2-145	2195	D-26	Ⅳa	石匙	－	砂岩		7.40	12.30	1.35	96.76	
	2196	D-18	Ⅲ	石匙	－	チャート		4.20	5.75	0.50	14.57	
	2197	C-21	Ⅲ	石匙	－	安山岩		5.00	4.30	1.00	22.99	
	2198	E-21	Ⅱ	スクレイパー	－	安山岩		3.57	2.69	0.98	5.99	
	2199	C-26	Ⅱ	スクレイパー	－	安山岩		2.71	2.33	0.76	3.18	
	2200	C-27	Ⅱ	スクレイパー	－	安山岩		(1.82)	(2.18)	0.57	1.56	
	2201	D-17	Ⅱ	スクレイパー	－	黒曜石	OB4	2.40	2.40	0.60	2.32	
2-146	2202	D-12	Ⅲb	スクレイパー	－	砂岩		11.80	9.40	2.30	247.93	
	2203	E-17	Ⅲ	スクレイパー	－	ホルンフェルス		7.05	11.10	1.60	163.03	
	2204	D-15	Ⅲa	スクレイパー	－	ホルンフェルス		5.85	10.75	1.85	105.46	
	2205	D-20	Ⅲ	スクレイパー	－	ホルンフェルス		5.40	7.20	1.20	51.23	
	2206	D-13	Ⅲa	スクレイパー	－	ホルンフェルス		9.50	3.95	1.05	22.70	
	2207	E-18	Ⅲ	スクレイパー	－	安山岩		2.70	3.00	1.50	12.21	
	2208	D-18	Ⅲ	スクレイパー	－	ホルンフェルス		(9.40)	4.50	1.00	48.46	
	2209	C-26	Ⅱ	スクレイパー	－	ホルンフェルス		4.60	9.60	2.00	117.64	
	2210	D-14	Ⅳ	スクレイパー	－	ホルンフェルス		4.10	9.20	1.50	68.79	
	2211	D-19	Ⅲ	スクレイパー	－	ホルンフェルス		4.20	14.30	0.85	72.42	
2-147	2212	C-18	Ⅱ	使用痕剥片(UF)	－	黒曜石	OB4	1.80	2.10	0.40	1.00	
	2213	D-18	Ⅱ	使用痕剥片(UF)	－	黒曜石	OB4	2.30	2.60	1.30	6.30	
	2214	C-18	Ⅱ	使用痕剥片(UF)	－	黒曜石	OB4	2.30	2.20	1.50	6.05	
	2215	E-17	Ⅱ	使用痕剥片(UF)	－	黒曜石	OB4	2.20	1.00	0.50	0.60	
	2216	D-19	Ⅱ	使用痕剥片(UF)	－	黒曜石	OB4	2.00	1.40	0.50	0.90	
	2217	D-18	Ⅱ	使用痕剥片(UF)	－	黒曜石	OB4	2.50	1.70	0.70	1.80	
	2218	E-19	Ⅲ	使用痕剥片(UF)	－	頁岩		8.70	4.90	1.80	52.52	
	2219	D-18	Ⅲ	使用痕剥片(UF)	－	ホルンフェルス		5.50	5.60	1.30	43.29	
	2220	D-19	Ⅲ	使用痕剥片(UF)	－	安山岩		2.70	5.80	0.70	10.73	
2-148	2221	E-20	Ⅱ	使用痕剥片(UF)	－	砂岩		6.30	11.40	1.10	137.64	
	2222	E-13	Ⅲ	使用痕剥片(UF)	－	砂岩		7.00	10.20	2.00	167.17	

第2-30表　縄文時代後期遺物観察表（石器・石製品）（６）

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(cm)			重量(g)	備考
								最大長	最大幅	最大厚		
2-148	2223	F-12	Ⅲa	使用痕剥片(UF)	－	頁岩		10.60	10.30	3.20	288.10	
	2224	E-14	Ⅲa	使用痕剥片(UF)	－	砂岩		12.60	9.40	3.10	368.80	
	2225	E-10	Ⅱa	加工痕のある剥片	－	ホルンフェルス		5.60	10.50	1.70	129.38	
	2226	E-14	Ⅲa	使用痕剥片(UF)	－	砂岩		9.05	3.50	1.95	91.12	
	2227	E-22	Ⅱ	使用痕剥片(UF)	－	砂岩		16.00	9.90	2.75	554.15	
2-149	2228	E-18	Ⅲ	石核	－	黒曜石	OB1	2.10	2.80	2.10	14.69	
	2229	C-22	Ⅱ	石核	－	玉髄		3.15	3.80	2.50	31.62	
	2230	D-20	Ⅲ	石核	－	安山岩		3.30	4.20	4.20	41.19	
	2231	D-14	Ⅱ	石核	－	ホルンフェルス		11.60	9.00	5.00	507.80	
	2232	B-16	Ⅱ	石核	－	ホルンフェルス		9.40	8.60	4.00	374.87	
2-150	2233	D-26	Ⅱ	石核	－	玉髄		6.30	5.60	3.30	127.28	
2-151	2234	E-12	Ⅲb	磨製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス		(10.30)	5.00	2.90	218.00	
	2235	D-20	Ⅱ	磨製石斧	Ⅰ	砂岩		10.70	5.20	3.20	260.00	
	2236	E-15	Ⅲa	磨製石斧	Ⅰ	砂岩		12.90	4.60	3.10	224.00	
	2237	E-13	Ⅲa	磨製石斧	Ⅰ	砂岩		(11.80)	5.80	3.00	270.00	
	2238	E-13	Ⅲa	磨製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス		14.40	6.30	3.30	394.00	
	2239	E-16	Ⅲ	磨製石斧	Ⅰ	閃緑岩		(12.60)	6.60	3.70	502.00	
	2240	D-25	Ⅲ	磨製石斧	Ⅰ	砂岩		(10.00)	6.30	3.90	322.00	
	2241	D-18	Ⅲ	磨製石斧	Ⅰ	砂岩		(9.80)	6.70	3.40	358.00	
	2242	D-12	Ⅲb	磨製石斧	Ⅰ	砂岩		(12.60)	(5.90)	3.20	308.00	
	2243	D-13	Ⅲa	磨製石斧	Ⅰ	安山岩		(13.10)	(6.00)	3.90	452.00	
	2244	C-16	Ⅲ	磨製石斧	Ⅰ	頁岩		(14.80)	(6.50)	4.70	588.00	
	2245	D-14	Ⅲa	磨製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス		(12.90)	(6.40)	2.30	196.00	
	2246	E-12	Ⅱ	磨製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス		(13.50)	(5.80)	3.90	422.00	
2-152	2247	C-19	Ⅲ	磨製石斧	Ⅱ	蛇紋岩		(9.50)	4.50	1.40	77.82	
	2248	D-21	Ⅲ	磨製石斧	Ⅱ	蛇紋岩		(7.00)	5.00	1.10	59.39	
	2249	D-13	Ⅱ	磨製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス		(8.20)	(3.30)	1.00	38.81	
	2250	E-12	Ⅲa	磨製石斧	Ⅱ	粘板岩		11.50	(4.80)	1.80	126.54	
	2251	B-15	Ⅱ	磨製石斧	Ⅱ	粘板岩		10.55	2.95	1.15	58.52	
	2252	E-14	Ⅱ	磨製石斧	Ⅱ	砂岩		(12.20)	(5.40)	2.80	183.77	
	2253	E-13	Ⅲa	磨製石斧	Ⅱ	砂岩		(15.00)	(5.20)	3.40	376.00	
	2254	E-13	Ⅲa	磨製石斧	Ⅱ	閃緑岩		(17.30)	(6.60)	4.00	618.00	
	2255	E-12	Ⅱ	磨製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス		(11.50)	(6.30)	3.10	402.00	
	2256	C-13	Ⅲa	磨製石斧	Ⅱ	砂岩		(12.50)	(7.10)	4.50	534.00	
	2257	F-15	Ⅲa	磨製石斧	Ⅱ	頁岩		(12.70)	(6.60)	4.30	584.00	
	2258	D-20	Ⅲ	磨製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス		(14.00)	(8.20)	4.20	750.00	
	2259	D-12	Ⅲb	磨製石斧	Ⅱ	閃緑岩		(13.00)	(8.20)	3.80	630.00	
2-153	2260	E-15	Ⅲ	磨製石斧	Ⅲ	砂岩		7.20	2.30	1.10	33.73	
	2261	F-15	Ⅲ	磨製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス		8.95	(3.05)	1.05	38.99	
	2262	E.F-12,13	Ⅱ	磨製石斧	Ⅲ	粘板岩		(11.20)	(1.60)	1.15	31.46	
	2263	E-13	Ⅱ	磨製石斧	Ⅲ	粘板岩		(17.85)	(1.90)	2.00	70.16	
	2264	D-14	Ⅳ	磨製石斧	Ⅳ	砂岩		4.80	3.00	1.00	17.86	
	2265	F-15	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス		(6.80)	(3.20)	0.80	24.66	
	2266	E-14	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	頁岩		(7.30)	3.80	1.40	55.85	
	2267	D-14	Ⅲa	磨製石斧	Ⅳ	粘板岩		(4.50)	3.20	0.80	23.01	
	2268	E-12	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス		(6.90)	3.40	1.00	33.07	

第2-31表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（７）

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材	法量(cm)			重量(g)	備考
							最大長	最大幅	最大厚		
2-153	2269	C-21	Ⅲ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス	(6.10)	4.30	1.60	52.08	
	2270	E-14	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス	(5.60)	4.80	0.80	19.83	
	2271	D-20	Ⅲ	磨製石斧	Ⅳ	頁岩	10.00	4.80	1.40	89.11	
	2272	C-19	Ⅲ	磨製石斧	Ⅳ	頁岩	(7.40)	5.00	1.30	72.34	
	2273	C-19	Ⅲ	磨製石斧	Ⅳ	蛇紋岩	(7.30)	(7.40)	1.40	95.04	
	2274	E-20	Ⅲ	磨製石斧	Ⅳ	砂岩	9.80	2.50	1.70	53.49	
2-154	2275	E-13	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	閃緑岩	11.00	4.80	2.70	214.00	
	2276	E-14	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス	(11.60)	6.90	3.20	374.00	
	2277	E-14	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	砂岩	12.60	5.30	2.80	230.00	
	2278	D-26	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス	15.80	4.60	2.60	268.00	
	2279	D-18	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	砂岩	11.70	4.80	2.80	244.00	
	2280	D-19	Ⅲ	磨製石斧	Ⅳ	砂岩	11.70	6.00	2.70	312.00	
	2281	D-13	Ⅲa	磨製石斧	Ⅳ	砂岩	(13.80)	(2.70)	3.70	206.00	
	2282	D-26	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス	14.30	6.30	3.80	434.60	
	2283	D-22	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス	(8.85)	4.60	1.75	77.42	
	2284	C-20	Ⅲ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス	15.40	6.90	3.10	398.70	
	2285	C-20	Ⅱ	磨製石斧	Ⅳ	ホルンフェルス	15.80	7.30	3.30	460.40	
2-155	2286	C-13	Ⅱ	擦切石器	－	砂岩	(4.90)	(5.40)	0.65	27.52	
	2287	E-14	Ⅲa	擦切石器	－	凝灰岩	(3.65)	(5.25)	0.65	9.81	
	2288	E-12	Ⅲb	擦切石器	－	砂岩	(3.80)	(4.80)	0.25	7.49	
	2289	E-13	Ⅲa	擦切石器	－	砂岩	(4.60)	(8.15)	0.55	33.70	
	2290	E-20	Ⅲ	擦切石器	－	砂岩	(4.80)	(6.20)	0.60	26.14	
	2291	D-12	Ⅲb	擦切石器	－	砂岩	(4.40)	(7.90)	0.50	30.95	
	2292	E-14	Ⅲa	擦切石器	－	砂岩	(6.10)	(6.00)	0.70	31.63	
	2293	D-11	Ⅲb	擦切石器	－	砂岩	(6.20)	(7.00)	0.90	51.10	
	2294	D-13	Ⅲa	擦切石器	－	ホルンフェルス	(6.20)	(10.65)	0.65	65.18	
2-156	2295	E-14	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	頁岩	(10.35)	4.30	1.70	93.72	
	2296	C-25	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	12.50	5.80	1.60	106.25	
	2297	D-17	Ⅲ	打製石斧	Ⅰ	頁岩	12.30	5.90	1.95	141.99	
	2298	D-25	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	12.65	5.70	1.65	133.51	
	2299	D-12	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	粘板岩	(12.90)	6.10	1.40	119.78	
	2300	E-8	Ⅱc	打製石斧	Ⅰ	安山岩	(12.25)	6.00	1.85	133.68	
	2301	低-	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	11.20	7.20	1.60	131.19	
	2302	D-26	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	14.20	7.10	2.20	241.08	
	2303	D-25	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	14.30	7.40	1.80	209.31	
	2304	C-19	Ⅲ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	14.90	6.90	1.80	202.00	
	2305	C-13	Ⅲa	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	13.00	6.50	1.20	80.52	
	2306	B-14	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	砂岩	13.20	6.80	1.80	178.88	
	2307	D-9	Ⅱb	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	12.70	6.10	1.80	158.60	
	2308	E-15	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	10.20	5.80	2.00	125.50	
	2309	B-16		打製石斧	Ⅰ	粘板岩	11.25	6.50	1.90	150.38	
2-157	2310	B-14	Ⅲa	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(6.55)	(3.55)	1.10	23.58	
	2311	C-20	Ⅲ	打製石斧	Ⅰ	粘板岩	7.00	4.85	1.65	46.89	
	2312	C-26	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(8.90)	6.40	1.40	107.47	
	2313	E-18	Ⅲ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(11.30)	(6.90)	1.50	99.82	
	2314	D-9	Ⅱb	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(10.60)	5.50	1.50	101.02	

第2-32表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（８）

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材	法量(cm)			重量(g)	備考
							最大長	最大幅	最大厚		
2-157	2315	E-22	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(11.40)	(8.20)	2.10	241.58	
	2316	E-24	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(10.35)	(5.95)	1.95	128.69	
	2317	E-22	Ⅳ	打製石斧	Ⅰ	粘板岩	(10.70)	(6.70)	1.50	110.66	
	2318	D-26	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	砂岩	(8.40)	(7.55)	1.45	101.69	
	2319	F-15	Ⅲa	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(10.55)	(6.50)	2.00	175.34	
	2320	C-17	Ⅲ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(11.65)	9.85	2.30	249.83	
	2321	E-19	Ⅲ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(11.20)	(5.30)	1.60	93.86	
	2322	C-26	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(11.90)	(6.60)	1.55	121.89	
	2323	C-18	Ⅲ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	14.70	5.60	1.50	133.09	
	2324	D-13	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	(12.80)	(6.50)	1.40	119.94	
	2325	D-25	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	粘板岩	14.55	6.25	1.85	151.29	
2-158	2326	F-15	Ⅲa	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	13.60	6.70	1.90	178.51	
	2327	C-21	Ⅲ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	11.10	4.70	1.45	72.22	
	2328	D-26	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	ホルンフェルス	13.90	5.70	2.00	162.51	
	2329	E-24	Ⅱ	打製石斧	Ⅰ	安山岩	(13.10)	(5.10)	1.00	84.63	
	2330	E-19	Ⅱ	打製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス	(10.90)	(10.40)	2.00	228.28	
	2331	E-25	Ⅱ	打製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス	(8.20)	(8.75)	2.65	180.52	
	2332	C-27	Ⅱ	打製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス	(11.50)	(7.75)	1.30	113.25	
	2333	D-18	Ⅲ	打製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス	(11.60)	(7.50)	1.70	165.62	
	2334	D-21	Ⅱ	打製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス	14.20	6.00	1.60	158.32	
	2335	E-15	Ⅲa	打製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス	(15.15)	(10.20)	2.95	402.71	
2-159	2336	D-25	Ⅱ	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	(6.50)	(6.00)	1.60	56.44	
	2337	C-19	Ⅲ	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	(6.40)	4.40	1.90	65.17	
	2338	E-19	Ⅲ	打製石斧	Ⅲ	安山岩	(6.40)	(5.50)	1.60	57.17	
	2339	E-19	Ⅲ	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	(6.90)	(6.30)	1.70	99.51	
	2340	C-22	Ⅱ	打製石斧	Ⅲ	安山岩	(6.50)	(7.80)	1.50	78.49	
	2341	E-21	Ⅱ	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	(10.70)	(6.80)	2.90	194.70	
	2342	D-22	Ⅲ	打製石斧	Ⅲ	頁岩	(7.70)	(6.80)	2.50	145.79	
	2343	D-17	Ⅲ	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	(10.10)	(6.50)	1.80	135.50	
	2344	E-18	Ⅲ	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	10.60	5.50	2.00	126.83	
	2345	C-20	Ⅲ	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	(13.30)	6.80	2.00	189.30	
	2346	E-19	Ⅲ	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	13.50	5.60	3.00	240.00	
	2347	E-13	Ⅲa	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	(10.00)	(8.00)	2.50	300.00	
	2348	E-15	Ⅲa	打製石斧	Ⅲ	頁岩	14.60	4.80	2.10	189.02	
2-160	2349	E-19	Ⅲ	磨石・敲石		石英斑岩	4.80	3.90	3.50	101.21	
	2350	D-26	Ⅲ	磨石・敲石		砂岩	6.15	5.60	4.70	240.32	
	2351	E-10	Ⅱa	磨石・敲石		安山岩	8.50	4.10	2.40	100.00	
	2352	D-13	Ⅲa	磨石・敲石		玉髄	6.30	6.00	5.00	256.50	
	2353	D-17	Ⅲ	磨石・敲石		砂岩	(6.70)	(3.40)	3.20	86.00	
	2354	D-22	Ⅱ	磨石・敲石		砂岩	6.10	6.10	3.60	198.00	
2-161	2355	E-12	Ⅱ	磨石・敲石		砂岩	(9.30)	10.90	5.10	866.00	
	2356	D-25	Ⅱ	磨石・敲石		石英斑岩	5.40	5.00	2.60	98.00	
	2357	D-12	Ⅱ	磨石・敲石		安山岩	5.50	5.50	4.50	183.16	
	2358	D-26	Ⅲ	磨石・敲石		安山岩	7.00	4.15	3.80	204.00	
	2359	E-12	Ⅱ	磨石・敲石		砂岩	13.10	4.00	2.90	214.00	
	2360	D-25	Ⅱ	磨石・敲石		安山岩	11.30	5.10	3.80	332.00	

第2-33表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）（９）

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(cm)			重量(g)	備考
								最大長	最大幅	最大厚		
2-161	2361	D-12	Ⅲb	磨石・敲石	－	砂岩		9.10	3.80	3.10	112.00	
	2362	C-26	Ⅲ	磨石・敲石	－	砂岩		9.50	8.30	3.60	430.00	
	2363	D-20	Ⅲ	磨石・敲石	－	砂岩		(7.30)	(11.40)	4.70	563.91	
	2364	C-21	Ⅲa	磨石・敲石	－	砂岩		11.00	4.30	3.20	224.00	
2-162	2365	B-19	Ⅲ	磨石・敲石	－	安山岩		8.90	7.10	4.90	448.00	
	2366	C-21	Ⅲ	磨石・敲石	－	砂岩		4.40	4.50	2.20	56.58	
	2367	C-21	Ⅱ	磨石・敲石	－	安山岩		5.30	7.40	3.85	239.80	
	2368	D-25	Ⅱ	磨石・敲石	－	安山岩		10.40	8.90	3.80	518.00	
	2369	D-20	Ⅲ	磨石・敲石	－	安山岩		13.90	10.00	4.40	1095.00	石錘転用
	2370	E-19	Ⅲ	磨石・敲石	－	砂岩		9.60	4.20	3.70	194.07	
	2371	C-17	Ⅲ	磨石・敲石	－	砂岩		12.00	10.60	4.40	896.00	
	2372	E-15	Ⅱ	磨石・敲石	－	砂岩		9.70	5.70	4.70	370.00	
	2373	D-12	Ⅲb	磨石・敲石	－	砂岩		13.30	11.20	5.80	1310.00	
2-163	2374	D-12	Ⅲb	磨石・敲石	－	砂岩		(7.20)	3.80	3.50	134.00	
	2375	D-17	Ⅱ	磨石・敲石	－	安山岩		11.80	9.70	4.80	100.00	
	2376	D-19	Ⅲ	磨石・敲石	－	安山岩		5.00	4.50	2.00	61.04	
	2377	D-28	Ⅱ	磨石・敲石	－	安山岩		(6.50)	(10.10)	4.20	424.00	
	2378	C-19	Ⅲ	磨石・敲石	－	安山岩		5.70	4.50	2.25	88.33	
	2379	E-10	Ⅱc	磨石・敲石	－	安山岩		4.80	4.40	3.40	92.70	
	2380	C-19	Ⅲ	磨石・敲石	－	花崗斑岩		5.30	5.00	4.60	160.00	
	2381	E-10	Ⅲa	磨石・敲石	－	安山岩		10.10	6.85	1.80	219.50	
	2382	C-19	Ⅱ	磨石・敲石	－	安山岩		11.00	10.90	5.30	900.00	
2-164	2383	E-10	Ⅲ	礫器	－	砂岩		6.30	10.30	1.50	110.60	
	2384	C-19	Ⅱ	礫器	－	粘板岩		8.10	9.30	2.20	179.40	
	2385	E-10	Ⅱ	礫器	－	ホルンフェルス		9.10	7.85	2.60	235.20	
	2386	C-19	Ⅱ	礫器	－	ホルンフェルス		12.50	12.20	2.70	528.00	
	2387	E-10	Ⅲa	礫器	－	砂岩		9.50	14.90	4.70	568.90	
	2388	C-19	Ⅲ	礫器	－	安山岩		8.30	11.35	3.00	281.07	
	2389	E-10	Ⅱ	礫器	－	砂岩		11.30	16.00	5.30	1061.70	
2-165	2390	C-19	Ⅲb	石皿・台石	－	花崗斑岩		(10.30)	(14.45)	3.40	655.70	
	2391	E-10	Ⅲa	石皿・台石	－	凝灰岩		(15.00)	(16.80)	2.30	618.30	
	2392	C-19	Ⅲ	石皿・台石	－	安山岩		(14.70)	17.00	4.60	1241.00	
	2393	E-10	Ⅲa	石皿・台石	－	安山岩		(12.00)	(17.70)	8.00	2068.00	
	2394	C-19	Ⅱ	石皿・台石	－	凝灰岩		(16.70)	(18.90)	9.80	2630.00	
	2395	E-10	Ⅲa	石皿・台石	－	砂岩		(20.30)	(10.80)	8.20	2368.00	
	2396	C-19	Ⅱ	石皿・台石	－	石英斑岩		(25.10)	(16.90)	5.40	2162.00	
2-166	2397	E-10	Ⅲa	石皿・台石	－	砂岩		(38.60)	(20.90)	17.90	11900.00	
	2398	C-19	Ⅲ	石皿・台石	－	砂岩		(26.20)	(37.90)	6.80	8100.00	
2-167	2399	E-10	Ⅲa	石皿・台石	－	砂岩		(29.20)	(11.90)	8.20	3592.00	
2-168	2400	C-19	Ⅲ	軽石製品	Ⅰa	軽石		9.10	3.70	2.30	15.20	
	2401	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅰa	軽石		(6.10)	(4.60)	2.10	14.47	
	2402	C-19	Ⅲ	軽石製品	Ⅰa	軽石		11.30	7.30	3.80	65.00	
	2403	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅰa	軽石		7.85	5.95	3.15	32.90	
	2404	C-19	Ⅲ	軽石製品	Ⅰa	軽石		(8.30)	(7.65)	2.70	37.80	
	2405	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅰa	軽石		5.80	2.90	1.80	7.10	
	2406	C-19	Ⅳa	軽石製品	Ⅰa	軽石		4.60	3.15	2.80	7.80	

第2-34表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）(10)

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(cm)			重量(g)	備考
								最大長	最大幅	最大厚		
2-168	2407	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅰa	軽石		4.45	3.95	2.45	8.90	
2-169	2408	C-19	Ⅱ	軽石製品	Ⅰa	軽石		15.60	10.20	5.60	130.41	
	2409	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅰb	軽石		3.15	3.20	0.90	2.30	
	2410	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅰb	軽石		3.00	2.60	1.20	2.20	
	2411	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅰb	軽石		7.00	5.70	2.75	28.60	
	2412	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅰb	軽石		7.10	6.50	2.70	32.20	
	2413	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅰb	軽石		8.65	2.90	2.00	19.30	
	2414	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅰc	軽石		5.45	4.10	1.70	8.10	
	2415	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅰc	軽石		5.15	4.50	1.55	11.22	
	2416	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅰc	軽石		25.00	16.80	8.30	750.00	
2-170	2417	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅱa	軽石		5.10	2.60	1.20	4.20	
	2418	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅱa	軽石		4.30	3.10	0.70	2.53	
	2419	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅱa	軽石		3.40	3.90	1.70	7.00	
	2420	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅱa	軽石		5.10	2.95	1.40	6.10	
	2421	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅱa	軽石		6.10	4.35	1.65	10.80	
	2422	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅱb	軽石		(9.40)	4.80	1.90	24.30	
	2423	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅱb	軽石		(7.60)	3.45	2.45	12.73	
	2424	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅱb	軽石		3.40	3.20	1.00	4.10	
	2425	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅱb	軽石		4.80	3.30	0.85	2.50	
	2426	C-19	Ⅱ	軽石製品	Ⅱb	軽石		8.00	2.70	1.30	7.30	
	2427	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅱb	軽石		6.60	5.30	1.40	12.33	
	2428	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅱb	軽石		8.00	3.65	1.40	10.21	
	2429	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅱb	軽石		6.45	3.30	2.50	10.30	
2-171	2430	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅱc	軽石		3.80	4.35	1.30	3.70	
	2431	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅱc	軽石		3.55	6.10	1.45	9.98	
	2432	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅱc	軽石		(4.70)	5.65	1.00	6.96	
	2433	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅱc	軽石		4.15	4.45	1.00	7.00	
2-172	2434	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲa	軽石		5.00	1.90	1.20	4.40	
	2435	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅲa	軽石		4.25	2.35	0.95	2.00	
	2436	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		3.75	2.40	0.60	1.90	
	2437	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅲa	軽石		3.60	2.20	1.30	2.60	
	2438	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		3.75	2.80	0.85	2.10	
	2439	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		5.25	3.20	1.50	11.80	
	2440	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		6.15	2.85	2.30	8.50	
	2441	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		7.10	3.10	1.35	9.50	
	2442	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		4.50	4.70	1.10	10.80	
	2443	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		5.10	3.25	1.65	6.50	
	2444	C-19	Ⅱ	軽石製品	Ⅲa	軽石		6.10	3.45	1.80	7.70	
	2445	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		5.20	3.40	1.40	6.10	
	2446	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲa	軽石		6.90	3.70	1.35	8.60	
	2447	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		5.10	3.50	1.90	10.70	
	2448	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅲa	軽石		5.00	7.40	3.20	15.50	
	2449	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅲa	軽石		3.70	2.90	1.30	3.70	
	2450	C-19	Ⅲ	軽石製品	Ⅲa	軽石		5.90	5.40	2.10	11.70	
	2451	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅲa	軽石		6.15	4.40	2.25	18.80	
2-173	2452	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲb	軽石		6.10	5.75	2.70	18.70	

第2-35表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）(11)

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(cm)			重量(g)	備考
								最大長	最大幅	最大厚		
2-173	2453	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅲb	軽石		6.80	6.60	2.80	34.20	
	2454	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲb	軽石		5.60	5.80	2.75	21.49	
	2455	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅲb	軽石		7.50	7.40	3.00	23.69	
	2456	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲb	軽石		6.80	5.90	3.20	32.30	
	2457	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅲb	軽石		6.00	5.60	2.10	33.73	
	2458	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲb	軽石		8.10	8.20	2.75	44.40	
2-174	2459	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅲb	軽石		10.10	8.55	3.40	66.20	
	2460	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅲb	軽石		11.60	10.00	6.00	217.00	
	2461	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅲb	軽石		10.00	10.40	5.30	122.35	
2-175	2462	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲc	軽石		3.30	3.15	1.45	3.30	
	2463	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅲc	軽石		3.05	2.65	1.00	3.50	
	2464	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲc	軽石		3.20	2.40	0.95	2.03	
	2465	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅲc	軽石		9.20	6.20	3.05	35.10	
	2466	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲc	軽石		4.20	2.90	1.40	4.70	
	2467	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅲc	軽石		6.05	4.05	1.60	8.10	
	2468	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲc	軽石		5.60	4.10	1.45	8.10	
	2469	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅲc	軽石		8.00	5.40	3.00	35.50	
	2470	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅲc	軽石		6.30	5.90	3.10	31.34	
	2471	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅲc	軽石		9.00	9.10	4.15	109.00	
2-176	2472	C-19	Ⅲ	軽石製品	Ⅳ	軽石		5.90	4.30	1.50	12.50	
	2473	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅳ	軽石		5.45	3.80	2.70	11.70	
	2474	C-19	Ⅲ	軽石製品	Ⅳ	軽石		12.00	7.60	2.55	52.16	
	2475	E-10	Ⅲ	軽石製品	Ⅳ	軽石		10.55	5.50	2.30	42.91	
	2476	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅳ	軽石		8.30	4.55	2.10	21.31	
	2477	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅳ	軽石		11.05	6.80	4.55	57.20	
	2478	C-19	Ⅱ	軽石製品	Ⅳ	軽石		15.10	7.75	5.50	144.78	
2-177	2479	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅳ	軽石		2.90	2.50	2.35	6.46	
	2480	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅳ	軽石		5.20	4.60	3.60	22.04	
	2481	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅳ	軽石		6.60	6.10	2.25	37.03	
	2482	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅳ	軽石		5.85	5.80	2.10	14.70	
	2483	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅴ	軽石		8.05	6.70	3.30	46.74	
	2484	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅴ	軽石		9.80	5.60	3.55	53.76	
	2485	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅴ	軽石		11.35	8.20	5.60	113.00	
	2486	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅴ	軽石		13.55	9.60	4.20	166.37	
	2487	E-10	Ⅱ	軽石製品	Ⅴ	軽石		14.20	9.60	4.70	122.25	
	2488	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅴ	軽石		15.25	8.25	6.15	177.60	
2-178	2489	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅴ	軽石		4.15	3.95	2.10	6.00	
	2490	C-19	Ⅱ	軽石製品	Ⅴ	軽石		5.85	7.00	2.35	27.85	
	2491	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅴ	軽石		7.50	8.50	3.10	42.88	
	2492	C-19	Ⅲ	軽石製品	Ⅴ	軽石		5.05	7.40	3.60	22.35	
	2493	E-10	Ⅲ	軽石製品	Ⅴ	軽石		6.95	5.35	3.65	37.13	
	2494	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅴ	軽石		8.60	5.80	5.85	71.08	
2-179	2495	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅴ	軽石		8.10	11.30	5.30	156.69	
	2496	C-19	Ⅲb	軽石製品	Ⅴ	軽石		13.35	9.45	5.05	156.48	
	2497	E-10	Ⅲa	軽石製品	Ⅴ	軽石		10.00	9.80	6.85	110.70	
	2498	C-19	Ⅲa	軽石製品	Ⅴ	軽石		12.65	11.90	5.85	186.59	

第2-36表　縄文時代遺物観察表（石器・石製品）(12)

挿図番号	掲載番号	区	層	器種	分類	石材		法量(cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	備考
2-179	2499	E-10	Ⅲb	軽石製品	Ⅴ	軽石		11.35	15.00	7.30	304.25	
	2500	C-19	Ⅲ	軽石製品	Ⅵ	軽石		13.20	11.65	5.70	157.40	
	2501	E-10	Ⅲ	軽石製品	Ⅵ	軽石		10.80	7.75	3.70	64.65	
	2502	C-19	Ⅲ	軽石製品	Ⅵ	軽石		13.95	8.00	4.30	136.59	
2-180	2503	E-10	Ⅲb	石製品	－	凝灰岩		3.00	2.30	1.10	7.05	
	2504	C-19	Ⅲ	石製品	－	凝灰岩		5.60	5.30	1.10	32.64	円盤形石製品

—引用・参考文献—

板倉有大2009「九州南部縄文時代後・晩期打製石斧類の器種分類」南九州縄文研究会・新東晃一代表還暦記念論文集刊行会編『南の縄文・地域文化論考上巻』

板倉有大2015「石器から見た九州晩期農耕論の課題」第25回九州縄文研究会福岡大会『九州縄文晩期の農耕問題を考える発表要旨・資料集』九州縄文研究会

市来町教育委員会1991「川上（市来）貝塚」

市来町教育委員会1993「川上（市来）貝塚２」

指宿市教育委員会2016「橋牟礼川遺跡総括報告書」

乙益重盛1985「有肩打製石器小考」八幡一郎先生頌寿記念考古学論集編集委員会編『日本史の黎明』六興出版

鹿児島県教育委員会2005「草野貝塚」『先史・古代の鹿児島資料編』鹿児島県教育委員会

鹿児島県教育委員会2005「柊原貝塚」『先史・古代の鹿児島資料編』鹿児島県教育委員会

鹿児島県立埋蔵文化財センター1997「干迫遺跡」

鹿児島県立埋蔵文化財センター2006「山ノ中遺跡」

鹿児島県立埋蔵文化財センター2007「上水流遺跡１」

鹿児島県立埋蔵文化財センター2010「芝原遺跡１　縄文時代遺構編」

鹿児島県立埋蔵文化財センター2011「芝原遺跡２　縄文時代遺物編」

鹿児島県立埋蔵文化財センター2011「鳴野原遺跡Ａ地点」

鹿児島県立埋蔵文化財センター2012「宮ノ上遺跡　縄文時代以降編　鳴野原遺跡Ｂ地点」

鹿児島県立埋蔵文化財センター2020「出水貝塚」

鹿児島県立埋蔵文化財センター2020「木佐木原遺跡」

鹿児島市教育委員会1988「草野貝塚」

鹿児島市教育委員会2002「原田久保遺跡」

上屋久町教育委員会1981「一湊松山遺跡」

川口雅之2005「石製土掘具」東和幸編鹿児島県立埋蔵文化財センター2005『大坪遺跡』

喜入町教育委員会1999「帖地遺跡（縄文編）」

木村昌也2006「南九州における縄文時代後期前半の土器研究―指宿式土器を中心に―」『Archaeology From the South　鹿児島大学考古学研究室25周年記念論集』　鹿児島大学考古学研究室25周年記念論集刊行会

九州縄文研究会宮崎大会実行委員会事務局2011「第21回九州縄文研究会宮崎大会　九州における縄文時代後期前葉の土器―中津式・福田ＫⅡ式併行期を中心として―」発表要旨・資料集　九州縄文研究会

九州縄文研究会長崎大会事務局2017「第27回九州縄文研究会長崎大会　九州の縄文時代後期中葉土器―北久根山第二型式～西平式併行期を中心に―」発表要旨・資料集　九州縄文研究会

熊本大学埋蔵文化財調査センター2019「熊本大学構内遺跡発掘調査報告14（2013・2014年度：黒髪南地区1310調査地点）」

寒川朋枝2002「祭祀行為についての検討－軽石製岩偶を素材として－」『人類史研究』13人類史研究会

寒川朋枝2005「第２節　柊原貝塚出土の軽石加工品，貝製品，骨角器」『柊原貝塚』垂水市教育委員会

末吉町教育委員会1981「宮之迫遺跡」

鈴木道之助1991『図録・石器入門辞典〈縄文〉』柏書房株式会社

相良村教育委員会2003「野原遺跡Ⅰ」

田野町教育委員会2004「本野原遺跡一」

田野町教育委員会2005「本野原遺跡二」

垂水市教育委員会1999『柊原貝塚』

垂水市教育委員会2005『柊原貝塚』

千葉豊編2010『西日本の縄文土器　後期』　真陽社

東海縄文研究会例会担当2019「東海縄文研究会第８回例会予稿集　東海からみた後期前葉土器群その２」東海縄文研究会

文化庁文化財部記念物課2010「発掘調査のてびき」

本田道輝1997「第二項　田中堀遺跡調査の概要」『川辺町郷土誌　追録』川辺町郷土誌編集委員会

水ノ江和同1993「九州の縁帯文土器―九州における縄文後期前・中葉土器研究の現状と課題―」『古文化談叢　第30集（上）』九州古文化研究会

宮崎市教育委員会2006「本野原遺跡三」

三輪晃三1996「九州阿高式系・縁帯文系土器群の研究―縄文中・後期の土器ホライズンの形成とその背景―」『奈良大学大学院　研究年報　創刊号』　奈良大学大学院

山崎真治2003「縁帯文土器の編年的研究」『東京大学考古学研究室研究紀要　18巻』東京大学考古学研究室

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（217）
国道270号（宮崎バイパス）道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３

中津野遺跡

低地部・低湿地部編

（第２分冊）

発 行 年 月　2022年３月
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-48-5811

印　　刷　斯文堂株式会社
〒891-0122　鹿児島市南栄２丁目12番地６
TEL 099-268-8211　　FAX 099-269-5198


鹿児島県